

# 瑞 龍 遺 跡

一般国道 293 号常陸太田東バイパス整備  
事業地内埋蔵文化財調査報告書

上 卷

平成 31 年 3 月

茨城県常陸太田工事事務所  
公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第436集

瑞  
龍  
遺  
跡  
上  
卷

公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第436集

ずい りゅう  
瑞 龍 遺 跡

一般国道 293 号常陸太田東バイパス整備  
事業地内埋蔵文化財調査報告書

上 卷

平成 31 年 3 月

茨城県常陸太田工事事務所  
公益財団法人茨城県教育財団





調査区遠景（北上空から）



高台付坪に記されたヘラ書き文字「麗女□」（第2号竪穴建物跡出土）



# 序

公益財団法人茨城県教育財団は、国や県などの各事業者から委託を受けて埋蔵文化財の発掘調査と整理業務を実施することを主な目的として、昭和52年に調査課が設置されて以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として発掘調査報告書を刊行してきました。

この度、茨城県常陸太田工事事務所による一般国道293号常陸太田東バイパス整備事業に伴って実施した、茨城県常陸太田市瑞龍遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

今回の調査によって、縄文時代から江戸時代までの遺構や遺物が確認されました。特に古墳時代や奈良・平安時代においては、竪穴建物跡や掘立柱建物跡をはじめとする多くの遺構を確認し、当地域における中心的な集落跡の一端が明らかになりました。これらの成果は、当地域の社会の成り立ちや歴史を知る上で、欠くことのできない貴重な資料となります。

本書が、歴史研究の学術資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向上のための資料として広く活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査から本書の刊行に至るまで、多大な御協力を賜りました委託者であります茨城県常陸太田工事事務所に対して厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、常陸太田市教育委員会をはじめ、御指導、御協力をいただきました関係各位に対し、深く感謝申し上げます。

平成31年 3月

公益財団法人茨城県教育財団

理事長 野口 通



# 例 言

- 1 本書は、茨城県常陸太田工事事務所の委託により、公益財団法人茨城県教育財団が平成 25～28 年度に発掘調査を実施した、茨城県常陸太田市瑞龍町 629 番地ほかに所在する瑞龍遺跡<sup>ずいりゅう</sup>の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。  
調査 平成 25 年 9 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日  
平成 26 年 4 月 1 日～平成 26 年 9 月 30 日  
平成 27 年 11 月 2 日～平成 28 年 3 月 31 日  
平成 28 年 4 月 1 日～平成 28 年 7 月 31 日  
整理 平成 29 年 4 月 3 日～平成 30 年 3 月 31 日  
平成 30 年 4 月 2 日～平成 31 年 3 月 31 日
- 3 発掘調査は、平成 25・26 年度が調査課長白田正子、平成 27・28 年度が副参事兼調査課長白田正子のもと、以下の者が担当した。

## 平成 25 年度

首席調査員兼班長	綿引英樹
次席調査員	綿引博
調査員	田村雅樹

## 平成 26 年度

首席調査員兼班長	寺内久永
首席調査員	兼子博史
調査員	田村雅樹

## 平成 27 年度

首席調査員兼班長	寺内久永
首席調査員	兼子博史
調査員	皆川貴之

## 平成 28 年度

首席調査員兼班長	奥沢哲也
次席調査員	木村光輝
次席調査員	永井敦

- 4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長皆川修のもと、以下の者が担当した。

## 平成 29 年度

次席調査員	大武宣隆	平成 29 年 10 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日
調査員	田村雅樹	

## 平成 30 年度

調査員	田村雅樹	
調査員	見越広幸	平成 30 年 4 月 1 日～5 月 31 日



5 本書の執筆分担は、下記のとおりである。

田村雅樹 第1章～第3章第1・2節, 第3節1(1), 2・3・5～7, 8(1)・(2)・(7), 第4節

大武宣隆 第3章第3節4(1), 8(3)～(6)

見越広幸 第3章第3節1(2)～(4)

6 本書の作成にあたり、墨書土器の解読については、大学共同利用機関法人人間文化研究機構機構長平川南氏にご指導いただいた。

7 第1～8・10号墓坑出土の人骨及び及び第4号井戸跡出土の獣骨は、独立行政法人国立科学博物館人類研究部に鑑定・保管を委託し、同機関所属の梶ヶ山真里氏が鑑定をおこない、結果については付章に掲載した。

8 第11・16号粘土貼土坑の土壌分析については、パリノ・サーヴェイ株式会社に委託し、結果については付章に掲載した。

9 下記の金属製品の保存処理については、パリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。

第8号竪穴建物跡出土の刀子(M 1), 第9号竪穴建物跡出土の鋤先(M 1), 第10号竪穴建物跡出土の刀子(M 1)・鎌(M 2), 第24号竪穴建物跡出土の鎌(M 1), 第26号竪穴建物跡出土の釣針(M 1), 第38号竪穴建物跡出土の鎌(M 1), 第51号竪穴建物跡出土の刀子(M 1)・鎌(M 2)・槍鉋(M 3)・紡錘車(M 4)・絞具(M 5), 第70号竪穴建物跡出土の鏝(M 1), 第2号掘立柱建物跡P 5出土の鎌(M 1), 第2号掘立柱建物跡P 5出土の鎌(M 1), 第4号方形竪穴遺構出土の責金具(M 1), 第56号土坑出土の釘(M 1), 第370号土坑出土の鎌(M 1), 表土採集の刀子(M 1)及び鎌(M 2), 火打金(M 3)

また、下記の金属製品の保存処理については、株式会社イビソクに委託した。

第93号竪穴建物跡出土の鉄斧(M 1)

10 当遺跡の出土遺物及び実測図・写真等は、茨城県埋蔵文化財センターにて保管している。

# 凡 例

- 1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第IX系座標に準拠し、 $X = + 62,160 \text{ m}$ 、 $Y = + 62,160 \text{ m}$ の交点を基準点 (E10a1) とした。なお、この原点は、世界測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々 40 m 四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々 10 等分し、4 m 四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へ A、B、C…、西から東へ 1、2、3… とし、「A 1 区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へ a、b、c…j、西から東へ 1、2、3、…0 と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1 a1 区」のように呼称した。

- 2 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 HG - 遺物包含層 HT - 方形竪穴遺構 TM - 古墳 P - ピット PG - ピット群 SA - 柱穴列  
SB - 掘立柱建物跡 SD - 溝跡 SE - 井戸跡 SF - 道路跡 SI - 竪穴建物跡 SK - 土坑 SN  
- 粘土貼土坑 ST - 墓坑

遺物 DP - 土製品 M - 金属製品 Q - 石器・石製品 T - 瓦


土層 K - 攪乱

- 3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は 400 分の 1、各遺構の実測図は原則として 60 分の 1 の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は、原則として 3 分の 1 の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

 焼土・赤彩・施釉

 炉・火床面・繊維土器

 竈部材・粘土範囲・黒色処理

 柱痕跡・柱あたり

●土器

○土製品

□石器・石製品

△金属製品・銭貨

■瓦

- - - 硬化面

- 4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。また、土層解説中の含有物については、各々総量を記述した。

- 5 遺構一覧表・遺物観察表の表記は、次のとおりである。

(1) 計測値の単位は m、cm、g で示した。なお、現存値は ( ) を、推定値は [ ] を付して示した。

(2) 遺物観察表の備考の欄は、残存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

(3) 遺物番号は遺構毎の通し番号とし、本文、挿図、観察表、写真図版に記した番号と同一とした。

- 6 竪穴建物跡の「主軸」は、炉・竈を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸（径）方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例 N - 10° - E）。

- 7 今回の報告分で、遺構名を変更したもの及び欠番にしたものは以下のとおりである。

変更 SI39 → SI39A, SI50 → SI39B, SI80 → SI80A, SI81 → SI80B, SI88 → SI80C, SK470 → SI94P3,  
SK647 → SI148, SK612 → SI151 炉跡, PG16P1・P2・P4 ~ P6・P18 ~ P24・P26 → SI151P1 ~ P8・  
P10 ~ P14, PG2P17・P23・P29・P32・P33・P44・P49・P52 → SB2P2 ~ P4・P7・P8・P11 ~  
P13, SK179・284 → SB15AP11・P12, SK189 → SB15BP1, SK132・213 ~ 219 → SB18P1 ~ P8,

SK197 → SB11P8, SD10・11 → TM1, SD22 → 第1号円形周溝遺構, SK453 → SE1,  
SK691 → SE4, SK172 → 第1号埋甕, SK367 → 第2号埋甕, SK410 → 第3号埋  
甕, SK456 → 第4号埋甕, SK813 → 第5号埋甕, SK496 → HT1, SK523 → HT2,  
SK461 → HT3, SK49 → HT4, SK51 → HT5, SK52 → HT6, SK57 → HT7,  
SK22 → SN1, SK32 → SN2, SK42 → SN3, SK43 → SN4, SK48 → SN5, SK77 → SN6,  
SK78 → SN7, SK79 → SN8, SK81 → SN9, SK96 → SN10, SK82 → SN11,  
SK83 → SN12, SK84 → SN13, SK85 → SN14, SK86 → SN15, SK97 → SN16,  
SK267 → SN17, SK298 → SN18, SK299 → SN19, SK446 → SN20, SK543 → SN21,  
SK642 → SN22, SK669 → SN23, SK670 → SN24, SK680 → SN25, SK684 → SN26,  
SK686 → SN27, SK687 → SN28, SK688 → SN29, SK1 → ST1, SK29 → ST2,  
SK47 → ST3, SK264 → ST4, SK366 → ST5, SK520 → ST6, SK531 → ST7,  
SK537 → ST8, SK544 → ST9, SK710 → ST10, SD17・20 → SF2A 側溝1・2, SD18・  
19 → SF2B 側溝3・4, SD8 → SD6 と併合

欠 番 SI65, SK18・80・87・98 ~ 100・130・161・176・187・188・223・229・231・235・  
238 ~ 240・247・255・258 ~ 260・263・265・269・270・280・281・311・312・316・  
317・320・329 ~ 331・342・354・357・390 ~ 396・401・415 ~ 420・431・462・472・  
473・477・519・527・585・588・594・595・597・598・602・610・633・640・643・  
651・664 ~ 666・672・694・695・711・720 ~ 799・805・810, PG2P23・32・33・44・  
49・52

# 目 次

- 上 卷 -

序

例 言

凡 例

目 次

瑞龍遺跡の概要	1
第1章 調査経緯	5
第1節 調査に至る経緯	5
第2節 調査経過	5
第2章 位置と環境	7
第1節 位置と地形	7
第2節 歴史的環境	7
第3章 調査の成果	15
第1節 調査の概要	15
第2節 基本層序	15
第3節 遺構と遺物	17
1 縄文時代の遺構と遺物	17
(1) 竪穴建物跡	17
(2) 埋 甕	25
(3) 土 坑	30
(4) 遺物包含層	59
2 弥生時代の遺構と遺物	65
竪穴建物跡	65
3 古墳時代の遺構と遺物	68
(1) 竪穴建物跡	68
(2) 掘立柱建物跡	277
(3) 古 墳	280
(4) 円形周溝遺構	287
(5) 井戸跡	288
(6) 柱穴列	290
(7) 溝 跡	292
(8) 土 坑	294
4 奈良時代の遺構と遺物	302
竪穴建物跡	302

5	平安時代の遺構と遺物	371
(1)	堅穴建物跡	371
(2)	掘立柱建物跡	453
(3)	井戸跡	470
(4)	柱穴列	471
(5)	土 坑	472
6	鎌倉・室町時代の遺構と遺物	477
(1)	掘立柱建物跡	477
(2)	方形堅穴遺構	478
(3)	井戸跡	483
(4)	墓 坑	485
(5)	柱穴列	491
(6)	道路跡	492
(7)	溝 跡	494
(8)	段切状遺構	499
(9)	土 坑	500
(10)	ピット群	505
7	江戸時代の遺構と遺物	517
(1)	掘立柱建物跡	517
(2)	方形堅穴遺構	518
(3)	粘土貼土坑	521
(4)	墓 坑	534
(5)	道路跡	536
(6)	溝 跡	539
(7)	土 坑	541
8	その他の遺構と遺物	553
(1)	堅穴建物跡	553
(2)	掘立柱建物跡	554
(3)	井戸跡	555
(4)	溝 跡	555
(5)	土 坑	556
(6)	ピット群	565
(7)	遺構外出土遺物	567
第4節	まとめ	572
付 章		599
1	瑞龍遺跡出土人骨について	国立科学博物館人類研究部 梶ヶ山 真里
2	瑞龍遺跡の自然科学分析	パリノ・サーヴェイ株式会社
写真図版		PL 1～PL110
抄 録		
付 図		

# 瑞龍遺跡の概要

## 遺跡の位置と調査の目的

瑞龍遺跡は、常陸太田市の南部に位置し、里川右岸の標高約 42 m の台地平坦部に立地しています。一般国道 293 号常陸太田東バイパス整備事業に先立ち、遺跡の内容を図や写真に記録して保存するため、茨城県教育財団が平成 25 ～ 28 年度にかけて、遺跡の南域にあたる 11,708m<sup>2</sup> について発掘調査を行いました。



## 調査の内容

調査によって、<sup>たてあな</sup>竪穴建物跡 151 棟、<sup>ほったてばしら</sup>掘立柱建物跡 19 棟、<sup>ほうけいたてあな</sup>方形竪穴遺構 7 基、<sup>こふん</sup>古墳 1 基、<sup>えんけいしゅうこう</sup>円形周溝遺構 1 基、<sup>いこう</sup>井戸跡 4 基、<sup>ねんどぼりど</sup>粘土貼土坑 29 基、<sup>ぼこう</sup>墓坑 10 基、<sup>うめ</sup>埋甕 5 基、<sup>ちゅうけつれつ</sup>柱穴列 4 条、<sup>だんぎりじょう</sup>道路跡 4 条、<sup>いこう</sup>溝跡 14 条、<sup>だんぎりじょう</sup>段切状遺構 1 条、土坑 594 基、<sup>いぶつほうがんそう</sup>ピット群 19 か所、<sup>いぶつほうがんそう</sup>遺物包含層 1 か所を確認しました。縄文時代から江戸時代にかけて、断続的に営まれた集落跡や墓域であることが分かりました。



調査区域遠景（南から）



古墳時代前期の建物跡が密集する調査区域東部



竪穴建物跡の調査



古墳時代前期の羽口と砥石



古墳の周溝に捨てられた土器

## 調査の成果

古墳時代前期（約 1,700 年前）の竪穴建物跡は 30 棟で、多くは調査区域の東部に密集しています。なかには建て替えや拡張がおこなわれている建物跡があり、出土した多量の土器から、マツリに関わる建物や集落の中心的な建物であった可能性があります。出土遺物では砥石が比較的多く、併せて第 72 号竪穴建物跡の柱穴からふいご はぐち 鞆の羽口が出土していることから、周辺で金属製品の生産や加工がおこなわれていた可能性があります。

当遺跡の北方約 600 m の地点には瑞龍古墳群が所在し、調査報告によって、いくつかの群集からなる方形周溝墓群であることが分かっています。出土土器には、当遺跡の土器との共通性がみられ、瑞龍古墳群を築いた集落の一つであったと考えられます。

古墳時代後期から終末期（約 1,600 ～ 1,400 年前）にかけては、竪穴建物跡



古墳時代後期の竪穴建物跡



古墳時代後期から終末期にかけての須恵器



調査区域東部でみつかった平安時代の竪穴建物群



壁柱穴をもつ建物跡

47棟、掘立柱建物跡2棟、古墳1基などを確認しました。7世紀後半には調査区全域に集落が拡大し、執務や貯蔵の機能が想定される掘立柱建物が塀で区画されていることから、周辺地域を治める中心的集落であったことが分かりました。

平安時代（約1,200～900年前）では、竪穴建物跡40棟、掘立柱建物跡14棟などが確認でき、その多くが台地の東部に建てられています。これらの竪穴建物跡の中には、壁柱穴を有するものがあり、掘立柱建物跡の近くに建てられています。また掘立柱建物跡は、<sup>けたゆき</sup>桁行3間、<sup>はりゆき</sup>梁行2間や桁行2間、梁行2間の<sup>がわばしら</sup>側柱や<sup>そうばしら</sup>総柱の<sup>もや</sup>身舎がほとんどで、一定の区域に数回建て替えられています。<sup>こく</sup>国<sup>が</sup>衙や<sup>ぐんが</sup>郡衙などの建物は、政務や収蔵などの機能を果たすために、一定の場所で建て替えが繰り返されています。このことから、当遺跡の壁柱穴を持つ竪穴建物跡や掘立柱建物跡も集落内の定められた区域から移動しないで、政務や収蔵などの機能を果たした建物であった可能性があります。こうした建物の配置





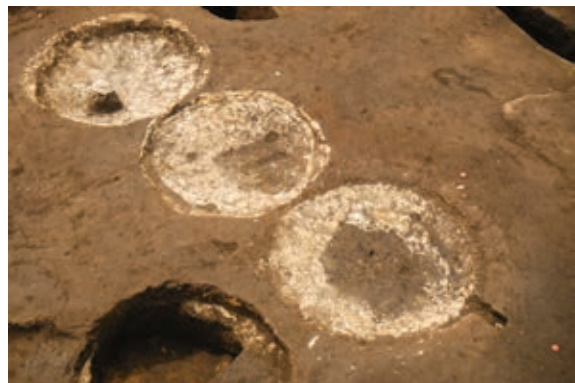
平安時代の掘立柱建物跡群



文字が記された土師器



室町時代の宿に関する区画



貯水施設と考えられる粘土貼土坑

や特徴などから、当集落は当時所属した<sup>くじくんおたごう</sup>久慈郡太田郷の中心集落の一つであったことが考えられます。

出土遺物では、墨書やヘラで文字が記された土器が特筆されます。男性名の<sup>もちまる</sup>「望万呂」や女性名の<sup>むつとじ</sup>「牟都刀自」のほか、「中都幡」<sup>なかはた</sup>、「河内」<sup>べ</sup>、「佐竹□」など<sup>はたやま</sup>と記された土器が出土しています。里川左岸には、<sup>ながはた</sup>長幡部神社や<sup>はたやま</sup>幡山など、<sup>はた</sup>機織りに関わる旧跡をはじめ、上流域の「河内」、佐竹郷に関わる「佐竹」の地名が残っており、周辺の地名に関係した文字資料と考えられます。また、ヘラ書きの文字「甞女□」は、漢字に似せて作られた国字の数少ない出土例であり、当地域に国字を知る有識者の存在が考えられる貴重な資料となりました。

このほかにも、室町時代は<sup>おのざきじょう</sup>小野崎城に関する屋敷地や墓域などが区画され、これらがまとまって宿を形成していたと考えられます。江戸時代には、主要路を取り込んで<sup>ざいごうちょう</sup>在郷町に成長し、半農半商の人々の生活が垣間みられました。当台地上には、それぞれの時代を生き抜いた人々の営みが刻まれていました。

# 第1章 調査経緯

## 第1節 調査に至る経緯

茨城県常陸太田工事事務所は、常陸太田市において、一般国道293号常陸太田東バイパス整備事業を進めている。

平成18年10月19日、茨城県常陸太田土木事務所（現、茨城県常陸太田工事事務所）長は茨城県教育委員会教育長あてに、一般国道293号バイパス道路橋梁改築事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は、平成24年10月12日に現地踏査を、続く平成24年11月1日及び2日に試掘調査を実施し、遺跡の所在を確認した。平成24年11月9日、茨城県教育委員会教育長は茨城県常陸太田工事事務所長あてに、事業地内に瑞龍遺跡が存在すること、及びその取扱いについて別途協議が必要である旨を回答した。

平成25年1月18日、茨城県常陸太田工事事務所長は茨城県教育委員会教育長あてに、文化財保護法第94条に基づき、土木工事のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。平成25年3月7日、茨城県教育委員会教育長は茨城県常陸太田工事事務所長あてに、現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると決定し、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成25年3月11日及び平成26年2月10日、平成27年2月9日、平成28年2月8日、茨城県常陸太田工事事務所長は茨城県教育委員会教育長あてに、一般国道293号常陸太田東バイパス整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施についての協議書を提出した。平成25年3月29日及び平成26年2月14日、平成27年2月13日、平成28年2月12日、茨城県教育委員会教育長は茨城県常陸太田工事事務所長あてに、瑞龍遺跡の発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて調査期間として公益財団法人茨城県教育財団を紹介した。

公益財団法人茨城県教育財団は、茨城県常陸太田工事事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成25年9月1日から平成26年3月31日までを第1次調査、平成26年4月1日から9月30日までを第2次調査、平成27年11月2日から平成28年3月31日までを第3次調査、平成28年4月1日から7月31日までを第4次調査として、発掘調査を実施した。

## 第2節 調査経過

瑞龍遺跡の調査は、平成25～28年度の間、4次に分けて実施した。平成25年度は9月1日から平成26年3月31日まで、平成26年度は4月1日から9月30日まで、平成27年度は11月2日から平成28年3月31日まで、平成28年度は4月1日から7月31日までの計1年10か月間で実施した。以下、その概要を表で記載する。

〈平成 25 年度〉

工程 \ 期間	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
調査準備 表土除 遺構確認	■	■					
遺構調査		■	■	■	■	■	■
遺物洗浄 写真整理	■	■	■	■	■	■	■
撤収							■

〈平成 26 年度〉

工程 \ 期間	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
調査準備 表土除 遺構確認	■					
遺構調査	■	■	■	■	■	■
遺物洗浄 写真整理	■	■	■	■	■	■
撤収						■

〈平成 27 年度〉

工程 \ 期間	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
調査準備 表土除 遺構確認	■	■			
遺構調査		■	■	■	■
遺物洗浄 写真整理	■	■	■	■	■
撤収					■

〈平成 28 年度〉

工程 \ 期間	4 月	5 月	6 月	7 月
調査準備 遺構確認	■			
遺構調査	■	■	■	■
遺物洗浄 写真整理	■	■	■	■
撤収				■

## 第2章 位置と環境

### 第1節 位置と地形

瑞龍遺跡は、茨城県常陸太田市瑞龍町 629 番地ほかに所在している。

常陸太田市は、県の北部に位置し、南北に長い形状で、北は福島県東白川郡塙町・矢祭町、東は高萩市、日立市、南は那珂市、西は常陸大宮市、久慈郡大子町と接している。

市の地形は、北部が山地、中部が丘陵・台地、南部が低地と変化に富んでいる。河川は阿武隈山地に水源を發する久慈川が大子町を経由して、市の西部から南部を流れ、そこに南北に並行して流れる浅川、山田川、里川の各支流が合流している。これらの各河川の流域には沖積低地が形成され、主に水田として土地利用がされている<sup>1)</sup>。

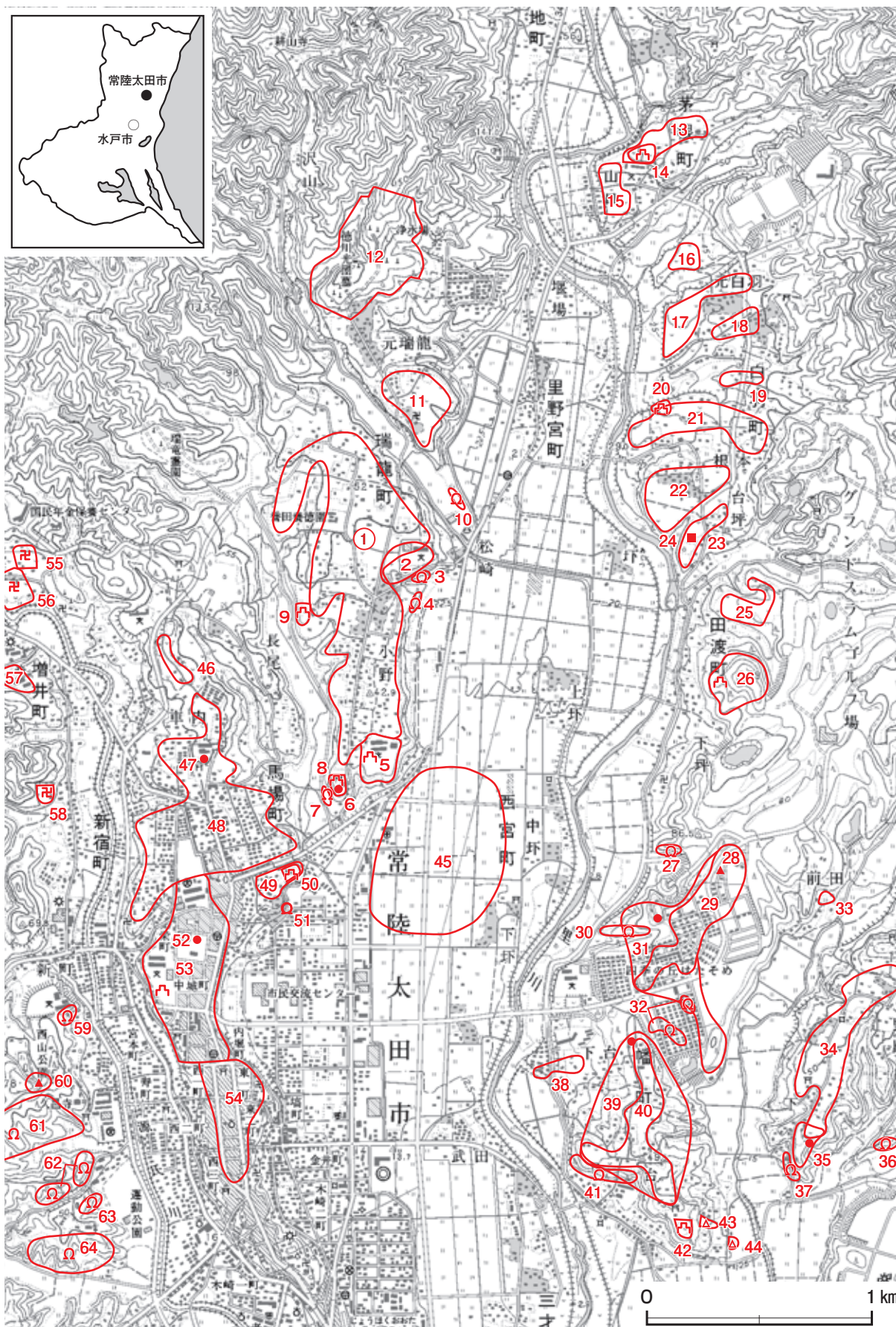
市北部の山地は、阿武隈山地の南端部にあたり、久慈川の支流の里川を境に、東が多賀山地、西が久慈山地に分けられ、さらに久慈山地は山田川の東が東金砂山地、西が男体山地に細分されている。これらの山地は、北域が礫岩や花崗岩、東域が西堂平<sup>にしどうひら</sup>変成岩、玉簾<sup>たまだれ</sup>変成岩で構成されている。また中部の丘陵・台地は泥岩や砂岩、凝灰岩などで構成される白金沢層、大門層、瑞龍層、源氏川層、長谷層、久米層の順で堆積している。これらの地域から産出される緑色変成岩や凝灰岩などの石材は、古くから人々に利用されており<sup>2)</sup>、当跡においても石器・石製品の石材として用いられている。さらに岩石層の上位は、洪積世の火山灰堆積である関東ローム層、現在の生活面も含む黒色土を主体とした沖積世の堆積層で構成されている。

当遺跡は里川右岸、阿武隈山地から南方へ延びる台地上に位置している。当台地は、東側の里川流域に広がる沖積低地と、西側に流れる里川支流の谷津川に挟まれた南北 1.5km、東西 0.3～0.7kmの舌状台地である。台地の標高は 39～42 m、沖積低地との比高は 20 mほどで、沖積低地から台地上は急斜地形である。台地上は概ね北から南へ緩やかに下っており、瑞龍遺跡はこの台地上のほぼ全面に広がっている。今回の調査位置は遺跡の南域にあたり、台地を東西に横断する 11,708mが調査区域である。調査前の現況は宅地や畑地である。

### 第2節 歴史的環境

瑞龍遺跡が所在する常陸太田市は、北部の阿武隈山地から延びる丘陵や台地と各河川の流域に展開する低地を中心に古くから人々が生活を営んでおり、多くの遺跡が確認されている<sup>3)</sup>。また、周辺が山地に囲まれている地理的環境を利用して、中世以降には多くの城館が築かれている。

縄文時代は、早期から晩期までの遺跡が確認されている。幡山遺跡〈29〉では早期・中期・後期の土器が出土している。それらは、遺構に伴うものではなく古墳の封土や旧表土下からの出土によるものであるが、周辺での長期の生活痕跡がうかがえる<sup>4)</sup>。その他に早期の土器は、八反内遺跡〈16〉や十国峠遺跡で確認されている<sup>5)</sup>。前期に比定される土器が主体をなす遺跡は、森東貝塚〈43〉と築崎貝塚〈44〉がある。いずれも発掘調査が行われており、森東貝塚は、ヤマトシジミを主体とする混土貝層が貝塚を形成しており、土器は前期の花積下層式・関山式・黒浜式が出土している<sup>6)</sup>。築崎貝塚は、貝層の主体をヤマトシジミが占め、アカニシ・ハマグリ・カキなどの貝類や、スズキ・クロダイといった魚類、カモなどの鳥類、イノシシ・シカなどの哺乳類の骨も確認されている。土器は、前期の花積下層式を中心に、早期の田戸下層式・前期の関山式が出土してい



第1図 瑞龍遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院 25,000 分の 1 「常陸太田」）

表1 瑞龍遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代							番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸
①	瑞龍遺跡		○	○	○	○	○	○	33	前田遺跡		○					
2	瑞龍古墳群		○	○	○	○	○		34	高貫遺跡		○	○	○	○		
3	瑞龍A横穴墓群				○				35	高貫古墳群				○			
4	瑞龍B横穴墓群				○				36	高貫東横穴墓群				○			
5	小野崎城跡				○		○		37	高貫西横穴墓群				○			
6	白鷺古墳群				○				38	幡台下遺跡				○	○		
7	白鷺横穴墓群				○				39	幡台古墳群				○			
8	今宮館跡						○		40	幡台遺跡		○	○	○	○		
9	小野館跡						○		41	幡バツケ横穴墓群				○			
10	身隠山横穴墓群				○				42	幡館跡						○	
11	元瑞龍遺跡			○	○	○			43	森東貝塚		○	○				
12	水戸徳川家墓所							○	44	築崎貝塚		○	○				
13	山口遺跡					○			45	中井川遺跡					○		
14	茅根城跡						○		46	森後台遺跡				○	○		
15	根小屋遺跡				○	○			47	亀の子山古墳				○			
16	八反内遺跡		○		○	○			48	馬場遺跡		○	○	○	○		
17	元白羽遺跡				○	○			49	真淵遺跡		○	○	○	○		
18	白羽遺跡				○	○			50	馬渕館跡						○	
19	笠松遺跡				○	○			51	馬場横穴				○			
20	根本館跡						○		52	栄町古墳				○			
21	根本遺跡				○	○			53	太田城跡						○	
22	前根本遺跡		○		○	○			54	鯨ヶ丘遺跡				○	○	○	
23	田渡台遺跡				○	○			55	正法院跡						○	
24	田渡古墳				○				56	勝楽寺跡						○	
25	篠山遺跡				○	○			57	福寿台遺跡				○	○		
26	田渡城跡						○		58	極楽寺跡						○	○
27	幡山北横穴墓群				○				59	陣馬横穴墓群				○			
28	幡山須恵器窯跡				○				60	元太田山埴輪窯跡				○			
29	幡山遺跡		○	○	○				61	山吹山横穴墓群				○			
30	幡山西横穴墓群				○				62	所化塚横穴墓群				○			
31	幡山古墳群				○				63	三昧堂横穴墓群				○			
32	幡山東横穴墓群				○				64	宮ヶ作横穴墓群				○			

る<sup>7)</sup>。中期は、馬場遺跡〈48〉で加曾利EⅡ・Ⅲ式、坂口遺跡では加曾利EⅡ～Ⅳ式、真弓宿遺跡・岡町遺跡では中期後葉の土器が確認されている<sup>8)</sup>。後期・晩期の遺跡では、幡台遺跡〈40〉が発掘調査されており、後期中葉から晩期前葉の土器が確認され、土坑から注口土器や土偶が出土している<sup>9)</sup>。

弥生時代の遺跡は、その規模や性格について明確でない部分が多い。中期の土器は、坂口遺跡や当跡で確認されているが、資料数はわずかである。坂口遺跡からは小形の長頸壺形土器が、当跡では胴部の膨らむ壺形土器が出土しており、両者とも長く瑞龍小学校に保管されていた<sup>10)</sup>。当該地域で出土した土器は後期後半の十王台式が最も多く、当跡や幡山遺跡・幡台遺跡・森東貝塚・築崎貝塚・馬場遺跡・岡田台遺跡などで確認されている<sup>11)</sup>。幡山遺跡では、当該期の竪穴建物跡が古墳の墳丘下から確認されており、台地の西側を流れる里川によって開析された沖積低地を開田し、生活基盤とした集落の存在が想定されている<sup>12)</sup>。その一方で、台地と低地の比高が約50mあることから、水田耕作以外の生産についても再考する必要性が指摘されている<sup>13)</sup>。中期後半及び後期前半の資料は確認例が少数であり、詳細は不明である。

古墳時代に入ると、当地域に方形周溝墓や古墳が築造される。当跡跡の東側に隣接している瑞龍古墳群〈2〉では、方形周溝墓が14基調査されており、主軸が異なる墓群が形成されていることから、集団ごとに方形周溝墓が順次構築されたものと考えられている。また、周溝内から出土した遺物の分析などから、東京湾周辺から移住した人々、もしくは移住者との交流によって、方形周溝墓を構築する墓制の波及が推察されている<sup>14)</sup>。このほか、同じ台地上に所在する小野崎城跡〈5〉でも、方形周溝墓1基が確認されており、詳細は不明であるものの、瑞龍古墳群との関連が想定される<sup>15)</sup>。一方、前期の古墳に比定されている梵天山古墳は、島町の久慈川を望む標高約20mの独立丘陵上の北西端に立地している。県内第2位の規模を誇る梵天山古墳は、全長151mの前方後円墳で、その南東に13基の円墳を伴って、古墳群を形成している<sup>16)</sup>。また、南斜面には百穴と呼ばれる時期が異なる島横穴墓群が存在している<sup>16)</sup>。梵天山古墳は久慈川流域を支配した久自国造の祖、船瀬足尼の墓であるという伝承が残っており、久慈川下流域に所在する100m級の権現山古墳や舟塚一・二号墳と比較しても、久慈川流域の盟主的な人物の墳墓と推定されている<sup>17)</sup>。

中期の古墳では、日向遺跡で5世紀中葉に比定される円墳が調査されている<sup>18)</sup>。また、瑞龍古墳群においても、常陸太田市教育委員会によって実施された第1次調査で、円墳2基（第5・6号墳）が調査され、箱式石棺1基（第4号墳）を確認している。第5号墳では墳丘と周溝から箱式石棺が確認され、石棺内から人骨とともに鉄鏃が出土している。また周溝から出土したヘラ状の器物を持つ女子像埴輪が、市指定文化財に登録されていることは特筆される<sup>19)</sup>。後期にかけて、当該地域では古墳の築造が増加し、群集墳を形成する傾向がみられる。幡山古墳群〈31〉は、南北に長い舌状台地上のほぼ中央域に1基の前方後円墳を含む20数基の円墳からなる古墳群が形成されたと考えられ、同古墳群の12号墳からは直刀・単鳳環柄頭・金環・鉄鏃などが出土している<sup>20)</sup>。また、入浄塚古墳からは、直刀や刀子・金環・金象嵌の鏢・刀装品が出土している<sup>21)</sup>。これらのほか、白鷺古墳群〈6〉・高貫古墳群〈35〉・幡台古墳群〈39〉・塚原古墳群・よい塚古墳群などが、周知されている。

さらに、当該地域は県内でも有数の横穴墓群が盛行する地域であり、古墳時代後期から奈良時代まで継続した埋葬施設とされている。当跡周辺では、同じ台地の斜面部に瑞龍A横穴墓群〈3〉や瑞龍B横穴墓群〈4〉・身隠山横穴墓群〈10〉・白鷺横穴墓群〈7〉などが集中して築造されている。また、里川左岸の標高約50mの台地においても、幡山北横穴墓群〈27〉・幡山西横穴墓群〈30〉・幡山東横穴墓群〈32〉が集中しており、特に南斜面部に所在する幡バツケ横穴墓群〈41〉では、70基ほどの横穴墓が確認されている。同横穴墓群では線刻で描かれた壁画が確認されており、第6号横穴墓には鳥・竜・三重塔・兎・帆船、第11号横穴墓には人物・鳥・家屋・鳥居が描かれている<sup>20)</sup>。横穴墓群の時期については、身隠山横穴墓群<sup>21)</sup>は7世紀後半から8世紀前半、

釜田横穴墓群<sup>22)</sup>は8世紀後半に比定されている。これらのほかにも多くの横穴墓群が、当地域の丘陵や台地の斜面で確認されている。

古墳や横穴墓群の調査・確認事例に比して、集落の様相を示す資料は乏しい。里川右岸の当遺跡では、古墳時代前期から終末期にかけての竪穴建物跡77棟が確認されており、瑞龍古墳群や白鷺古墳群などとの関連が想定される<sup>23)</sup>。里川左岸においては、現時点では、7世紀前葉の竪穴建物跡が確認されている幡台遺跡のみであるが<sup>24)</sup>、周辺には幡台古墳群や幡山古墳群などが所在していることから、丘陵や台地上には、古墳群などと関連する集落跡が想定される。これらのほか、日向遺跡では36棟の竪穴建物跡が<sup>25)</sup>、大里町に所在する長者屋敷遺跡では35棟の竪穴建物跡が調査されており<sup>26)</sup>、当該期の竪穴建物跡の形態を知る好資料となっている。

生産遺跡としては埴輪の窯跡である元太田山埴輪窯跡<sup>27)</sup>〈60〉、7世紀後半以降の須恵器の窯跡3基が調査されている幡山須恵器窯跡<sup>28)</sup>〈28〉などが周知されている。特に幡山須恵器窯跡で生産された須恵器は、幡山古墳群や幡山東横穴墓群で出土しており、古墳時代に当該地域で造られた埴輪や須恵器が古墳に供献されていたことがわかる<sup>29)</sup>。このようなことから、当地域での古墳文化の盛行情がうかがえる。

奈良・平安時代の当地域は、『倭名類聚抄』の記述から、久慈郡大田郷に属すると考えられている。久慈郡衙跡は、長者屋敷遺跡の周辺に比定されている。長者屋敷遺跡は、調査以前から焼米や布目瓦が確認されており、郡衙や駅家、寺院、郡衙に関連する集落などの存在が想定されてきた。調査によって竪穴建物跡68棟、掘立柱建物跡3棟が確認されたが、基壇遺構や「久寺」と書かれた墨書土器の出土から、寺院に関連する施設の可能性が指摘されている<sup>30)</sup>。また当市域には古代東海道の駅家である雄薩駅が所在していたと考えられており、当地域が常陸国の北方において重要な地域であったことがわかる。雄薩駅については、旧里美村大中付近に所在する説が有力であり、「佐都」と記された墨書土器が出土した戸の内遺跡、灰釉陶器の火葬墓が確認された野中遺跡や宿西遺跡などがその候補地とされている<sup>31)</sup>。

一方、集落跡の調査事例は少数であり、様相が明確にされていない部分が多い。竪穴建物跡67棟や掘立柱建物跡19棟などが確認された当遺跡と同じ台地上に立地する瑞龍古墳群では、昭和61年の調査で、10世紀代と考えられる竪穴建物跡が確認されており<sup>32)</sup>、当該期の集落が台地上に広がっていた可能性がある。また、里川左岸の幡台遺跡では8世紀後葉から10世紀中葉にかけての竪穴建物跡4棟が<sup>33)</sup>、亀作川左岸の日向遺跡では竪穴建物跡93棟や掘立柱建物跡1棟、作業施設の可能性がある大型の竪穴遺構3基などが確認された。特に日向遺跡では、地名を示す「日奈田」が記された墨書土器や灰釉陶器・緑釉陶器、腰帯具などが出土しており、亀作川左岸の中心的な集落の一つであったと考えられている<sup>34)</sup>。

当跡の南東1kmほどの里川流域の沖積低地には条里制が確認できる遺跡として中井川遺跡〈45〉があり、な河川流域の開発を行う大田部との関連が想定されている<sup>35)</sup>。さらに里川左岸の幡山の台地上には、機織りの神として奉られている式内社長幡部神社がある。『常陸國風土記』には、崇神天皇の世に長幡部の祖多呂命が三野(美濃)から久慈に移り、機殿を造って繩を織り、毎年神へ奉納されていたということが当神社の起源として記述されている<sup>36)</sup>。繩は平安時代まで調として納められており、当地域の律令制下での生産体制をうかがい知ることができる。

1083～1087(永保3～寛治元)年にかけて勃発した後三年の役において、源義家を助けるために下向した弟義光は、役後、常陸国奥七群に基盤を築くことになる。その後、子の義業が佐竹郷を相続し、孫の昌義が土着して佐竹氏を称した。そして、太田郷に拠点をおいた小野崎氏を従属させ、太田に入部を果たすと、以後、太田・佐竹両郷は、佐竹氏の盛行を支える拠点として発展していった。室町時代には関東八館に数えられるまで



に成長した佐竹氏ではあったが、1407（応永14）年以降約100年におよぶ佐竹一族における内乱、山入の乱によって、一時、衰退することとなる。室町時代後期から織豊期にかけては、領国経営に成功し、戦国大名として再興した佐竹氏は、豊臣氏との関係を背景に常陸国南域の小田氏や大掾氏などを凌駕し、常陸国のほぼ一円を領国とした。

佐竹氏の本拠地であった当地域には、関連する城館や寺社などが数多く存在している。太田城跡〈53〉は佐竹氏の居城跡であり、当地域には小野崎氏の小野崎城跡をはじめに小野館跡〈9〉や今宮館跡〈8〉が所在している。これらのほかにも馬淵館跡〈50〉や幡館跡〈42〉などがあり、当地域における佐竹氏の勢力をうかがうことができる。昭和39年に調査された小野崎城跡からは、大型の掘立柱建物跡をはじめに、深さ70cmの溝跡や井戸跡などが調査されたほか、土坑から「東」「西」「南」「北」とそれぞれに墨書された土師質土器の小皿が出土している<sup>37)</sup>。また、山入の乱の舞台の一つとなった旧水府村に所在する山入城跡の調査では、掘立柱建物跡14棟、柵跡17条、堀跡などが確認され、輸入品を含む陶磁器類の威信財や土師質土器、火打石、石臼の生活雑器などが出土している<sup>38)</sup>。源氏川右岸には、本堂が重要文化財に指定されている佐竹寺をはじめに、正法院跡〈55〉や勝楽寺跡〈56〉、極楽寺跡〈58〉などが分布し、太田城跡周辺には若宮八幡宮、馬場八幡宮が所在しており、佐竹氏と寺社との深い関係がうかがわれる。

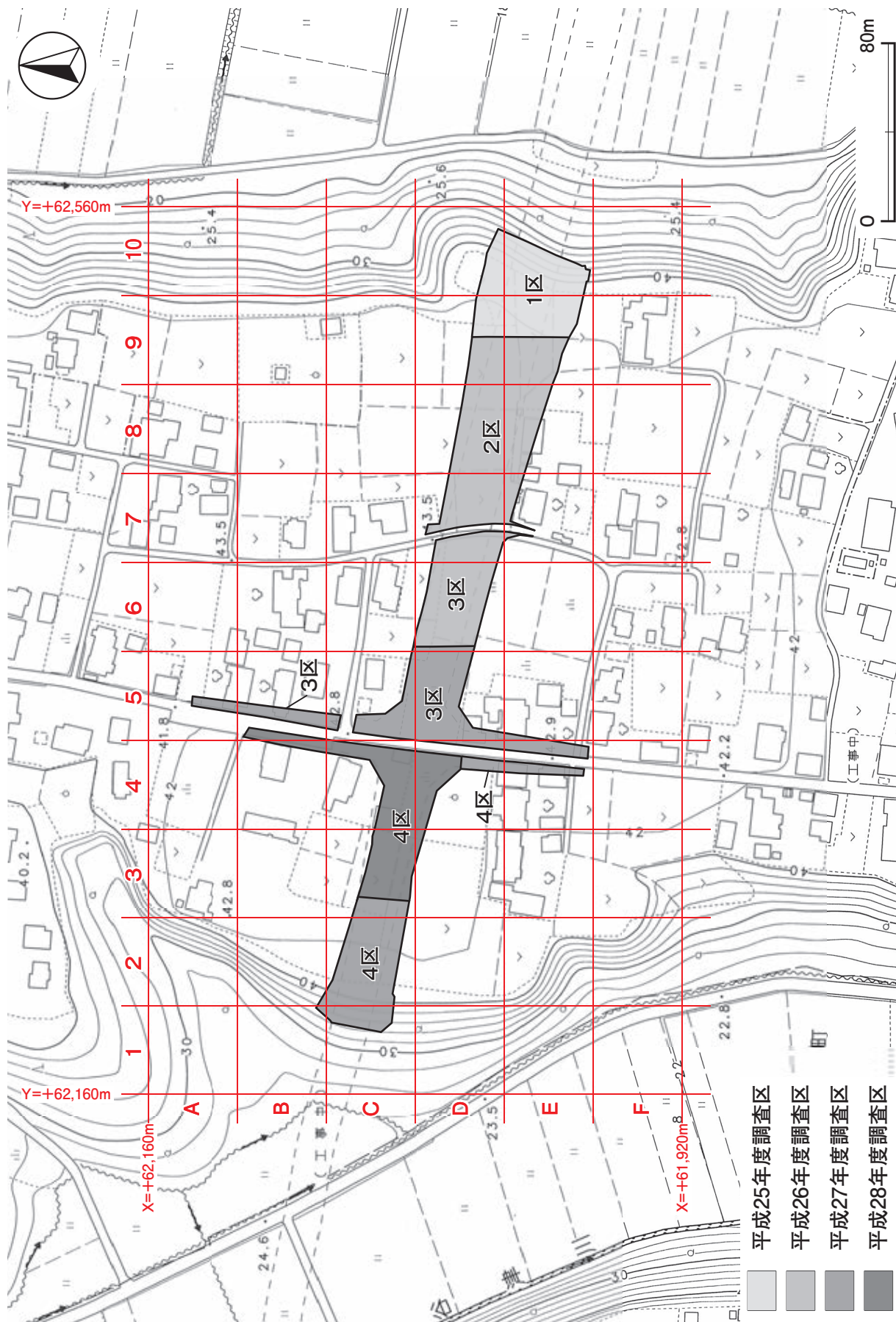
江戸時代には水戸城に本拠を移していた佐竹氏が秋田に移封され、水戸徳川氏が代わって水戸城に入城する。当地域は水戸藩領に属し、水戸藩の初代藩主徳川頼房以降、水戸徳川家墓所〈12〉が瑞龍に定められたことや、二代藩主の徳川光圀が西山荘に隠居して、『大日本史』を編さんするなど、水戸藩ゆかりの地としての色合いを強める。当地域における近世の遺跡は、1768（明和5）年に幕府の許可を得て開設された太田鑄造座跡<sup>39)</sup>や町田焼窯跡<sup>40)</sup>などがある。町田焼は、第9代水戸藩主の徳川斉昭が推進した殖産興業の一つである磁器生産を目的として操業を開始した。染付磁器碗や挿鉢などの製品や焼台など窯道具が出土しており、江戸時代後期の在地窯業の様子を伝えている。

※ 本章は、既刊の『茨城県教育財団文化財調査報告』第365集及び、第415集を参照し、加筆した。文中の〈 〉内の番号は、表1、第1図の該当遺跡番号と同じである。

#### 註

- 1) 常陸太田市史編さん委員会編『常陸太田市史 通史編 上巻』常陸太田市役所 1984年3月
- 2) 日本の地質『関東地方』編集委員会編『日本の地質3 関東地方』共立出版 2007年5月
- 3) 茨城県教育庁文化課『茨城県遺跡地図（地名表編・地図編）』茨城県教育委員会 2001年3月
- 4) 常陸太田市教育委員会『幡山遺跡発掘調査報告』常陸太田市 1978年5月
- 5) 註1に同じ
- 6) 常陸太田市史編さん委員会『常陸太田市内貝塚確認調査報告 森東貝塚・築崎貝塚』常陸太田市役所 1984年3月
- 7) 註6に同じ
- 8) a 註1に同じ
- 9) 西野保『幡台遺跡発掘調査報告書』常陸太田市教育委員会 2001年3月
- 10) a 註1に同じ  
b 高橋博之、横倉要次「常陸太田市瑞龍小学校所蔵の弥生式土器について」『婆良岐考古』第5号 婆良岐考古同人会 1983年4月
- 11) 註1に同じ
- 12) 註4に同じ

- 13) 海老澤稔「幡山遺跡」『茨城県史料 考古資料編 弥生時代』茨城県 1991年3月
- 14) 奥沢哲也『瑞龍古墳群 県立常陸太田特別支援学校施設整備地内埋蔵文化財調査報告書』茨城県教育財団文化財調査報告第415集 2016年3月
- 15) 山岸良二編『関東の方形周溝墓』同成社 1991年3月
- 16) 大塚初重「梵天山古墳」『茨城県史料 考古資料編 古墳時代』茨城県 1974年2月
- 17) 註1に同じ
- 18) 小川貴行 松林秀和『日向遺跡 一般国道293号常陸太田東バイパス及び主要地方道日立笠間線バイパス整備事業地内埋蔵文化財調査報告書』茨城県教育財団文化財調査報告第365集 2013年3月
- 19) 小室勉『瑞龍古墳群発掘調査報告』常陸太田市教育委員会 1987年3月
- 20) 註4に同じ
- 21) 小室勉『入浄塚古墳発掘調査報告』常陸太田市教育委員会 1983年3月
- 20) 大森信英「幡バツケ横穴墓群」『茨城県史料 考古資料編 古墳時代』茨城県 1974年2月
- 21) 常陸太田市文化財調査会『常陸太田市瑞龍 身隠山横穴墓群調査報告』常陸太田市教育委員会 1972年9月
- 22) 常陸太田市『釜田横穴群調査報告』常陸太田市 1979年3月
- 23) 註14に同じ
- 24) 註9に同じ
- 25) 註18に同じ
- 26) 矢ノ倉正男『主要地方道常陸那珂港山方線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 長者屋敷遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第117集 1997年3月
- 27) 註1に同じ
- 28) 註4に同じ
- 29) 海老澤稔「幡山遺跡・幡山須恵器窯跡」『茨城の考古学散歩』茨城県考古学協会 2010年5月
- 30) a 西野保「長者屋敷遺跡」『茨城の考古学散歩』茨城県考古学協会 2010年5月  
b 註26に同じ
- 31) 古代交通研究会『日本古代道路事典』八木書店 2004年5月
- 32) 註19に同じ
- 33) 註9に同じ
- 34) 註18に同じ
- 35) 註1に同じ
- 36) 註1に同じ
- 37) a 茨城県立歴史館『戦国大名佐竹氏』茨城県立歴史館 2005年2月  
b 常陸太田市秘書課公聴広報係編「市史余談百話」『舞鶴叢書(一)』1985年3月
- 38) a 西ヶ谷恭弘ほか「山入城跡Ⅰ」『日本城郭史学会調査報告』第11号 日本城郭史学会 1989年3月  
b 西ヶ谷恭弘ほか「山入城跡Ⅱ」『日本城郭史学会調査報告』第16号 日本城郭史学会 1992年3月
- 39) 常陸太田市秘書課公聴広報係編「常陸太田市の歴史散歩」『舞鶴叢書(二)』1986年3月
- 40) 河野一也 水野順敏 河野真理子『茨城県水府村 町田焼窯跡』日本窯業史研究所 2005年3月



第2図 瑞龍遺跡調査区設定図（常陸太田市都市計画図2,500分の1）

## 第3章 調査の成果

### 第1節 調査の概要

瑞龍遺跡は、常陸太田市の南部に位置し、里川右岸の標高約 39～42 mの台地上に立地している。当遺跡は、東側の里川流域に形成された沖積低地と西側の里川支流の谷津川とに挟まれた南北 1.5km、東西 0.3～0.7kmの舌状台地上のほぼ全面に広がっている。調査区域は遺跡の南域にあたり、調査面積は、台地を東西に横断する 11,708㎡が対象である。調査前の現況は宅地や畑地である。

調査の結果、竪穴建物跡 151 棟（縄文時代 4、弥生時代 2、古墳時代 77、奈良時代 27、平安時代 40、時期不明 1）、掘立柱建物跡 19 棟（古墳時代 2、平安時代 14、鎌倉・室町時代 1、江戸時代 1、時期不明 1）、方形竪穴遺構 7 基（鎌倉・室町時代 5、江戸時代 2）、古墳 1 基（古墳時代）、円形周溝遺構 1 基（古墳時代）、井戸跡 4 基（古墳時代、平安時代、鎌倉・室町時代、時期不明）、粘土貼土坑 29 基（江戸時代）、墓坑 10 基（鎌倉・室町時代 7、江戸時代 3）、埋甕 5 基（縄文時代）、柱穴列 4 条（古墳時代 2、平安時代 1、鎌倉・室町時代 1）、道路跡 4 条（鎌倉・室町時代 2、江戸時代 2）、溝跡 14 条（古墳時代 1、鎌倉・室町時代 5、江戸時代 2、時期不明 6）、段切状遺構 1 条（鎌倉・室町時代）、土坑 594 基（縄文時代 67、古墳時代 30、平安時代 28、鎌倉・室町時代 16、江戸時代 37、時期不明 416）、ピット群 19 か所（鎌倉・室町時代 8、時期不明 11）、遺物包含層 1 か所（縄文時代）を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に 284 箱分が出土している。主な遺物は、縄文土器（蓋・深鉢・注口土器）、弥生土器（広口壺）、土師器（坏・高台付坏・碗・蓋・皿・盤・埴・器台・高坏・鉢・壺・甕・甑・脚付甕・ミニチュア土器）、須恵器（坏・高台付坏・蓋・盤・高坏・鉢・甕・横瓶・平瓶・水瓶・長頸瓶・短頸壺・広口壺・甕・円面硯）土師質土器（皿）、陶器（碗・皿・德利・香炉<sub>カ</sub>・甕）、磁器（碗）、土製品（土錘・土偶・紡錘車・土人形）、石器・石製品（鏃・磨石・敲石・石斧・砥石・紡錘車・剣形品・勾玉・有孔円板・支脚・五輪塔）、金属製品（鏃・刀子・釣針・鎌・鋤先・紡錘車・釘・鏃・槍鉋・火打金・煙管・椀形滓）、銭貨（皇宋元寶・咸平元寶・皇宋通寶・熙寧元寶・紹元聖寶・永樂通寶・寛永通寶・文久通寶）、瓦（軒棧瓦）、などである。

### 第2節 基本層序

調査区の台地西寄りの平坦面（C 3 d2 区）、台地中央付近の平坦面（D 6 b3 区）、台地東寄りの平坦面（D 8 e5 区）の 3 地点にテストピットを設定し、基本土層の堆積状況を観察した（第 3 図）。確認した層序は 13 層である。

第 1 層は暗褐色の表土で、腐植土を含んだ耕作土である。粘性・締まりはともに弱く、層厚は 30～72cm である。

第 2 層は黒褐色の小規模な支谷への流入土で、埋没谷の構成土である。粘性・締まりはともに普通で、層厚は 10～32cm と比較的薄いことから、谷頭近辺にあたるものと考えられる。調査区域では、第 2 区の D 8 e5 から E 9 f1 区、第 3 区の C 5 d3 から D 6 i9 区、第 4 区の C 3 c1 から D 3 a0 区の一帯で確認した。

第 3 層は褐灰色の埋没谷構成土への漸移層である。ローム粒子・七本桜軽石・今市軽石を少量含み、粘性・締まりはともに普通で、層厚は 4～26cm である。

第 4 層は橙色の今市軽石層である。ローム粒子・白色粒子を少量含み、粘性・締まりはともに普通で、層厚は 4～32cm である。

第5層はにぶい黄褐色のソフトローム層である。白色粒子を微量に含み、粘性・締まりはともに普通で、層厚が確認できた第2区では4～18cmである。

第6層は明黄褐色のハードローム層である。白色粒子を微量に含み、粘性は普通で、締まりは極めて強く、層厚は8～36cmである。

第7層は黄褐色のハードローム層である。白色粒子を少量含み、粘性・締まりはともに強く、層厚が確認できた第2・3区では、6～24cmである。

第8層はにぶい黄褐色のハードローム層である。黒色粒子を微量に含み、粘性は普通で、締まりは強く、層厚が確認できた第2・3区では、6～18cmである。他のローム層に比して暗い発色であることから、第2黒色帯と考えられる。

第9層は黄褐色のハードローム層である。鹿沼軽石・黒色粒子を微量に含み、粘性は普通で、締まりは極めて強く、層厚が確認できた第2・3区では、6～18cmである。

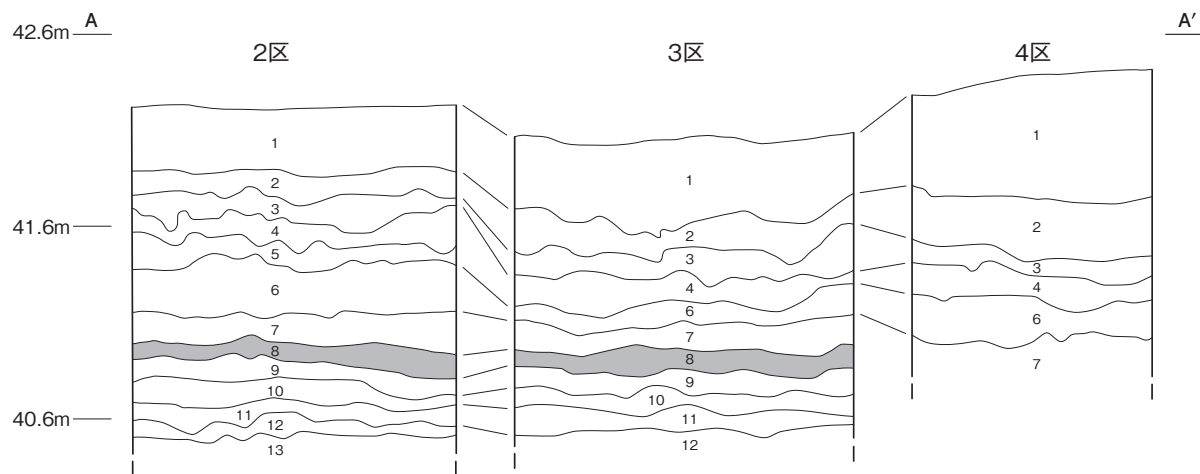
第10層はにぶい黄橙色のハードローム層である。鹿沼軽石を微量に含み、粘性・締まりはともに強く、層厚が確認できた第2・3区では、6～16cmである。

第11層は黄褐色のハードローム層への漸移層である。鹿沼軽石を少量含み、粘性・締まりはともに強く、層厚が確認できた第2・3区では、4～16cmである。

第12層は浅黄橙色の鹿沼軽石層である。鹿沼軽石を多量に含み、粘性は普通で、締まりは強く、層厚が確認できた第2区では、6～14cmである。

第13層は褐色の鹿沼軽石層への漸移層である。鹿沼軽石を少量含む粘土層で、粘性・締まりはともに強く、層厚は未掘であることから不明である。

遺構は、主に第5・6層上面で確認したが、埋没谷を確認した範囲では第2層の上面、調査区第2区の中央域から東域では第3・4層の上面である。



第3図 基本土層図

### 第3節 遺構と遺物

#### 1 縄文時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡4棟、埋甕5基、土坑67基、遺物包含層1か所を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

##### (1) 竪穴建物跡

#### 第49号竪穴建物跡（第4図）

調査年度 平成25年度

位置 調査区東部のD9i5区、標高42mほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第35・36号竪穴建物、第2号掘立柱建物、第2号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 上部を後世の耕作などによって攪乱を受けていることから、規模や形状は不明である。炉跡とその北東部に硬化面が確認できたことから、竪穴建物跡と推定できる。主軸方向は不明である。

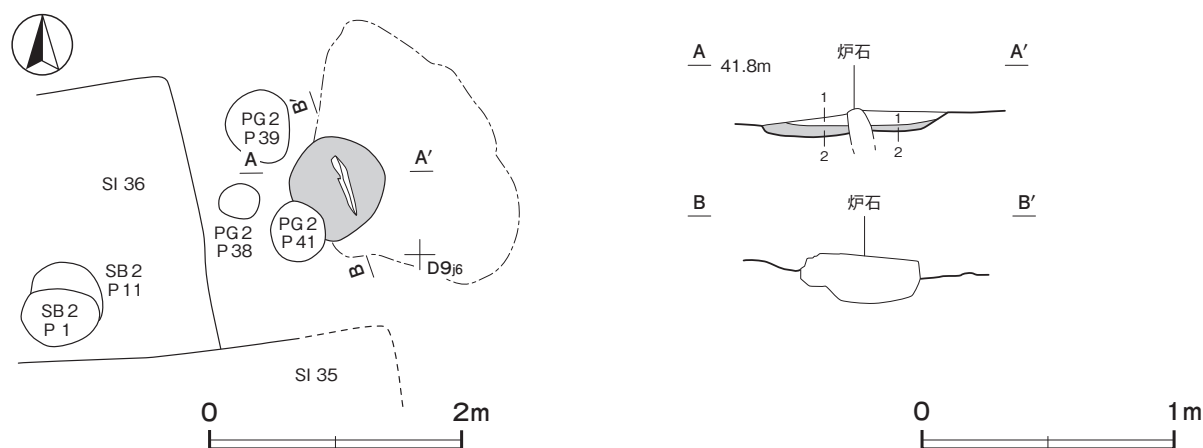
床 攪乱を受けていることから、範囲や断面形状は不明であるが、炉跡の北東部が踏み固められている。

炉 付設位置は不明である。長軸84cm、短軸75cmの楕円形の石囲炉である。床面から深さ7cmほど掘りくぼめ、炉石を配して構築されている。炉石は砂岩が用いられ、火熱を受け赤変している。炉床面は掘りくぼめた地山面で、火熱を受けて第2層が赤変硬化している。第1層は流入土で、建物跡の覆土の可能性がある。

##### 炉土層解説

1 褐色 焼土粒子・白色粒子少量、粘土ブロック微量      2 赤褐色 ロームブロック微量

所見 時期は、出土土器は確認できなかったものの、周辺に石囲炉を有する第89号竪穴建物跡が確認できたことから、縄文時代中期後葉と推定できる。



第4図 第49号竪穴建物跡実測図

#### 第89号竪穴建物跡（第5・6図 PL4）

調査年度 平成26年度

位置 調査区東部のD9j3区、標高42mほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第40号竪穴建物、第4・5・10号掘立柱建物に掘り込まれている。

**規模と形状** 第40号竪穴建物に掘り込まれているが、長軸3.75m、短軸3.50mの方形で、主軸方向はN-23°-Wである。壁は高さ14~36cmで、ほぼ直立している。

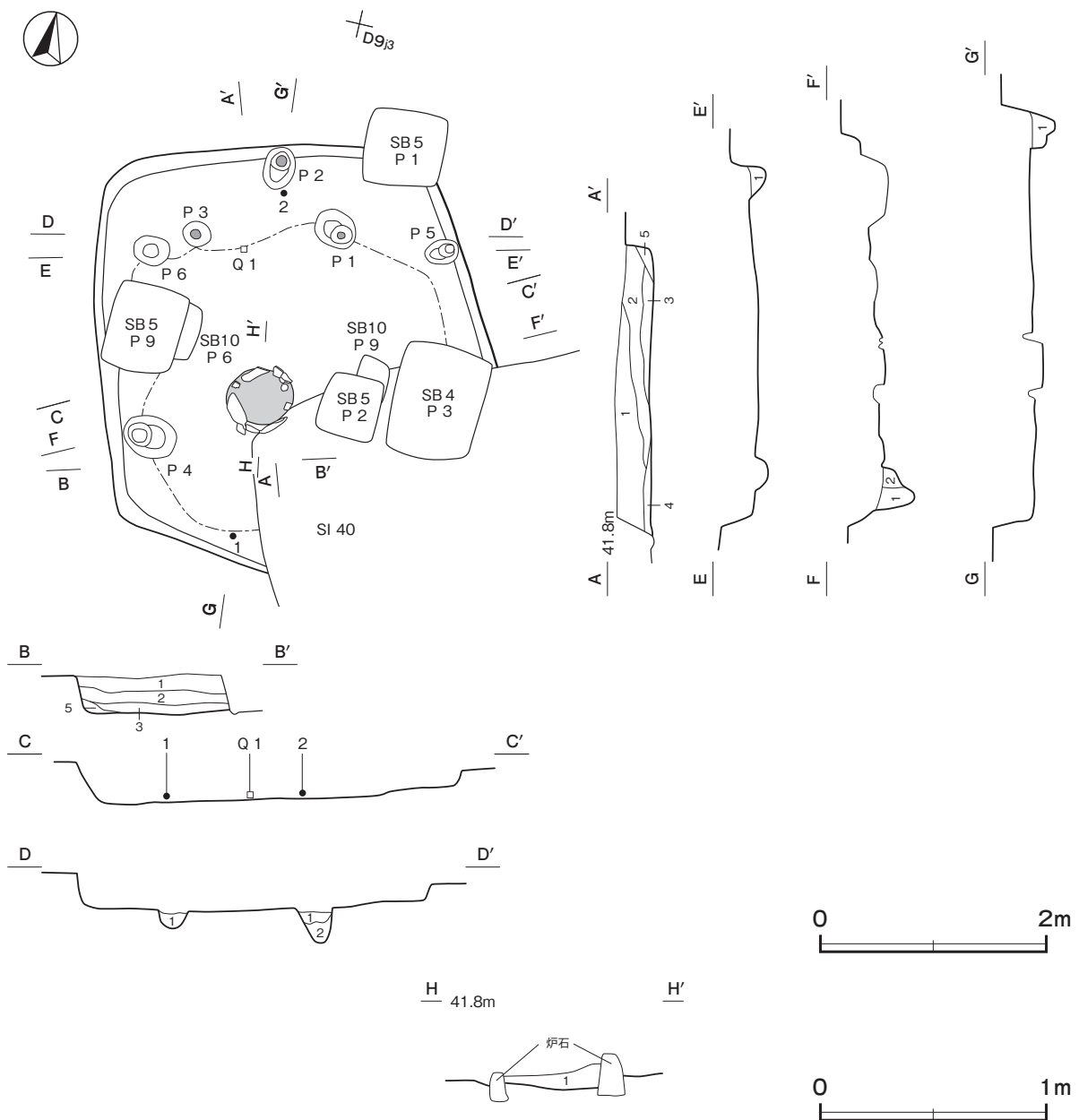
**床** 平坦で、第40号竪穴建物に掘り込まれた部分を除いて、中央部が踏み固められている。

**炉** 中央部の南西寄りに付設されている。長径60cm、短径55cmの円形の石囲炉である。深さ10cmほど掘りくぼめ、炉床が構築されている。炉床面は地山で、火熱を受けて赤変硬化している。覆土は単一層で、流入土である。

**炉土層解説**

1 暗褐色 焼土粒子中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量

**ピット** 6か所。P1~P4は深さ15~35cmで、配置から支柱穴である。P5は深さ20cmで、配置から壁柱穴の可能性がある。P6は、深さ15cmで性格は不明である。単一層もしくは2層に分層でき、柱材を抜き取った後の覆土である。P1~P3の底面で、柱の当たりを確認した。



第5図 第89号竪穴建物跡実測図

ピット土層解説 (各ピット共通)

1 暗褐色 ロームブロック中量

2 にぶい黄褐色 ロームブロック中量

覆土 5層に分層できる。堆積状況から、自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子・今市軽石粒子微量

4 にぶい黄褐色 今市軽石粒子中量, ローム粒子・焼土粒子少量

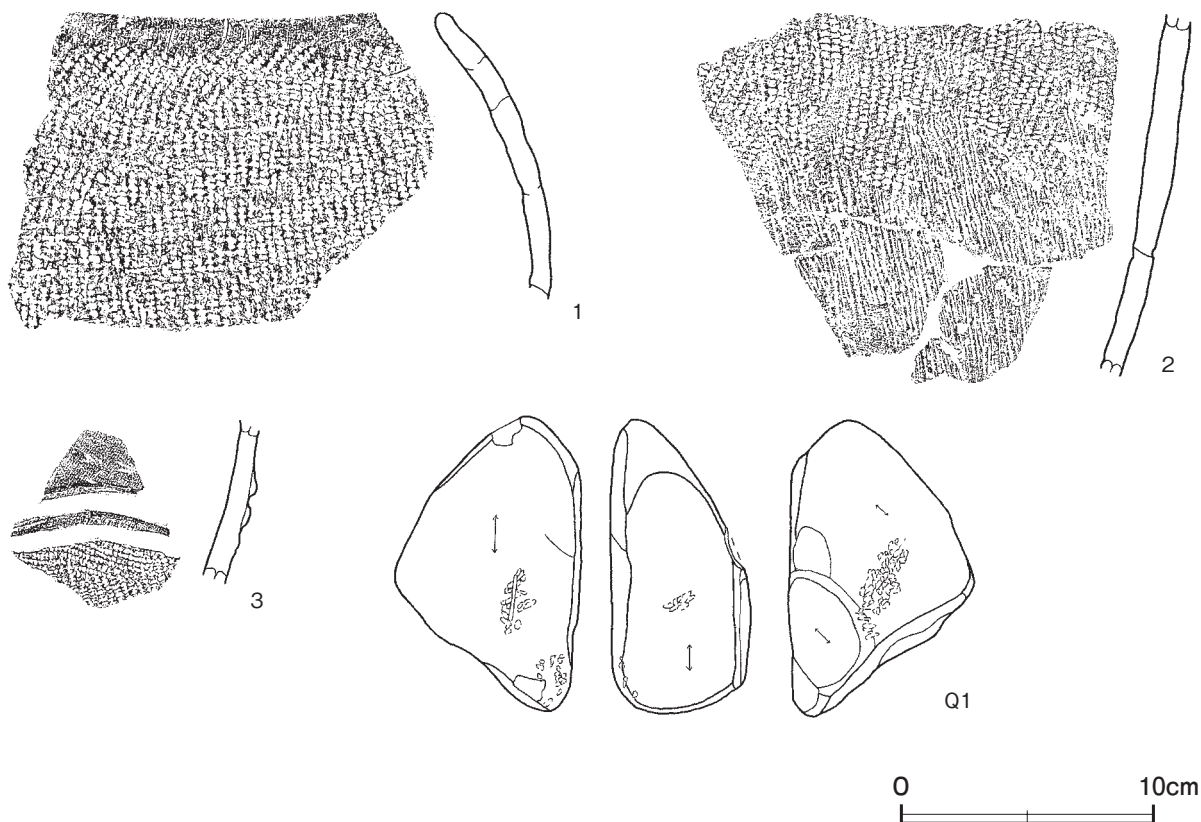
2 黒褐色 今市軽石粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量

5 褐色 今市軽石粒子中量, ローム粒子少量

3 暗褐色 ローム粒子中量, 今市軽石粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片 31点 (深鉢), 石器 2点 (敲石, 不明), 炉石 21点 (緑色変成岩 11, 雲母片岩 5, 砂岩 3, 花崗岩 2) のほか, 弥生土器片 3点 (壺類), 土師器片 24点 (甕類) が, 全域に散在している。多くの土器は小片で, 接合関係に乏しいことから, 埋没の過程で投棄されたと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から縄文時代中期後葉に比定できる。



第6図 第89号竪穴建物跡出土遺物実測図

第89号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第6図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	単節縄文LR (縦)	覆土下層	PL63
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	単節縄文LR (縦) 櫛歯状工具による条線文	覆土下層	PL63
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	浅黄橙	普通	単節縄文LR (横・縦) 隆帯・沈線各2条	覆土中	PL62
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
Q1	敲石	11.7	7.4	5.6	494.87	ホルンフェルス	全面砥面	表・裏面と左側面の敲打痕	覆土下層		



第125号竪穴建物跡 (第7～10図 PL5)

調査年度 平成27・28年度

位置 調査区西部のC3g3区、標高42mほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第526号土坑、第14号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 長径5.20m、短径4.58mの楕円形で、主軸方向はN-5°-Wである。壁は高さ5～30cmで、ほぼ直立もしくは外傾している。

床 壁際が平坦で、中央部が皿状に凹み、全面が踏み固められている。

炉 中央部の東寄りに付設されている。長径40cm、短径38cmの円形の石囲炉である。深さ10cmほど掘りくぼめ、壁に沿って自然石や割石を配して構築されている。炉床面は地山で、赤変硬化している。覆土は2層で、ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

炉土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量

ピット 14か所。P1～P8は深さ14～24cmで、配置から柱穴である。P9は深さ20cmで、出入り口施設に伴うピットの可能性がある。P10～P14は深さ12～30cmで、壁柱穴と考えられる。第1～3層は、柱材を抜き取った後の覆土である。

ピット土層解説 (P1～P8・P10～P14共通)

- 1 にごり黄褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量

覆土 7層に分層できる。ロームブロックが含まれる不規則な堆積をしていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量
- 4 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
- 5 黒褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量
- 6 黒褐色 ロームブロック少量
- 7 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片402点(深鉢401, 浅鉢1), 土製品1点(土錘), 石器5点(磨製石斧1, 石皿2, 敲石1, 磨石1), 炉石11点(緑色変成岩8, 安山岩1, 雲母片岩2)が、主に炉跡周辺から出土している。多くの土器は大型の破片や小片で、接合関係が良好であることから、埋め戻しに伴って投棄されたと考えられる。Q2は破損もしくは破碎後に炉石に転用されている。

所見 時期は、出土土器から縄文時代中期後葉から後期前葉に比定できる。

第125号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第8～10図)

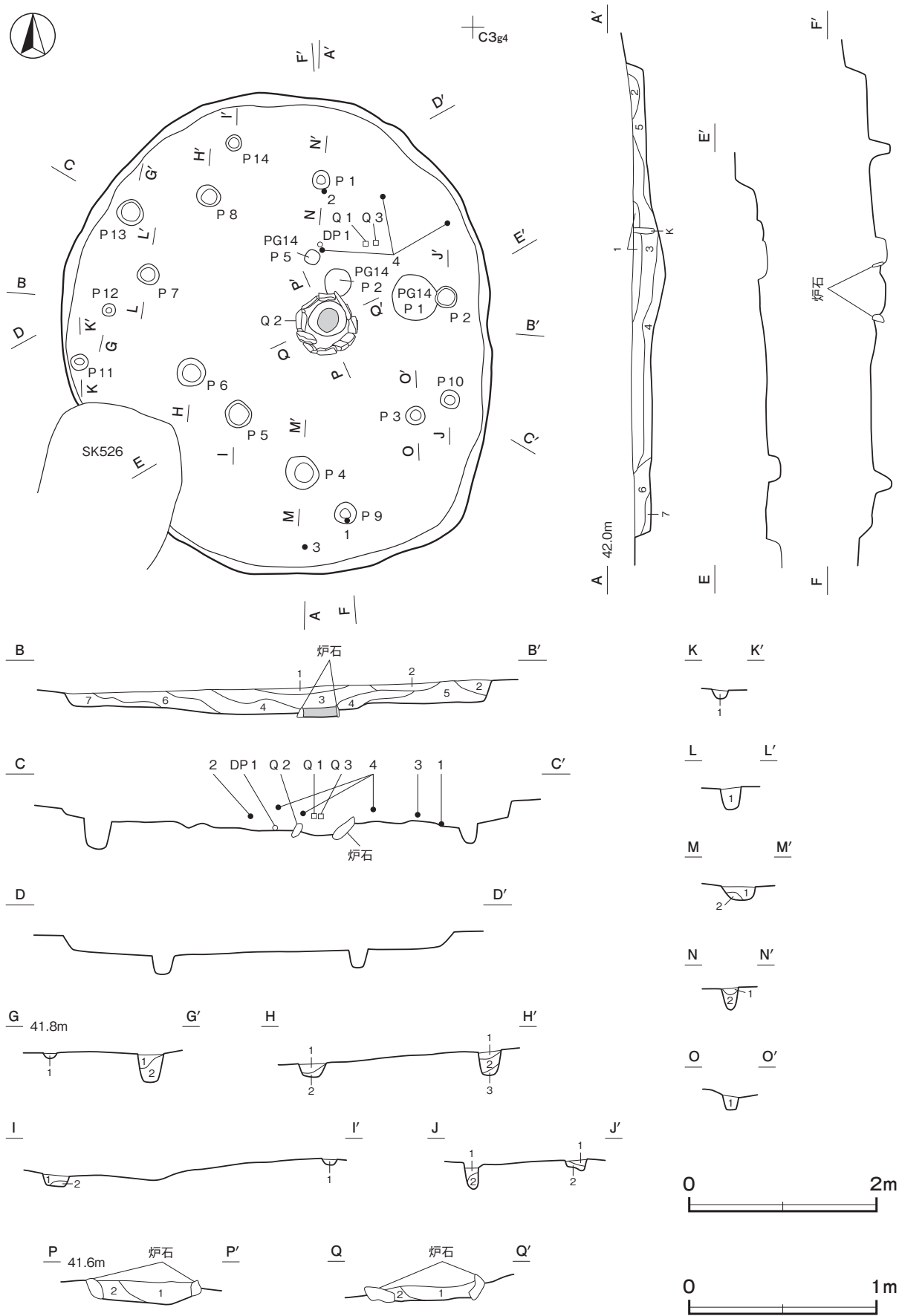
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	21.2	(15.3)	-	長石・石英・雲母・針状物質・細礫	にごり黄褐	普通	口縁部微隆線周回 単節縄文LR(縦)	覆土下層	40% PL59
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・針状物質・細礫	にごり褐	普通	口縁部沈線文周回 多条縄文RL(横・縦) 沈線文による区画 磨消 刺突文	覆土中層	PL63
3	縄文土器	深鉢	-	(33.4)	6.2	長石・石英・雲母・針状物質・細礫	灰黄褐	普通	口縁部把手貼付 単節縄文LR(横)	覆土下層	50% PL59
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	口縁部微隆線による区画 単節縄文LR(斜) 沈線文による区画 磨消 刺突文	覆土中層	PL63

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP1	土錘	5.1	2.0	1.6	16.78	長石・石英・雲母・針状物質	橙	縦位の沈線 中心部穿孔	覆土下層	PL101

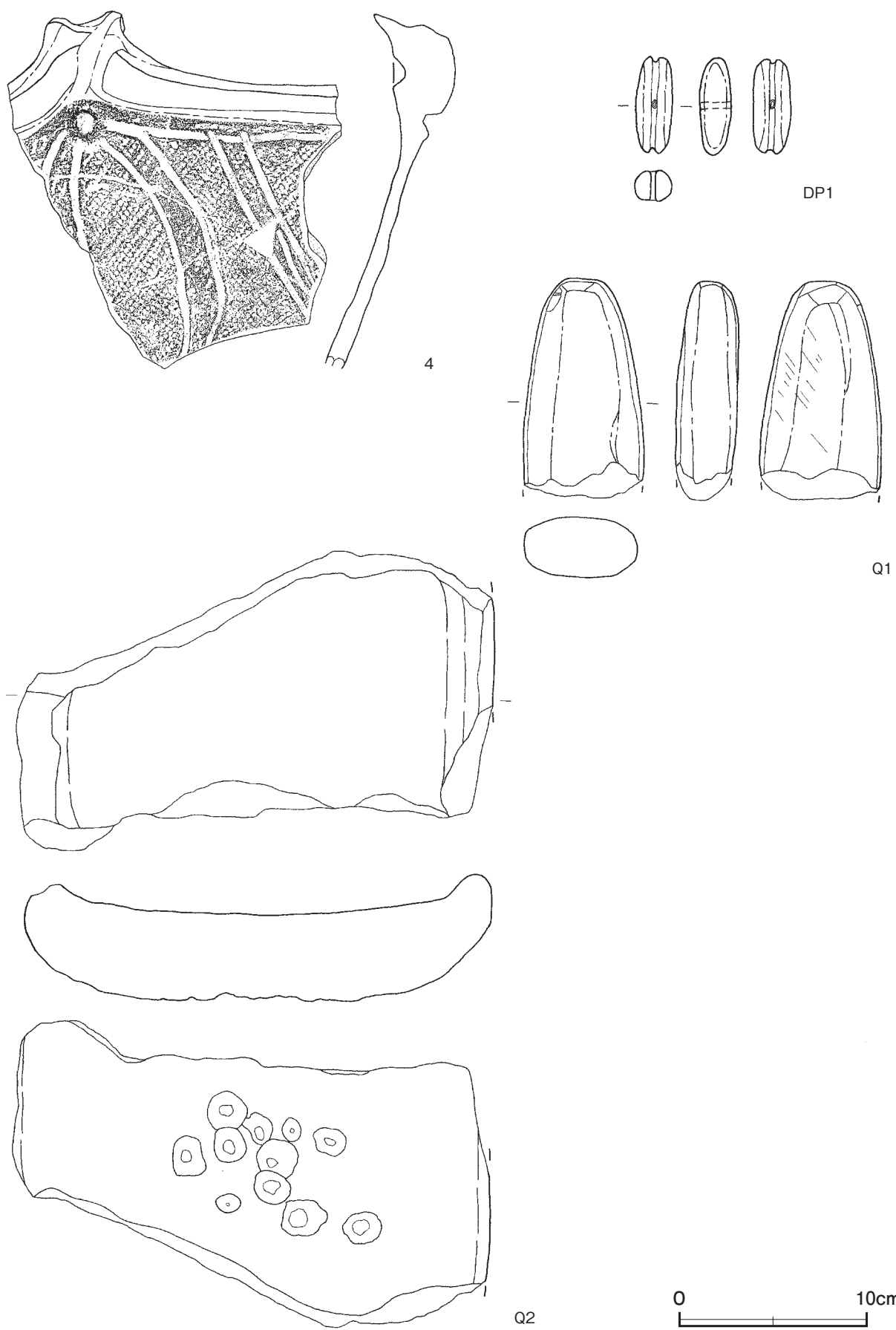
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	磨製石斧	(11.8)	6.4	3.3	(435.80)	緑色変成岩	刃部欠損 全面研磨	覆土中層	PL102
Q2	石皿	(16.3)	25.5	7.0	(2.441)	安山岩	上面研磨 側面・下面劣化のため調整不明 下面凹石転用	床面	PL102 炉石転用 二次焼成
Q3	敲石	11.2	9.7	7.6	1.114	花崗岩	側面研磨 敲き面2か所	覆土中層	PL102



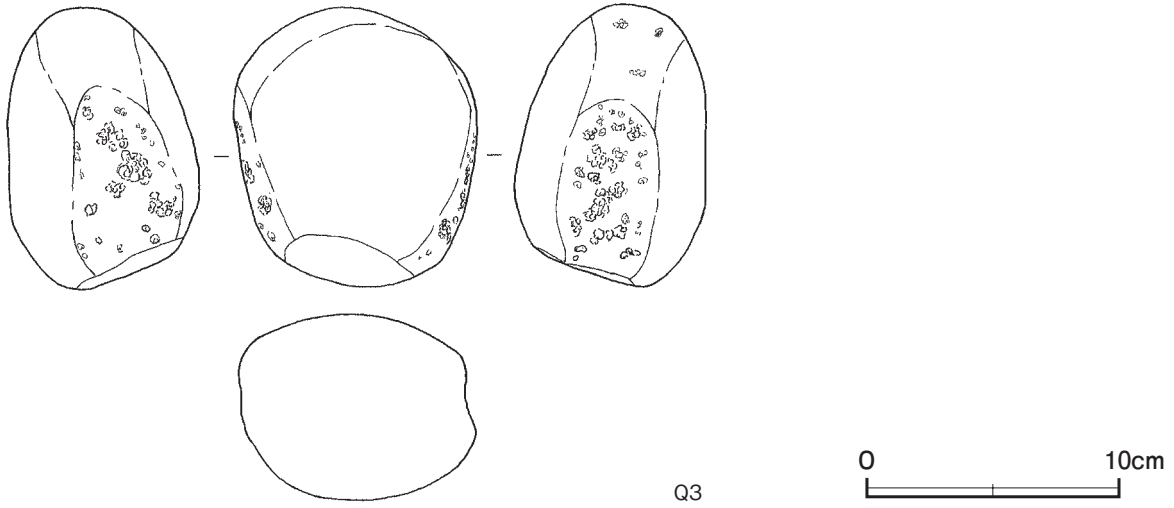
第7图 第125号竖穴建物迹实测图



第8図 第125号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)



第9図 第125号竖穴建物跡出土遺物実測図(2)



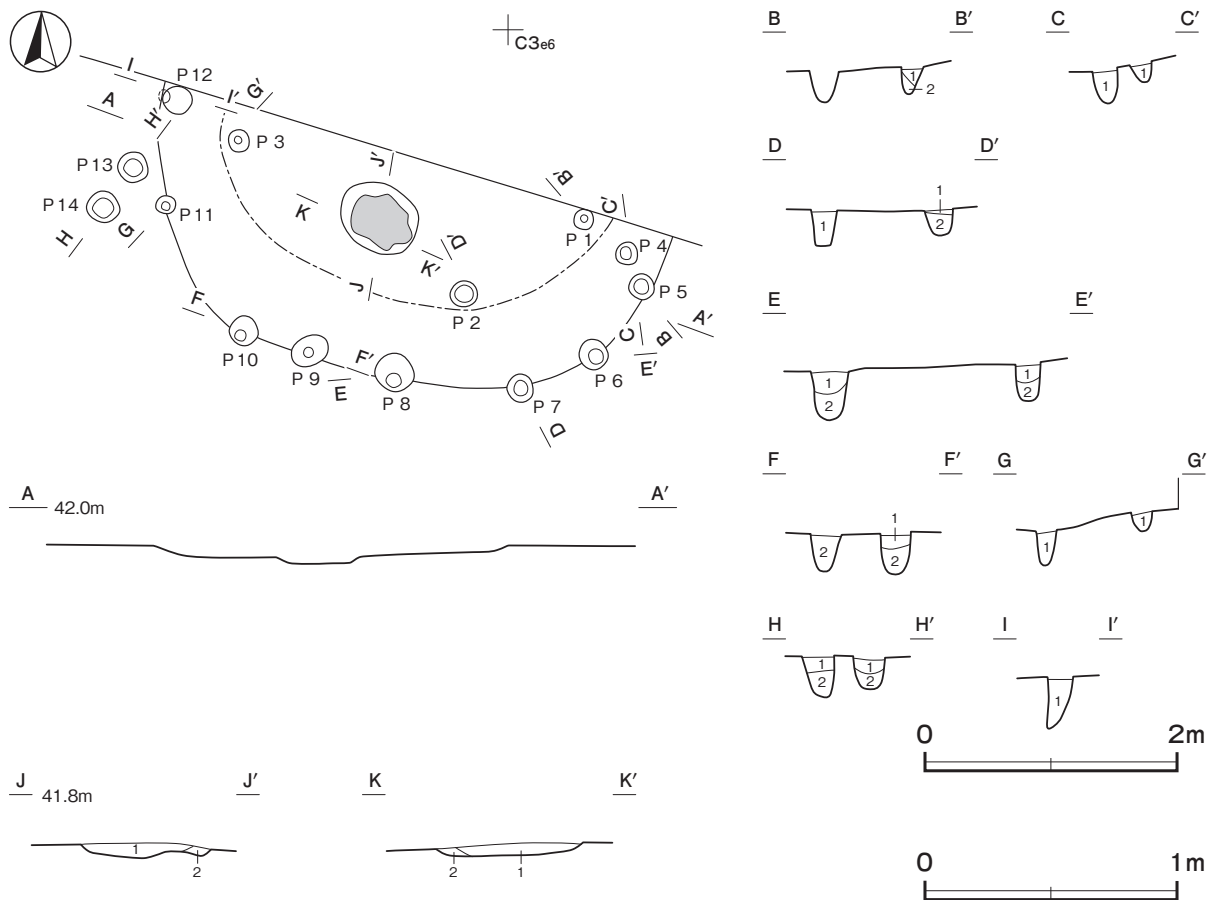
第 10 図 第 125 号竪穴建物跡出土遺物実測図(3)

第 151 号竪穴建物跡 (第 11 図)

調査年度 平成 28 年度

位置 調査区西部の C 3 e5 区, 標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第 1 号遺物包含層を掘り込んでいる。



第 11 図 第 151 号竪穴建物跡実測図

**規模と形状** 後世の耕作などにより削平されていることや、北部が調査区域外に延びていることから、長径は4.20 m、短径は1.78 mしか確認できなかった。楕円形と推定できるが、主軸方向は不明である。

**床** 皿状で、炉跡の周辺が踏み固められている。

**炉** 中央部に付設されていると推定できるが、詳細な位置は不明である。長径60cm、短径54cmの楕円形の地床炉である。深さ5cmほど掘りくぼめ、炉床が構築されている。炉床面は、火熱を受けた地山が赤変硬化している。2層に分層でき、ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

**炉土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量

**ピット** 14か所。P1～P3は深さ15～20cmで、配置から主柱穴の可能性はある。P4～P14は深さ14～46cmで壁柱穴と考えられる。第1・2層は柱材を抜き取った後の覆土である。

**ピット土層解説（各ピット共通）**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量

**所見** 時期は、出土遺物は出土しなかったものの、第1号遺物包含層を掘り込んでいることから、縄文時代後期中葉以降と推定できる。

表2 縄文時代竪穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模	壁高 (cm)	床面	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考
				長軸×短軸(m)			主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
49	D 9 i5	不明	-	- × -	-	-	-	-	-	炉1	-	不明	-	中期後葉	本跡→SI35・36, SB 2, PG 2
89	D 9 j3	N-23°-W	方形	3.75 × 3.50	14~36	平坦	4	-	2	炉1	-	自然	縄文土器, 石器, 炉石	中期後葉	本跡→SI40, SB4・5・10
125	C 3 g3	N-5°-W	楕円形	5.20 × 4.58	5~30	平坦皿状	8	1	5	炉1	-	人為	縄文土器, 土製品, 石器, 炉石	中期後葉から後期前頭	本跡→SK526, PG14
151	C 3 e5	不明	[楕円形]	(4.20) × (1.78)	-	皿状	3	-	11	炉1	-	-	-	後期中葉以降	HG1→本跡

(2) 埋甕

**第1号埋甕（第12・13図 PL 6）**

**調査年度** 平成26年度

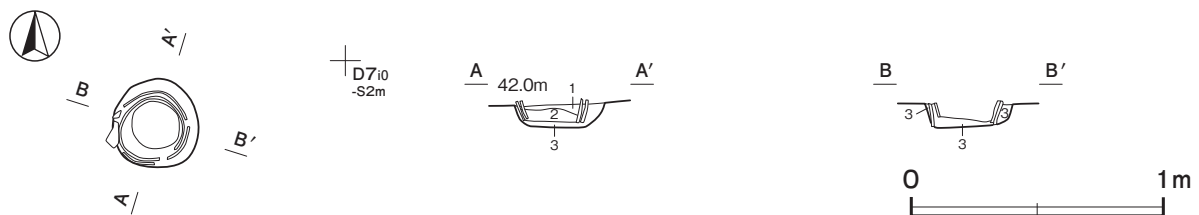
**位置** 調査区東部のD7i9区、標高42mほどの台地平坦面に位置している。

**規模と形状** 長径0.35m、短径0.33mの円形である。深さは10cmで、壁はほぼ直立もしくは外傾している。底面は平坦である。

**覆土** 2層に分層できる。第1・2層は、周囲からの流入の堆積状況を示していることから、自然堆積である。第3層は、土器を固定するために、埋め戻されている。

**土層解説**

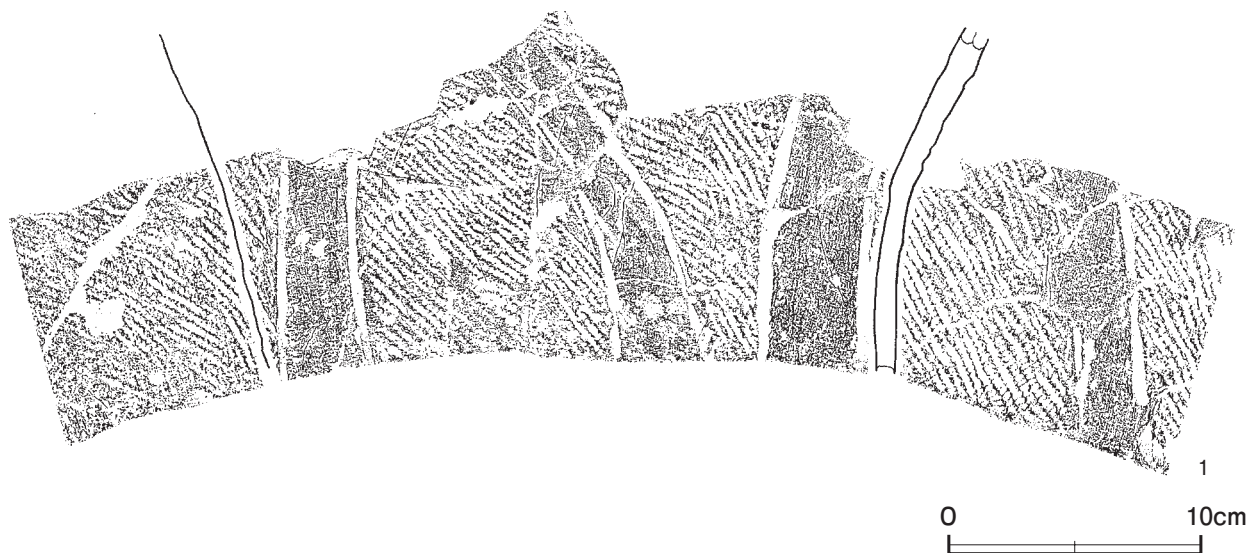
- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 にぶい黄褐色 ローム粒子微量
- 3 にぶい黄褐色 ロームブロック少量



第12図 第1号埋甕実測図

**遺物出土状況** 縄文土器片 1 点（深鉢）が出土している。1 は、口縁部は不明及び、胴下半部を欠いた状態で埋設されている。同一個体が重なった状態で出土しているため、土圧で押しつぶされたと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から後期前葉に比定できる。性格は、土器の出土状況から、深鉢を埋納するための土坑と考えられるが、不明である。



第 13 図 第 1 号埋甕出土遺物実測図

第 1 号埋甕出土遺物観察表（第 13 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(13.7)	-	長石・石英・雲母	明黄褐	普通	単節縄文 LR (横・縦) 沈線による区画 磨消	底面	30%

**第 2 号埋甕**（第 14・15 図 PL 6）

**調査年度** 平成 26 年度

**位置** 調査区中央部の D 6 d6 区、標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

**規模と形状** 径 0.60 m の円形である。深さは 18cm で、壁は外傾している。底面は平坦である。

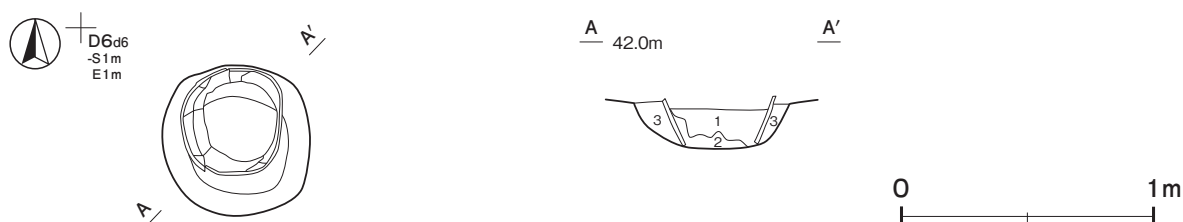
**覆土** 2 層に分層できる。上面は耕作などにより削平されていることから、第 1・2 層は後世の流入と考えられ、自然堆積である。第 3 層は、ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

**土層解説**

- 1 にぶい黄褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

3 褐色 ロームブロック中量

**遺物出土状況** 縄文土器片 1 点（深鉢）が据え置いた状態で出土している。1 は、口縁部及び、胴下半部を欠いた状態で埋設されている。



第 14 図 第 2 号埋甕実測図

所見 時期は，出土土器から中期後葉に比定できる。性格は，土器の出土状況から，深鉢を埋納するための土坑と考えられるが，不明である。



第15図 第2号埋甕出土遺物実測図

第2号埋甕出土遺物観察表（第15図）

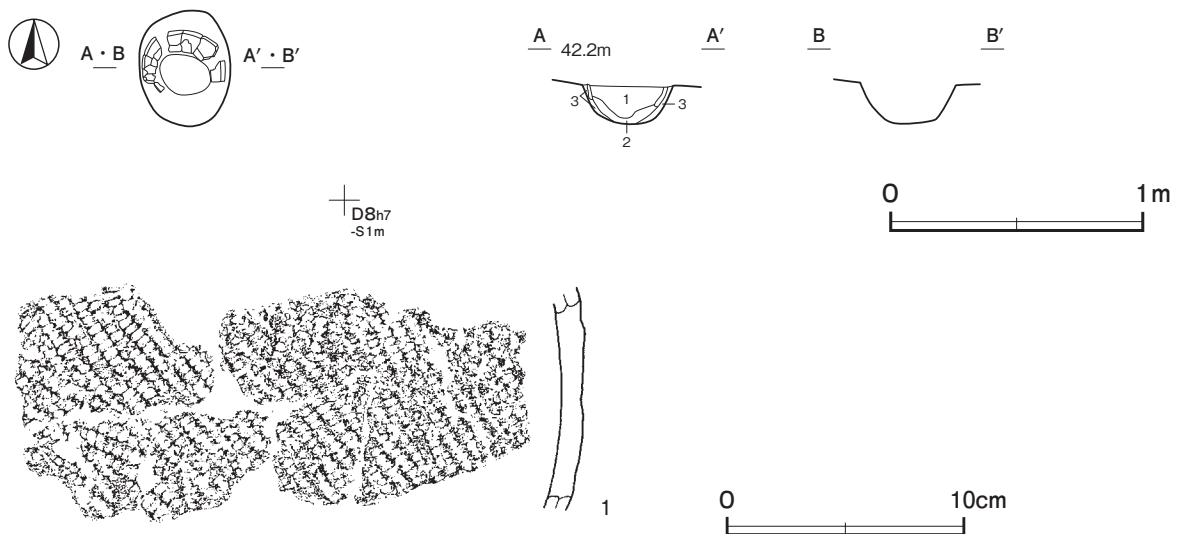
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(18.4)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	単節縄文RL（横・縦）	底面	30%

第3号埋甕（第16図）

調査年度 平成26年度

位置 調査区東部のD8h6区，標高42mほどの台地平坦面に位置している。

規模と形状 長径0.46m，短径0.36mの楕円形で，長径方向はN-5°-Wである。深さは15cmで，壁は外傾している。底面は皿状である。



第16図 第3号埋甕・出土遺物実測図



**覆土** 2層に分層できる。第1・2層はロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第3層で土器を固定している。

**土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量

**遺物出土状況** 縄文土器片1点（深鉢）のほか、混入した土師器片1点（甕類）が出土している。1は、接合状態が非常に悪く、口縁部及び、底部を欠いた状態で出土している。

**所見** 時期は、出土土器から中期後葉に比定できる。性格は、土器の出土状況から、深鉢を埋納するための土坑と考えられるが、不明である。

**第3号埋甕出土遺物観察表（第16図）**

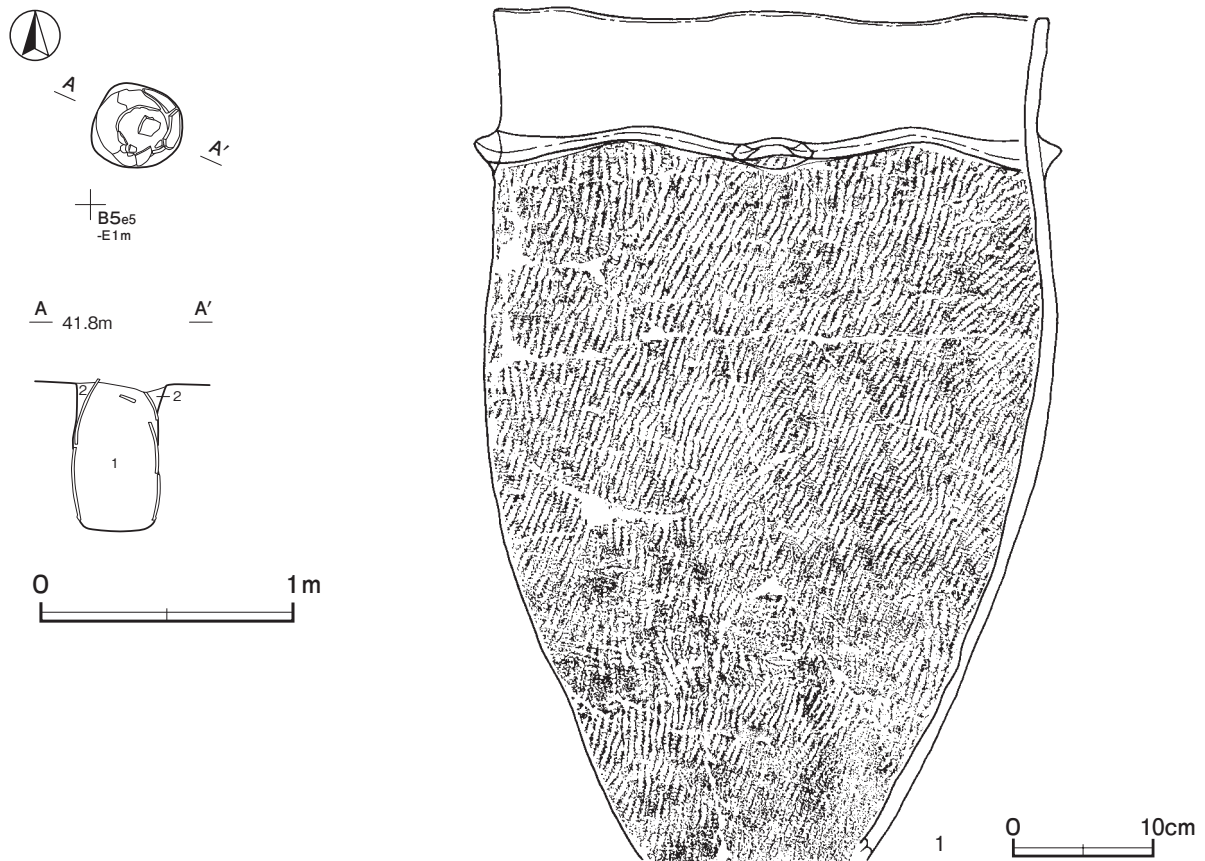
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	単節縄文LR（縦）	底面	

**第4号埋甕（第17図 PL 6）**

**調査年度** 平成27年度

**位置** 調査区中央部のB5d5区、標高42mほどの台地平坦面に位置している。

**規模と形状** 径0.36mほどの円形である。深さは58cmで、壁は直立している。底面は平坦である。



**第17図** 第4号埋甕・出土遺物実測図

**覆土** 単1層である。第1層は、締まりが弱いことから後世の流入土であるため、自然堆積である。第2層は、ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

**土層解説**

1 黒褐色 ローム粒子少量

2 黒褐色 ロームブロック中量

**遺物出土状況** 縄文土器片1点（深鉢）のほかに、混入した土師器片1点（坏）が出土している。1は、底部を欠いているがほぼ完形で、逆位に据え置かれた状況で出土している。

**所見** 時期は、出土土器から中期後葉に比定できる。性格は、墓坑あるいは、何らかの埋納遺構であると推定できる。

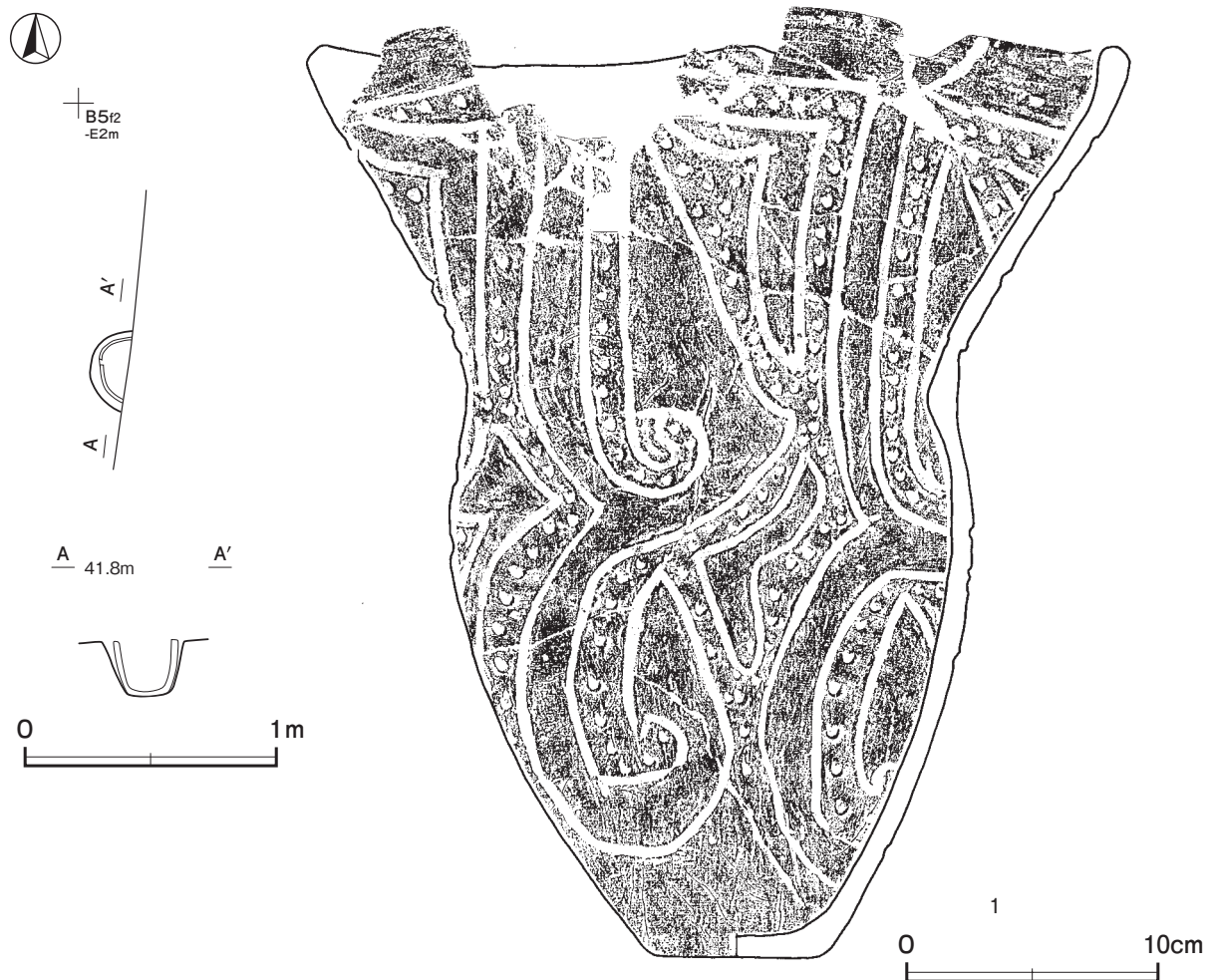
第4号埋甕出土遺物観察表（第17図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	38.0	(56.6)	-	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	口縁部微隆線周回単節縄文RL（縦） 4か所の舌状突起	底面	90% PL59

第5号埋甕（第18図）

**調査年度** 平成28年度

**位置** 調査区西部のB5f2区、標高42mほどの台地平坦面に位置している。



第18図 第5号埋甕・出土遺物実測図実測図

**重複関係** 第127号竪穴建物に掘り込まれている。

**規模と形状** 東部が調査区域外に延びることから、長径は0.31 m、短径は0.14 mしか確認できなかった。円形もしくは楕円形と推定できるが、長径方向は不明である。深さは21cmで、壁はほぼ直立している。底面は平坦である。

**遺物出土状況** 縄文土器片1点（深鉢）が出土している。掘方の壁に沿って大型の破片が出土していることから、埋設されている可能性がある。

**所見** 時期は、出土土器から後期前葉に比定できる。性格は、土器の出土状況から埋甕と考えられ、墓坑あるいは、何らかの埋納遺構であると推定できる。

第5号埋甕出土遺物観察表（第18図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	31.6	36.4	7.0	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	沈線による区画 竹管文	底面	80% PL59

表3 縄文時代埋甕一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	時期	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)						
1	D 7 i9	-	円形	0.35 × 0.33	10	ほぼ直立 外傾	平坦	自然	縄文土器	後期前葉	
2	D 6 d6	-	円形	0.60 × 0.60	18	外傾	平坦	自然	縄文土器	中期後葉	
3	D 8 h6	N - 5° - W	楕円形	0.46 × 0.36	15	外傾	皿状	人為	縄文土器	中期後葉	
4	B 5 d5	-	円形	0.36 × 0.35	58	直立	平坦	自然	縄文土器	中期後葉	
5	B 5 f2	不明	[楕円形]	0.31 × (0.14)	21	ほぼ直立	平坦	-	縄文土器	後期前葉	本跡→SI127

### (3) 土坑

今回の調査で、当時代の土坑67基を確認した。形状や遺物出土状況などから特徴的な土坑18基については、文章と実測図、遺物観察表で解説する。その他の49基については、実測図、土層解説、観察表を掲載する。

#### 第68号土坑（第19図 PL 7）

**調査年度** 平成25年度

**位置** 調査区東部のE 9 g6区、標高42 mほどの台地平坦面に位置している。

**重複関係** 第807号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 開口部は、長径1.60 m、短径1.38 mの楕円形で、長径方向はN - 30° - Eである。底面は長径1.40 m、短径1.35 mの楕円形で平坦である。深さは70cmで、壁は直立もしくは内彎している。

**覆土** 9層に分層できる。ロームブロックが含まれる不規則な堆積をしていることから、埋め戻されている。

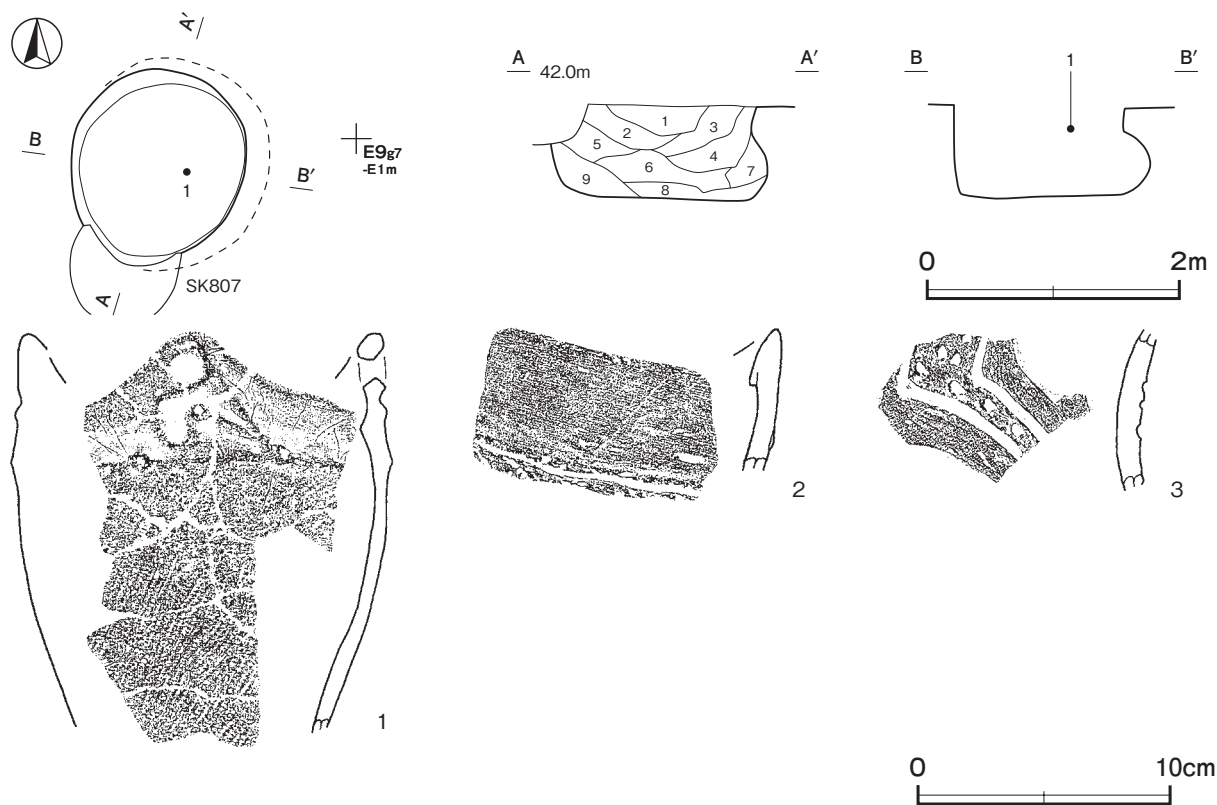
##### 土層解説

- |       |                |        |               |
|-------|----------------|--------|---------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化材少量  | 6 黒褐色  | ロームブロック微量     |
| 2 黄褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | 7 暗褐色  | ロームブロック・炭化材微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量      | 8 極暗褐色 | ロームブロック・炭化材微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック微量      | 9 褐色   | ロームブロック少量     |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量      |        |               |

**遺物出土状況** 縄文土器片44点（深鉢）が出土している。1～3は埋め戻しに伴って投棄されたものと考え

られる。

**所見** 時期は、出土土器から後期初頭に比定できる。性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。



第 19 図 第 68 号土坑・出土遺物実測図

第 68 号土坑出土遺物観察表（第 19 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[14.0]	(15.8)	-	長石・石英	にぶい黄褐色	普通	口縁部微隆線周回 単節縄文 RL (縦) 刺突文	覆土上層	10%
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい黄褐色	普通	口縁部微隆線周回 単節縄文 RL (横)	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	灰黄褐色	普通	沈線による区画 竹管文	覆土中	

第 136 号土坑（第 20 図）

**調査年度** 平成 26 年度

**位置** 調査区東部の D 8 i l 区，標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

**規模と形状** 長径 1.04 m，短径 1.02 m の円形である。深さは 30cm で，壁はほぼ直立もしくは外傾している。底面は平坦である。

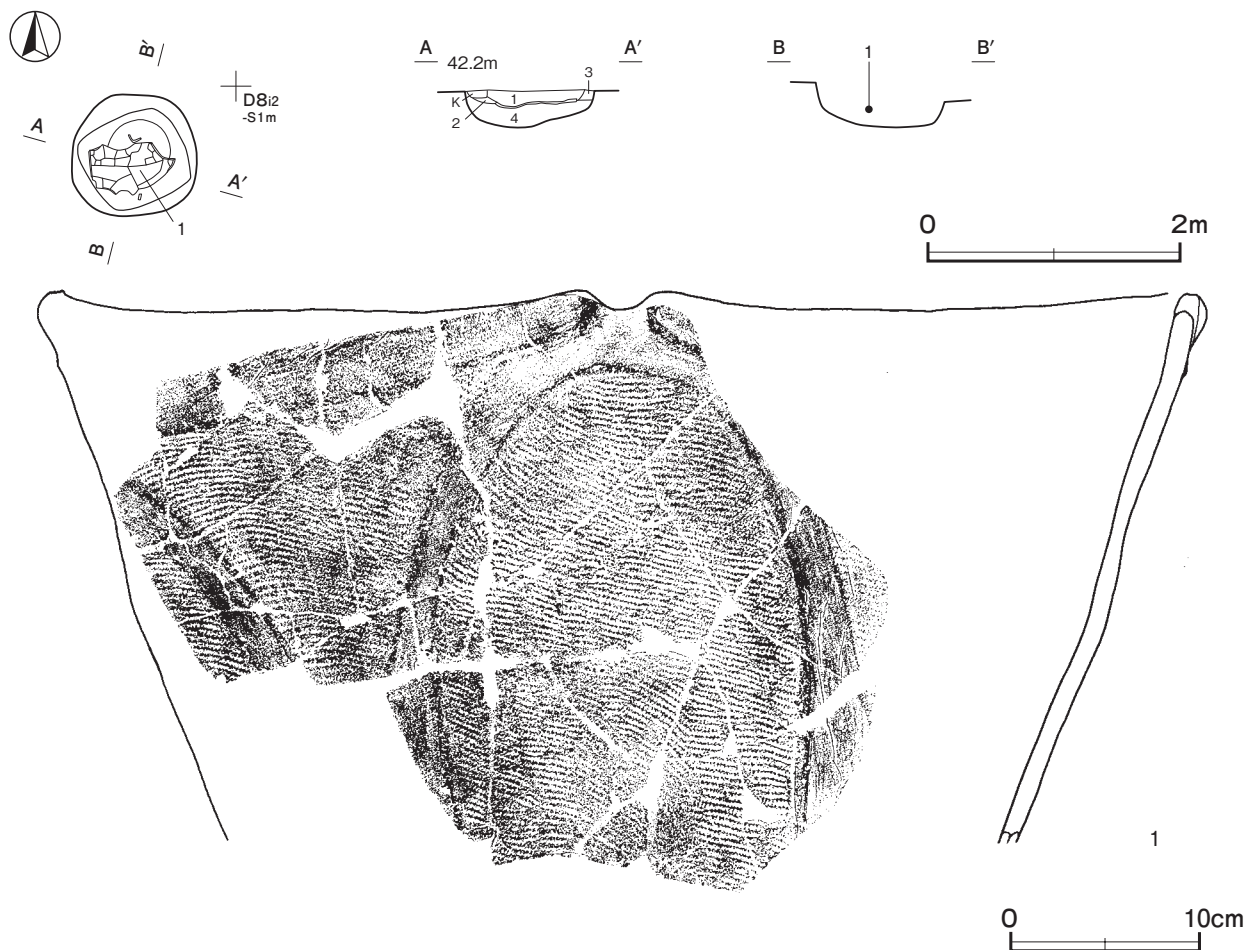
**覆土** 4 層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

**土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 にぶい黄褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量
- 4 褐色 ロームブロック少量

**遺物出土状況** 縄文土器片 12 点(深鉢)が出土している。1 は埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。

**所見** 時期は，出土土器から中期後葉に比定できる。性格は不明である。



第20図 第136号土坑・出土遺物実測図

第136号土坑出土遺物観察表（第20図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[59.8]	(29.2)	-	長石・石英・針状 鉱物・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部微隆線周囲 による区画 磨消 単節縄文RL（横） 微隆線	覆土中層	20%

### 第168号土坑（第21図）

調査年度 平成26年度

位置 調査区東部のD7j8区、標高42mほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第169号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.94m、短径0.86mの円形である。深さは46cmで、壁は直立もしくは外傾している。底面は平坦である。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

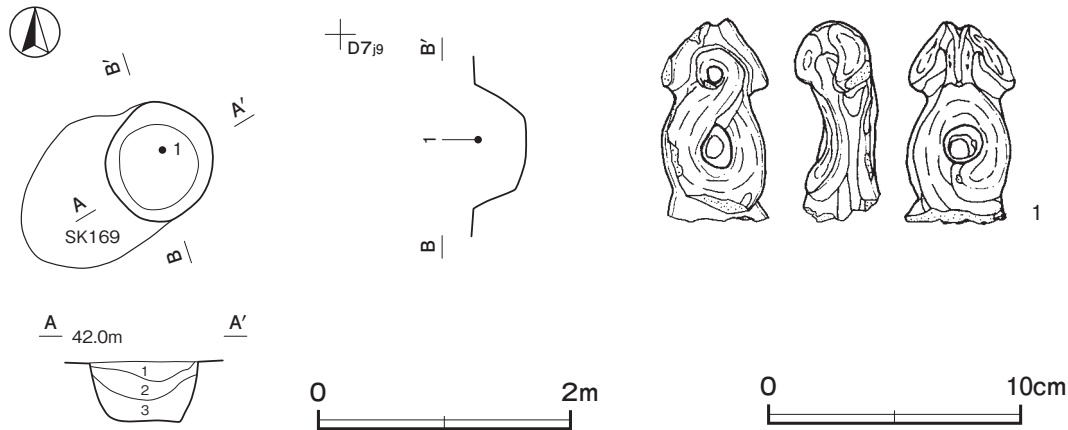
#### 土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量

- 3 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片2点（深鉢）のほか、混入した土器器片1点（甕類）が、出土している。1は埋没の過程での流れ込みであると考えられる。

所見 時期は、出土土器から後期前葉に比定できる。性格は不明である。



第 21 図 第 168 号土坑・出土遺物実測図

第 168 号土坑出土遺物観察表 (第 21 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	動物意匠把手 三角状の嘴 外面8字状を呈し 2孔 側面に孔で目を表す	覆土上層	PL62

第 200 号土坑 (第 22・23 図 PL 7)

調査年度 平成 26 年度

位置 調査区中央部の D 7 f0 区、標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第 15A・B 号掘立柱建物、第 224 号土坑、第 8 号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 径 1.38 m ほどの円形である。深さ 60cm で、壁はほぼ直立している。底面は平坦である。

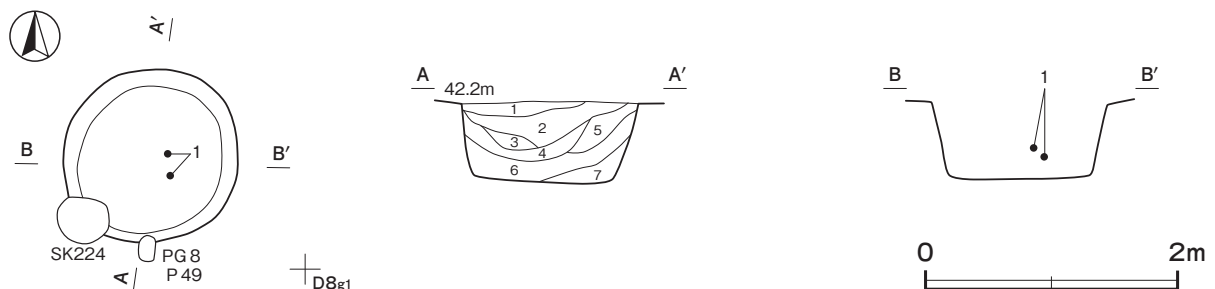
覆土 7 層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

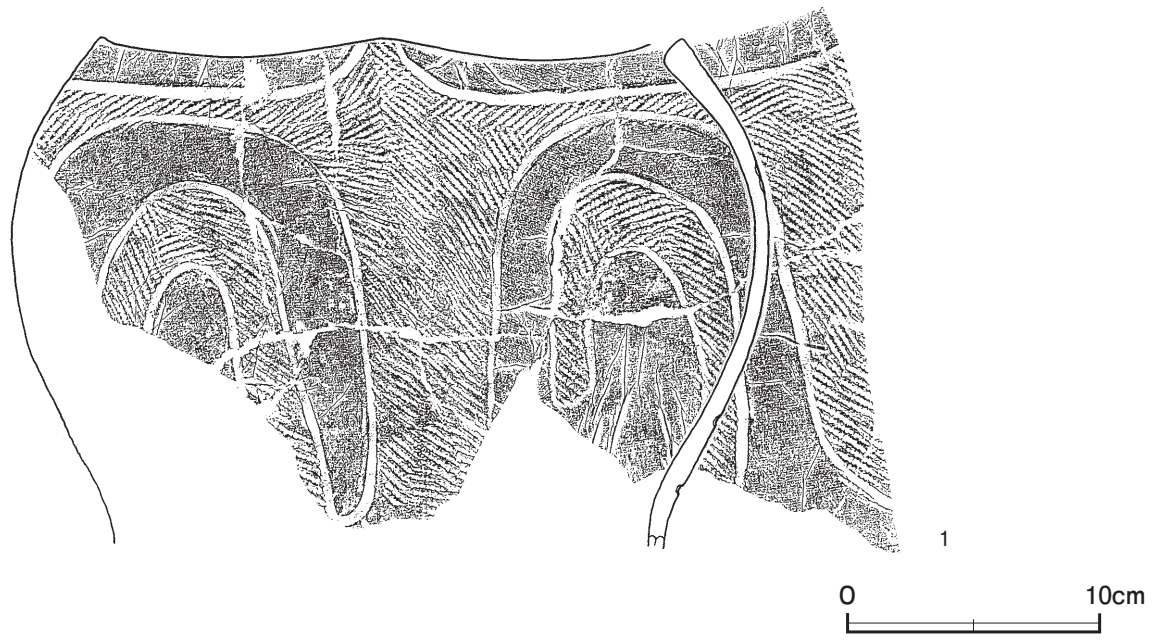
- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量
- 4 にぶい黄褐色 ロームブロック少量、粘土粒子微量
- 5 にぶい黄褐色 ロームブロック少量
- 6 褐色 ロームブロック微量
- 7 褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片 17 点 (深鉢) が出土している。1 は、埋め戻しに伴って投棄されたと考えられる。

所見 時期は、出土土器から中期後葉に比定できる。性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。



第 22 図 第 200 号土坑実測図



第23図 第200号土坑出土遺物実測図

第200号土坑出土遺物観察表（第23図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[23.0]	(20.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	単節縄文LR（横・縦）沈線による区画 磨消	覆土下層	20% PL60

第202号土坑（第24・25図 PL7）

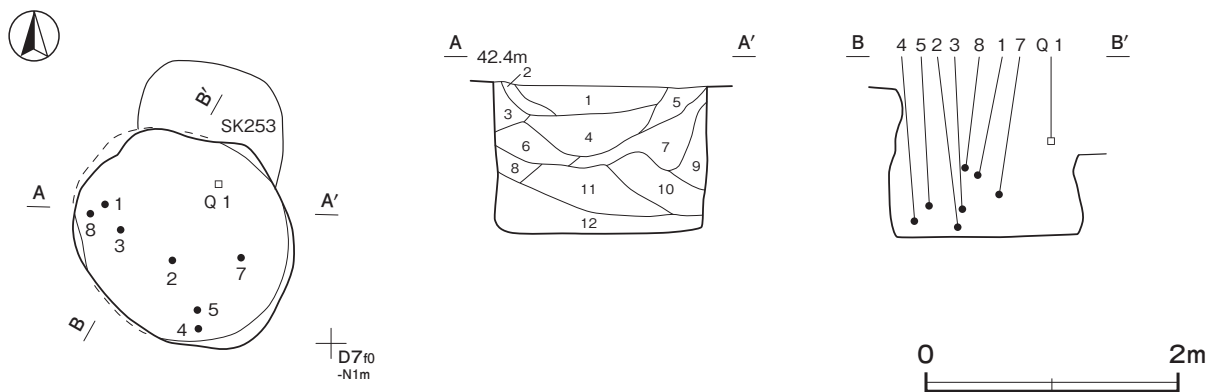
調査年度 平成26年度

位置 調査区東部のD7e9区、標高42mほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第253号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 開口部は、長径1.78m、短径1.64mの楕円形で、長径方向はN-47°-Wである。底面は、長径1.94m、短径1.62mの楕円形で平坦である。深さ113cmで、壁は内彎している。

覆土 12層に分層できる。ロームブロックを含む不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。



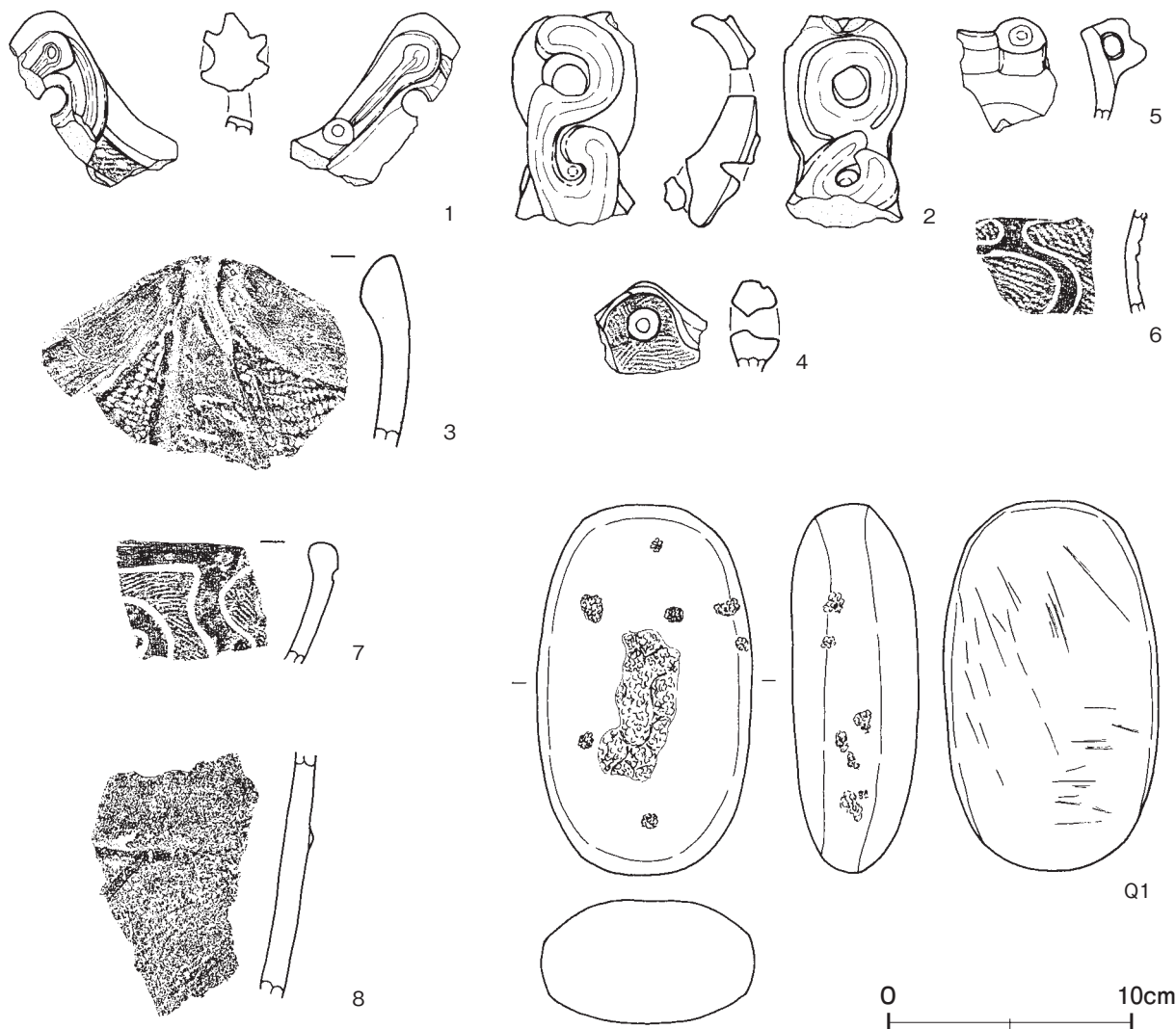
第24図 第202号土坑実測図

土層解説

- |       |                        |        |                    |
|-------|------------------------|--------|--------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色  | ロームブロック・炭化物少量      |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量         | 8 黒褐色  | ロームブロック微量          |
| 3 黒褐色 | ロームブロック微量              | 9 明黄褐色 | ロームブロック・炭化物微量      |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量    | 10 暗褐色 | ロームブロック中量          |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量      | 11 黄褐色 | ロームブロック中量, 炭化物粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック少量              | 12 暗褐色 | ロームブロック少量          |

遺物出土状況 縄文土器片 138 点（深鉢），石器 1 点（磨石）が出土している。1～8 は，埋め戻しに伴って投棄されたと考えられる。

所見 時期は，出土土器から後期前葉に比定できる。性格は，形状から貯蔵穴と考えられる。



第 25 図 第 202 号土坑出土遺物実測図

第 202 号土坑出土遺物観察表（第 25 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・針状鉱物	灰黄褐色	普通	単節縄文 LR（横） C 字状隆帯貼付 沈線文による区画 刺突文	覆土中層	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	外面逆 S 字状隆帯貼付 内面弧状沈線文	覆土下層	PL62
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	単節縄文 RL（横・縦） 微隆線による区画	覆土下層	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	単節縄文 RL（横・縦） 沈線による区画	覆土下層	
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部把手貼付 微隆線による区画	覆土下層	



番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	明褐	普通	単線縄文 RL (縦・横) 沈線による区画 磨消	覆土中	
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	微隆線 磨消	覆土中層	PL62
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	普通	単節縄文 RL (縦・横) 沈線による区画 磨消	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	磨石	15.3	8.9	5.3	1.190	安山岩	表面敲打痕を含む凹み 表・裏面研磨	覆土中層	PL102

### 第 210 号土坑 (第 26・27 図 PL 7)

調査年度 平成 26 年度

位置 調査区東部の D 7 g9 区, 標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

規模と形状 長径 1.47 m, 短径 1.29 m の楕円形で, 長径方向は N - 20° - W である。深さは 62cm で, 壁は直立もしくは外傾している。底面は平坦である。

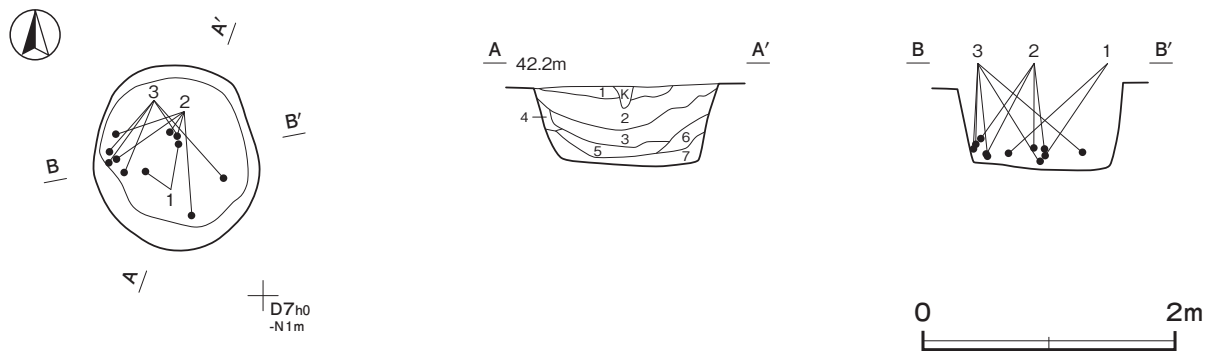
覆土 7 層に分層できる。第 2 層から第 7 層は, ロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。第 1 層は, 周囲からの流入を堆積状況から示していることから, 自然堆積である。

#### 土層解説

- |       |                |          |           |
|-------|----------------|----------|-----------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量   | 5 黒褐色    | ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量      | 6 暗褐色    | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・粘土粒子微量 | 7 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 褐色  | ロームブロック微量      |          |           |

遺物出土状況 縄文土器片 98 点 (深鉢) のほか, 混入した弥生土器片 1 点 (壺類) が出土している。1 ~ 3 は, 埋め戻しに伴って投棄されたと考えられる。

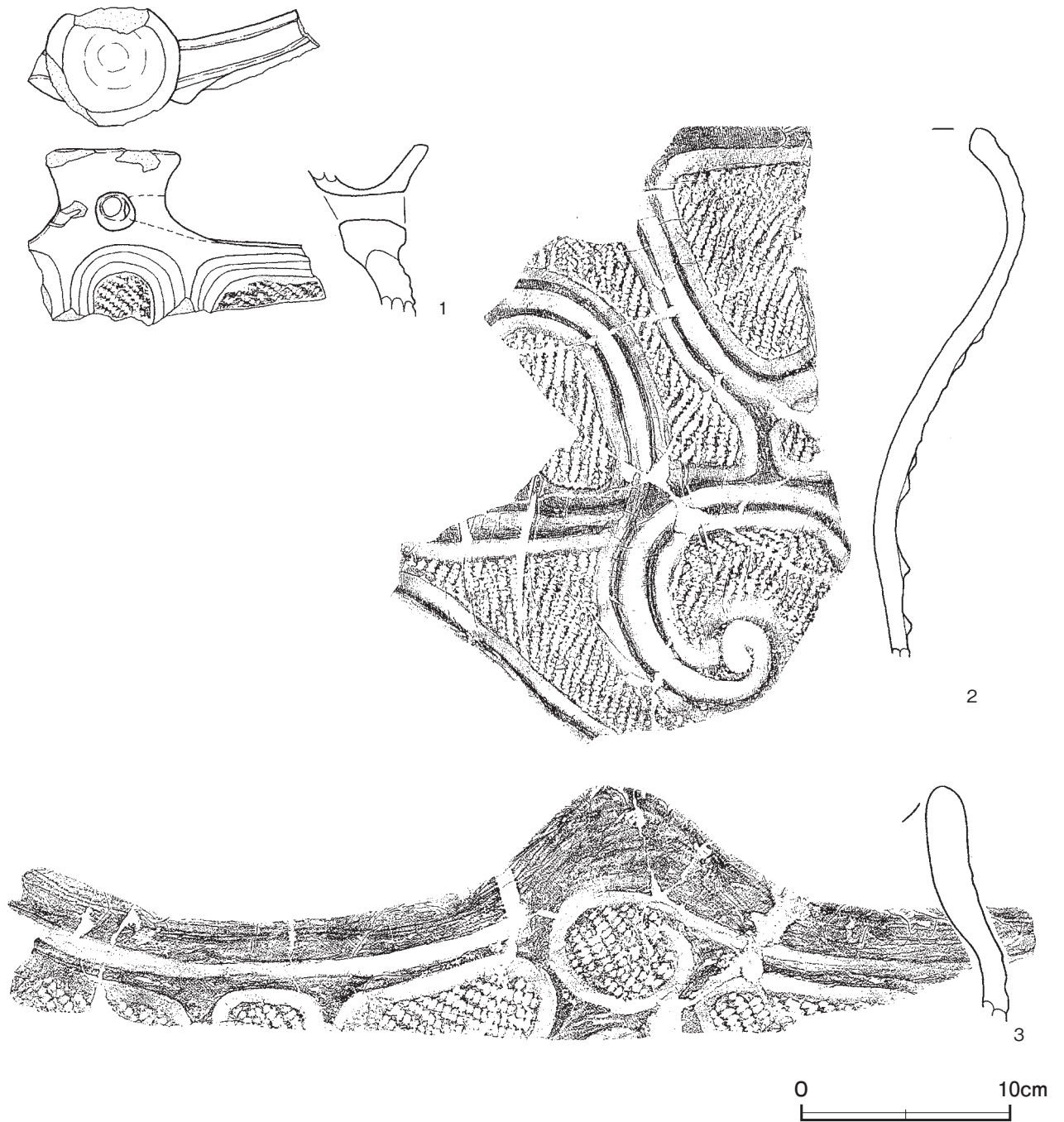
所見 時期は, 出土土器から中期後葉に比定できる。性格は, 形状から貯蔵穴と考えられる。



第 26 図 第 210 号土坑実測図

### 第 210 号土坑出土遺物観察表 (第 27 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	環状突起 単節縄文 RL (横) 隆帯による区画	覆土下層	PL62
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	単節縄文 LR (縦) 隆帯による渦巻文	覆土下層	10% PL64
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	単節縄文 RL (縦・横) 隆帯による区画	覆土下層	10%



第 27 図 第 210 号土坑出土遺物実測図

第 228 号土坑 (第 28 図 PL 7)

調査年度 平成 26 年度

位置 調査区東部の D 7 e6 区, 標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

規模と形状 長径 1.35 m, 短径 1.29 m の円形である。深さ 135 cm で, 壁は直立もしくは内彎している。底面は平坦である。

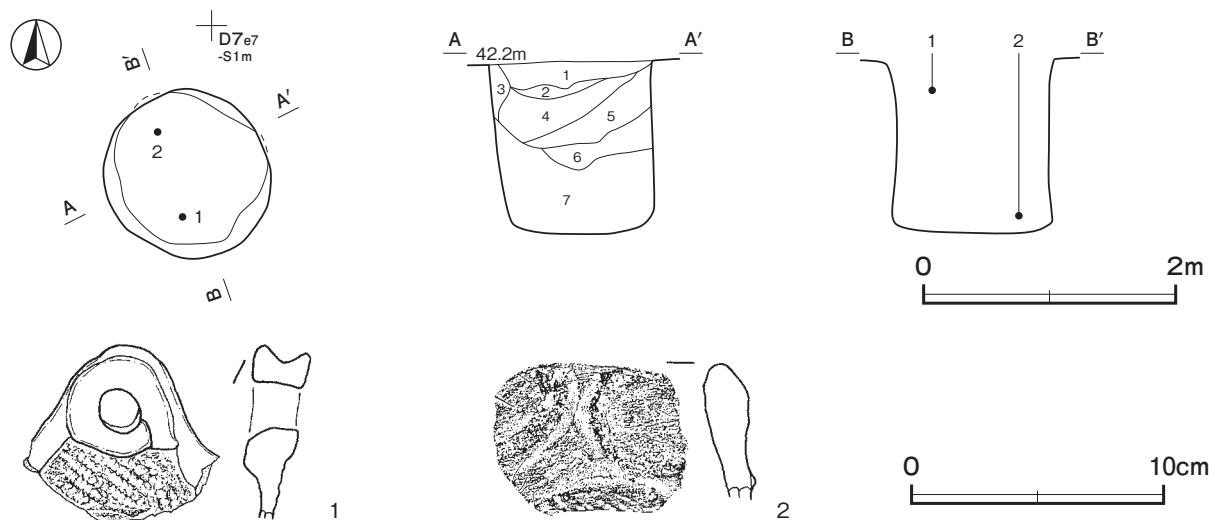
覆土 7 層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積していることから, 埋め戻されている。

土層解説

- |          |           |          |           |
|----------|-----------|----------|-----------|
| 1 黒 褐 色  | ロームブロック微量 | 5 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 灰黄褐色   | ロームブロック微量 | 6 にぶい黄橙色 | ロームブロック微量 |
| 3 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量 | 7 黄 褐 色  | ロームブロック中量 |
| 4 暗 褐 色  | ロームブロック少量 |          |           |

**遺物出土状況** 縄文土器片 47 点（深鉢）のほか，混入した土師器片 2 点（甕類）が出土している。1・2 は，埋め戻しに伴って投棄されたと考えられる。

**所見** 時期は，出土土器から後期前葉に比定できる。性格は，形状から貯蔵穴と考えられる。



第 28 図 第 228 号土坑・出土遺物実測図

第 228 号土坑出土遺物観察表（第 28 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	黒褐	普通	口縁部円形文貼付 単節縄文 RL (横)	覆土上層	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	単節縄文 RL (縦) 微隆線	覆土中層	

### 第 261 号土坑（第 29 図 PL 8）

**調査年度** 平成 26 年度

**位置** 調査区東部の D 8 g1 区，標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

**重複関係** 第 272 号土坑を掘り込み，第 1 A・B 号柱穴列，第 8 号ピット群に掘り込まれている。

**規模と形状** 長径 1.41 m，短径 1.40 m の円形である。深さ 64cm で，壁は直立している。底面は平坦である。

**ピット** 底面中央部に長径 32cm，短径 20cm，深さ 32cm のピットを確認したが，性格は不明である。

**覆土** 7 層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則に堆積しているから，埋め戻されている。

#### 土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	5 灰黄褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック少量	6 暗褐色	ロームブロック微量
3 にぶい黄褐色	ロームブロック多量，炭化粒子微量	7 黒褐色	ロームブロック微量
4 暗褐色	ロームブロック少量		

**遺物出土状況** 縄文土器片 58 点（深鉢）のほかに，混入した土師器片 3 点（坏 1，甕類 2）が出土している。

1 は，埋め戻しに伴って投棄されたと考えられる。

**所見** 時期は，出土土器から後期前葉に比定できる。性格は，形状から貯蔵穴と考えられる。

### 第 272 号土坑（第 29 図 PL 8）

**調査年度** 平成 26 年度

**位置** 調査区東部の D 8 g1 区，標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

**重複関係** 第261号土坑, 第1A・B号柱穴列, 第8号ピット群に掘り込まれている。

**規模と形状** 第261号土坑などに掘り込まれていることから, 長径は1.69mで, 短径は0.98mしか確認できなかった。楕円形と推定でき, 長径方向はN-30°-Eである。深さは66cmで, 壁は直立している。底面は平坦である。

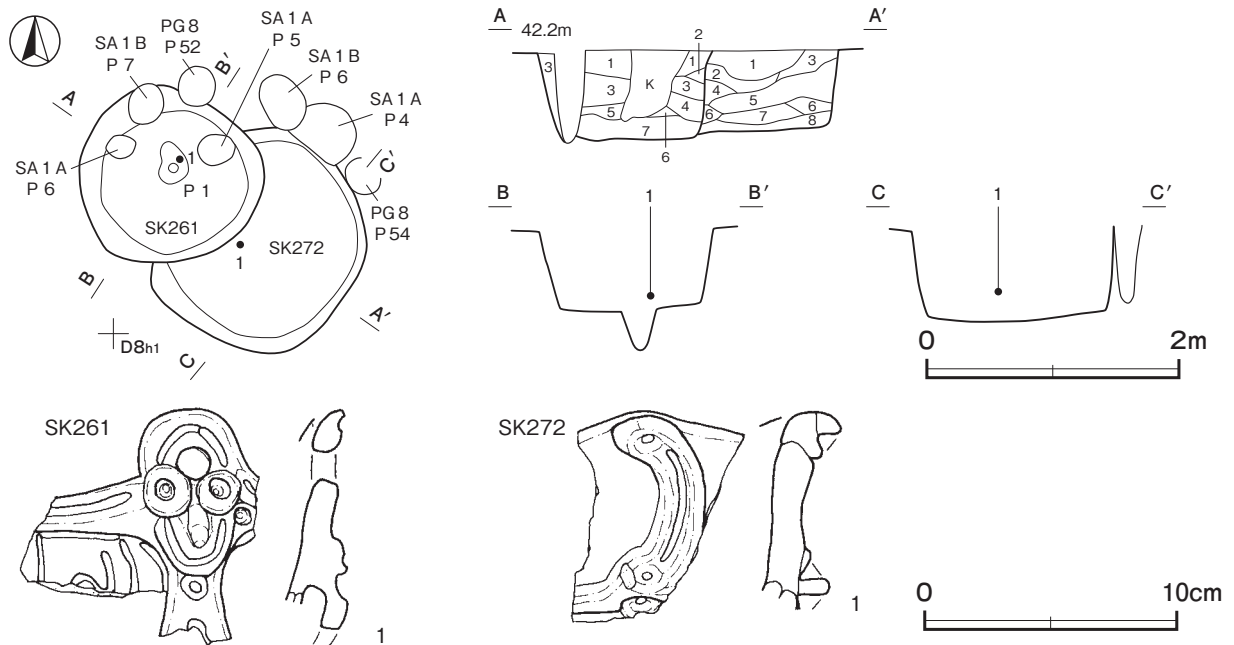
**覆土** 8層に分層できる。第4層～8層は, ロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。第1～3層は, 埋め戻された後の自然堆積である。

**土層解説**

- |       |                 |          |           |
|-------|-----------------|----------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 5 黒褐色    | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量    | 6 暗褐色    | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量         | 7 黒褐色    | ロームブロック中量 |
| 4 褐色  | ロームブロック少量       | 8 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量 |

**遺物出土状況** 縄文土器片6点(深鉢)が出土している。1は, 埋め戻しに伴って投棄されたと考えられる。

**所見** 時期は, 出土土器から後期前葉に比定できる。性格は, 形状から貯蔵穴と考えられる。



第29図 第261・272号土坑・出土遺物実測図

第261号土坑出土遺物観察表(第29図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明黄褐	普通	C字状沈線 刺突文 沈線文	覆土下層	PL62

第272号土坑出土遺物観察表(第29図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	J字状隆帯貼付 刺突文	覆土下層	

第 448 号土坑（第 30 図）

調査年度 平成 27 年度

位置 調査区西部の C 2 h 8 区，標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

規模と形状 長径 0.85 m，短径 0.83 m の円形である。深さは 28 cm で，壁は外傾している。底面は平坦である。

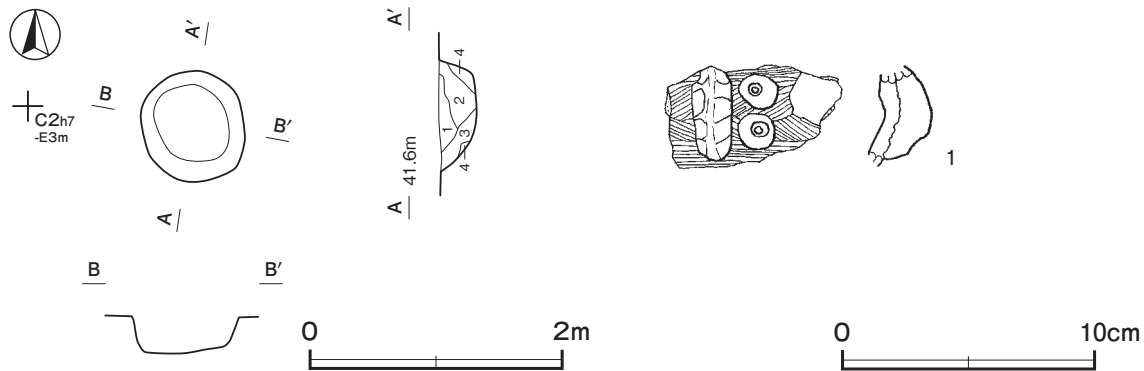
覆土 4 層に分層できる。ロームブロックや粘土ブロックを含む層が不規則な堆積状況を示していることから，埋め戻されている。

土層解説

- |       |                         |          |           |
|-------|-------------------------|----------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量，炭化粒子微量 | 3 にぶい黄褐色 | ローム粒子少量   |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子中量，粘土ブロック少量   | 4 褐色     | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 縄文土器片 3 点（深鉢）が出土している。1 は，埋め戻しに伴って投棄されたと考えられる。

所見 時期は，出土土器から前期後葉に比定できる。性格は不明である。



第 30 図 第 448 号土坑・出土遺物実測図

第 448 号土坑出土遺物観察表（第 30 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	集団沈線文 棒状貼付文 刺突文	覆土中	PL62

第 481 号土坑（第 31 図 PL 8）

調査年度 平成 27 年度

位置 調査区西部の C 2 e 0 区，標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第 482 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径 1.29 m，短径 1.25 m の円形である。深さは 30 cm で，壁は直立もしくは外傾している。底面は平坦である。

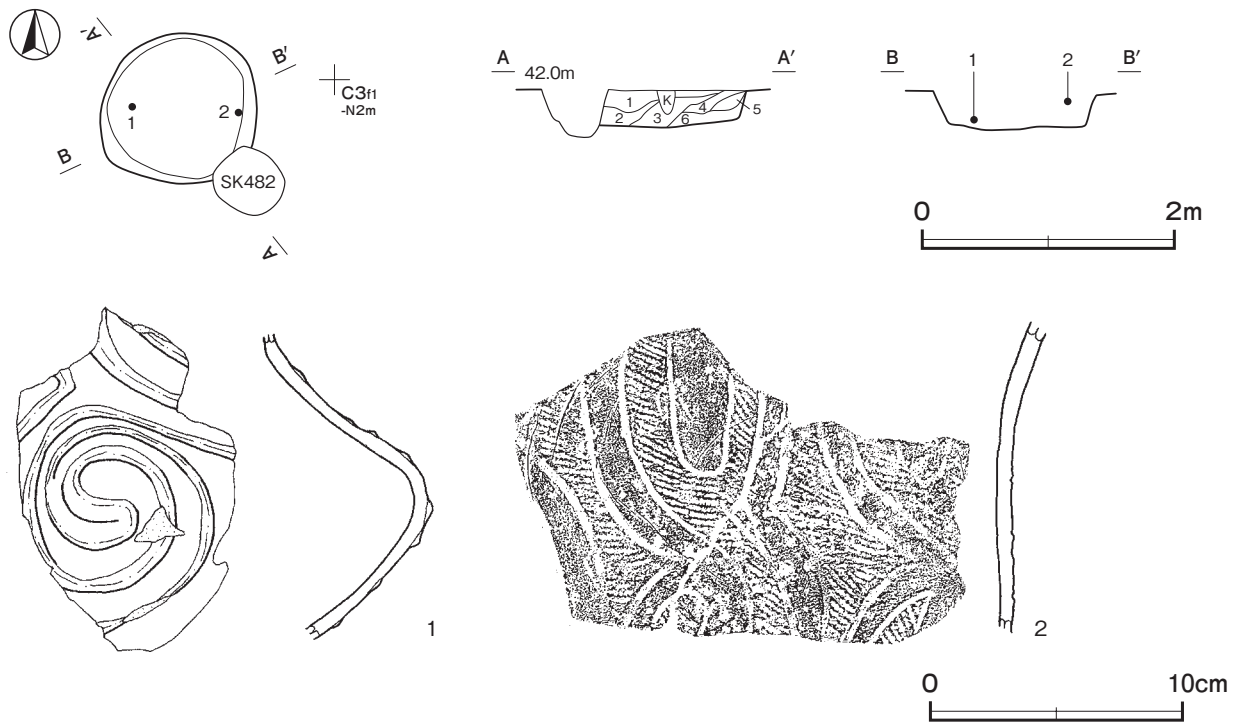
覆土 6 層に分層できる。ロームブロックが含まれる不規則な堆積をしていることから，埋め戻されている。

土層解説

- |          |                     |       |           |
|----------|---------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色    | ロームブロック・焼土粒子微量      | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色    | ロームブロック微量，粘土粒子少量    | 5 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 にぶい黄褐色 | ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量 |

遺物出土状況 縄文土器片 86 点（深鉢 85，壺<sub>カ</sub> 1）が出土している。1・2 は，埋め戻しに伴って投棄されたと考えられる。

所見 時期は，出土土器から後期前葉に比定できる。性格は，形状から貯蔵穴の可能性はあるが，不明である。



第 31 図 第 481 号土坑・出土遺物実測図

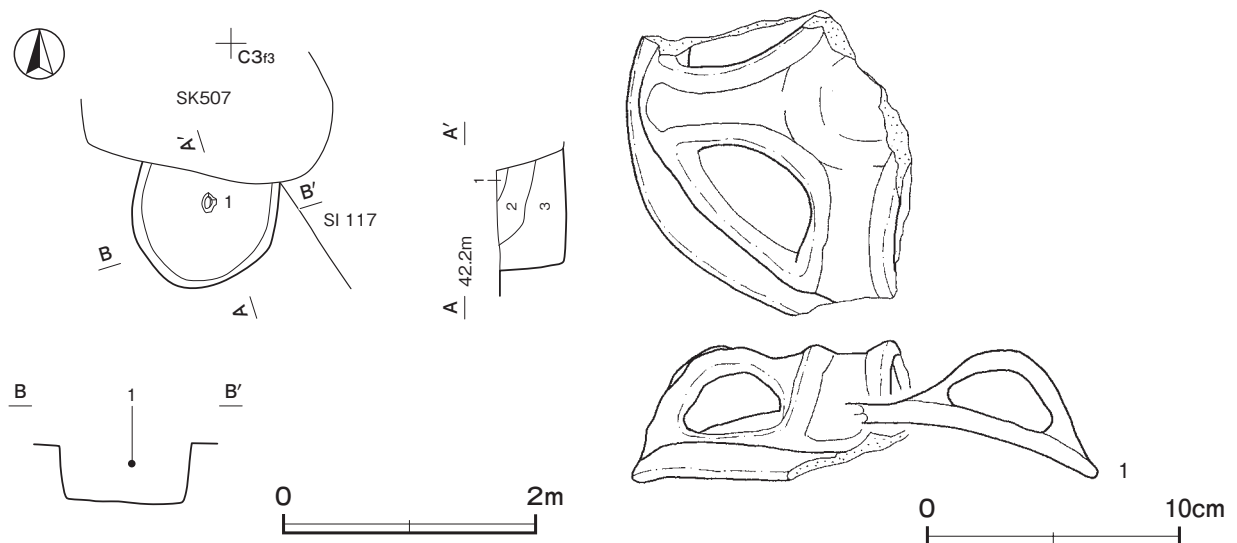
第 481 号土坑出土遺物観察表 (第 31 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	壺	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	渦巻状隆帯貼付	覆土下層	PL62
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	単節縄文 RL (横) 沈線による区画 磨消	覆土上層	PL65

第 506 号土坑 (第 32 図 PL 8)

調査年度 平成 27 年度

位置 調査区西部の C 3 f2 区, 標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。



第 32 図 第 506 号土坑・出土遺物実測図

**重複関係** 第507号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 第507号土坑に掘り込まれていることから、長径は1.13mで、短径は0.90mしか確認できなかった。楕円形と推定でき、長径方向はN-12°-Eである。深さは50cmで、壁は直立している。底面は平坦である。

**覆土** 3層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

**土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 にぶい黄褐色 ロームブロック微量

**遺物出土状況** 縄文土器片7点（深鉢6，蓋1）のほか、混入した土師器片3点（甕類2，高坏1）が出土している。1は、埋め戻しに伴って投棄されたと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から中期後葉と考えられる。性格は不明である。

第506号土坑出土遺物観察表（第32図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	蓋	[18.4]	(5.6)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	橋状把手貼付	覆土上層	30% PL60

**第591号土坑（第33・34図）**

**調査年度** 平成27年度

**位置** 調査区西部のD4a3区、標高42mほどの台地平坦面に位置している。

**重複関係** 第137号竪穴建物に掘り込まれている。

**規模と形状** 第137号竪穴建物に掘り込まれているが、径1.10mほどの円形である。深さ89cmで、壁は直立もしくは外傾している。底面は平坦である。

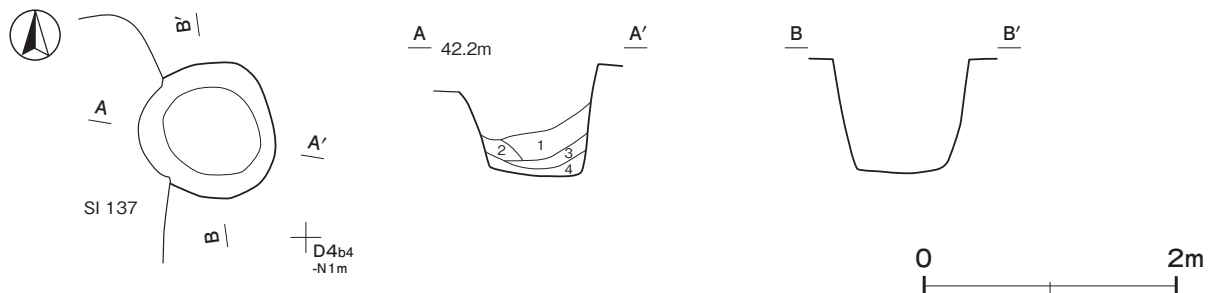
**覆土** 4層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

**土層解説**

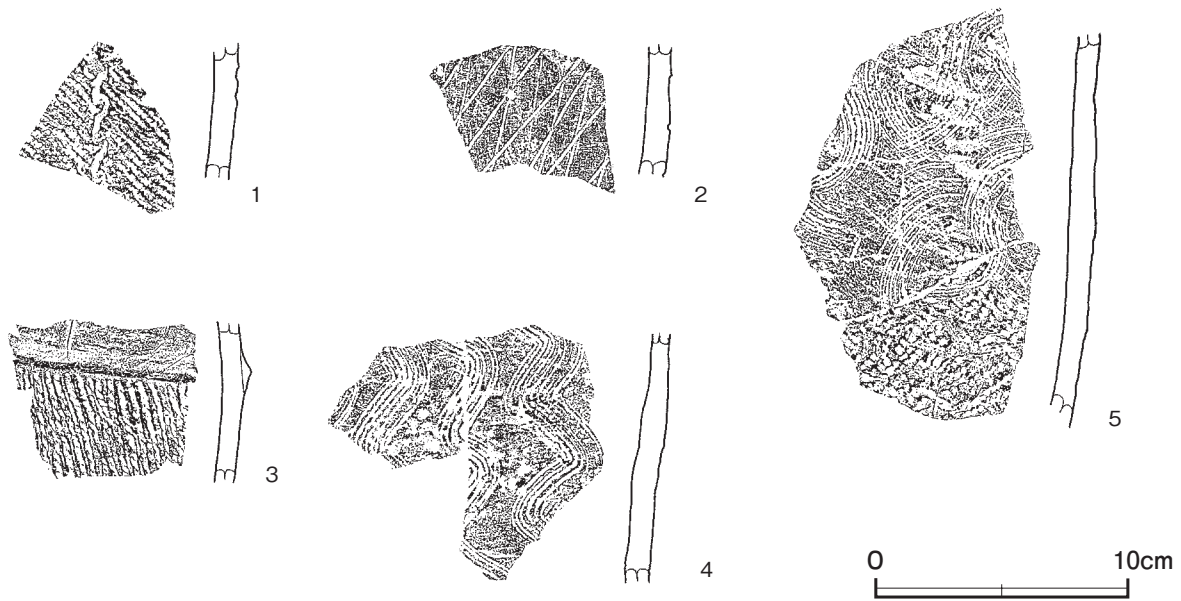
- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化材微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック微量

**遺物出土状況** 縄文土器片38点（深鉢）のほかに、混入した土師器片2点（甕類）が出土している。1～5は、埋め戻しに伴って投棄されたと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から後期前葉に比定できる。性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。



第33図 第591号土坑実測図



第 34 図 第 591 号土坑出土遺物実測図

第 591 号土坑出土遺物観察表 (第 34 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	単節縄文 LR (縦) 蛇行沈線	覆土中	PL65
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	沈線による斜格子文	覆土中	PL65
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	撚糸文 微隆線	覆土中	PL62
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	櫛歯状工具による条線文	覆土中	PL65
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	単節縄文 LR (横・縦) 櫛歯状工具による条線文	覆土中	PL65

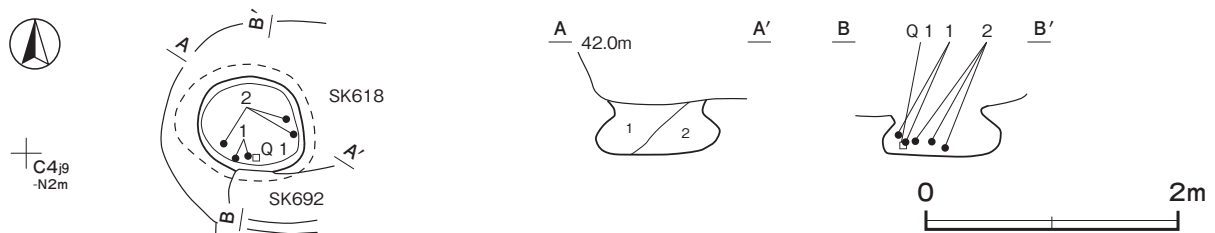
### 第 601 号土坑 (第 35・36 図)

調査年度 平成 28 年度

位置 調査区西部の C 4 19 区, 標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第 618・692 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 第 618・692 号土坑に掘り込まれているため, 開口部は, 長径 0.83 m, 短径 0.70 m しか確認できなかったが, 楕円形と推定できる。長径方向は N - 65° - W である。底面は, 長径 0.80 m, 短径 0.62 m の楕円形で平坦である。深さは 41cm で, 壁は内彎している。



第 35 図 第 601 号土坑実測図



覆土 2層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

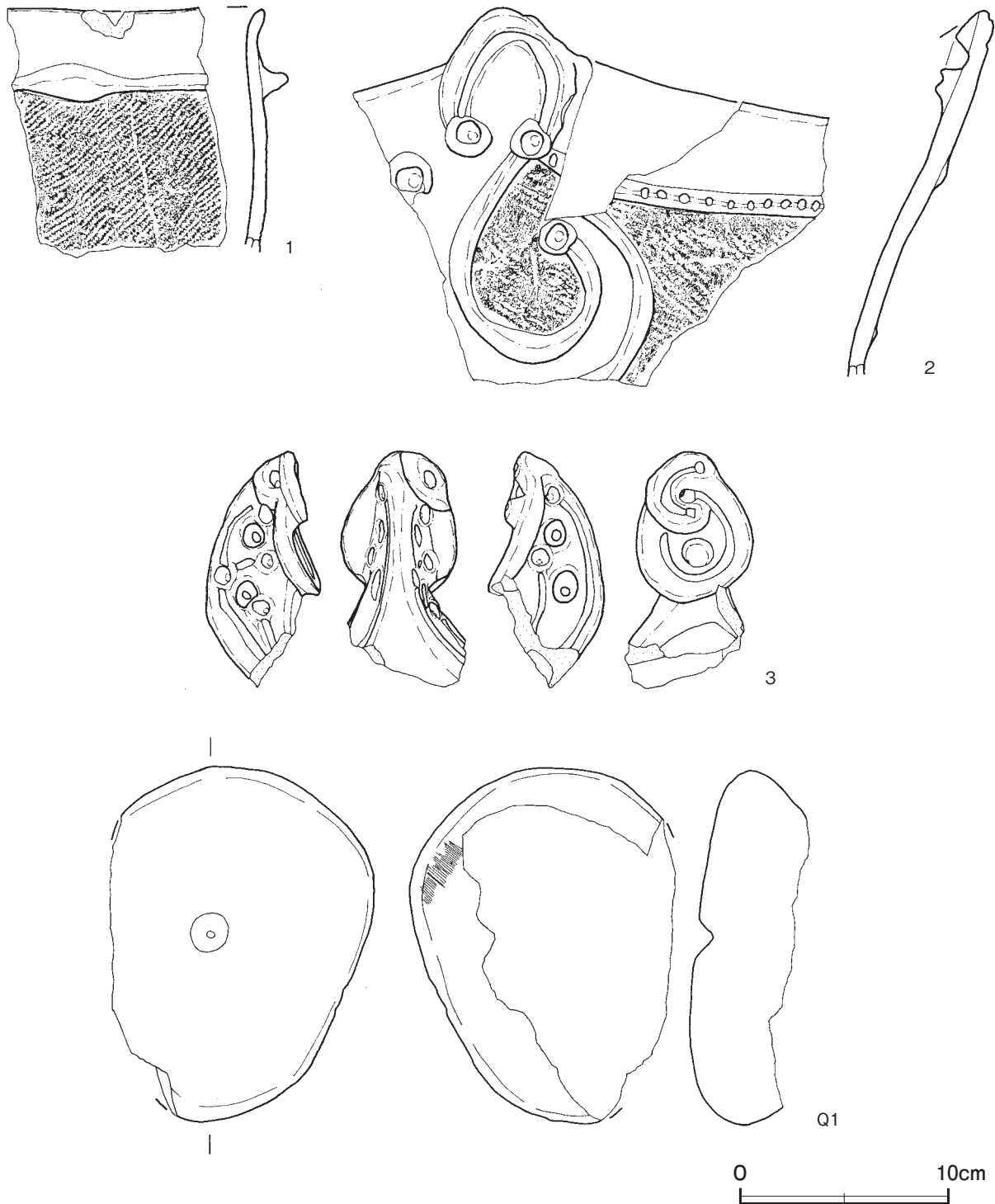
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片 30点（深鉢）、石器1点（凹石）のほかに、混入した土師器片1点（甕類）が出土している。1～3は、埋め戻しに伴って投棄されたと考えられる。

所見 時期は、出土土器から後期前葉に比定できる。性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。



第36図 第601号土坑出土遺物実測図

第 601 号土坑出土遺物観察表 (第 36 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部微隆線周回 舌状突起 単節縄文 RL(縦)	覆土下層	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	単節縄文 RL(縦) C 字状隆帯貼付 微隆線に刻み 磨消	覆土下層	PL64
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	内面 C 字状隆帯貼付 両側面刺突文 沈線文	覆土中	PL62

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	凹石	17.1	(12.7)	4.8	(170.0)	緑色変成岩	表面凹み痕 裏面研磨	覆土下層	PL102

第 631 号土坑 (第 37 図 PL 8)

調査年度 平成 28 年度

位置 調査区西部の C 4j3 区, 標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

規模と形状 開口部は, 長径 1.40 m, 短径 1.22 m の楕円形で, 長径方向は, N - 60° - W である。底面は, 長径 1.50 m, 短径 1.36 m の楕円形で平坦である。深さは 46cm で, 壁は内彎している。

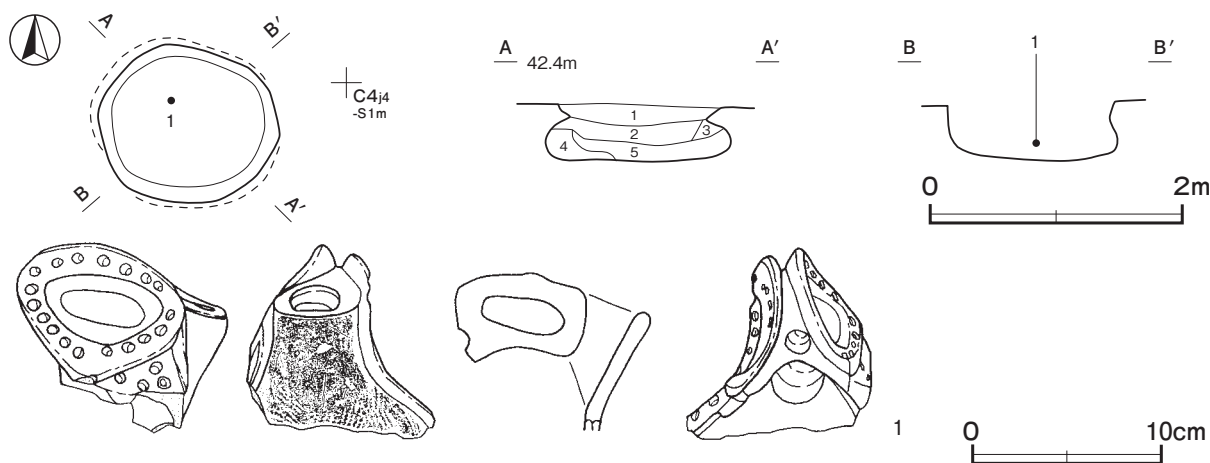
覆土 5 層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- |       |                   |       |           |
|-------|-------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |       |           |

遺物出土状況 縄文土器片 4 点 (深鉢) が出土している。1 は, 埋め戻しに伴って投棄されたと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から後期前葉に比定できる。性格は, 形状から貯蔵穴と考えられる。



第 37 図 第 631 号土坑・出土遺物実測図

第 631 号土坑出土遺物観察表 (第 37 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	動物意匠把手 単節縄文 RL(縦・横) 両側面刺突文	覆土下層	5% PL62

第 656 号土坑 (第 38・39 図 PL 8)

調査年度 平成 28 年度

位置 調査区西部の D 4 a9 区, 標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

規模と形状 開口部は, 径 1.08 m の円形である。底面は, 長径 1.02 m, 短径 0.85 m の楕円形で, ほぼ平坦である。深さは 51cm で, 壁は内彎している。

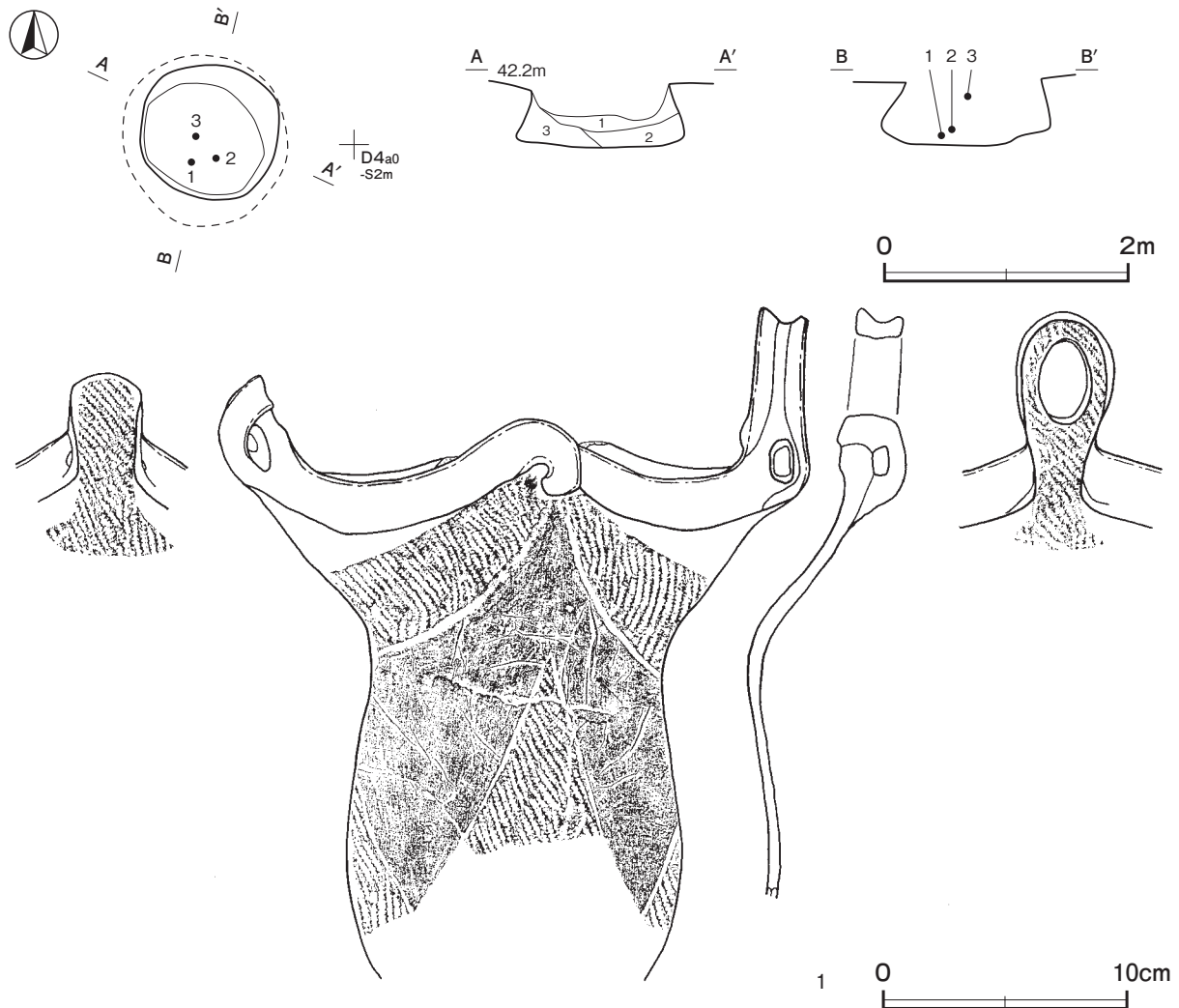
覆土 3 層に分層できる。第 2・3 層は, ロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。第 1 層は周囲の流入の堆積状況を示していることから, 自然堆積である。

土層解説

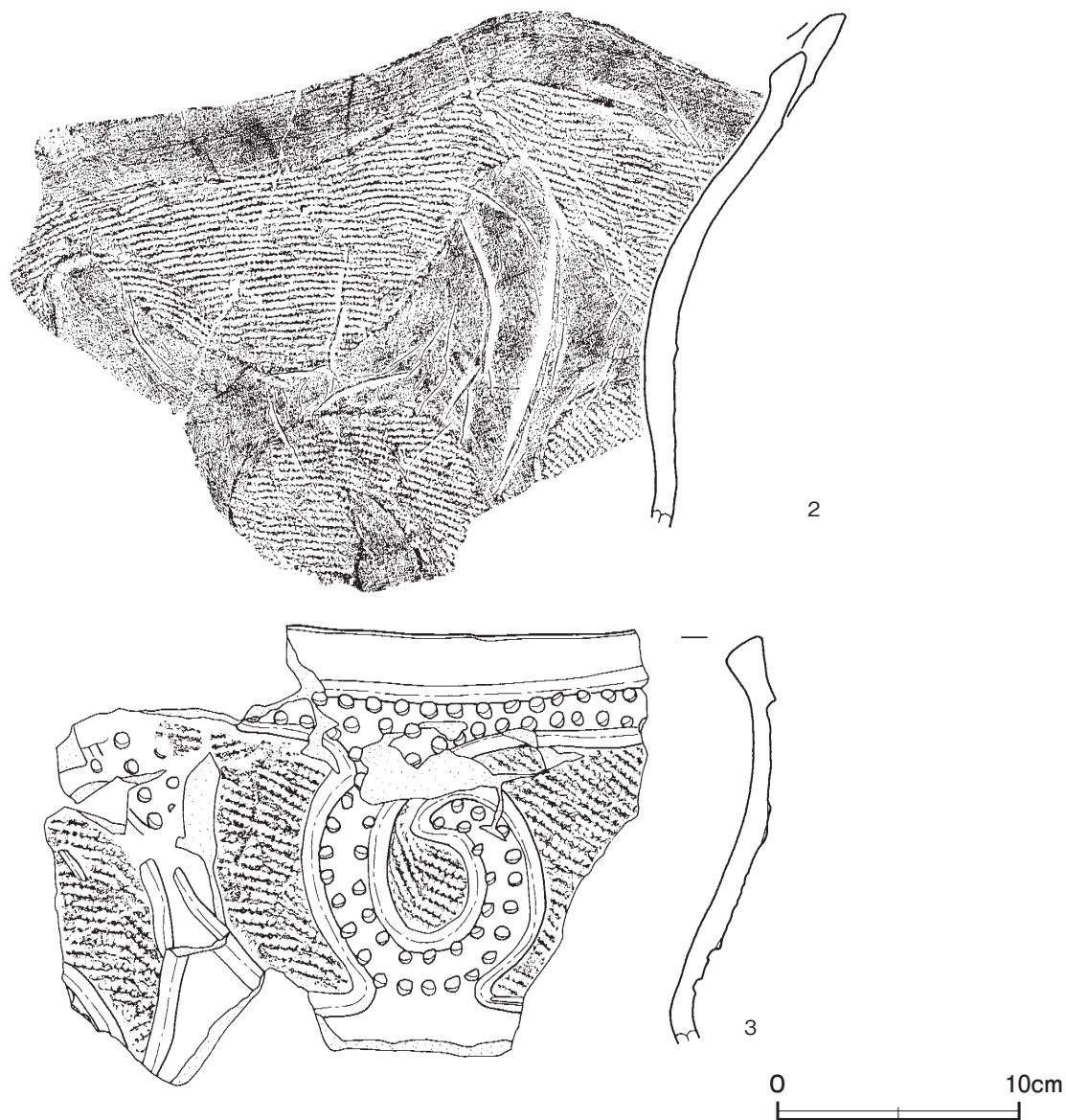
- 1 黒 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 赤色粒子微量
- 3 黒 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物微量

遺物出土状況 縄文土器片 175 点 (深鉢) が出土している。1~3 は, 埋め戻しに伴って投棄されたと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から中期後葉に比定できる。性格は, 形状から貯蔵穴と考えられる。



第 38 図 第 656 号土坑・出土遺物実測図



第 39 図 第 656 号土坑出土遺物実測図

第 656 号土坑出土遺物観察表 (第 38・39 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徵ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	19.0	(27.8)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	口縁部把手貼付 口縁部微隆線周回 単節縄文 LR (縦) 沈線による区画 磨消	覆土下層	80% PL60
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・細礫	橙	普通	口縁部微隆線周回 単節縄文 RL (横) 微隆線による区画 磨消	覆土下層	PL63
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	単節縄文 RL (横) 微隆線による区画 刺突文	覆土上層	PL64

### 第 709 号土坑 (第 40 図 PL 8)

調査年度 平成 28 年度

位置 調査区西部の C 4 i7 区, 標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

規模と形状 開口部は, 長径 1.26 m, 短径 1.08 m の楕円形である。長径方向は N - 32° - E である。底面は, 長径 0.88 m, 短径 0.83 m の円形でほぼ平坦である。深さは 42cm で, 壁は内彎している。

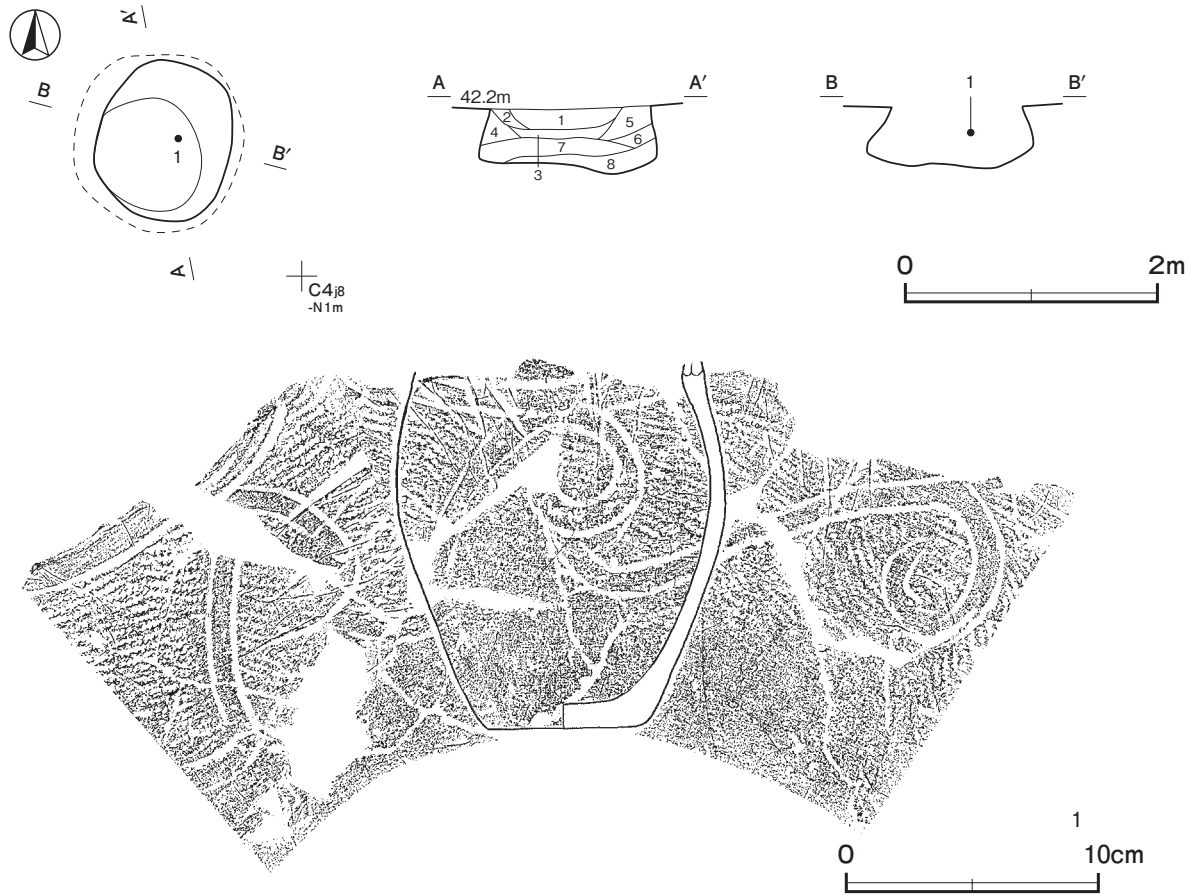
**覆土** 8層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

**土層解説**

- |       |                        |       |                     |
|-------|------------------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量      | 6 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量   |
| 3 黒褐色 | ロームブロック微量              | 7 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化物微量    |
| 4 褐色  | ロームブロック少量, 炭化粒子微量      | 8 褐色  | ロームブロック・炭化物少量       |

**遺物出土状況** 縄文土器片 106 点（深鉢）が出土している。1は、埋め戻しに伴って投棄されたと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から後期前葉に比定できる。性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。



第 40 図 第 709 号土坑・出土遺物実測図

第 709 号土坑出土遺物観察表（第 40 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(14.5)	6.4	長石・石英	にぶい黄橙	普通	単節縄文 LR (横) 沈線による麻手文 磨消	覆土中層	80% PL60

**第 715 号土坑（第 41 図）**

**調査年度** 平成 28 年度

**位置** 調査区西部の C 4 i 8 区、標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

**規模と形状** 長径 1.38 m、短径 1.10 m の不整楕円形で、長径方向は N - 72° - E である。深さは 42cm で、壁は外傾している。底面は平坦である。

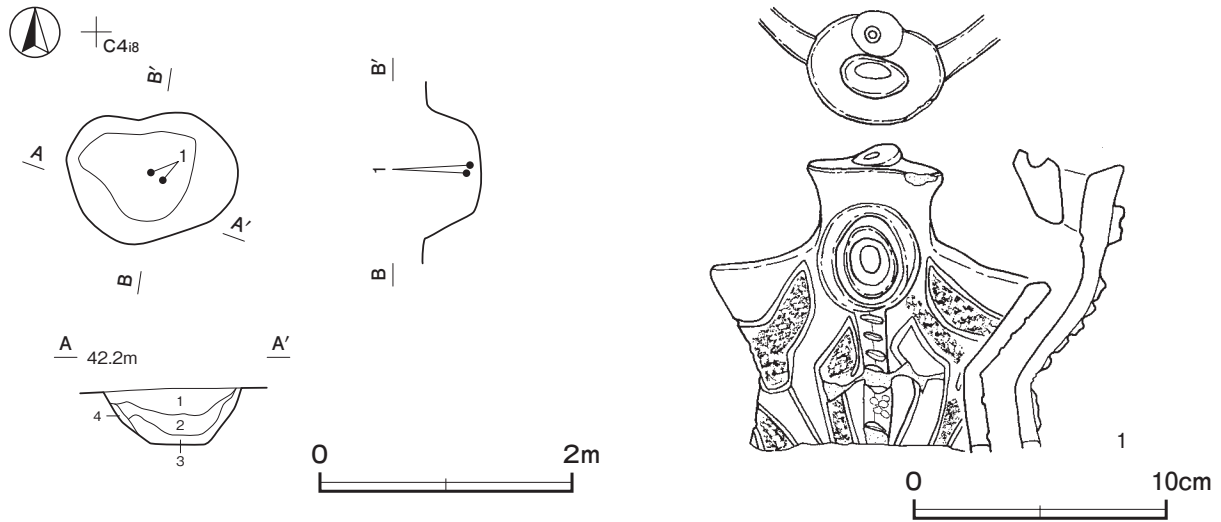
**覆土** 4層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

**土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子・鹿沼軽石粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量
- 4 暗褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック微量

**遺物出土状況** 縄文土器片 28 点（深鉢）が出土している。1 は、埋め戻しに伴って投棄されたと考えられる。

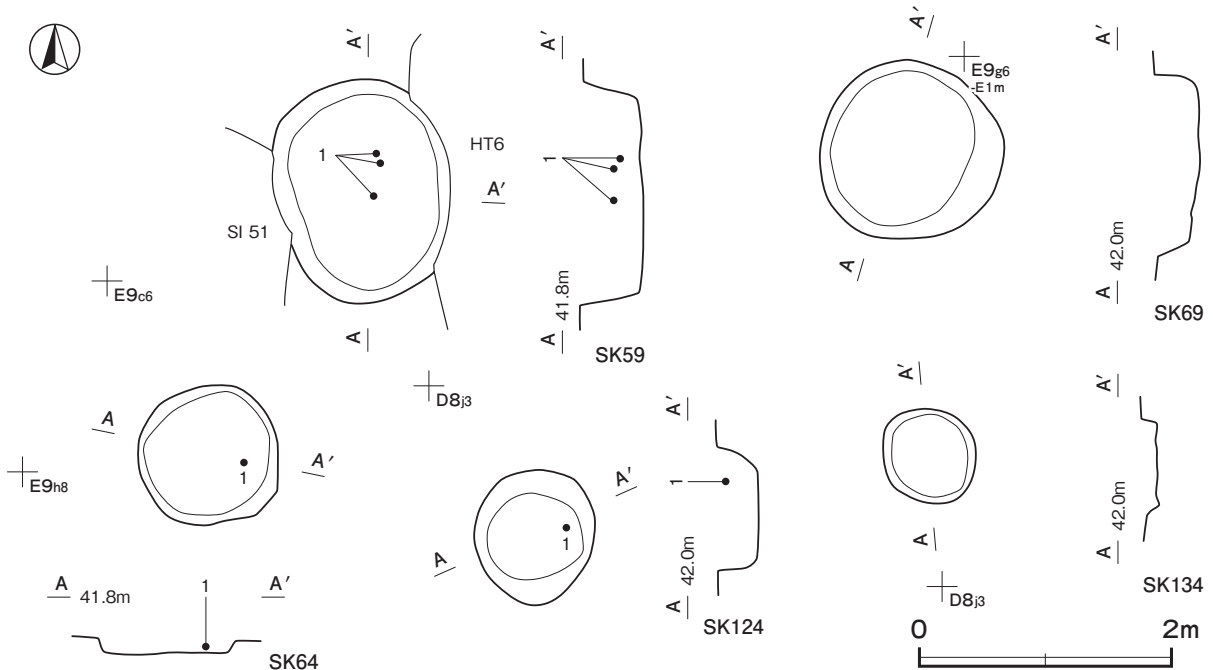
**所見** 時期は、出土土器から後期前葉に比定できる。性格は、形状から貯蔵穴と考えられる。



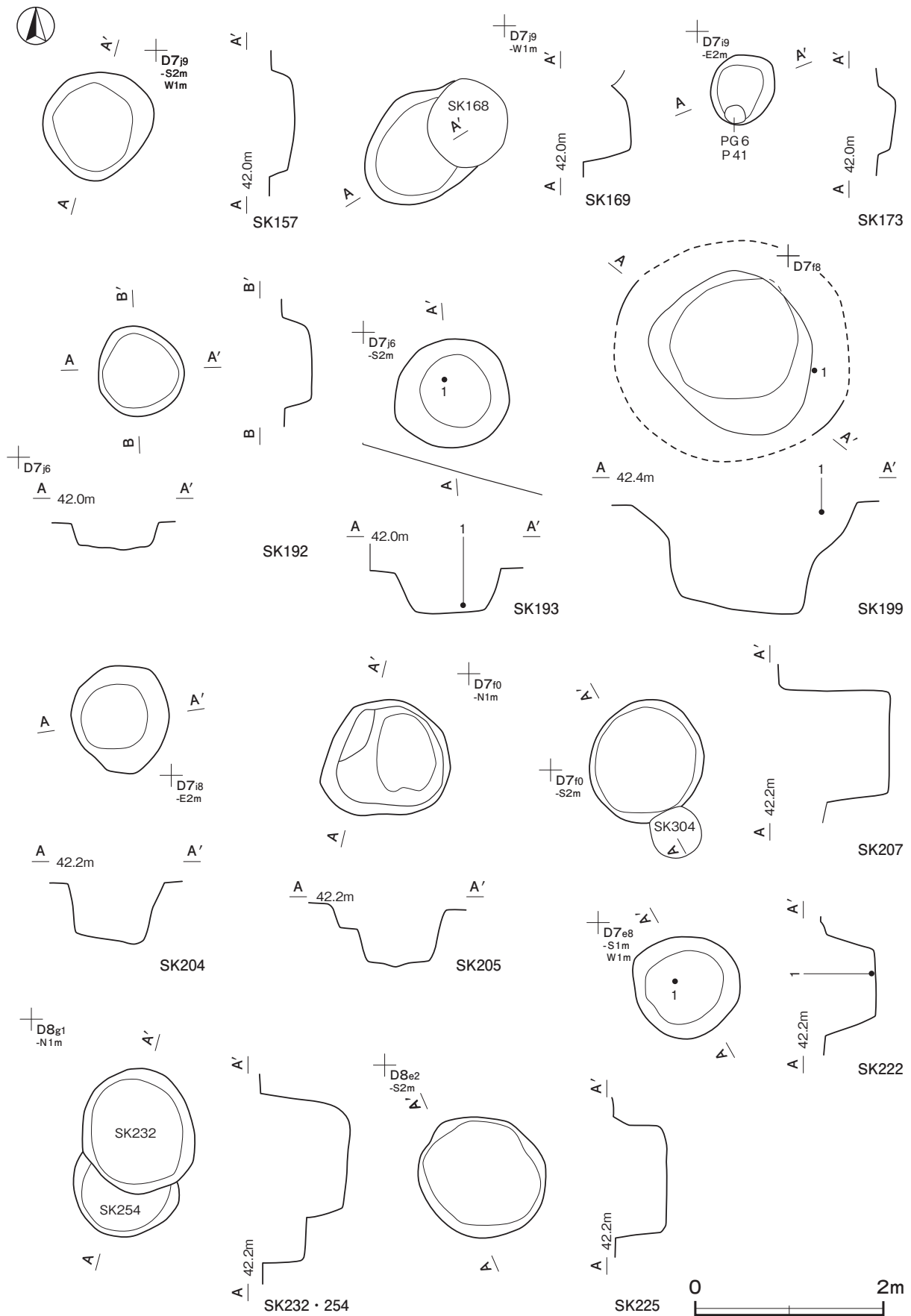
第 41 図 第 715 号土坑・出土遺物実測図

第 715 号土坑出土遺物観察表（第 41 図）

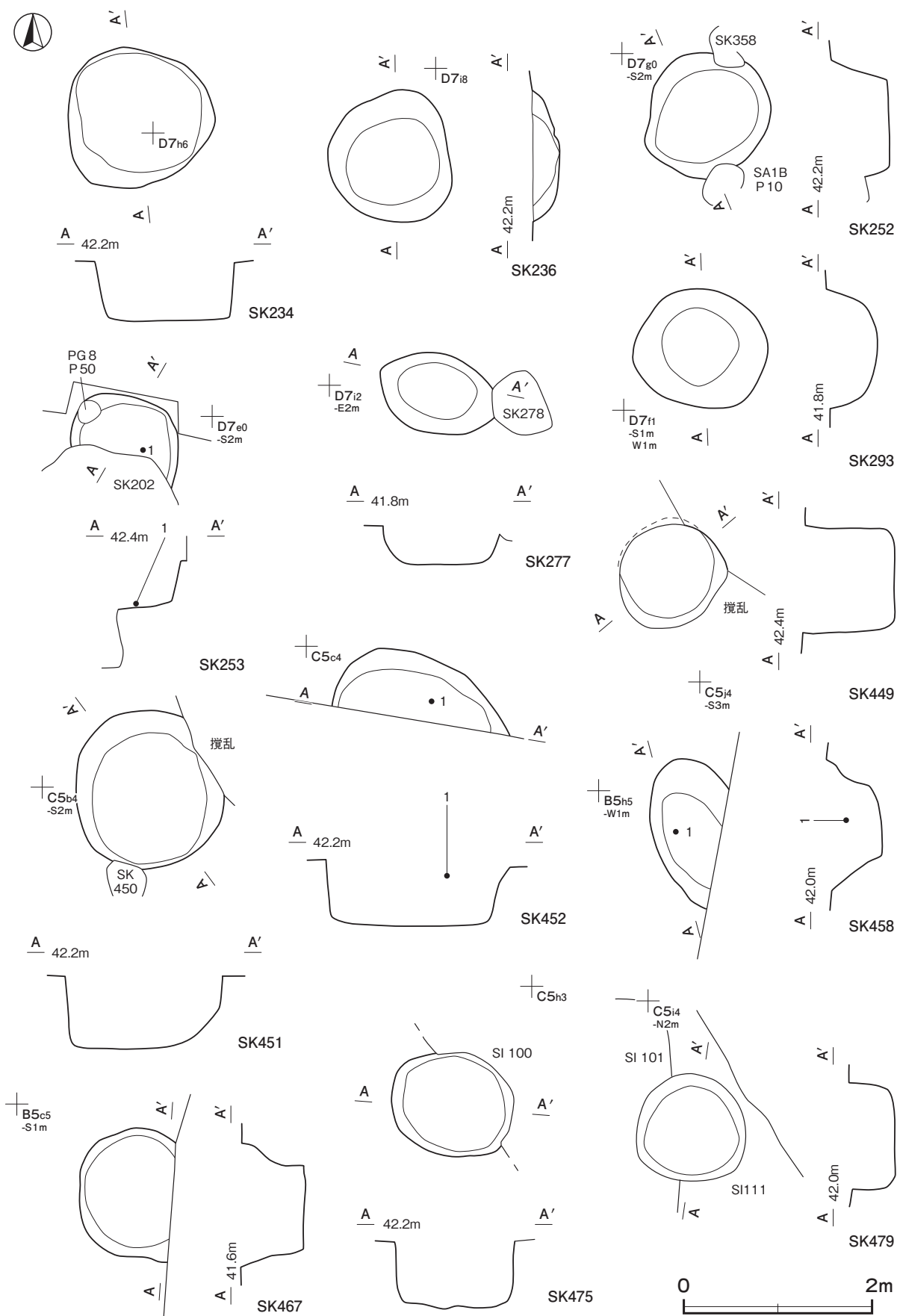
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	13.5	(12.3)	-	長石・石英・雲母・針状鉱物	にぶい黄橙	普通	環状突起 単節縄文LR(横) 隆帯による同心円文 隆帯に刻み 沈線による区画 磨消	覆土下層	50% PL60



第 42 図 縄文時代のその他の土坑実測図(1)

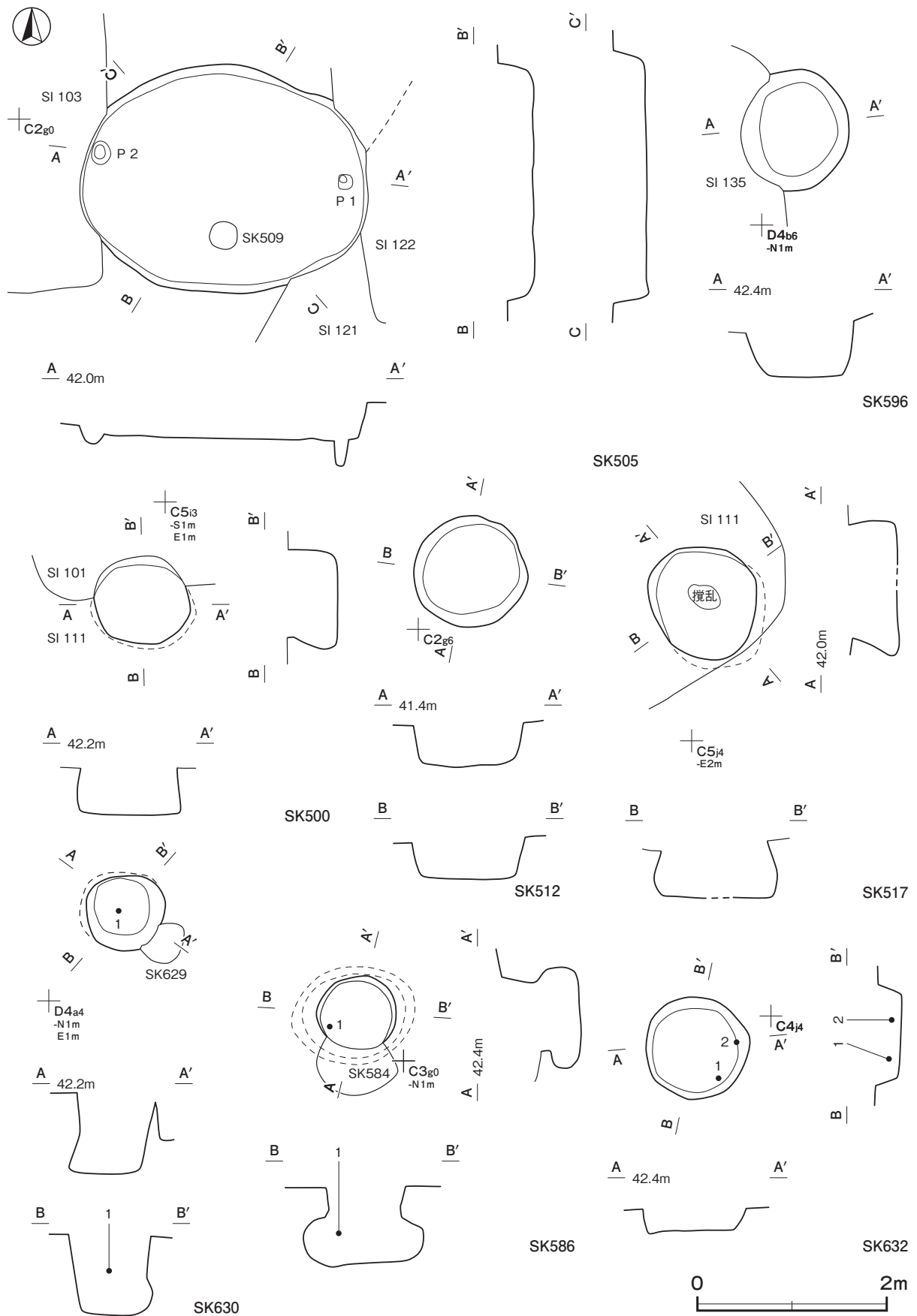


第 43 図 縄文時代のその他の土坑実測図(2)

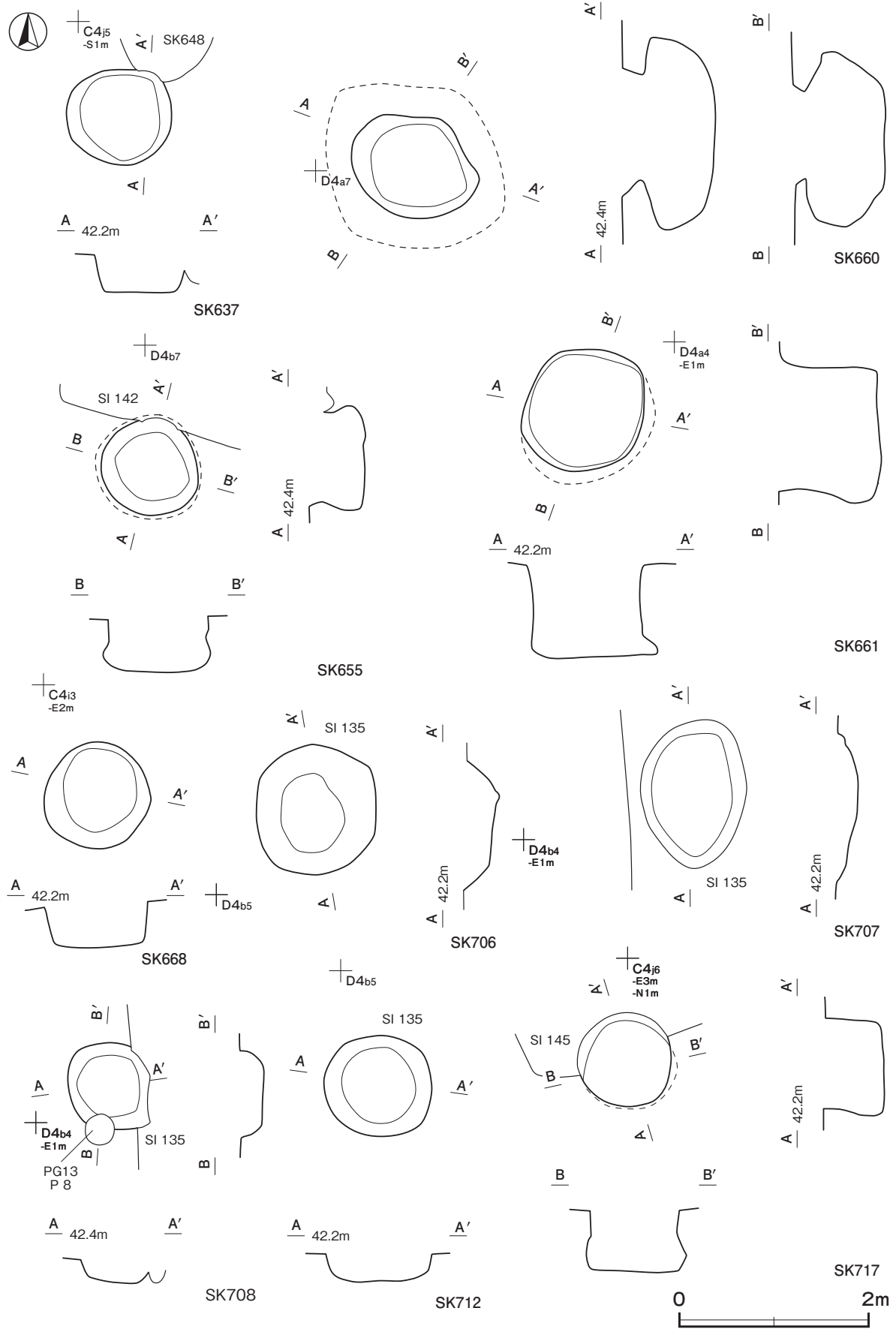


第 44 図 縄文時代のその他の土坑実測図(3)



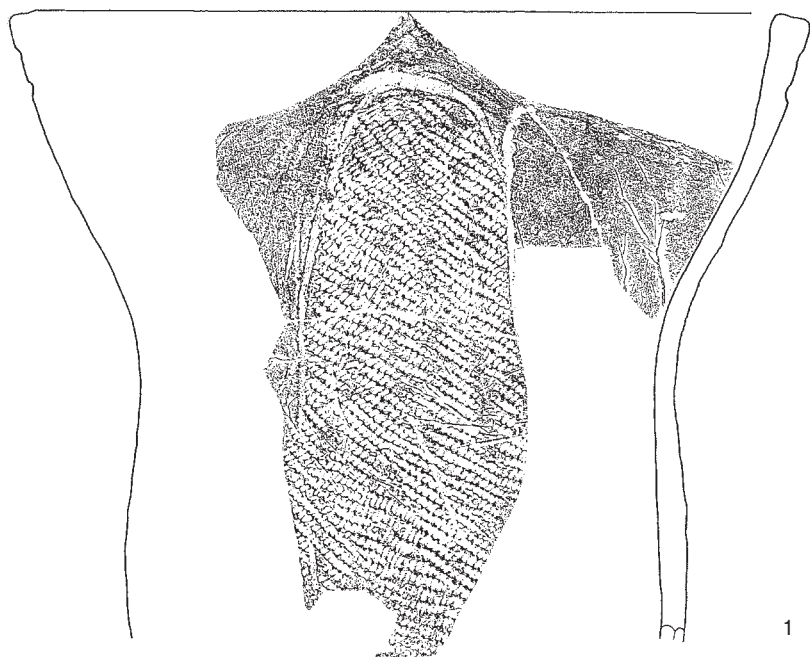


第45図 縄文時代のその他の土坑実測図(4)

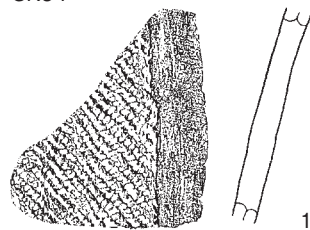


第 46 図 縄文時代のその他の土坑実測図(5)

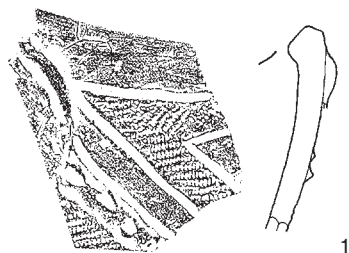
SK59



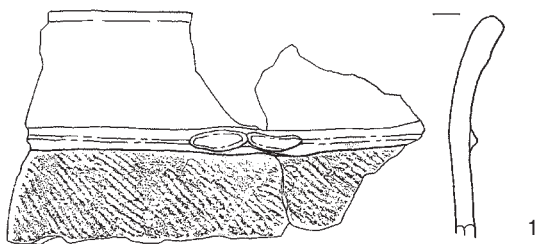
SK64



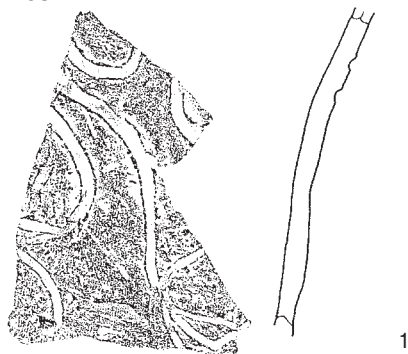
SK199



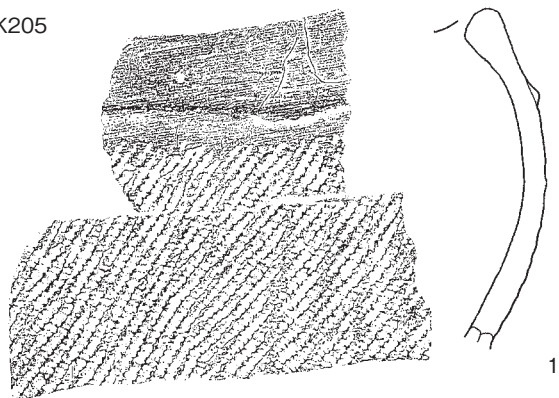
SK124



SK193



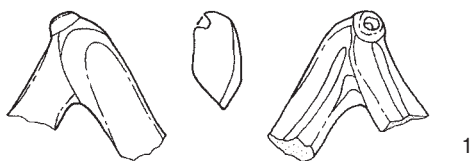
SK205



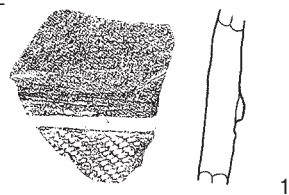
SK207



SK222

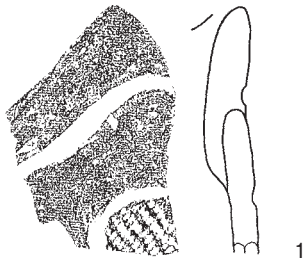


SK232



第 47 図 縄文時代のその他の土坑出土遺物実測図(1)

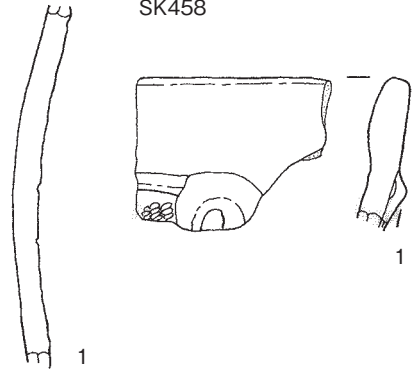
SK234



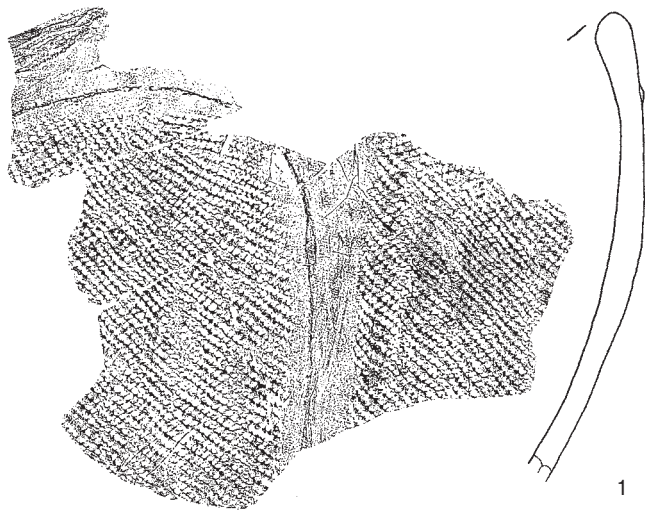
SK253



SK458



SK452



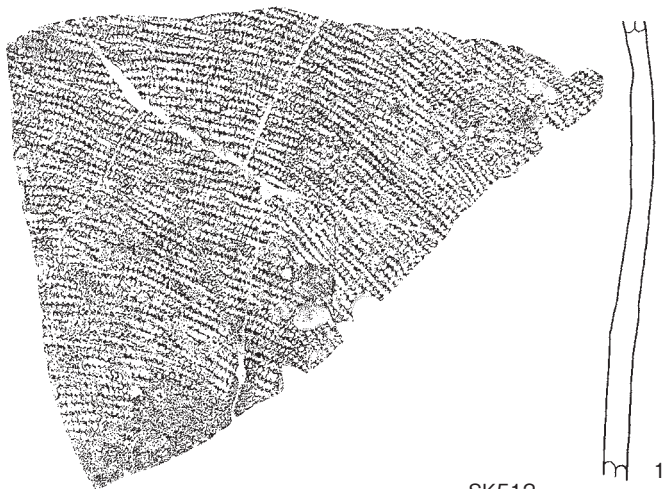
SK500



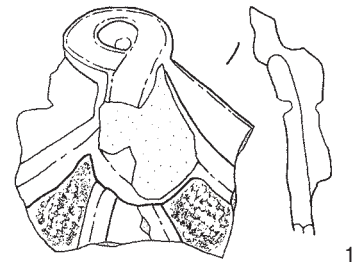
SK630



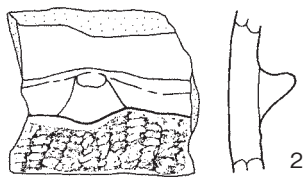
SK586



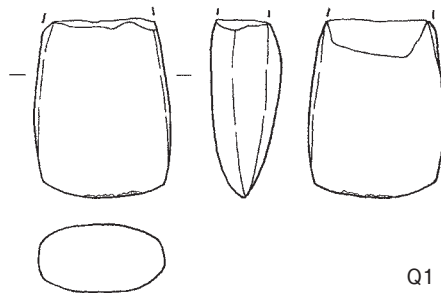
SK632



SK632



SK512



第 48 図 縄文時代のその他の土坑出土遺物実測図(2)

第 59 号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	29.4	25.0	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	単節縄文 LR (縦) 充填 沈線による区画	覆土下層	

第 64 号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	単節縄文 LR (縦) 微隆線 磨消	覆土下層	

第 124 号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部微隆線周回 舌状突起 単節縄文 LR(縦)	覆土上層	

第 193 号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	沈線による区画	覆土下層	

第 199 号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	単節縄文 RL (横) 微隆線に刻み 沈線による区画 磨消	覆土上層	

第 205 号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	褐	普通	口縁部微隆線周回 単節縄文 RL (縦)	覆土中	

第 207 号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母 赤色粒子	黒褐	普通	単節縄文 LR (縦) 沈線による区画 磨消	覆土中	

第 222 号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	外面ナデ 内面沈線文 刺突文	覆土下層	

第 232 号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	単節縄文 LR (縦) 微隆線	覆土中	

第 234 号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	単節縄文 RL (横) 沈線による区画 磨消	覆土下層	

第 253 号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	単節縄文 LR (縦) 沈線による区画 磨消	覆土下層	

第 452 号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	単節縄文 LR (縦) 微隆線による区画 磨消	覆土上層	

第 458 号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・針状鉱物	橙	普通	単節縄文 LR (縦) 微隆線による区画	覆土中層	

第 500 号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	単節縄文 LR (縦) 沈線による区画 磨消	覆土中	

第 512 号土坑出土遺物観察表

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考
Q 1	磨製石斧	(7.1)	5.4	2.9	(179.7)	砂岩	定角式	全面研磨 基部破損	覆土中	PL102

第 586 号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	単節縄文 LR (縦・横)	覆土中層	

第 630 号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部微隆線周回 単節縄文 LR (縦)	覆土中層	

第 632 号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	8の字状隆帯貼付 微隆線による区画 単節縄文 RL (縦・横) 磨消	覆土下層	
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子・針状鉱物	にぶい黄褐	普通	口縁部微隆線周回 舌状突起 単節縄文 RL (縦)	覆土下層	

表 4 縄文時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
59	E 9 b6	N - 14° - W	[楕円形]	1.74 × (1.43)	51	平坦	直立	人為	縄文土器	本跡→ SI51, HT6
64	E 9 h8	-	円形	1.14 × 1.14	11	平坦	外傾	人為	縄文土器	
68	E 9 g6	N - 30° - E	楕円形	1.60 × 1.38	70	平坦	直立内彎	人為	縄文土器	本跡→ SK807
69	E 9 g6	-	円形	1.42 × 1.42	35	平坦	直立外傾	人為	縄文土器	
124	D 8 j3	N - 4° - W	楕円形	1.06 × 0.95	36	平坦	外傾	自然	縄文土器	
134	D 8 i2	-	円形	0.75 × 0.72	10	平坦	直立	自然	縄文土器	
136	D 8 i1	-	円形	1.04 × 1.02	30	平坦	直立外傾	人為	縄文土器	
157	D 7 j8	-	円形	1.18 × 1.16	25	平坦	ほぼ直立外傾	自然	-	
168	D 7 j8	-	円形	0.94 × 0.86	46	平坦	直立外傾	人為	縄文土器	SK169 → 本跡
169	D 7 j8	N - 61° - E	[楕円形]	1.00 × (0.80)	50	平坦	外傾	人為	-	本跡→ SK168
173	D 7 i9	N - 31° - E	楕円形	0.80 × 0.66	19	皿状	外傾	-	縄文土器	本跡→ PG 6
192	D 7 i6	-	円形	0.98 × 0.96	32	平坦	外傾	自然	-	
193	D 7 j6	-	円形	1.25 × 1.16	43	平坦	外傾	自然	縄文土器	
199	D 7 f7	-	円形	2.50 × 2.50	115	平坦	外傾	人為	縄文土器	
200	D 7 f0	-	円形	1.38 × 1.38	60	平坦	ほぼ直立	人為	縄文土器	本跡→ SB15A・B, SK224, PG 8
202	D 7 e9	N - 47° - W	楕円形	1.78 × 1.64	113	平坦	内彎	人為	縄文土器, 石器	SK253 → 本跡
204	D 7 h8	-	円形	1.13 × 1.04	68	平坦	外傾直立	人為	縄文土器	

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
205	D 7 e9	N - 75° - W	不整楕円形	1.30 × 1.24	63	平坦	直立 外傾	人為	縄文土器	
207	D 7 f0	-	円形	1.30 × 1.21	114	平坦	直立	人為	縄文土器	本跡→ SK304
210	D 7 g9	N - 20° - W	楕円形	1.47 × 1.29	62	平坦	直立 外傾	自然 人為	縄文土器	
222	D 7 e7	-	円形	1.15 × 1.10	54	平坦	外傾	人為	縄文土器	
225	D 8 e2	N - 43° - W	楕円形	1.40 × 1.24	53	平坦	直立 外傾	人為	縄文土器	
228	D 7 e6	-	円形	1.35 × 1.29	135	平坦	直立 内彎	人為	縄文土器	
232	D 8 g1	N - 7° - E	楕円形	1.32 × 1.16	94	平坦	直立	人為	縄文土器	SK254 → 本跡→ SB15A・B
234	D 7 g6	N - 47° - E	楕円形	1.56 × 1.45	60	平坦	直立	人為	縄文土器	
236	D 7 i7	N - 24° - E	楕円形	1.41 × 1.38	30	平坦	外傾	人為	-	
252	D 7 g0	N - 54° - E	楕円形	1.41 × 1.26	62	平坦	ほぼ直立	自然	縄文土器	本跡→ SA 1 B, SK358
253	D 7 e9	N - 67° - W	[楕円形]	1.15 × (0.62)	50	平坦	直立	人為	縄文土器	本跡→ SK202, PG 8
254	D 8 g1	-	[円形]	1.13 × (0.48)	43	平坦	直立	人為	-	本跡→ SB15A・ B, SK232
261	D 8 g1	-	円形	1.41 × 1.40	64	平坦	直立	人為	縄文土器	SK272 → 本跡 → SA 1 A・B, PG8
272	D 8 g1	N - 30° - E	[楕円形]	1.69 × (0.98)	66	平坦	直立	人為	縄文土器	本跡→ SK261, SA 1 A・B, PG8
277	D 7 i2	N - 65° - W	楕円形	1.28 × 0.85	37	平坦	外傾	人為	縄文土器	本跡→ SK278
293	D 6 f0	-	円形	1.34 × 1.28	44	平坦	外傾	人為	縄文土器	
448	C 2 h8	-	円形	0.85 × 0.83	28	平坦	外傾	人為	縄文土器	
449	C 5 j3	N - 30° - E	楕円形	1.19 × 1.06	93	平坦	直立	自然	縄文土器	
451	C 5 b4	N - 35° - W	[楕円形]	1.66 × (1.50)	84	平坦	直立	自然	縄文土器	本跡→ SK450
452	C 5 c4	N - 80° - W	[楕円形]	(1.92) × (0.56)	71	平坦	直立	自然	縄文土器	
458	B 5 h4	N - 10° - W	[楕円形]	(1.21) × (0.81)	51	平坦	外傾	人為	縄文土器	
467	B 5 c5	N - 22° - W	[不整楕円形]	1.45 × (1.06)	57	平坦	外傾	人為	縄文土器	
475	C 5 h2	N - 75° - W	楕円形	1.30 × 1.12	70	平坦	直立	人為	-	本跡→ SI100
479	C 5 h4	-	円形	1.15 × 1.15	42	平坦	外傾	人為	縄文土器	本跡→ SI101・ 111
481	C 2 e0	-	円形	1.29 × 1.25	30	平坦	直立 外傾	人為	縄文土器	本跡→ SK482
500	C 5 i3	-	円形	1.02 × 0.93	51	平坦	直立 内彎	人為	縄文土器	本跡→ SI101・ 111
505	C 2 g0	N - 80° - W	楕円形	3.00 × 2.40	33	平坦	直立	人為	縄文土器	本跡→ SI103・ 121・122, SK509
506	C 3 f2	N - 12° - E	[楕円形]	1.13 × (0.90)	50	平坦	直立	人為	縄文土器	本跡→ SK507
512	C 2 f6	-	円形	1.18 × 1.18	44	平坦	外傾	人為	縄文土器, 石器	
517	C 5 i4	N - 25° - W	楕円形	1.38 × 1.11	58	平坦	直立 内彎	人為	縄文土器	本跡→ SI111
586	C 3 f9	-	円形	0.80 × 0.76	80	平坦	内彎	人為	縄文土器	本跡→ SK584
591	D 4 a3	-	円形	1.10 × (1.08)	89	平坦	直立 外傾	人為	縄文土器	本跡→ SI137
596	D 4 a6	N - 5° - E	楕円形	1.31 × 1.14	52	平坦	外傾	人為	-	本跡→ SI135
601	C 4 i9	N - 65° - W	[楕円形]	0.83 × 0.70	41	平坦	内彎	人為	縄文土器, 石器	本跡→ SK618・ 692
630	C 4 j4	-	円形	0.86 × 0.82	88	平坦	内彎	人為	縄文土器	本跡→ SK629
631	C 4 j3	N - 60° - W	楕円形	1.40 × 1.22	46	平坦	内彎	人為	縄文土器	
632	C 4 j3	-	円形	1.10 × 1.10	24	平坦	外傾	人為	縄文土器	
637	C 4 j5	-	円形	1.08 × 1.05	45	平坦	直立	人為	縄文土器	本跡→ SK648
655	D 4 b7	-	円形	1.06 × 1.06	58	平坦	内彎	人為	縄文土器	本跡→ SI142
656	D 4 a9	-	円形	1.08 × 1.08	51	平坦	内彎	自然 人為	縄文土器	
660	C 4 j7	N - 58° - W	楕円形	2.12 × 1.74	104	平坦	内彎	人為	縄文土器	
661	D 4 a8	-	円形	1.48 × 1.45	101	平坦	内彎	人為	縄文土器	
668	C 4 i3	-	円形	1.12 × 1.12	46	平坦	外傾	人為	縄文土器	
706	D 4 a5	-	円形	1.38 × 1.27	28	平坦	外傾	人為	縄文土器	本跡→ SI135
707	C 4 b4	N - 7° - E	楕円形	1.57 × 1.15	23	平坦	外傾	自然	-	本跡→ SI135
708	C 4 a4	N - 15° - W	[楕円形]	(1.03) × (0.92)	25	平坦	外傾	自然	縄文土器	本跡→ SI135, PG13

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主 な 出 土 遺 物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
709	C 4 i7	N - 32° - E	楕円形	1.26 × 1.08	42	平坦	内彎	人為	縄文土器	
712	D 4 b5	-	円形	1.14 × 1.13	28	平坦	直立	自然	縄文土器	本跡→SI135
715	C 4 i8	N - 72° - E	不整楕円形	1.38 × 1.10	42	平坦	外傾	人為	縄文土器	
717	C 4 j6	-	円形	1.00 × 1.00	62	平坦	内彎	人為	縄文土器	本跡→SI145

#### (4) 遺物包含層

##### 第1号遺物包含層 (第49～52区)

調査年度 平成28年度

位置 調査区西部のC 3 d3～D 3 a9区にかけての標高42mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第117・120・123・126・130・131・133・139・141・150・151号竪穴建物，第2号方形竪穴遺構，第2号井戸，第10号墓坑，第524・532・536・557・564・567・569・571・572・587・608・609・616・617・623・641・650号土坑，第14～16号ピット群に掘り込まれている。

規模 北・南部が調査区域外に延びているため，南北幅約25m，東西幅約25mしか確認できなかった。確認面から谷底までの標高差は約60cmである。

堆積状況 3層に分層できる。各層ともレンズ状の堆積を示していることから，自然堆積である。

##### 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量 3 褐色 ローム粒子少量  
2 黒褐色 ローム粒子少量

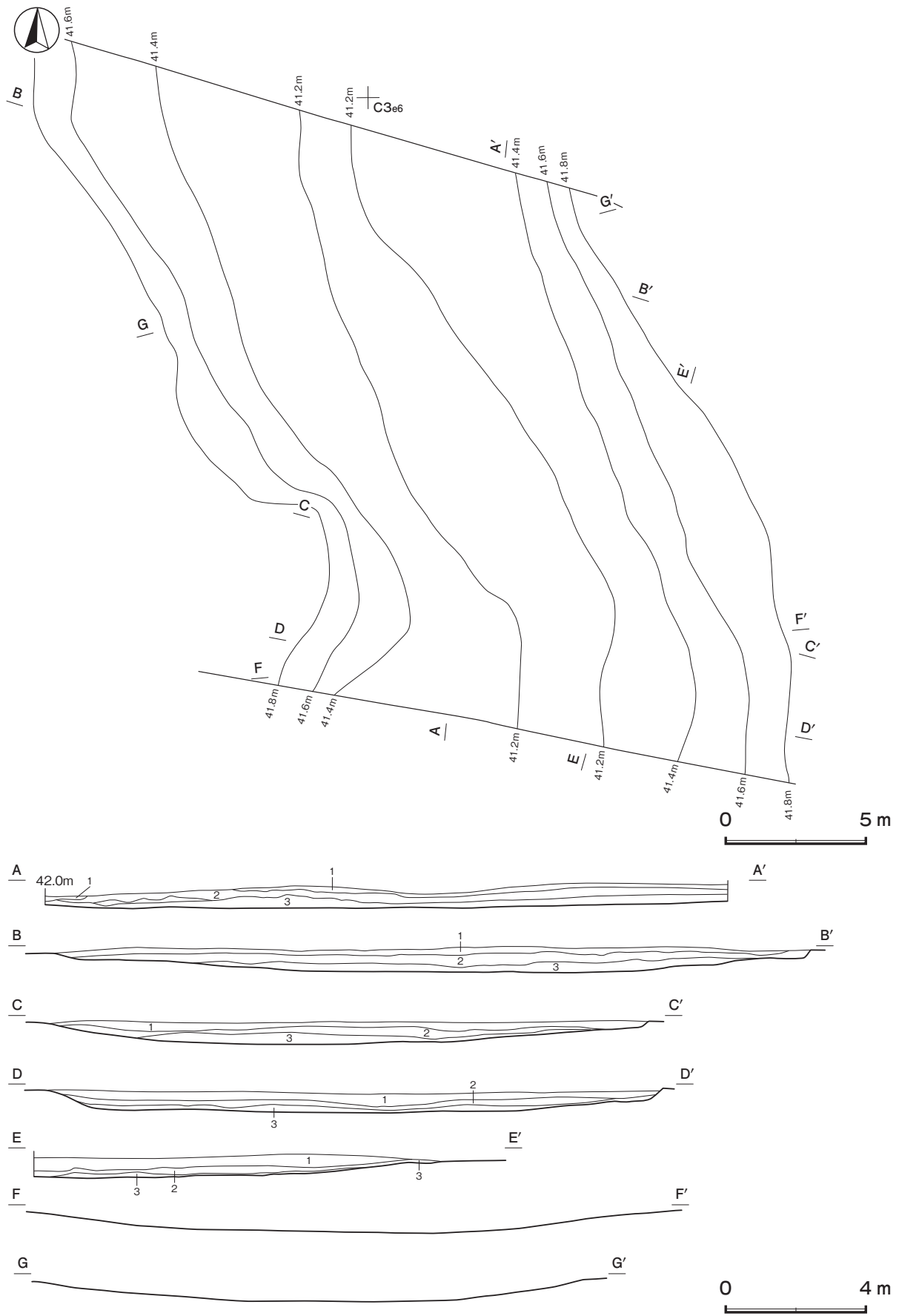
遺物出土状況 縄文土器片5,129点(深鉢5,127,浅鉢2),土製品4点(土錘1,土器片円盤1,土偶2),石器3点(打製石斧1,磨製石斧2),剥片7点(石英1,チャート2,黒曜石1,瑪瑙3),自然礫片1点が出土している。

所見 斜面部に廃棄された土器が，土と共に谷部へ流入したと考えられる。出土している遺物から早期から後期中葉にかけて堆積したと考えられる。

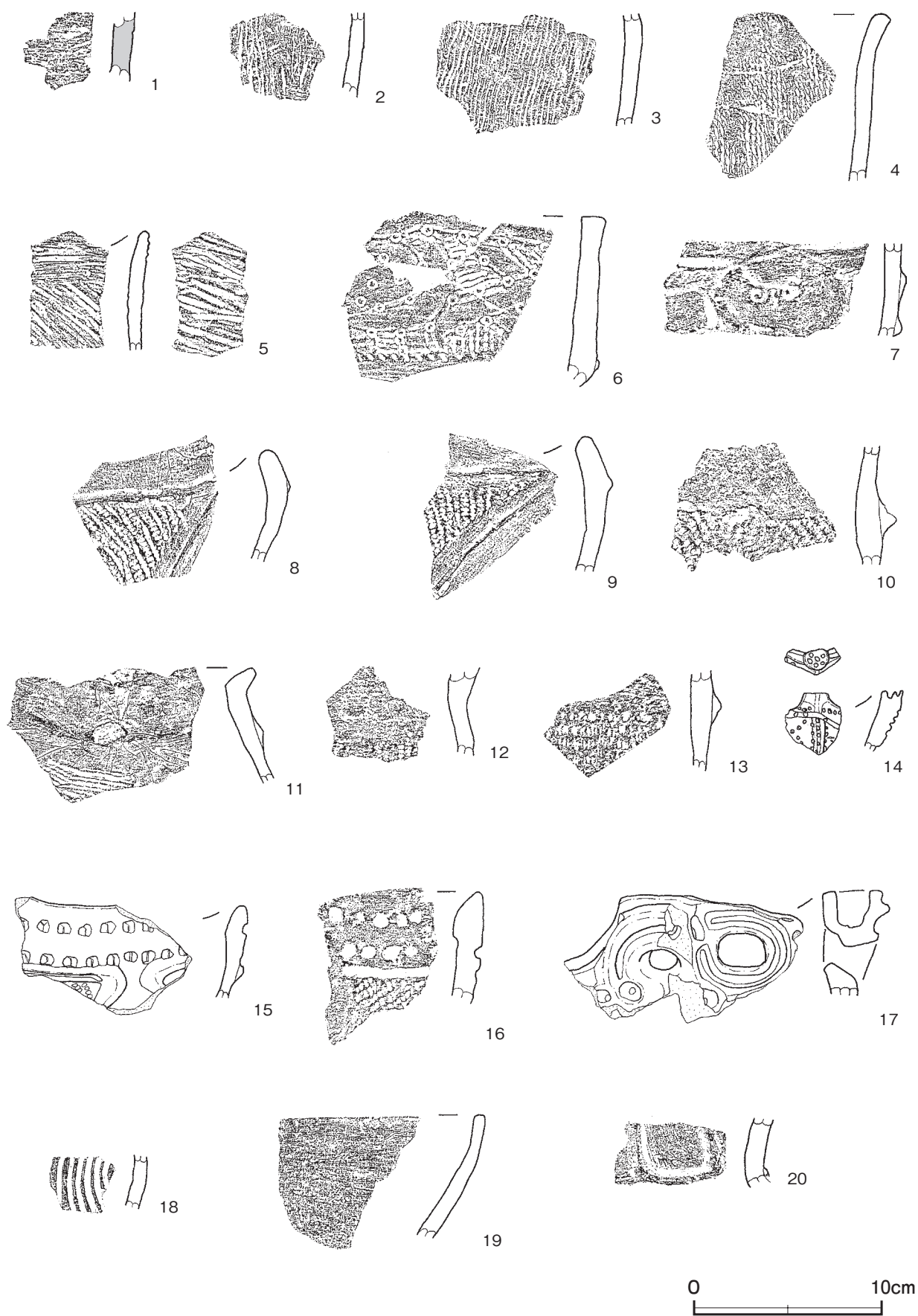
##### 第1号遺物包含層出土遺物観察表 (第50～52区)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徵ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・繊維	にぶい赤褐	普通	外面ナデ 繊維土器	覆土中	PL65
2	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	捺糸文	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細礫	明褐	普通	捺糸文	覆土中	
4	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	捺糸文	覆土中	PL65
5	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	普通	捺糸文	覆土中	PL65
6	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	微隆線に刻み 竹管文	覆土中	PL65
7	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	楕円形貼付文 刺突文	覆土中	
8	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・細礫	黒褐	普通	口縁部微隆線周回 単節縄文LR(縦)	覆土中	
9	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・細礫	黒褐	普通	口縁部微隆線周回 単節縄文LR(縦)	覆土中	
10	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	浅黄橙	普通	単節縄文LR(縦) 微隆線	覆土中	
11	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	普通	口縁部微隆線周回 単節縄文LR(縦・横)	覆土中	
12	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	単節縄文RL(縦) 微隆線	覆土中	
13	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	刺突文 微隆線	覆土中	PL65

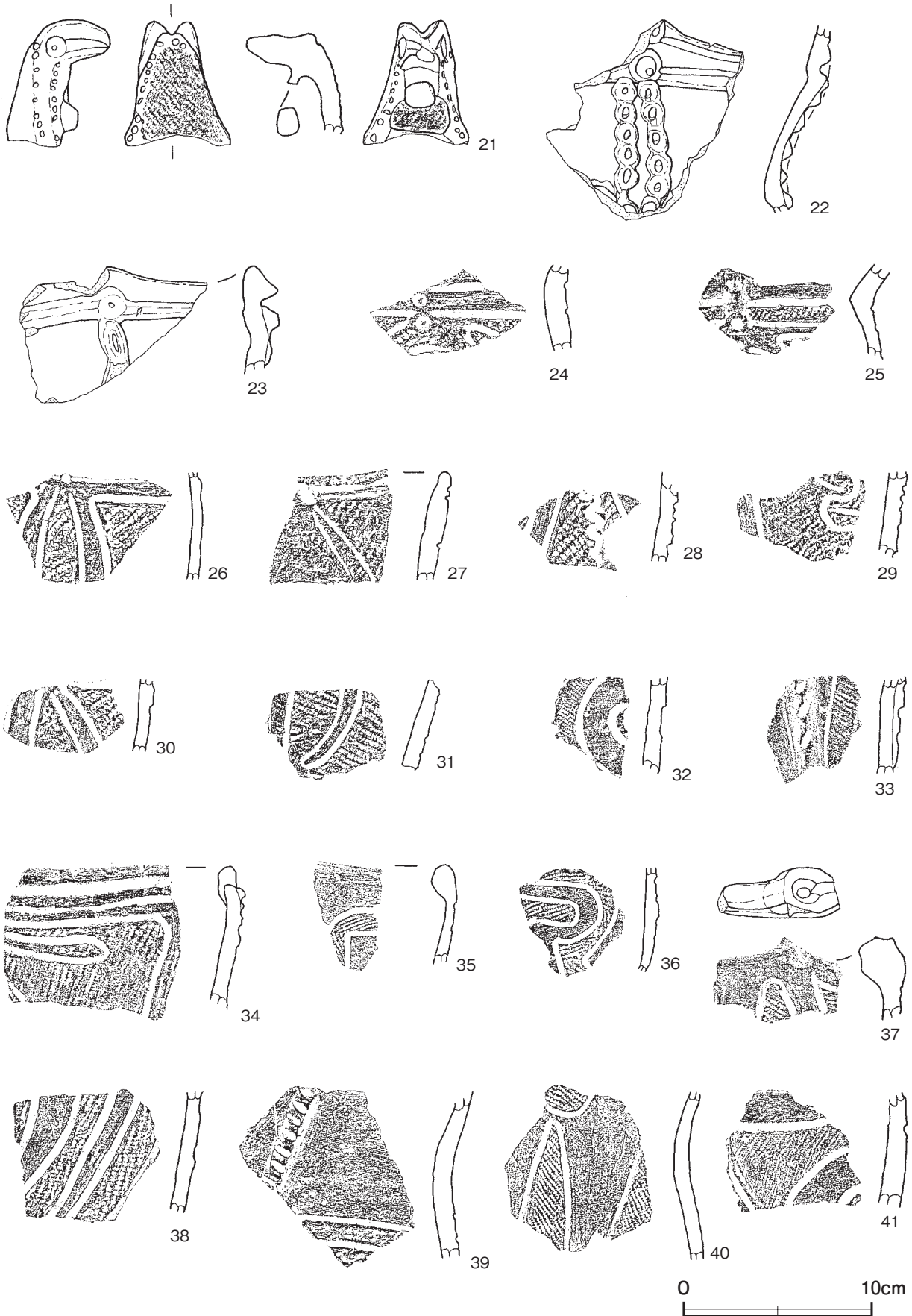




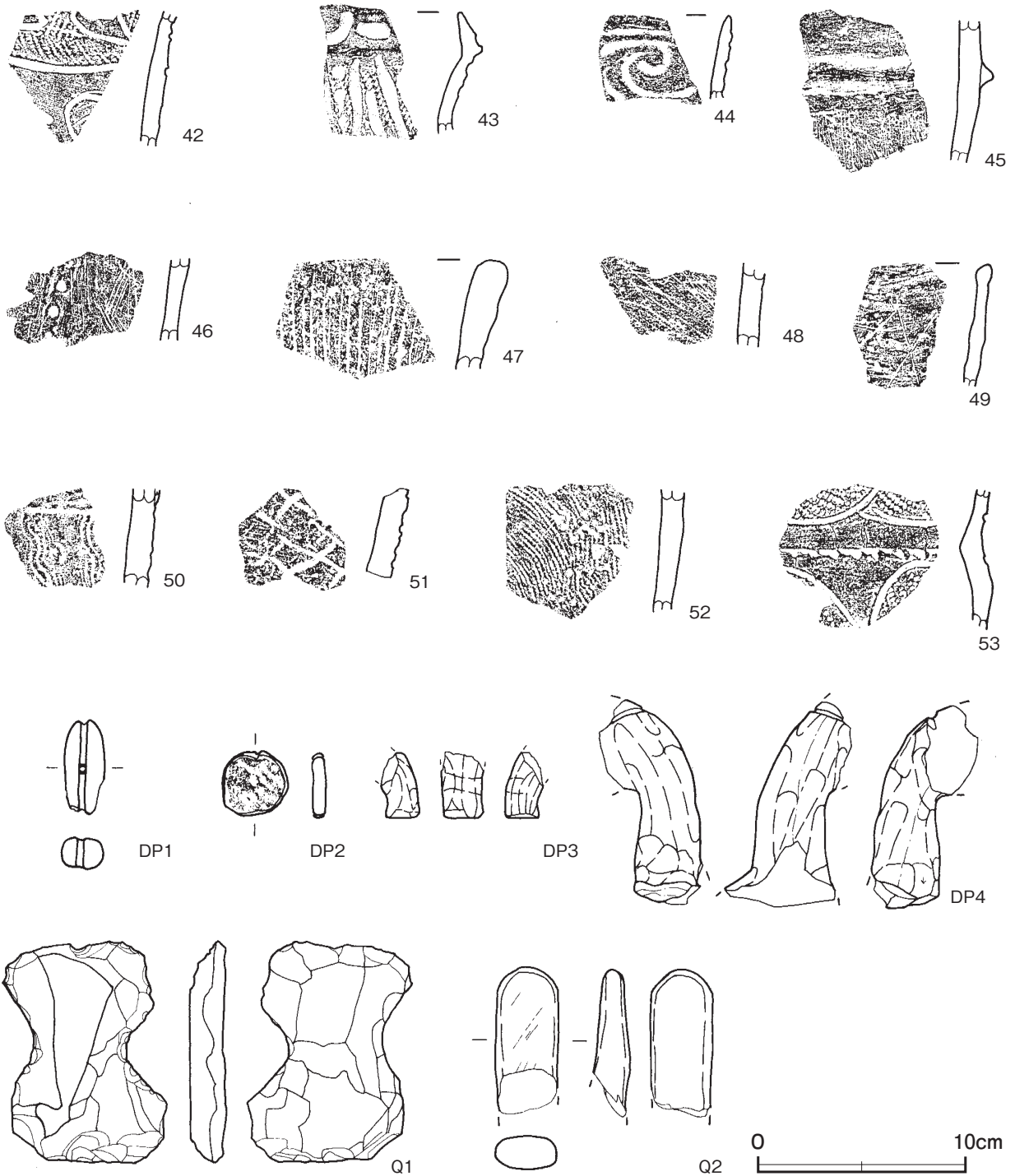
第 49 図 第 1 号遺物包含層実測図



第 50 图 第 1 号遺物包含層出土遺物実測図(1)



第51图 第1号遺物包含層出土遺物実測図(2)



第52図 第1号遺物包含層出土遺物実測図(3)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
14	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	明赤褐	普通	円形状突起 刺突文 沈線文	覆土中	
15	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい褐	普通	口縁部刺突列 単節縄文LR(縦) 微隆線による区画	覆土中	PL65
16	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子・細礫	灰黄褐	普通	口縁部刺突列 単節縄文LR(横) 沈線文	覆土中	
17	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	隆帯貼付 沈線文 刺突文	覆土中	PL65
18	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	沈線文	覆土中	PL65
19	縄文土器	浅鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子・細礫	明赤褐	普通	内外面ナデ	覆土中	
20	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・針状物質・細礫	橙	普通	隆帯貼付	覆土中	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徵ほか	出土位置	備考
21	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	動物意匠把手 単節縄文LR(縦) 三角縄文の嘴刺突よる目の表現(側面・背面に刺突文)	覆土中	PL65
22	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	沈線による区画 刺突文 鎖状垂下文	覆土中	PL65
23	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	隆帯貼付 円形刺突文 鎖状垂下文	覆土中	
24	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	単節縄文LR(横) 沈線による区画 刺突文	覆土中	
25	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英	にぶい橙	普通	単節縄文RL(縦) 沈線による区画 刺突文 磨消	覆土中	PL66
26	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・細礫	橙	普通	単節縄文LR(横) 沈線による区画 刺突文 磨消	覆土中	PL66
27	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒褐	普通	単節縄文LR(横) 沈線による区画 磨消	覆土中	PL66
28	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい黄橙	普通	単節縄文LR(横) 沈線による区画 蛇行沈線 磨消	覆土中	PL66
29	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	単節縄文RL(縦) 沈線による区画 蛇行沈線 磨消	覆土中	
30	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	赤褐	普通	単節縄文LR(横) 沈線による区画 磨消	覆土中	
31	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	単節縄文RL(横) 沈線による区画 磨消	覆土中	
32	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	単節縄文RL(横) 沈線による区画 磨消	覆土中	
33	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	単節縄文RL(横) 沈線による区画 隆帯に刻み 磨消	覆土中	
34	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	単節縄文RL(縦) 沈線による区画	覆土中	PL66
35	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	単節縄文LR(縦・横) 沈線による区画 磨消	覆土中	PL66
36	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	単節縄文LR(縦・横) 沈線による区画 磨消	覆土中	PL66
37	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口唇部刺突文 単節縄文RL(横) 沈線による区画 磨消	覆土中	PL66
38	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐	普通	単節縄文RL(縦) 沈線による区画 磨消	覆土中	
39	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	沈線による区画 微粒線に刻み	覆土中	
40	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐灰	普通	単節縄文LR(縦) 沈線による区画 磨消	覆土中	
41	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	橙	普通	単節縄文RL(縦) 沈線による区画 磨消	覆土中	
42	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	単節縄文RL(縦・横) 沈線による区画 磨消	覆土中	PL66
43	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい褐	普通	単節縄文RL(横) 沈線文 刺突文	覆土中	PL66
44	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	沈線文	覆土中	PL66
45	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細礫	にぶい黄橙	普通	櫛歯状工具による条線文 微隆線	覆土中	PL66
46	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	櫛歯状工具による条線文 刺突文	覆土中	PL66
47	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	櫛歯状工具による条線文	覆土中	PL66
48	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・細礫	黒褐	普通	沈線による格子目文	覆土中	PL66
49	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい黄橙	普通	沈線による格子目文	覆土中	
50	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	櫛歯状工具による条線文	覆土中	
51	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明黄褐	普通	沈線による格子目文	覆土中	PL66
52	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	褐	普通	単節縄文RL(縦)	覆土中	PL66
53	縄文土器	深鉢	-	-	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	単節縄文RL(横) 沈線による区画 刺突文 磨消	覆土中	PL66

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	土鉢	4.6	1.9	16	(12.12)	長石・石英・雲母	明褐	縦位の沈線 中央部穿孔	覆土中	PL101
DP 2	土器片凹盤	3.1	3.0	0.7	8.07	長石・石英・雲母	明黄褐	周縁部研磨	覆土中	
DP 3	土偶	(3.2)	(2.0)	(1.9)	(11.39)	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	ナデ調整	覆土中	動物型土偶 <sub>ナ</sub>
DP 4	土偶	(9.8)	(5.1)	(6.1)	(132.4)	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	ナデ調整 沈線文	覆土中	PL101 動物型土偶 <sub>ナ</sub>

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	打製石斧	10.8	8.0	1.8	167.10	緑色変成岩	分銅形 剥離調整	覆土中	PL103
Q 2	磨製石斧	(7.1)	3.0	1.8	(57.06)	粘板岩	小形定角式 刃部欠損	覆土中	

## 2 弥生時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡2棟を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

### 竪穴建物跡

#### 第56号竪穴建物跡（第53・54図 PL9）

**調査年度** 平成26年度

**位置** 調査区東部のD10i2区、標高41mほどの台地緩斜面部に位置している。

**重複関係** 第1号竪穴建物、第1号溝、第1号段切状遺構に掘り込まれている。

**規模と形状** 第1号竪穴建物に掘り込まれており、西壁、北壁の一部及び硬化面しか確認できなかった。南北軸は2.52m、東西軸は3.30mしか確認できなかった。隅丸方形もしくは隅丸長方形と推定できるが、主軸方向は不明である。壁は高さ15～26cmで、ほぼ直立もしくは外傾している。

**床** 平坦で、中央部及び北壁際が踏み固められている。

**ピット** 3か所。P1・P2は深さ60cm・52cmで、配置から主柱穴である。第1・2層は柱材を抜き取った後の覆土である。P3は深さ20cmで、性格は不明である。

#### ピット土層解説

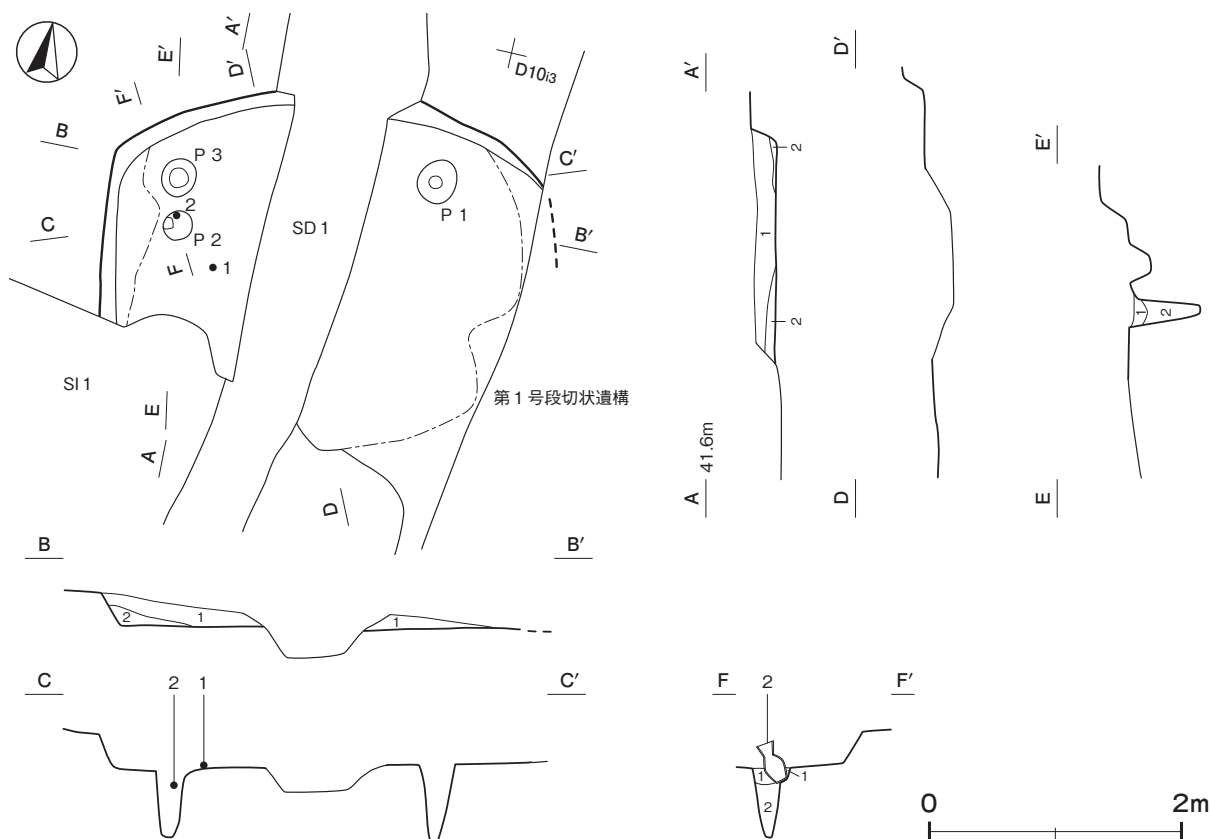
- 1 にぶい黄褐色 ロームブロック中量、鹿沼軽石ブロック少量      2 黄褐色 ロームブロック多量、鹿沼軽石ブロック微量

**覆土** 2層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

#### 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、鹿沼軽石粒子少量、焼土粒子微量      2 明黄褐色 ローム粒子多量、鹿沼軽石粒子少量

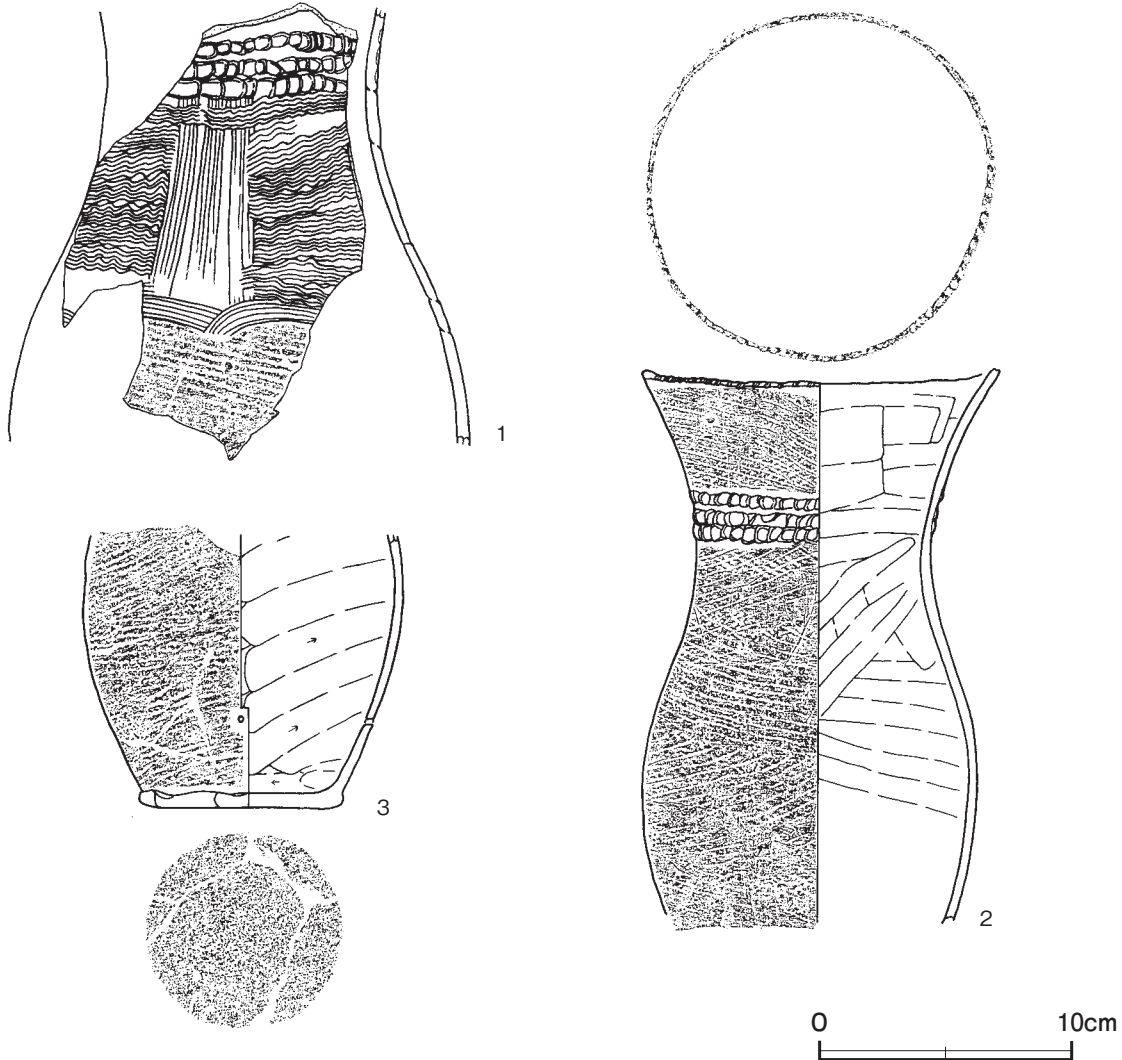
**遺物出土状況** 弥生土器片9点（壺類）のほか、土師器片1点（甕類）が、主に西半部から出土しており、覆



第53図 第56号竪穴建物跡実測図

土の堆積状況から、埋没の過程で投棄されたと考えられる。2はP2から出土していることから、柱材を抜き取った後に投棄されたと考えられる。

所見 時期は、出土土器から、弥生時代後期後葉に比定できる。



第54図 第56号竪穴建物跡出土遺物実測図

第56号竪穴建物跡出土遺物観察表（第54図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	弥生土器	広口壺	-	(17.4)	-	長石・石英・雲母・白色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面隆帯3条、楯文、連弧紋、縦位区画施文後波状文、体部外面附加条軸繩不明、内面劣化により不明	覆土下層	10% 煤付着
2	弥生土器	広口壺	13.9	(22.1)	-	長石・石英・雲母・白色粒子	浅黄橙	普通	口縁部から連続する縄文、外面隆帯3条、内面横位のナデ、口縁部から体部附加条二種附加一条羽状構成、内面斜位のナデ	P2 覆土第1層	60% PL61 煤付着
3	弥生土器	広口壺	-	(10.9)	8.1	長石・石英・雲母・砂粒	橙	普通	体部外面附加条二種附加一条、外面からの穿孔1か所 径2mm、体部内面斜位のナデ、底部砂目	覆土中層	30% PL61 煤付着

第90号竪穴建物跡（第55・56図）

調査年度 平成27年度

位置 調査区中央部のE4i0区、標高42mほどの台地平坦面に位置している。

**規模と形状** 東部及び南部が調査区域外に延びていることから、南北軸は 0.87 m、東西軸は 1.92 m しか確認できなかった。方形もしくは長方形と推定できるが、主軸方向は不明である。壁は高さ 12～23cm で、ほぼ直立している。

**床** 平坦である。

**ピット** 2 か所。P 1・P 2 は深さ 35cm・25cm で、P 1 は支柱穴の可能性のあるものの、配置が明確でないことから、性格は不明である。第 1・2 層は柱材を抜き取った後の覆土である。

**土層解説 (各ピット共通)**

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ロームブロック少量

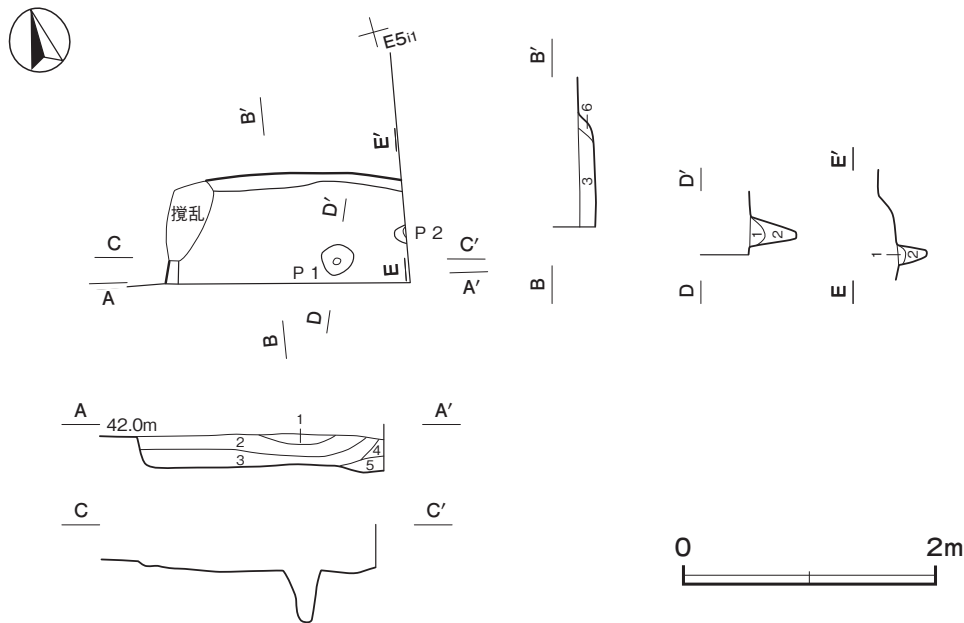
**覆土** 6 層に分層できる。第 2～6 層はロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第 1 層は堆積状況から、自然堆積である。

**土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 灰黄褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ロームブロック中量

**遺物出土状況** 弥生土器片 1 点 (壺類) のほか、縄文土器片 1 点 (深鉢), 土師器片 2 点 (埴, 甕類), 陶器片 1 点 (皿) が、主に北壁際から出土している。多くの土器は中型の破片や小片で、接合関係に乏しいことから、埋め戻しに伴って一括で投棄されたと考えられる。

**所見** 時期は、弥生時代後期後葉に比定できる。

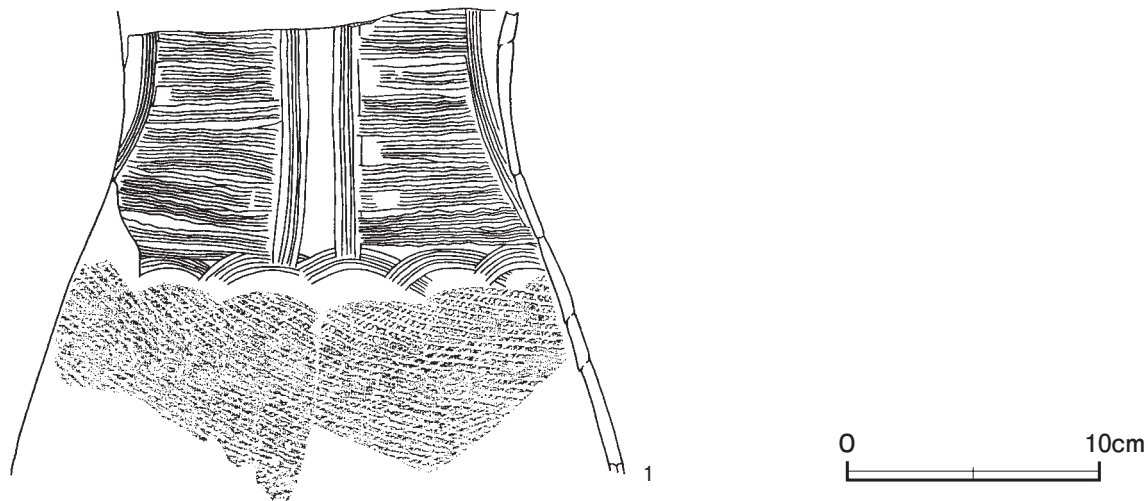


第 55 図 第 90 号竪穴建物跡実測図

第 90 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 56 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	弥生土器	広口壺	-	(18.5)	-	長石・石英・雲母・針状物質・赤色粒子	浅黄橙	普通	頸部 6 条 1 単位の櫛歯文, 連弧文, 縦位区画文 の後区画内に波状文 体部附加状二種附加 1 条	覆土中	20% PL61





第56図 第90号竪穴建物跡出土遺物実測図

表5 弥生時代竪穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 長軸×短軸 (m)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考
								主柱穴	出入口	ピット	炬・竈	貯蔵穴				
56	D10j2	不	明 [隅丸方形・隅丸長方形]	(3.30) × (2.52)	15～26	平坦	-	2	-	1	-	-	自然	弥生土器	後期後葉	本跡→S11, SD1, 第1号段切状遺構
90	E 4j0	不	明 [方形・長方形]	(1.92) × (0.87)	12～23	平坦	-	-	-	2	-	-	人為	弥生土器	後期後葉	

### 3 古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡 77 棟、掘立柱建物跡 2 棟、古墳 1 基、円形周溝遺構 1 基、井戸跡 1 基、柱穴列 2 条、溝跡 1 基、土坑 30 基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

#### (1) 竪穴建物跡

##### 第1号竪穴建物跡 (第57・58図)

**調査年度** 平成 25 年度

**位置** 調査区東部の D10j2 区、標高 41 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

**重複関係** 第56号竪穴建物跡を掘り込み、第1号溝、第7・8号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 第1号溝、第7・8号土坑に掘り込まれているが、長軸 4.09 m、短軸 3.67 m の長方形と推定でき、主軸方向は N - 7° - E である。壁は高さ 4 ~ 26 cm で、ほぼ直立している。

**床** 平坦な貼床で、P 2 周辺及び東壁際を除いて踏み固められている。貼床は、第5～7層を 20 ~ 30 cm ほど埋め戻して、構築している。第6層は水平な堆積で、固く締まった層位であることから、第5層以前の貼床の可能性はある。壁溝が、第1号溝、第7・8号土坑に掘り込まれている部分及び P 1 周辺、東壁下を除いて巡っている。

**竈** 北壁の中央部に付設されている。焚口部から煙道部までは 112 cm、燃焼部の幅は 42 cm である。燃焼部は床面から 2 cm ほど掘りくぼめられ、第4・6層で埋め戻されている。袖部は、芯材として加工された長さ 26 cm、幅 18 cm の凝灰質泥岩を深さ 8 cm のピットに第5層で固定した後、床面及び第5・6層上面に第3層を積み上

げて構築されている。火床面は第4・6層の上面で、第4層は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に60cmほど掘り込まれ、火床面から外傾している。第1・2層にはロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから、壊されている。

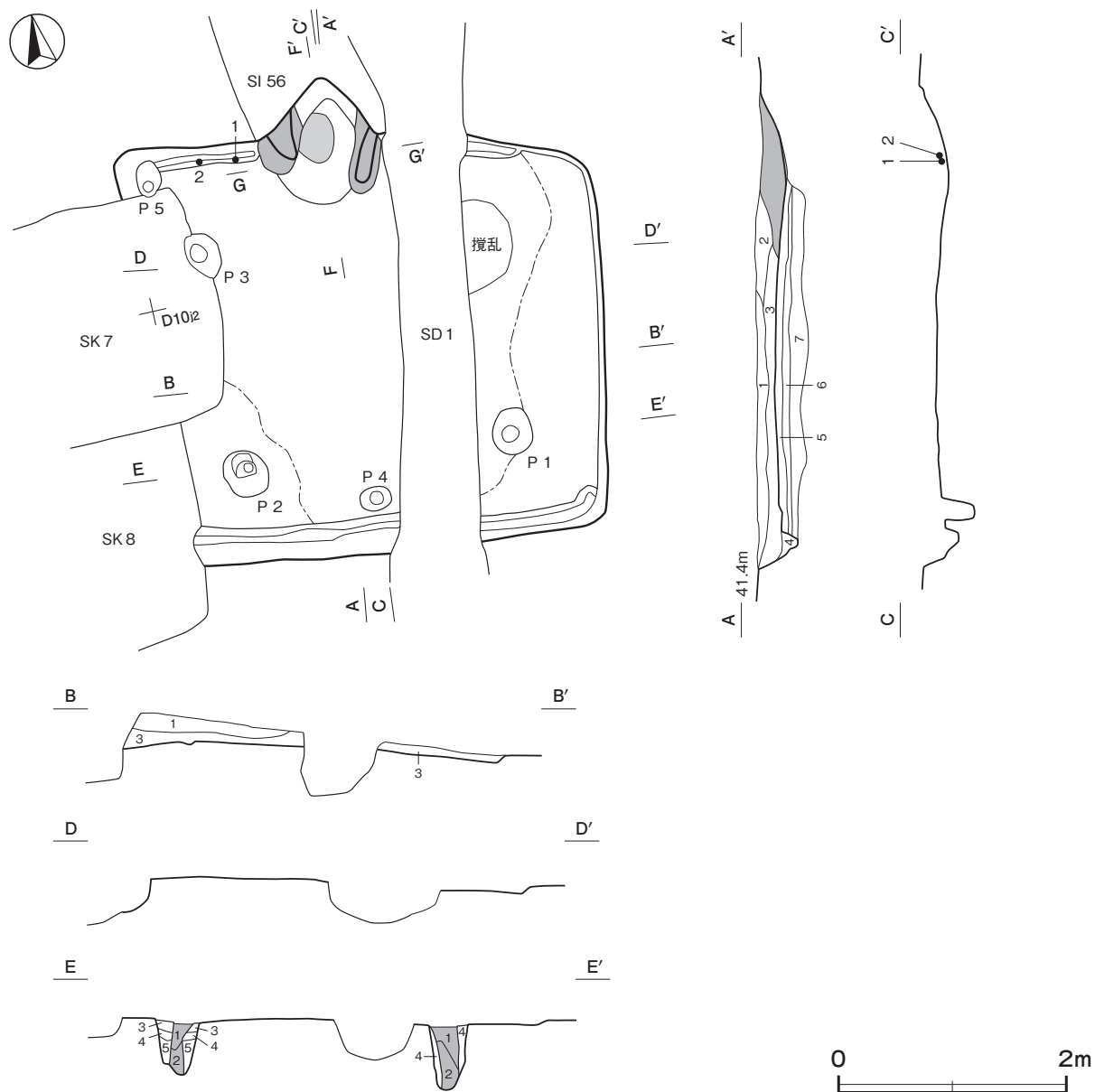
**竈土層解説**

- |                           |                           |
|---------------------------|---------------------------|
| 1 褐灰色 ロームブロック・焼土ブロック少量    | 4 赤褐色 焼土ブロック中量            |
| 2 黒褐色 焼土ブロック少量, ロームブロック微量 | 5 におい黄褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 3 明黄褐色 粘土ブロック多量, 焼土ブロック少量 | 6 暗褐色 ロームブロック少量           |

**ピット** 5か所。P1～P3は深さ30～58cmで、配置から主柱穴である。P4は深さ24cmで、出入口施設に伴うピットである。P5は深さ21cmで、壁柱穴の可能性のあるものの、西壁が第7・8号土坑に掘り込まれていることから、配列は明確にできなかった。第3～5層は埋土、第1・2層は柱痕跡である。

**ピット土層解説 (各ピット共通)**

- |                            |                             |
|----------------------------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量            | 4 黒褐色 ロームブロック少量, 鹿沼軽石ブロック微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量              | 5 褐灰色 ロームブロック・鹿沼軽石ブロック少量    |
| 3 におい黄褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量 |                             |



第57図 第1号竪穴建物跡実測図

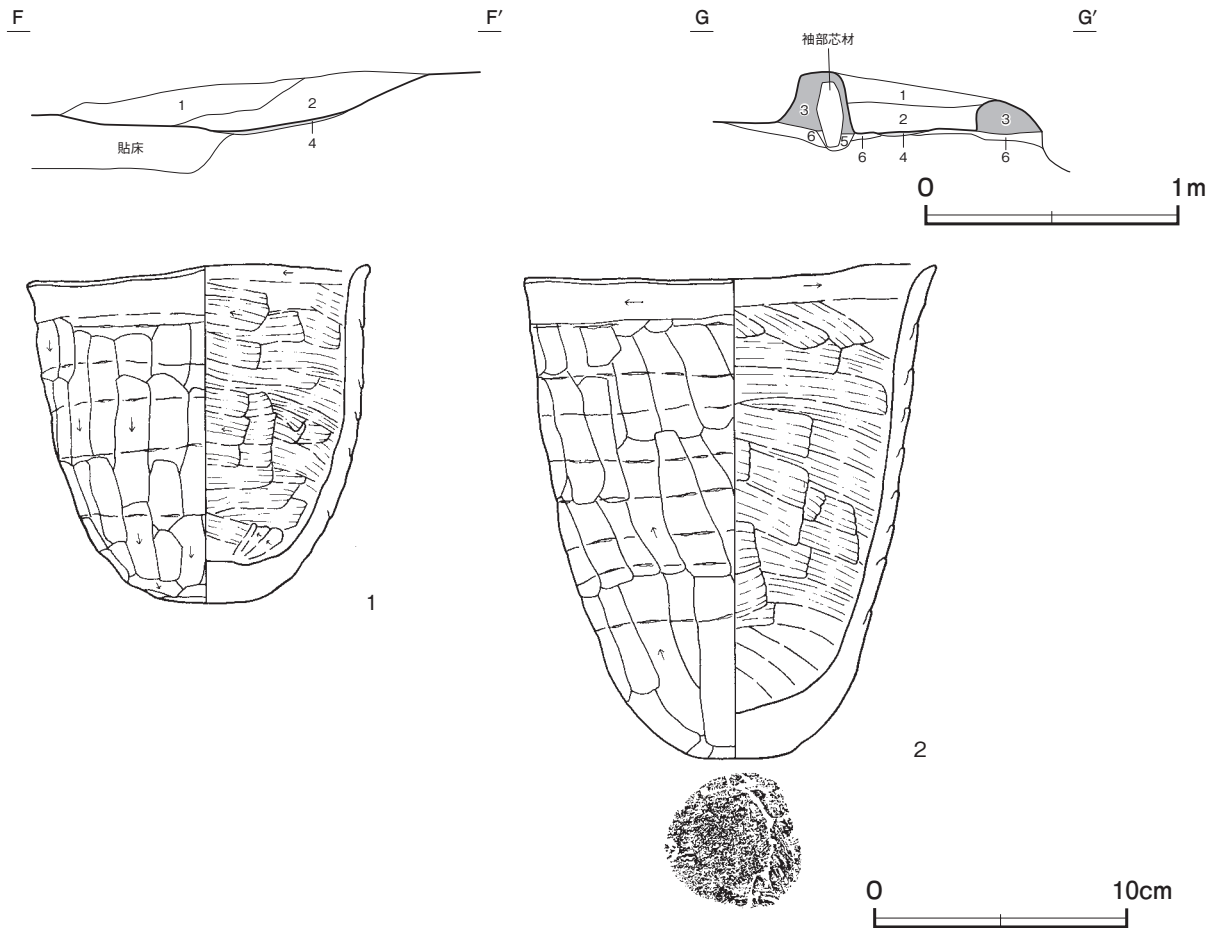
**覆土** 4層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。第5～7層は貼床の構築土である。

**土層解説**

- |          |                     |          |           |
|----------|---------------------|----------|-----------|
| 1 褐色     | 焼土粒子・炭化粒子・礫微量       | 5 黒褐色    | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色    | 焼土粒子・炭化粒子・礫微量       | 6 におい黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 におい黄褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 7 黄褐色    | ロームブロック少量 |
| 4 暗褐色    | ローム粒子少量             |          |           |

**遺物出土状況** 土師器片 119点（坏9, 鉢類1, 甕類108, 甗1）, 須恵器片7点（坏4, 甕類3）, 石製品2点（袖部芯材, 竈材）のほか、縄文土器片10点（深鉢）, 弥生土器片37点（壺類）, 剥片3点（チャート2, 瑪瑙1）が、主に竈周辺から出土している。多くの土器は小片で、接合関係に乏しいことから、埋没の過程で投棄されたと考えられる。1・2は竈周辺から良好な遺存状態で出土していることから、廃絶に伴って廃棄されたと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から6世紀後葉から7世紀前葉に比定できる。須恵器の出土が少ないことから、県内での生産や流通体制が整備される以前に、廃絶されたものと考えられる。



第58図 第1号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第1号竪穴建物跡出土遺物観察表（第58図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	甕	13.4	13.5	3.6	長石・石英・針状物質・細礫	におい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の削り、輪積み痕 体部内面横位の刷毛目状ナデ 底部一方向のナデ	覆土下層	PL83 70%
2	土師器	甕	16.3	19.7	4.0	長石・石英・針状物質・細礫	におい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の削り、輪積み痕 体部内面横位の刷毛目状ナデ 底部二方向のナデ	覆土下層	PL83 95%

### 第3号竪穴建物跡（第59・60図）

調査年度 平成25年度

位置 調査区東部のD9i0区、標高42mほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第2号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 南半部を第2号竪穴建物に掘り込まれていることから、東西軸3.42m、南北軸は0.70mしか確認できなかった。方形もしくは長方形と推定され、主軸方向はN-5°-Eである。壁は高さ5cmで、ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で、残存部の全面が踏み固められている。貼床は、第2層を5cmほど埋め戻して構築されている。

竈 北壁中央部の東寄りに付設されている。焚口部から煙道部までは68cm、燃焼部の幅は42cmである。燃焼部は床面から15cmほど掘りくぼめられ、第6層で埋め戻されている。袖部は、芯材としてQ1・Q2を深さ12cmのピットに第5層で固定した後、床面及び第5・6層上面に第3・4層を積み上げて構築されている。火床面は第6層の上面で、火熱を受けているものの赤変硬化はしていない。煙道部は壁外に20cmほど掘り込まれ、第4層が貼り付けられている。火床面からは外傾している。第1・2層には粘土ブロックや凝灰質泥岩の大型破片が含まれていることから、竈が壊された後埋め戻されている。

#### 竈土層解説（竈及び貼床構築土）

- |        |                              |        |                 |
|--------|------------------------------|--------|-----------------|
| 1 褐色   | ロームブロック・凝灰質泥岩の大型破片少量         | 4 灰黄褐色 | 粘土ブロック中量、焼土粒子少量 |
| 2 褐色   | 粘土ブロック・凝灰質泥岩の大型破片中量、焼土ブロック少量 | 5 褐灰色  | ロームブロック少量       |
| 3 浅黄橙色 | 粘土ブロック多量、焼土粒子微量              | 6 暗褐色  | ロームブロック中量       |

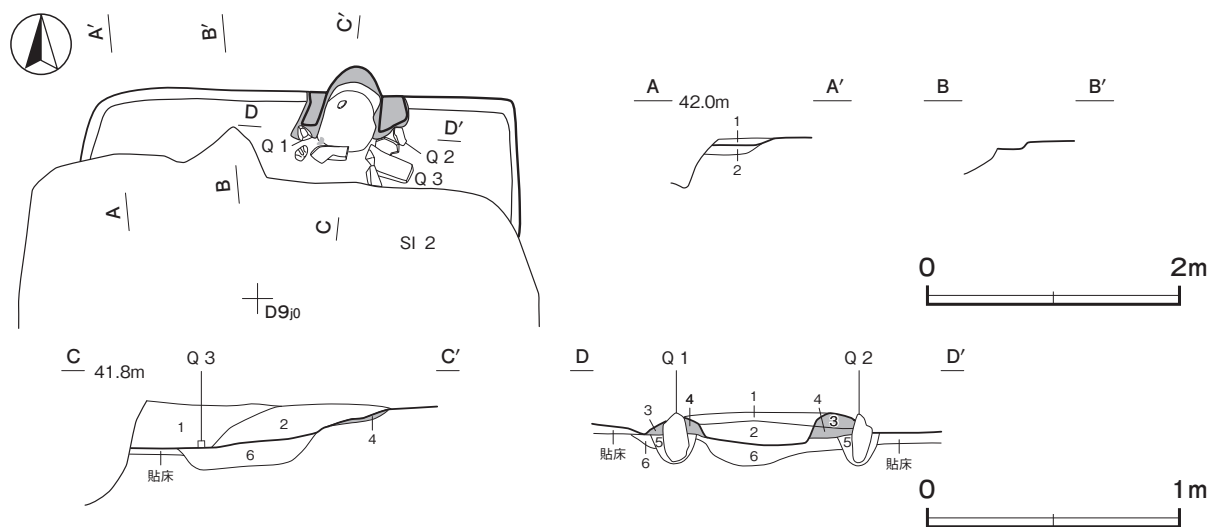
覆土 単一層である。ロームブロックや粘土ブロック、凝灰質泥岩の大型破片が含まれていることから、埋め戻されている。第2層は貼床の構築土である。

#### 土層解説

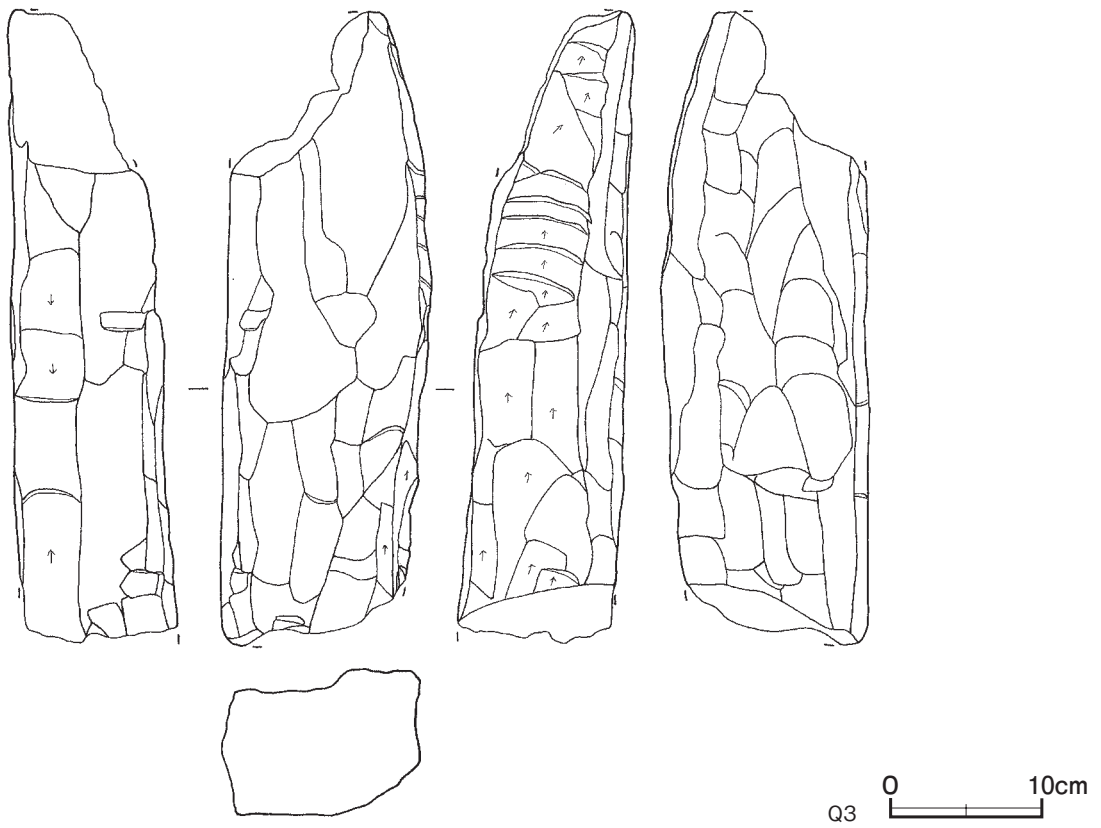
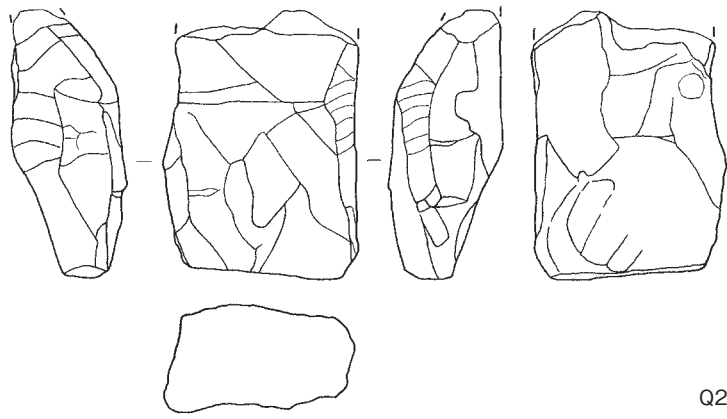
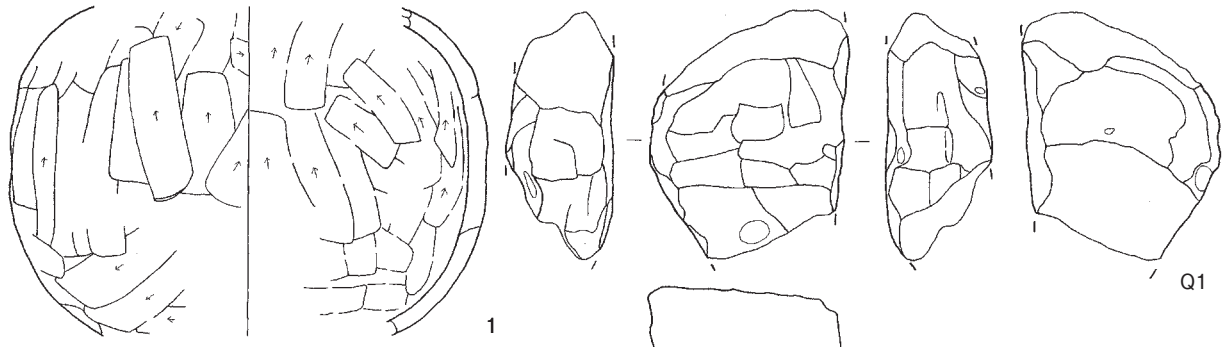
- |       |                  |        |           |
|-------|------------------|--------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 2 灰黄褐色 | ロームブロック少量 |
|-------|------------------|--------|-----------|

遺物出土状況 土師器片4点（甕類）、石製品7点（袖部芯材2、竈材5）が出土している。土器片は、中型や小片で接合関係に乏しいことから、埋め戻しに伴って投棄されたと考えられる。Q1～Q3は、竈が壊されていることから、廃絶に伴って廃棄されたと考えられる。

所見 時期は、出土土器から6世紀中葉に比定できる。



第59図 第3号竪穴建物跡実測図



第 60 図 第 3 号 竖穴 建物 跡 出土 遺物 実測 図

第3号竖穴建物跡出土遺物観察表（第60図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	甕	-	(13.1)	-	長石・石英・雲母・細礫	にぶい赤褐	普通	体部外面縦位の削り 体部内面横位のナデ 後縦位のナデ	覆土中	30% 煤附着

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	袖部芯材	(16.4)	13.2	7.1	(568)	凝灰質泥岩	4面削り調整, 下端部先尖状に加工 上部欠損	袖部構築土中	
Q 2	袖部芯材	(17.7)	13.4	7.7	(707)	凝灰質泥岩	4面削り調整, 下端部先尖状に加工 上部欠損	袖部構築土中	
Q 3	竈材	(42.1)	14.0	11.2	(3,150)	凝灰質泥岩	4面削り調整, 下端部先尖状に加工 両端部欠損 懸架材。	覆土第1層中	

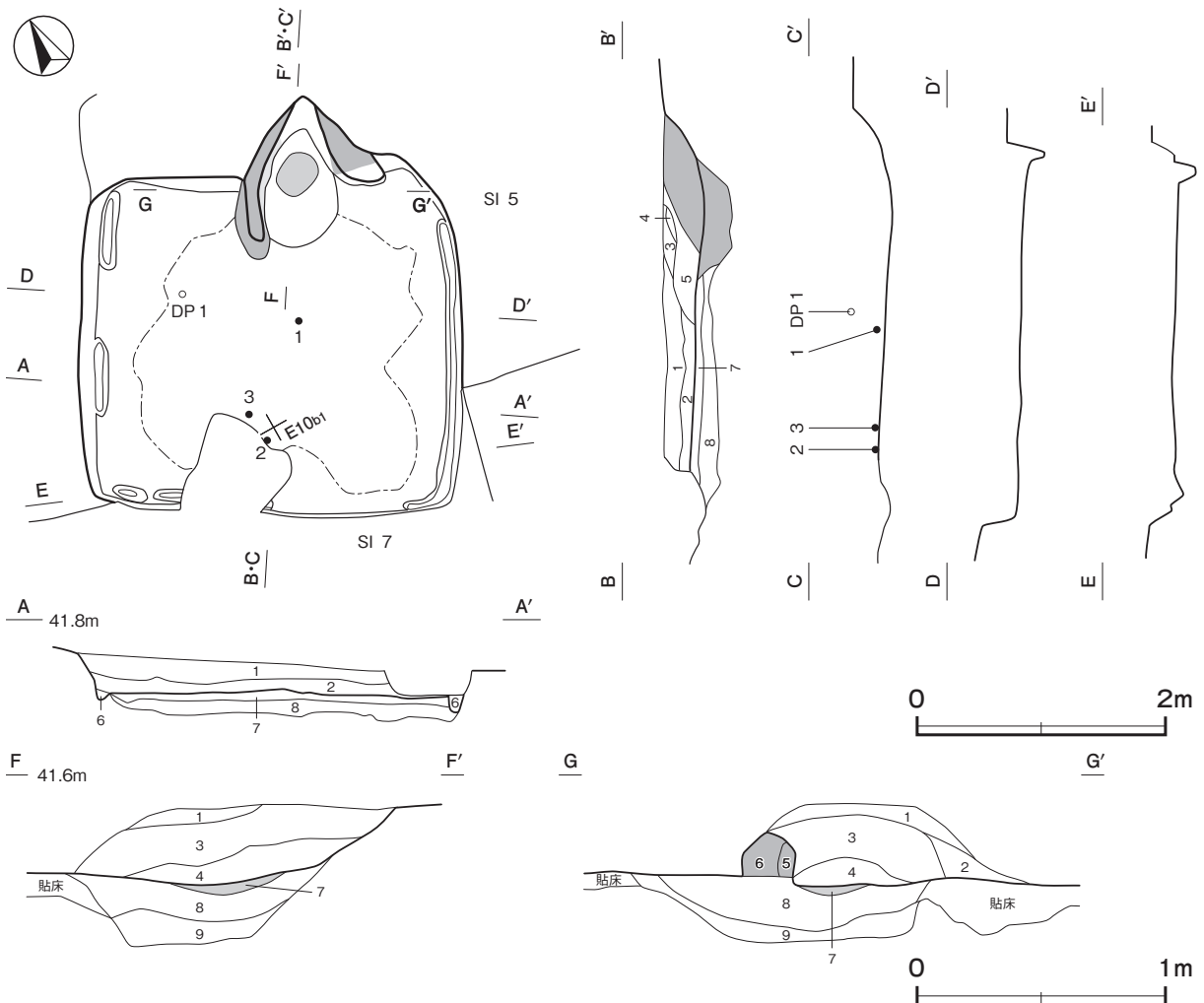
第4号竖穴建物跡（第61・62図）

調査年度 平成25年度

位置 調査区東部のE10a1区, 標高42mほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第5号竖穴建物跡を掘り込み, 第7号竖穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 南壁の上位を第7号竖穴建物に掘り込まれているが, 長軸3.10m, 短軸2.90mの方形と推定でき, 主軸方向はN-30°-Eである。壁は高さ15~32cmで, ほぼ直立している。



第61図 第4号竖穴建物跡実測図

床 平坦な貼床で、竈の前面及び中央部が踏み固められている。貼床は、第7・8層を10～20cmほど埋め戻して構築されている。壁溝が、北壁下及び南壁、西壁下の一部を除いて巡っている。

竈 北壁中央の部東寄りに付設されている。焚口部から煙道部までは124cm、燃烧部の幅は56cmである。燃烧部は床面から30cmほど掘りくぼめられ、第7～9層で埋め戻されている。袖部は、床面及び第8層上面に第5・6層を積み上げて構築されている。火床面は第7・8層の上面で、第7層は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に50cmほど掘り込まれ、火床面から外傾している。第3・4層は、焼土ブロックや粘土ブロックが含まれることから壊されている。第1・2層は、竈が壊された後の覆土である。

竈土層解説

- |       |                         |          |                         |
|-------|-------------------------|----------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、粘土ブロック・炭化物微量  | 6 におい黄褐色 | ロームブロック少量               |
| 2 暗褐色 | 粘土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量  | 7 暗赤色    | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量 |
| 3 黄橙色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック中量 | 8 褐色     | ロームブロック・鹿沼軽石ブロック少量      |
| 4 暗褐色 | 焼土ブロック中量・ロームブロック少量      | 9 暗赤色    | ロームブロック・粘土ブロック少量        |
| 5 黄橙色 | 焼土ブロック・粘土ブロック中量         |          |                         |

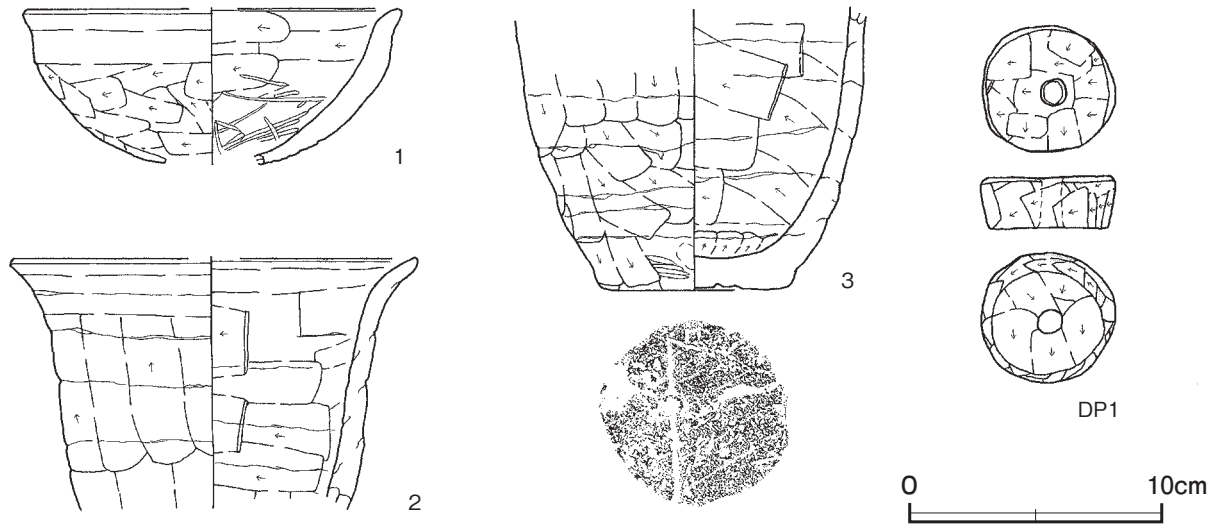
覆土 6層に分層できる。ロームブロックが含まれる不規則な堆積をしていることから、埋め戻されている。第7・8層は貼床の構築土である。

土層解説

- |          |                    |          |                         |
|----------|--------------------|----------|-------------------------|
| 1 におい黄褐色 | ロームブロック多量          | 5 明黄褐色   | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 灰黄褐色   | ロームブロック少量          | 6 におい黄褐色 | ロームブロック中量               |
| 3 黄褐色    | 粘土ブロック中量、焼土ブロック少量  | 7 灰黄褐色   | ロームブロック中量               |
| 4 におい黄褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック少量 | 8 暗褐色    | ロームブロック少量               |

遺物出土状況 土師器片 203点（坏13、甕類190）、須恵器片5点（坏4、蓋1）、土製品2点（紡錘車）、石製品1点（竈材）のほか、縄文土器片19点（深鉢）、弥生土器片23点（壺類）、剥片1点（チャート）が出土している。多くの土器は小片で、接合関係に乏しいことから、埋め戻しに伴って投棄されたと考えられる。

所見 時期は、出土土器から7世紀後葉に比定できる。



第62図 第4号竪穴建物跡出土遺物実測図

第4号竪穴建物跡出土遺物観察表（第62図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[15.0]	(6.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外面横ナデ、内面横位のナデ 底部外面横・斜位のナデの後削り、内面横位のナデの後二方向の磨き	覆土第2層中	20%
2	土師器	甕	[16.0]	(10.0)	-	長石・石英・針状物質・砂礫	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位のナデ、内面横位のナデ 輪積痕	覆土第2層中	10% 煤付着
3	土師器	甕	-	(11.2)	7.5	長石・石英・細礫	におい橙	普通	体部外面縦位の削り、内面横・斜位のナデ 底部木葉痕 輪積痕	覆土第2層中	30%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	紡錘車	5.3	2.0	1.0	69.03	長石・石英・赤色粒子	灰褐色	上・下面二方向のナデ 側面斜位の削り 一方からの穿孔	覆土第1層中	100% PL101

### 第5号竪穴建物跡（第63・64図）

調査年度 平成25年度

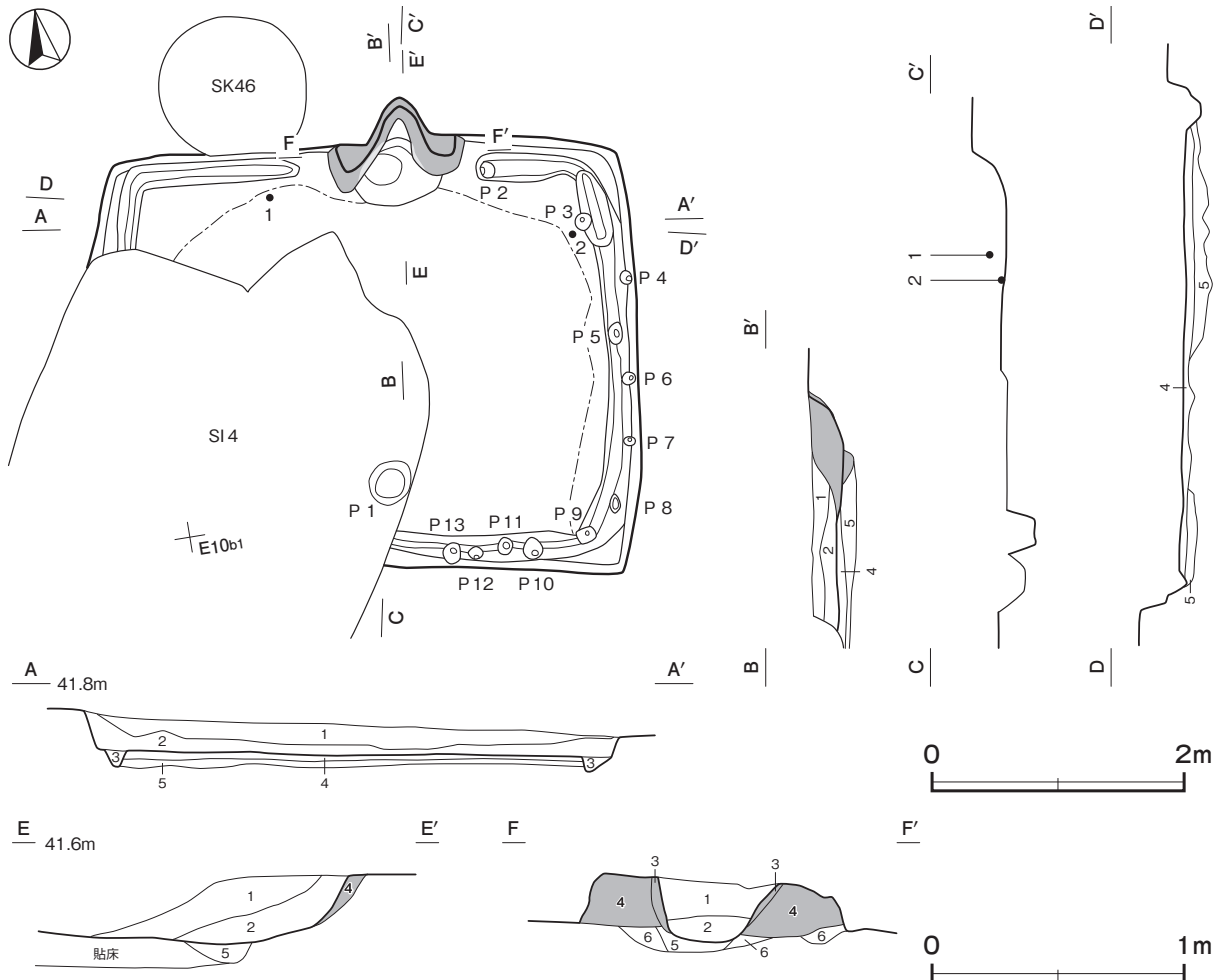
位置 調査区東部のE10a1区、標高42mほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第4号竪穴建物、第46号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南西部の大半を第4号竪穴建物に掘り込まれているが、長軸4.29m、短軸3.42mの長方形と推定でき、主軸方向はN-14°-Eである。壁は高さ16~29cmで、ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で、北壁、東壁、西壁際を除いて踏み固められている。貼床は、第4・5層を10~20cmほど埋め戻して構築されている。壁溝が、竈付近及び第4号竪穴建物に掘り込まれた部分を除いて巡っている。

竈 北壁中央部の東寄りに付設されている。焚口部から煙道部までは84cm、燃焼部の幅は46cmである。燃焼部は床面から10cmほど掘りくぼめられ、第5・6層で埋め戻されている。袖部は、床面及び第5・6層上面に第3・4層を積み上げて構築されている。火床面は第5層の上面で、火熱を受けているものの赤変硬化はしていない。煙道部は壁外に40cmほど掘り込まれ、第4層が貼り付けられている。火床面からは内彎している。



第63図 第5号竪穴建物跡実測図



第1・2層にはロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから、竈を破壊した後の埋土である。

**竈土層解説**

- |          |                            |          |                  |
|----------|----------------------------|----------|------------------|
| 1 灰黄褐色   | ロームブロック・粘土ブロック少量, 焼土粒子微量   | 4 におい黄褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量 |
| 2 におい黄褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量, 焼土ブロック微量 | 5 暗赤褐色   | ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 3 暗赤褐色   | 焼土ブロック・粘土ブロック少量            | 6 褐色     | ロームブロック少量        |

**ピット** 13か所。P 1は深さ23cmで、出入り口施設に伴うピットである。P 2～13は深さ4～19cmで、配置から壁柱穴と考えられるが、北西隅部では確認できなかった。

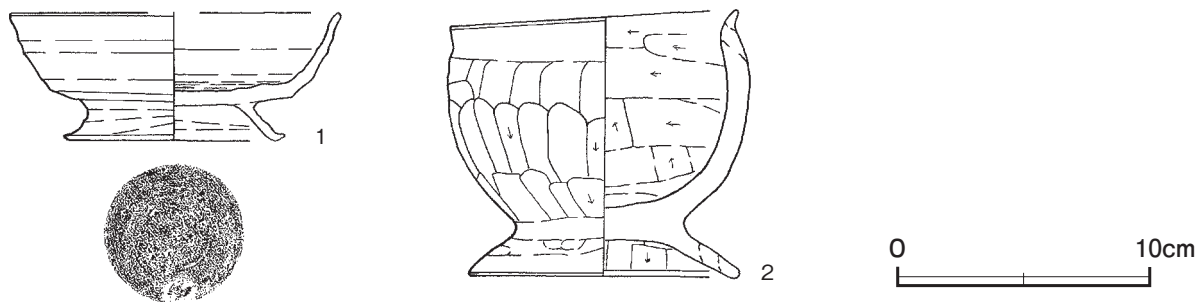
**覆土** 3層に分層できる。ロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第4・5層は貼床の構築土である。

**土層解説**

- |        |                            |          |           |
|--------|----------------------------|----------|-----------|
| 1 暗褐色  | ロームブロック・粘土ブロック少量, 焼土粒子微量   | 4 におい黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色  | ロームブロック・焼土ブロック中量, 粘土ブロック少量 | 5 暗褐色    | ロームブロック少量 |
| 3 明黄褐色 | ロームブロック少量                  |          |           |

**遺物出土状況** 土師器片36点(甕類), 須恵器片1点(高台付坏)のほか、縄文土器片5点(深鉢), 弥生土器片4点(壺類)が出土している。多くの土器は小片で、接合関係に乏しいことから、埋め戻しに伴って投棄されたと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から7世紀中葉に比定できる。



第64図 第5号竪穴建物跡出土遺物実測図

第5号竪穴建物跡出土遺物観察表(第64図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	高台付坏	[13.0]	5.0	8.8	長石・雲母・針状物質	灰白	不良	ロクロナデ 底部回転ヘラ削り後高台部貼付	覆土第1層中	70% PL86 幡山窯
2	土師器	脚付甕	11.3	10.5	10.6	長石・針状物質・赤色粒子	におい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の削り, 内面縦位のナデ後横位のナデ 高台部外面縦位のナデ後横ナデ, 内面一方向のナデ後口唇部横ナデ	覆土第2層中	80% PL77 煤付着

**第14号竪穴建物跡(第65・66図)**

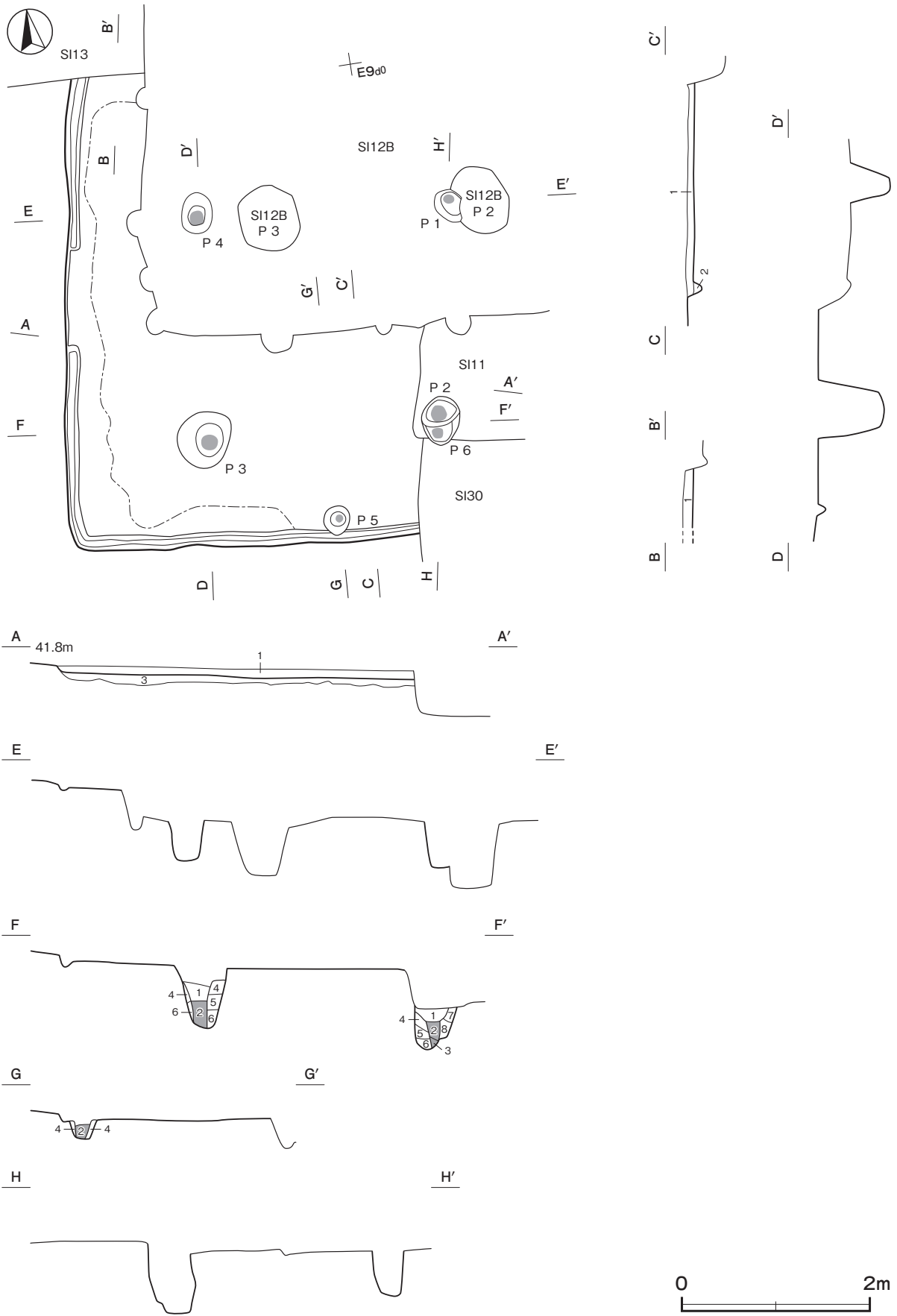
**調査年度** 平成25年度

**位置** 調査区東部のE9d9区, 標高42mほどの台地平坦面に位置している。

**重複関係** 第11・12B・13・30号竪穴建物に掘り込まれている。

**規模と形状** 第11・12B・13・30号竪穴建物に掘り込まれていることから、長軸は5.18m, 短軸は3.75mしか確認できなかった。方形もしくは長方形と推定でき、主軸方向はN-10°-Eである。壁は高さ6cmで、ほぼ直立している。

**床** 平坦な貼床で、P5周辺及び南壁, 西壁際を除いて踏み固められている。貼床は、第3層を10～20cmほど埋め戻して構築されている。壁溝が、第11号竪穴建物などに掘り込まれている部分及び西壁下を除いて巡っている。



第 65 图 第 14 号竖穴建物跡实测图

ピット 6か所。P 1～P 4及びP 6は深さ76～108cmで、配置から支柱穴である。第7・8層はP 6の覆土で、埋土である。P 6はP 2に掘り込まれていることから、立て替えられている。P 5は深さ20cmで、出入口施設に伴うピットである。第4～6層は埋土、第2・3層は柱痕跡、第1層は柱材を抜き取った後の覆土である。P 1～P 6の底面で、柱の当たりを確認した。

**ピット土層解説（各ピット共通）**

- |          |                      |          |                      |
|----------|----------------------|----------|----------------------|
| 1 明黄褐色   | ロームブロック中量、鹿沼軽石ブロック少量 | 5 灰黄褐色   | ロームブロック中量、鹿沼軽石ブロック少量 |
| 2 褐色     | ローム粒子少量              | 6 暗褐色    | ロームブロック・鹿沼軽石ブロック少量   |
| 3 暗褐色    | ローム粒子少量              | 7 灰黄褐色   | ロームブロック少量            |
| 4 におい黄褐色 | ロームブロック中量            | 8 におい黄褐色 | ロームブロック少量            |

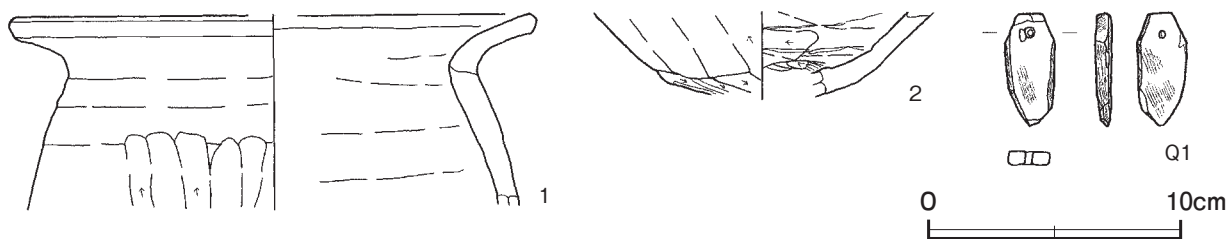
**覆土** 2層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第3層は貼床の構築土である。

**土層解説**

- |       |                    |          |           |
|-------|--------------------|----------|-----------|
| 1 褐色  | ロームブロック中量、焼土ブロック少量 | 3 におい黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量          |          |           |

**遺物出土状況** 土師器片23点（甕類）、石製品1点（石製模造品）のほか、縄文土器片3点（深鉢）、弥生土器片4点（壺類）、剣形品、剥片が、全域から散在して出土している。土器は小片で、接合関係が乏しいことから、破損したものが廃絶に伴って投棄されたと考えられる。1は第11号堅穴建物からの混入である。

**所見** 時期は、出土土器や重複関係から4世紀後半と推定できる。



第66図 第14号堅穴建物跡出土遺物実測図

第14号堅穴建物跡出土遺物観察表（第66図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	甕	[20.2]	(7.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	におい黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ロクロナデ後縦位のナデ 体部内面ロクロナデ	覆土中	10% 煤付着
2	土師器	甕	-	(3.4)	-	長石・雲母・針状物質・赤色粒子	橙	普通	体部外面縦位のナデ後縦位の削り 体部内面横位のナデ 輪積痕	覆土中	10% 煤付着

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	剣形品	4.4	2.0	0.6	10.34	滑石	表・裏面平滑 側面平滑 一方向からの穿孔 剣形	覆土中	PL107

**第15号堅穴建物跡（第67・68図）**

**調査年度** 平成25年度

**位置** 調査区東部のE9f9区、標高42mほどの台地平坦面に位置している。

**重複関係** 第55号堅穴建物跡を掘り込み、第10・16号堅穴建物に掘り込まれている。

**規模と形状** 第10・16号堅穴建物に掘り込まれているが、長軸6.68m、短軸6.02mの長方形で、主軸方向はN-6°-Eである。上部は削平されていることから、床面が露呈している状態で確認できた。

**床** 平坦な貼床で、竈付近を除いた全面が踏み固められている。貼床は、第1・2層を10～20cmほど埋め戻

して構築されている。掘方は中央部分を残して、回の字状に掘り込まれている。壁溝が、第10・16号竪穴建物に掘り込まれている部分及び東壁と南壁の東半部を除いて巡っている。

**竈** 北壁の中央部に付設されている。焚口部から煙道部までは98cm、燃焼部の幅は袖部が削平されていることから不明である。燃焼部は床面から20cmほど掘りくぼめられ、第1・2層で埋め戻されている。袖部の構築土は確認できなかったが、地山を半島状に削り出した基部が確認できた。削り出された地山の先端部付近には、深さ10cmほどのピットが確認できたことから、加工された石材を芯材としていた可能性がある。火床面は第1・2層の上面で、第1層は火熱を受けて赤変硬化している。

#### 竈土層解説

- |                            |                           |
|----------------------------|---------------------------|
| 1 明赤褐色 焼土ブロック多量, ロームブロック少量 | 2 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 |
|----------------------------|---------------------------|

**ピット** 15か所。P1～P4及びP6～P15は深さ42～82cmで、配置から主柱穴である。第16～19層はP8・10・12の覆土で、第16～18層は柱材抜き取り後の覆土、第19層は柱痕跡である。P8はP7に、P10はP9に、P12はP11に掘り込まれていることから、立て替えられている。第12～15層は埋土、第11層は柱痕跡、第8～10層は柱材を抜き取った後の覆土である。P6はP1に、P7はP2に、P9はP3に掘り込まれていることから、立て替えられている。P13～P15と他のピットとの重複関係は、不明である。P5は深さ32cmで、出入り口施設に伴うピットである。底面から柱の当たりが2か所確認できたことから、立て替えられている可能性がある。第4～7層は埋土、第3層は柱痕跡、第1・2層は柱材を抜き取った後の覆土である。P1～P15の底面で、柱の当たりを確認した。

#### ピット土層解説 (各ピット共通)

- |                              |                               |
|------------------------------|-------------------------------|
| 1 褐色 ロームブロック少量               | 11 黒色 ロームブロック微量               |
| 2 黒褐色 ロームブロック中量              | 12 褐色 ロームブロック中量               |
| 3 黒褐色 ローム粒子少量                | 13 黄褐色 ロームブロック中量              |
| 4 褐色 ロームブロック少量, 鹿沼軽石ブロック微量   | 14 におい黄褐色 ロームブロック中量           |
| 5 黒褐色 ロームブロック・鹿沼軽石ブロック少量     | 15 明黄褐色 ロームブロック多量, 鹿沼軽石ブロック少量 |
| 6 黄褐色 ロームブロック中量, 鹿沼軽石ブロック微量  | 16 におい黄褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 |
| 7 褐色 ロームブロック・鹿沼軽石ブロック少量      | 17 におい黄褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック少量 |
| 8 におい黄褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 18 灰黄褐色 ロームブロック多量, 焼土ブロック少量   |
| 9 褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量        | 19 極暗褐色 ロームブロック少量             |
| 10 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量   |                               |

**貯蔵穴** 北東部の主柱穴群付近に位置する。長軸70cm、短軸54cmの隅丸長方形で、深さは46cmである。7層に分層できる。第1～6層はロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第1・2層は締まりの強い堆積層であることや、P1に掘り込まれていることから、建物が存続している途中で廃絶されたと考えられる。また第7層はロームブロックが含まれる締まりの強い堆積層で、上面が平坦であることから、底面として使用されていた可能性がある。

#### 貯蔵穴土層解説

- |                            |                             |
|----------------------------|-----------------------------|
| 1 黄褐色 ロームブロック少量            | 5 黄褐色 ロームブロック中量             |
| 2 におい黄褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 6 暗褐色 ロームブロック少量             |
| 3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量       | 7 におい黄褐色 ロームブロック・鹿沼軽石ブロック少量 |
| 4 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量     |                             |

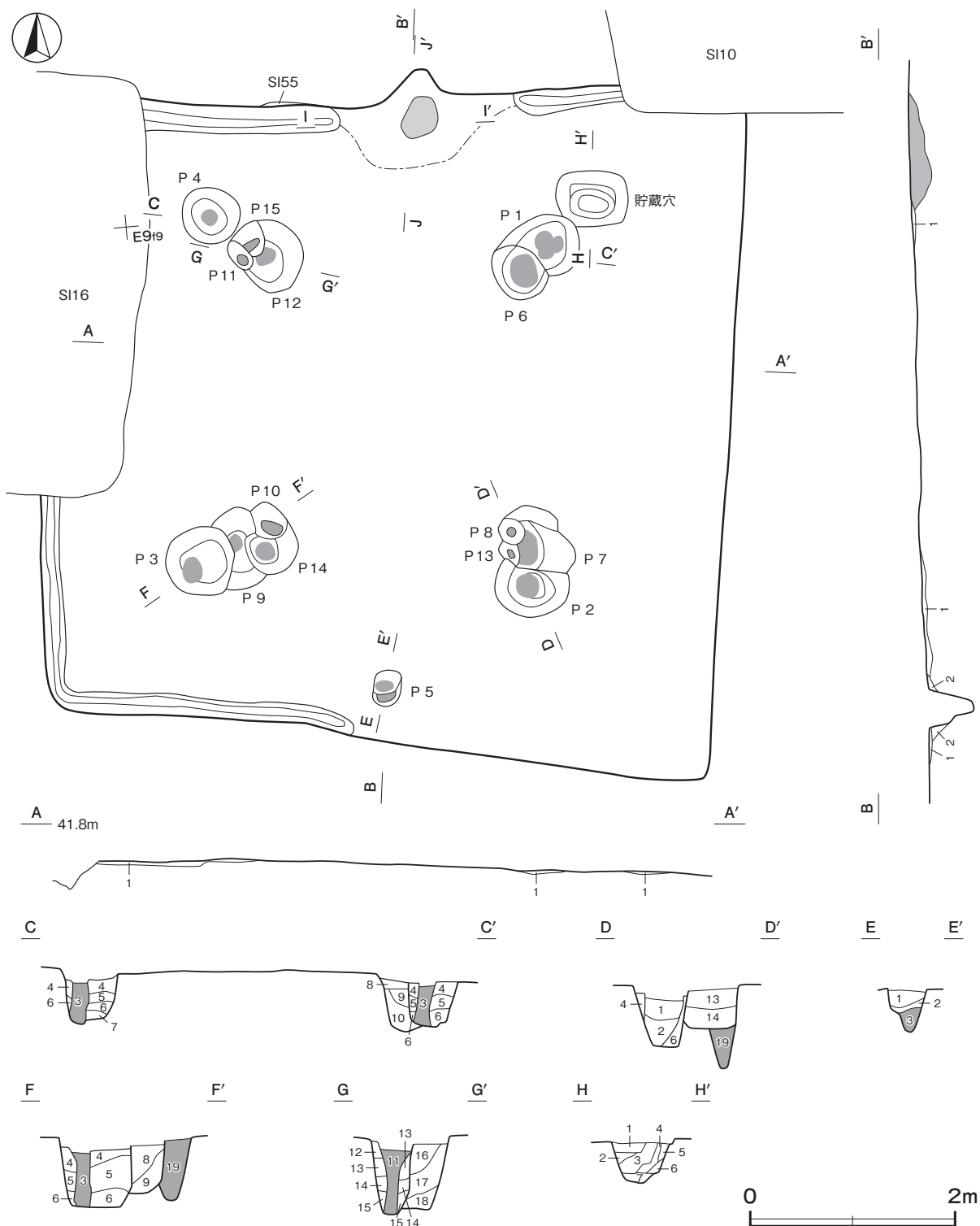
**貼床構築土** 第1・2層は貼床の構築土である。

#### 貼床土層解説

- |                    |                           |
|--------------------|---------------------------|
| 1 におい黄褐色 ロームブロック中量 | 2 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 |
|--------------------|---------------------------|

**遺物出土状況** 土師器片25点(坏1, 甕類24)のほか、縄文土器片1点(深鉢), 弥生土器片3点(壺類)が、主に掘方やP1の埋土から出土している。土器は小片で、接合関係に乏しい。出土した坏は小片で図示できないが、内面黒色処理が施された栗罎式の土師器と思われる。

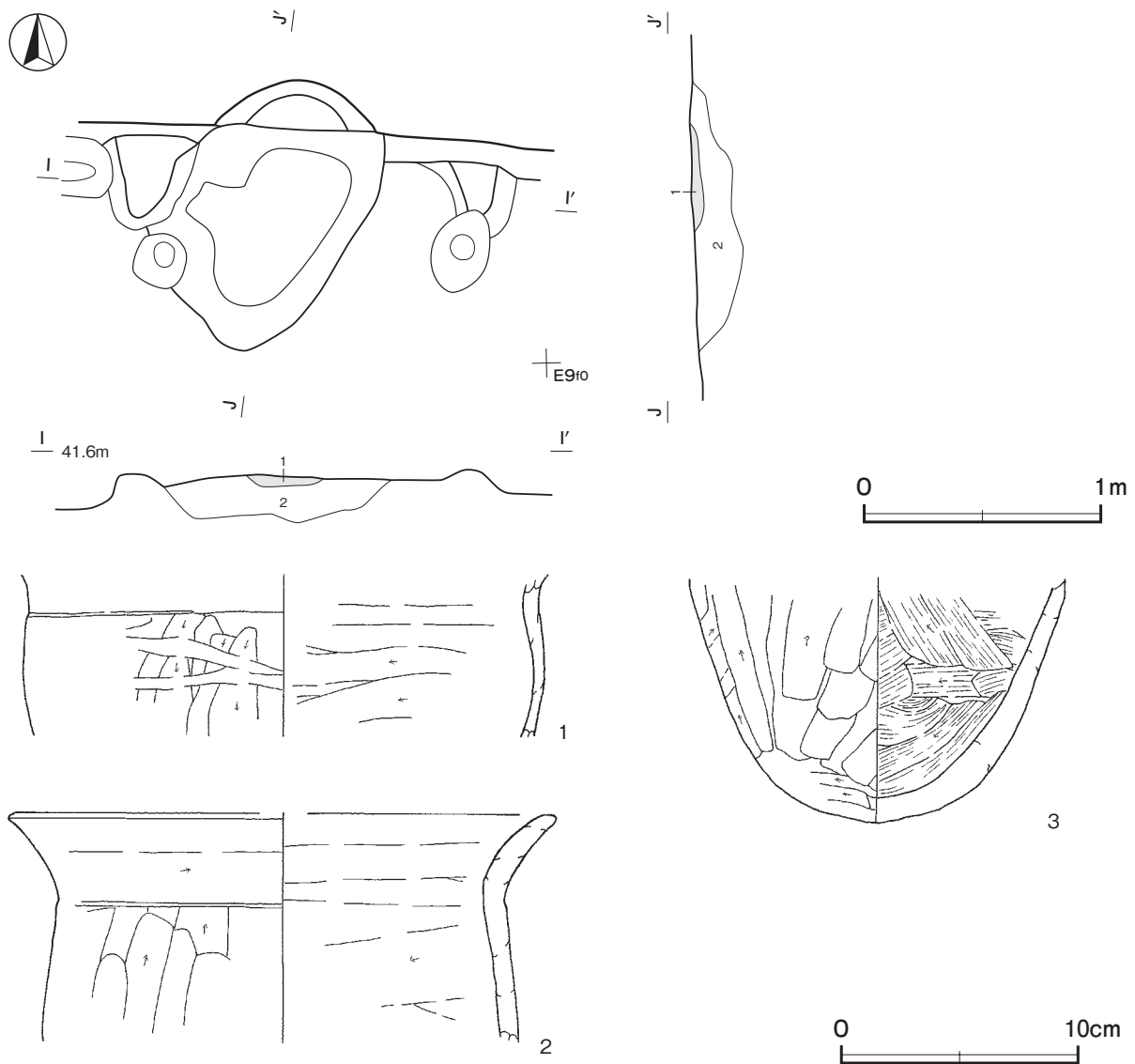
**所見** 時期は、出土土器から6世紀後葉と推定できる。



第 67 図 第 15 号竪穴建物跡実測図

第 15 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 68 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	甕	-	(6.9)	-	長石・雲母・針状物質・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の削り後横位のナデ 体部内面横位のナデ	貼床構築土	10%
2	土師器	甕	[22.6]	(9.7)	-	長石・雲母・赤色粒子・細礫	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の削り 体部内面横位のナデ	貼床構築土	5%
3	土師器	甕	-	(10.3)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい黄褐	普通	体部外面横位のナデ後縦位の削り 体部内面横位のハケ目状のナデ後縦位のナデ 底面内面一方向の削り 底面内面一方向のナデ	貼床構築土	5%



第 68 図 第 15 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

### 第 22 号竪穴建物跡 (第 69 ~ 71 図)

調査年度 平成 25 年度

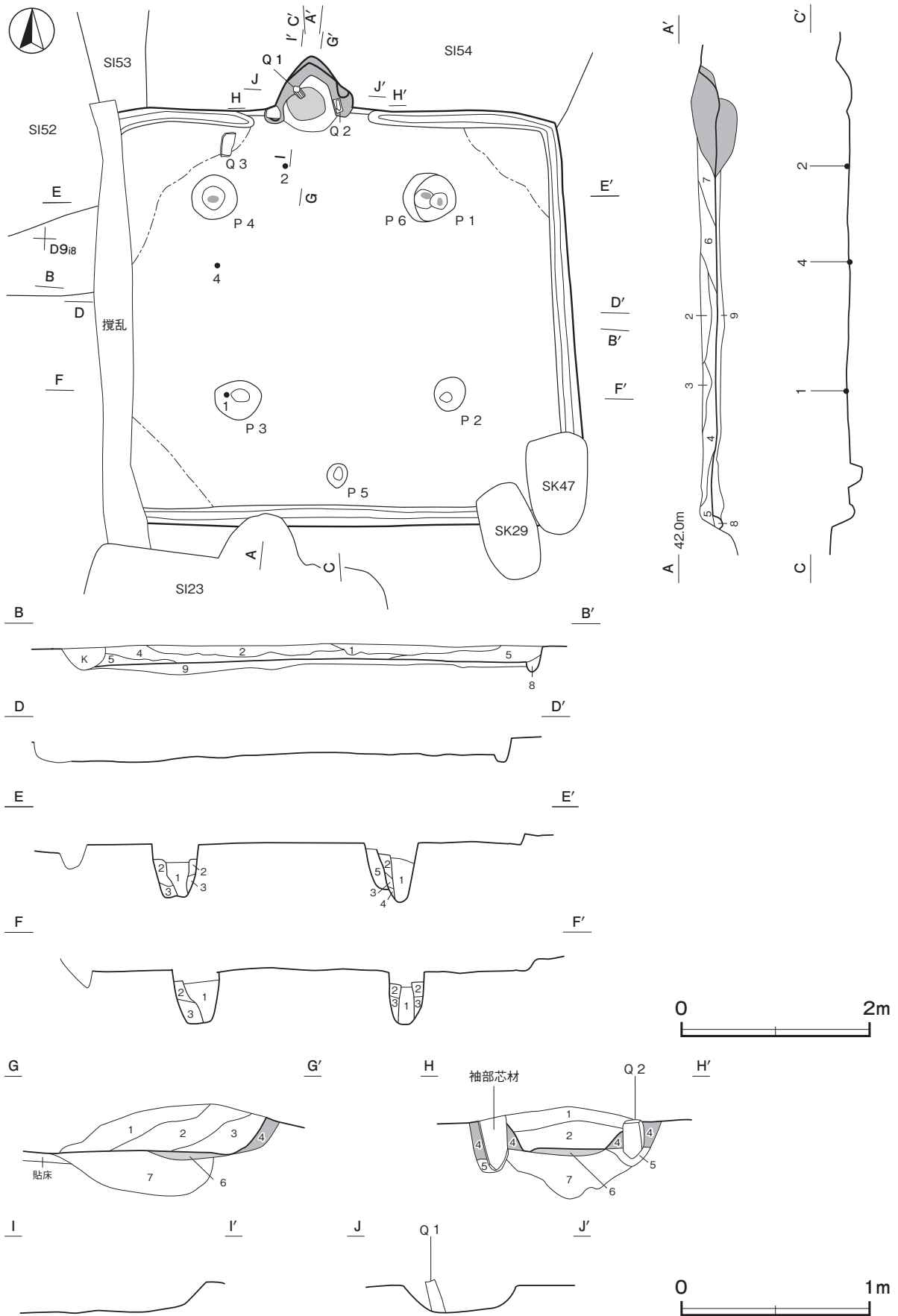
位置 調査区東部の D 9 i 8 区, 標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第 52 ~ 54 号竪穴建物跡を掘り込み, 第 23 号竪穴建物, 第 29・47 号土坑に掘り込まれている。

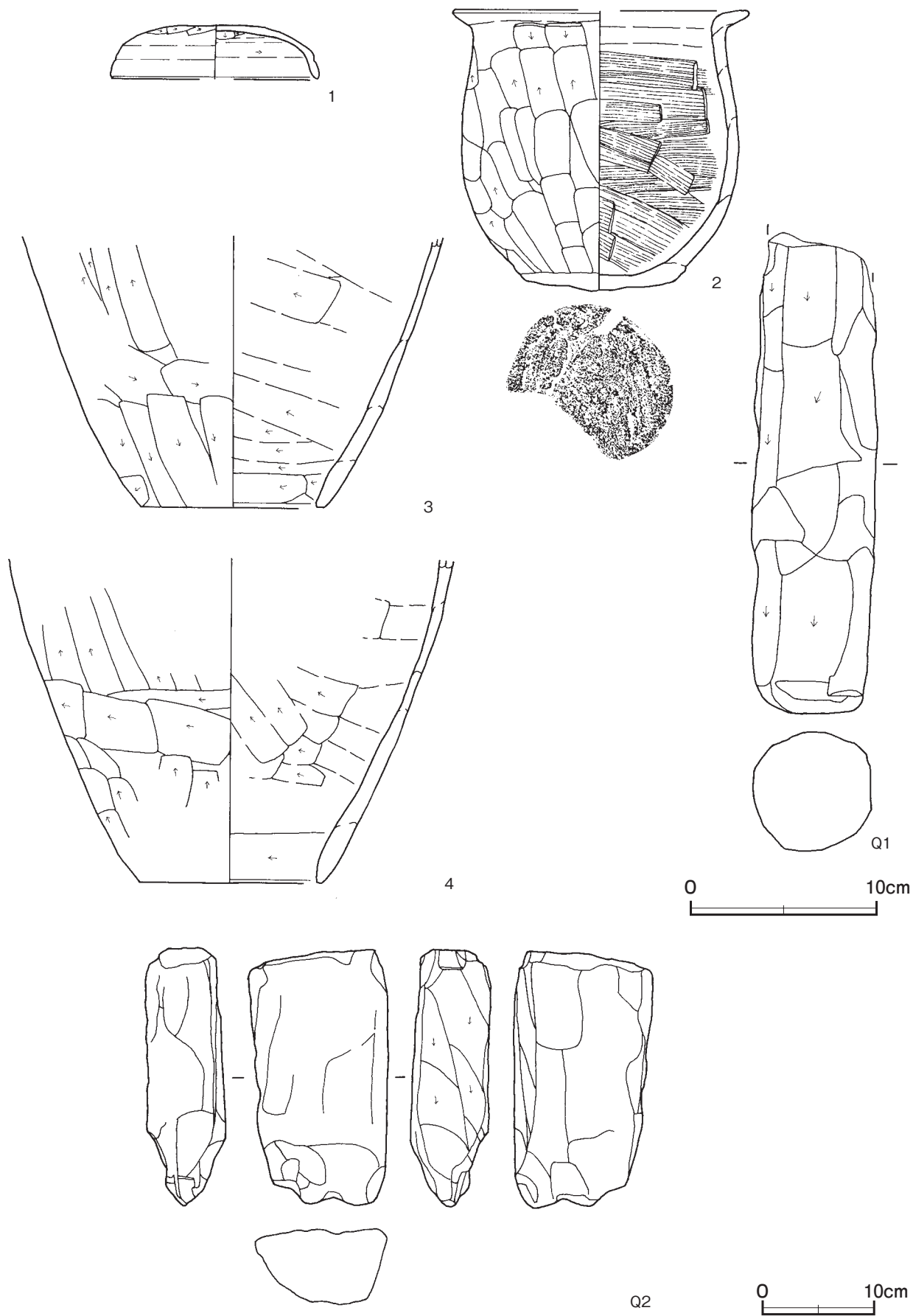
規模と形状 西壁を攪乱によって壊されていることから, 短軸は 4.42 m で, 長軸は 4.71 m しか確認できなかった。方形と推定でき, 主軸方向は N - 6° - W である。壁は高さ 10 ~ 19cm で, ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦な貼床で, 第 29・47 号土坑や攪乱によって掘り込まれた部分及び北東隅部, 南西隅部, 北西隅部の壁際を除いて踏み固められている。貼床は, 第 9 層を 5 ~ 10cm ほど埋め戻して構築されている。壁溝が, 第 29・47 号土坑や攪乱によって掘り込まれた部分を除いて巡っている。

竈 北壁中央部の西寄りに付設されている。焚口部から煙道部までは 74cm, 燃焼部の幅は 40cm である。燃焼部は床面から 26cm ほど掘りくぼめられ, 第 6・7 層で埋め戻されている。袖部は, 芯材として Q 2 を深さ 7



第 69 图 第 22 号竖穴建物迹实测图



第70图 第22号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)



～10cmのピットに第5層で固定した後、地山面や床面及び第5・7層上面に第4層を積み上げて構築されている。火床面は第6・7層の上面で、第6層は火熱を受けて赤変硬化している。Q1は下端部が第6・7層で埋められ据えつけられており、支脚として用いられている。煙道部は壁外に50cmほど掘り込まれ、火床面から内彎している。第1～3層には焼土ブロックや粘土ブロックが含まれており、竈の左袖近辺にQ3が廃棄されていることから壊されている。

#### 竈土層解説

- |        |                         |        |                    |
|--------|-------------------------|--------|--------------------|
| 1 褐色   | ロームブロック・焼土ブロック少量        | 5 暗褐色  | ロームブロック少量          |
| 2 褐灰色  | 焼土ブロック・粘土ブロック少量         | 6 明赤褐色 | 焼土ブロック多量、ロームブロック少量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、ロームブロック少量      | 7 褐色   | ロームブロック少量、焼土粒子微量   |
| 4 灰黄褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量 |        |                    |

**ピット** 6か所。P1～P4及びP6は深さ58～64cmで、配置から主柱穴である。第5層はP6の覆土で、埋土である。P6はP1に掘り込まれていることから、立て替えられている。第2～4層は埋土、第1層は柱材を抜き取った後の覆土である。P5は深さ16cmで、出入口口施設に伴うピットである。P1・P4・P6の底面で、柱の当たりを確認した。

#### P1～P4土層解説

- |       |                  |       |           |
|-------|------------------|-------|-----------|
| 1 褐灰色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 褐色  | ロームブロック中量        | 4 褐色  | ロームブロック少量 |

#### P6土層解説

- 5 灰黄褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック少量

**覆土** 8層に分層できる。ロームブロックが含まれる不規則な堆積をしていることから、埋め戻されている。第9層は貼床の構築土である。

#### 土層解説

- |          |                    |          |                  |
|----------|--------------------|----------|------------------|
| 1 黒褐色    | ロームブロック少量          | 6 におい黄褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| 2 黒褐色    | ロームブロック・焼土ブロック少量   | 7 褐灰色    | 焼土ブロック・粘土ブロック少量  |
| 3 暗褐色    | ロームブロック少量          | 8 褐色     | ロームブロック少量        |
| 4 灰黄褐色   | ロームブロック少量          | 9 におい黄褐色 | ロームブロック中量        |
| 5 におい黄褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック少量 |          |                  |

**遺物出土状況** 土師器片141点（坏8、鉢類1、甌2、甕類130）、須恵器片2点（坏2）、石製品7点（支脚1、袖部芯材1、竈材5）が、主に竈周辺及び西半部から出土している。多くの土器は小片で、接合関係に乏しいことから、破損したものが廃絶に伴って投棄されたと考えられる。1・2は竈やP3周辺から比較的良好な遺存状態で出土していることから、廃絶後の早い段階で投棄されたと考えられる。

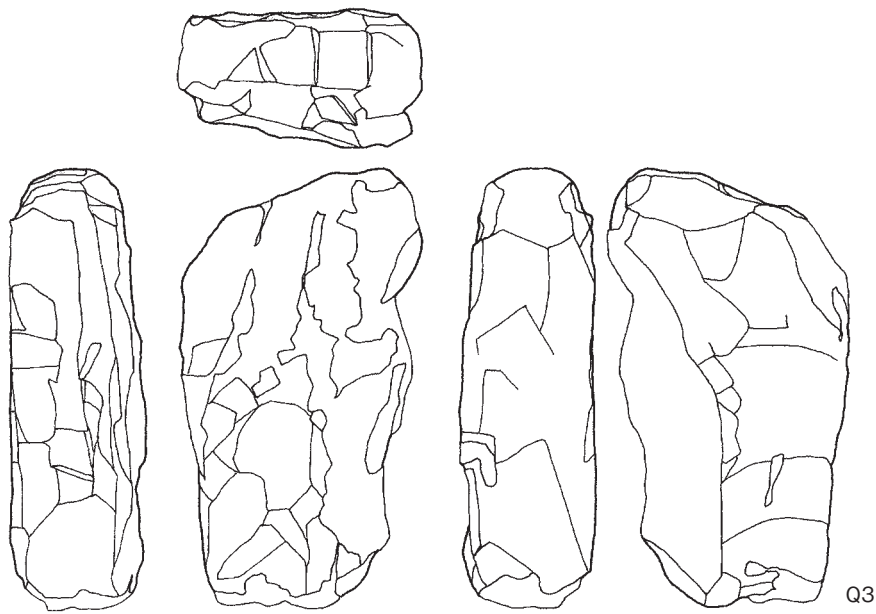
**所見** 時期は、出土土器から7世紀前葉に比定できる。

#### 第22号竪穴建物跡出土遺物観察表（第70・71図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	蓋	[11.0]	2.9	5.0	石英・白色粒子・黒色粒子	黄灰	良好	ロクロナデ 底部多方向の手持ち削り 底部一部ナデ	覆土第4層中	40% PL86 産地不明
2	土師器	小形甕	[15.6]	16.0	8.0	石英・礫・白色粒子・針状物質	におい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の削り 体部、内面ハケ目状の横・斜位のナデ 底部二方向の削り	覆土第7層中	50% 煤付着
3	土師器	甌	-	(14.7)	[10.0]	長石・石英・雲母・針状物質	におい橙	普通	体部外面縦位の削り 下部横・斜位の削り 内面横・斜位のナデ 下部横位の削り	覆土中	10% 煤付着
4	土師器	甌	-	(17.5)	(9.8)	長石・石英・雲母・針状物質	におい橙	普通	体部外面縦位の削り 下部横・斜位の削り 内面横・斜位のナデ 下部横位の削り	覆土第4層中	20% 煤付着

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	支脚	(26.0)	6.6	6.4	(630)	凝灰質泥岩	上面欠損 下面調整不明 側面二方向の削り調整	火床面	PL105
Q2	袖部芯材	23.2	12.6	7.2	945	凝灰質泥岩	上面・側面削り調整 下部部先尖状に加工 袖芯材	袖部構築土中	PL105
Q3	竈材	29.0	16.0	8.9	1,740	凝灰質泥岩	上・下面一方向の削り調整 側面二方向の削り調整 懸架材。	左袖近辺 覆土第7層中	



第71図 第22号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

**第28号竪穴建物跡** (第72～74図 PL10・11)

**調査年度** 平成25年度

**位置** 調査区東部のD9h5区、標高42mほどの台地平坦面に位置している。

**重複関係** 第26号竪穴建物、第1号掘立柱建物、第44号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸6.70m、短軸6.45mの方形で、主軸方向はN-15°-Eである。壁は高さ8～20cmで、ほぼ直立している。

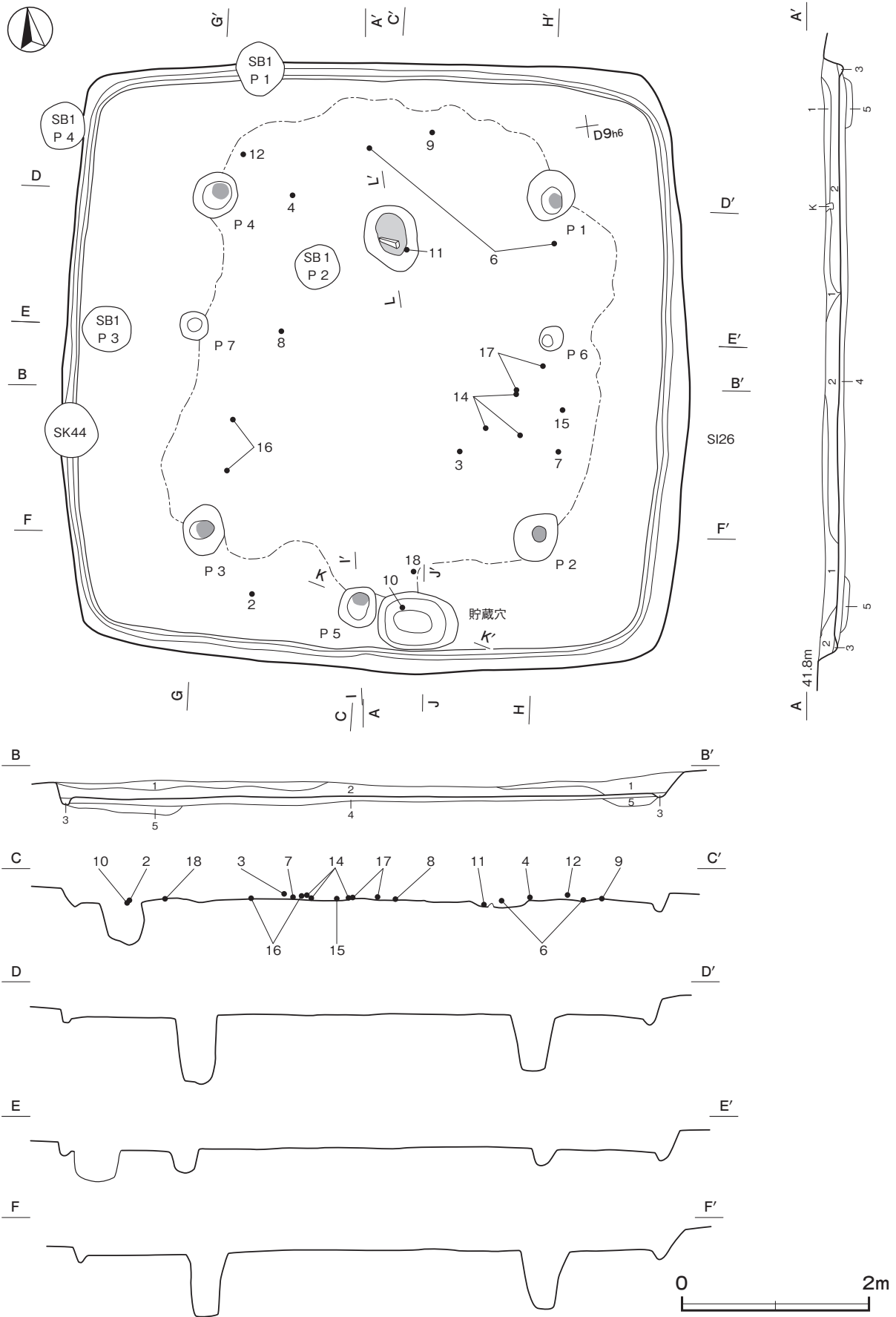
**床** 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。貼床は、第4・5層を5～10cmほど埋め戻して構築されている。掘方は中央部分を残して、回字状に掘り込まれている。壁溝が、壁下を全周している。

**炉** 中央部の北寄りに付設されている。長径72cm、短径60cmの楕円形で、地床炉である。深さ12cmほど掘りくぼめ、第3層を3cmほど埋土して炉床が構築されている。炉床面は、赤変硬化している。炉床面に接して、破損した石皿が出土している。火熱を受けていることから、炉石に転用された可能性がある。第1・2層は、ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

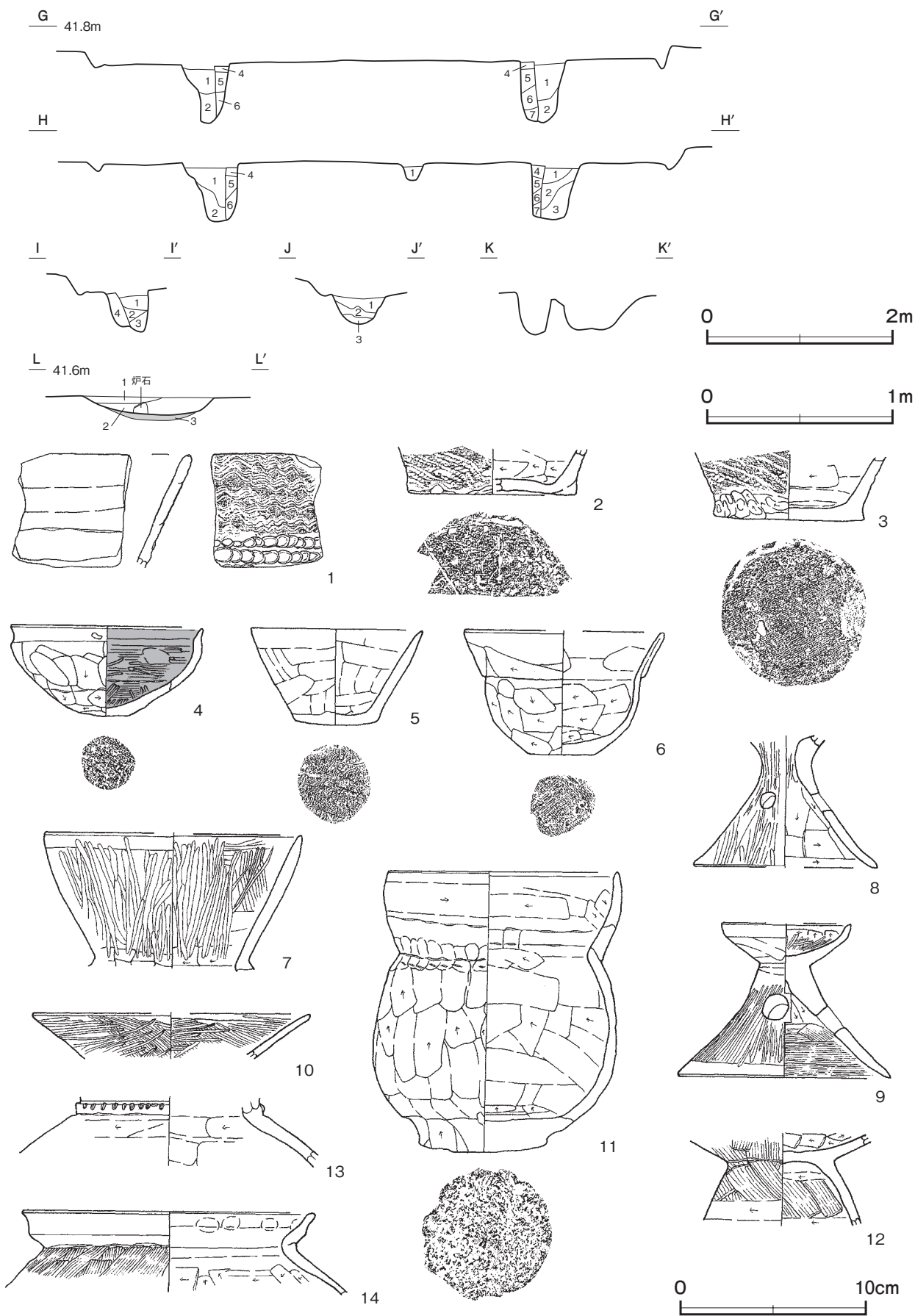
**炉土層解説**

- |                        |                  |
|------------------------|------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量        | 3 明赤褐色 ロームブロック少量 |
| 2 褐灰色 ロームブロック・焼土ブロック少量 |                  |

**ピット** 7か所。P1～P4は深さ60～68cmで、配置から支柱穴である。P5は深さ46cmで、出入口口施設に伴うピットである。第4～7層は埋土、第1～3層は柱材を抜き取った後の覆土である。P6・P7は深さ18～22cmで、支柱穴の補助柱穴と考えられる。覆土は、柱材を抜き取った後の覆土である。P1～P5の



第72図 第28号竖穴建物跡実測図



第 73 图 第 28 号竖穴建物跡・出土遺物実測図

底面で、柱のあたりを確認した。

**P 1～P 5 土層解説**

- |         |                  |          |                     |
|---------|------------------|----------|---------------------|
| 1 暗 褐 色 | ロームブロック・炭化物少量    | 5 灰 褐 色  | ロームブロック少量, 粘土ブロック微量 |
| 2 黒 褐 色 | ロームブロック少量        | 6 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量           |
| 3 褐 灰 色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 7 暗 褐 色  | ロームブロック少量           |
| 4 褐 色   | ロームブロック少量        |          |                     |

**P 6 土層解説**

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック少量

**貯蔵穴** P 5の東側付近に位置している。長軸 85cm, 短軸 60cmの隅丸長方形で、深さは 34cmである。底面は平坦で、壁は外傾もしくはほぼ直立した後、外傾している。3層に分層できる。第1～3層はロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。10は破片の状態で、覆土の上面で出土していることから、建物の廃絶に伴って投棄されたと考えられる。

**貯蔵穴土層解説**

- |         |                     |         |                     |
|---------|---------------------|---------|---------------------|
| 1 暗 褐 色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量 | 3 黄 褐 色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック微量 |
| 2 黒 褐 色 | ロームブロック・焼土ブロック少量    |         |                     |

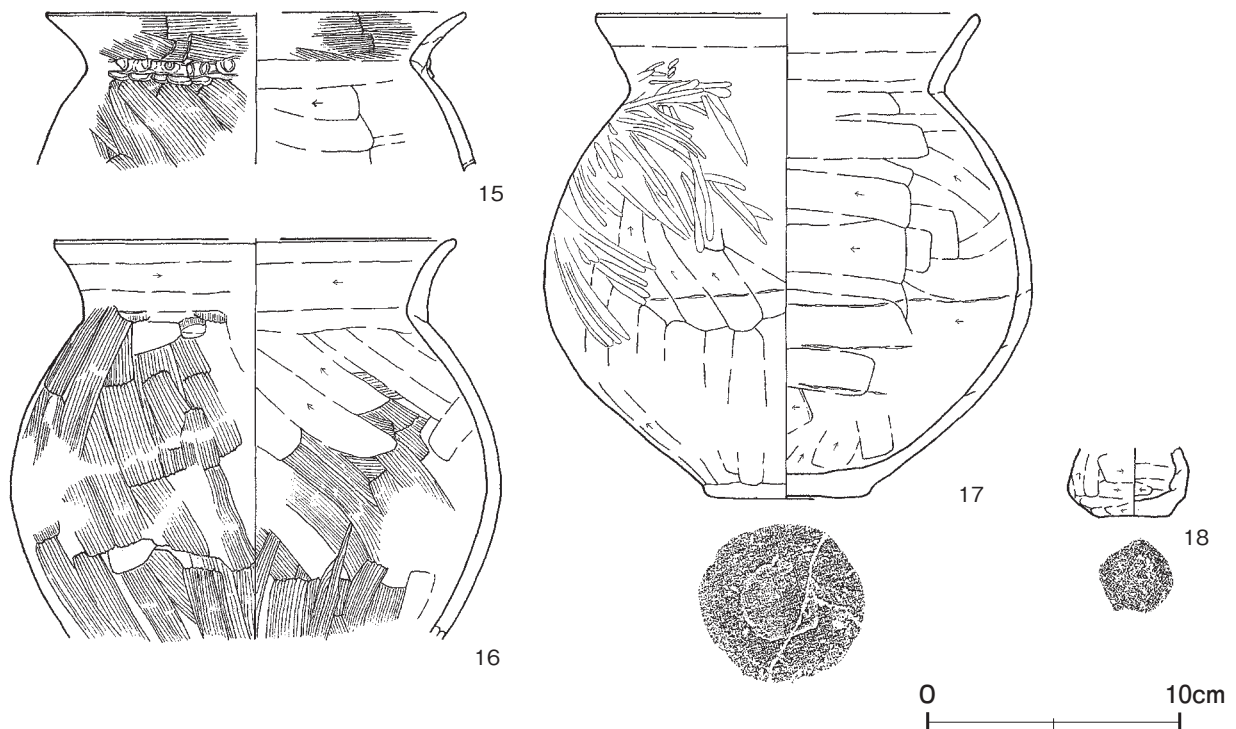
**覆土** 3層に分層できる。ロームブロックが含まれる不規則な堆積をしていることから、埋め戻されている。第4・5層は貼床の構築土である。

**土層解説**

- |          |                         |         |           |
|----------|-------------------------|---------|-----------|
| 1 暗 褐 色  | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量 | 4 暗 褐 色 | ロームブロック中量 |
| 2 褐 色    | ロームブロック中量, 焼土ブロック微量     | 5 黒 褐 色 | ロームブロック少量 |
| 3 にぶい黄褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量        |         |           |

**遺物出土状況** 土師器片 540 点（椀 2, 埴 26, 器台 3, 高坏 6, 壺 3, 甕類 499, ミニチュア土器 1）石器 1 点（砥石）のほか、縄文土器片 169 点（深鉢）、弥生土器片 47 点（壺類）、石器 3 点（石皿, 敲石, 凹石）が、全域から散在して出土している。多くの土器は大破片から小片のものが含まれており、接合関係が比較的良好であることから、埋め戻しに伴って一括で投棄されたと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から 4 世紀中葉に比定できる。南関東や東海系などの土師器が出土していることから、



第 74 図 第 28 号 竪穴建物跡出土遺物実測図

地域間の交流によって、多方面の文化圏に影響を受けた土器がもたらされたと考えられる。

第 28 号 竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 73・74 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	弥生土器	広口壺	-	(6.0)	-	長石・石英・針状物質・黒色粒子	にぶい橙	普通	口縁部上端部縄文 波状文 下位隆帯文3条	覆土中	10%
2	弥生土器	広口壺	-	(2.5)	[9.0]	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい黄橙	普通	体部外面附加条一種附加1条、下端部ナデ 体部内面横位のナデ 底部木葉痕	覆土下層	10%
3	弥生土器	広口壺	-	(3.6)	8.2	長石・石英・針状物質・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面附加条二種附加1条、下端部指ナデ 体部内面横位のナデ 底部多方向のナデ	覆土下層	10%
4	土師器	椀	10.2	4.8	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部横ナデ 底部外面削り 底部内面横位のナデ後縦・横位の磨き	覆土下層	80% PL70
5	土師器	埴	9.3	5.2	4.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部横ナデ 体部外・内面縦位のナデ後横位のナデ 底部一方向のナデ	覆土下層	70% PL71
6	土師器	埴	[10.7]	6.5	3.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横位のナデ 体部外面縦・横位の削り、内面縦・横位のナデ 底部一方向の削り	覆土下層	50%
7	土師器	埴	[13.8]	(7.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外面横位のナデ後縦位の磨き 口縁部内面横位のナデ後縦・横位の磨き	覆土下層	10%
8	土師器	器台	-	(7.1)	[10.0]	長石・石英・雲母・針状物質・赤色粒子	橙	普通	脚部外面縦位のナデ後縦位の磨き、内面縦位のナデ後横位のナデ 穿孔1か所	覆土下層	40%
9	土師器	器台	7.0	8.3	11.5	長石・石英・雲母・針状物質・赤色粒子	橙	普通	坏口縁部横ナデ後外面斜位のナデ 内面多方向の磨き 脚部外面縦位の磨き後 下部横ナデ 脚部内面縦位のナデ後横位のハケ目調整 穿孔4か所	覆土下層	80% PL73
10	土師器	高坏	[14.9]	(2.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	赤褐	普通	口縁部外・内面二方向の磨き 赤彩	覆土下層	10%
11	土師器	小形甕	12.3	15.2	6.9	長石・石英・雲母・針状物質・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横位のナデ 頸部に指頭圧痕 体部外面縦位のナデ後下部削り 体部内面横・斜位のナデ	覆土下層	90% 二次焼成 煤附着
12	土師器	台付甕	-	(5.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部内面縦位のハケ目調整、内面斜位方向のナデ 脚部外・内面斜位のハケ目調整	覆土下層	10% 脚部内面に煤附着
13	土師器	甕	-	(3.7)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	頸部隆帯貼付、隆帯にへら状工具による刻み文 体部外・内面横位のナデ	覆土中	10% PL88
14	土師器	甕	15.7	(4.4)	-	長石・石英・雲母・針状物質・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ、指頭痕 体部外面縦・斜位のハケ目調整、内面縦・横位のナデ	覆土下層	10% PL78 煤附着
15	土師器	甕	[16.5]	(6.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のハケ目調整 頸部隆帯貼付 体部外面斜位のハケ目調整、内面横位のナデ	覆土下層	10%
16	土師器	甕	[15.8]	(15.8)	-	長石・石英・雲母・針状物質・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位のハケ目調整、内面斜位のナデによるハケ目調整ナデ消し	覆土下層	50% 煤附着
17	土師器	甕	[15.0]	19.2	6.4	長石・石英・雲母・針状物質・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦・斜位の磨き、内面縦位のナデ後横・斜位のナデ 底部一方向のナデ	覆土下層	70% PL79 煤附着
18	土師器	ミニチュア土器	-	(2.8)	2.9	長石・石英・雲母・針状物質・赤色粒子	浅黄橙	普通	体部外面縦・横位のナデ後下部削り、内面横位の指ナデ 底部多方向のナデ	覆土下層	70% PL85

### 第 33 号 竪穴建物跡 (第 75 図)

調査年度 平成 25 年度

位置 調査区東部の D 9j7 区、標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第 34 号 竪穴建物跡を掘り込み、第 23・31・32 号 竪穴建物、第 4 号 方形竪穴遺構に掘り込まれている。

規模と形状 第 23・31・32 号 竪穴建物などに掘り込まれているが、長軸 6.08 m、短軸は 5.80 m の方形と推定でき、主軸方向は N - 10° - E である。壁は高さ 8 ~ 10 cm で、ほぼ直立している。

床 平坦で、南東隅部、北西隅部及び北壁東半部の壁際を除いて踏み固められている。

ピット 8 か所。P 1 ~ P 4 及び P 5 ~ P 8 は深さ 44 ~ 70 cm で、配置から主柱穴である。P 5 は P 1 に、P 8 は P 4 に掘り込まれていることから、立て替えられている。第 8 層は柱材を抜き取った後の覆土、第 5 ~ 7 層は埋土、第 4 層は柱痕跡、第 1 ~ 3 層は柱材を抜き取った後の覆土である。P 6 は P 2 と、P 7 は P 3 と重複関係にあるが、新旧関係は不明である。配置や古い柱穴が新しい柱穴より深く掘り込まれている本跡の柱穴の傾向から、P 6 は P 2 に、P 7 は P 3 に立て替えられた可能性がある。P 1 ~ P 8 の底面で、柱の当たりを確認した。

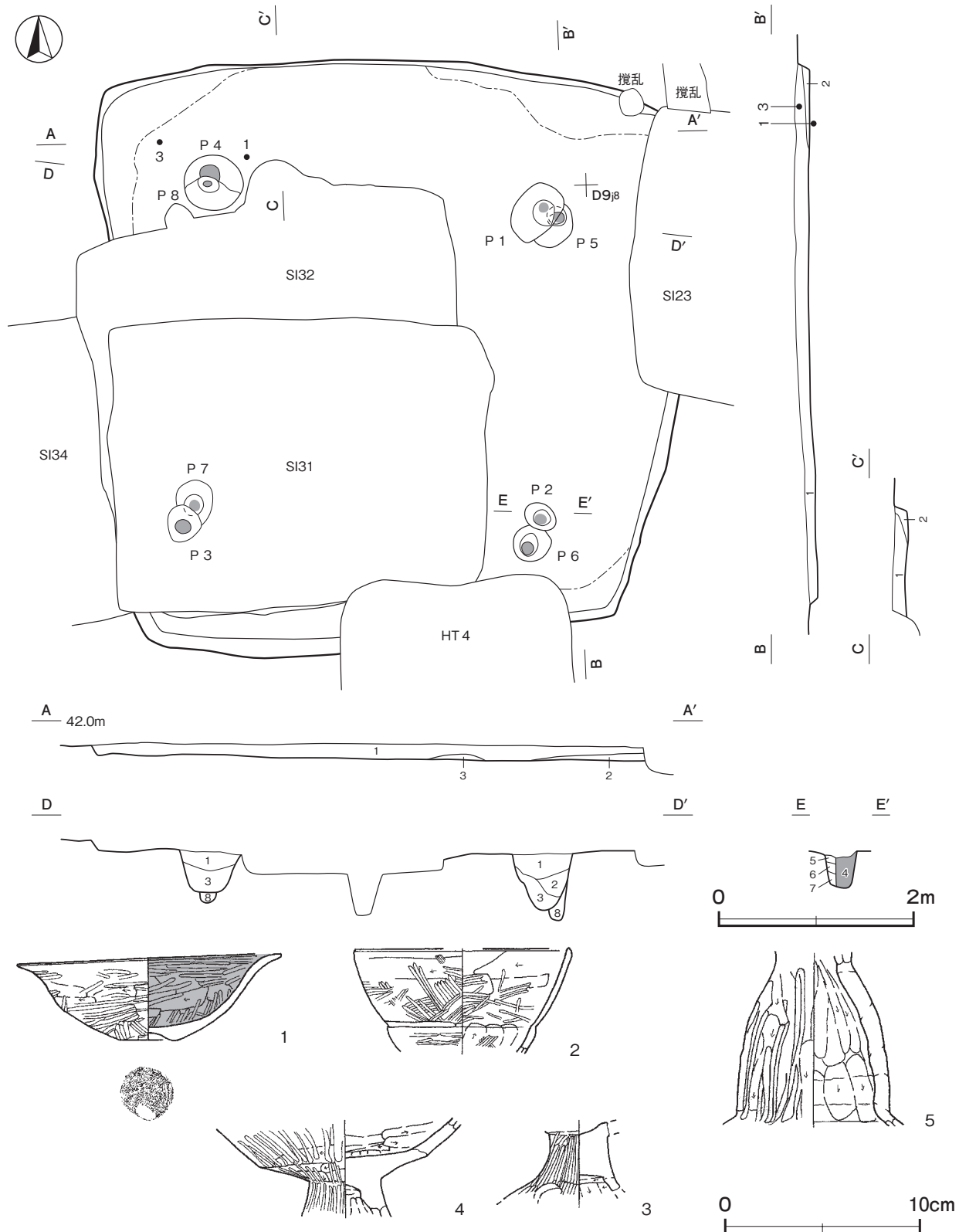
#### ピット土層解説 (各ピット共通)

1 暗褐色 ロームブロック中量	5 暗褐色 ロームブロック少量
2 黒褐色 ロームブロック少量	6 褐灰色 ロームブロック中量
3 褐灰色 ロームブロック少量	7 褐色 ロームブロック中量
4 黒褐色 ローム粒子少量、炭化物微量	8 黄褐色 ロームブロック多量

覆土 3層に分層できる。ローム粒子や白色粒子が含まれ、レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、白色粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量
- 3 褐灰色 ローム粒子少量、焼土粒子微量



第75図 第33号竪穴建物跡・出土遺物実測図

**遺物出土状況** 土師器片 60 点（坏 1， 埴 8， 器台 2， 高坏 4， 甕類 45）のほか， 縄文土器片 23 点（深鉢）， 弥生土器片 25 点（壺類）， 土製品 1 点（土器片錘）， 剥片 1 点（チャート）， 石製品 2 点（竈材， 不明）が， 主に北部及び東半部から出土している。多くの土器は小片で， 接合関係に乏しいことから， 埋没の過程で破損したものが投棄されたと考えられる。1 は底部の中央に窪みを有すことから， 高坏の坏部に影響を受けた土器で， 外反する形状やヘラ磨きが施されている。遺存状態が良好なことから， 建物の廃絶に伴って廃棄されたと考えられる。4 は第 34 号竪穴建物跡からの混入の可能性がある。

**所見** 時期は， 出土土器から 5 世紀前葉に比定できる。

### 第 33 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 75 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	13.6	4.5	2.8	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横位の磨き 底部分外・内面横位のナデ後斜位二方向の磨き 底中央部に窪み， 螺旋状のナデ 内面黒色処理	床面直上	80% PL67
2	土師器	埴	[10.9]	(5.3)	-	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ後斜位二方向の磨き 底部外面横位の磨き， 内面縦位のナデ後二方向の磨き 口縁部下端に横位の洗線	覆土中	20%
3	土師器	器台	-	(4.4)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	上部凹部螺旋状のナデ 脚部外面 2 段縦位の磨き， 内面横位のナデ後縦位のナデ 穿孔 2 か所	覆土上層	10%
4	土師器	高坏	-	(5.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	環部外面横位のナデ後縦位の磨き 下部縦位の削り後縦位の磨き， 内面二方向のナデ 脚部外面縦位の磨き， 内面縦位のナデ	覆土中	10%
5	土師器	高坏	-	(8.8)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	脚部外面縦位の削り後縦位の磨き， 内面縦位のナデ 輪積み痕	覆土中	20%

### 第 34 号竪穴建物跡（第 76・77 図 PL11）

**調査年度** 平成 25 年度

**位置** 調査区東部の D 9j6 区， 標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

**重複関係** 第 31～33・35 号竪穴建物に掘り込まれている。

**規模と形状** 第 31～33・35 号竪穴建物に掘り込まれていることから， 南北軸は 3.14 m で， 東西軸は 2.92 m しか確認できなかった。方形もしくは長方形と推定でき， 主軸方向は N-8°-E である。壁は高さ 12cm で， ほぼ直立している。

**床** 平坦で， 中央部が踏み固められている。壁溝が， 北壁及び西壁下の一部に掘り込まれている。

**溝跡** 長さ 70cm， 幅 12cm， 深さ 10cm の溝が確認できた。P 5 東側の南壁下から北方向へ直線状に延びている。底面は平坦である。壁は外傾している。単一層で， ロームブロックが含まれることから， 埋め戻されている。貯蔵穴と P 5 を仕切るように配置されていることから， 間仕切りや溝跡と考えられる。

#### 溝土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量， 焼土ブロック微量

**炉** 3 か所。炉 1 は， 中央部付近に付設されていると推定できる。長径 52cm， 短径 46cm の円形の地床炉である。深さ 5 cm ほど掘りくぼめ， 炉床が構築されている。炉床面は， 赤変硬化している。単一層で， ロームブロックが比較的多く含まれていることから， 埋め戻されている。炉 2 は， 中央部の北東寄りに付設されていると推定できる。長径 48cm， 短径 24cm の楕円形の地床炉である。深さは 5 cm ほど掘りくぼめ， 炉床が構築されている。炉床面は， 赤変硬化している。炉 3 は， 中央部の北寄りに付設されていると推定できる。長径 40cm， 短径 34 cm の円形の地床炉である。深さは 5 cm ほど掘りくぼめ， 炉床が構築されている。炉床面は， 赤変硬化している。

#### 炉 1 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量， 焼土ブロック少量



**ピット** 5か所。P 1～P 4は深さ8～32cmで、配置から支柱穴の可能性はある。P 5は深さ7cmで、南壁際に位置することや貯蔵穴に近接することから、出入口施設に伴うピットの可能性がある。第1～3層は柱材を抜き取った後の覆土である。

**ピット土層解説 (各ピット共通)**

- 1  にぶい黄褐色  ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2  灰黄褐色  ロームブロック中量, 焼土ブロック少量
- 3  褐  灰  色  ロームブロック・焼土ブロック少量

**貯蔵穴**  南西隅部に位置し、長軸54cm、短軸50cmの隅丸方形である。深さ33cmである。底面は平坦で、壁は外傾している。3層に分層でき、第1～3層はロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

**貯蔵穴土層解説**

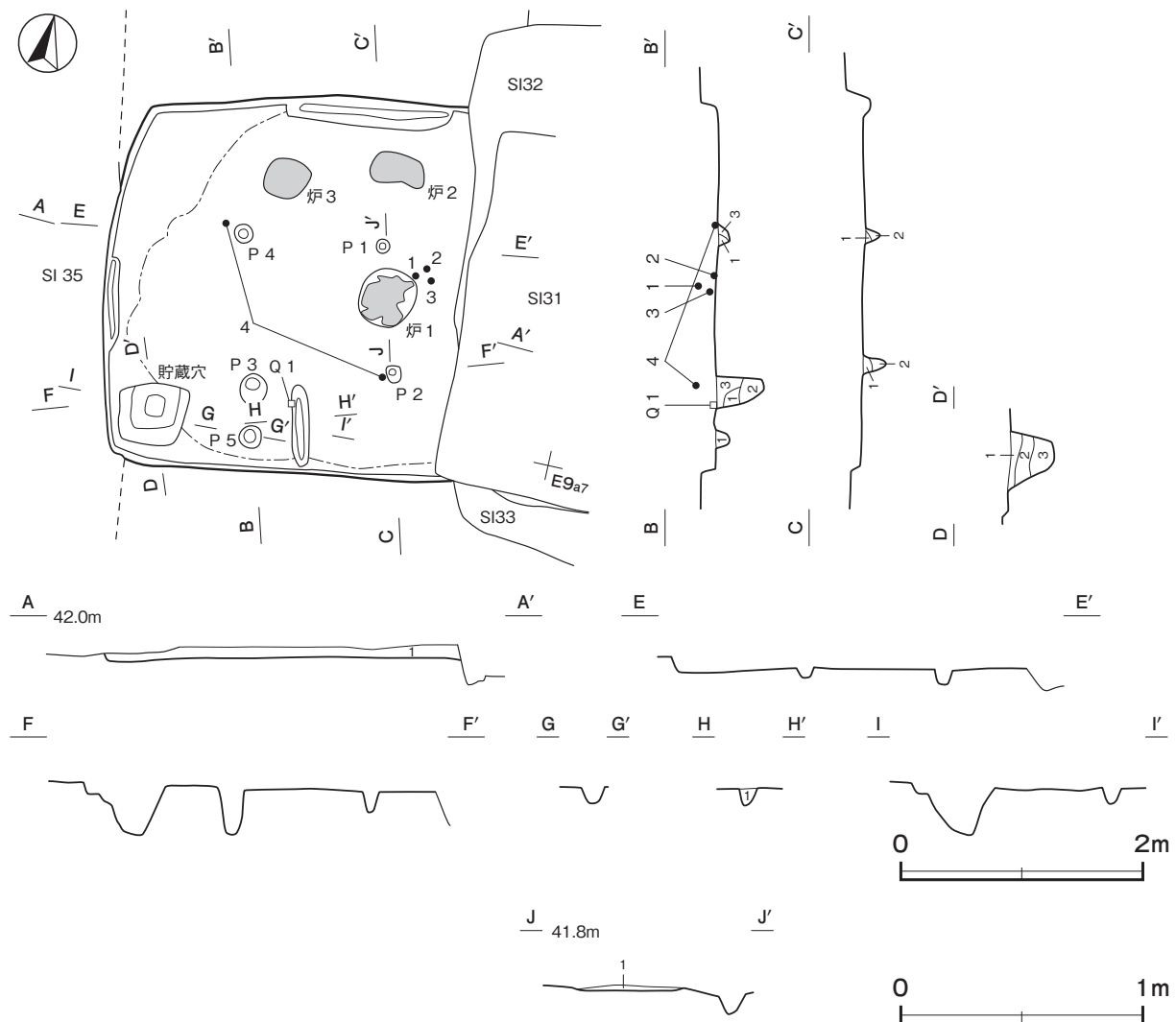
- 1  暗  褐  色  ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2  褐  灰  色  ロームブロック・焼土ブロック少量
- 3  にぶい黄褐色  ロームブロック少量

**覆土**  単一層である。ローム粒子や白色粒子が含まれていることから、自然堆積である。

**土層解説**

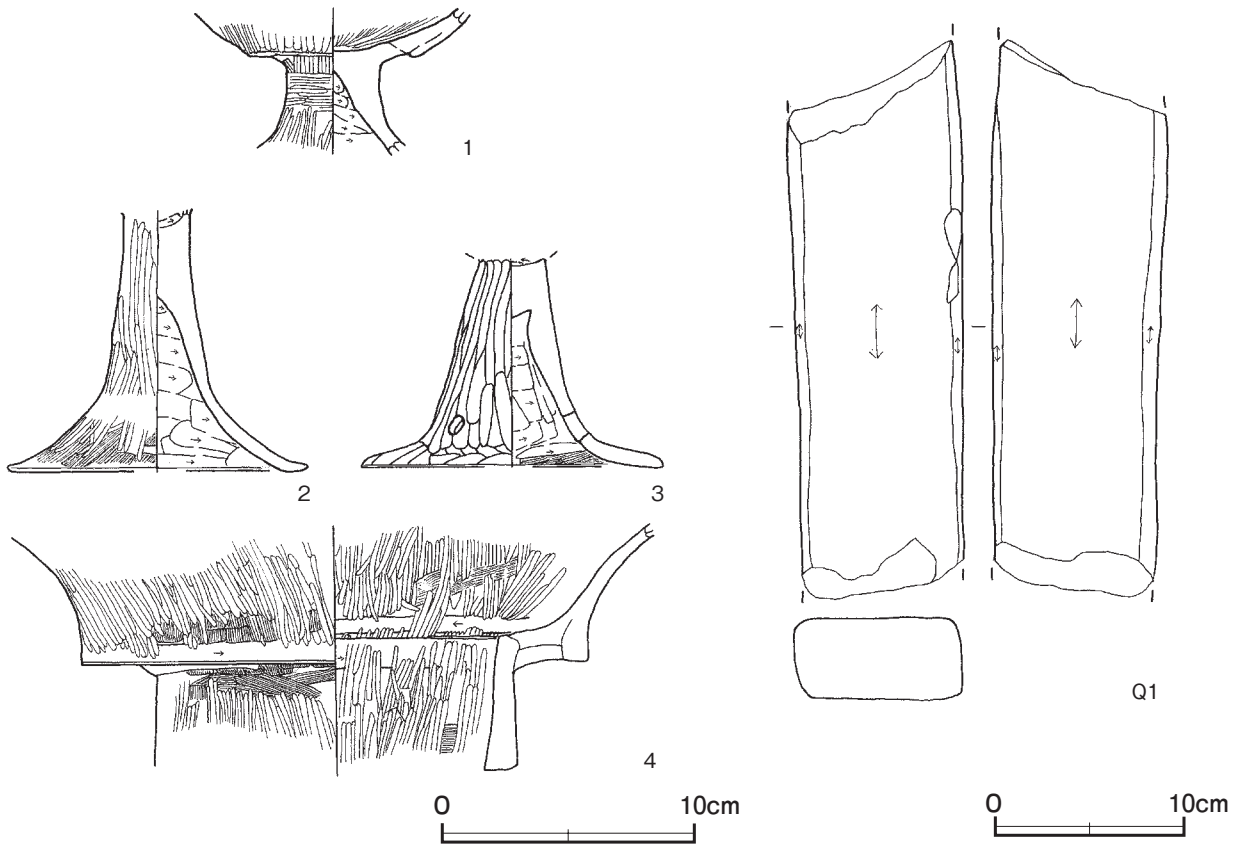
- 1  黒  褐  色  ローム粒子・白色粒子少量

**遺物出土状況**  土師器片60点(坏1, 埴1, 高坏4, 壺3, 甕類50, 不明1), 石器1点(砥石)のほか、縄文土器片20点(深鉢), 弥生土器片9点(壺類), 須恵器片1点(不明)が、主に全域から散在して出土している。多くの土器は中型の破片で、接合関係に乏しいことから、埋没の過程で破損したものが投棄されたと考えられる。



第76図  第34号竪穴建物跡実測図

所見 時期は、出土土器から4世紀後葉に比定できる。



第77図 第34号竪穴建物跡出土遺物実測図

第34号竪穴建物跡出土遺物観察表（第77図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	高坏	-	(5.8)	-	雲母・針状物質・赤色粒子	橙	普通	坏部外面縦位の磨き、内面放射状の磨き 脚部外面ハケ目調整後磨き、内面螺旋状のナデ	覆土上層	50%
2	土師器	高坏	-	(10.3)	[11.6]	雲母・針状物質・黒色粒子	橙	普通	上面凹部一方向のナデ 脚部外面ハケ目調整後縦位の磨き、内面螺旋状のナデ	覆土下層	40%
3	土師器	高坏	-	(8.3)	[12.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	上面凹部螺旋状のナデ 脚部外面縦位の磨き、内面縦・横位のナデ 下端部ハケ目調整穿孔3か所	覆土下層	40% PL75
4	土師器	壺	-	(9.7)	-	雲母・針状物質・赤色粒子	浅黄橙	普通	有段口縁・外・内面縦位ハケ目調整後縦位の磨き、頸部外面縦・斜位のハケ目調整後縦位の磨き、内面横位のハケ目調整後縦位の磨き	覆土上層・下層	10% PL78
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
Q1	砥石	(29.2)	9.1	4.3	(2,390)	緑色変成岩	端部欠損	欠損部片面を砥面として利用か	砥面4～5面	床面直上	PL104

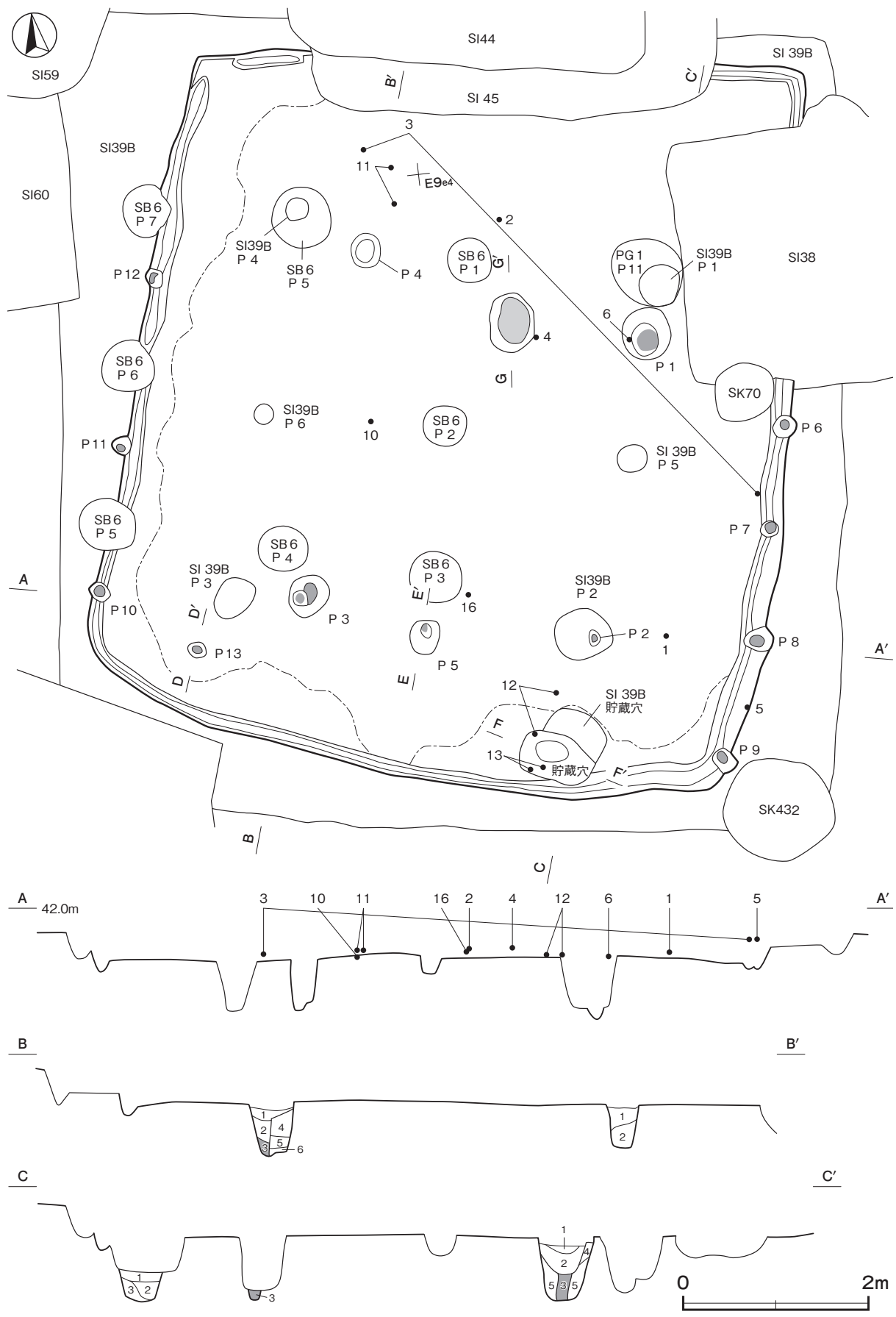
第39A号竪穴建物跡（第78～80図 PL12・13）

調査年度 平成25・26年度

位置 調査区東部のE9e4区、標高42mほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第38・39B・44・45号竪穴建物、第6号掘立柱建物、第70号土坑、第1号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 第38・39B・44・45号竪穴建物に掘り込まれているが、長軸7.87m、短軸7.08mの長方形と推定でき、主軸方向はN-12°-Eである。壁は高さ12～20cmで、ほぼ直立もしくは外傾している。

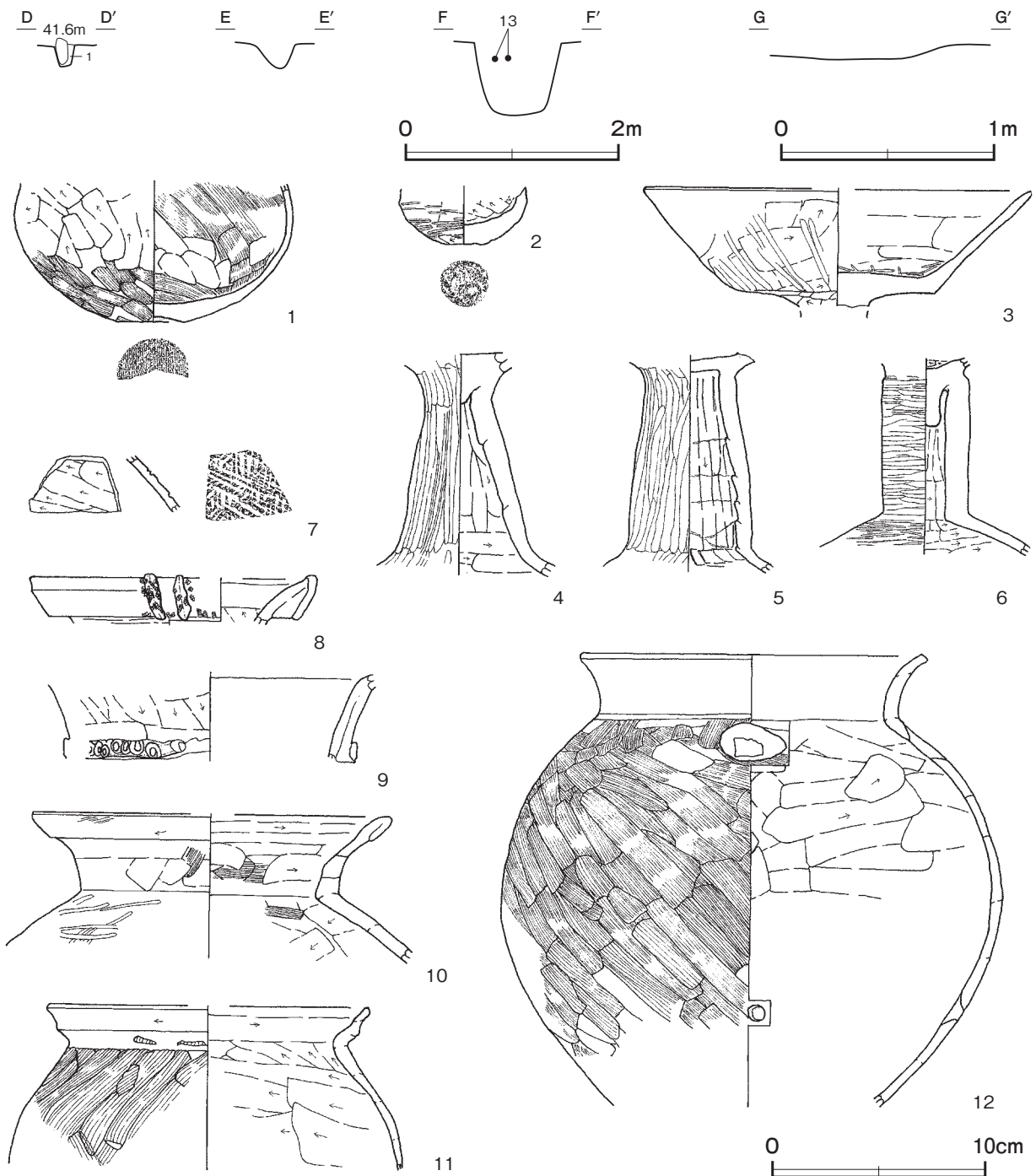


第 78 图 第 39 A 号竖穴建物跡実测图

**床** ほぼ平坦な貼床で、南壁際の大部分及び西壁際を除いて踏み固められている。貼床は、第6・7層を5～20cmほど埋め戻して構築されている。壁溝が、第38・44・45号竪穴建物に掘り込まれている部分及び北西隅部の壁下を除いて巡っている。

**炉** 中央部の北寄りに付設されている。長径68cm、短径46cmで、楕円形の地床炉である。深さ12cmほど掘りくぼめ、炉床が構築されている。炉床面及び炉の周辺30cmほどが赤変硬化している。本跡の廃絶に伴って、覆土第4層によって埋め戻されている。

**ピット** 13か所。P1～P4は深さ50～64cmで、配置から主柱穴である。第4～6層は埋土、第3層は柱



第79図 第39A号竪穴建物跡・出土遺物実測図

痕跡, 第1・2層は柱材を抜き取った後の覆土である。P5は深さ14cmで, 出入口施設に伴うピットである。P6～12は深さ42～66cmで, 壁柱穴である。P13は深さ20cmで, 第1層は埋土である。中央部分に未加工の安山岩が据えられていた。性格は不明である。P1～P3, P5～P13の底面で, 柱の当たりを確認した。

**P1～P4 土層解説**

- |       |                     |          |           |
|-------|---------------------|----------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量    | 4 黄褐色    | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 5 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 6 灰黄褐色   | ロームブロック中量 |

**P13 土層解説**

- 1 褐灰色 ロームブロック少量

**貯蔵穴** 南東部に位置し, 長軸80cm, 短軸は50cmしか確認できなかったが, 隅丸方形と推定できる。深さは72cmである。底面は平坦で, 壁はほぼ直立している。3層に分層でき, 第1～3層はロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。13が上層から出土しており, 埋め戻しに伴う投棄と考えられる。

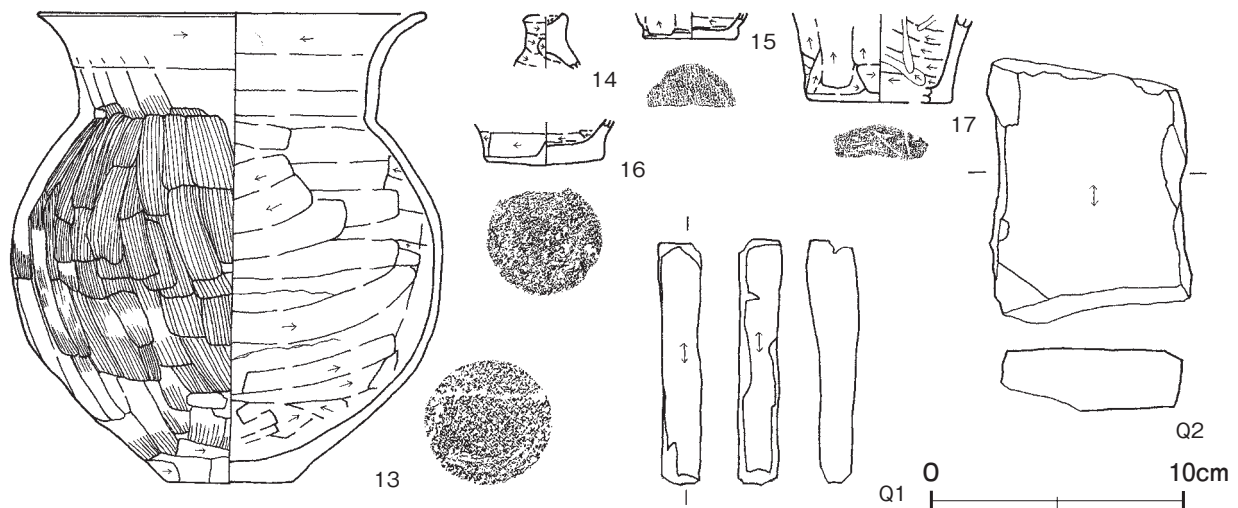
**貯蔵穴土層解説**

- |        |           |       |           |
|--------|-----------|-------|-----------|
| 1 暗褐色  | ローム粒子微量   | 3 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 灰黄褐色 | ロームブロック中量 |       |           |

**覆土** 2層に分層できる。図化及び土層解説は, 第39B号竪穴建物跡の項でまとめて表示する。第4・5層はロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。第4層は拡張に伴う埋め戻し土で, 上面を拡張後の床面としている。第6・7層は貼床の構築土である。

**遺物出土状況** 土師器片2,221点(坏1, 椀16, 埴185, 高坏183, 壺5, 台付甕3, 甕類1,822, ミニチュア土器6), 石器6点(敲石1, 砥石4, 炉石1)のほか, 縄文土器片224点(深鉢), 弥生土器片224点(壺類), が, 全域から散在して出土している。多くの土器は大型や中型の破片で, 接合関係が良好であることから, 埋め戻しに伴って一括で投棄されたと考えられる。

**所見** 時期は, 出土土器から4世紀後葉に比定できる。



第80図 第39A号竪穴建物跡出土遺物実測図

第39A号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第79・80図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	埴	-	(6.5)	3.2	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	体部外・内面斜位のハケ目調整後斜位のナデ 底部内面一方向のナデ	覆土下層	30%
2	土師器	埴	-	(2.7)	2.0	長石・石英・雲母・針状物質	赤褐	普通	体部外面横位のナデ後横位の磨き, 内面横位のナデ 底部二方向のナデ	覆土下層	30%
3	土師器	高坏	[18.0]	(5.6)	-	雲母・針状物質・赤色粒子・細礫	橙	普通	坏部外面縦・横位のナデ後縦位の磨き, 内面横位のナデ 坏底部多方向の磨き	覆土上層, 下層	30%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
4	土師器	高坏	-	(10.4)	-	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	坏部内面多方向のナデ 脚部外面縦位の磨き、内面縦位のナデ後横位のナデ、輪積み痕	覆土下層	30%
5	土師器	高坏	-	(10.2)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	坏部内面多方向のナデ 脚部外面縦位の磨き、内面縦位のナデ後横位のナデ、輪積み痕	覆土上層	30%
6	土師器	高坏	-	(9.1)	-	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	坏部内面螺旋状のナデ 脚部外面横位の磨き、内面縦位のナデ後横位のナデ	覆土下層	30%
7	土師器	壺	-	(2.6)	-	長石・石英・雲母・針状物質	浅黄橙	普通	体部外面複数方向のハケ目調整、内面横・斜位のナデ	覆土中	5%
8	土師器	壺	[13.0]	(2.3)	-	雲母・針状物質・赤色粒子・細礫	浅黄橙	普通	折り返し口縁 口縁部横ナデ後外面棒状付文貼付、捺糸文押圧	覆土中	10%
9	土師器	壺	-	(4.0)	-	長石・石英・雲母・細礫	明赤褐	普通	口縁部外面縦位のナデ 隆帯貼付後横位のナデ、内面横ナデ	覆土中	10% 煤付着
10	土師器	壺	[16.9]	(6.8)	-	長石・石英・雲母・針状物質	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位のナデ後縦横位の磨き、内面横・斜位のナデ ハケ目調整残存	覆土下層	10%
11	土師器	甕	[14.9]	(7.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面斜位のハケ目調整、内面斜位のナデ後横位のナデ	覆土下層	10% 煤付着
12	土師器	甕	15.8	(21.3)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位のハケ目調整、内面横・斜位のナデ 穿孔2か所	覆土下層	60% 煤付着
13	土師器	甕	15.2	18.5	5.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面横ナデ 体部外面9条一単位の縦位のハケ目調整後ナデ 下端部横位のナデ、内面縦位のナデ後横位のナデ底部多方向のナデ	貯蔵穴 覆土上層	85% PL79 煤付着
14	土師器	ミニチュア土器	[1.2]	(2.1)	-	雲母・針状物質・砂粒	橙	普通	上・下面凹部一方向のナデ 体部横位のナデ	覆土中	20%
15	土師器	ミニチュア土器	-	(1.0)	[3.6]	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい黄橙	普通	体部外面縦位のナデ、内面横位のナデ 底部外面二方向のナデ、内面一方向のナデ	覆土中	10%
16	土師器	ミニチュア土器	-	(1.8)	4.6	雲母・針状物質・砂粒	浅黄橙	普通	体部外面横位のナデ、外面二方向のナデ 底部内面螺旋状の指ナデ	覆土下層	20%
17	土師器	ミニチュア土器	-	(3.6)	[5.4]	長石・石英・雲母・針状物質	灰黄褐	普通	体部外面横位のナデ後縦位のナデ、内面横・斜位のナデ 底部木葉痕	覆土中	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	砥石	9.5	(1.7)	2.1	(5.08)	泥岩	側面一部欠損 砥面2面	覆土中	PL104
Q 2	砥石	(10.5)	(8.1)	(2.5)	(360.32)	緑色変成岩	両端部欠損 砥面1面	覆土中	

### 第 39B 号竪穴建物跡 (第 81 ~ 84 図 PL12・13)

調査年度 平成 25・26 年度

位置 調査区東部の E 9e4 区、標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第 39A 号竪穴建物跡を掘り込み、第 38・44・45・59・60 号竪穴建物、第 6 号掘立柱建物、第 70・71・432 号土坑、第 1 号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 第 38・44・45・59・60 号竪穴建物などに掘り込まれているが、一辺 8.50 m の方形で、主軸方向は N-8°-E である。壁は高さ 9~20cm で、ほぼ直立している。

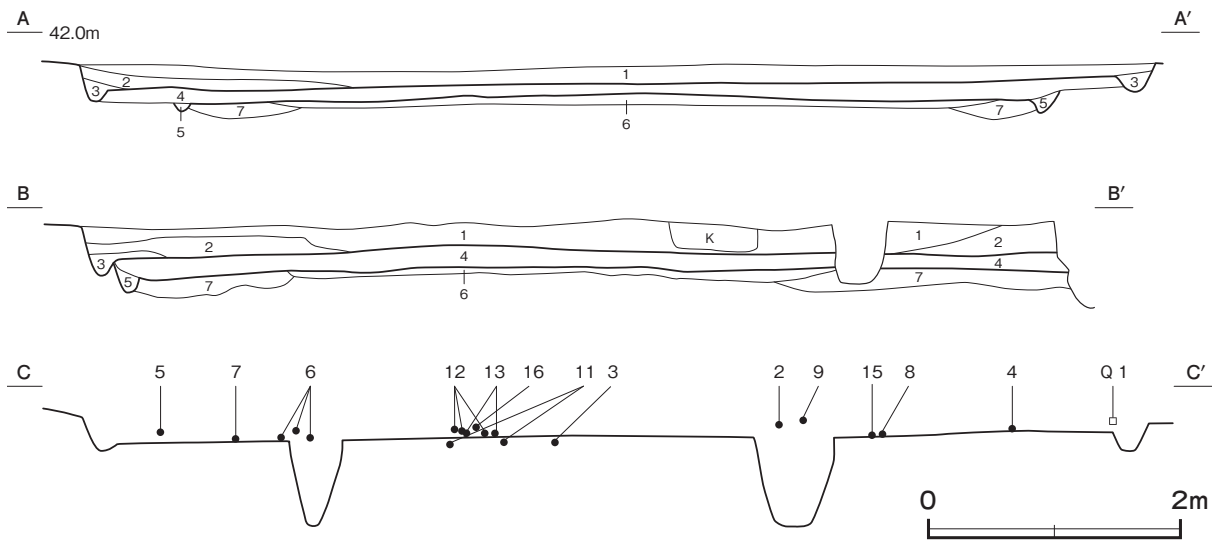
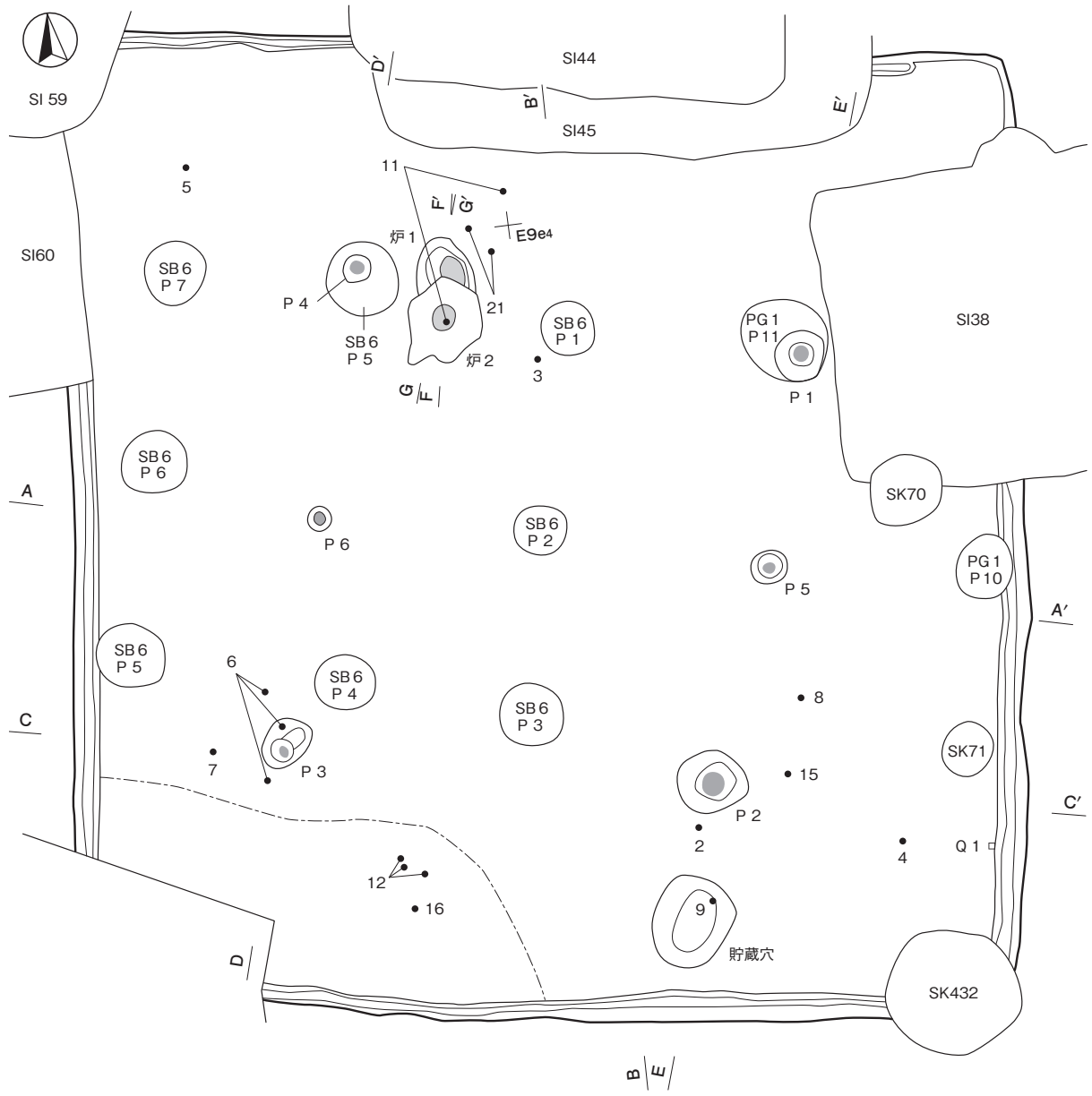
床 平坦な貼床で、南壁際の一部が踏み固められている。貼床は、第 4 層を 10~20cm ほど埋め戻して構築されている。壁溝が、北東隅部の壁下を除いて巡っている。

炉 2 か所。炉 1・炉 2 とともに、中央部の北西寄りに付設されている。炉 1 は、炉 2 に掘り込まれているが、長径は 50cm、短径 35cm と推定できる楕円形の地床炉である。床面を深さ 10cm ほど掘りくぼめて構築されている。炉床面は火熱を受け、第 4 層が赤変硬化している。炉 2 は長径 75cm、短径 64cm で、円形の地床炉である。深さ 15cm ほど掘りくぼめ、第 2・3 層で埋め戻されている。炉床面は、第 2・3 層の上面で火熱を受け、第 1 層が赤変硬化している。炉床面から出土した 11 は、建物の廃絶に伴って投棄されたと考えられる。

#### 炉土層解説

- |                         |                           |
|-------------------------|---------------------------|
| 1 明赤褐色 焼土ブロック中量         | 3 灰褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量  |
| 2 灰黄褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 | 4 明赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック少量 |

ピット 6 か所。P 1~P 4 は深さ 68~78cm で、配置から支柱穴である。P 5・P 6 は深さ 48cm・50cm で、補助柱穴である。第 4~6 層は埋土、第 3 層は柱痕跡、第 1・2 層は柱材を抜き取った後の覆土である。P 1~P 6 の底面で、柱の当たりを確認した。



第 81 图 第 39B 号竖穴建物迹实测图(1)

ピット土層解説 (各ピット共通)

- |       |                  |          |           |
|-------|------------------|----------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 4 黄褐色    | ロームブロック多量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量        | 5 におい黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量          | 6 黄褐色    | ロームブロック中量 |

貯蔵穴 南東部に位置し、長径 80cm、短径 68cmの楕円形で、深さは 58cmである。底面は平坦で、壁はほぼ直立している。3層に分層でき、ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

貯蔵穴土層解説

- |       |                    |      |           |
|-------|--------------------|------|-----------|
| 1 褐色  | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 | 3 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量          |      |           |

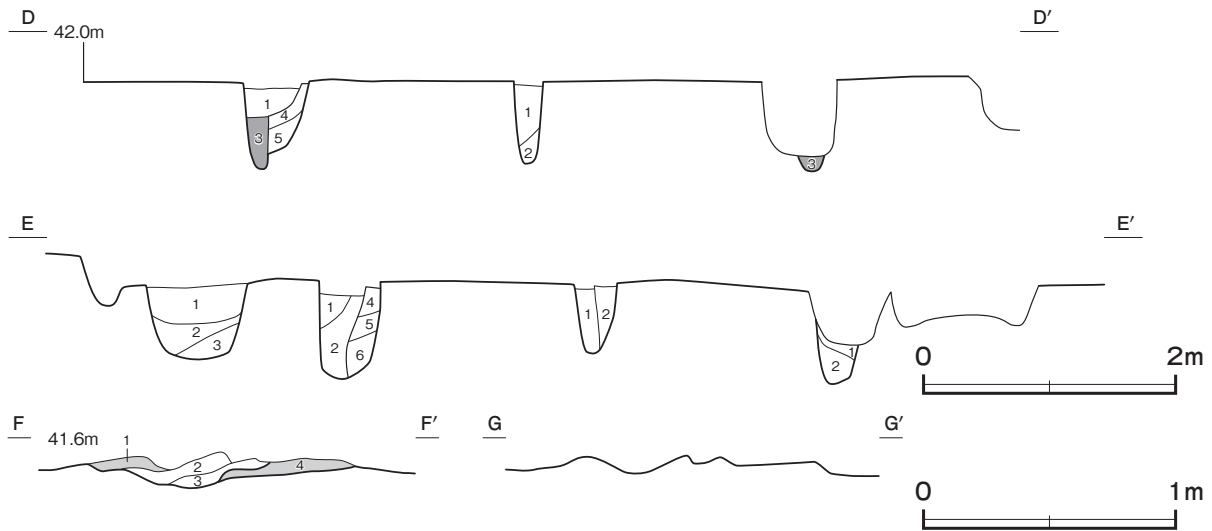
覆土 3層に分層できる。第2・3層はロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第1層はレンズ状に堆積していることから、自然堆積である。第4層は貼床の構築土で、第39A号竪穴建物跡の拡張に伴って埋め戻し、構築されている。

土層解説

- |       |                    |        |           |
|-------|--------------------|--------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・白色粒子少量       | 5 褐色   | ロームブロック少量 |
| 2 灰褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量   | 6 黒褐色  | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 | 7 灰黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 褐灰色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量 |        |           |

遺物出土状況 土師器片 329点 (椀 1, 埴 32, 高坏 38, 壺 1, 甕類 254, ミニチュア土器 3), 石製品 3点 (勾玉 1, 有孔円盤 2) のほか、縄文土器片 61点 (深鉢), 弥生土器片 33点 (壺類) が、全域から散在して出土している。上層から出土した土器の多くは、小片であることから埋没の過程で投棄されたものである。また、下層から出土した土器の多くは大型の破片で、接合関係が良好であることから、埋め戻しに伴って一括で投棄されたと考えられる。

所見 時期は、出土土器から5世紀前葉に比定できる。

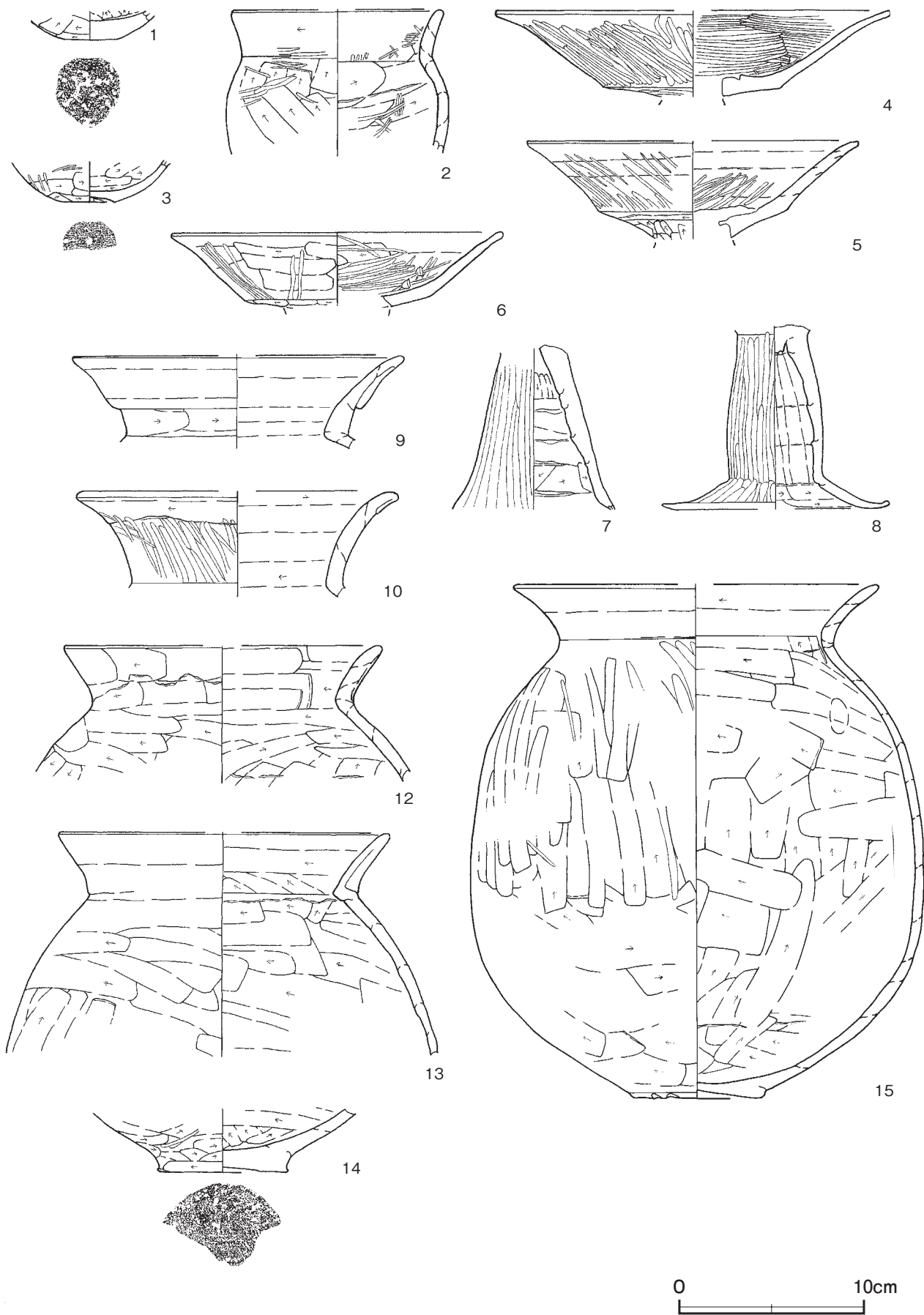


第 82 図 第 39 B号竪穴建物跡実測図(2)

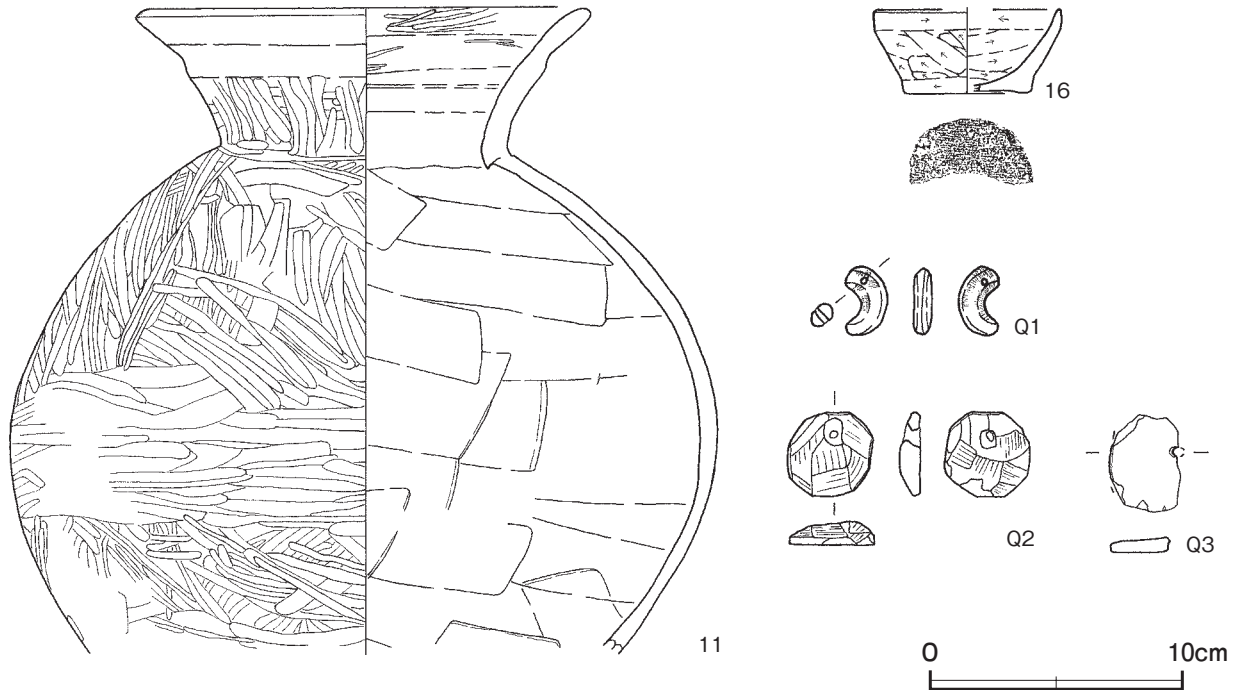
第 39 B号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 83・84 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	椀	-	(1.6)	-	雲母・針状物質・赤色粒子・細礫	橙	普通	底部外面多方向の削り 底部内面螺旋状のナデ	覆土中	10%
2	土師器	埴	[11.4]	(7.8)	-	雲母・針状物質・赤色粒子・細礫	におい黄橙	普通	口縁部横ナデ、内面多方向の磨き、体部外面縦位のナデ後中位以下斜位の削り、横・斜位の磨き、内面横位のナデ後多方向の磨き、輪積み痕	覆土下層	30%
3	土師器	埴	-	(2.8)	-	雲母・針状物質・赤色粒子・細礫	におい橙	普通	底部外面横位のナデ後縦・横位の磨き、内面横・斜位のナデ	覆土下層	10%
4	土師器	高坏	[21.2]	(4.6)	-	雲母・針状物質・赤色粒子	におい橙	普通	坏部外面縦位の磨き、稜下横位の磨き、内面横位の磨き	覆土下層	30%





第 83 图 第 39 B 号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 84 図 第 39 B 号 竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
5	土師器	高坏	[17.8]	(5.2)	-	雲母・針状物質・赤色粒子	橙	普通	坏部外・内面横ナデ後斜位の磨き、外面稜以下多方向の削り	覆土下層	10%
6	土師器	高坏	17.6	(4.0)	-	雲母・針状物質・赤色粒子・細礫	橙	普通	坏部外面横位のナデ後縦位の磨き、稜下横位の磨き、内面横位のナデ後横・斜位の磨き	覆土下層	40% 二次焼成
7	土師器	高坏	-	(8.7)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	脚部外面縦位の磨き、内面縦位のナデ後横位のナデ、輪積み痕	覆土下層	20%
8	土師器	高坏	-	(9.9)	12.2	雲母・針状物質・赤色粒子	橙	普通	脚部外面縦位の磨き、内面縦位のナデ後横位のナデ、輪積み痕	覆土下層	50%
9	土師器	壺	[18.0]	(5.0)	-	雲母・針状物質・赤色粒子・細礫	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ、頸部外面横位のナデ	覆土下層	10%
10	土師器	壺	[16.9]	(5.7)	-	雲母・針状物質・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ、外面縦位の磨き	覆土中	10%
11	土師器	壺	17.3	(25.7)	-	雲母・針状物質・赤色粒子・細礫	灰 褐	普通	口縁部外面縦位の磨き、内面横位の磨き、体部外面多方向の磨き、中位横位の磨き、内面縦・横位のナデ	覆土下層 炉 2 炉床面	80% PL78
12	土師器	甕	[17.2]	(7.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ、体部外面縦位のナデ後横位のナデ、内面斜位のナデ後横位のナデ	覆土下層	20% 煤付着
13	土師器	甕	[17.8]	(12.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内面斜位のナデ後外・内面横ナデ、体部外・内面縦位のナデ後横位のナデ	覆土下層	40% 煤付着
14	土師器	甕	-	(3.4)	[7.0]	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	体部外面横・斜位のナデ、内面縦位のナデ後横位のナデ、底部多方向の削り	覆土中	10%
15	土師器	甕	[19.5]	27.9	(7.1)	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ、体部外面縦・横位のナデ、内面縦・斜位のナデ後横位のナデ、底部一方向の削り	覆土下層	40% 煤付着
16	土師器	ミニチュア土器	[7.4]	3.3	[5.0]	長石・石英・雲母・針状物質	明赤褐	普通	口縁部横ナデ、体部外面斜位のナデ、下端部横ナデ、内面横位のナデ、底部二方向のナデ	覆土下層	40%

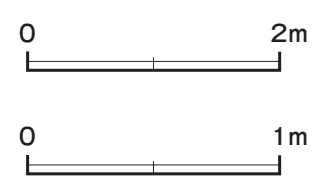
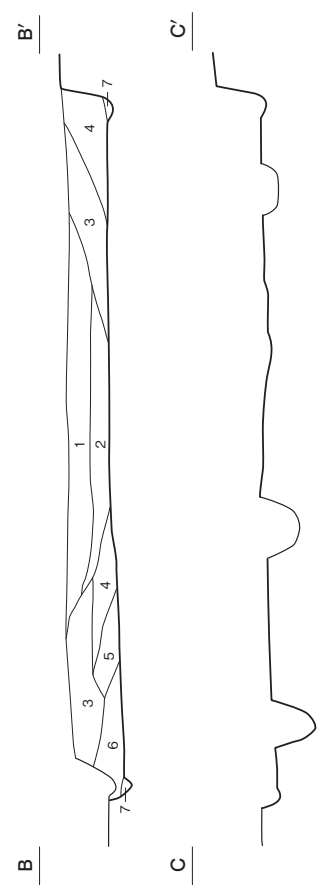
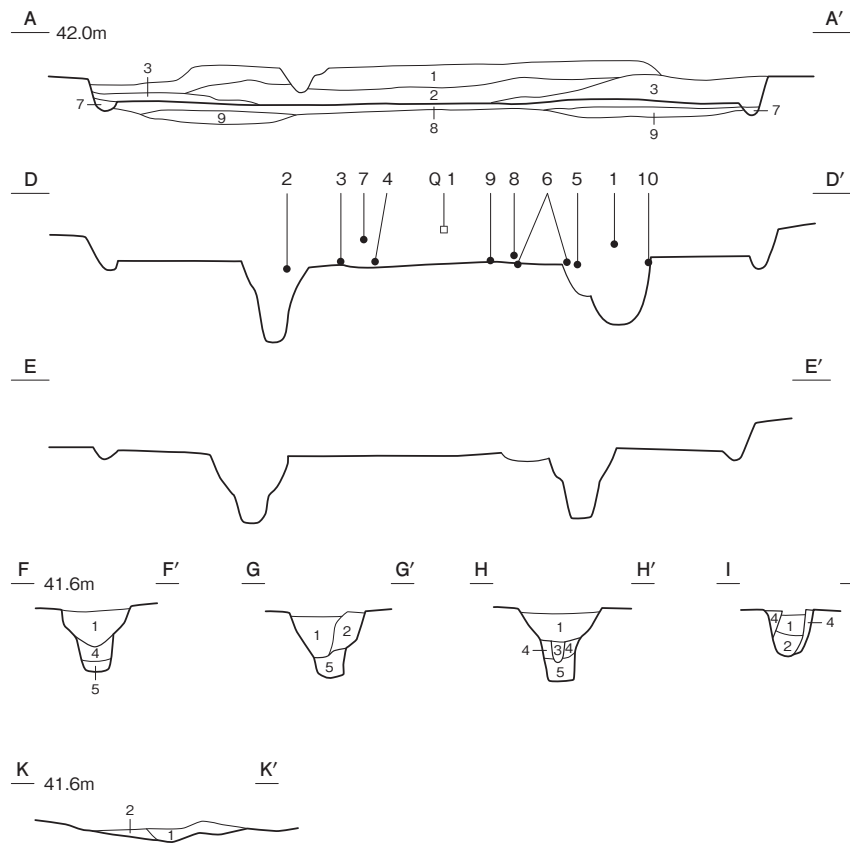
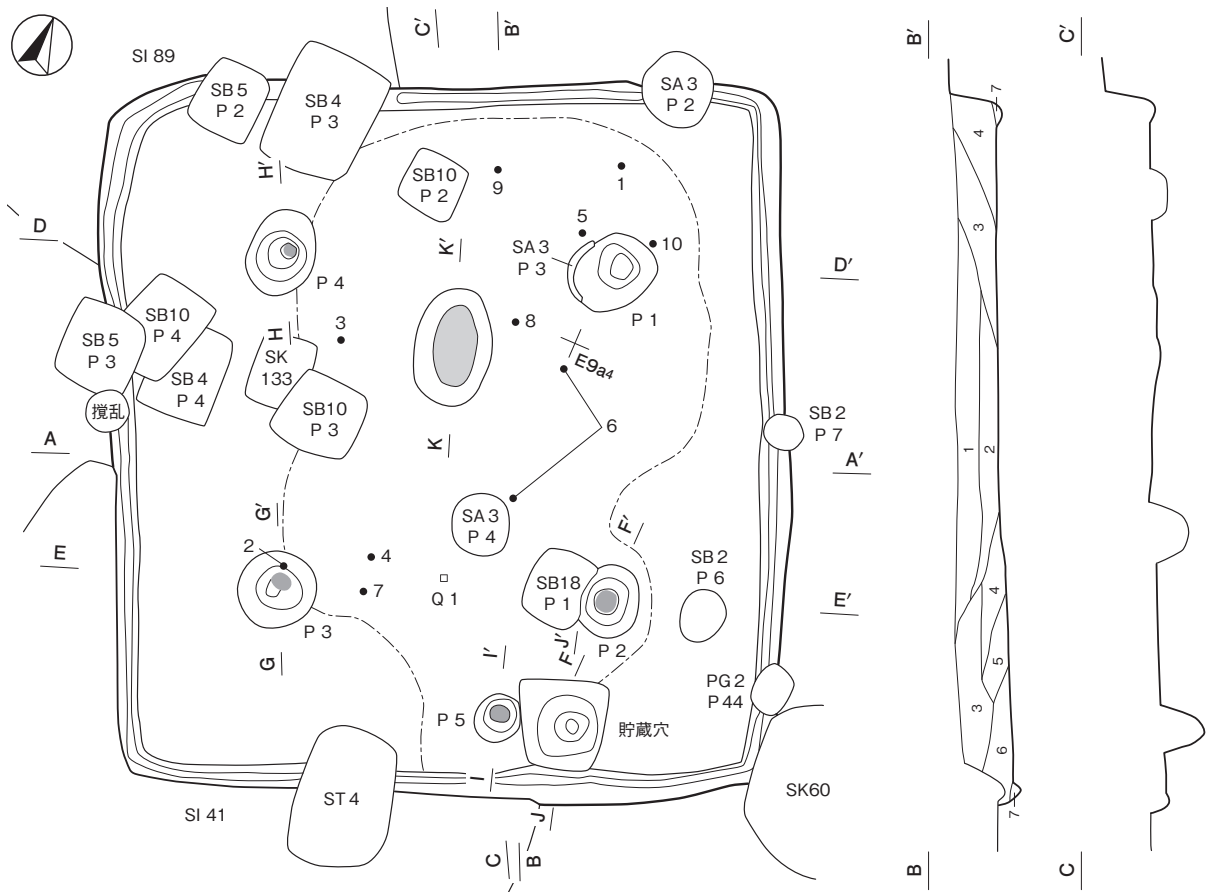
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	勾玉	2.7	1.7	0.7	4.40	滑石	削り調整後研磨 両面からの穿孔 1 か所	覆土下層	PL107
Q 2	有孔円板	3.4	3.4	0.8	15.12	雲母片岩	上面平滑・研磨 下面削り調整後研磨 側面研磨 両面からの穿孔 1 か所	覆土中	PL107
Q 3	有孔円板	[5.2]	(2.9)	0.6	(10.21)	緑色変成岩	両面平滑・研磨 側面研磨 穿孔 1 か所、穿孔方向不明	覆土中	

第 40 号 竪穴建物跡 (第 85 ~ 87 図)

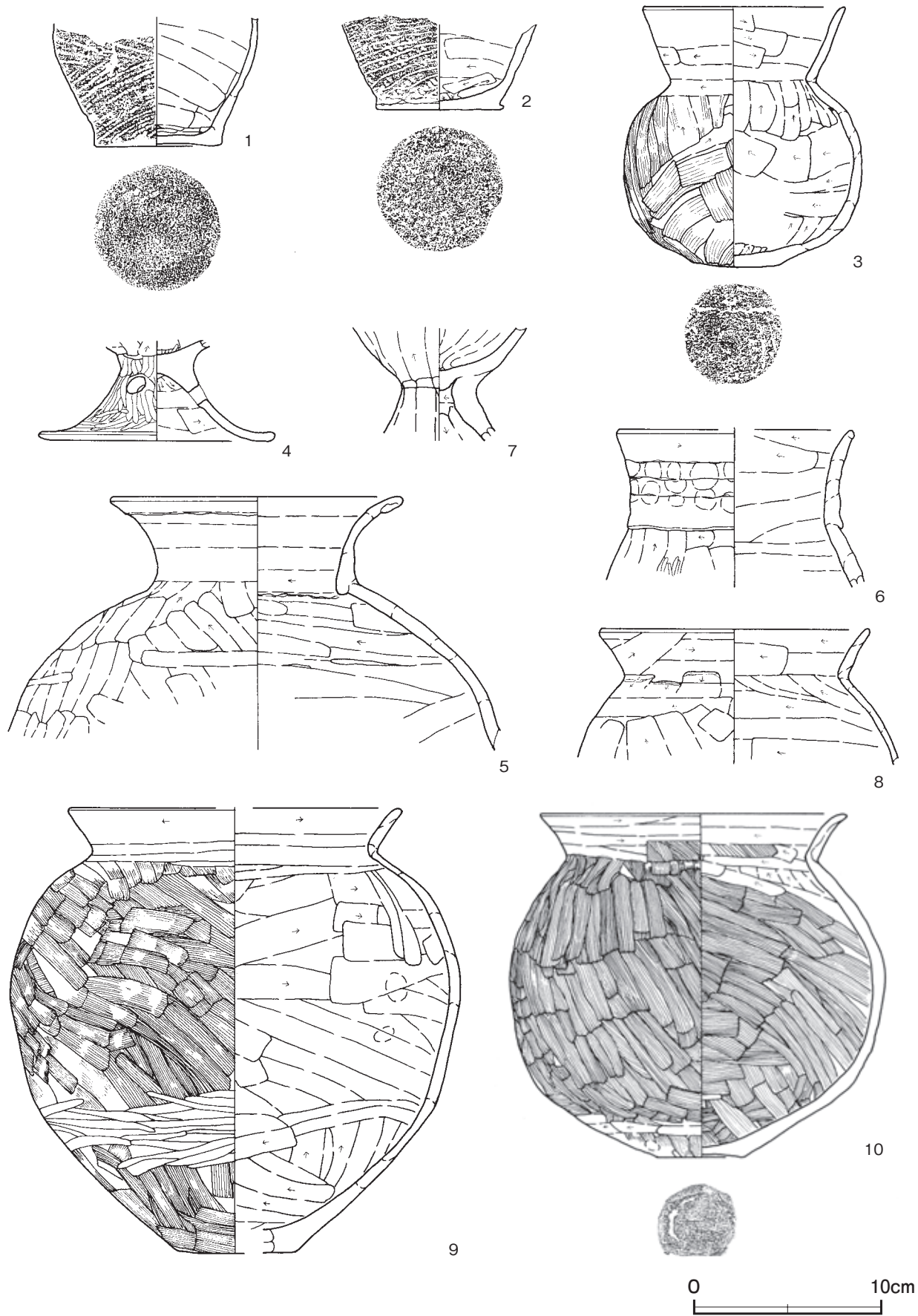
調査年度 平成 25・26 年度

位置 調査区東部の E 9 a3 区、標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第 89 号 竪穴建物跡を掘り込み、第 41 号 竪穴建物、第 2・4・5・10・18 号 掘立柱建物、第 4 号 墓坑、第 3 号 柱穴列、第 60・133 号 土坑、第 2 号 ピット群に掘り込まれている。



第 85 图 第 40 号竖穴建物迹实测图



第 86 图 第 40 号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)

**規模と形状** 第41号竪穴建物などに掘り込まれているが、長軸5.72m、短軸5.35mの長方形で、主軸方向はN-14°-Wである。壁は高さ20~31cmで、ほぼ直立している。

**床** 平坦な貼床で、P5周辺及び中央部が踏み固められている。貼床は、第8・9層を10~20cmほど埋め戻して構築されている。壁溝が、全周している。

**炉** 中央部の北寄りに付設されている。長径96cm、短径62cmの楕円形の地床炉である。深さ10cmほど掘りく



第87図 第40号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

ほめ、壁に沿って自然石や割石を配して構築されている。炉床面は地山で、火熱を受けて赤変硬化している。2層に分層でき、第1・2層は廃絶後の流入土である。

**炉土層解説**

- 1 灰黄褐色 ローム粒子中量, 焼土ブロック微量      2  にぶい黄褐色    ローム粒子・焼土粒子中量

**ピット** 5か所。P1～P4は深さ48～58cmで、配置から主柱穴である。P5は深さ34cmで、出入り口施設に伴うピットである。第4・5層は埋土、第1～3層は柱材を抜き取った後の覆土である。P2～P5の底面で、柱の当たりを確認した。

**ピット土層解説 (各ピット共通)**

- 1 暗褐色    ロームブロック少量      4 黄褐色    ロームブロック中量  
2 黒褐色    ロームブロック少量      5 灰黄褐色    ロームブロック中量  
3 褐色      ロームブロック少量

**貯蔵穴** 南壁際中央部の東寄りに位置し、長軸78cm、短軸68cmの長方形である。深さ40cmである。底面は丸底である。壁は、ほぼ直立もしくは有段である。5層に分層でき、ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

**貯蔵穴土層解説**

- 1 暗褐色    ロームブロック少量      4 暗褐色    ロームブロック・焼土ブロック少量  
2  にぶい黄褐色    ロームブロック少量      5  にぶい黄褐色    ロームブロック少量  
3 黒褐色    ロームブロック微量

**覆土** 7層に分層できる。第3～7層はロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第1・2層はローム粒子が含まれ、レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。第8・9層は貼床の構築土である。

**土層解説**

- 1 暗褐色    ローム粒子微量      6 黒褐色    ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量  
2 黒褐色    ローム粒子少量      7  にぶい黄褐色    ロームブロック中量  
3 灰黄色    ロームブロック中量, 焼土ブロック少量      8 灰黄褐色    ロームブロック中量  
4 黒褐色    ロームブロック少量      9 褐色      ロームブロック少量  
5 褐灰色    ロームブロック中量, 焼土ブロック少量

**遺物出土状況** 土師器片265点(坏12, 埴10, 器台1, 高坏11, 壺2, 台付甕1, 甕類228), 石器3点(砥石2, 不明1)のほか、縄文土器片108点(深鉢), 弥生土器片38点(壺類), 剥片2点(チャート, 瑪瑙), 鉄滓(49.27g)が、全域から散在して出土している。多くの土器は大型や中型の破片で、良好であることから、埋め戻しに伴って一括で投棄されたと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から4世紀中葉に比定できる。

第40号竪穴建物跡出土遺物観察表(第86・87図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	弥生土器	広口壺	-	(6.9)	6.8	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面付加条軸縄不明羽状構成 体部内面横位のナデ 底部外面砂目 底部内面螺旋位のナデ	覆土中層	30% PL61
2	弥生土器	広口壺	-	(4.6)	6.8	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外面付加条二種附加1条 体部内面横位のナデ 底部砂目 底部内面一方向のナデ	覆土下層	20% PL61
3	土師器	埴	(10.7)	14.0	5.1	雲母・針状物質・赤色粒子・砂粒	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦・斜位のハケ目調整, 内面縦・横位のナデ 底部多方向の削り	覆土下層	50% PL72 煤付着
4	土師器	器台	-	(5.4)	12.6	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい黄橙	普通	坏部外面縦・斜位のナデ, 内面多方向のナデ 脚部外面縦・横位の磨き, 内面縦・横位のナデ 穿孔3か所	覆土下層	50%
5	土師器	壺	15.4	(13.7)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦・斜位のナデ, 内面縦・斜位のナデ	覆土下層	30%
6	土師器	広口壺	[12.4]	(8.4)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ, 外面に輪積み痕, 指頭痕 体部外面縦・横位のナデ後縦位の磨き, 内面横位のナデ	覆土下層	20% PL78
7	土師器	台付甕	-	(6.1)	-	長石・石英・雲母・白色粒子	にぶい橙	普通	体部外面縦位のナデ, 内面縦位のナデ 台部外面縦位のナデ, 内面横位のナデ後縦位のナデ 台部貼付	覆土上層	20% 煤付着
8	土師器	甕	14.4	(7.3)	-	長石・石英・雲母・砂粒	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面横位のナデ後縦位のナデ, 内面縦・斜位のナデ 頸部に縦位のナデ痕	覆土下層	30% 煤付着
9	土師器	甕	[17.8]	24.0	[6.4]	雲母・針状物質・赤色粒子・砂粒	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦・斜位のハケ目調整後下に横位の磨き, 内面縦・斜位のナデ後上・中位に横位のナデ 底部調整不明	覆土下層	40% 煤付着
10	土師器	甕	16.4	18.6	4.7	雲母・針状物質・赤色粒子・砂粒	橙	普通	口縁部外面貼付後横ナデ 貼付部下にハケ目調整, 内面横ナデ 体部外・内面ハケ目調整後ナデ 底部二方向の削り	床面直上	90% PL79 煤付着

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	砥石	30.0	29.6	(7.4)	(8,500)	緑色変成岩	上面多方向の砥面, 多方向の線刻 下面欠損	覆土中	
Q 2	砥石	17.3	16.6	6.7	1,000	凝灰岩	上面側面際に段状の加工, 一方向の砥面, 2方向の線刻, 凹状の穿孔1か所, 下面多方向の砥面, 2方向の線刻, 凹状の穿孔2か所 側面短辺2面に削り調整	覆土中	PL104

### 第 41 号竪穴建物跡 (第 88・89 図)

調査年度 平成 25・26 年度

位置 調査区東部の E 9 b3 区, 標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第 40 号竪穴建物跡を掘り込み, 第 58 号竪穴建物, 第 18 号掘立柱建物, 第 4 号墓坑に掘り込まれている。

規模と形状 第 58 号竪穴建物などに掘り込まれているが, 長軸 5.54 m, 短軸 4.82 m の長方形と推定できる。主軸方向は N - 10° - E である。壁は高さ 20 ~ 31cm で, 直立している。

床 平坦で, 確認できた部分は踏み固められている。壁溝が, 北西隅部及び北壁の壁下を除いて巡っている。

ピット 4 か所。P 1 ~ P 3 は深さ 55 ~ 58cm で, 配置から支柱穴である。第 3 ~ 5 層は埋土, 第 1・2 層は柱材を抜き取った後の覆土である。P 4 は深さ 18cm で, 出入り口施設に伴うピットである。P 1 ~ P 4 の底面で, 柱の当たりを確認した。P 2・P 3 の底面には, 当たりが 2 か所確認できたことから, 立て替えられた可能性がある。

#### ピット土層解説 (P 1 ~ P 3 共通)

- |                           |                    |
|---------------------------|--------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 4 暗褐色 ロームブロック少量    |
| 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量    | 5 におい黄褐色 ロームブロック多量 |
| 3 黄褐色 ロームブロック中量           |                    |

貯蔵穴 南西隅部に位置し, 長軸 76cm, 短軸 58cm の隅丸長方形である。深さは 42cm である。底面はほぼ平坦である。壁は外傾もしくは外反している。3 層に分層でき, 第 1 ~ 3 層はロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。貯蔵穴の北辺に東西方向に走る周堤が確認できた。第 58 号竪穴建物跡に掘り込まれていることから, 東西の長さは 140cm しか確認できなかった。上幅 8 ~ 14cm, 下幅 16 ~ 28cm, 高さ 10cm ほどで, 断面形は不整な台形である。床面に第 4 層を積み上げて構築されている。貯蔵穴の長軸にほぼ並行していることから, 貯蔵穴の付帯施設と考えられる。

#### 貯蔵穴土層解説

- |                             |                                |
|-----------------------------|--------------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック中量, 今市軽石ブロック微量 | 3 灰黄褐色 ロームブロック少量               |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量, 今市軽石ブロック微量 | 4 におい黄褐色 ロームブロック中量, 今市軽石ブロック微量 |

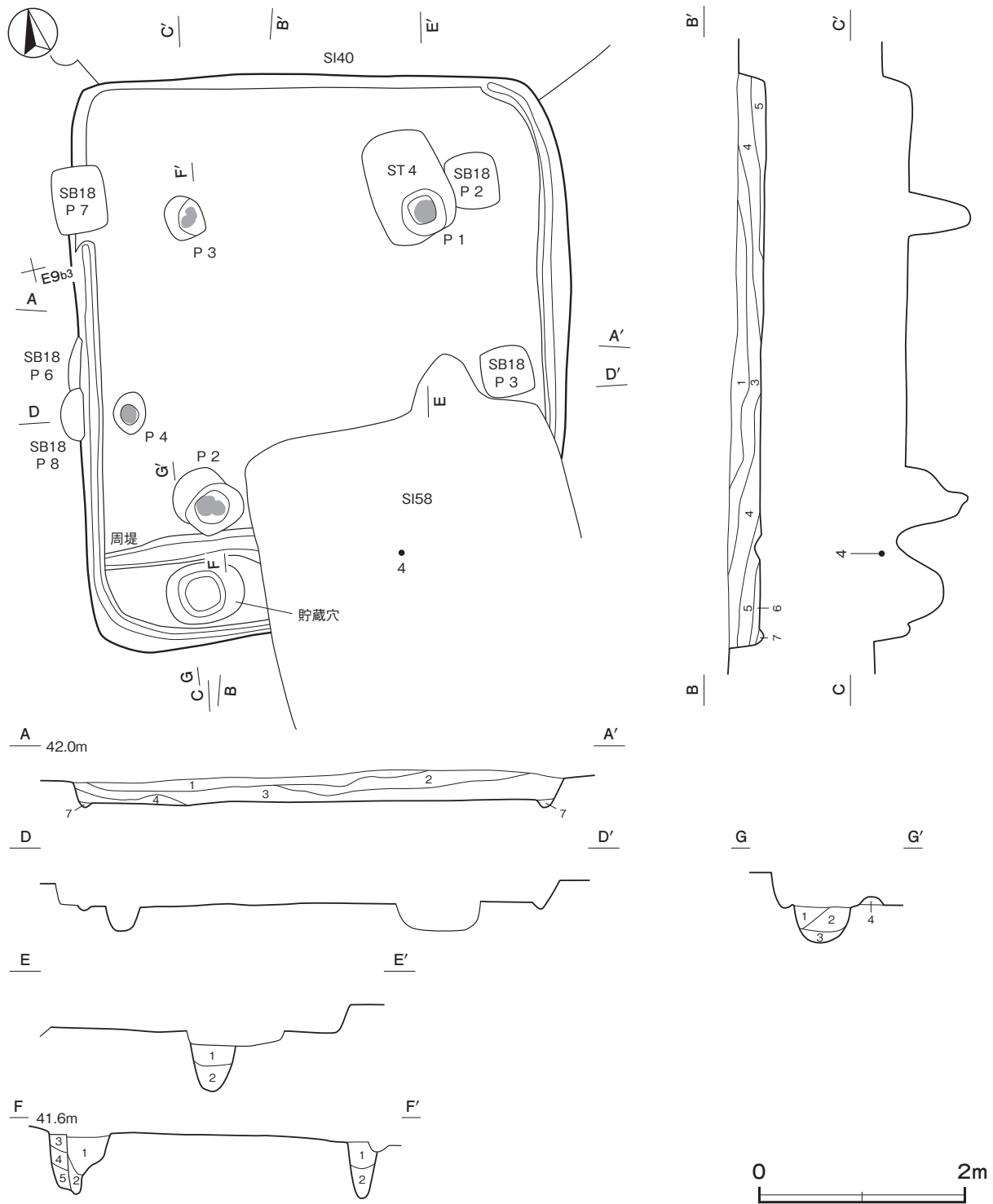
覆土 7 層に分層できる。ロームブロックが含まれる不規則な堆積をしていることから, 埋め戻されている。

#### 土層解説

- |                                |                             |
|--------------------------------|-----------------------------|
| 1 灰黄褐色 ロームブロック中量, 今市軽石ブロック少量   | 5 暗褐色 ロームブロック少量, 今市軽石ブロック微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・今市軽石ブロック少量       | 6 におい黄褐色 ロームブロック少量          |
| 3 におい黄褐色 ロームブロック少量, 今市軽石ブロック微量 | 7 灰黄褐色 ロームブロック少量            |
| 4 灰黄褐色 ロームブロック少量, 今市軽石ブロック微量   |                             |

遺物出土状況 土師器片 80 点 (埴 2, 高坏 2, 甕類 74, ミニチュア土器 1, 不明 1) のほか, 縄文土器片 85 点 (深鉢), 弥生土器片 15 点 (壺類) が, 全域から散在して出土している。多くの土器は小片で, 接合関係に乏しいことから, 破損したものが廃絶に伴って投棄されたと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から 4 世紀後葉に比定できる。

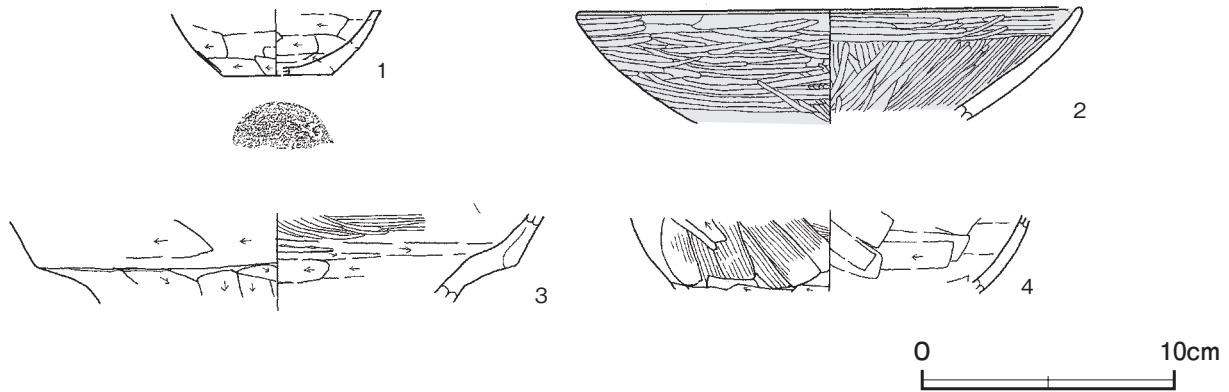


第 88 図 第 41 号竪穴建物跡実測図

第 41 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 89 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	埴	-	(2.5)	[4.3]	雲母・針状物質・赤色粒子	にぶい黄澄	普通	体部外面横位のナデ後下端部横位の削り 体部内面横位のナデ 底部一方向の削り	覆土中	10%
2	土師器	高坏	[19.8]	(4.4)	-	雲母・針状物質・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部外面横・斜位の磨き 口縁部内面縦位の磨き 後上位に横位の磨き 赤彩	覆土中	20%
3	土師器	壺	-	(3.4)	-	雲母・針状物質・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 内面横・斜位の磨き 頸部外面横・斜位の削り 頸部内面横位のナデ	覆土中	10%
4	土師器	小形甕	-	(3.4)	-	長石・石英・雲母・針状物質	灰褐	普通	体部外面 4~8 条の縦・斜位のハケ目調整、下位に斜位の削り 体部内面横・斜位のナデ	覆土中層	10% 煤付着





第 89 図 第 41 号竪穴建物跡出土遺物実測図

### 第 46 号竪穴建物跡 (第 90 ~ 92 図 PL18)

調査年度 平成 25 年度

位置 調査区東部の E 9c4 区, 標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第 48 号竪穴建物跡を掘り込み, 第 42・44・45・47・51・58 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 第 42・44・45・47・51・58 号竪穴建物に掘り込まれているが, 長軸 6.12 m, 短軸 5.82 m の方形と推定できる。主軸方向は N - 10° - W である。壁は高さ 28 ~ 32cm で, 直立している。

床 平坦な貼床で, 確認できた部分は, 南東隅部の壁際を除いて踏み固められている。貼床は, 第 12 層を 10 ~ 20cm ほど埋め戻して構築されている。壁溝が, 竈付近及び西壁下の一部を除いて巡っている。

竈 北壁の中央部付近に付設されている。焚口部から煙道部までは 112cm, 燃焼部の幅は 48cm である。燃焼部は床面から 10 ~ 15cm ほど掘りくぼめられ, 第 7・8 層で埋め戻されている。袖部は, 右袖部に芯材として加工された Q 3 を固定した後, 両袖部共に床面及び第 8 層上面に第 5・6 層を積み上げて構築されている。火床面は第 7・8 層の上面で, 第 7 層は火熱を受けて赤変硬化している。Q 1・Q 2 は下端部が第 4 層で固定され, 火床部に据えつけられていることから, 支脚として用いられている。煙道部は壁外に 40cm ほど掘り込まれ, 第 5 層を貼り付けて構築されている。火床面からは外傾している。第 1 ~ 3 層には焼土ブロックや粘土ブロックが含まれていることから, 壊されている。

#### 竈土層解説

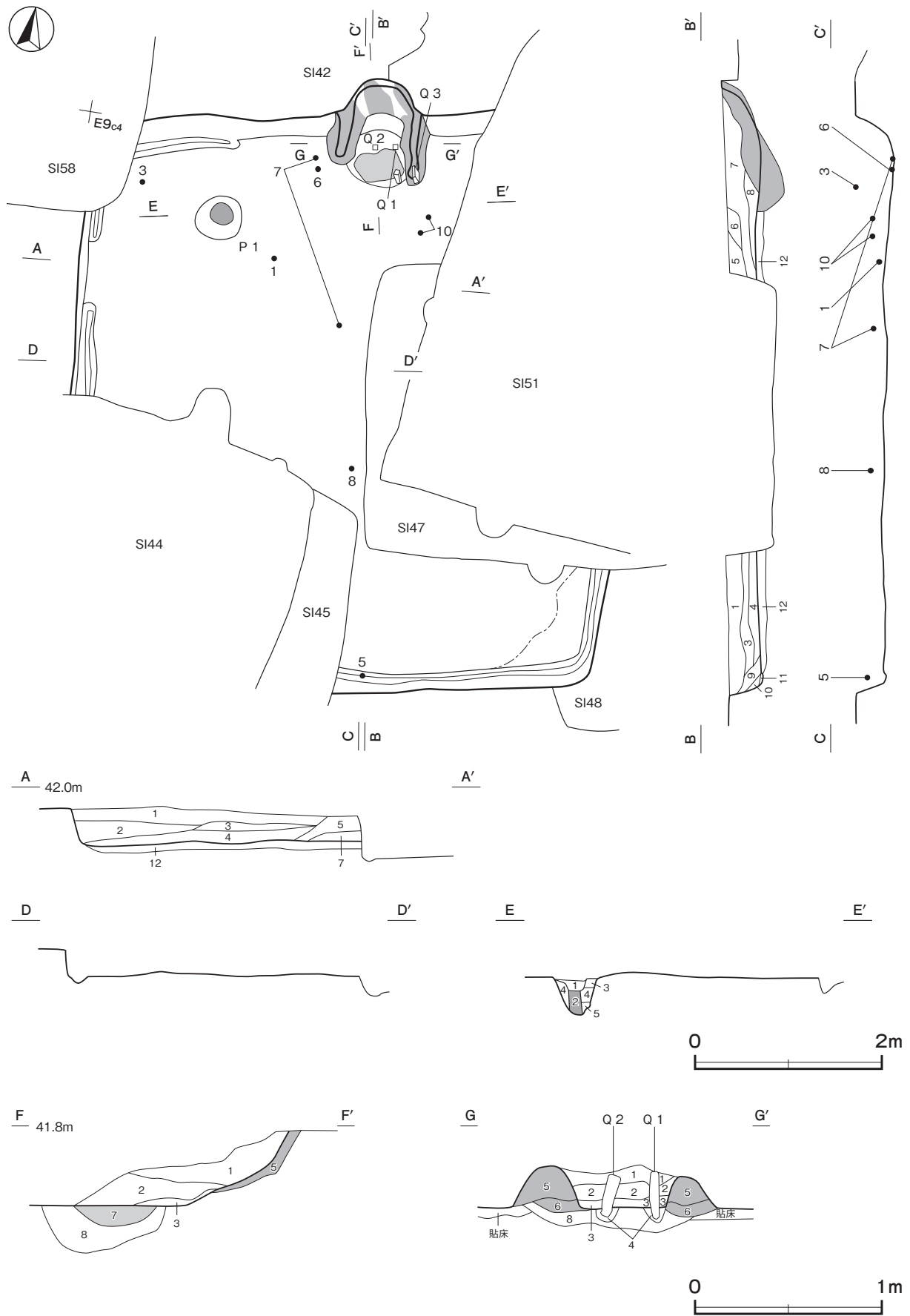
- |                                  |                            |
|----------------------------------|----------------------------|
| 1 褐灰色 焼土ブロック中量, ロームブロック少量        | 5 浅黄褐色 粘土ブロック多量, ロームブロック少量 |
| 2 赤褐色 焼土ブロック多量, 粘土ブロック少量         | 6 灰黄褐色 粘土ブロック中量, ロームブロック少量 |
| 3 赤灰色 焼土ブロック中量, ロームブロック・粘土ブロック少量 | 7 明赤褐色 焼土ブロック中量, ロームブロック少量 |
| 4 褐灰色 焼土ブロック・粘土ブロック少量            | 8 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量     |

ピット 1 か所。深さ 40cm で, 配置から支柱穴である。第 3 ~ 5 層は埋土, 第 2 層は柱痕跡, 第 1 層は柱材を抜き取った後の覆土である。底面で柱の当たりを確認した。

#### ピット土層解説

- |                           |                 |
|---------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 4 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化物少量    | 5 黄褐色 ロームブロック中量 |
| 3 黄褐色 ロームブロック中量           |                 |

覆土 11 層に分層できる。ロームブロックや焼土ブロック, 粘土ブロックが含まれる不規則な堆積をしていることから, 埋め戻されている。第 12 層は貼床の構築土である。



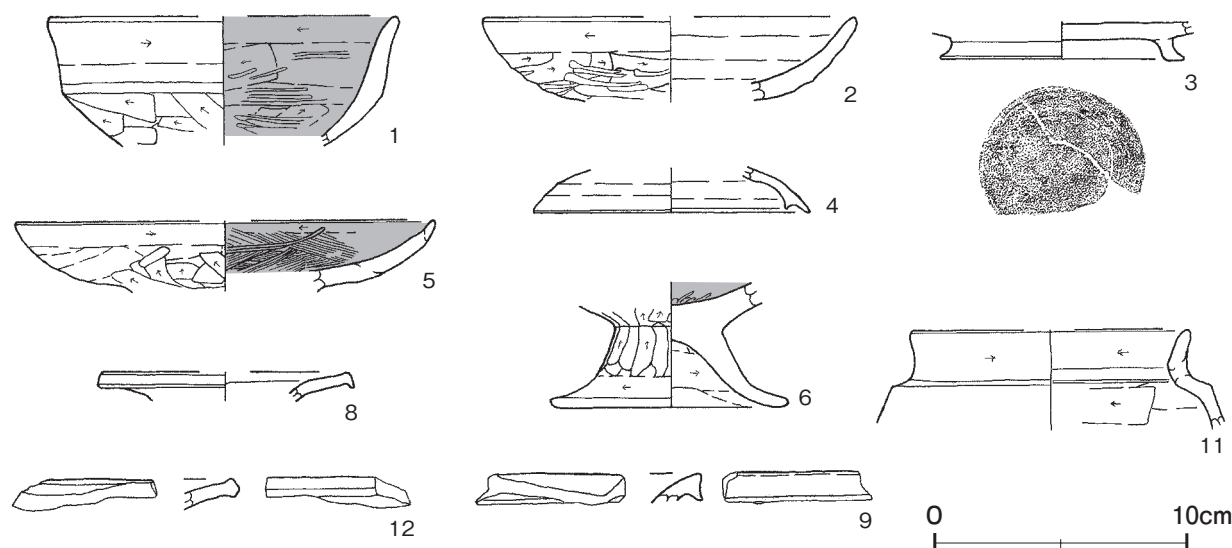
第 90 图 第 46 号竖穴建物跡实测图

土層解説

- |       |                            |           |                         |
|-------|----------------------------|-----------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | 粘土ブロック少量, 焼土ブロック微量         | 7 褐色      | ロームブロック・焼土ブロック少量        |
| 2 黒色  | ロームブロック・焼土ブロック少量           | 8 暗褐色     | 焼土ブロック・粘土ブロック少量         |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量           | 9 黒色      | 焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化物少量 |
| 4 暗褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック少量        | 10 におい黄褐色 | ロームブロック中量               |
| 5 褐色  | ロームブロック・粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量 | 11 褐色     | ロームブロック少量               |
| 6 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量, 粘土ブロック微量 | 12 黒褐色    | ロームブロック少量               |

遺物出土状況 土師器片 497 点 (坏 25, 鉢類 1, 高坏 9, 鉢 1, 甕類 461), 須恵器片 12 点 (坏 5, 高台付坏 1, 蓋 2, 高坏 2, 甕 2), 石製品 5 点 (支脚 2, 竈材 3), 金属製品 1 点 (鏃) のほか, 縄文土器片 79 点 (深鉢), 弥生土器片 22 点 (壺類), 石器 1 点 (鏃), 剥片 1 点 (石英) が, 全域から散在して出土している。多くの土器は中型の破片や小片で, 接合関係に乏しいことから, 破損したものが廃絶に伴って投棄されたと考えられる。3 は 8 世紀前半代の所産であるから, 流入と思われる。

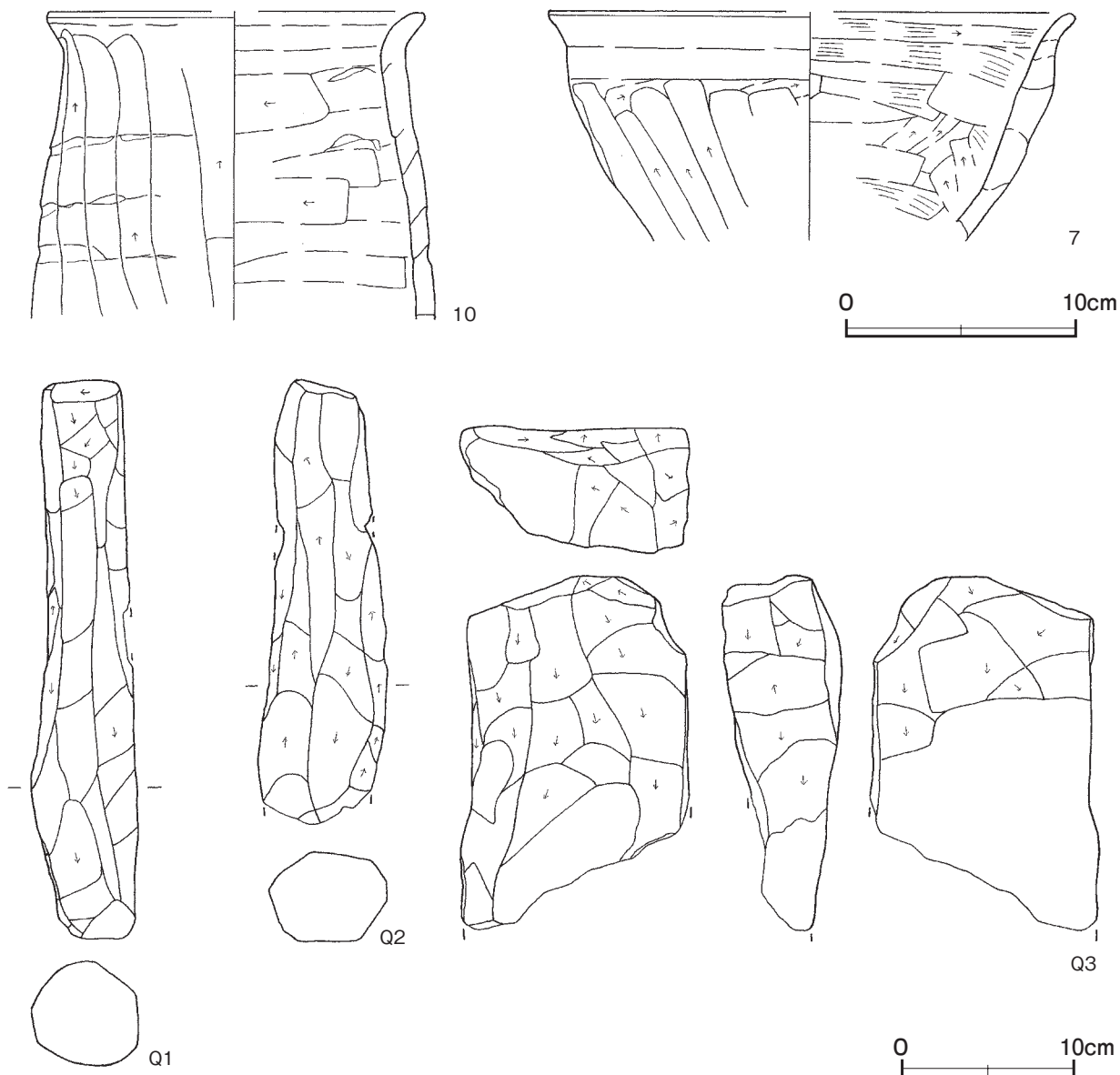
所見 時期は, 出土土器から 7 世紀中葉に比定できる。4・9・12 は猿投産もしくはその可能性がある製品である。



第 91 図 第 46 号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)

第 46 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 91・92 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[13.6]	(5.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	におい黄橙	普通	口縁部横ナデ 底部外面横・斜位の削り, 内面縦・横位のナデ後横位の磨き 内面黒色処理	覆土下層	10%
2	土師器	坏	[14.6]	(3.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	におい褐	普通	口縁部横ナデ 底部外面横位の削り後横位の磨き, 内面横位のナデ	覆土中	10%
3	須恵器	高台付坏	-	(1.5)	9.6	雲母・針状物質・赤色粒子・砂粒	浅黄	不良	ロクロナデ 底部回転ヘラ削り, 高台部貼付	覆土上層	10% 産地不明
4	須恵器	蓋	[10.9]	(1.8)	-	長石・石英・黒色粒子	暗灰黄	良好	ロクロナデ 外面自然袖付着	覆土中	10% 猿投産。
5	土師器	高坏	[16.4]	(2.8)	-	長石・石英・雲母・針状物質	におい黄橙	普通	口縁部横ナデ 坏部外面横位のナデ後縦位の削り, 内面多方向の磨き 内面黒色処理	覆土中層	10%
6	土師器	高坏	-	(5.0)	9.0	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	坏部外面縦位の削り, 内面縦位の磨き, 内面黒色処理 脚部外面縦位の削り後横位のナデ, 内面縦位のナデ後横位のナデ	覆土下層	40% PL76
7	土師器	鉢	[22.7]	(10.0)	-	雲母・針状物質・細礫	におい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面斜位のナデ後縦位の削り, 内面縦位のナデ後横・斜位のナデ	覆土中層 下層	30%
8	須恵器	瓶類	-	(1.1)	[9.8]	長石・石英・針状物質	灰	良好	ロクロナデ	覆土中層	5% 産地不明
9	須恵器	長頸瓶	-	(1.2)	-	長石・石英・黒色粒子	灰白	良好	ロクロナデ 内面自然袖付着	覆土中	5% 猿投産
10	土師器	小形甕	[11.0]	(4.0)	-	長石・石英・赤色粒子	におい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面劣化のため調整不明, 横位のナデ, 内面横位のナデ	覆土中層	20% 二次焼成
11	土師器	甕	[16.0]	(13.4)	-	長石・石英・雲母・細礫	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の削り 体部内面横位のナデ 輪積み痕	覆土中	20% 煤付着
12	須恵器	甕	-	(1.3)	-	長石・石英・黒色粒子	灰白	良好	ロクロナデ 外内面自然袖付着	覆土中	5% 猿投産



第 92 図 第 46 号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	支脚	32.0	6.0	6.5	715.30	凝灰質泥岩	上・下面一方向の削り調整 側面削り調整	火床面	PL105
Q 2	支脚	(25.6)	7.0	5.2	(530.00)	凝灰質泥岩	上面一方向の削り調整 側面削り調整 下面欠損	火床面	PL105
Q 3	竈材	(20.3)	13.1	6.9	(670.63)	凝灰質泥岩	上面欠損 側面4面削り調整 下面一部欠損	袖構築土	

### 第 48 号竪穴建物跡 (第 93・94 図)

調査年度 平成 25 年度

位置 調査区東部の E 9 c6 区, 標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第 46・47・51 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 第 46・47・51 号竪穴建物に掘り込まれているが, 一辺 4.60 m の方形と推定できる。主軸方向は N - 12° - W である。壁は高さ 12 ~ 20cm で, ほぼ直立もしくは外傾している。

床 平坦な貼床で, 確認できた部分は, 南西壁, 東壁際を除いて踏み固められている。南壁際の一部は, 地山

面が踏み固められている。貼床は、第5層を10～15cmほど埋め戻して構築されている。壁溝が、南西隅部から南壁下の一部に掘り込まれている。

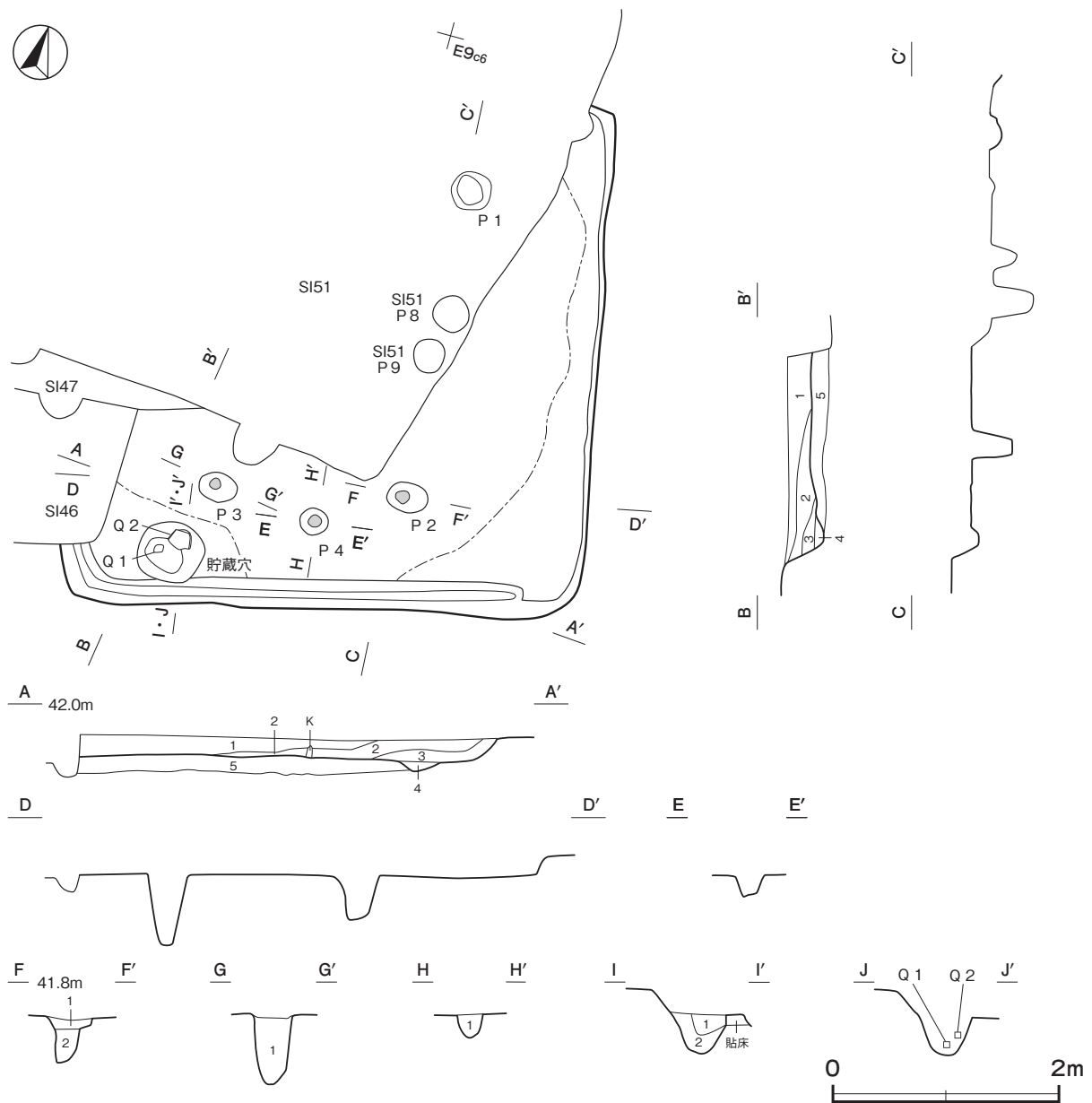
**ピット** 4か所。P1～P3は深さ30～62cmで、配置から支柱穴である。P4は深さ30cmで、出入口施設に伴うピットである。第1・2層は柱材を抜き取った後の覆土である。P2～P4の底面で、柱の当たりを確認した。

**ピット土層解説 (各ピット共通)**

1 黒褐色 ロームブロック少量

2 暗褐色 ロームブロック中量

**貯蔵穴** 南西部に位置し、長径60cm、短径52cmの楕円形である。深さは36cmである。底面は皿状で、壁は外傾している。2層に分層できる。第2層はロームブロックが含まれていることから埋め戻し土、第1層は流入土である。Q1・Q2は中層から出土していることから、埋め戻しに伴う投棄と考えられる。



第93図 第48号竪穴建物跡実測図

貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 白色粒子微量      2 褐色 ロームブロック中量

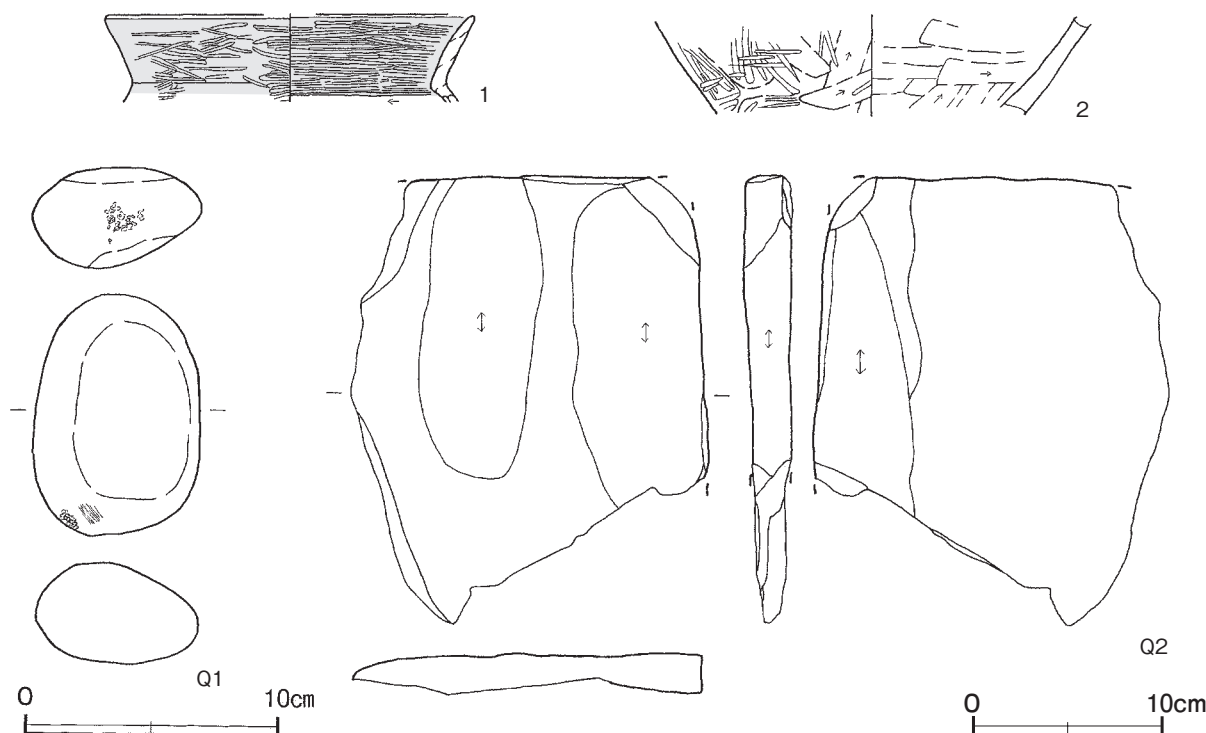
覆土 4層に分層できる。レンズ状に堆積していることから, 自然堆積である。第5層は貼床の構築土である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・白色粒子少量, 焼土粒子微量      4 褐色 ロームブロック微量  
 2 褐色 ローム粒子・白色粒子少量, 焼土粒子微量      5 黄褐色 ロームブロック中量  
 3 黒褐色 ロームブロック少量, 白色粒子微量

遺物出土状況 土師器片 41点 (埴1, 甕類 40) のほか, 縄文土器片 35点 (深鉢), 弥生土器片 11点 (壺類), 須恵器片 1点 (甕類), 石器 2点 (敲石, 砥石), 剥片 1点 (瑪瑙) が, 全域から散在して出土している。多くの土器は小片で, 接合関係に乏しいことから, 埋没の過程で投棄されたと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から 4世紀後葉に比定できる。



第 94 図 第 48 号 縦穴建物跡出土遺物実測図

第 48 号 縦穴建物跡出土遺物観察表 (第 94 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	埴	[14.5]	(3.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外・内面横位の磨き 体部外面横位のナデ後横・斜位の磨き 体部内面横位のナデ 口縁部・体部赤彩	覆土中	10%
2	土師器	甕	-	(4.0)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい赤褐	普通	体部外面縦・斜位のナデ後縦・横位の磨き 体部内面縦位のナデ後横位のナデ	覆土中	10%

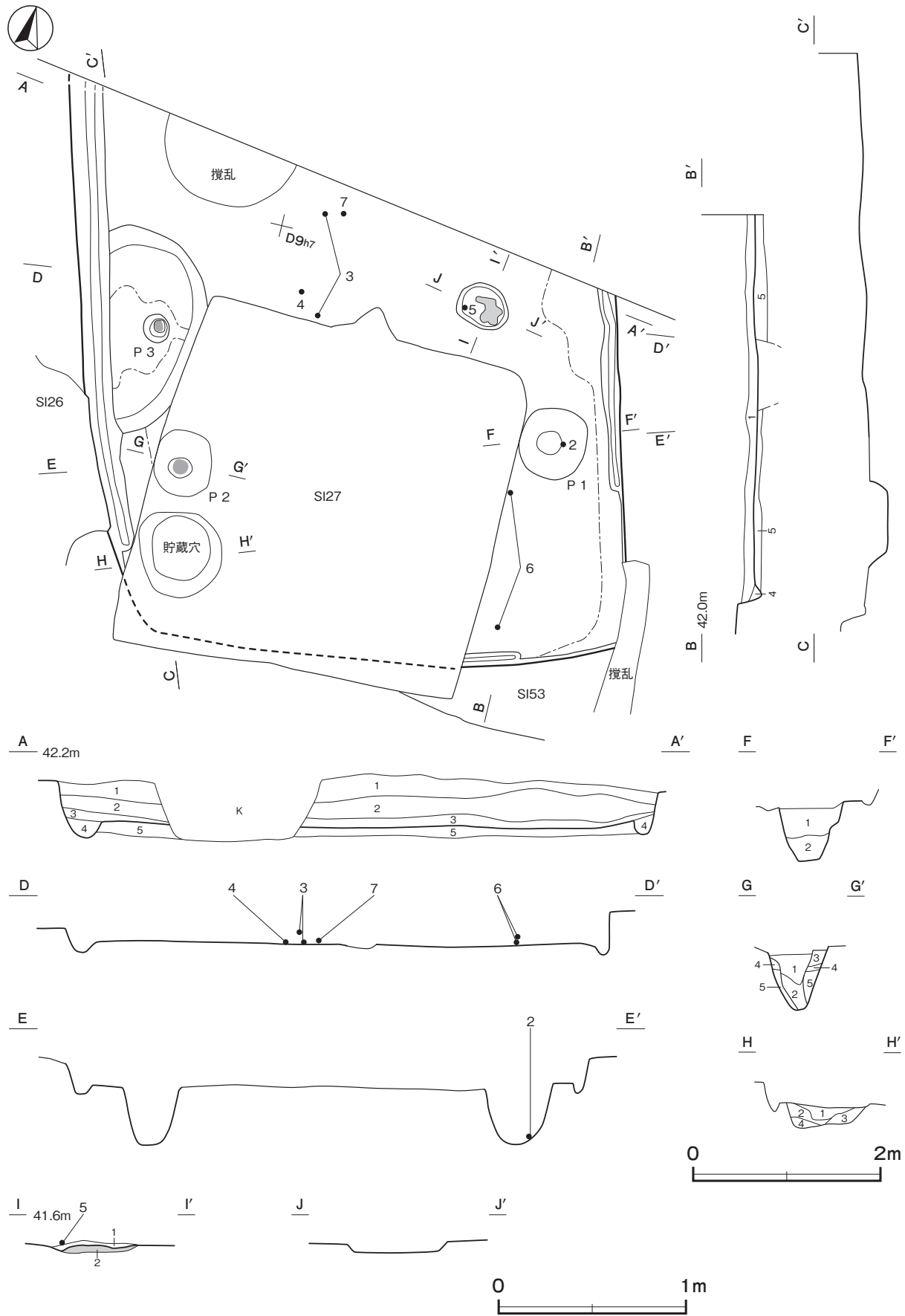
  

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	敲石	9.6	6.7	4.0	363.49	泥岩	端部叩き面 2か所 磨り面 1か所 全面研磨。	覆土中層	
Q 2	砥石	(23.5)	18.5	2.3	(1,180)	緑色変成岩	一部欠損 砥面 4面	覆土中層	

第 52 号 縦穴建物跡 (第 95・96 図 PL13)

調査年度 平成 25 年度

位置 調査区東部の D 9 h 7 区, 標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。



第 95 図 第 52 号竖穴建物跡実测图

**重複関係** 第53号竪穴建物跡を掘り込み、第26・27号竪穴建物に掘り込まれている。

**規模と形状** 北部が調査区域外に延びていることから、東西軸は5.85mで、南北軸は5.85mしか確認できなかった。方形もしくは長方形と推定でき、主軸方向はN-70°-Wである。壁は高さ22~42cmで、ほぼ直立もしくは外傾している。

**床** ほぼ平坦な貼床で、壁下を除いて踏み固められている。貼床は、第5層を5~10cmほど埋め戻して構築されている。壁溝が、調査区域外の北部、第27号竪穴建物に掘り込まれた部分、南東壁下を除いて確認できた。

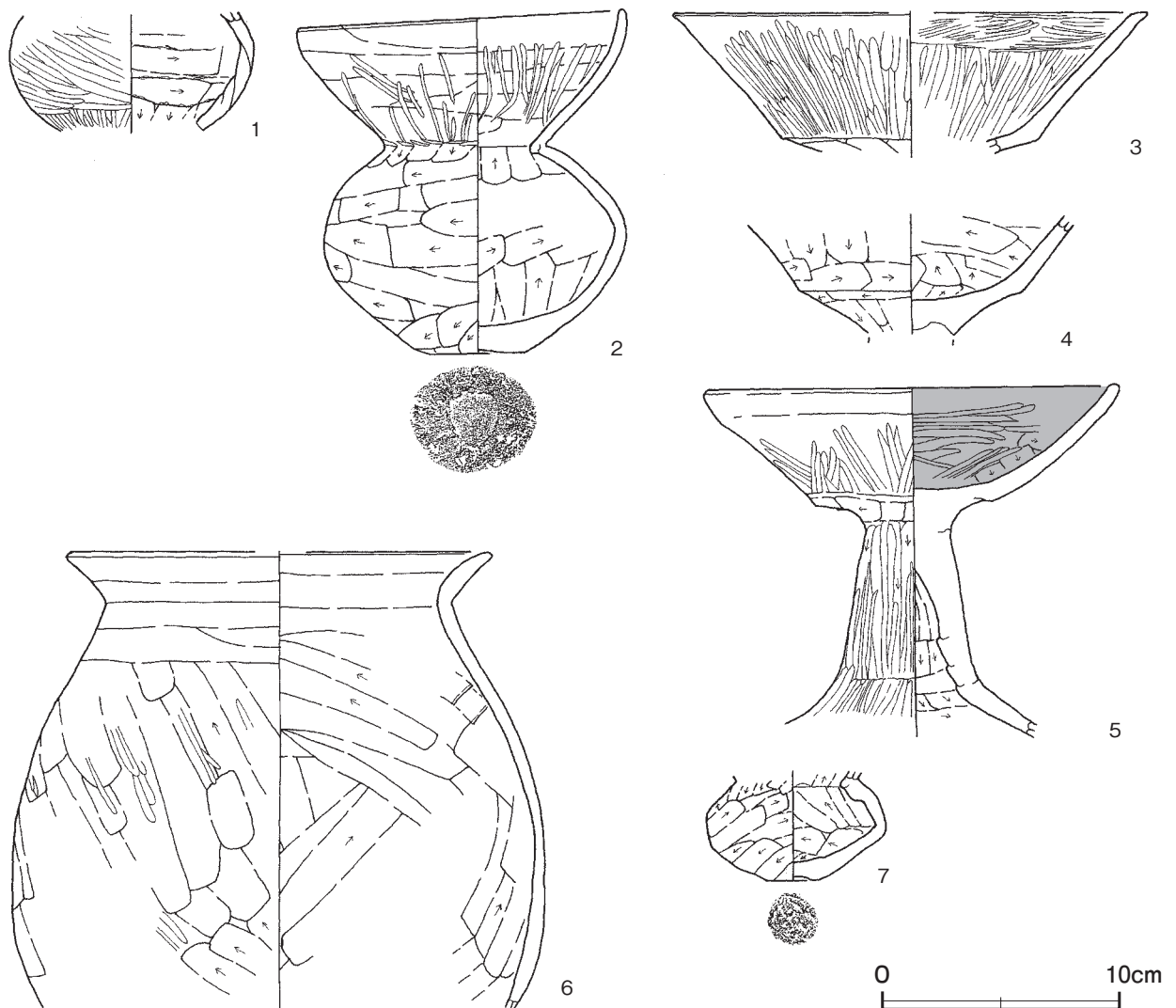
**炉** 中央部の東寄りに付設されている。長径56cm、短径46cmの楕円形の地床炉である。深さ10cmほど掘りくぼめ、構築されている。炉床面は火熱を受けて、赤変硬化している。覆土は単一層で、第1層はロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

**炉土層解説**

1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック中量

2 暗赤褐色 焼土ブロック多量

**ピット** 3か所。P1・P2は深さ52cm・66cmで、配置から主柱穴である。第3~5層は埋土、第1・2層は柱材を抜き取った後の覆土である。P3は深さ20cmで、出入口施設に伴うピットである。P2・P3の底面で、柱の当たりを確認した。



第96図 第52号竪穴建物跡出土遺物実測図



**ピット土層解説 (各ピット共通)**

- |       |                  |       |           |
|-------|------------------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 | 4 褐色  | ロームブロック中量 |
| 2 褐色  | ロームブロック少量, 炭化物微量 | 5 黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量        |       |           |

**貯蔵穴** 南西隅部に位置し, 長径 96cm, 短径 88cmの楕円形である。深さは 25cmである。底面はほぼ平坦で, 壁は外傾している。4層に分層でき, 不規則な堆積状況から, 埋め戻されている。

**貯蔵穴土層解説**

- |          |         |        |           |
|----------|---------|--------|-----------|
| 1 灰黄褐色   | ローム粒子少量 | 3 灰黄褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 にぶい黄褐色 | ローム粒子少量 | 4 明黄褐色 | ローム粒子微量   |

**覆土** 4層に分層できる。第2～4層はロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。第1層はローム粒子が均一に含まれていることから, 自然堆積である。第5層は貼床の構築土である。

**土層解説**

- |          |           |          |                     |
|----------|-----------|----------|---------------------|
| 1 黒褐色    | ローム粒子微量   | 4 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量 |
| 2 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 | 5 灰黄褐色   | ロームブロック中量           |
| 3 暗褐色    | ロームブロック少量 |          |                     |

**遺物出土状況** 土師器片 153点 (坏4, 埴6, 高坏17, 鉢類1, 甕類125)のほか, 縄文土器片 46点 (深鉢), 弥生土器片 11点 (壺類), 須恵器片 2点 (甕類), 金属製品 1点 (鎌), 剥片 1点 (チャート) が, 全域に散在している。多くの土器は大型や中型の破片で, 接合関係が良好であることから, 埋め戻しに伴って投棄されたと考えられる。5は, 炉床面から出土していることから, 炉の廃絶に伴って廃棄されたものと考えられる。2は, P1の第2層中から出土していることから, 柱材を抜き取った後に投棄されたと考えられる。

**所見** 時期は, 出土土器から5世紀前葉に比定できる。

**第52号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第96図)**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	埴	-	(4.9)	-	長石・石英・針状物質・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面縦位の磨き後斜位の磨き, 内面縦位のナデ後横位のナデ, 輪積み痕	覆土中	40%
2	土師器	埴	13.5	14.3	4.6	長石・石英・雲母・砂粒	橙	普通	口縁部横ナデ後縦位の磨き, 体部外面横・斜位のナデ, 上部縦位のナデ, 下部斜位の削り, 内面縦・斜位のナデ, 底部外縁部に沿って削り	P1覆土下層	90% PL72
3	土師器	高坏	[19.8]	(5.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面縦位の磨き, 下部縦位の削り, 内面縦位の磨き後口唇部に横位の磨き	覆土中層 覆土下層	20%
4	土師器	高坏	-	(5.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	坏部外面縦位のナデ後横位のヘラナデ, 内面縦位のナデ後横位のナデ, 底部一方向のナデ	覆土下層	40%
5	土師器	高坏	17.4	(14.7)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	坏部外面二方向の磨き, 下部横位のナデ, 内面斜位のナデ後二方向の磨き, 内面黒色処理	炉床面	50% PL75
6	土師器	甕	[18.0]	(19.2)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ, 体部外面斜位のナデ後斜位の磨き, 内面斜位の二方向のナデ	覆土下層	40% 煤付着
7	土師器	ミニチュア土器	-	(4.6)	2.2	長石・石英・雲母・白色粒子	にぶい橙	普通	体部外面縦・斜位のナデ, 下部斜位の削り, 内面下位縦・横位のナデ, 底部円状ナデ, 内面一方向のナデ	覆土下層	50% PL85

**第53号竪穴建物跡 (第97図)**

**調査年度** 平成 25 年度

**位置** 調査区東部の D9h8 区, 標高 42 mほどの台地平坦面に位置している。

**重複関係** 第54号竪穴建物跡を掘り込み, 第22・27・52号竪穴建物に掘り込まれている。

**規模と形状** 北部が調査区域外に延びており, 第22・27・52号竪穴建物に掘り込まれていることから, 南北軸は 4.64 m, 東西軸は 1.34 mしか確認できなかった。長方形と推定できるが, 主軸方向は不明である。壁は高さ 15～33cmで, 外傾している。

**床** 平坦な貼床である。貼床は, 第2層を 10cmほど埋め戻して構築されている。

**ピット** P1は深さ 36cmで, 性格は不明である。第3～5層は埋土, 第1・2層は柱材を抜き取った後の覆土である。

**ピット土層解説**

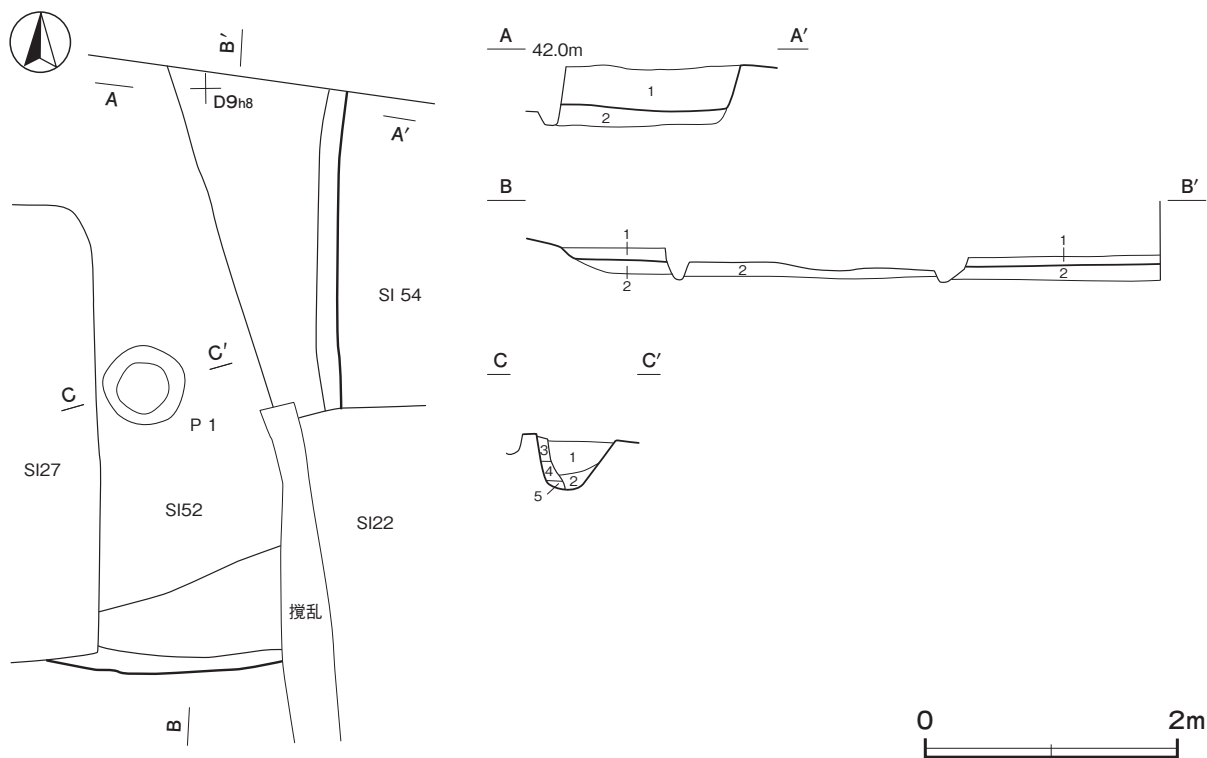
- |                 |                  |
|-----------------|------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック中量 | 4 黒褐色 ロームブロック少量  |
| 2 褐灰色 ロームブロック少量 | 5 灰黄褐色 ロームブロック中量 |
| 3 黄褐色 ロームブロック中量 |                  |

**覆土** 単一層である。ロームブロックが含まれることから、埋め戻されている。第2層は貼床の構築土である。

**土層解説**

- |                        |                    |
|------------------------|--------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 | 2 にぶい黄褐色 ロームブロック少量 |
|------------------------|--------------------|

**所見** 時期は、出土した土器がなかったものの、第52・54号竪穴建物跡との重複関係から4世紀後葉と推定できる。



第97図 第53号竪穴建物跡実測図

**第54号竪穴建物跡 (第98・99図)**

**調査年度** 平成25年度

**位置** 調査区東部のD9h8、標高42mほどの台地平坦面に位置している。

**重複関係** 第22・53号竪穴建物に掘り込まれている。

**規模と形状** 北部が調査区域外に延びていることから、南北軸は6.00m、東西軸は4.95mしか確認できなかった。方形もしくは長方形と推定できるが、主軸方向は不明である。壁は高さ24cmで、ほぼ直立している。

**床** 平坦な貼床で、調査区域外の北部、第22・53号竪穴建物に掘り込まれた部分及び東壁際を除いて踏み固められている。貼床は、第4層を10cmほど埋め戻して構築されている。壁溝が、東壁下で確認できた。

**ピット** P1は深さ60cmで、配置から支柱穴の可能性がある。第3・4層は埋土、第1・2層は柱材を抜き取った後の覆土である。底面で、柱の当たりを確認した。

**ピット土層解説**

- |                 |                    |
|-----------------|--------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック微量 | 3 灰黄褐色 ロームブロック少量   |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量 | 4 にぶい黄褐色 ロームブロック少量 |

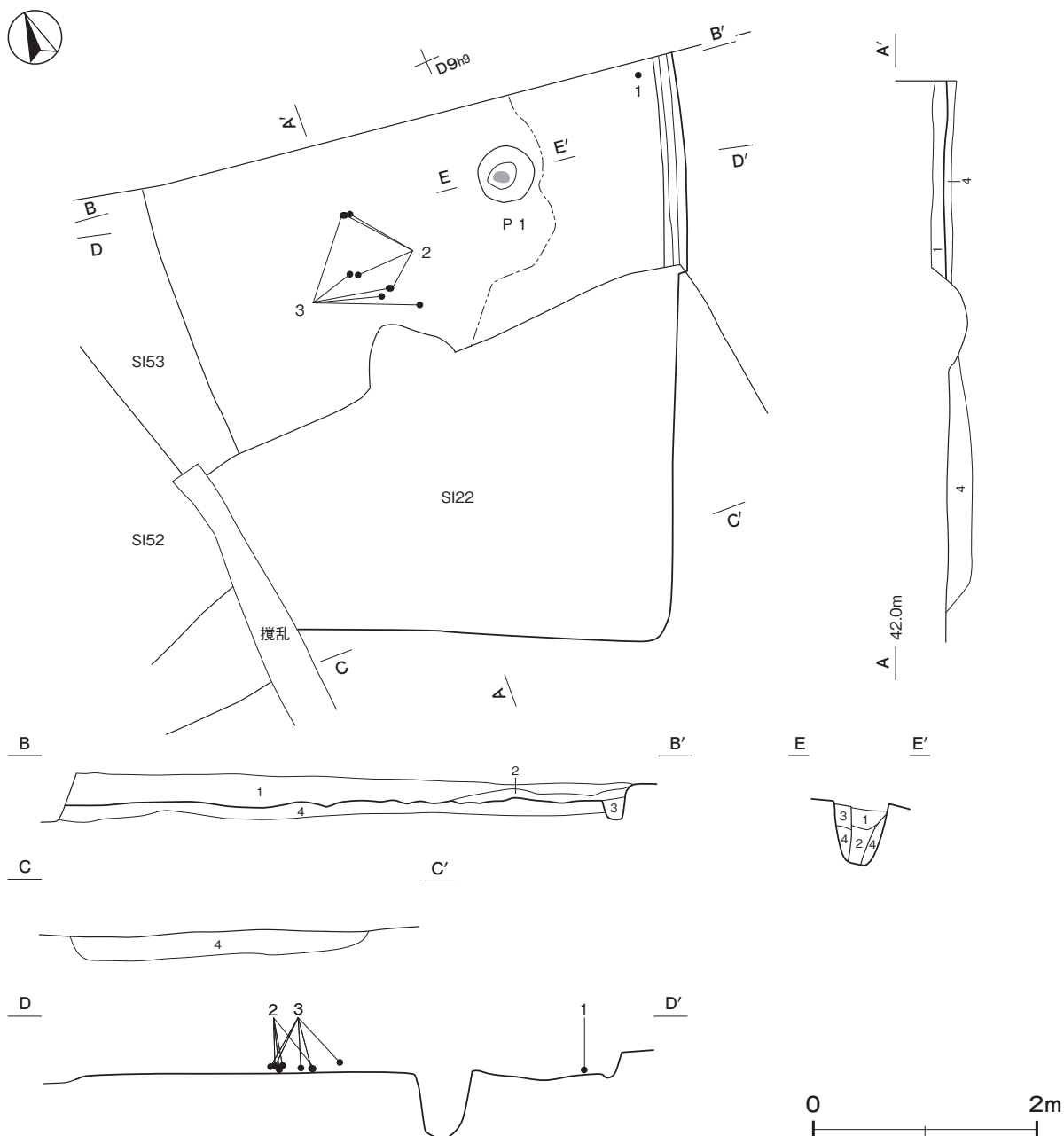
**覆土** 3層に分層できる。第2・3層はロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第1層は水平な堆積状況を示していることから、自然堆積である。第4層は貼床の構築土である。

**土層解説**

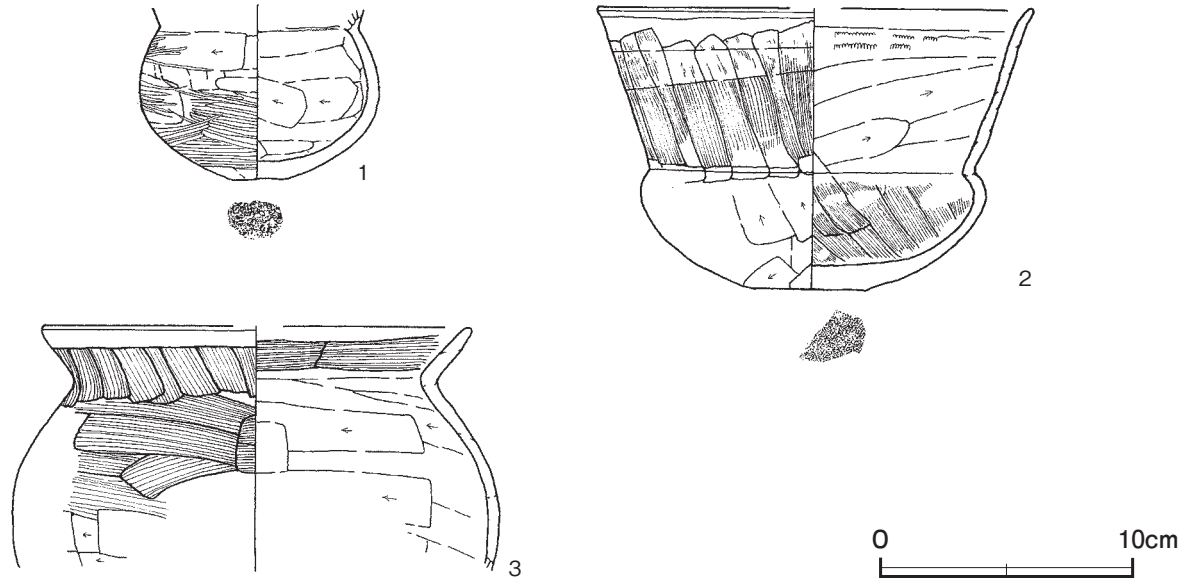
- |       |                  |        |           |
|-------|------------------|--------|-----------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量          | 3 黄褐色  | ロームブロック中量 |
| 2 黄褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量 | 4 灰黄褐色 | ロームブロック少量 |

**遺物出土状況** 土師器片 34 点（埴 3，器台 2，甕類 29）のほか，縄文土器片 11 点（深鉢），弥生土器片 7 点（壺類），剥片 1 点（瑪瑙）が，全域に散在して出土している。多くの土器は中型の破片や小片で，接合関係が比較的良好なことから，埋め戻しに伴って投棄されたと考えられる。

**所見** 時期は，出土土器から 4 世紀中葉に比定できる。



第 98 図 第 54 号 竪穴建物跡実測図



第 99 図 第 54 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 54 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 99 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	埴	-	(6.9)	2.1	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	体部外面縦・横位のナデ後二方向の磨き, 内面ハケ目調整後横位のナデ 底部一方向のナデ	覆土第 2 層	40%
2	土師器	埴	[17.2]	11.2	[4.4]	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい黄橙	普通	口縁部ハケ目調整ナデ消し 体部外面縦位のナデ, 下端部削り調整内面ハケ目調整 底部一方向のナデ	覆土第 1 層	40% PL71 煤付着
3	土師器	甕	[16.8]	(9.7)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい赤褐	普通	口縁部ハケ目調整ナデ消し 体部外面横位のハケ目調整後中位に削り 体部内面横位のナデ	覆土第 1 層	20% 煤付着

### 第 55 号竪穴建物跡 (第 100 図)

調査年度 平成 25 年度

位置 調査区東部の E 9 f9 区, 標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第 15 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 第 15 号竪穴建物に掘り込まれていることから, 床下の構造しか遺存していなかった。長軸は 5.32 m, 短軸は 4.86 m の長方形である。床面下まで掘り込まれているため, 炉も確認できないことから, 主軸方向は不明である。掘方は, 回の字状である。

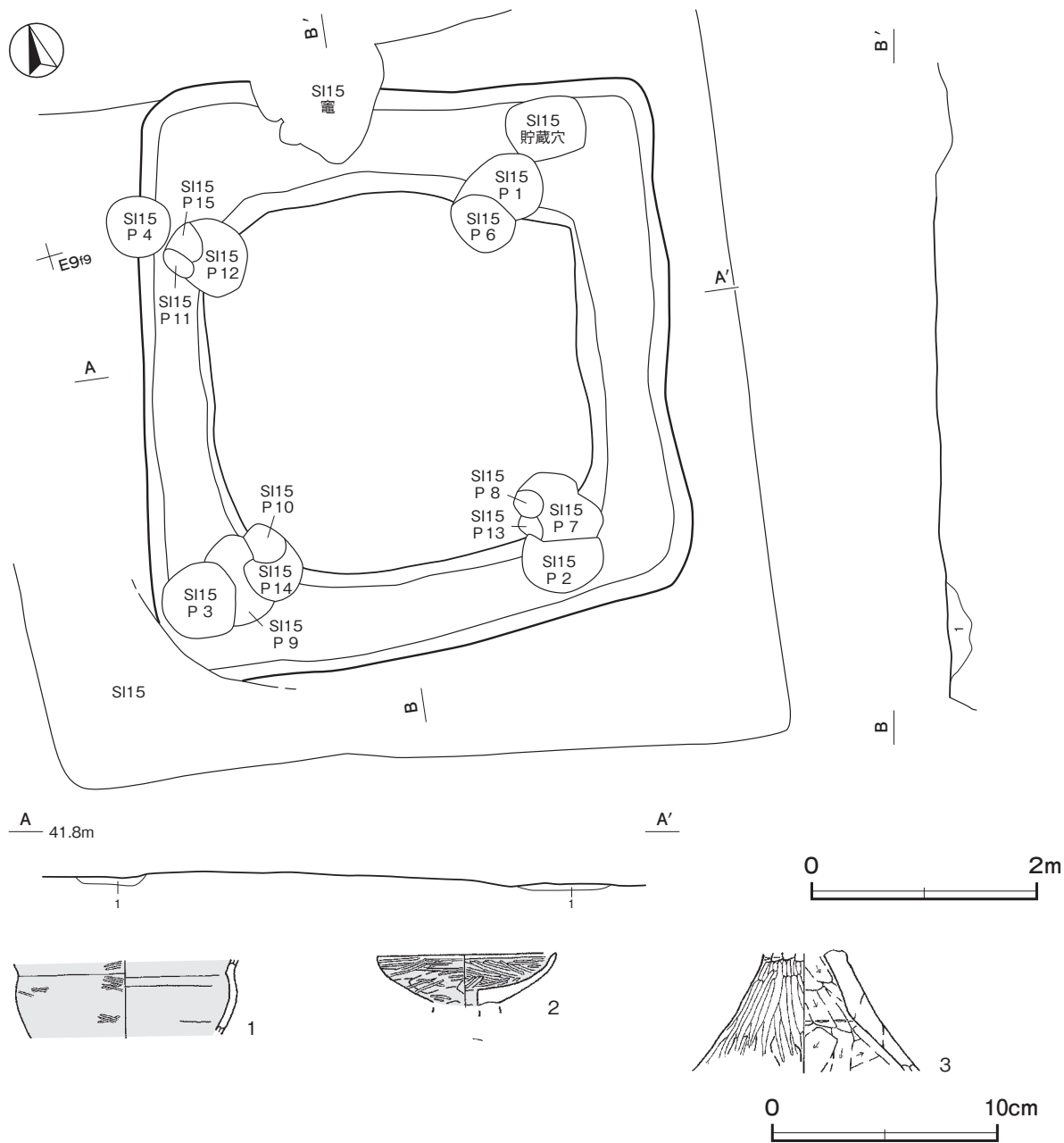
貼床構築土 単一層である。ロームブロックが含まれていることから, 床の構築に伴って埋め戻されている。

#### 土層解説

1 褐 灰 色 ロームブロック・七本桜軽石ブロック少量

遺物出土状況 土師器片 12 点 (埴 1, 器台 3, 甕類 8) のほか, 縄文土器片 1 点 (深鉢), 弥生土器片 2 点 (壺類) が, 掘方の覆土から出土している。多くの土器は小片で, 接合関係に乏しいから, 床面の構築に伴う埋土に含まれていたものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から 4 世紀後葉に比定できる。



第 100 図 第 55 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 55 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 100 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	埴	-	(3.4)	-	長石・石英・雲母・針状物質	暗赤褐	普通	体部外面二方向の磨き 体部内面横位のナデ外・内面赤彩	貼床構築土	5%
2	土師器	器台	8.0	(2.3)	-	長石・石英・雲母・針状物質	褐	普通	坏部外・内面横位のナデ後二方向の磨き 底面からの一方向の穿孔、径1.2cm 外・内面赤彩	貼床構築土	30%
3	土師器	器台	-	(5.2)	-	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	脚部外面縦位のナデ後縦位の磨き 脚部内面縦位のナデ、輪積み痕	貼床構築土	30%

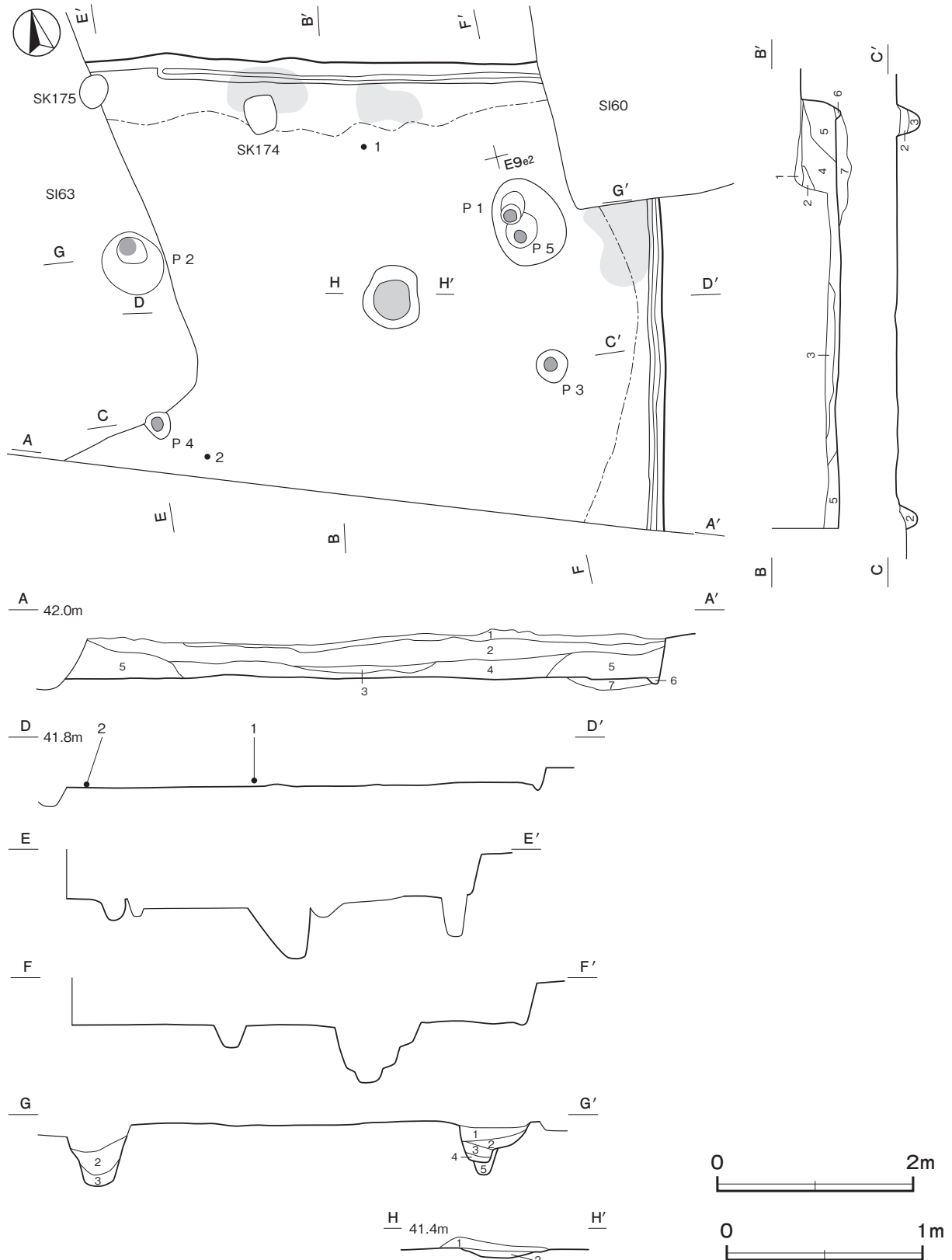
### 第 57 号竪穴建物跡 (第 101・102 図)

調査年度 平成 26 年度

位置 調査区東部の E 9 e1 区、標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第 60・63 号竪穴建物、第 95・174・175 号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 南部が調査区域外に延び、第 60・63 号竪穴建物に掘り込まれていることから、南北軸は 4.40 m、東西軸は 5.50 m しか確認できなかった。方形もしくは長方形と推定できるが、主軸方向は不明である。壁は高さ 16～40cm で、ほぼ直立している。



第 101 図 第 57 号竪穴建物跡実測図

**床** 平坦な貼床で、第 60・63 号竪穴建物に掘り込まれた部分などを除いて、踏み固められている。貼床は北壁、東壁下を第 7 層で 10cm ほど埋め戻して、貼床を構築している。壁溝が、北壁の一部を除いて巡っている。

**炉** 中央部の北東寄りに付設されている。長径 65cm、短径 60cm で、円形の地床炉である。深さ 10cm ほど掘りくぼめ、炉床が構築されている。炉床面は火熱を受けて、赤変硬化している。覆土は 2 層に分層でき、第 1・2 層はロームブロックや焼土ブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

**炉土層解説**

- 1 暗赤褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量      2 赤褐色 焼土ブロック中量, 炭化物少量

**ピット** 5 か所。P 1・P 2・P 5 は深さ 54～56cm で、配置から主柱穴である。第 5 層は P 5 の覆土で、柱材を抜き取った後の覆土である。P 5 は P 1 に掘り込まれていることから、立て替えられている。P 3・P 4 は深さ 24cm・20cm で、配置から補助柱穴である。第 1～4 層は柱材を抜き取った後の覆土である。P 1～P 5 の底面で、柱の当たりを確認した。

**ピット土層解説 (各ピット共通)**

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量      4 にぶい黄褐色 ロームブロック少量  
2 明黄褐色 ロームブロック中量      5 明黄褐色 ロームブロック多量  
3 褐色 ロームブロック微量

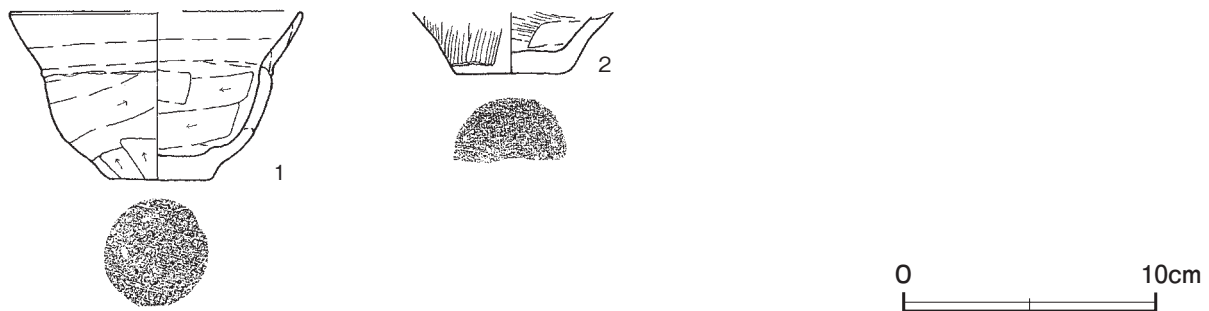
**覆土** 6 層に分層できる。第 2～6 層はロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第 1 層はレンズ状に堆積していることから、自然堆積である。第 7 層は貼床の構築土である。

**土層解説**

- 1 暗褐色 ローム粒子微量      5 黒褐色 ロームブロック少量  
2 暗褐色 焼土粒子少量, ロームブロック微量      6 褐色 ロームブロック中量  
3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量      7 黒褐色 ロームブロック中量  
4 にぶい黄褐色 ロームブロック少量

**遺物出土状況** 土師器片 104 点 (坏 4, 埴 25, 高坏 31, 甕類 43, ミニチュア土器 1) のほか、縄文土器片 49 点 (深鉢), 弥生土器片 15 点 (壺類), 瓦質土器片 1 点 (鉢類) が、全域に散在している。多くの土器は小片で、接合関係に乏しいことから、破損したものが廃絶に伴って投棄されたと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から 4 世紀後葉に比定できる。



第 102 図 第 57 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 57 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 102 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	埴	[11.4]	6.7	4.0	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外・内面横位のナデ, 外部下端部に縦位の削り 底部一方向のナデ	覆土下層	40% PL71
2	土師器	ミニチュア土器	-	(2.5)	4.4	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい黄橙	普通	体部外面縦位のハケ目調整, 内面横位のハケ目調整後ナデ消し 底部一方向のナデ	覆土下層	20%

### 第 60 号 竪穴建物跡 (第 103・104 図)

調査年度 平成 26 年度

位置 調査区東部の E 9 d2 区, 標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第 39 B・57 号 竪穴建物跡を掘り込み, 第 59 号 竪穴建物に掘り込まれている。

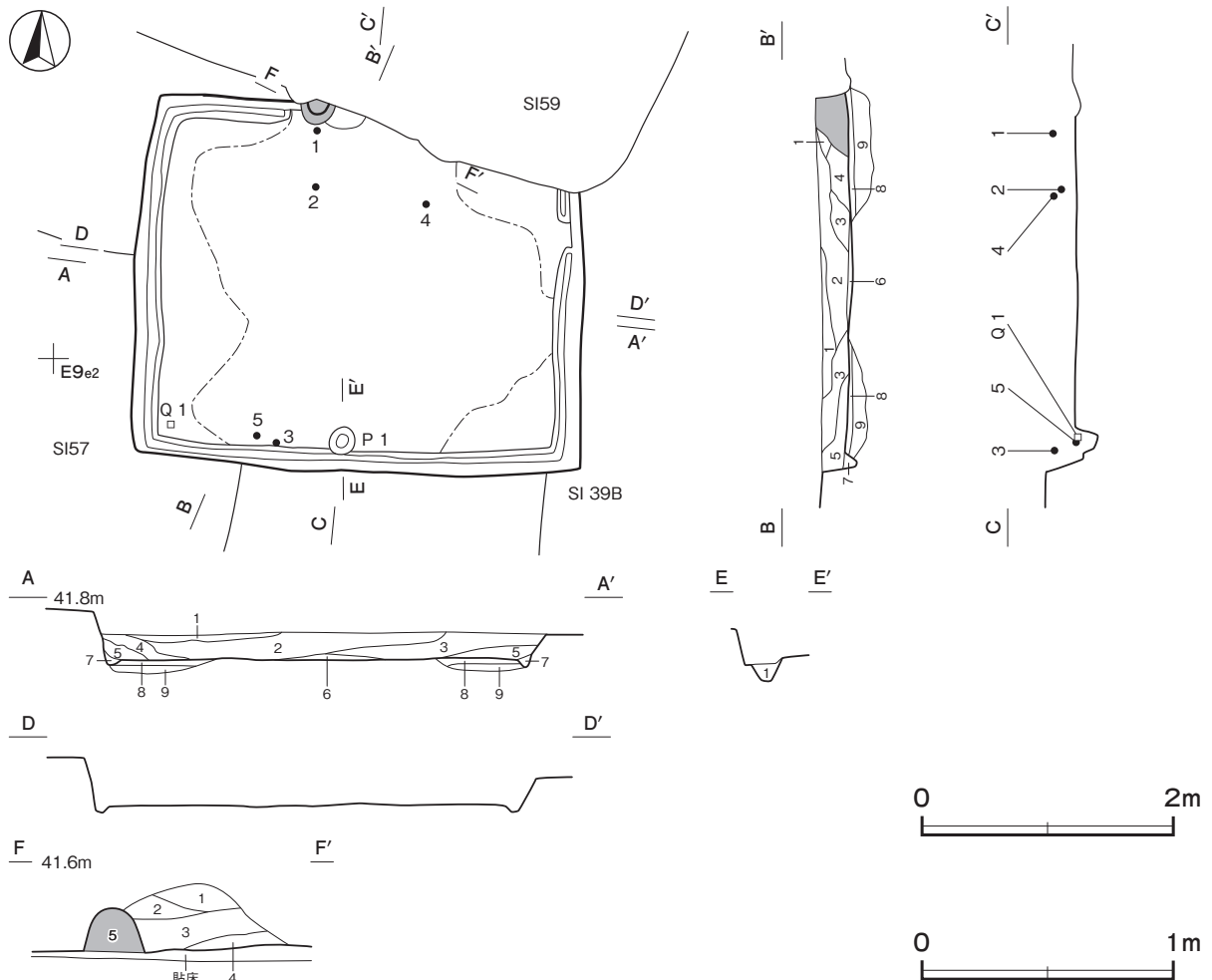
規模と形状 長軸 3.55 m, 短軸 2.90 m の長方形で, 主軸方向は N-0° である。壁は高さ 21 ~ 38 cm で, ほぼ直立している。

床 縁辺部が貼床の平坦な床で, 北東隅部, 南東隅部, 西壁際を除いて踏み固められている。中央部は地山を踏み固め, 壁際では第 8・9 層を 20 ~ 40 cm ほど埋め戻して貼床が構築されている。壁溝が, 竈付近及び東壁下の一部を除いて巡っている。

竈 第 59 号 竪穴建物に掘り込まれていることから, 左袖部の一部しか確認できなかった。北壁の中央部に付設されているが, 規模は不明である。袖部は, 床面の上面に第 5 層を積み上げ, 構築されている。火床面は床面の上面で, 火熱を受けているものの赤変硬化はしていない。第 3・4 層は煙道部から流入した覆土, 第 2 層は焼土ブロックが含まれていることから天井部内壁の崩落土, 第 1 層は粘土ブロックが含まれていることから天井部の崩落土で, 自然に崩壊している。

#### 竈土層解説

- |                                    |                           |
|------------------------------------|---------------------------|
| 1 黄 橙 色 粘土ブロック中量, ロームブロック・焼土ブロック少量 | 4 黒 褐 色 ロームブロック少量         |
| 2 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック少量           | 5 浅黄橙色 粘土ブロック多量, 焼土ブロック少量 |
| 3 褐 色 ロームブロック少量                    |                           |



第 103 図 第 60 号 竪穴建物跡実測図



**ピット** P1は深さ15cmで、配置から出入り口施設に伴うピットである。覆土は単一層で、柱材を抜き取った後の覆土である。

**ピット土層解説**

1 暗褐色 ロームブロック中量

**覆土** 7層に分層できる。ロームブロックが含まれる不規則な堆積をしていることから、埋め戻されている。第8・9層は貼床の構築土である。

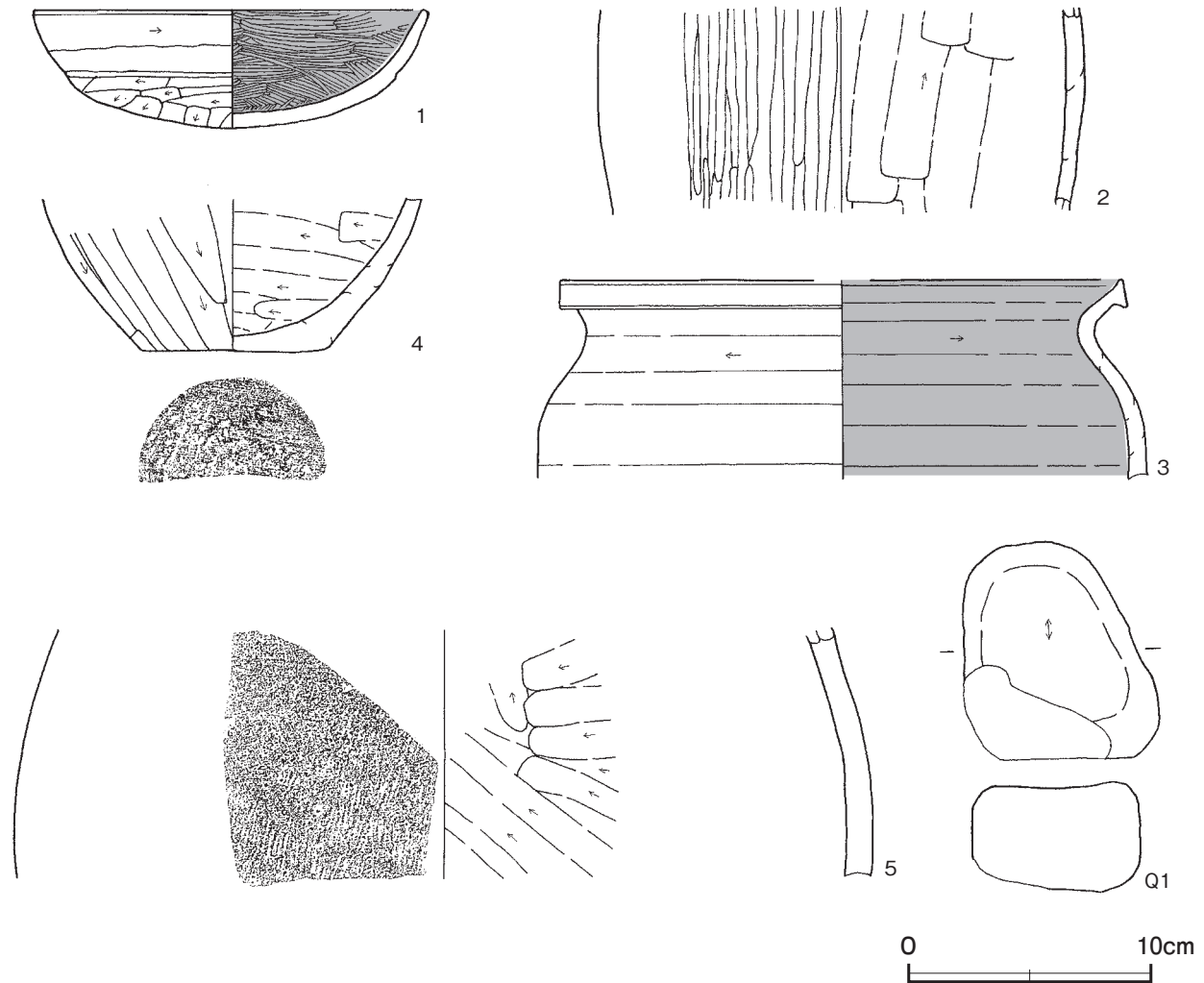
**土層解説**

1 暗褐色 ロームブロック中量  
 2 黒褐色 ロームブロック中量  
 3 極暗褐色 ロームブロック少量  
 4 黒色 ロームブロック少量  
 5 黒褐色 ロームブロック微量

6 灰白色 ロームブロック・粘土ブロック少量  
 7 暗褐色 ロームブロック少量  
 8 黒褐色 ロームブロック少量（第9層より締まり強い）  
 9 黒褐色 ロームブロック少量（第8層より締まり弱い）

**遺物出土状況** 土師器片67点（坏2, 埴7, 高坏2, 甕類56）, 須恵器片1点（甕類）, 石器1点（砥石）のほか、縄文土器片29点（深鉢）, 弥生土器片6点（壺類）, 剥片1点（瑪瑙）が、主に竈やP1周辺から出土している。多くの土器は小片で、接合関係に乏しいことから、破損したものが廃絶に伴って投棄されたと考えられる。1は竈周辺から良好な遺存状態で出土していることから、廃絶に伴って廃棄されたと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から7世紀中葉に比定できる。



第104図 第60号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 60 号 竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 104 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
1	土師器	坏	15.8	4.8	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面横ナデ 底部外面横・斜位の削り 底部内面二方向の磨き 内面黒色処理	覆土中層	95% PL69 煤付着
2	土師器	甕	-	(8.4)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	橙	普通	体部外面縦位の磨き 体部内面縦位のナデ	覆土中層	5% 煤付着
3	土師器	甕	[23.0]	(8.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部・体部ロクロナデ 内面黒色処理	覆土中層	10% 煤付着
4	土師器	甕	-	(6.3)	7.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面縦位の削り 体部内面横位のナデ 底部 二方向の削り	覆土中層	10% 煤付着
5	須恵器	甕	-	(10.2)	-	長石・石英・針状物質・赤色粒子	暗灰黄	良好	体部外面縦位の平行叩き、自然袖付着 体部内 面縦・斜位のナデ後横位のナデ	覆土下層	5% 木葉下窯。

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q 1	砥石	9.0	8.0	5.5	449.84	砂 岩	縁辺部の調整不明 砥面1面 他の面は劣化のため研磨状態不明	覆土下層	

第 63 号 竪穴建物跡 (第 105 ~ 108 図 PL19)

調査年度 平成 26 年度

位置 調査区東部の E 8 d0 区, 標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第 57 号 竪穴建物跡を掘り込み, 第 8 号 掘立柱建物, 第 93・94・175 号 土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南西部が調査区域外に延びているが, 長軸 5.77 m, 短軸 5.60 m の方形で, 主軸方向は N - 10° - W である。壁は高さ 34 ~ 60 cm で, ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で, 北東隅部, 南東隅部, 西壁際, 北西隅部の一部及び南西部を除いて踏み固められている。貼床は, 第 10 層を 5 ~ 15 cm ほど埋め戻して構築されている。壁溝が, 東壁及び西壁下の一部を除いて巡っている。

竈 北壁中央部の東寄りに付設されている。焚口部から煙道部までは 180 cm, 燃焼部の幅は 50 cm である。燃焼部は床面から 20 cm ほど掘りくぼめられ, 第 9・10 層で埋め戻されている。袖部は, 床面及び第 10 層上面に第 7・8 層を積み上げて構築されている。火床面は第 9・10 層の上面で, 第 9 層は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 60 cm ほど掘り込まれ, 第 6 層が貼り付けられている。火床面からは外傾している。第 5 層は煙道からの流入土, 第 4 層は天井部内壁の崩落土, 第 2・3 層は天井部の崩落土であることから, 自然に崩壊している。第 1 層は竈の自然崩壊後の覆土である。

竈土層解説

- |          |                            |          |                          |
|----------|----------------------------|----------|--------------------------|
| 1 灰黄褐色   | ロームブロック・焼土ブロック少量           | 6 にぶい黄褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量         |
| 2 浅黄橙色   | 粘土ブロック多量, ロームブロック・焼土ブロック少量 | 7 灰白色    | 粘土ブロック多量                 |
| 3 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量    | 8 浅黄橙色   | ロームブロック・粘土ブロック少量         |
| 4 明赤褐色   | 焼土ブロック中量, 炭化物少量            | 9 にぶい赤褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 5 黒褐色    | 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物少量        | 10 灰黄褐色  | ローム粒子・焼土粒子少量, 粘土ブロック微量   |

ピット 3 か所。P 1 ~ P 3 は深さ 60 ~ 86 cm で, 配置から支柱穴である。第 3 ~ 5 層は埋土, 第 1・2 層は柱材を抜き取った後の覆土である。P 1 ~ P 3 の底面で, 柱の当たりを確認した。

ピット土層解説 (各ピット共通)

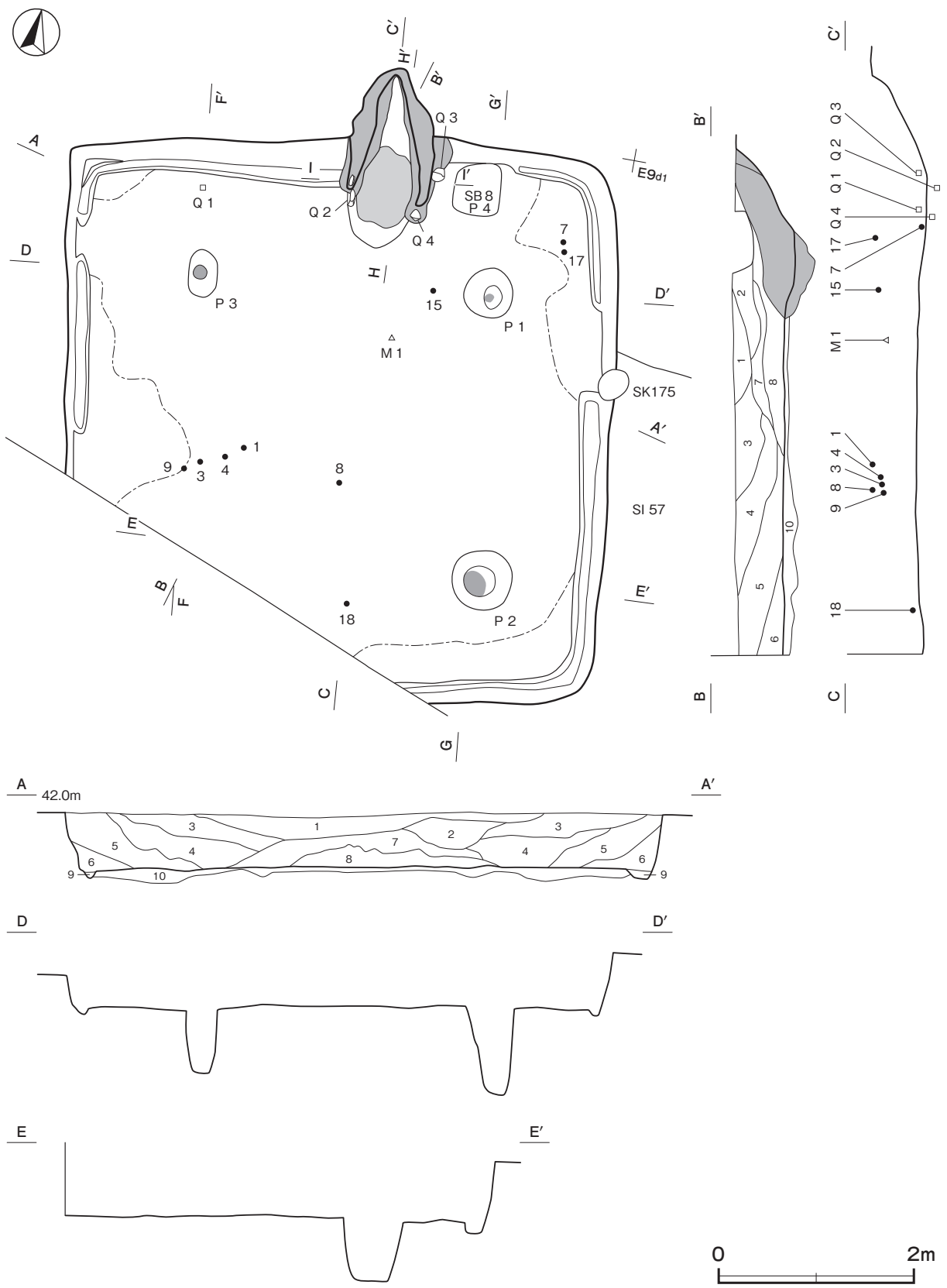
- |          |                     |          |           |
|----------|---------------------|----------|-----------|
| 1 黒褐色    | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 4 黒褐色    | ロームブロック少量 |
| 2 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量           | 5 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黄褐色    | ロームブロック中量           |          |           |

覆土 9 層に分層できる。ロームブロックが含まれる不規則な堆積をしていることから, 埋め戻されている。

第 10 層は貼床の構築土である。

土層解説

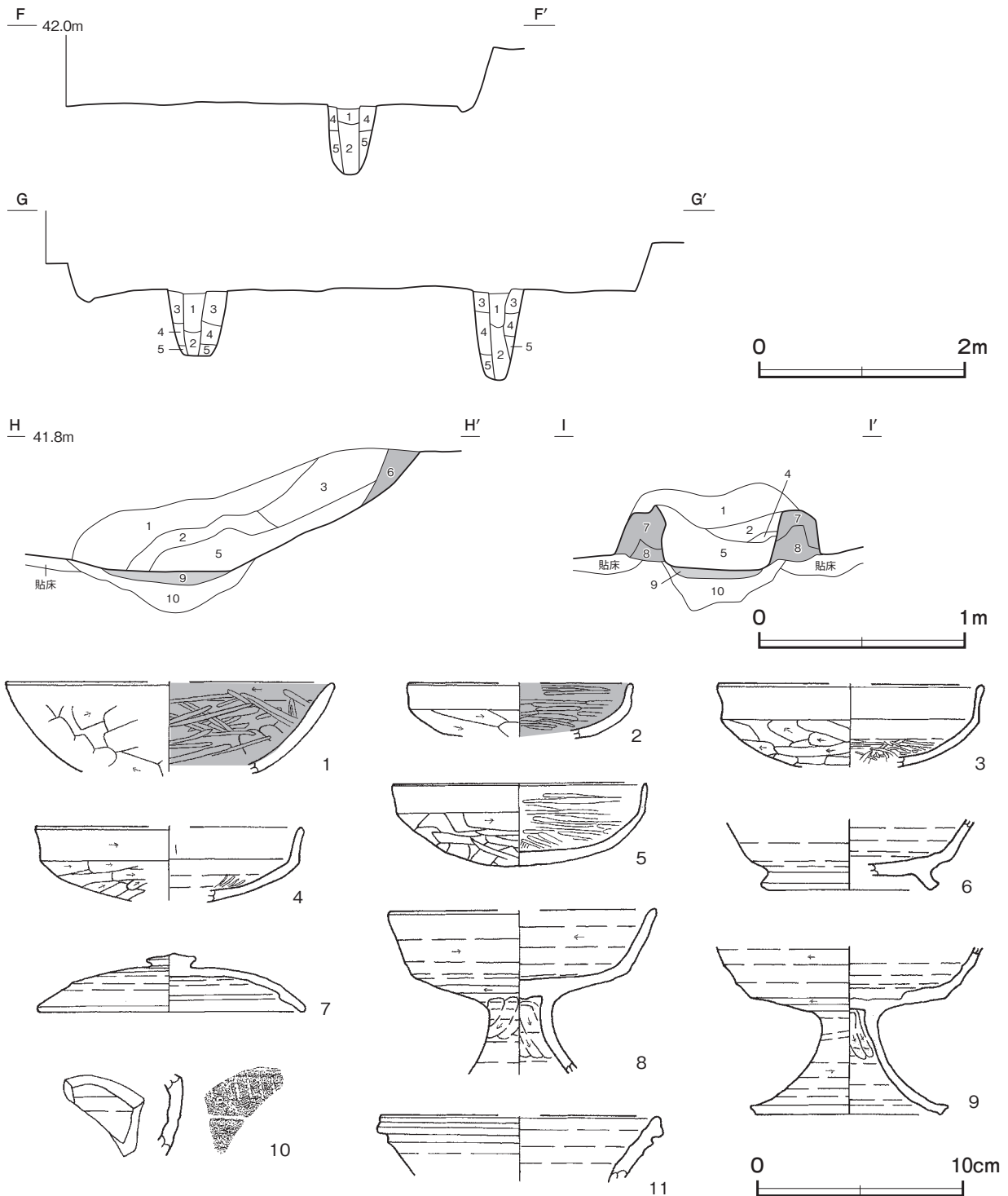
- |       |                        |          |                          |
|-------|------------------------|----------|--------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・白色粒子微量    | 6 暗褐色    | ロームブロック少量, 炭化粒子微量        |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子・白色粒子微量    | 7 灰黄褐色   | ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子微量    |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子・赤色粒子微量 | 8 灰黄褐色   | 粘土ブロック中量, ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子微量  | 9 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量                |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子微量  | 10 黄褐色   | ロームブロック中量                |



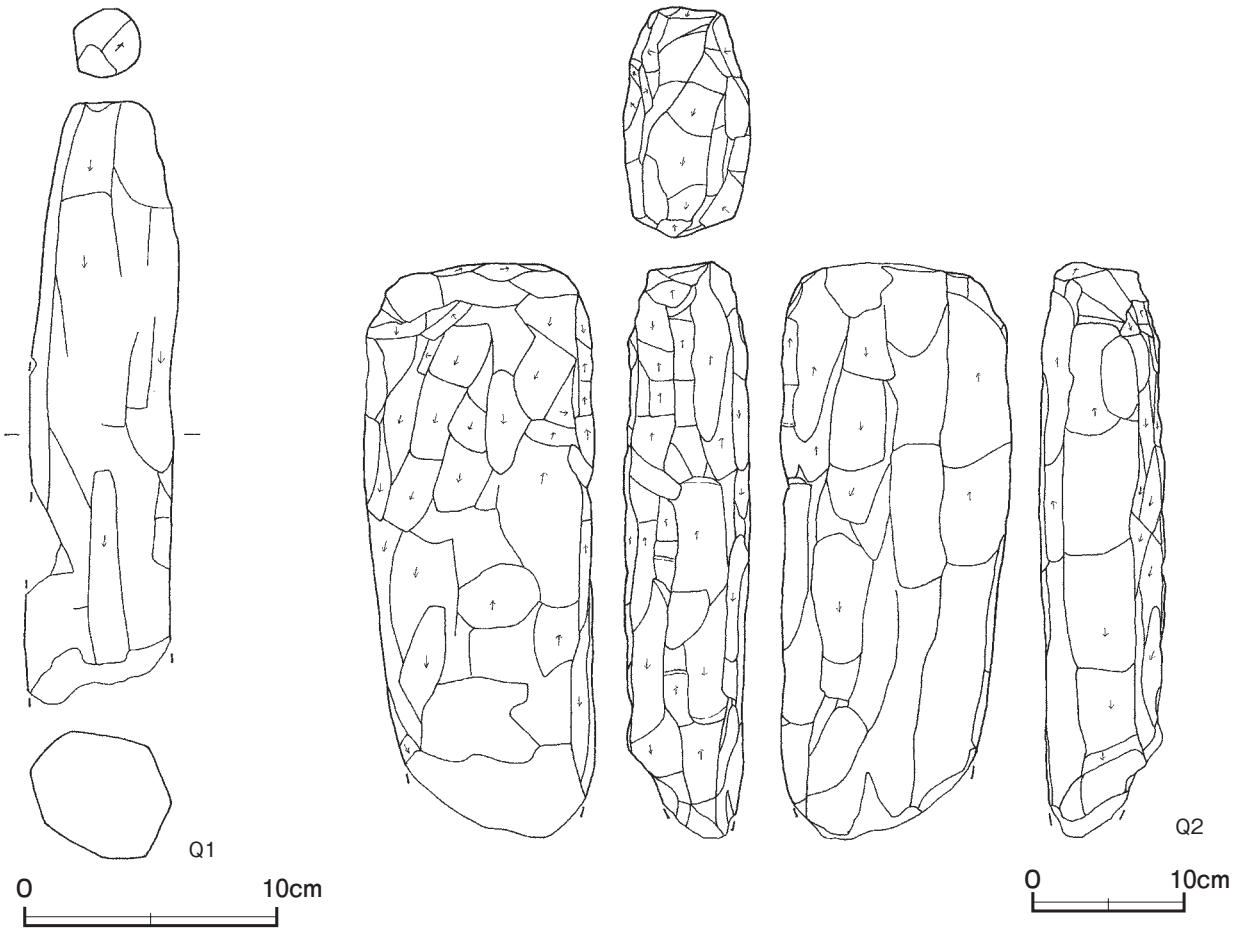
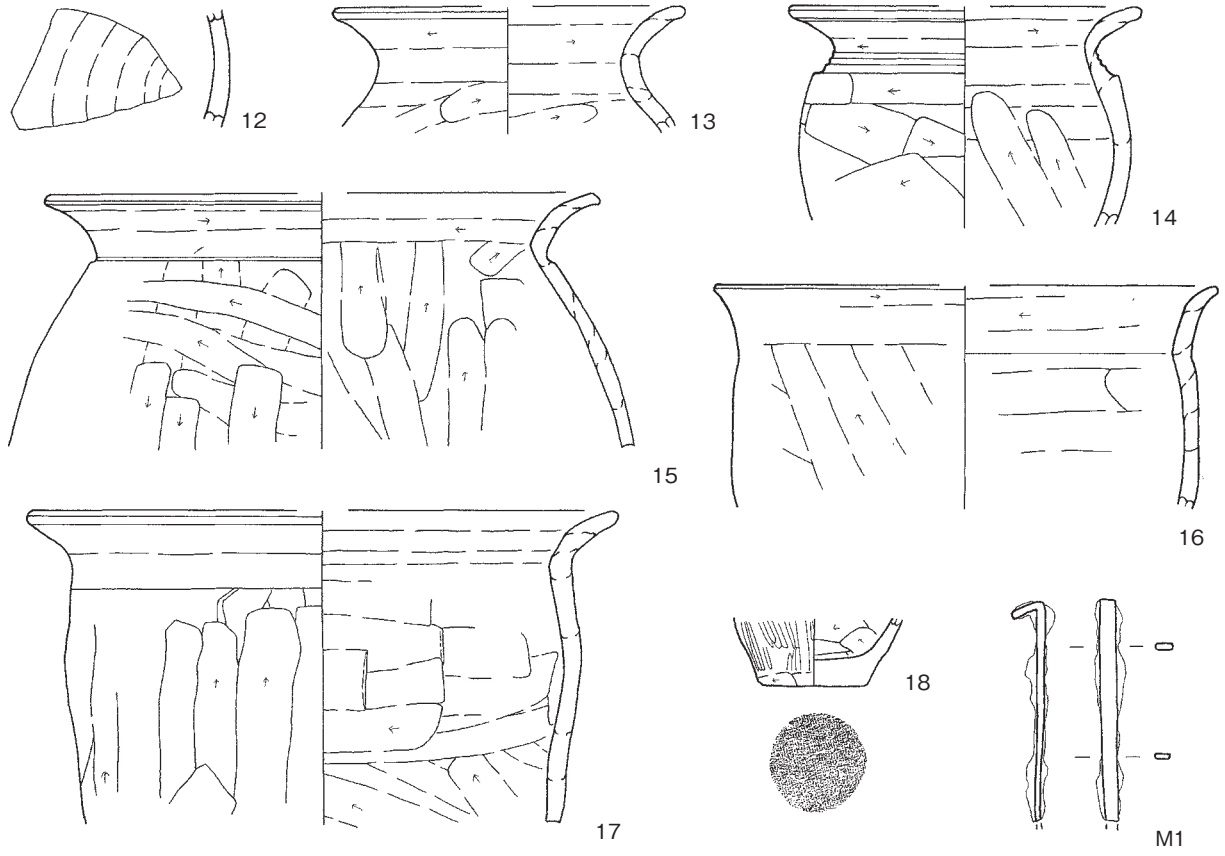
第 105 图 第 63 号竖穴建物跡实测图

**遺物出土状況** 土師器片 1,051 点 (坏 131, 高坏 16, 鉢 2, 壺 2, 甕類 895, 甑 1, ミニチュア土器 4), 須恵器片 48 点 (坏 16, 脚付椀 3, 蓋 5, 高坏 2, 鉢 1, 甗 5, 瓶類 7, 甕類 9), 石器 1 点 (砥石), 石製品 4 点 (支脚 1, 袖部芯材 3), 金属製品 1 点 (釘) のほか, 縄文土器片 65 点 (深鉢), 弥生土器片 33 点 (壺類), 剥片 1 点 (水晶) が, 全域から出土している。多くの土器は中型の破片で, 接合関係が良好であることから, 埋め戻しに伴って投棄されたと考えられる。

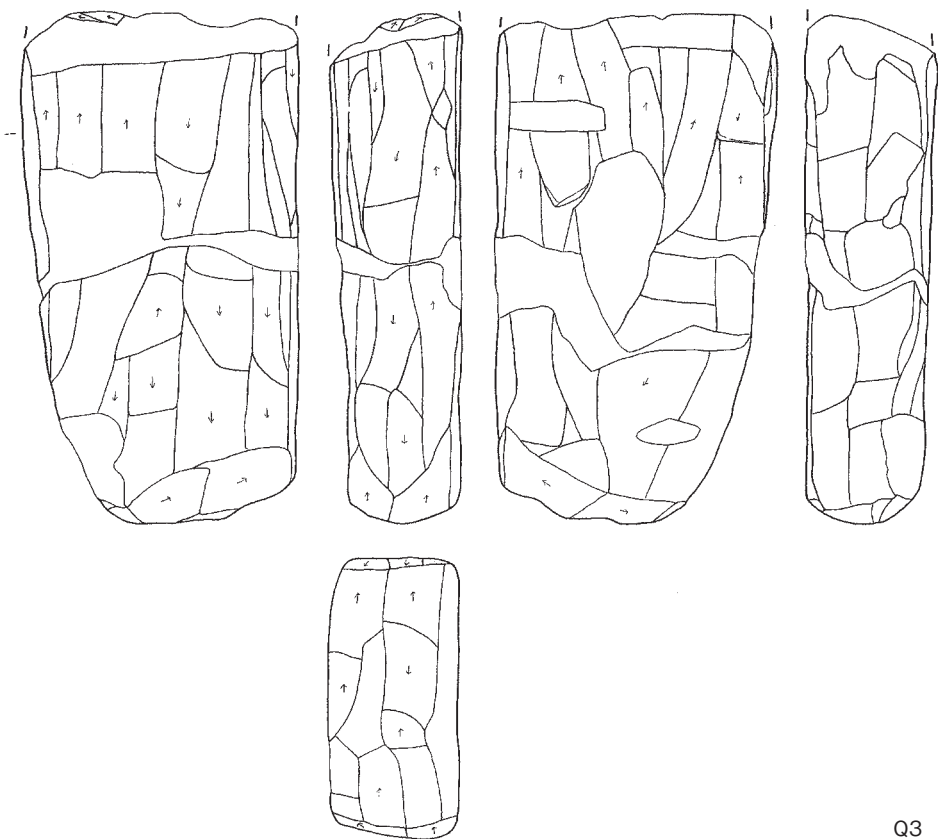
**所見** 時期は, 出土土器から 7 世紀後葉に比定できる。



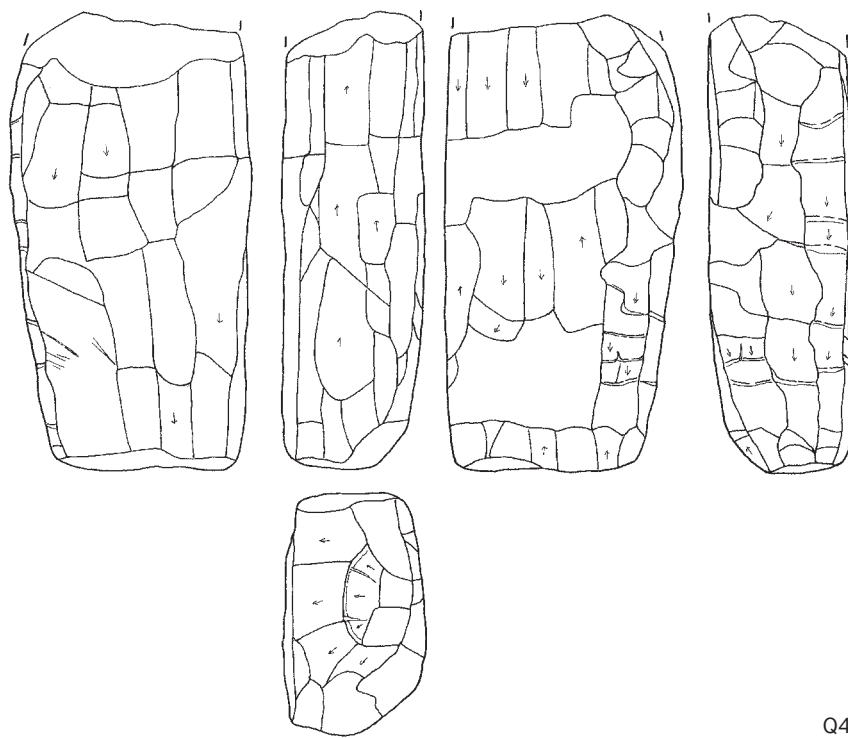
第 106 図 第 63 号竪穴建物跡・出土遺物実測図



第 107 图 第 63 号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)



Q3



Q4



第 108 図 第 63 号 竖穴建物跡出土遺物実測図(2)

第 63 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 106 ～ 108 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[15.8]	(4.4)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい黄褐	普通	口縁部横ナデ 底部外面斜位の削り、内面斜位のナデ後二方向の磨き 内面黒色処理	覆土上層	10%
2	土師器	坏	[10.8]	(2.6)	-	長石・石英・針状物質・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面横ナデ、内面横位の磨き 底部外面斜位の削り、内面横位の磨き 内面黒色処理	覆土中	10%
3	土師器	坏	[12.7]	(4.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 底部外面斜位の削り、内面横位のナデ、下位二方向の磨き	覆土上層	30%
4	土師器	坏	[12.8]	(3.6)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ 底部外面斜位の削り、内面横位のナデ後暗文状の磨き	覆土上層	20%
5	土師器	坏	12.2	4.0	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ後横位の磨き 底部外面横・斜位の削り、内面二方向の磨き 漆処理	覆土中	40%
6	須恵器	脚付碗	-	(3.9)	[7.8]	長石・石英・雲母・針状物質	灰	普通	体部ロクロナデ 底部脚部貼付	覆土中	10% 幡山窯
7	須恵器	蓋	12.7	2.9	-	長石・石英・白色粒子・細礫	灰	良好	天井部ロクロナデ 天井部回転ヘラ削り、摘まみ部貼付	覆土下層	80% PL87 産地不明
8	須恵器	高坏	[12.8]	(8.0)	-	長石・石英・雲母・針状物質	黄 灰	普通	坏部・脚部ロクロナデ 坏底部回転ヘラ削り後脚部貼付	覆土上層	30% PL87 産地不明
9	須恵器	高坏	-	(8.2)	9.0	長石・石英・白色粒子・細礫	橙	良好	坏部・脚部ロクロナデ 坏底部回転ヘラ削り後脚部貼付	覆土上層	50% PL87 産地不明 二次焼成
10	須恵器	甕	-	(4.0)	-	長石・石英・針状物質・黒色粒子	暗黄灰	良好	体部ロクロナデ 体部外面 4本1単位の刺突を横位に展開	覆土中	5% PL88 産地不明
11	須恵器	瓶 類	[13.4]	(3.3)	-	長石・雲母・針状物質	灰	普通	体部ロクロナデ 口縁部外面に稜 提振もしくは横瓶の口縁	覆土中	5% PL88 産地不明
12	須恵器	横 瓶	-	(4.7)	-	長石・石英・黒色粒子・白色粒子	褐灰	良好	体部ロクロナデ 自然袖付着 長頸瓶の体部	覆土中	10% PL88 猿投産
13	土師器	小形甕	[13.6]	(5.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	口縁部横ナデ 体部内・外面横・斜位のナデ	覆土中	10% 煤付着
14	土師器	小形甕	[13.8]	(8.7)	-	長石・石英・針状物質・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部ロクロナデ 体部外面斜位の削り後上位に横位の削り、内面縦位のナデ	覆土中	30% 二次焼成
15	土師器	甕	[21.4]	(10.0)	-	長石・石英・雲母・針状物質	灰黄褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦・横位のナデ後中位以下の縦位の削り、内面縦位のナデ	覆土上層	20% 二次焼成
16	土師器	甕	[19.6]	(9.9)	-	長石・石英・針状物質・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面斜位の削り、内面横位のナデ	覆土中	10% 煤付着
17	土師器	甕	[23.0]	(12.4)	-	長石・石英・雲母・細礫	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の削り、内面斜位のナデ後横位のナデ	覆土上層	20% 煤付着
18	土師器	ミニチュア土器	-	(2.7)	4.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	体部外面縦位の磨き、下端部ヘラナデ、内面横位のナデ 底部二方向のナデ	覆土下層	70% 煤付着

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	支脚	(24.0)	6.1	6.2	(400.20)	凝灰質泥岩	上面一方向の削り調整 側面縦位の削り調整 下面劣化のため調整不明	覆土下層	
Q 2	袖部芯材	(33.8)	18.2	8.9	(2.920)	凝灰質泥岩	上面劣化のため調整不明 側面縦位の削り調整、下端部横位の削り調整 底面二方向の削り調整	覆土下層	PL106
Q 3	袖部芯材	(30.5)	15.9	9.6	(2.590)	凝灰質泥岩	上面劣化のため調整不明 側面縦位の削り調整、下端部横位の削り調整 底面三方向の削り調整	袖部構築土中	
Q 4	袖部芯材	(38.1)	8.4	15.3	(2.495)	凝灰質泥岩	上面一方向の削り調整 側面縦位の削り調整 下面尖底状	袖部構築土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 1	釘	(8.9)	0.7	0.3	(12.63)	鉄	釘頭部体部上部折り曲げ、曲幅 1.3cm 先端部欠損	覆土上層	

第 66 号竪穴建物跡（第 109・110 図）

調査年度 平成 26 年度

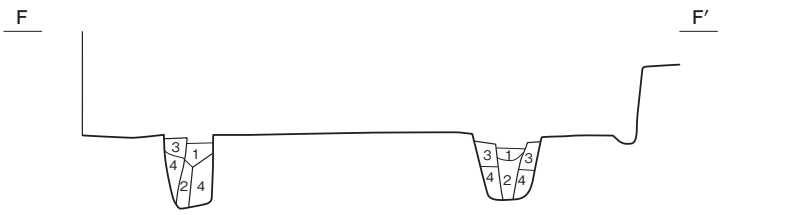
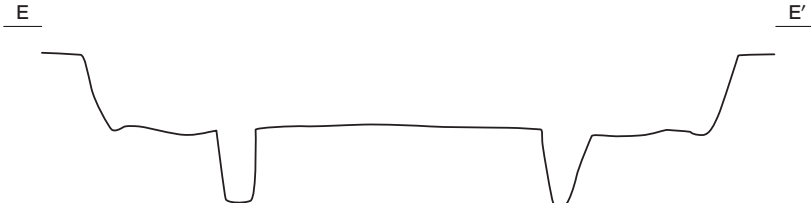
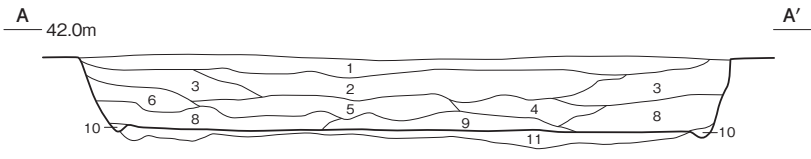
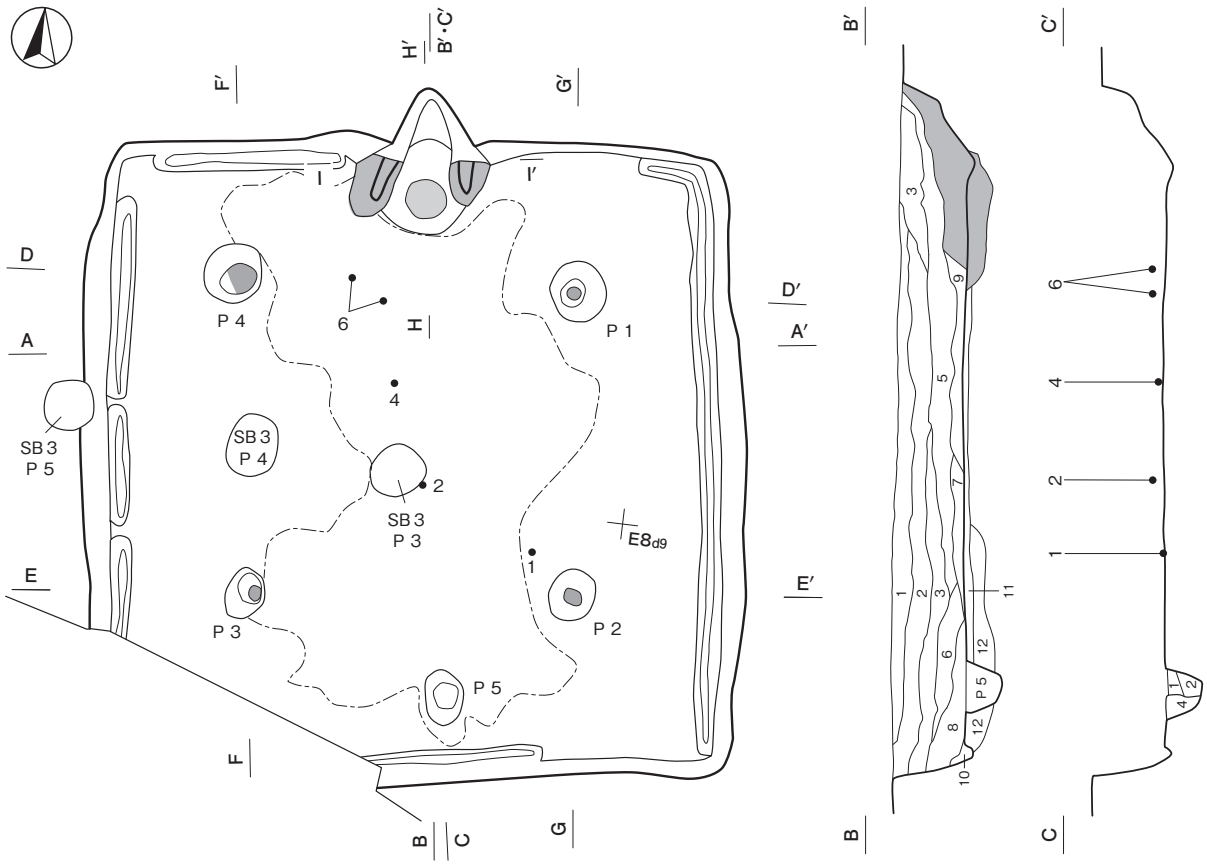
位置 調査区東部の E 8 c8 区、標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第 3 号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 南西部が調査区域外に延びているが、長軸 5.31 m、短軸 5.05 m の方形で、主軸方向は N - 9° - W である。壁は高さ 55 ～ 60cm で、ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で、竈付近及び中央部が踏み固められている。貼床は、第 11・12 層を 5 ～ 20cm ほど埋め戻して構築されている。壁溝が、北西隅部及び北壁、南壁、西壁下の一部を除いて巡っている。

竈 北壁の中央部に付設されている。焚口部から煙道部までは 115cm、燃焼部の幅は 45cm である。燃焼部は床面から 20cm ほど掘りくぼめられ、第 5・6 層で埋め戻されている。袖部は、貼床及び第 6 層上面に第 4 層を積み上げて構築されている。火床面は第 5・6 層の上面で、第 5 層は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 50cm ほど掘り込まれ、火床面から外傾している。第 1 ～ 3 層にはロームブロックや粘土ブロックが



第 109 图 第 66 号竖穴建物迹实测图



含まれていることから、壊されている。

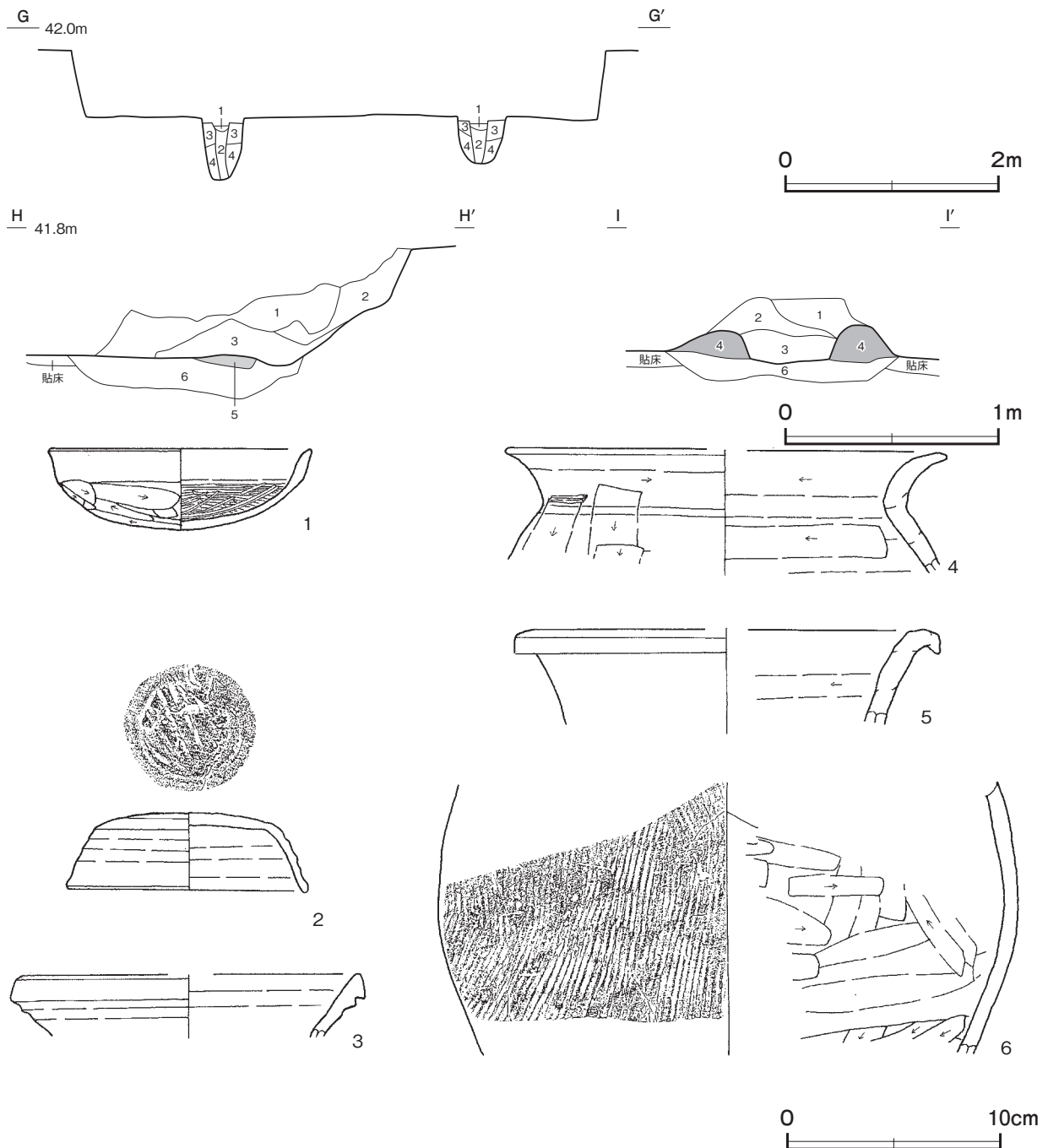
**竈土層解説**

- |        |                          |        |                          |
|--------|--------------------------|--------|--------------------------|
| 1 黒褐色  | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量  | 4 灰黄褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子中量, 焼土ブロック少量 |
| 2 暗褐色  | 粘土ブロック中量, 焼土ブロック・ローム粒子微量 | 5 赤褐色  | 焼土ブロック中量                 |
| 3 灰黄褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック少量, ローム粒子微量 | 6 褐灰色  | ロームブロック少量                |

**ピット** 5か所。P 1～P 4は深さ50～55cmで、配置から主柱穴である。P 5は深さ18cmで、配置から出入口施設に伴うピットである。第3・4層は埋土、第1・2層は柱材を抜き取った後の覆土である。P 1～P 4の底面で、柱の当たりを確認した。

**ピット土層解説 (各ピット共通)**

- |       |                |          |                  |
|-------|----------------|----------|------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子微量        | 3 にぶい黄褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 4 黒褐色    | ロームブロック中量        |



第110図 第66号竪穴建物跡・出土遺物実測図

**覆土** 10層に分層できる。ロームブロックが含まれる不規則な堆積から、埋め戻されている。第11・12層は貼床の構築土である。

**土層解説**

1 暗褐色	ロームブロック微量	7 におい黄褐色	ロームブロック少量, 焼土ブロック微量
2 褐灰色	ロームブロック・粘土ブロック少量	8 極暗褐色	ロームブロック少量
3 黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量	9 灰黄褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量
4 黄褐色	ロームブロック中量	10 におい黄褐色	ロームブロック少量
5 黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量, 炭化粒子微量	11 暗褐色	ロームブロック少量
6 褐灰色	ロームブロック少量	12 におい黄褐色	ロームブロック中量

**遺物出土状況** 土師器片 644点 (坏 29, 高坏 25, 鉢 2, 壺 2, 瓶類 1, 甕類 583, 手捏土器 2), 須恵器片 23点 (蓋 10, 高坏 1, 甕 1, 瓶類 1, 甕類 9, 甗 1), 石器 1点 (砥石), 石製品 1点 (竈材) のほか, 縄文土器片 134点 (深鉢), 弥生土器片 20点 (壺類) が, 全域に散在している。多くの土器は小片で, 接合関係に乏しいことから, 破損したものが廃絶に伴って投棄されたと考えられる。1・3は良好な遺存状態で出土していることから, 廃絶に伴って遺棄されたと考えられる。

**所見** 時期は, 出土土器から7世紀前葉に比定できる。

**第66号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第110図)**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	12.3	3.8	-	長石・石英・雲母・細礫	におい黄橙	普通	口縁部横ナデ 底部外面斜位の削り 底部内面横位のナデ後二方向の磨き	覆土下層	80% PL68
2	須恵器	蓋	11.1	3.2	8.6	長石・針状物質・黒色粒子	灰黄褐	普通	体部ロクロナデ 天蓋部回転ヘラ削り後一方向のナデ	覆土下層	70% PL86 在地産
3	須恵器	瓶類	-	(3.8)	[16.2]	長石・針状物質・黒色粒子	灰	普通	脚部ロクロナデ 下位に二重の沈線	覆土中	5% 在地産
4	土師器	甕	[20.4]	(5.7)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位のナデ 体部内面横位のナデ	覆土下層	5% 煤付着
5	須恵器	甕	[20.0]	(4.4)	-	長石・石英・針状物質・黒色粒子	灰	普通	頸部ロクロナデ 外面縦位の平行叩き後横位のナデ	覆土中	5% 在地産
6	須恵器	甕	-	(12.7)	-	長石・雲母・針状物質	黄灰	普通	体部ロクロナデ 外面縦位の平行叩き 内面多方向のナデ	覆土下層	5% 在地産

**第67号竪穴建物跡 (第111・112図 PL14)**

**調査年度** 平成26年度

**位置** 調査区東部のE 8b7区, 標高42mほどの台地平坦面に位置している。

**重複関係** 第61・62号竪穴建物, 第3号掘立柱建物に掘り込まれている。

**規模と形状** 北西部を第61・62号竪穴建物に掘り込まれているが, 長軸5.91m, 短軸5.77mの方形で, 主軸方向はN-4°-Eである。壁は高さ30cmで, ほぼ直立している。

**床** 平坦な貼床で, 第61・62号竪穴建物に掘り込まれている部分を除いて, 中央部が踏み固められている。貼床は, 第6層を10cmほど埋め戻して構築されている。壁溝が, 北壁下の一部及び西壁下を除いて巡っている。

**炉** 中央部の北東寄りに付設されている。長径90cm, 短径55cmの楕円形の地床炉である。深さ5cmほど掘りくぼめ, 炉床が構築されている。炉床面は, 第3層で, 火熱を受けて赤変硬化している。2層に分層できる。第1・2層はレンズ状に堆積していることから, 自然堆積である。

**炉土層解説**

1 におい黄褐色	ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量	3 明赤褐色	焼土粒子中量
2 暗赤褐色	ロームブロック・今市軽石粒子少量		

**ピット** 3か所。P1~P3は深さ20~30cmで, 配置から支柱穴である。第1~4層は柱材を抜き取った後の覆土である。P2・P3の底面で, 柱の当たりを確認した。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- |       |                       |         |                       |
|-------|-----------------------|---------|-----------------------|
| 1 黒色  | ローム粒子微量               | 3 泥い黄褐色 | 今市軽石ブロック中量, ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 今市軽石ブロック微量 | 4 黒褐色   | ロームブロック・今市軽石ブロック少量    |

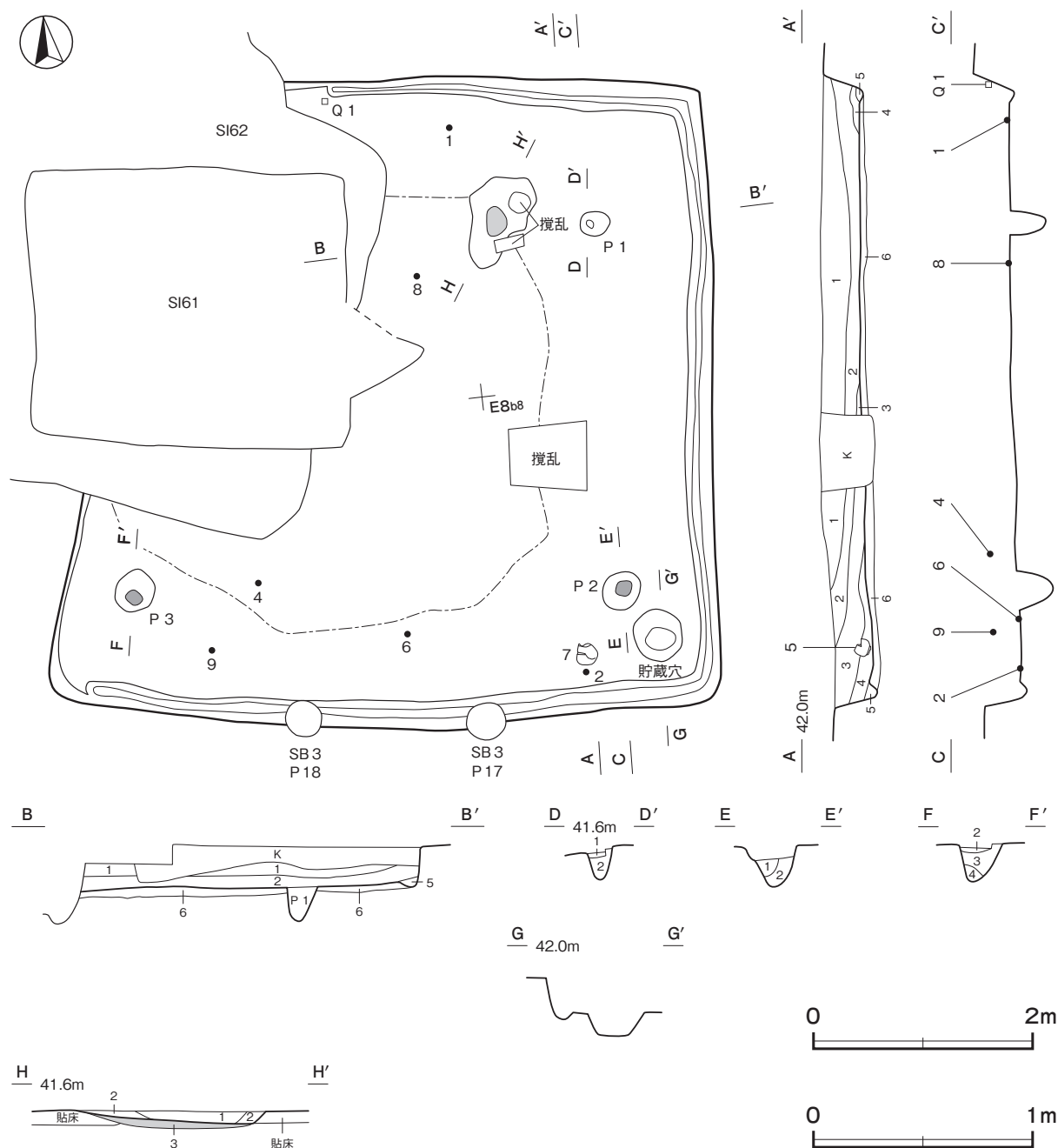
貯蔵穴 南東隅に位置し, 径45cmの円形である。

覆土 5層に分層できる。レンズ状に堆積していることから, 自然堆積である。第6層は貼床の構築土である。

土層解説

- |       |                        |         |                     |
|-------|------------------------|---------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・今市軽石粒子・白色粒子微量    | 4 黒色    | ローム粒子・今市軽石粒子・白色粒子少量 |
| 2 褐灰色 | 白色粒子少量, ローム粒子・今市軽石粒子微量 | 5 暗褐色   | ローム粒子・今市軽石粒子・白色粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子・白色粒子少量, 今市軽石粒子微量 | 6 泥い黄褐色 | ロームブロック・今市軽石ブロック少量  |

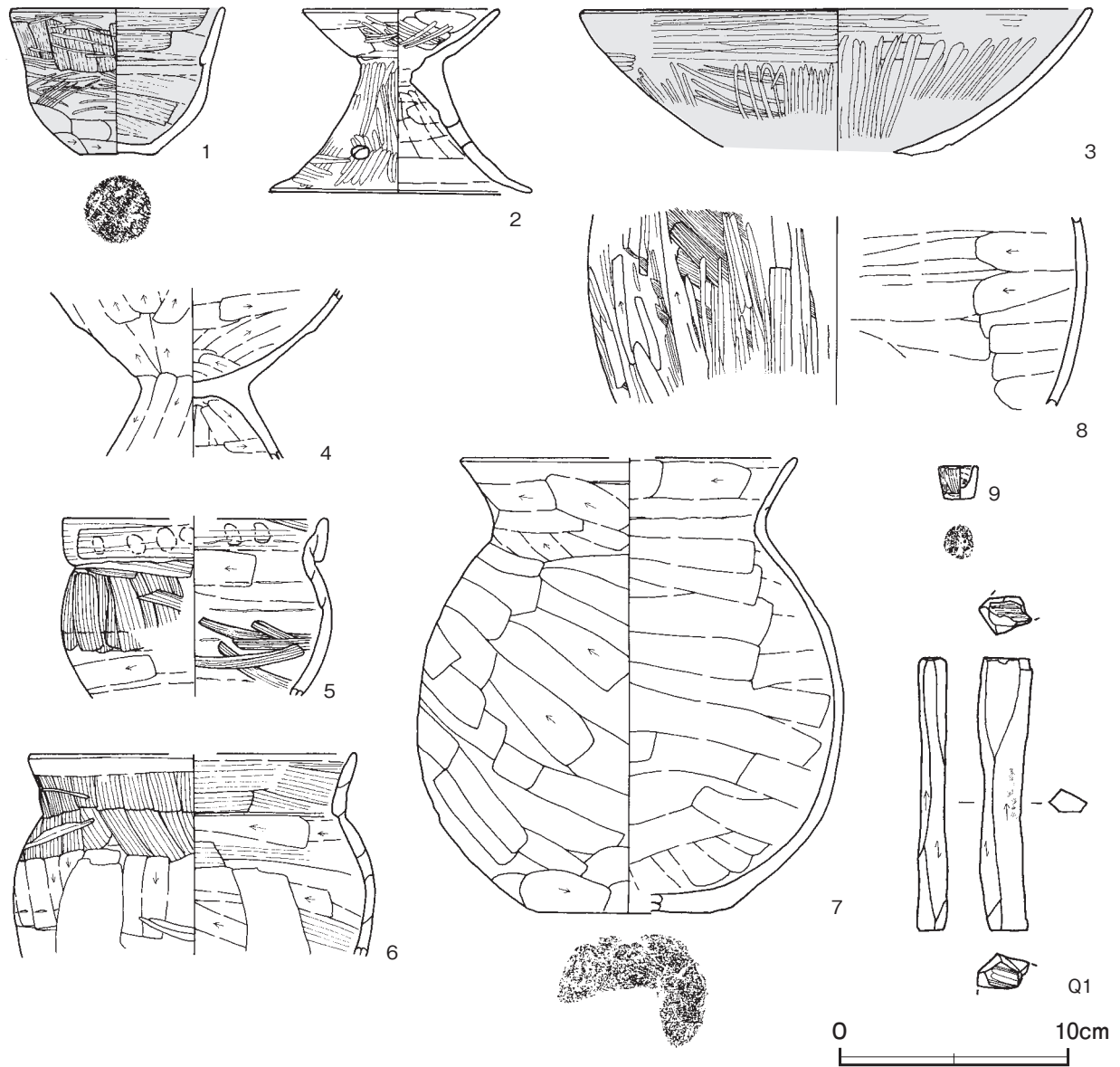
遺物出土状況 土師器片 296点 (埴 15, 器台 3, 高坏 12, 壺 1, 甕類 262, ミニチュア土器 3), 石器 1点 (砥石) のほか, 縄文土器片 110点 (深鉢), 弥生土器片 8点 (壺類) が, 全域に散在している。多くの土器は大型や中型の破片で, 接合関係が良好であることから, 埋没の過程で投棄されたと考えられる。1・2・5は良



第 111 図 第 67 号 竪穴建物跡実測図

好な遺存状態で出土していることから、埋没の早期の段階で投棄されたと考えられる。

所見 時期は、出土土器から4世紀後葉に比定できる。



第112図 第67号竪穴建物跡出土遺物実測図

第67号竪穴建物跡出土遺物観察表（第112図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	埴	9.2	6.5	3.0	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部外面ハケ目調整後横位の磨き、内面ハケ目調整ナデ消し、体部外面二方向の磨き、下端部横位の削り、底部一方向の削り、赤彩	覆土下層	80% PL71
2	土師器	器台	8.6	8.1	11.4	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	坏部横位のナデ後二方向の磨き、脚部外面縦位の磨き後下端部横位の磨き、内面縦・横位のナデ、穿孔3カ所	覆土下層	70% PL73
3	土師器	高坏	[22.5]	(6.0)	-	長石・石英・雲母・針状物質	赤褐	普通	坏部外面口縁部に横位の磨き後体部に二方向の磨き、坏部内面口縁部に横位の磨き後体部に放射状磨き、外・内面赤彩	覆土中	30% 煤付着
4	土師器	台坏甕	-	(7.5)	-	長石・石英・細礫	にぶい赤褐	普通	体部外面縦位のナデ、内面縦位のナデ後横位のナデ、脚部外面縦位のナデ、内面縦位のナデ後横位のナデ	覆土中層	10%
5	土師器	小形甕	[11.6]	(7.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外・内面横位のハケ目調整ナデ消し、指頭痕、体部外面横位のナデ後上位に縦位のハケ目調整、内面横位のナデ後ハケ目調整、輪積痕	覆土下層	30% 煤付着
6	土師器	甕	[14.0]	(9.0)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい褐	普通	口縁部外面縦位ハケ目調整、口縁から体部内面横位のハケ目調整後横位のナデ、体部外面縦位のハケ目調整後横位の磨き	覆土下層	30% 煤付着
7	土師器	甕	[14.6]	20.1	[8.4]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部横位のナデ、体部外面斜位のナデ・削り、内面斜位のナデ、底部一方向の削り	覆土下層	70% PL79 煤付着

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
8	土師器	甕	-	(84)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐色	普通	体部外面斜位のハケ目調整後縦位の磨き,横位のナデ	覆土下層	5% 煤付着
9	土師器	ミニチュア土器	1.6	1.4	1.2	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面縦位のハケ目調整, 体部内面螺旋状のナデ, 下位にヘラ圧痕 底部二方向のナデ	覆土中層	100% PL85

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	砥石	12.0	(24)	1.5	(54.32)	結晶片岩	両端部削り調整 側面一部欠損 砥面3面	覆土中層	

## 第68号竪穴建物跡 (第113・114図)

調査年度 平成26年度

位置 調査区東部のD8g9区, 標高42mほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第83・84・87号竪穴建物跡を掘り込み, 第69号竪穴建物, 第6・7号粘土貼土坑, 第75・414・428・429・804・806号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北部が調査区域外へ延びていることから, 東西軸は6.10mで, 南北軸は6.10mしか確認できなかった。方形もしくは長方形と推定できる。主軸方向はN-20°-Wである。壁は高さ10~45cmで, ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で, 南東隅部, 南西隅部及び東壁, 西壁際の一部を除いて踏み固められている。貼床は, 第10~13層を20~30cmほど埋め戻して構築されている。壁溝が, 東壁及び西壁下の一部で確認できた。第10層の下から, 第12層で埋め戻された壁溝跡の一部や, 固く締まった層位である第13層が確認できたことから, 拡張されている可能性がある。

ピット 5か所。P1・P2・P4・P5は深さ30~75cmで, 配置から支柱穴である。第6層はP4・P5の覆土で, 柱材を抜き取った後の覆土である。P4はP1に, P5はP2に掘り込まれていることから, 立て替えられている。P3は深さ20cmで, 配置から出入り口施設に伴うピットである。第3~5層は埋土, 第1・2層は柱材を抜き取った後の覆土である。

### ピット土層解説 (各ピット共通)

- |          |                   |          |                  |
|----------|-------------------|----------|------------------|
| 1 黒褐色    | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 4 にぶい黄褐色 | ロームブロック・焼土ブロック中量 |
| 2 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量         | 5 暗褐色    | ロームブロック少量        |
| 3 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量         | 6 褐色     | ロームブロック中量        |

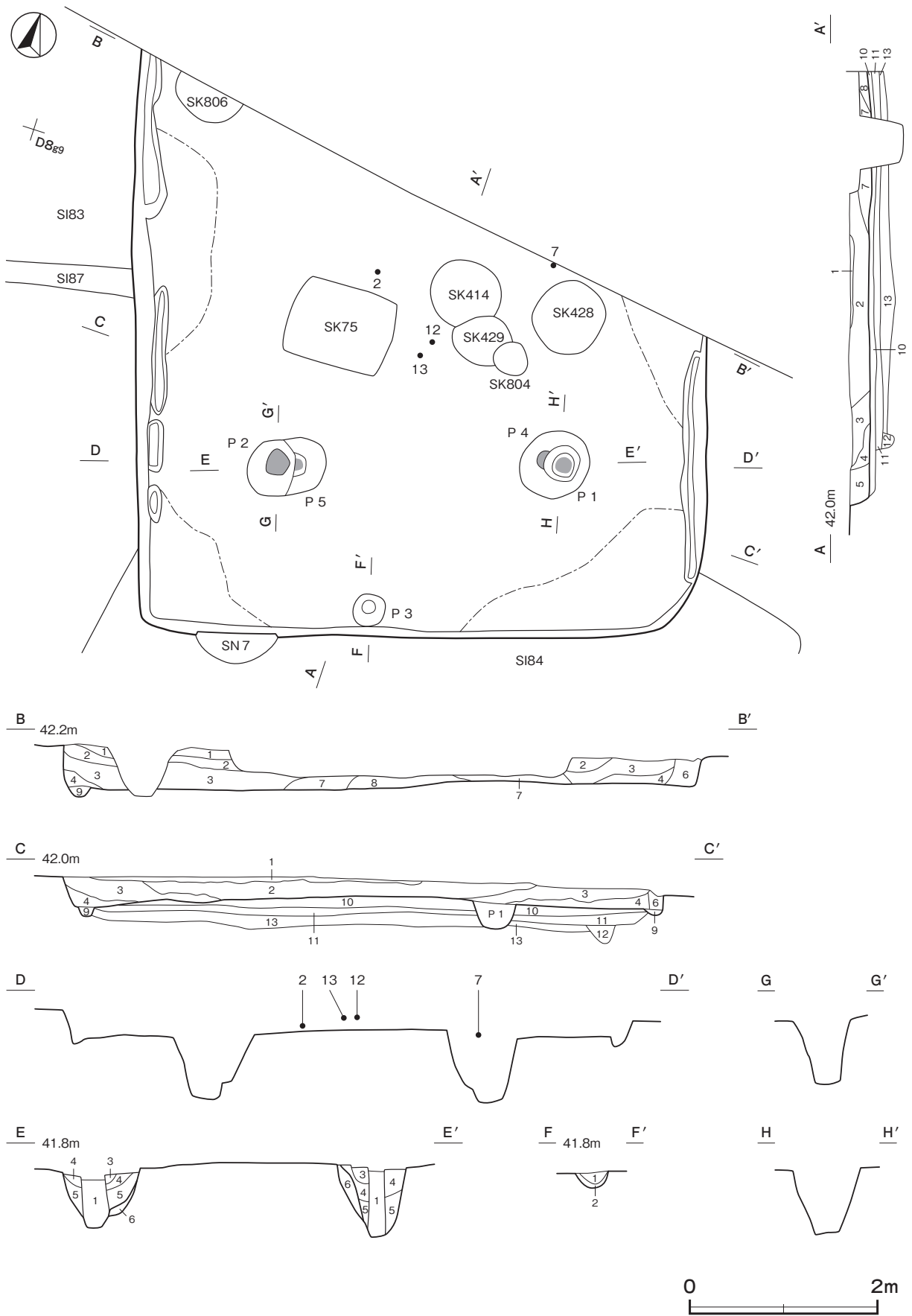
覆土 9層に分層できる。第2~9層はロームブロックが含まれる不規則な堆積をしていることから, 埋め戻されている。第1層はローム粒子が均一に含まれる堆積をしていることから, 自然堆積である。第10・11層は貼床の構築土である。第12層は拡張前の壁溝の覆土, 第13層は拡張前の貼床の可能性はある。

### 土層解説

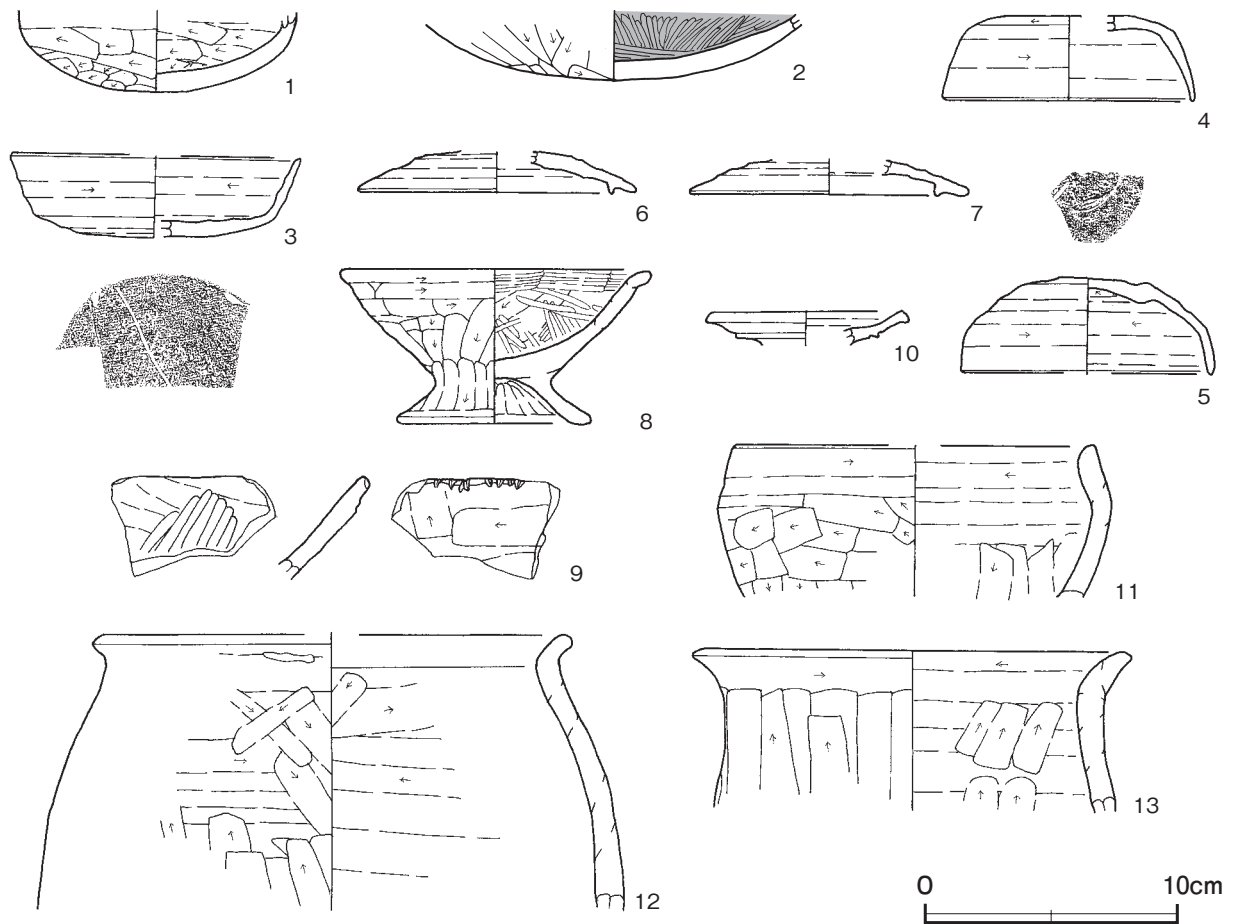
- |          |                             |          |                     |
|----------|-----------------------------|----------|---------------------|
| 1 暗褐色    | 白色粒子少量, ローム粒子・焼土粒子微量        | 7 暗褐色    | ロームブロック・焼土粒子・白色粒子微量 |
| 2 暗褐色    | ロームブロック・焼土粒子・白色粒子少量, 炭化粒子微量 | 8 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量, 白色粒子微量   |
| 3 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・白色粒子微量      | 9 暗褐色    | ロームブロック少量, 炭化粒子微量   |
| 4 褐色     | ロームブロック中量                   | 10 暗褐色   | ロームブロック・白色粒子微量      |
| 5 暗褐色    | ロームブロック少量, 白色粒子微量           | 11 極暗褐色  | ロームブロック少量           |
| 6 にぶい黄褐色 | ロームブロック・白色粒子微量              | 12 暗褐色   | ロームブロック中量           |
|          |                             | 13 暗褐色   | ロームブロック少量           |

遺物出土状況 土師器片421点(坏42, 高坏16, 鉢類6, 甕類356, ミニチュア土器1), 須恵器片21点(蓋20, 瓶類1), 石製品2点(支脚, 竈材)のほか, 縄文土器片124点(深鉢), 弥生土器片20点(壺類), 石器1点(敲石), 土製品1点(土玉), 剥片1点(瑪瑙)が, 主に中央部付近から出土している。多くの土器は小片で, 接合関係に乏しいことから, 破損したものが廃絶に伴って投棄されたと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から7世紀中葉に比定できる。



第 113 图 第 68 号竖穴建物迹实测图



第 114 図 第 68 号竪穴建物跡出土遺物実測図

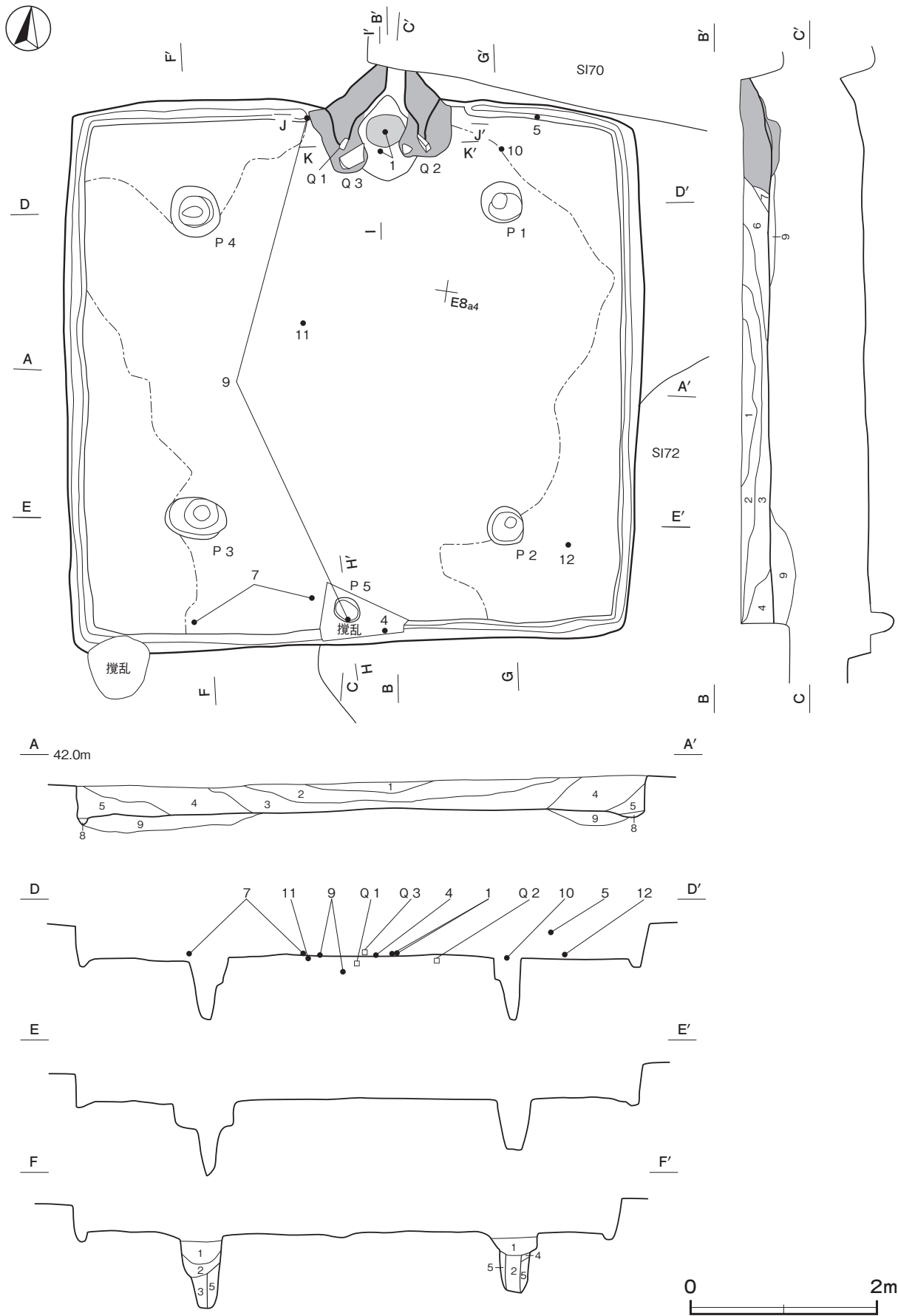
第 68 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 114 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	-	(3.2)	-	長石・石英・針状物質・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 底部外面斜位の削り 底部内面横位のナデ	覆土中	10%
2	土師器	坏	-	(2.6)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部外面縦位の削り 底部内面放射線状の磨き 後底部一方向の磨き 内面黒色処理	覆土下層	10%
3	須恵器	杯	[11.4]	3.2	[5.2]	長石・石英・針状物質	黄 灰	普通	体部ロクロナデ 底部回転ヘラ削り後一方向のナデ、「一」字状のヘラ書き	覆土中	20% 轆山窯
4	須恵器	蓋	[5.2]	3.3	[5.2]	長石・石英・雲母・針状物質	灰	普通	体部ロクロナデ 天蓋部回転ヘラ削り	覆土中	10% 轆山窯
5	須恵器	蓋	[9.4]	3.7	[3.0]	長石・石英・針状物質・白色粒子	灰	普通	体部ロクロナデ 天頂部外面一方向の削り 天頂部内面一方向のナデ	覆土中	30% 轆山窯
6	須恵器	蓋	[11.1]	(1.7)	-	長石・石英・針状物質・黒色粒子	黄 灰	普通	口縁部・天井部ロクロナデ	覆土中	5% 轆山窯
7	須恵器	蓋	[11.0]	(1.4)	-	長石・雲母・針状物質・黒色粒子	黄 灰	普通	口縁部・天井部ロクロナデ	覆土下層	5% 轆山窯
8	土師器	高坏	[12.0]	6.1	7.6	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい黄橙	普通	坏部外面横位のナデ後縦位の削り、内面ハケ目状のナデ、斜位のナデ後多方向の磨き 脚部外面縦位の削り、内面縦位のナデ	覆土中	40% PL76
9	土師器	高坏	-	(4.0)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部外面縦位のナデ後横位のナデ、口唇部に刻み 口縁部内面横位のナデ後縦位の磨き	覆土中	5%
10	須恵器	瓶類	-	(1.3)	[7.5]	長石・雲母・黒色粒子	灰 白	良好	口縁部ロクロナデ 下に二重の沈線	覆土中	5% PL88 東海産
11	土師器	小形甕	14.3	(6.0)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の削り後横位の削り 体部内面縦位のナデ 脚付甕	覆土中	10% 煤付着
12	土師器	甕	[18.2]	(11.0)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	灰褐	普通	体部ロクロナデ、外面斜位のナデ後縦位の削り 内面上位に横・斜位のナデ	覆土中層	10% 煤付着
13	土師器	甕	[17.4]	(6.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部ロクロナデ、外面縦位の削り 内面縦位のナデ	覆土中層	10% 煤付着

第 71 号竪穴建物跡 (第 115 ~ 118 図)

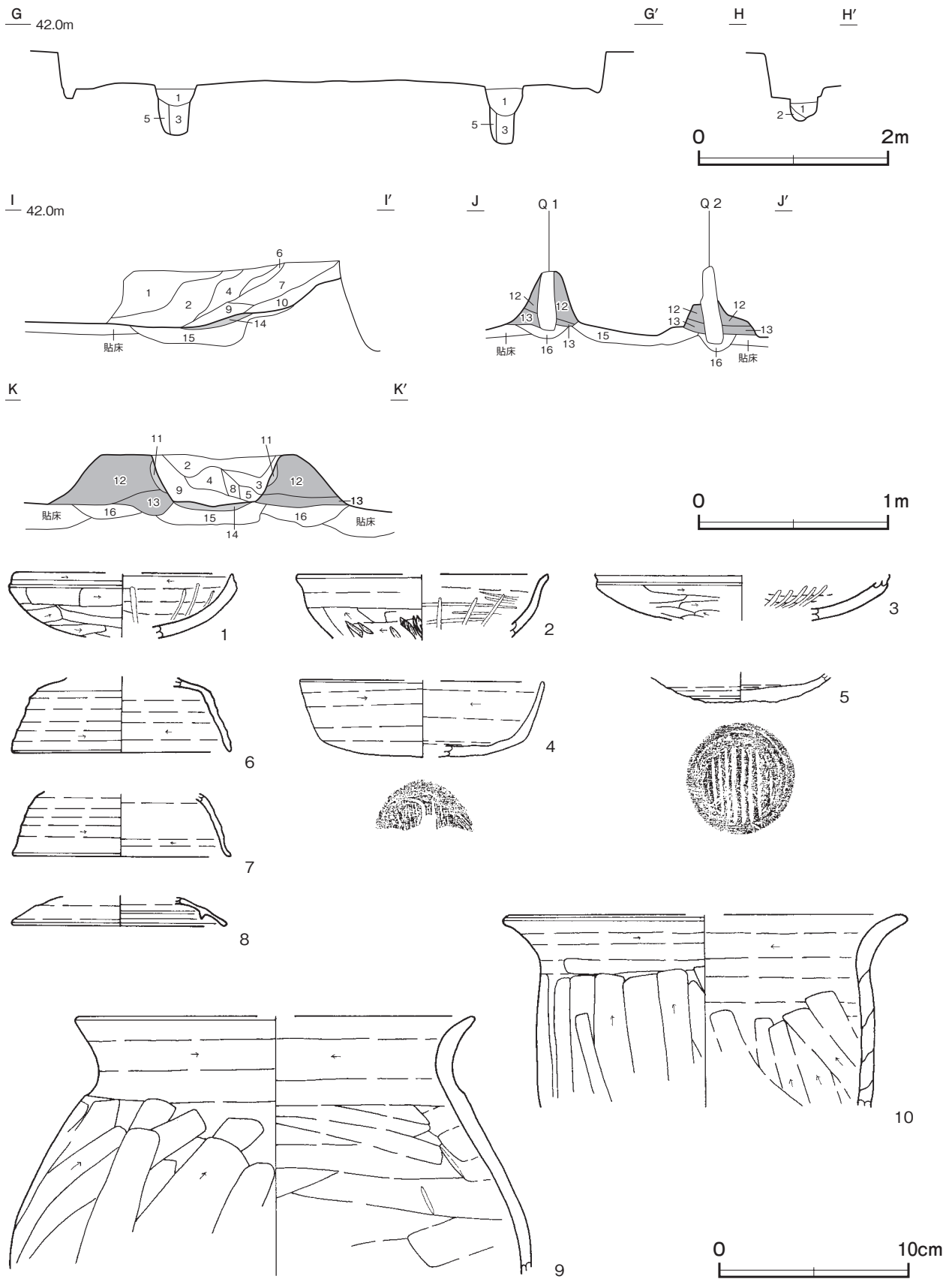
調査年度 平成 26 年度

位置 調査区中央部の E 8 a 4 区、標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。



第115图 第71号竖穴建物迹实测图



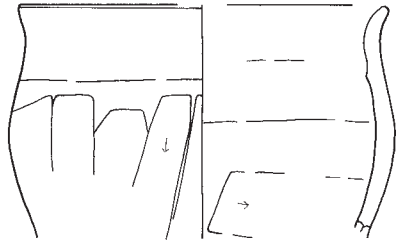


第 116 图 第 71 号竖穴建物跡・出土遺物実測図

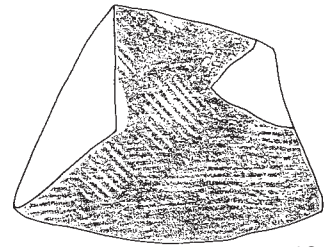
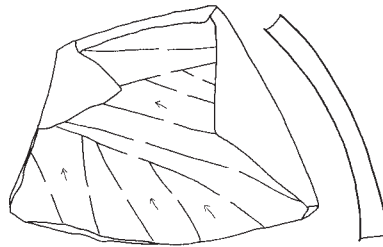
**重複関係** 第72号竪穴建物跡を掘り込み、第70号竪穴建物に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸 6.15 m，短軸 5.90 m の方形で，主軸方向は  $N-4^{\circ}-W$  である。壁は高さ 32～40cm で，ほぼ直立している。

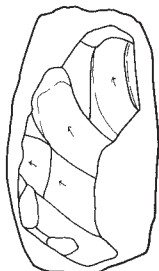
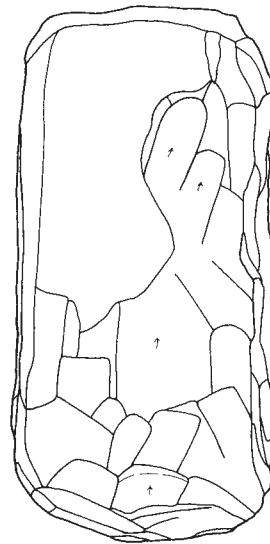
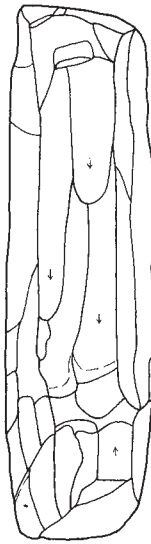
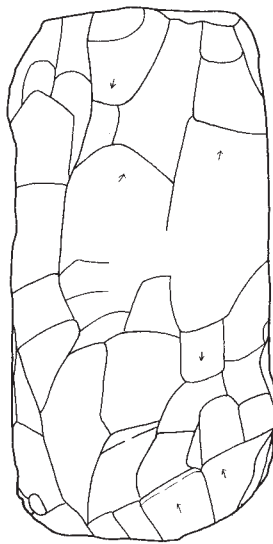
**床** 縁辺部が貼床の平坦な床で，東壁南部，西壁及び北壁際を除いて踏み固められている。中央部は地山面を踏み固め，壁際では第9層を 20cm ほど埋め戻して貼床が構築されている。壁溝が，ほぼ全周している。



11



12

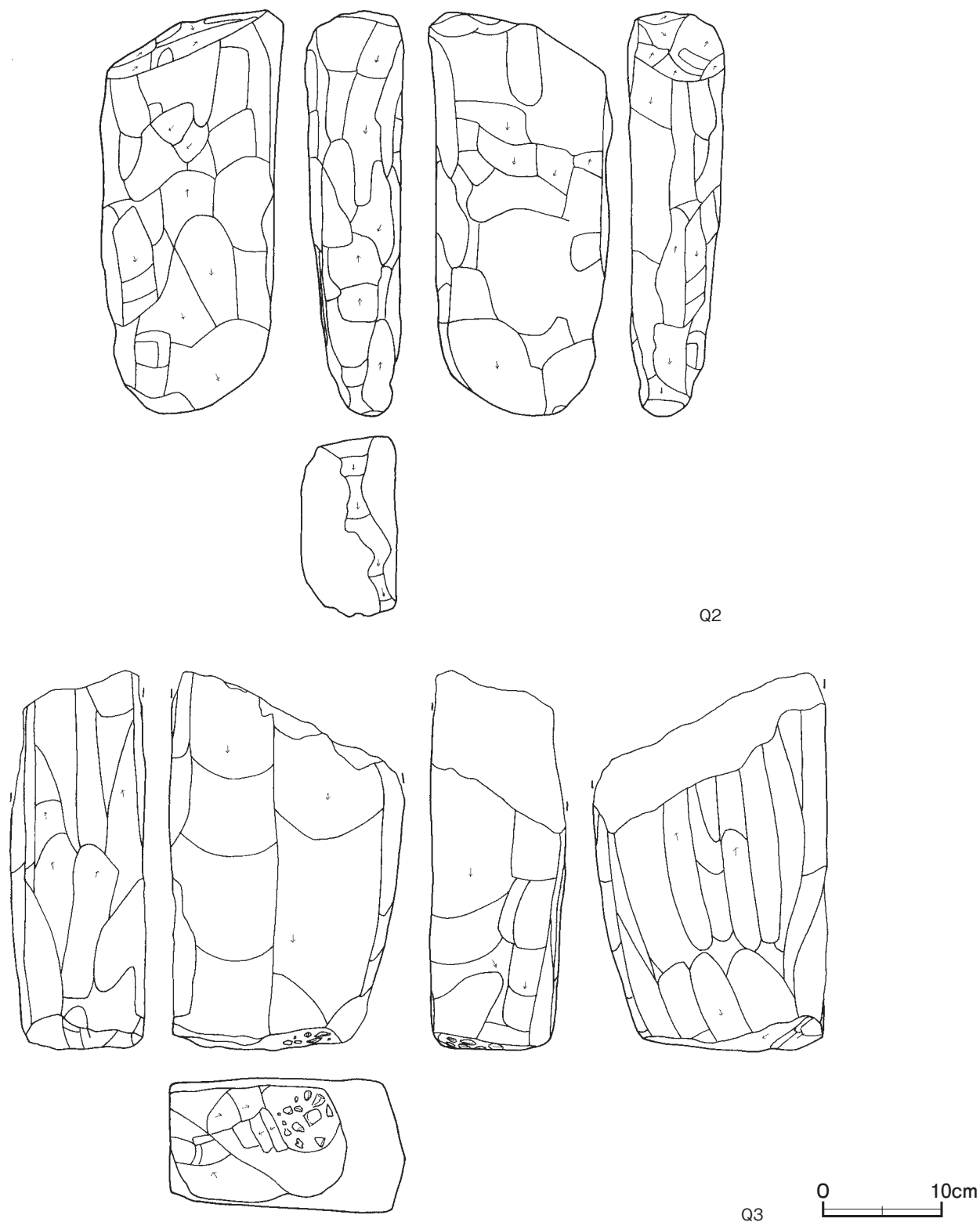


Q1



第 117 図 第 71 号竪穴建物跡実測図(1)

竈 北壁の中央部に付設されている。煙道部が第70号竪穴建物に掘り込まれていることから、焚口部から煙道部までは120cmしか確認できなかった。燃焼部の幅は50cmである。燃焼部及び袖部の下部は床面から10cmほど掘りくぼめられ、第14・16層で埋め戻されている。袖部は、芯材として加工されたQ1・Q3を第16層で固定した後、床面及び第16層上面に第11～13層を積み上げて構築されている。火床面は第14・15層の



第118図 第71号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

上面で、第14層は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は、火床面から外傾している。第1～10層には粘土ブロックが含まれていることや、竈の周辺に竈材と考えられる凝灰質泥岩が飛散していることから、壊されている。

**竈土層解説**

- |                                  |                           |
|----------------------------------|---------------------------|
| 1 灰黄褐色 粘土ブロック中量, ロームブロック, 炭化粒子微量 | 9 暗赤褐色 焼土ブロック・粘土ブロック中量    |
| 2 暗灰黄色 粘土ブロック多量, 焼土ブロック少量        | 10 暗褐色 焼土ブロック中量, 粘土ブロック少量 |
| 3 オリーブ褐色 粘土ブロック多量, 焼土ブロック少量      | 11 淡赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量  |
| 4 暗赤褐色 焼土ブロック中量, 粘土ブロック少量        | 12 灰黄褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量  |
| 5 極暗赤褐色 焼土粒子中量, 粘土ブロック少量         | 13 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量   |
| 6 灰黄褐色 焼土粒子少量, 粘土ブロック微量          | 14 赤褐色 ローム粒子中量, 焼土ブロック少量  |
| 7 におい黄褐色 焼土粒子中量, 粘土ブロック微量        | 15 褐色 ローム粒子中量, 焼土ブロック少量   |
| 8 暗灰黄色 粘土ブロック中量, 焼土ブロック・炭化粒子少量   | 16 暗褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量    |

**ピット** 5か所。P1～P4は深さ60～80cmで、配置から主柱穴である。P5は深さ20cmで、出入り口施設に伴うピットである。第4・5層は埋土、第1～3層は柱材を抜き取った後の覆土である。

**ピット土層解説 (各ピット共通)**

- |                         |                    |
|-------------------------|--------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 4 におい黄褐色 ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量 | 5 におい黄褐色 ロームブロック少量 |
| 3 褐色 ロームブロック中量          |                    |

**覆土** 8層に分層できる。第3～8層は、ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第1・2層はレンズ状に堆積していることから、自然堆積である。第9層は貼床の構築土である。

**土層解説**

- |                          |                                  |
|--------------------------|----------------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量       | 6 灰黄褐色 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量    |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量    | 7 におい黄褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量 |
| 3 におい黄褐色 ローム粒子中量         | 8 褐色 ローム粒子少量                     |
| 4 におい黄褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 9 黒褐色 ロームブロック少量                  |
| 5 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量  |                                  |

**遺物出土状況** 土師器片 312点 (坏 32, 高坏 13, 鉢類 1, 甕類 266), 須恵器片 35点 (蓋 31, 瓶類 1, 甕類 3), 石製品 6点 (竈材), 鉄滓 (181.95 g) のほか、縄文土器片 148点 (深鉢), 弥生土器片 22点 (壺類), 石器 1点 (不明), 剥片 1点 (瑪瑙) が、主に竈付近及び南半部から出土している。多くの土器は中型の破片や小片で、接合関係に乏しいことから、破損したものが廃絶に伴って投棄されたと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から7世紀中葉に比定できる。

**第71号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第116～118図)**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[11.6]	(3.4)	-	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	口縁部横ナデ 底部外面横・斜位の削り 底部内面横位のナデ後放射線状の磨き	竈覆土下層	10%
2	土師器	坏	[13.4]	(3.4)	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐色	普通	口縁部横ナデ 底部外面縦・斜位の削り後刻線上の削り 底部内面横位のナデ後二方向の磨き	覆土中	10%
3	土師器	坏	[15.6]	(2.4)	-	長石・針状物質	橙	普通	口縁部外面横ナデ 底部外面横・斜位の削り 底部内面横位のナデ後放射線状の磨き	覆土中	10%
4	須恵器	坏	[12.8]	(4.0)	[4.0]	長石・石英・針状物質・黒色粒子	灰	普通	口縁部・体部ロクロナデ 底部一方向のナデ	覆土下層	50% 在地産
5	須恵器	坏	-	(1.6)	[3.8]	長石・石英・針状物質・黒色粒子	黄灰	普通	口縁部・体部ロクロナデ 底部回転ヘラ削り後一方向のナデ	覆土中層	30% 在地産
6	須恵器	蓋	[11.4]	(5.0)	-	長石・石英・針状物質・黒色粒子	灰	普通	口縁部・体部ロクロナデ	覆土中	20% 在地産
7	須恵器	蓋	[11.4]	(3.4)	-	長石・石英・針状物質・黒色粒子	灰	普通	口縁部・体部ロクロナデ	覆土下層	10% 在地産
8	須恵器	蓋	[11.2]	(1.5)	-	長石・石英・針状物質・黒色粒子	灰	普通	天井部ロクロナデ	覆土中	10% 在地産
9	土師器	甕	[21.0]	(13.6)	-	長石・雲母	におい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦・斜位の削り, 内面横・斜位のナデ	覆土下層	20% 煤付着
10	土師器	甕	[21.0]	(10.3)	-	長石・石英・針状物質・細礫	橙	普通	口縁部・体部ロクロナデ 体部外面縦位の削り 体部内面縦・斜位のナデ	覆土下層	20% 煤付着
11	土師器	甕	[14.6]	(9.3)	-	長石・石英・針状物質・細礫	におい赤褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の削り 体部内面横位のナデ	覆土下層	30% 煤付着
12	須恵器	甕	-	(9.5)	-	長石・石英・雲母・針状物質	灰	普通	体部外面横位の平行叩き後斜位の平行叩き 体部内面横・斜位のナデ	覆土下層	20% 在地産

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	袖部芯材	35.4	10.0	17.8	3.775	凝灰質泥岩	上・下面一方向の削り調整 側面4面縦位の削り調整	袖構築土下層	
Q 2	袖部芯材	34.4	8.6	15.5	2.245	凝灰質泥岩	上面二方向の削り調整 側面4面縦位の削り調整 下面尖底状の削り調整	袖構築土下層	PL106
Q 3	竈材	(32.1)	20.2	11.5	(4.105)	凝灰質泥岩	端部削り調整, 段打痕 側面縦・斜位の削り調整 懸架材。	覆土下層	

## 第72号竪穴建物跡（第119～121図）

調査年度 平成26年度

位置 調査区中央部のE 8 b4区, 標高42mほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第71号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 第71号竪穴建物に掘り込まれているが, 長軸6.35m, 短軸5.18mの長方形で, 主軸方向はN-40°-Eと判断できる。壁は高さ25～30cmで, ほぼ直立している。

床 縁辺部が貼床の平坦な床で, 中央部及び南壁際の一部が踏み固めている。貼床は, 第6層を10～20cmほど埋め戻して構築されている。壁溝が, 第71号竪穴建物に掘り込まれている部分を除いて, ほぼ全周している。

ピット 6か所。P1～P4は深さ68～74cmで, 配置から主柱穴である。第4～5層は埋土, 第3層は柱痕跡, 第1・2層は柱材を抜き取った後の覆土である。P5は深さ26cmで, 配置から出入り口施設に伴うピットである。P6は深さ50cmで, 性格は不明である。P1～P4の底面で, 柱の当たりを確認した。

### ピット土層解説（各ピット共通）

1 暗褐色	ロームブロック少量	4 黒褐色	ロームブロック少量
2 にぶい黄褐色	ロームブロック少量	5 にぶい黄褐色	ロームブロック中量
3 黒褐色	ローム粒子微量		

覆土 5層に分層できる。レンズ状に堆積していることから, 自然堆積である。第6層は貼床の構築土である。

### 土層解説

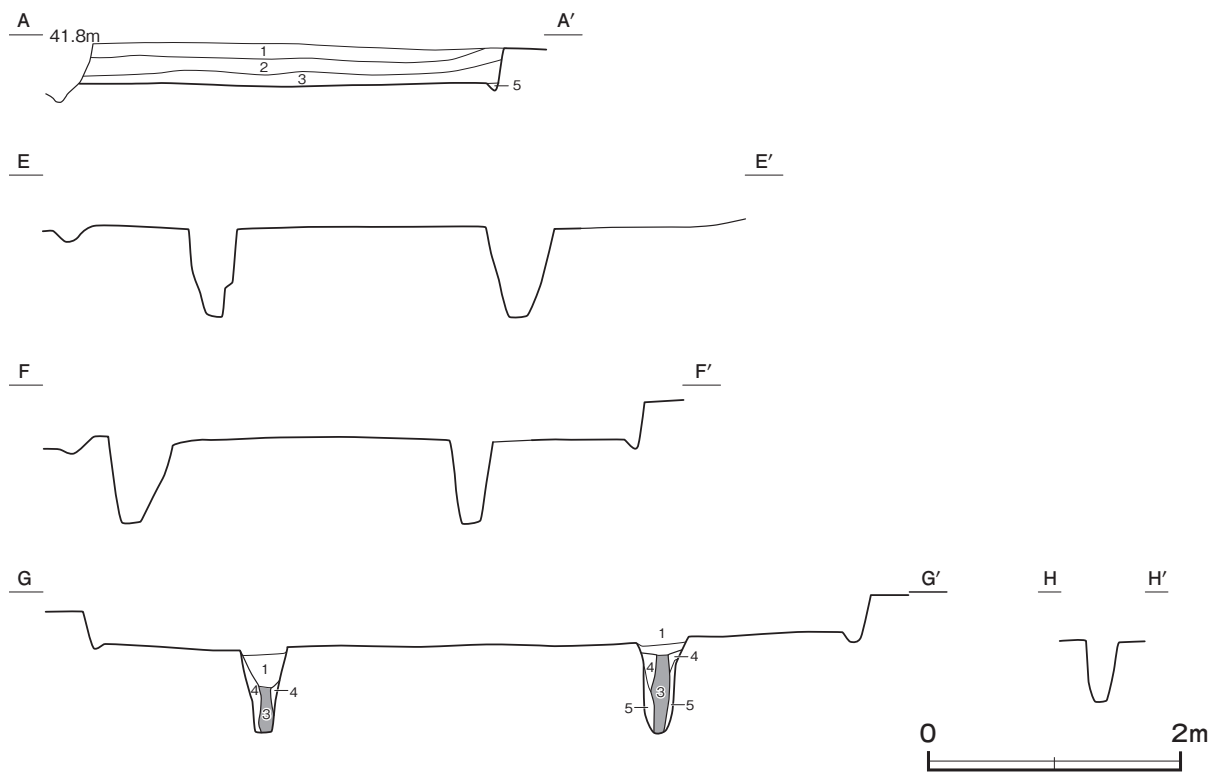
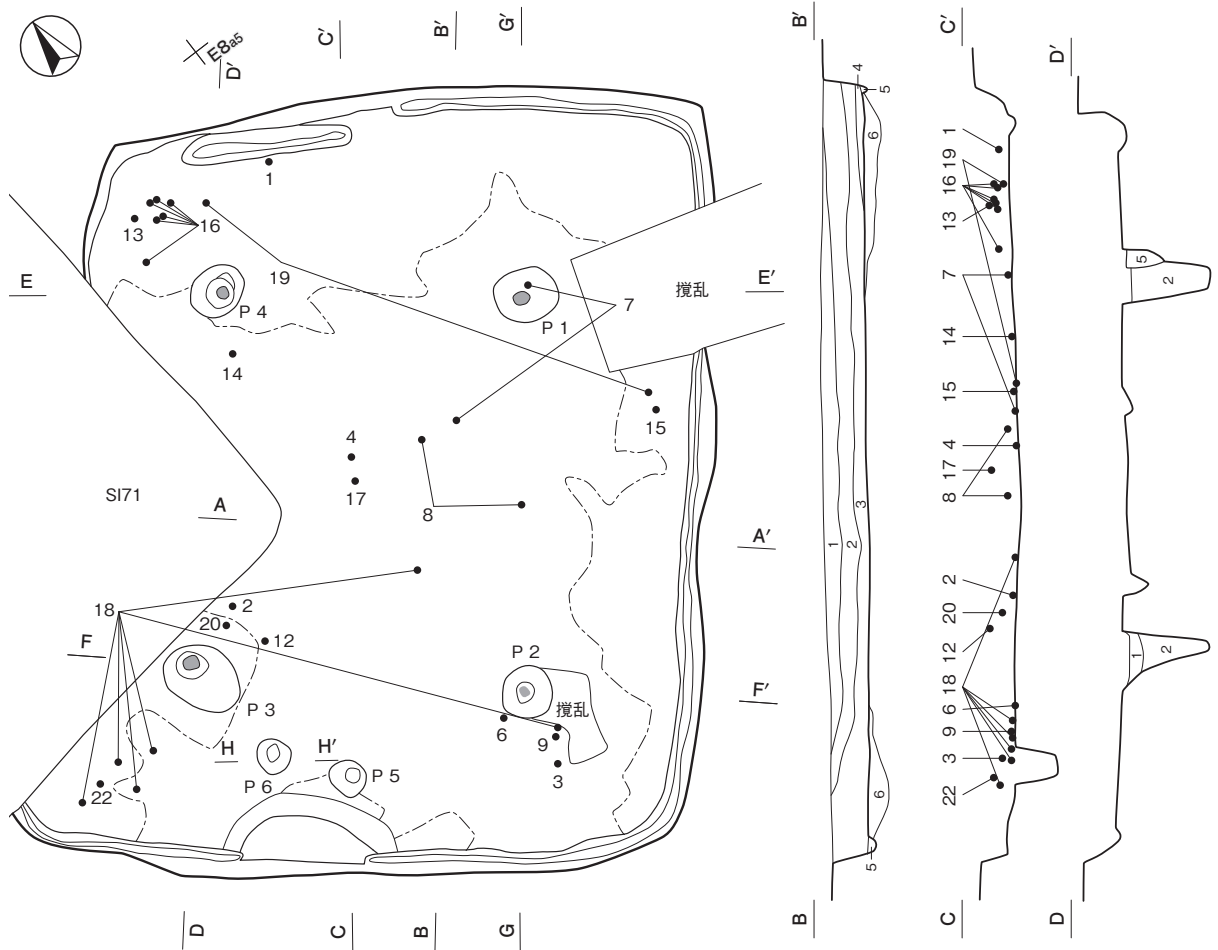
1 黒褐色	今市軽石ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量	4 褐色	ローム粒子・今市軽石粒子少量
2 暗褐色	ローム粒子少量, 今市軽石ブロック・焼土粒子微量	5 暗褐色	今市軽石粒子少量, ロームブロック微量
3 灰黄褐色	今市軽石ブロック少量, ローム粒子微量	6 黒褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片297点（埴119, 器台11, 高坏32, 壺類4, 甕類127, ミニチュア土器4）のほか, 縄文土器片230点（深鉢）, 弥生土器片27点（壺類）, 陶器片1点（甕）, 石器4点（石皿1, 炉石1, 不明2）が, 全域に散在している。多くの土器は大型破片や小片で, 接合関係が良好であることから, 埋め戻しに伴って一括で投棄されたと考えられる。

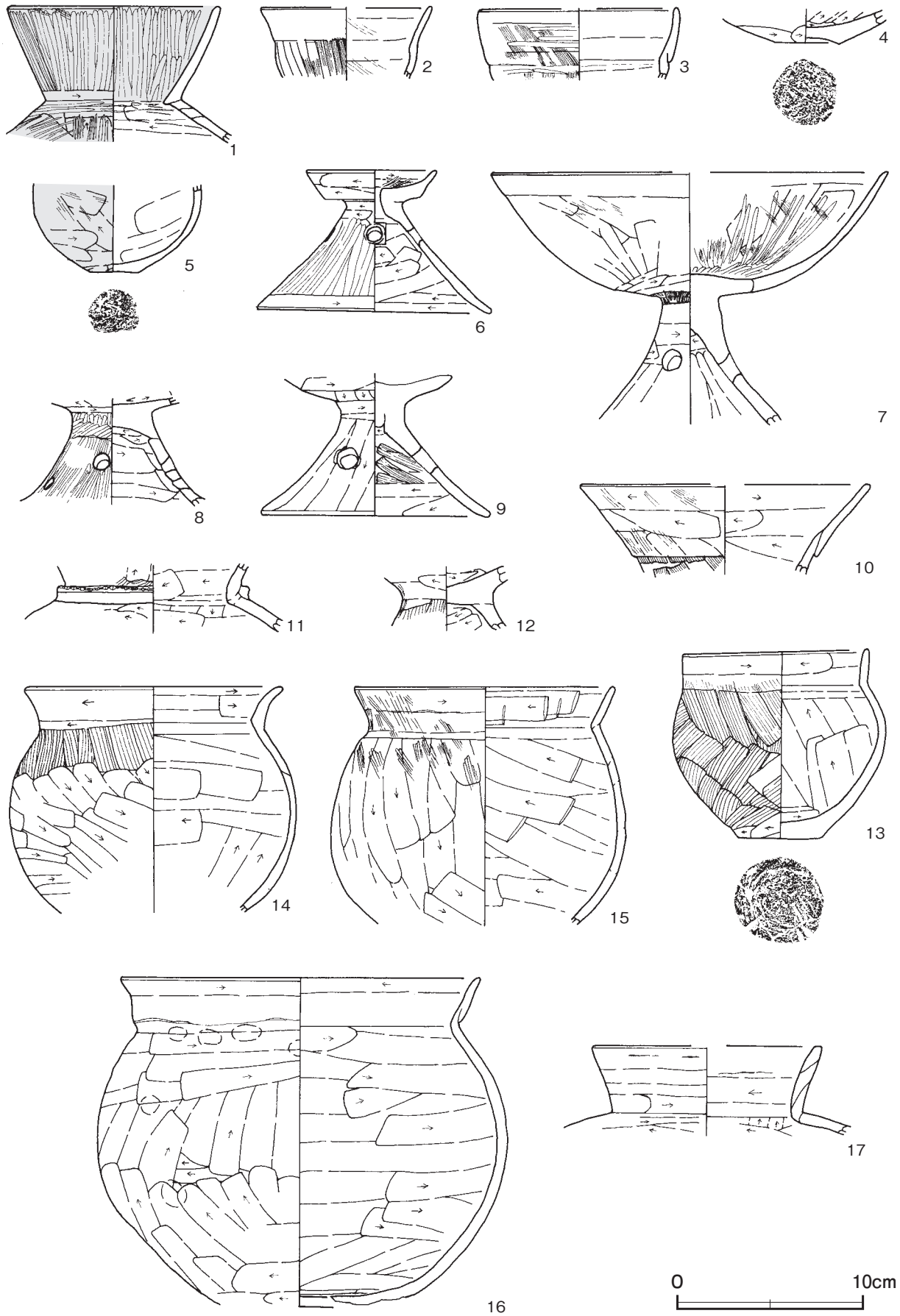
所見 時期は, 出土土器から4世紀中葉に比定できる。

## 第72号竪穴建物跡出土遺物観察表（第120・121図）

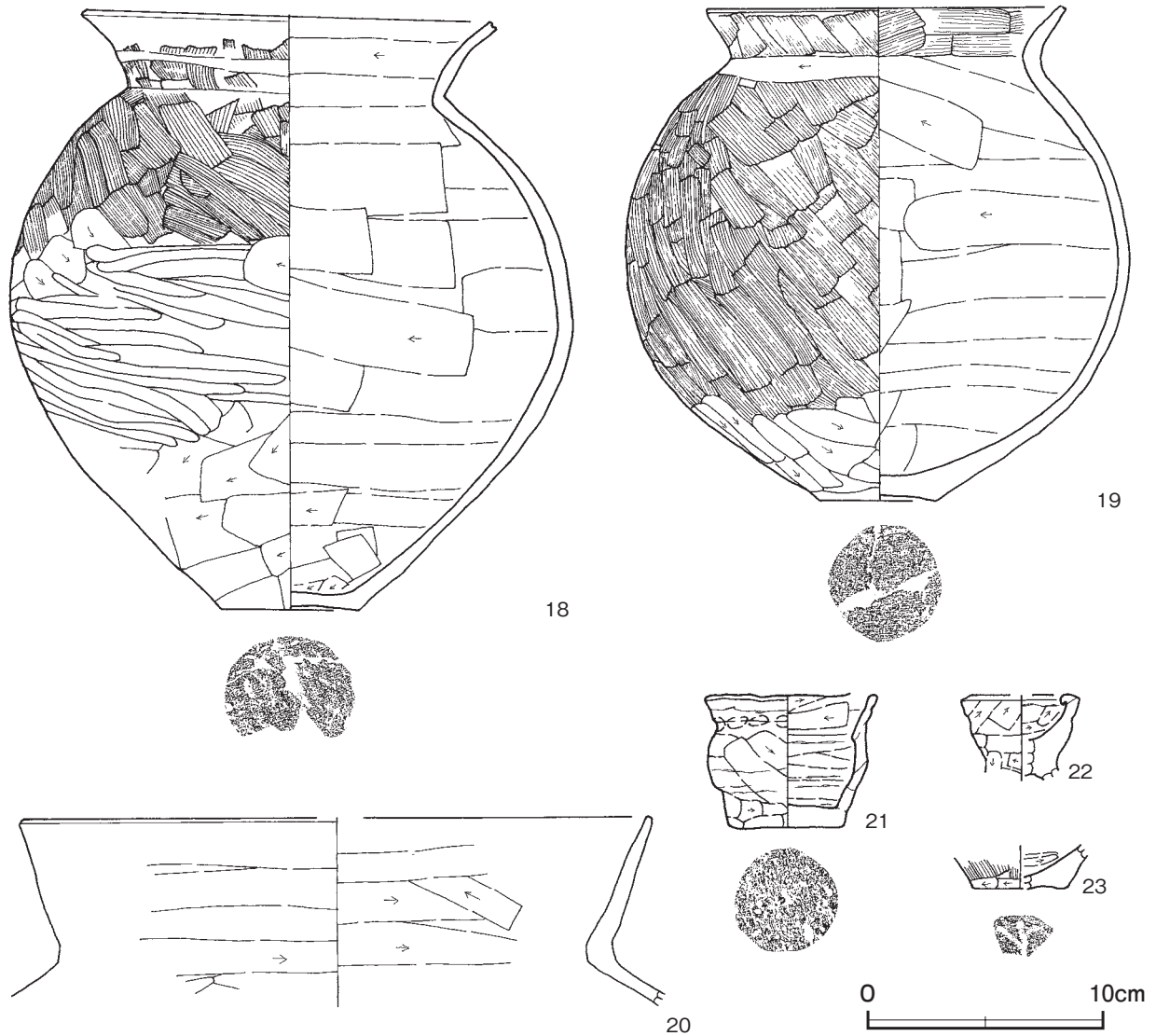
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	埴	11.4	7.3	-	長石・石英・針状物質・細礫	赤	普通	口縁部外・内面縦位の磨き, 外面ハケ目調整磨き消し, 下位横位のナデ 体部外面縦・斜位のナデ後二方向の磨き, 内面螺旋状のナデ, 輪積痕	覆土下層	20% PL72
2	土師器	埴	[9.3]	(3.9)	-	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	口縁部横ナデ, 内面ハケ目調整後ナデ消し 体部外面縦位のハケ目調整, 内面横位のナデ ハケ目調整ナデ消し	覆土下層	10%
3	土師器	埴	[10.8]	(3.9)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部外面斜位のハケ目調整後横位の磨き 口縁部内面横位のナデ 体部外面縦位のハケ目調整後横位の磨き, 内面横ナデ	覆土下層	10%
4	土師器	埴	-	(1.8)	3.4	長石・石英・針状物質	橙	普通	体部下端部削り 内面斜位のナデ 底部外面一方向の削り 底部内面一方向のナデ	覆土下層	10% 二次焼成
5	土師器	埴	-	(4.8)	2.1	長石・石英・雲母・針状物質・細礫	にぶい橙	普通	体部外面ハケ目調整後ナデ消し, 横・斜位のナデ 体部内面斜位のナデ, 二方向の削り 外面赤彩	覆土中	30%
6	土師器	器台	6.8	7.7	12.6	長石・石英・針状物質	橙	普通	坏部外・内面横ナデ, 内面二方向の磨き 脚部外面横位のナデ後縦位の磨き 脚部内面横・斜位のナデ, 下端部横ナデ 穿孔4か所	覆土下層	80% PL73
7	土師器	高坏	[21.6]	(13.7)	-	長石・石英・針状物質	黄橙	普通	坏部口縁部横ナデ ハケ目調整ナデ消し, 内面ハケ目調整ナデ消し後放射状の磨き 脚部外・内面縦・横位のナデ 穿孔3か所	覆土下層	40% PL75



第 119 图 第 72 号竖穴建物迹实测图



第 120 图 第 72 号竖穴建物跡出土遺物実測图(1)



第121図 第72号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
8	土師器	高坏	-	(5.8)	-	長石・石英・雲母・針状物質	赤橙	普通	坏部外面縦位のナデ後横位のナデ, 内面縦位のナデ 脚部外面二方向の磨き, 内面螺旋状のナデ 穿孔3か所残存	覆土中層	20%
9	土師器	器台	-	(7.8)	12.4	長石・石英・針状物質・細礫	橙	普通	坏部外面縦位の削り後横位のナデ, 内面, 調整不明 脚部外面縦位のナデ, 内面斜位のハケ目調整後ナデ消し, 下端部横位のナデ 穿孔3か所	覆土下層	50% PL73
10	土師器	壺	[15.6]	(4.9)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部横ナデ 外面ハケ目調整ナデ消し, 頸部縦位のハケ目調整 頸部内面横位のナデ	覆土中	10%
11	土師器	壺	-	(3.5)	-	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	頸部外面斜位のハケ目調整後縦位のナデ, 内面横位のナデ 体部外面横・斜位のナデ, 内面縦位のナデ後横位のナデ	覆土中	5%
12	土師器	台付甕	-	(3.5)	-	長石・石英・針状物質・赤色粒子	橙	普通	底部内面一方向のナデ 台部外面ハケ目調整後横位のナデ, 内面斜位のナデ	覆土中層	5%
13	土師器	小形甕	10.0	10.3	4.6	長石・石英・細礫	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面斜位のハケ目調整 下端部斜位の削り 内面縦位のナデ 底部多方向の削り	覆土中層	90%
14	土師器	甕	13.8	(12.3)	-	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位のハケ目調整後ナデ消し, 中位以下横・斜位の削り, 内面縦位のナデ後横・斜位のナデ	覆土下層	40% 煤付着
15	土師器	甕	13.9	(12.9)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ, 外面ハケ目調整ナデ消し 体部外面ハケ目調整ナデ消し 下端部斜位の削り, 内面横・斜位のナデ	覆土下層	80% 煤付着
16	土師器	甕	19.2	(17.7)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面横位の削り後斜位のナデ, 上位・下端部横位のナデ 体部内面横・斜位のナデ	覆土中層	70% PL80 底部内面からの穿孔。
17	土師器	甕	[12.4]	(4.9)	-	長石・石英・針状物質	橙	普通	口縁部横ナデ, 輪積み痕 体部外面横・斜位のナデ, 内面縦位のナデ後斜位のナデ	覆土中層	10%
18	土師器	甕	17.0	25.6	5.7	長石・石英・雲母・針状物質・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ 外面ハケ目調整後ナデ消し, 体部外面斜位のハケ目調整, 中位以下斜位の削り後横位の磨き, 内面横位のナデ 底部二方向の削り	覆土下層	60% PL80 煤付着
19	土師器	甕	15.0	21.0	5.0	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	口縁部外面縦位のハケ目調整, 内面横位のハケ目調整 体部外面斜位のハケ目調整 下端部斜位の削り, 内面横位のナデ 底部二方向の削り	覆土下層	80% PL79 煤付着
20	土師器	甕	[18.2]	(7.2)	-	長石・石英・雲母・針状物質・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外・内面横位のナデ	覆土中層	10% 煤付着



番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
21	土師器	ミニチュア土器	[7.2]	5.7	4.6	長石・石英・針状物質	橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ 体部外面横・斜位のナデ、内面横位のナデ 底部外・内面一方のナデ、指頭痕、輪積痕	覆土中	60% 内面煤付着
22	土師器	ミニチュア土器	[5.0]	(3.7)	-	長石・石英・針状物質	にぶい橙	普通	坏部外・内面横・斜位のナデ 脚部外面縦・横位のナデ 脚部内面縦位のナデ	覆土中層	30%
23	土師器	ミニチュア土器	-	(1.8)	[4.0]	長石・石英	にぶい褐	普通	体部外面縦位のハケ目調整 底部外面木葉痕、内面一方のナデ	覆土中	5%

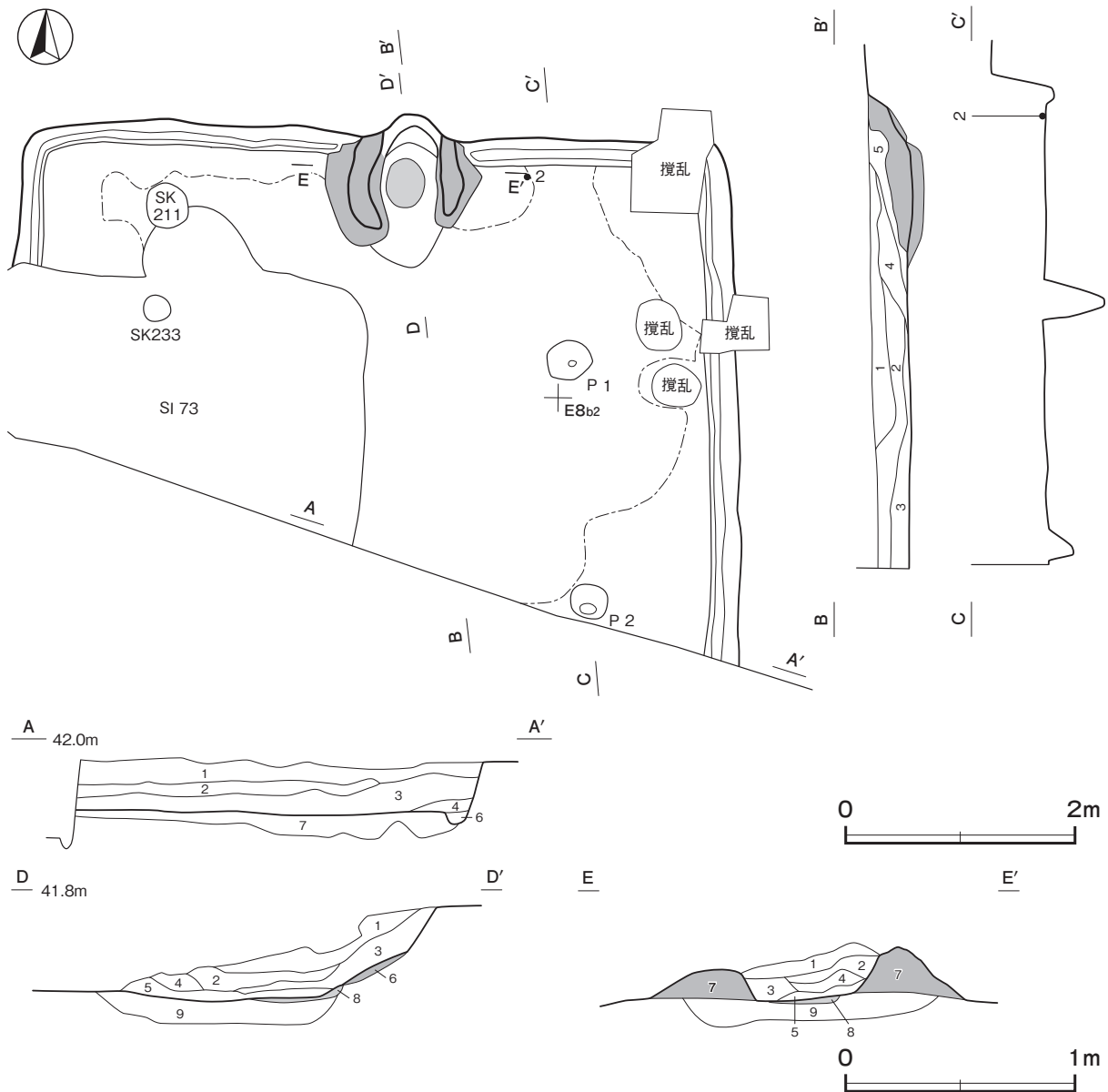
### 第74号竪穴建物跡 (第122・123図)

調査年度 平成26年度

位置 調査区中央部のE 8a1区、標高42mほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第73号竪穴建物、第211・337号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南半部が調査区域外に延び、第73号竪穴建物跡に掘り込まれていることから、東西軸は6.20m



第122図 第74号竪穴建物跡実測図

で、南北軸は4.30 mしか確認できなかった。方形もしくは長方形と推定でき、主軸方向はN-1°-Eである。壁は高さ35～45cmで、ほぼ直立している。

**床** 平坦な貼床で、竈付近及び中央部が踏み固められている。貼床は第7層を10～20cmほど埋め戻して構築されている。壁溝が、第73号竈穴建物跡に掘り込まれている部分を除いて、巡っている。

**竈** 北壁の中央部に付設されている。焚口部から煙道部までは175cm、燃焼部の幅は50cmである。燃焼部は床面から10～20cmほど掘りくぼめられ、第8・9層で埋め戻されている。袖部は、地山面及び第9層上面に第7層を積み上げて構築されている。火床面は第8・9層の上面で、第8層は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に15cmほど掘り込まれ、第6層が貼り付けられている。火床面からは外傾している。第1～5層にはロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから、壊されている。

**竈土層解説**

- |                                      |                          |
|--------------------------------------|--------------------------|
| 1 浅黄橙色 粘土ブロック少量、焼土ブロック微量             | 5 褐灰色 焼土ブロック・粘土ブロック少量    |
| 2 におい黄褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック少量、ロームブロック微量 | 6 赤褐色 焼土ブロック・粘土ブロック中量    |
| 3 におい黄褐色 焼土ブロック中量、粘土ブロック・炭化粒子少量      | 7 黒褐色 粘土ブロック中量、ロームブロック少量 |
| 4 浅黄橙色 ロームブロック・焼土ブロック少量              | 8 赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック少量 |
|                                      | 9 暗褐色 ロームブロック中量          |

**ピット** 2か所。P1・P2は深さ20cm・22cmで、配置から支柱穴と推定できる。

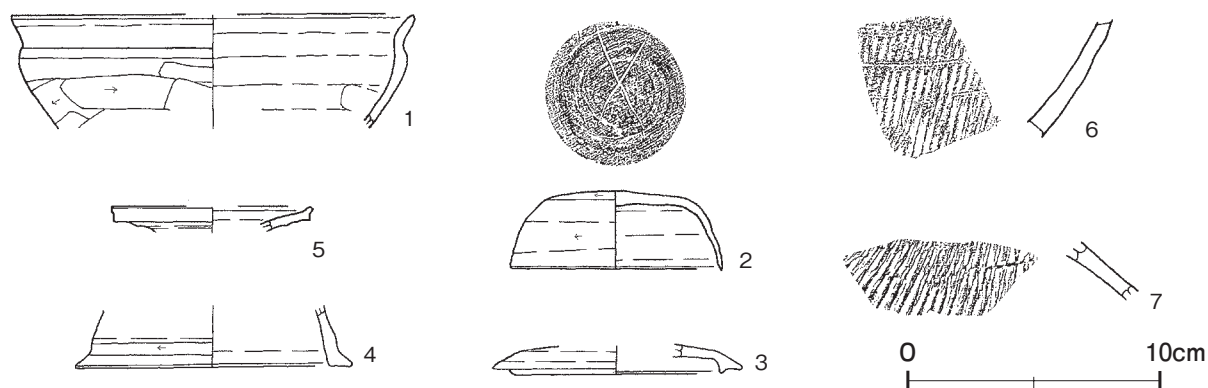
**覆土** 6層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第7層は貼床の構築土である。

**土層解説**

- |                 |                             |
|-----------------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック微量 | 5 におい黄褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック微量 | 6 暗褐色 ロームブロック少量             |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量 | 7 におい黄褐色 ロームブロック多量          |
| 4 黒褐色 ロームブロック中量 |                             |

**遺物出土状況** 土師器片80点(坏4, 高坏1, 甕類75), 須恵器片9点(蓋6, 瓶類1, 甕類2), 石製品4点(支脚)のほか、縄文土器片50点(深鉢), 弥生土器片6点(壺類), 瓦1点(軒丸瓦)が、全域に散在している。多くの土器は小片で、接合関係に乏しいことから、破損したものが廃絶に伴って投棄されたと考えられる。仮3は竈の付近から良好な遺存状態で出土していることから、廃絶に伴って廃棄された可能性がある。

**所見** 時期は、出土土器から7世紀中葉に比定できる。



第123図 第74号竈穴建物跡出土遺物実測図

第74号竈穴建物跡出土遺物観察表(第123図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[15.2]	[4.5]	-	長石・石英・雲母・針状物質	におい黄橙	普通	口縁部横ナデ 底部外面横・斜位の削り 底部内面横位のナデ	覆土中	10%
2	須恵器	蓋	8.4	3.1	5.6	長石・石英・針状物質・黒色粒子	黄灰	普通	口縁部・体部ロクロナデ 天蓋部回転ヘラ削り, 「×」状のヘラ書き	床面直上	90% PL86 幡山窯

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
3	須恵器	蓋	[10.2]	(12)	-	長石・石英・針状物質・黒色粒子	灰	普通	口縁部・天井部ロクロナデ	覆土中	10% 幡山窯
4	須恵器	蓋	[11.0]	(24)	-	長石・雲母・針状物質・黒色粒子	灰黄褐	普通	口縁部ロクロナデ	覆土中	10% 幡山窯
5	須恵器	瓶類	[8.0]	(10)	-	長石・石英・針状物質・黒色粒子	灰	普通	口縁部ロクロナデ	覆土中	10% 幡山窯
6	須恵器	甕	-	(48)	-	長石・雲母・針状物質・黒色粒子	灰	普通	体部外面斜位の平行叩き後横位のナデ 体部内面斜位のナデ	覆土中	10% 幡山窯
7	須恵器	甕	-	(24)	-	長石・石英・針状物質・砂粒	にぶい黄灰	普通	体部外面斜位の平行叩き 体部内面横位のナデ	覆土中	10% 幡山窯

## 第76号竪穴建物跡（第124～126図 PL19）

調査年度 平成26年度

位置 調査区東部のD8h7区、標高42mほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第220・221号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.41m、短軸5.17mの方形で、主軸方向はN-24°-Wである。壁は高さ40～45cmで、ほぼ直立している。壁溝が、竈付近を除いて巡っている。

床 平坦な貼床で、北壁、東壁の一部及び南壁際を除いて踏み固められている。貼床は、第12層を5～10cmほど埋め戻して構築されている。掘方は、平坦である。壁溝が、竈付近を除いて巡っている。

竈 北壁の中央部に付設されている。焚口部から煙道部までは120cm、燃焼部の幅は40cmである。燃焼部は床面から15～25cmほど掘りくぼめられ、第7・8層で埋め戻されている。袖部は、芯材として加工されたQ3や凝灰質泥岩を、深さ20cmほどのピットに第6層で固定した後、床面及び第6～8層上面に第3～5層を積み上げて構築されている。火床面は第7・8層の上面で、第7層は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に40cmほど掘り込まれ、煙道部には第4層が貼り付けられている。火床面からは、外傾している。第1・2層はロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから、壊されている。

### 竈土層解説

- |                               |                           |
|-------------------------------|---------------------------|
| 1 灰黄褐色 粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 5 浅黄橙色 粘土ブロック多量           |
| 2 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック少量   | 6 暗赤褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック微量 |
| 3 赤褐色 粘土ブロック多量、焼土ブロック中量       | 7 明赤褐色 焼土ブロック・粘土ブロック中量    |
| 4 灰黄褐色 粘土ブロック多量、焼土ブロック少量      | 8 黒褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量  |

ピット 5か所。P1～P4は深さ70～80cmで、配置から主柱穴である。P5は深さ45cmで、配置から入り口施設に伴うピットである。第4～7層は埋土、第1～3層は柱材を抜き取った後の覆土である。

### ピット土層解説（各ピット共通）

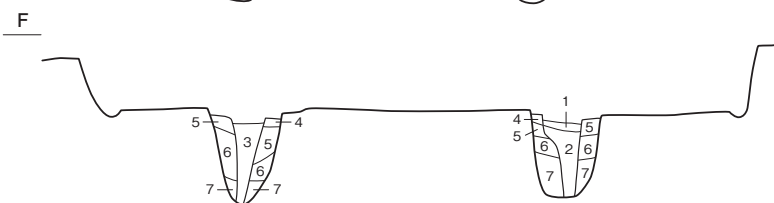
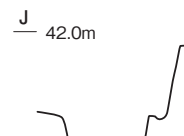
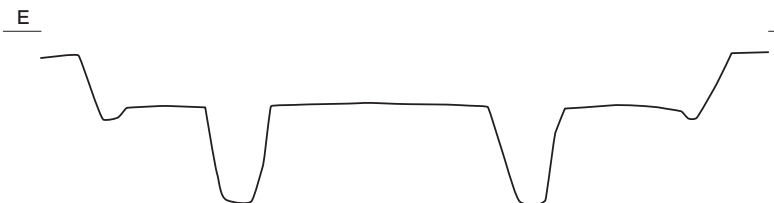
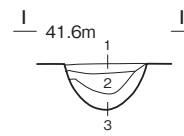
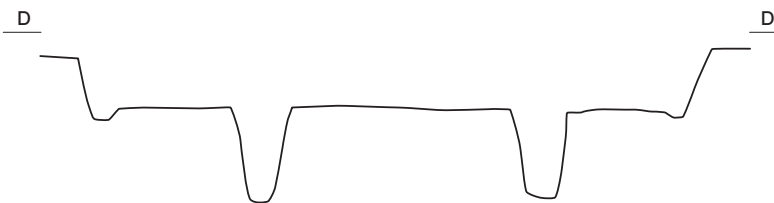
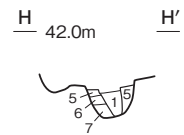
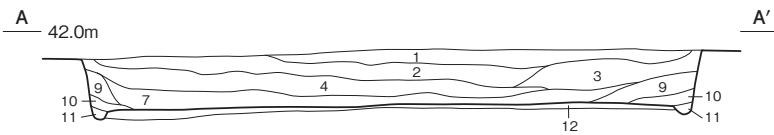
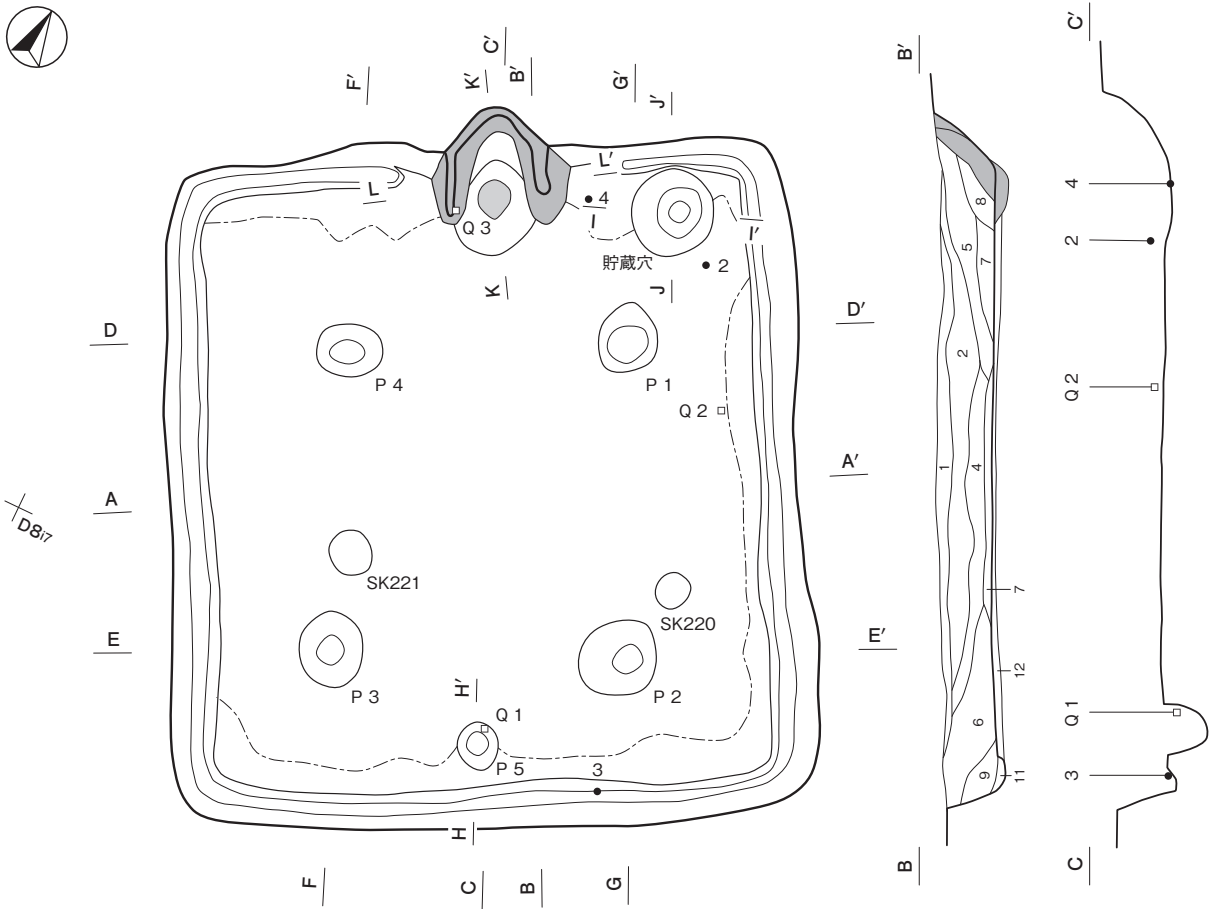
- |                             |                    |
|-----------------------------|--------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック微量    | 5 灰黄褐色 ロームブロック中量   |
| 2 灰白色 粘土ブロック多量、ロームブロック少量    | 6 にぶい黄褐色 ロームブロック少量 |
| 3 にぶい黄褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック微量 | 7 灰黄褐色 ロームブロック少量   |
| 4 黄褐色 ロームブロック少量             |                    |

貯蔵穴 北東隅部に位置している。長径70cm、短径60cmの楕円形で、深さは80cmである。底面は中央部がくぼめられた緩やかな段状で、壁はほぼ直立している。3層に分層でき、ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

### 貯蔵穴土層解説

- |                               |                         |
|-------------------------------|-------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量  | 3 褐色 ロームブロック・鹿沼軽石ブロック少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量 |                         |

覆土 11層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第12層は貼床の構築土である。



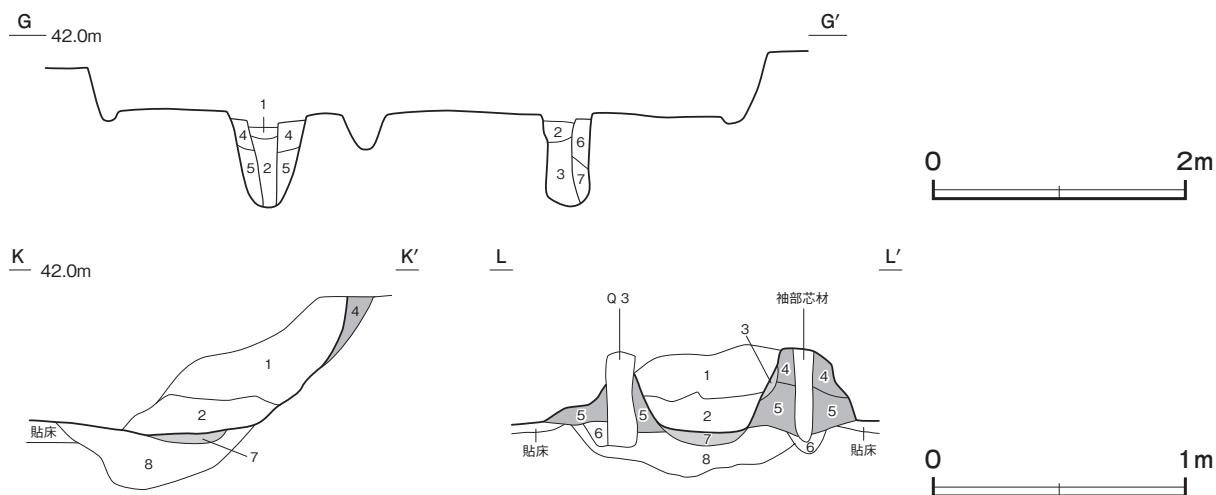
第 124 图 第 76 号竖穴建物跡实测图(1)

土層解説

- |         |                                 |           |                                                |
|---------|---------------------------------|-----------|------------------------------------------------|
| 1 褐 灰 色 | 今市軽石ブロック少量, ロームブロック微量           | 8 黒 色     | ロック・炭化粒子微量<br>ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子少量,<br>炭化粒子微量 |
| 2 暗 褐 色 | ロームブロック・今市軽石ブロック少量              | 9 黒 褐 色   | 今市軽石ブロック少量, ロームブロック微量                          |
| 3 黒 褐 色 | ロームブロック少量, 今市軽石ブロック微量           | 10 黒 色    | ロームブロック・今市軽石ブロック微量                             |
| 4 黒 色   | ロームブロック・今市軽石ブロック少量              | 11 にぶい黄褐色 | ロームブロック・今市軽石ブロック微量                             |
| 5 黒 色   | ロームブロック・粘土ブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 12 黄 褐 色  | ロームブロック多量, 今市軽石ブロック少量                          |
| 6 暗 褐 色 | ロームブロック少量, 粘土ブロック微量             |           |                                                |
| 7 暗 褐 色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量, 粘土         |           |                                                |

遺物出土状況 土師器片 426 点 (坏 39, 甕類 384, 甑 1, ミニチュア土器 1, 不明 1), 須恵器片 2 点 (坏), 石器 1 点 (砥石), 石製品 3 点 (紡錘車, 袖部芯材, 竈材), 金属製品 1 点 (不明) のほか, 縄文土器片 129 点 (深鉢), 弥生土器片 19 点 (壺類) が, 主に竈周辺から出土している。多くの土器は小片で, 接合関係に乏しいことから, 破損したものが廃絶に伴って投棄されたと考えられる。3 は覆土中から良好な遺存状態で出土していることから, 埋め戻しの過程で投棄されたと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から 6 世紀後葉に比定できる。



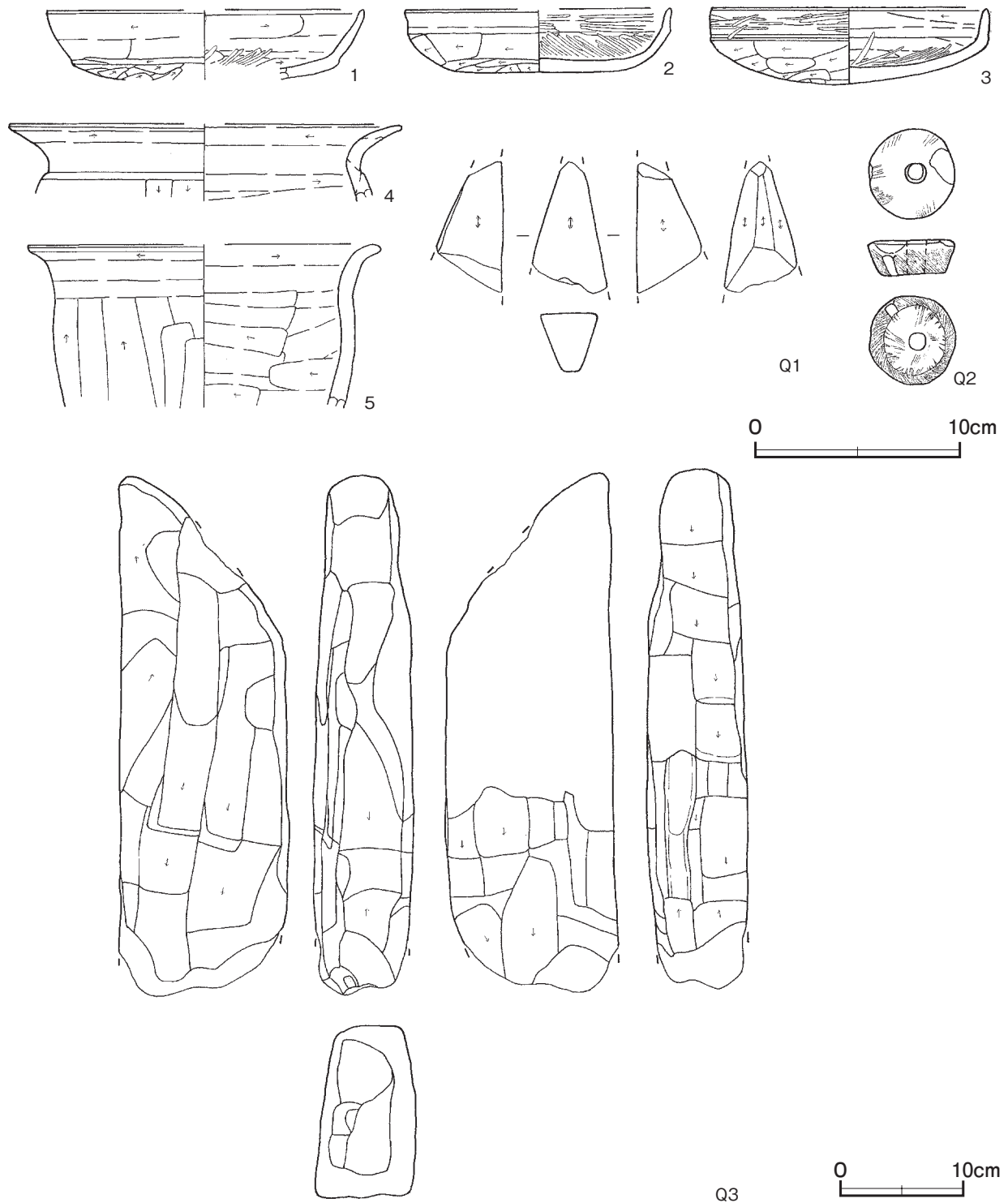
第 125 図 第 76 号竪穴建物跡実測図(2)

第 76 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 126 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
1	土師器	坏	[15.4]	(3.3)	-	長石・石英・雲母・針状物質・赤色粒子	灰褐	普通	口縁部横ナデ 底部外面二方向の削り, 内面横位のナデ後一方向の削り	覆土中	20%
2	土師器	坏	[13.0]	3.1	-	長石・石英・雲母・針状物質・細礫	にぶい黄褐	普通	口縁部外面横ナデ 口縁部内面横ナデ後横位の磨き 底部外面二方向の削り, 内面斜位の磨き	覆土中層	20%
3	土師器	坏	13.4	3.7	-	長石・石英・雲母・針状物質・赤色粒子	橙	普通	口縁部外面横ナデ後横位の磨き, 内面横ナデ 底部外面三方向の削り, 内面横位のナデ後放射状の磨き	覆土下層	95% PL68
4	土師器	甕	[19.1]	(3.8)	-	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の削り, 内面横位の削り	覆土下層	10%
5	土師器	甕	[16.8]	(8.0)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の削り, 内面横位の削り	覆土中	10%

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q 1	砥石	(6.4)	(3.5)	(3.2)	(56.43)	凝灰岩	両端部欠損 砥面 6 面	P 5 覆土中層	
Q 3	竈材	42.5	8.3	13.9	(2895)	凝灰質泥岩	上面二方向の削り調整 側面 4 面縦位の削り調整 下面尖底状の削り調整	袖構築土中	

番号	器 種	径	厚さ	孔径	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q 2	紡錘車	4.4	1.8	1.0	50.69	緑色変成岩	上・下面平滑 側面削り調整 上面からの一方向からの穿孔	覆土下層	PL104



第 126 図 第 76 号 竪穴建物跡出土遺物実測図

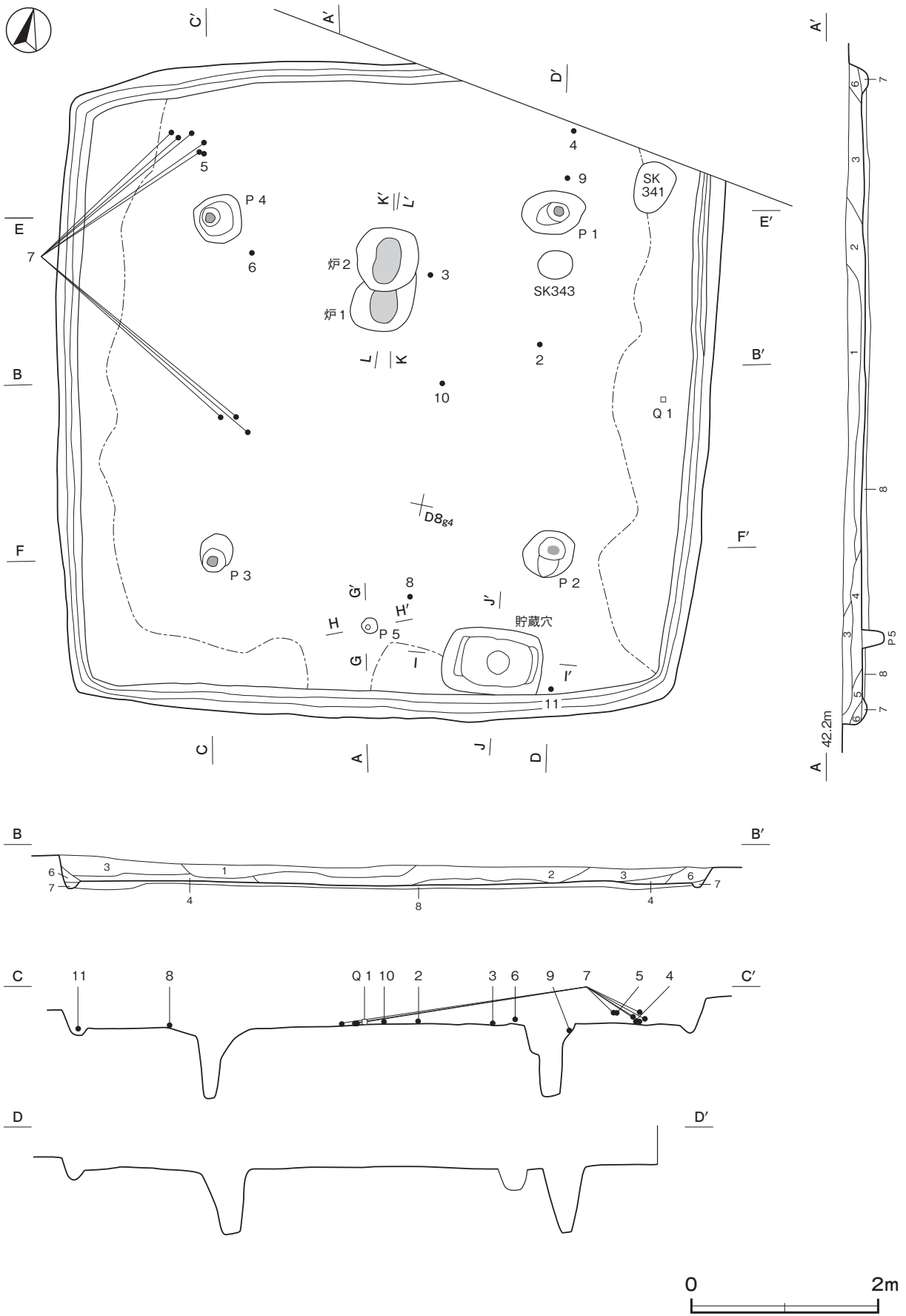
第 77 号 竪穴建物跡 (第 127 ~ 129 図 PL14)

調査年度 平成 26 年度

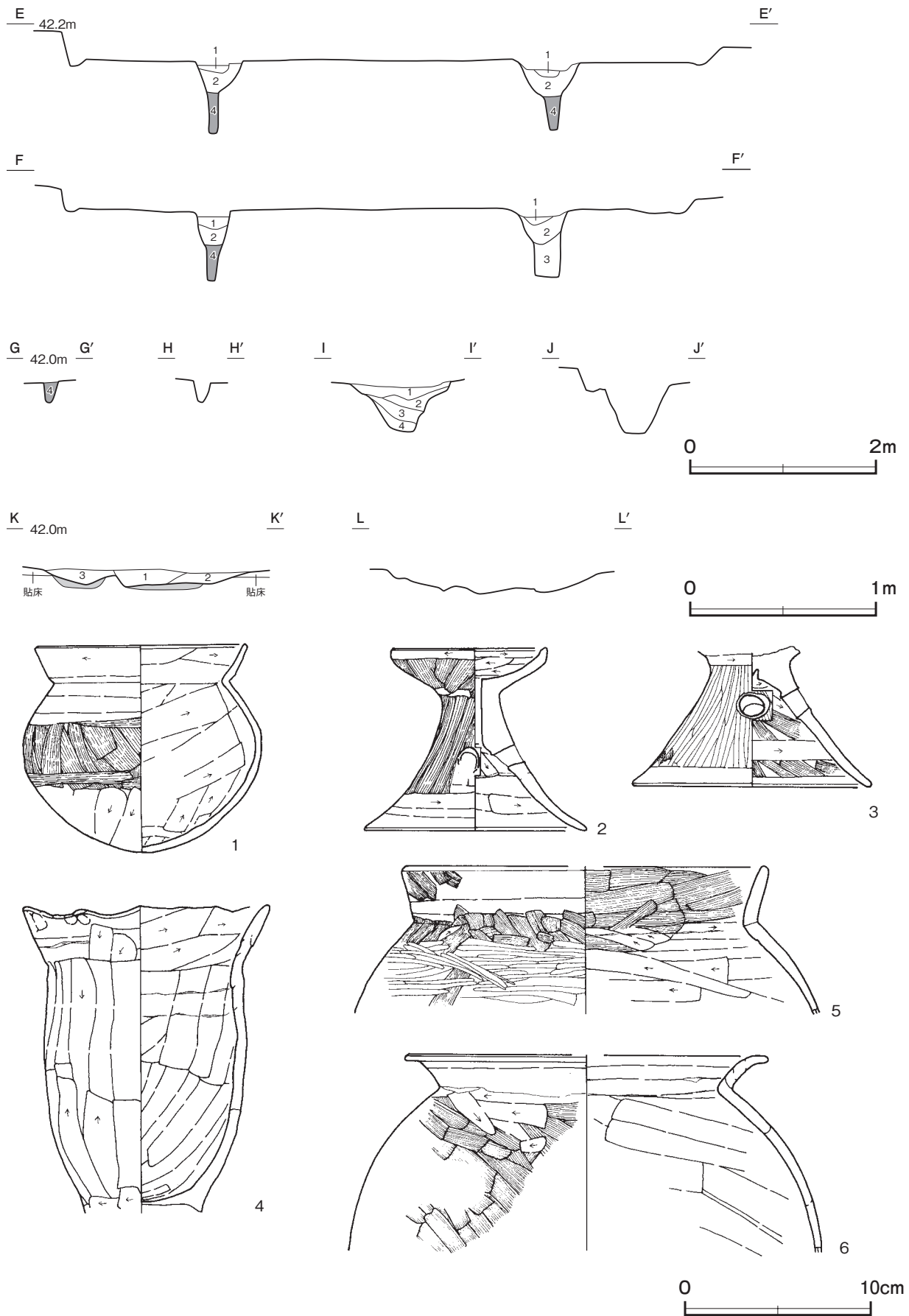
位置 調査区東部の D 8 f3 区, 標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第 341・343 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北東部が調査区域外に延びているが, 一辺 7.00 m の方形で, 主軸方向は  $N - 10^{\circ} - W$  と判断で

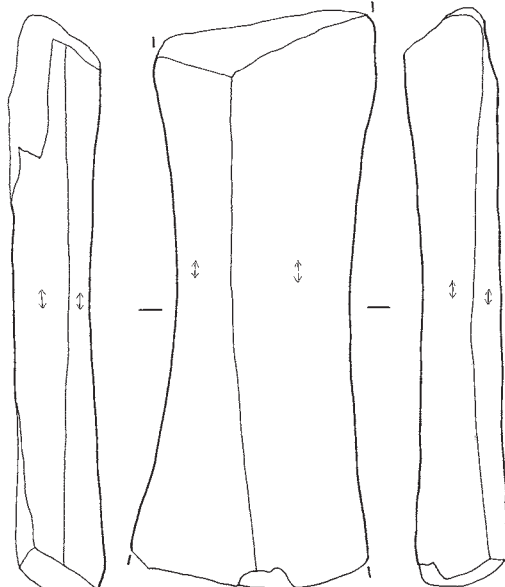
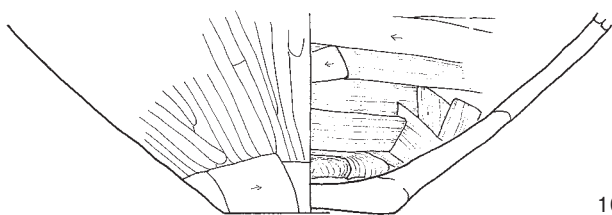
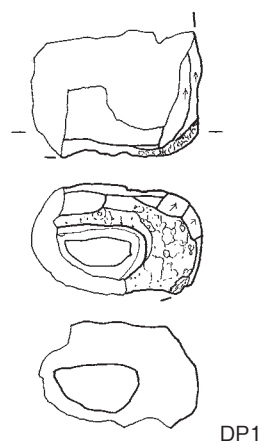
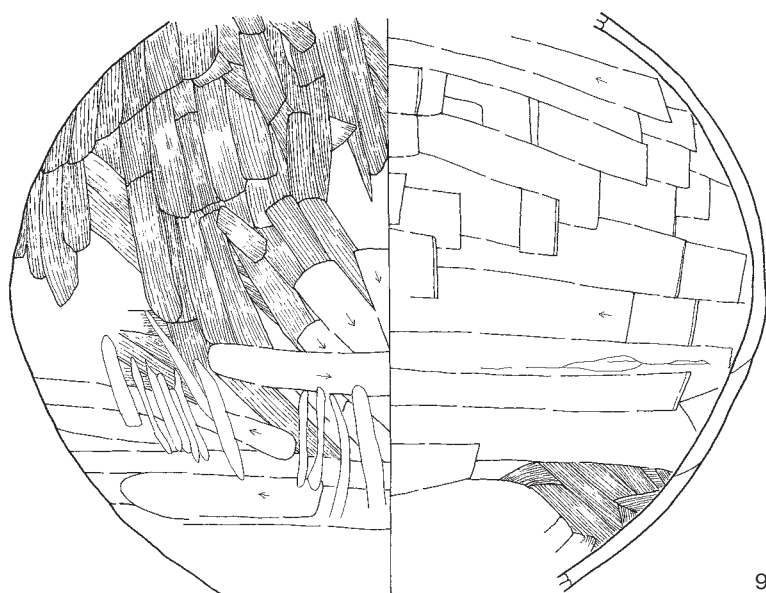
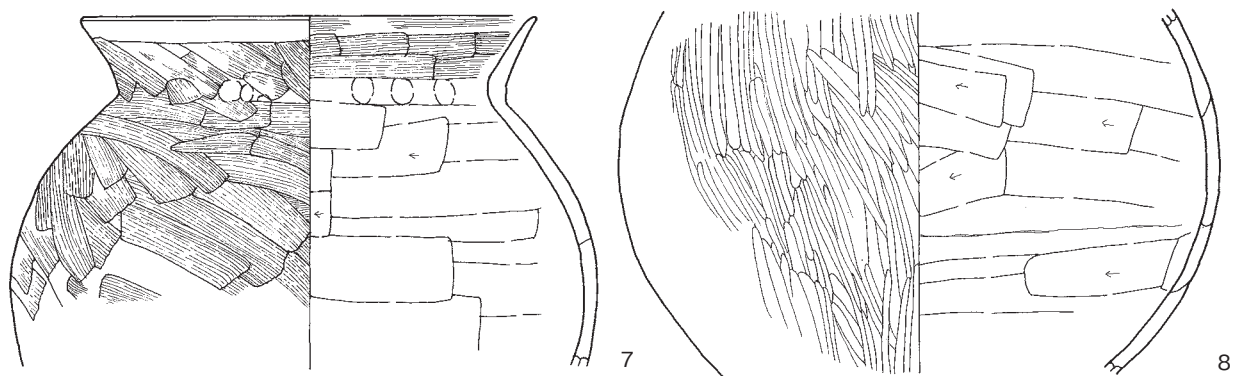


第 127 图 第 77 号竖穴建物迹实测图



第 128 图 第 77 号竖穴建物跡・出土遺物実測図





第 129 图 第 77 号竖穴建物跡出土遺物実測図

きる。壁は高さ14～32cmで、ほぼ直立している。

**床** 平坦な貼床で、東壁、南壁の一部及び西壁際を除いて踏み固められている。貼床は、第8層を5～10cmほど埋め戻して構築されている。掘方は、平坦である。壁溝が、調査区域外を除いて巡っている。

**炉** 2か所。中央部の北寄りに敷設されている。炉1は、炉2に掘り込まれていることから、東西径は20cm、南北径は20cmしか確認できなかった。楕円形の地床炉と推定でき、深さは10cmほど掘りくぼめられ、炉床が構築されている。炉床面は地山の上面で、火熱を受けて赤変硬化している。第3層はロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。炉2は炉1の北側に造り替えられている。長径50cm、短径20cmの楕円形の地床炉である。深さ10cmほど掘りくぼめられ、炉床が構築されている。炉床面は、地山の上面で、火熱を受けて赤変硬化している。第1層はロームブロックが含まれる堆積であることから、埋め戻されている。

**炉1土層解説**

3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

**炉2土層解説**

1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

**ピット** 5か所。P1～P4は深さ72～76cmで、配置から支柱穴である。P5は深さ24cmで、配置から出入り口施設に伴うピットである。第4層は柱痕跡、第1～3層は柱材を抜き取った後の覆土である。P1～P4の底面で、柱の当たりを確認した。

**ピット土層解説 (各ピット共通)**

1 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

3 褐色 ローム粒子中量

2 暗褐色 ローム粒子微量

4 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

**貯蔵穴** 南東部に位置している。長軸105cm、短軸70cmの長方形で、深さは50cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、底辺から40cm上位に平坦な段を有している。4層に分層でき、ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

**貯蔵穴土層解説**

1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

3 褐色 ロームブロック微量

2 褐色 ロームブロック中量

4 褐色 ロームブロック少量

**覆土** 7層に分層できる。第2～7層は複雑な堆積をしていることから、埋め戻されている。第1層は埋め戻された後の自然堆積である。第8層は貼床の構築土である。

**土層解説**

1 褐色 灰色 ローム粒子少量

5 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

2 暗褐色 ローム粒子・今市軽石粒子少量、焼土粒子微量

6 にぶい黄褐色 ロームブロック中量、今市軽石粒子少量

3 黒褐色 ロームブロック少量

7 灰黄褐色 ロームブロック少量

4 にぶい黄褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

8 にぶい黄褐色 ロームブロック少量

**遺物出土状況** 土師器片576点(碗5, 埴30, 器台2, 高坏23, 壺類1, 甕類500, ミニチュア土器15), 石器2点(砥石, 不明), 土製品1点(羽口)のほか、縄文土器片150点(深鉢), 弥生土器片68点(壺類)が、全域に散在して出土している。多くの土器は大型や中型の破片で、接合関係が良好であることから、埋め戻しに伴って一括で投棄されたと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から4世紀中葉に比定できる。

第77号竪穴建物跡出土遺物観察表(第128・129図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	埴	11.2	11.2	-	長石・石英・雲母・針状物質・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ 体部外面縦・横位のハケ目調整後ナデ消し 体部内面斜位のナデ 底部内面一方向のナデ	覆土中	40%
2	土師器	器台	8.1	9.9	[11.8]	長石・石英・雲母・針状物質・赤色粒子	にぶい橙	普通	坏部外面斜位のハケ目調整後ナデ消し、内面横・斜位のナデ 脚部外面縦位のハケ目調整後下位ナデ消し、内面縦・横位のナデ 穿孔3か所	覆土下層	70%
3	土師器	高坏	-	(7.2)	12.8	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	脚部外面縦位の磨き、ハケ目調整残存、内面斜位のハケ目調整後ナデ消し	覆土下層	50%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
4	土師器	壺	13.0	(16.6)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部外面横位のナデ、内面斜位のナデ、体部外面縦位のナデ後縦位の削り、内面斜位のナデ、底部内面一方向のナデ、指頭痕、輪積痕	覆土下層	70% PL77
5	土師器	甕	[19.6]	(8.0)	-	長石・石英・雲母・針状物質・赤色粒子	褐灰	普通	口縁部外面斜位ハケ目調整、内面横・斜位のハケ目調整、体部外面縦・横位のハケ目調整後横・斜位の磨き、内面ハケ目調整後ナデ消し	覆土下層	20% 煤付着
6	土師器	甕	[19.2]	(10.6)	-	長石・石英・雲母・針状物質・赤色粒子	浅黄	普通	口縁部横ナデ、体部外面斜位のハケ目調整後ナデ消し、内面横・斜位のナデ	覆土下層	10% 煤付着
7	土師器	甕	18.0	(13.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面斜位のハケ目調整後ナデ消し、体部内面横位のハケ目調整、指頭痕	覆土下層	40% 煤付着
8	土師器	甕	-	(14.3)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	体部外面縦位の磨き、内面横位のナデ、輪積痕	覆土下層	10% 煤付着
9	土師器	甕	-	(22.7)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	体部外面縦・斜位のハケ目調整後ナデ消し、下位横・斜位のナデ後縦位の磨き、内面斜位のハケ目調整後横位のナデ	覆土下層	30% 煤付着
10	土師器	甕	-	(7.9)	6.8	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	体部外面縦位の磨き、下端部斜位の削り、内面ハケ目調整後ナデ消し、底部外面一方向のナデ、内面放射状のハケ目調整	覆土下層	10% 煤付着
11	土師器	ミニチュア土器	-	(3.5)	4.5	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	脚部外面縦位のナデ、内面斜位のナデ	覆土下層	50% PL85 煤付着

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	砥石	(23.0)	(10.0)	(3.7)	(897.62)	凝灰岩	両端部・下面欠損 塗面4面	覆土下層	PL104

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	羽口	(5.10)	(6.80)	(4.40)	(88.32)	長石・石英・雲母・針状物質	灰黄褐	端部欠損 3側面欠損 一方向のナデ 一部滓化	P 1 覆土中	

## 第78号竪穴建物跡（第130・131図 PL20）

調査年度 平成26年度

位置 調査区東部のD9h1区、標高42mほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第84号竪穴建物跡を掘り込み、第73・339・340号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 一辺4.40mほどの方形で、主軸方向はN-19°-Wである。壁は高さ8~40cmで、ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で、西壁及び北壁際を除いて踏み固められている。貼床は、第8・9層を5~40cmほど埋め戻して構築されている。掘方は、中央部を残して東西の壁際を20cmほど深く掘り込んでいる。壁溝が、P5付近を除いて巡っている。

竈 北壁中央部の東寄りに付設されている。焚口部から煙道部までは98cm、燃焼部の幅は35cmである。燃焼部は床面から30cmほど掘りくぼめられ、第5・6層で埋め戻されている。袖部は、床面及び第6層上面に第4層を積み上げて構築されている。火床面は第5・6層の上面で、第5層は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に30cmほど掘り込まれ、火床面から外傾している。第1~3層はロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから、壊されている。貼床構築土の下から第7層で埋め戻された別の掘方が確認できたことから、竈を造り替えた可能性がある。

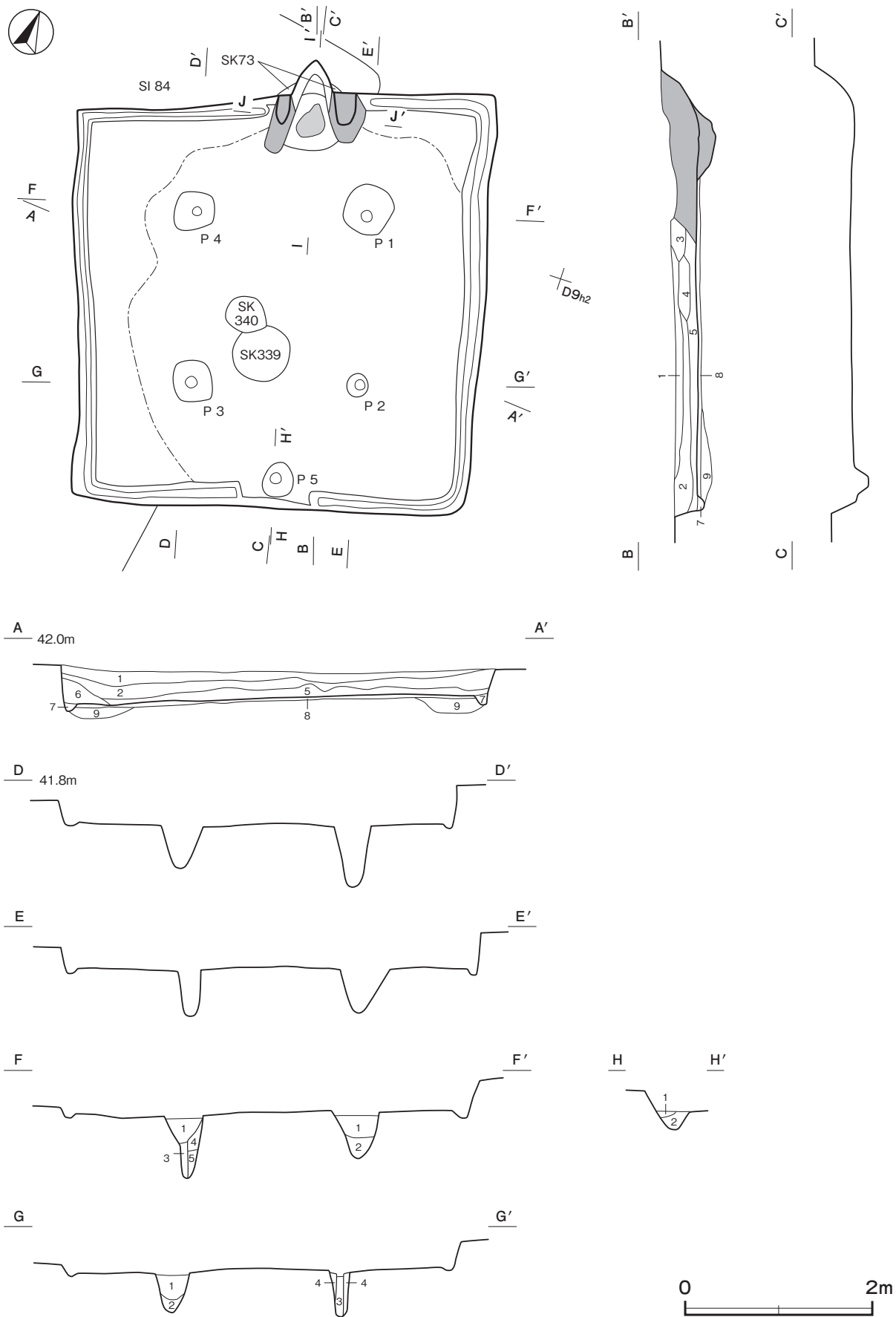
### 竈土層解説

- |                                   |                 |
|-----------------------------------|-----------------|
| 1 灰白色 粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック少量   | 5 明赤褐色 焼土ブロック中量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量        | 6 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 3 にぶい黄褐色 焼土ブロック中量、炭化物少量、ロームブロック微量 | 7 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 4 浅黄橙色 粘土ブロック多量、焼土ブロック少量          |                 |

ピット 5か所。P1~P4は深さ40~65cmで、配置から主柱穴である。P5は深さ20cmで、配置から入り口施設に伴うピットである。第4・5層は埋土、第1~3層は柱材を抜き取った後の覆土である。

### ピット土層解説（各ピット共通）

- |                    |                 |
|--------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量    | 4 黄褐色 ロームブロック多量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック中量    | 5 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 3 にぶい黄褐色 ロームブロック中量 |                 |



第 130 图 第 78 号竖穴建物迹实测图

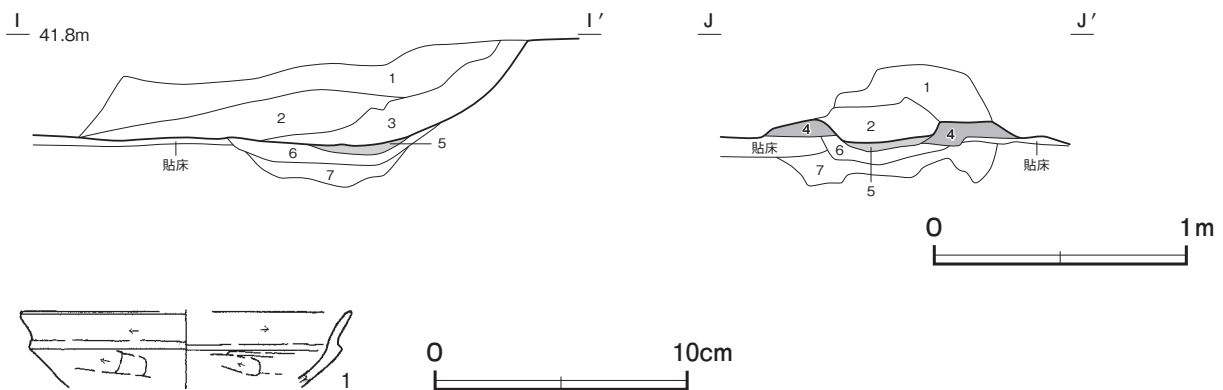
**覆土** 7層に分層できる。第3～7層はロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第1・2層はレンズ状に堆積していることから、自然堆積である。第8・9層は貼床の構築土である。

**土層解説**

- |       |                         |          |                      |
|-------|-------------------------|----------|----------------------|
| 1 褐灰色 | ローム粒子・今市軽石粒子微量          | 6 褐灰色    | ロームブロック微量            |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量、今市軽石粒子微量        | 7 褐色     | ロームブロック少量            |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量 | 8 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量、今市軽石ブロック微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量、粘土ブロック微量      | 9 黒褐色    | ロームブロック少量            |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・今市軽石ブロック少量      |          |                      |

**遺物出土状況** 土師器片 177 点 (坏 22, 高坏 12, 壺類 1, 甕類 142,) のほか、縄文土器片 62 点 (深鉢), 弥生土器片 7 点 (壺類), 剥片 1 点 (瑪瑙) が、全域に散在している。多くの土器は小片で、接合関係に乏しいことから、破損したものが廃絶に伴って投棄されたと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から 7 世紀前葉に比定できる。



第 131 図 第 78 号 竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 78 号 竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 131 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[13.0]	(3.0)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 底部外・内面一方向のナデ	覆土中	5%

**第 79 号 竪穴建物跡** (第 132 ~ 134 図 PL14)

**調査年度** 平成 26 年度

**位置** 調査区東部の D 9 h2 区, 標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

**重複関係** 第 5・16 号粘土貼土坑, 第 61・212, 334 ~ 336 号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸 5.12 m, 短軸 4.45 m の長方形で, 主軸方向は N - 27° - E である。壁は高さ 25 ~ 46 cm で, ほぼ直立している。

**床** 平坦な貼床で, 北東隅部, 南東隅部及び西壁際の一部を除いて踏み固められている。貼床は, 第 6・7 層を 10 ~ 15 cm ほど埋め戻して構築されている。掘方は中央部を高く掘り残した回の字状で, 東西の壁際を 15 cm ほど深く掘り込んでいる。壁溝が, 南壁下の東半部を除いて巡っている。

**炉** 中央部の北寄りに付設されている。長径 70 cm, 短径 60 cm の楕円形の地床炉である。深さ 5 cm ほど掘りくぼめ, 炉床が構築されている。炉床面は, 火熱を受けて赤変硬化している。第 1 層はロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

**炉土層解説**

1 暗赤褐色 焼土ブロック少量, ロームブロック微量

**ピット** P 1は深さ 34cmで, 配置から出入り口施設に伴うピットである。

**貯蔵穴** 南部に位置している。長軸 70cm, 短軸 60cmの隅丸方形で, 深さは 30cmである。底面は平坦で, 壁は外傾している。3層に分層でき, ロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

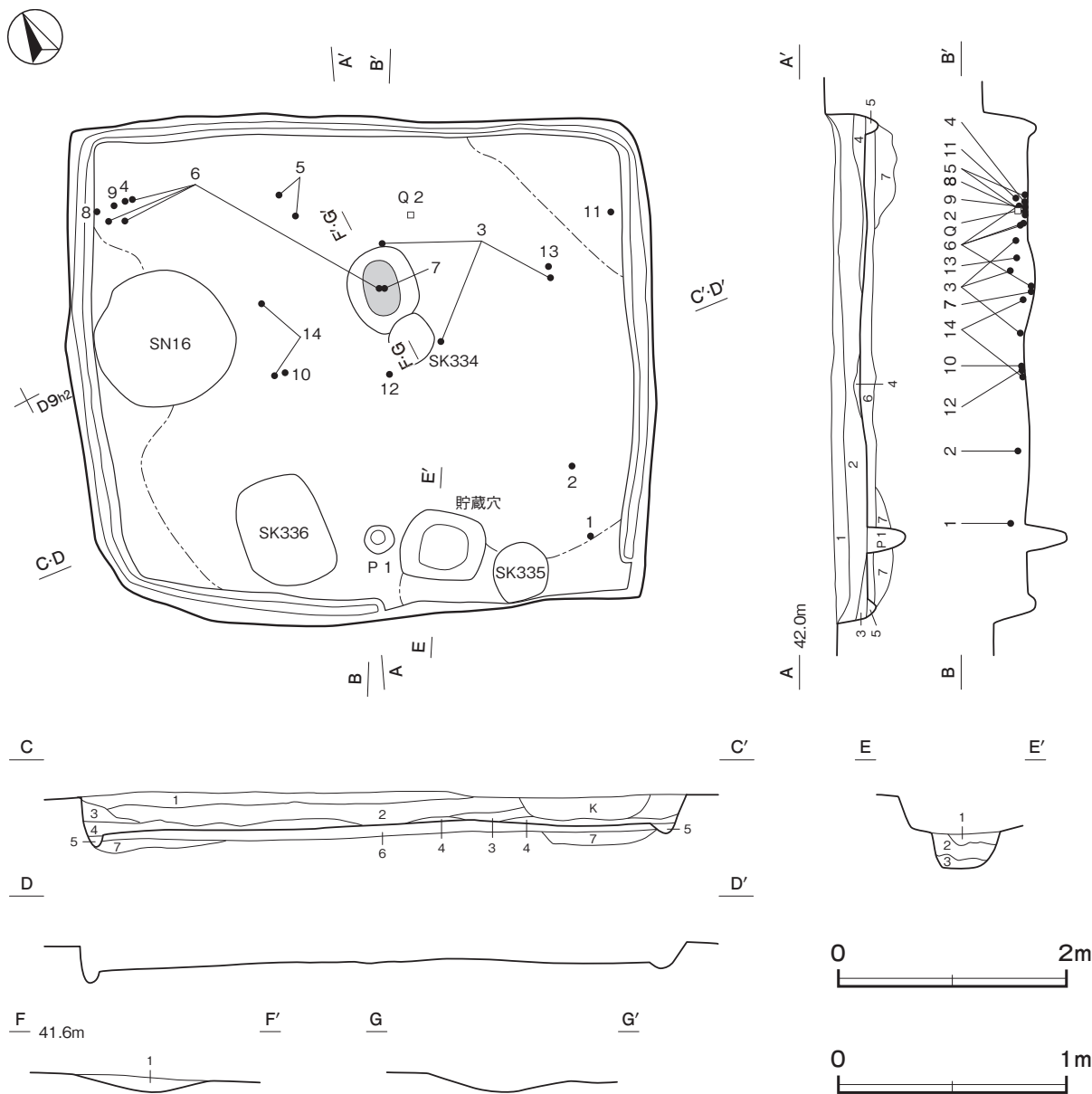
**貯蔵穴土層解説**

1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量      3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量  
2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

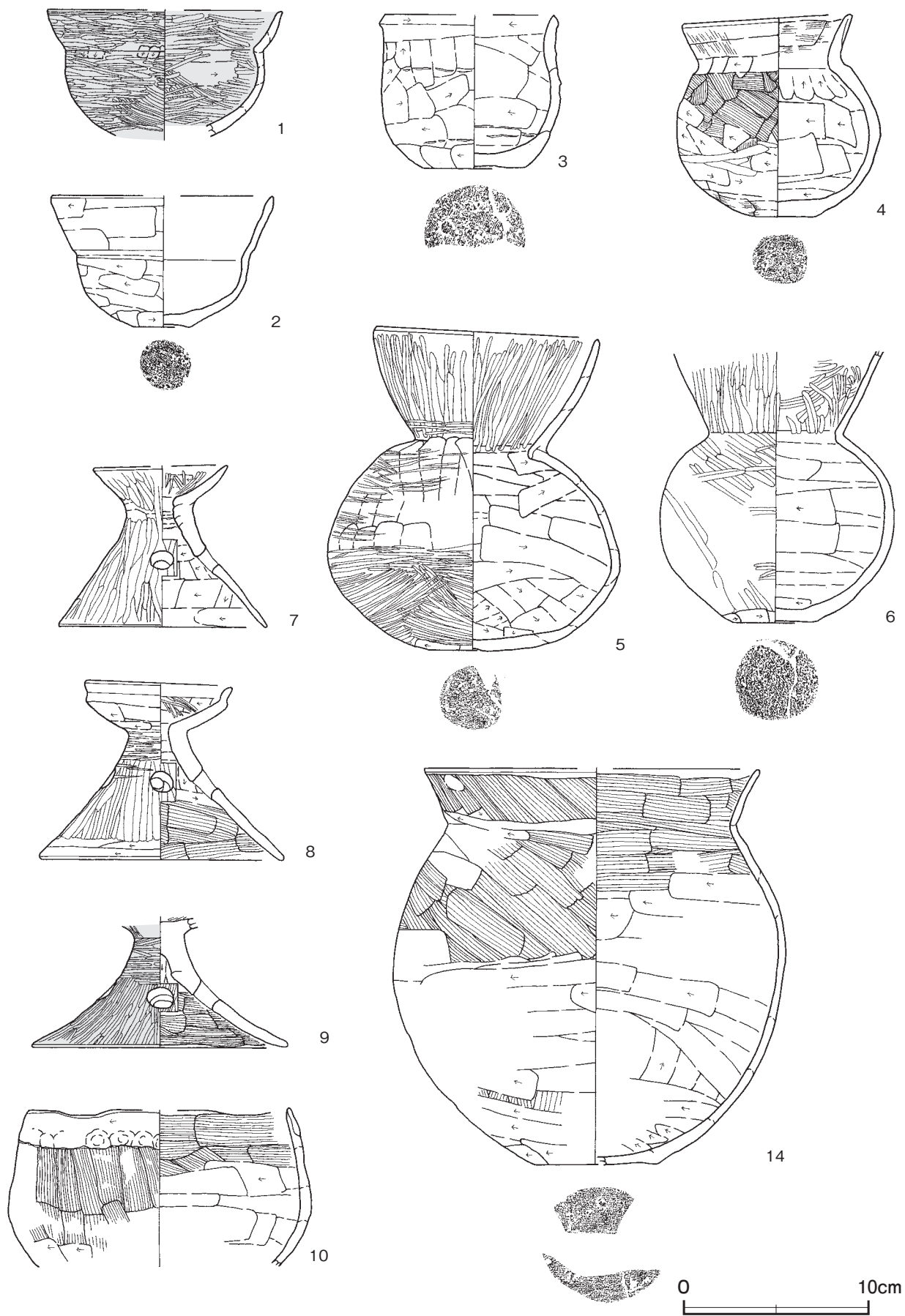
**覆土** 5層に分層できる。第2～5層はロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。第1層はレンズ状に堆積していることから, 自然堆積である。第6・7層は貼床の構築土である。

**土層解説**

1 暗褐色 ローム粒子・今市軽石粒子少量      5 暗褐色 ロームブロック・今市軽石ブロック少量  
2 黒褐色 ロームブロック・今市軽石粒子少量      6 暗褐色 ロームブロック中量  
3 暗褐色 ロームブロック・今市軽石粒子少量      7 暗褐色 ロームブロック少量  
4 黒褐色 今市軽石ブロック・ローム粒子少量



第 132 図 第 79 号 貯蔵穴 建物跡 実測図



第 133 图 第 79 号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 134 図 第 79 号 竖穴建物跡出土遺物実測図(2)



**遺物出土状況** 土師器片 310 点（坏 2，埴 88，器台 10，高坏 15，鉢 1，壺類 6，甕類 188），石器 1 点（石皿），石製品 1 点（剣形品）のほか，縄文土器片 145 点（深鉢），弥生土器片 24 点（壺類）が，主に北半部から出土している。多くの土器は大型や中型の破片で，良好であることから埋め戻しに伴って一括で投棄されたと考えられる。

**所見** 時期は，出土土器から 4 世紀後葉に比定できる。

第 79 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 133・134 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	埴	[12.6]	(6.8)	-	長石・雲母・針状物質	明赤褐	普通	口縁部外面横位の磨き，内面二方向の磨き 体部外面上位縦位のナデ 二方向の磨き，内面二方向の磨き 赤彩	覆土下層	20%
2	土師器	埴	[11.8]	7.1	3.0	長石・石英・針状物質	にぶい黄橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ 体部外面横位のナデ後下端面横位の削り，内面劣化のため調整不明 底部一方向のナデ	覆土下層	50% PL71
3	土師器	埴	[9.0]	8.3	5.7	長石・石英・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横位のナデ 体部縦位のナデ後横・斜位のナデ 下端面横位の削り，内面横・斜位のナデ 底部一方向のナデ	覆土下層	80% PL71
4	土師器	埴	9.0	11.0	3.4	長石・石英・針状物質・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面ハケ目調整後横ナデ 体部外面斜位のハケ目調整後ナデ消し，中位横位の磨き，内面縦位のナデ後横位のナデ 底部多方向のナデ	覆土下層	80% PL72
5	土師器	埴	12.0	17.5	4.2	長石・石英・針状物質	橙	普通	口縁部外・内面縦位の磨き 体部外面縦位のナデ後二方向の磨き，中位横位の磨き，内面横位のナデ 底部二方向のナデ	覆土下層	95% PL73
6	土師器	埴	-	(14.2)	4.6	長石・石英・針状物質	にぶい赤褐	普通	口縁部外面縦位の磨き，内面二方向の磨き 体部外面二方向の磨き後下端面横位の削り，内面横位のナデ 底部二方向のナデ	覆土下層	80%
7	土師器	器台	[7.2]	8.7	11.2	長石・石英・針状物質	にぶい橙	普通	坏部外面縦位の磨き，内面横位のナデ後縦位の磨き 底部の穿孔 脚部外面横位のナデ後縦位の磨き，内面縦位のナデ後横位のナデ 穿孔 3 か所	炉跡第 1 層	95% PL74
8	土師器	器台	7.8	9.6	13.1	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	坏部口縁部横ナデ 内面二方向の磨き 底部の穿孔 脚部縦・横位の磨き，内面縦・横位のナデ 中位以下ハケ目調整 穿孔 3 か所	覆土下層	95% PL74
9	土師器	高坏	-	(7.0)	14.0	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい赤褐	普通	脚部外面縦位の磨き後上位横位の磨き，内面縦位のナデ後横位のハケ目調整 穿孔 4 か所 外面赤彩	覆土下層	40% PL74
10	土師器	鉢	[14.0]	(8.5)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部外面横位のナデ 指頭痕，内面 横位のハケ目調整 体部外面縦位のハケ目調整後ナデ消し，内面斜位のハケ目調整後ナデ消し	覆土下層	30%
11	土師器	壺	16.2	(6.0)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい褐	普通	口縁部外面横位のハケ目調整後棒状浮文貼付 指頭痕，内面横位の磨き 頸部外面縦位の磨き	覆土下層	10% PL78
12	土師器	壺	16.0	32.0	7.9	長石・石英・雲母・針状物質・細礫	にぶい橙	普通	口縁部外・内面ハケ目調整後縦位の磨き 体部外面斜位のハケ目調整後縦位の磨き 下端面斜位の削り，内面縦・横位のナデ 底部二方向の削り	覆土下層	60% PL78
13	土師器	甕	[16.0]	(14.4)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位のナデ後中位以下縦位の削り，内面縦位のナデ後横・斜位のナデ	覆土下層	50% 煤付着
14	土師器	甕	[18.0]	21.5	6.6	長石・石英・針状物質・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面斜位のハケ目調整後横位のナデ，内面横位のハケ目調整 体部外面斜位のハケ目調整後ナデ消し 下端面斜位の削り，内面縦位のナデ後横位のナデ 底部二方向のナデ	覆土下層	50% PL80 煤付着

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	剣形品	4.0	1.9	0.8	11.77	緑色変成岩	上・下面平滑 側面削り調整後平滑 未成品	覆土中	
Q 2	石皿	(32.8)	21.7	(6.3)	(5.865)	緑色変成岩	端部欠損 下面欠損 上部中央部磨減，断面皿状	覆土下層	PL104

**第 80 A 号竪穴建物跡**（第 135・136 図 PL15・16）

**調査年度** 平成 26 年度

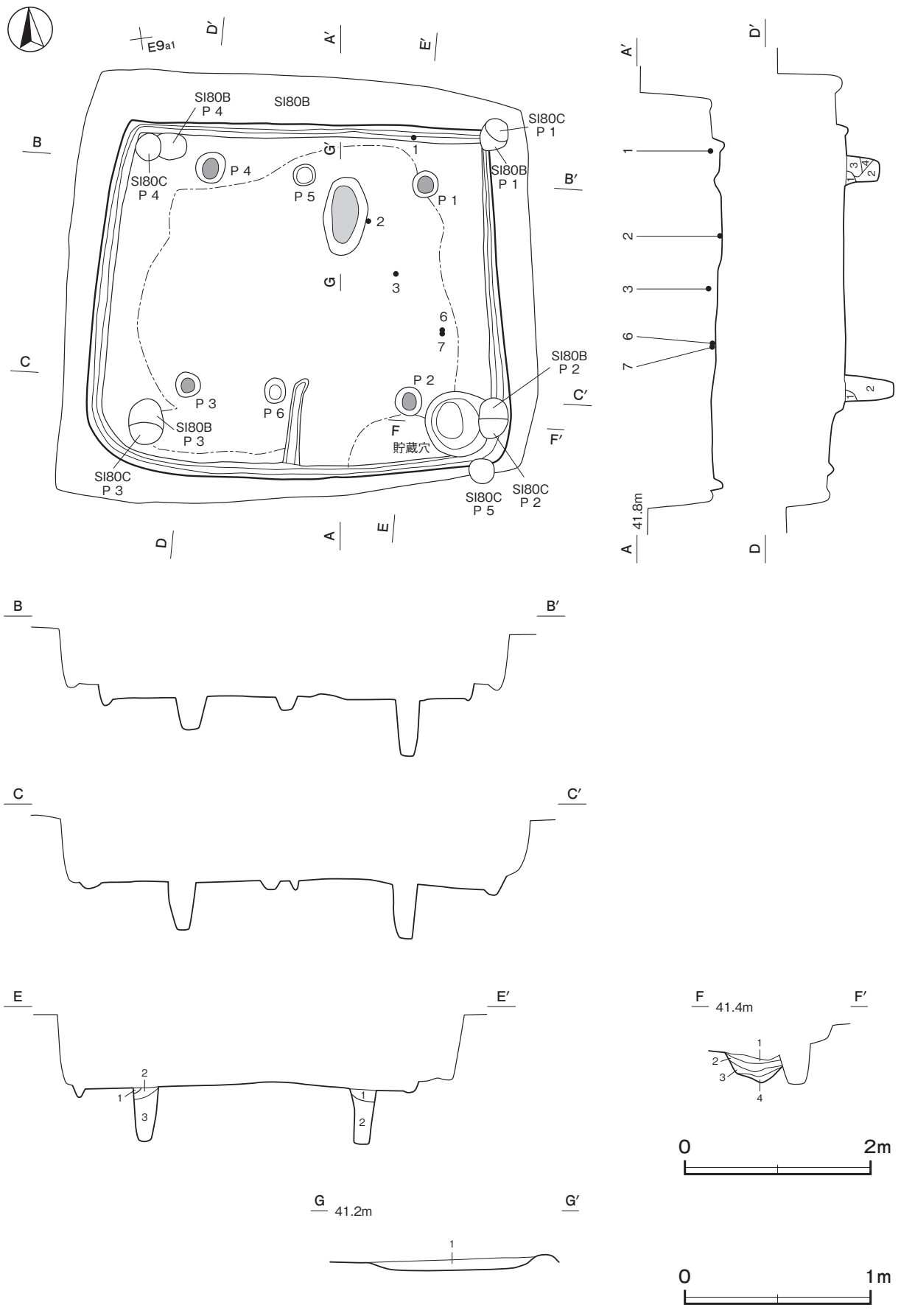
**位置** 調査区東部の E 9 a1 区，標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

**重複関係** 第 80 B・80 C 号竪穴建物に掘り込まれている。

**規模と形状** 上部は第 80 B 号竪穴建物への拡張時に掘り込まれているが，長軸 4.50 m，短軸 3.82 m の長方形で，主軸方向は N - 10° - E である。壁は，高さ 20cm しか確認できなかった。

**床** 平坦で，中央部及び南壁際の一部が踏み固められている。壁溝が全周している。

**溝跡** 南壁中央部の壁下から北方向へ，主軸方向とほぼ並行して掘り込まれている。長さ 100cm，幅 15cm で，深さは 15cm である。断面は U 字状である。間仕切りと考えられる。



第 135 図 第 80A 号竖穴建物跡実測図

**炉** 中央部の北寄りに付設されている。長径 80cm, 短径 45cmの楕円形の地床炉である。深さ 5cmほど掘りくぼめ, 炉床が構築されている。炉床面は地山で, 火熱を受けて赤変硬化している。覆土は単一層で, ロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

**炉土層解説**

1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量

**ピット** 6か所。P 1～P 4は深さ 40～62cmで, 配置から支柱穴である。第2～4層は柱材を抜き取った後の覆土, 第1層は流入土である。P 5・P 6は深さ 20cmほどで, 配置から補助柱穴である。P 1～P 4の底面で, 柱の当たりを確認した。

**ピット土層解説 (各ピット共通)**

1 暗褐色 ロームブロック少量

2 明黄褐色 ロームブロック少量

3 におい黄褐色 ロームブロック少量

4 灰黄褐色 ロームブロック少量

**貯蔵穴** 南東部に位置している。径 70cmの円形で, 深さは 30cmである。底面は皿状で, 壁はほぼ直立している。4層に分層でき, ロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

**貯蔵穴土層解説**

1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量

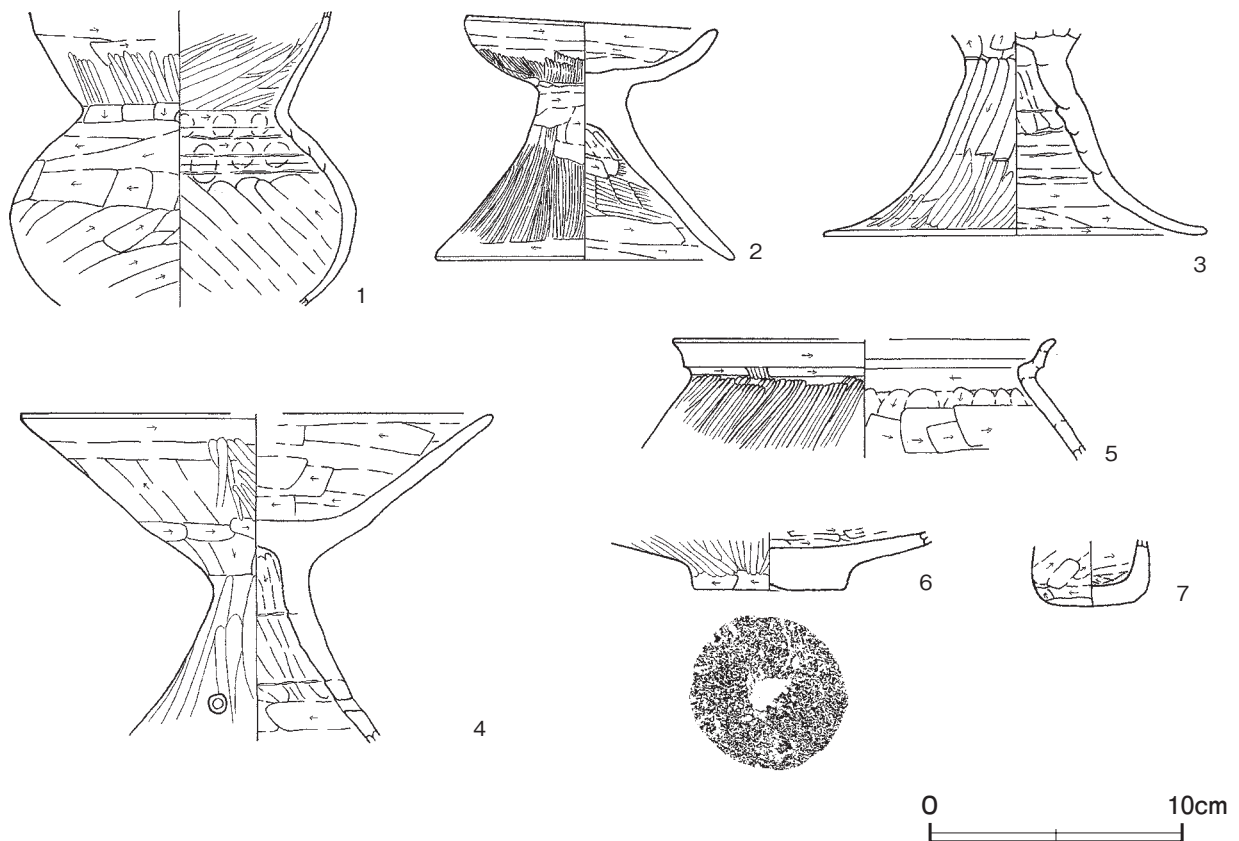
2 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量

3 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量

4 褐色 ロームブロック中量

**覆土** 土層断面図及び土層解説は, 第 80C 号堅穴建物跡の項でまとめて表示する。第 11 層は第 80 A 号堅穴建物の埋め戻し土で, 第 80 B 号堅穴建物の貼床の構築土である。第 12 層は壁溝の埋め戻し土である。

**遺物出土状況** 土師器片 313 点 (埴 69, 器台 4, 高坏 53, 壺類 2, 甕類 180, ミニチュア土器 5) のほか, 縄文土器片 17 点 (深鉢), 弥生土器片 3 点 (壺類), 剥片 1 点 (瑪瑙) が, 全域に散在している。多くの土器



第 136 図 第 80A 号堅穴建物跡出土遺物実測図

は中型の破片や小片で、接合関係が良好であることから、第80B号竪穴建物の貼床構築に伴って一括で投棄されたと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から4世紀中葉に比定できる。

第80A号竪穴建物跡出土遺物観察表（第136図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	埴	-	(11.6)	-	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	口縁部横ナデ後縦・斜位の磨き、体部外面上位縦位のナデ後横・斜位のナデ、下位斜位の削り、内面横位のナデ後斜位のナデ、指頭裏、輪積裏	第11層中	50%
2	土師器	器台	9.8	9.7	[11.8]	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	坏部外面縦位のハケ目調整後横ナデ、脚部外面縦位ハケ目調整後ナデ消し、内面横位のハケ目調整ナデ消し	第11層中	80% PL74
3	土師器	高坏	-	(8.0)	15.1	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	脚部外面下端部横ナデ後縦位の削り、下位縦位の磨き、内面縦・横位のナデ	第11層中	30%
4	土師器	高坏	[18.6]	(13.1)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい褐	普通	坏部縦位のナデ後横ナデ、中位以下縦・横位のナデ後縦位の磨き、内面横・斜位のナデ後横ナデ、脚部外面縦位の磨き、内面縦・横位のナデ	第11層中	60% PL75 外面からの穿孔1か所
5	土師器	甕	[15.0]	(4.7)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ、体部外面斜位のハケ目調整、内面縦位のナデ後横位のナデ	第11層中	10% 煤付着
6	土師器	甕	-	(2.3)	6.0	長石・石英・雲母・針状物質	浅黄橙	普通	体部下端部横位のナデ後縦位の磨き、内面斜位のナデ、底部外面多方向のナデ、内面一方向のナデ	第11層中	10% 煤付着
7	土師器	ミニチュア土器	-	(2.6)	[3.4]	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	体部外面斜位のナデ後下端部横位のナデ、体部内面横位のナデ、底部外面一方向のナデ後縁辺に沿ったナデ、内面二方向のナデ	第11層中	20% PL85

### 第80B号竪穴建物跡（第135・137～139図 PL15・16）

**調査年度** 平成26年度

**位置** 調査区東部のE9a1区、標高42mほどの台地平坦面に位置している。

**重複関係** 第80A号竪穴建物跡を掘り込み、第80C号竪穴建物に掘り込まれている。

**規模と形状** 上部は第80C号竪穴建物の拡張時に掘り込まれているが、長軸5.03m、短軸4.60mの長方形で、主軸方向はN-12°-Eである。壁は、高さ10cmしか確認できなかった。

**床** 平坦な貼床である。貼床は、第80A号竪穴建物跡の床面に第11層を10cmほど埋め戻して構築されている。壁溝が、ほぼ全周している。

**ピット** 4か所。P1～P4は深さ40～60cmで、配置から支柱穴である。第1・2層が柱材を抜き取った後の覆土である。P1～P4の底面で、柱の当たりを確認した。

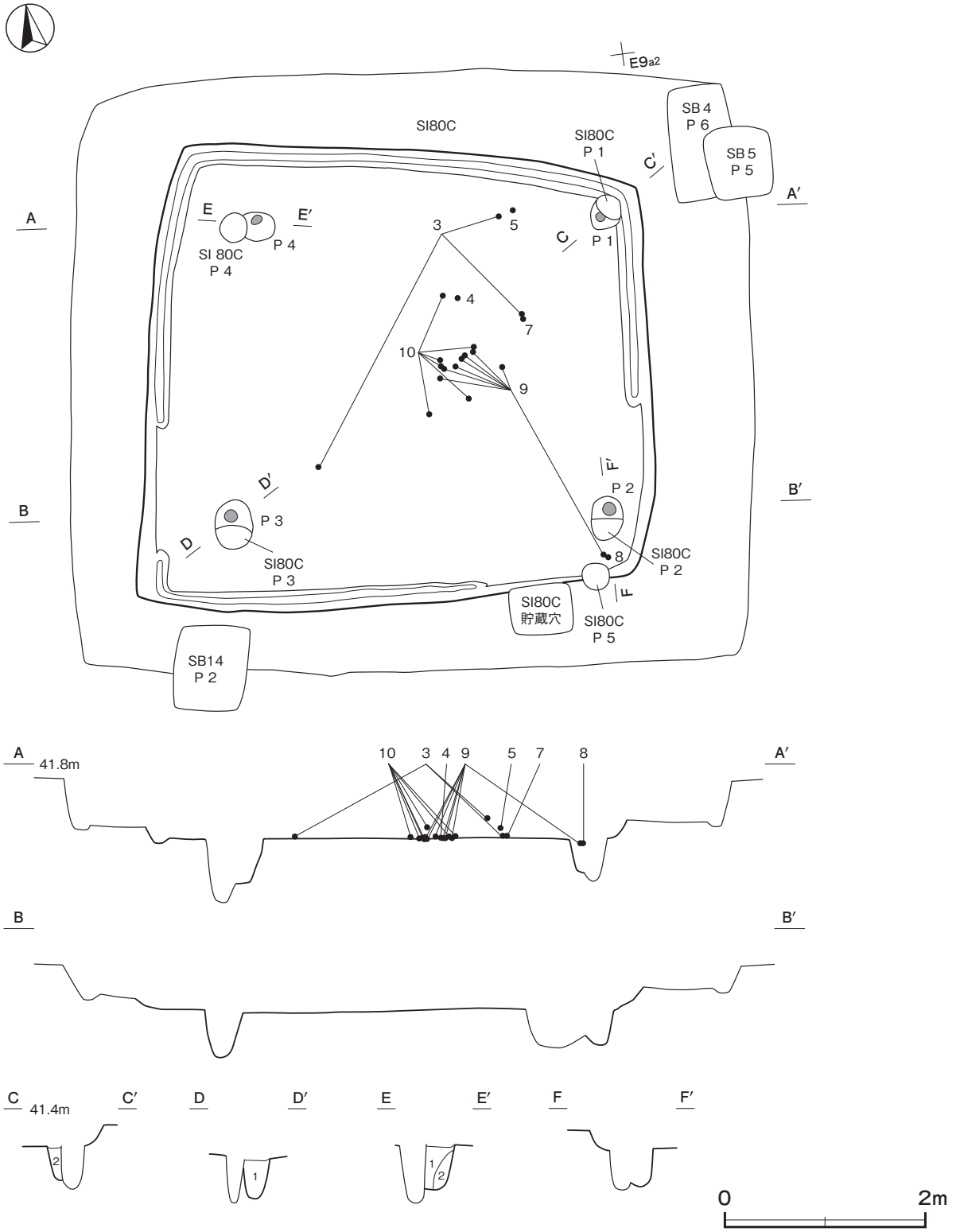
#### ピット土層解説（各ピット共通）

- 1 黒褐色 ロームブロック・今市軽石ブロック少量      2 褐灰色 ロームブロック少量、今市軽石ブロック微量

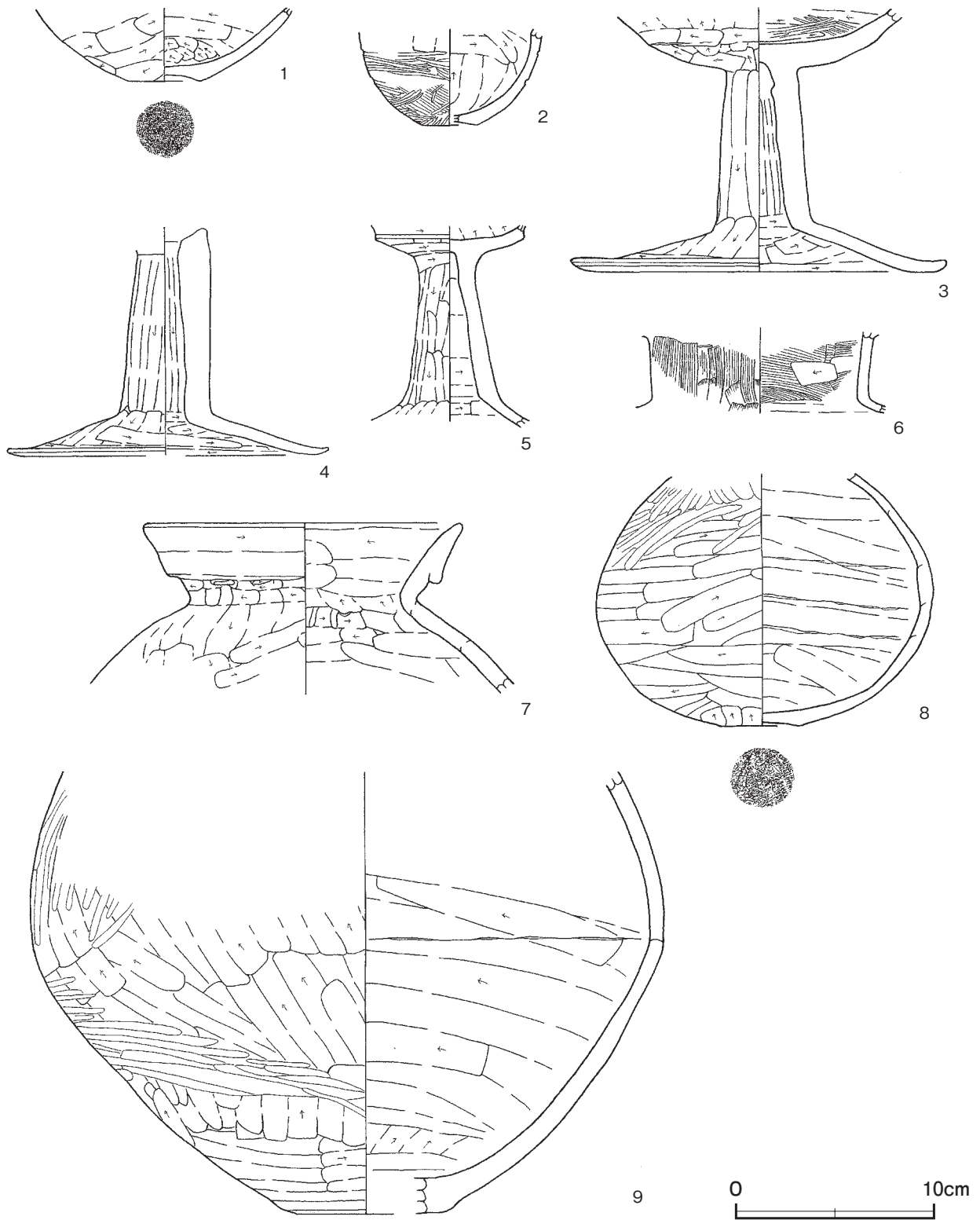
**覆土** 2層に分層できる。土層断面図及び土層解説は、第80C号竪穴建物跡の項でまとめて表示する。第9層は第80B号竪穴建物の埋め戻し土で、第80C号竪穴建物の貼床構築土の一部である。第10層は、壁溝の覆土で、埋め戻されている。第11層は、貼床の構築土である。

**遺物出土状況** 土師器片223点（坏28、埴16、器台2、高坏12、壺類9、甕類147、甗1、ミニチュア土器8）、土製品1点（不明）のほか、縄文土器片18点（深鉢）、弥生土器片2点（壺類）、石器3点（石皿、砥石、不明）が、主に中央部周辺から出土している。多くの土器は大型や中型の破片で、接合関係が良好であることから、拡張時の埋め戻しや貼床の構築に伴って投棄されたと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から4世紀後葉に比定できる。



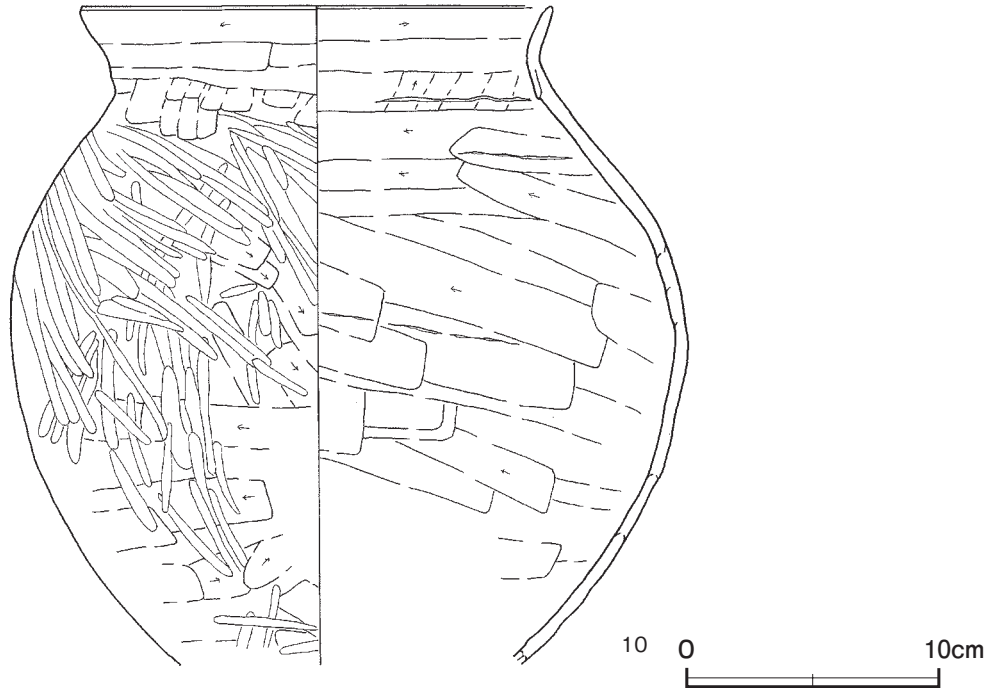
第 137 图 第 80 B 号竖穴建物迹实测图



第 138 図 第 80 B 号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)

第 80B 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 138・139 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	埴	-	(4.9)	2.8	長石・石英・雲母・ 針状物質	明赤褐	普通	体部外面縦位のナデ後中位横位の磨き、下端部 二方向の磨き、体部内面縦位のナデ後横・斜位 のナデ、底部二方向のナデ	覆土中	30%
2	土師器	埴	-	(3.7)	3.5	長石・石英・雲母・ 針状物質	にぶい黄褐	普通	体部外面斜位のナデ後下端部斜位の削り、内面斜位 のナデ、底部外面一方向のナデ	覆土中	10%



第 139 図 第 80 B号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
3	土師器	高坏	-	(13.3)	[18.8]	長石・石英・針状物質・赤色粒子	橙	普通	坏部外面縦・斜位のナデ後横位のナデ、内面斜位のナデ後二方向の磨き 脚部外面縦位のナデ横位のナデ、内面縦位のナデ後横・斜位のナデ	覆土上層 覆土下層	30% PL75
4	土師器	高坏	-	(11.6)	[16.2]	長石・石英・針状物質・赤色粒子	にぶい橙	普通	脚部外面縦位のナデ後下部横ナデ 脚部内面縦位のナデ後横位のナデ、下部横ナデ	覆土下層	40%
5	土師器	高坏	-	(10.0)	-	長石・石英・針状物質・赤色粒子	明赤褐	普通	坏部外面縦位のナデ後横位のナデ 坏部内面縦位のナデ 脚部外面縦位のナデ 脚部内面横位のナデ	覆土上層	40%
6	土師器	壺	-	(4.1)	-	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	頸部外面条数不明の縦位ハケ目調整 頸部内面横・斜位のハケ目調整後横位のナデ	覆土中	10%
7	土師器	壺	[15.8]	(8.5)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 頸・体部外・内面縦位のナデ後横・斜位のナデ	覆土下層	30% PL78 煤附着
8	土師器	小形甕	-	(12.7)	4.0	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	体部外面横・斜位の削り後二方向の磨き、下部縦位の削り 体部内面横・斜位のナデ、輪積裏 底部多方向の削り	覆土下層	80% PL80
9	土師器	甕	-	(22.5)	[8.6]	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい褐	普通	体部外面縦・斜位のナデ後下部横位のナデ 上位縦位の磨き、下位横位の磨き 体部内面縦位のナデ後横位のナデ	覆土下層	50% 煤附着
10	土師器	甕	18.7	26.1	-	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面横・斜位のナデ後二方向の磨き 体部内面上位縦位のナデ後横・斜位のナデ	覆土上層 覆土下層	50% PL80 煤附着

### 第 80C号竪穴建物跡 (第 140 ~ 143 図 PL16)

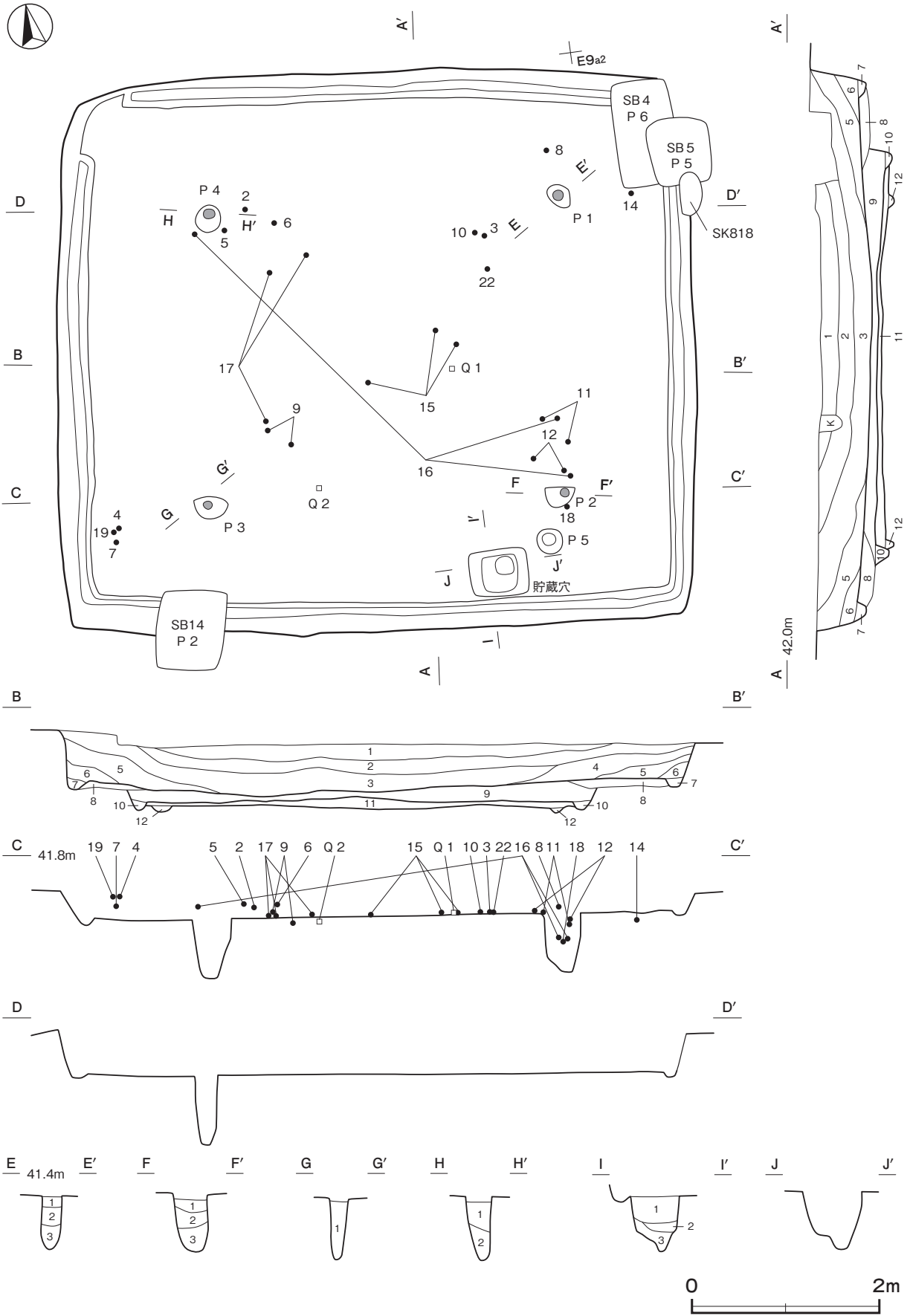
調査年度 平成 26 年度

位置 調査区東部の E 9 a1 区、標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第 80A・80B号竪穴建物跡を掘り込み、第 4・5・14号掘立柱建物、第 818号土坑に掘り込まれている。

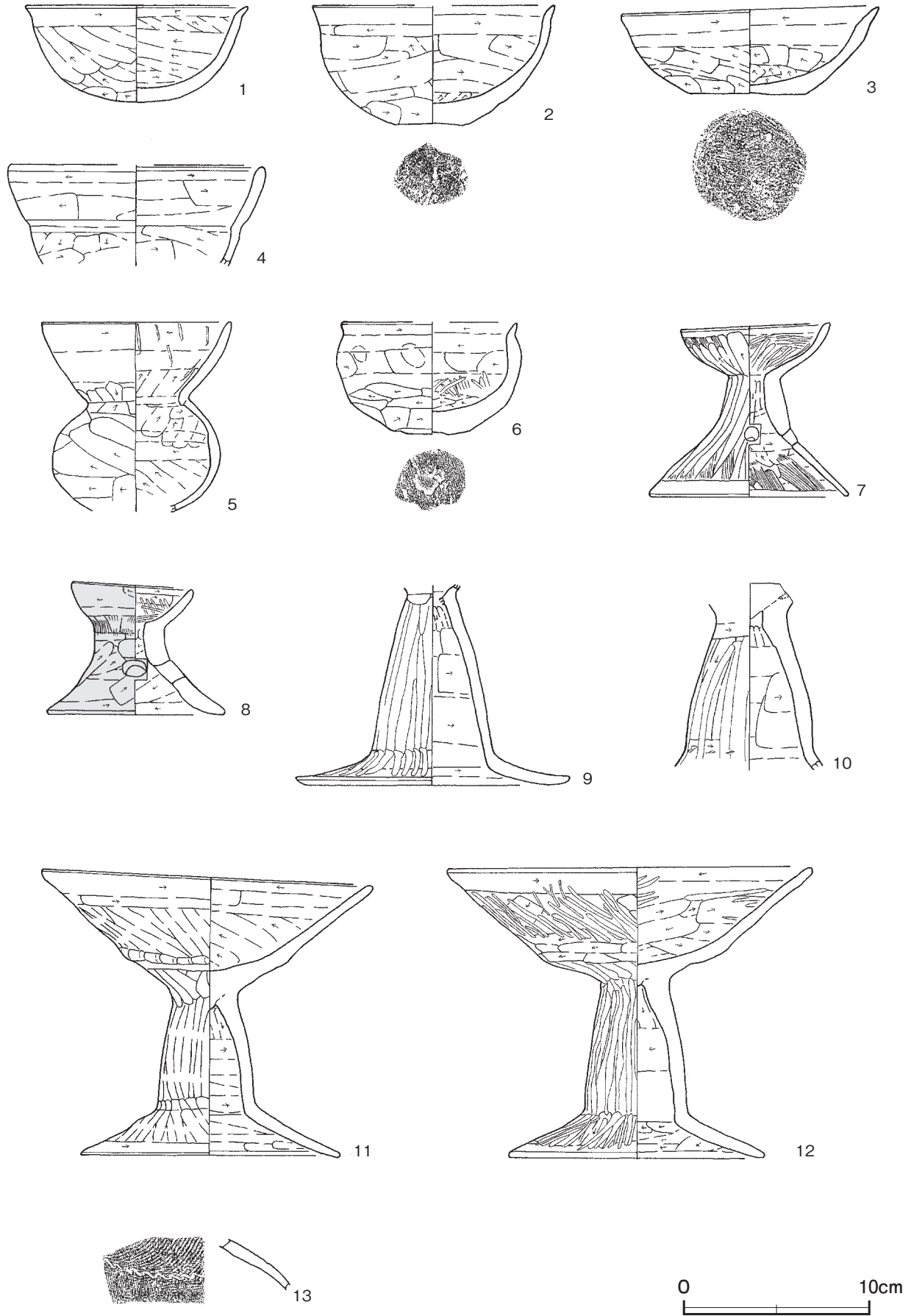
規模と形状 長軸 6.82 m、短軸 5.96 m の長方形で、主軸方向は N - 7° - E である。壁は高さ 35 ~ 50 cm で、ほぼ直立している。

床 締まりの弱い床で、中央部に向かって緩やかに下がっており、南東部は深く沈下している。貼床は、第 80B号竪穴建物跡の覆土である第 8・9層を 5 ~ 20 cm ほど埋め戻して構築されている。壁溝が、第 4・5・14号掘立柱竪穴建物に掘り込まれた部分及び北西隅部を除いて巡っている。

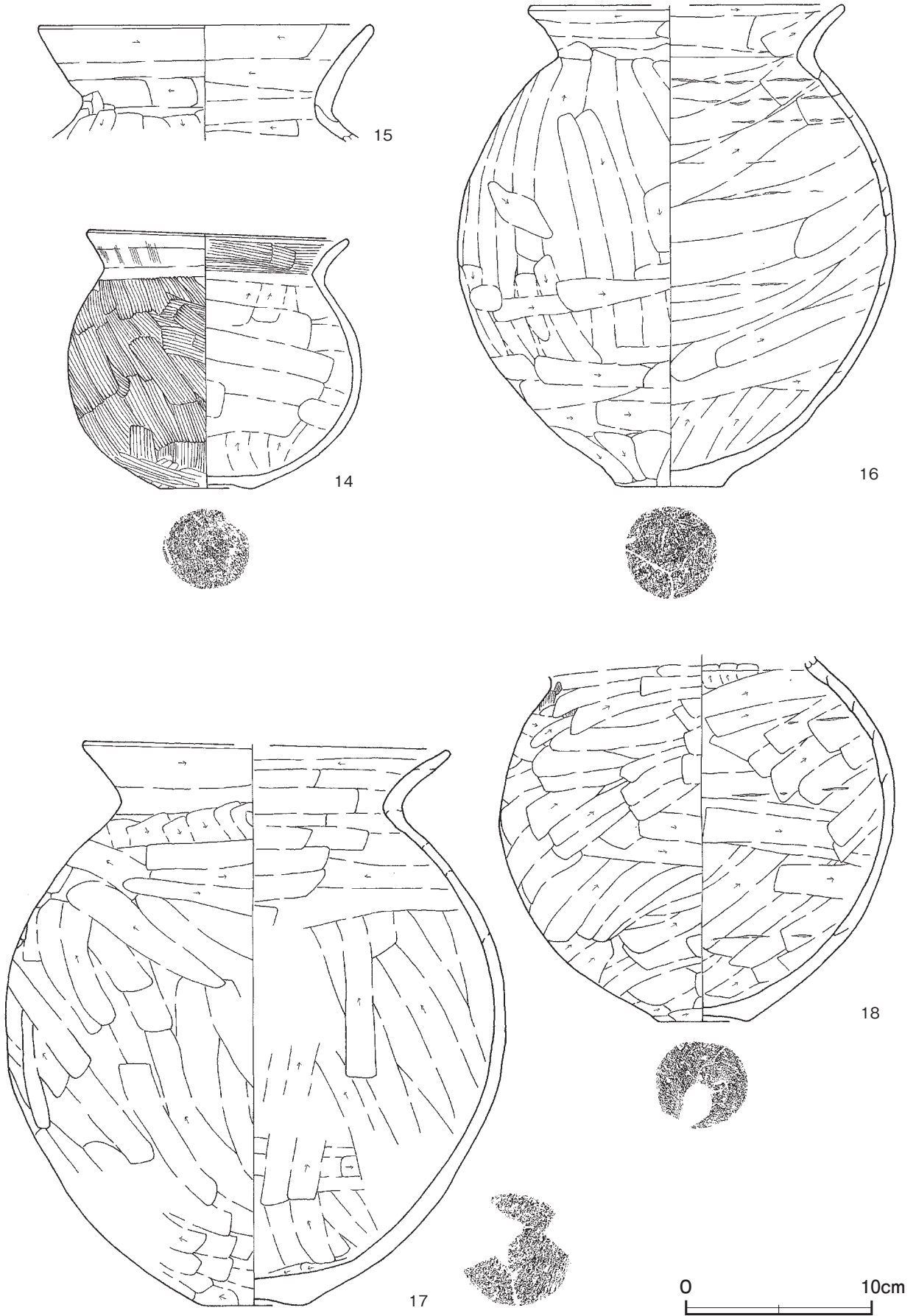


第 140 图 第 80C 号竖穴建物跡实测图





第 141 图 第 80C 号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 142 図 第 80C 号竖穴建物跡出土遺物実測図(2)

ピット 5か所。P 1～P 4は深さ 60～70cmで、配置から支柱穴である。第 1～3層は柱材を抜き取った後の覆土である。P 5の性格は不明である。P 1～P 4の底面で、柱の当たりを確認した。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- 1 におい黄褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量 3 灰黄褐色 ロームブロック少量  
2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

貯蔵穴 南東部に位置している。長軸 65cm, 短軸 50cmの長方形で、深さは 25cmである。底面は平坦で、北東部に径 15cm, 深さ 12cmのピットを有するが、性格は不明である。壁はほぼ直立している。3層に分層でき、ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 3 暗褐色 ロームブロック少量  
2 黒褐色 ロームブロック少量

覆土 7層に分層できる。第 4～7層はロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第 1～3層はレンズ状に堆積していることから、自然堆積である。第 8・9層は貼床の構築土である。第 10～12層は、第 80 A・80 B号竪穴建物の覆土及び貼床の構築土である。

土層解説

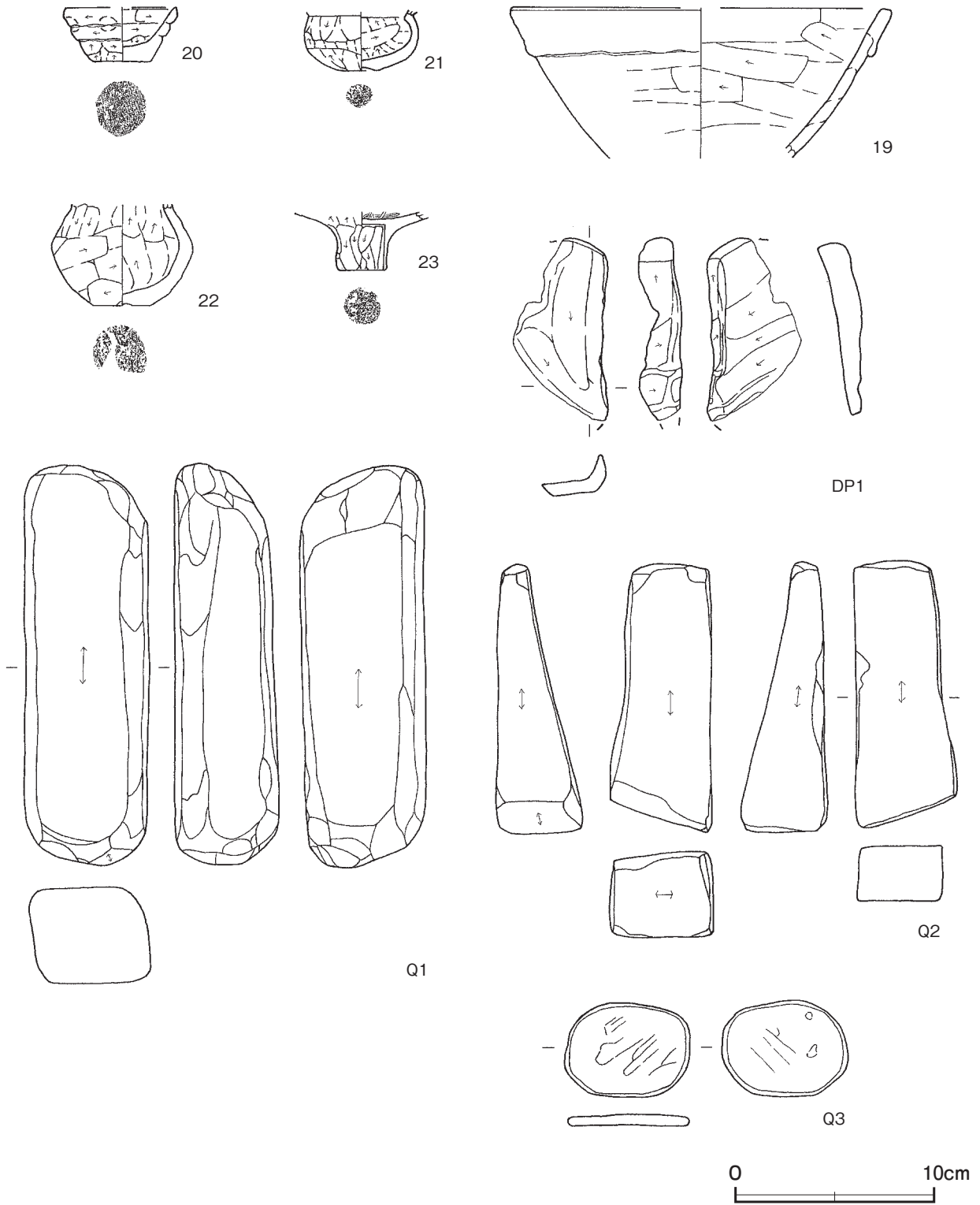
- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量 8 暗褐色 ロームブロック少量  
2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量 9 黒褐色 ロームブロック微量  
3 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子微量 10 褐色 ロームブロック少量  
5 褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量 11 暗褐色 ロームブロック中量  
6 黒褐色 ロームブロック少量, 白色粒子微量 12 黒褐色 ロームブロック少量  
7 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片 2,834点 (椀 15, 埴 371, 器台 6, 高坏 349, 壺類 1, 甕類 2,087, 甗<sub>カ</sub> 1, ミニチュア土器 4), 石器 2点 (砥石), 石製品 1点 (円盤状製品), 土製品 1点 (不明) のほか、縄文土器片 175点 (深鉢), 弥生土器片 43点 (壺類), 土師質土器片 1点 (鉢), 石器 1点 (石皿) が、全域に散在している。多くの土器は大型や中型の破片で、接合関係が良好であることから、埋め戻しに伴って一括で投棄されたと考えられる。

所見 時期は、出土土器から 5世紀前葉に比定できる。

第 80C 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 141～143 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	椀	12.0	5.0	-	長石・石英・雲母・針状物質	黄灰	普通	口縁部横ナデ 底部外面斜位のナデ後下部横位のナデ 内面縦位のナデ後横位のナデ 底面二方向のナデ	覆土中	60%
2	土師器	椀	[13.2]	6.3	4.2	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位のナデ後横・斜位のナデ 下部縦位のナデ 内面横・斜位のナデ 底部外面二方向のナデ 内面一方向のナデ	覆土中層	70% PL70
3	土師器	椀	13.9	4.7	6.2	長石・石英・雲母・針状物質	におい黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面斜位のナデ後下部横・斜位のナデ 内面縦位のナデ後横・斜位のナデ 底部多方向のナデ	覆土下層	80%
4	土師器	埴	[13.6]	(5.4)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位のナデ後横位のナデ 内面横・斜位のナデ	覆土上層	10%
5	土師器	埴	10.1	(10.2)	-	長石・石英・雲母・針状物質	におい橙	普通	口縁部外面横ナデ後縦位のナデ 内面縦位のナデ後横ナデ 体部外面縦・斜位のナデ 内面縦位のナデ後横・斜位のナデ	覆土上層	70% PL73
6	土師器	埴	[9.5]	6.1	4.0	長石・石英・雲母・針状物質	におい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面横位のナデ後中位以下横位のナデ 指頭痕, 内面横位のナデ後二方向の磨き 底部外面二方向のナデ 内面螺旋状のナデ	覆土中層	60% PL71 煤付着
7	土師器	器台	8.0	9.4	10.6	長石・石英・雲母・針状物質	におい橙	普通	坏部・脚部外面縦位のハケ目調整後ナデ消し, 坏部内面二方向の磨き, 底部穿孔 脚部内面縦位のナデ後ハケ目調整, 横位のナデ 穿孔3か所	覆土中層	80% PL74
8	土師器	器台	6.5	7.1	9.4	長石・石英・雲母・針状物質	浅黄橙	普通	坏部外・内面横ナデ 内面二方向の磨き 底部の穿孔 脚部外面縦位のハケ目調整後ナデ消し, 内面縦位のナデ後横位のナデ 穿孔3か所 外面赤彩	覆土中層	90% PL74
9	土師器	高坏	-	(10.8)	[14.8]	長石・石英・雲母・赤色粒子	におい橙	普通	脚部外面下部横ナデ後縦位の磨き 脚部内面縦位のナデ後横位のナデ	覆土下層	30% 煤付着
10	土師器	高坏	-	(10.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	におい橙	普通	脚部外面縦位のナデ後横位のナデ 後縦位の磨き 脚部内面縦位のナデ後横位のナデ	覆土下層	40%
11	土師器	高坏	17.6	15.4	14.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	坏部外・内面横ナデ 脚部外面縦位のナデ後下部横ナデ 内面縦位のナデ後横位のナデ	覆土下層	90% PL75 煤付着
12	土師器	高坏	19.5	15.7	13.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	坏部外・内面横ナデ 外面斜位の磨き, 内面横位の磨き 脚部外面下部横ナデ後縦位の磨き, 内面縦位のナデ後横・斜位のナデ	P 6 覆土中	70% PL75 煤付着
13	土師器	壺	-	-	-	長石・石英・雲母・針状物質	におい黄橙	普通	体部外面 LR 単節縄文 S 状結節, 下半部赤彩	覆土中	PL88
14	土師器	小形甕	13.9	14.0	5.0	長石・石英・雲母・針状物質	におい橙	普通	口縁部外面ハケ目調整ナデ消し, 内面横位のハケ目調整 体部外面斜位のハケ目調整後下部二方向の磨き, 内面縦位のナデ後横位のナデ 底部一方向のナデ	貼床構築土	90% PL81 煤付着



第 143 図 第 80C 号 竪穴建物跡出土遺物実測図(3)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
15	土師器	甕	[17.8]	(6.2)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面斜位の削り, 内面横位のナデ	覆土下層	10% 煤附着
16	土師器	甕	[16.1]	26.1	5.5	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位のナデ後中位以下横位のナデ, 下端部縦位の削り, 内面縦位のナデ後横・斜位のナデ 底部多方向のナデ	覆土上・下層中 P 6 覆土中	70% PL81 煤附着
17	土師器	甕	[19.4]	30.4	5.4	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位のナデ後横・斜位のナデ, 内面横位のナデ後縦・斜位のナデ, 上位横位のナデ 底部多方向のナデ	覆土下層	50% PL81 煤附着

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
18	土師器	甕	-	(19.8)	5.0	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	体部外面ハケ目調整後横・斜位のナデ、下端部横位の削り、内面上位縦位のナデ後横・斜位のナデ、底部多方向のナデ	P 6 覆土中	80% PL81 煤付着
19	土師器	甕	[19.0]	(7.5)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ、外面劣化のため詳細不明 体部外・内面横・斜位のナデ	覆土上層	10%
20	土師器	ミニチュア土器	[5.6]	2.8	3.0	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	口縁部横ナデ、指頭痕、輪積痕 体部外面縦位のナデ、内面横位のナデ、底部外面一方向のナデ、内面螺旋状のナデ	覆土中	70% PL85
21	土師器	ミニチュア土器	-	(3.0)	1.8	長石・石英・針状物質・赤色粒子	橙	普通	体部外面縦位のナデ、内面縦位のナデ後横位のナデ、底部多方向のナデ	覆土中	50% PL85
22	土師器	ミニチュア土器	-	(5.1)	2.9	長石・石英・雲母・針状物質	明褐	普通	体部外面縦位のナデ後横・斜位のナデ、下端部斜位の削り、内面縦位のナデ、底部二方向のナデ	覆土下層	40%
23	土師器	ミニチュア土器	-	(3.0)	2.3	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい黄橙	普通	坏部外面縦位の削り、坏部内面二方向の磨き、脚部外面縦位の削り、底部二方向のナデ	覆土中	40% PL85

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	不明	(9.3)	(4.8)	(2.2)	(41.57)	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい黄橙	上部欠損 側面3面欠損 下面外面一方向のナデ、下面内面二方向のナデ、側面外面二方向のナデ、側面内面劣化のため詳細不明	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	砥石	20.2	6.3	5.2	1,295	砂岩	砥面2面	覆土下層	
Q 2	砥石	13.5	5.1	4.4	373.34	凝灰岩	砥面5面	覆土下層	PL104
Q 3	円盤状製品	4.8	6.3	0.5	41.08	緑色変成岩	上・下面平滑 側面劣化のため詳細不明 有孔円盤の未成品。	覆土中	

## 第 82 号竪穴建物跡 (第 144・145 図 PL17)

調査年度 平成 26 年度

位置 調査区東部の D 9 i l 区、標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第 4・7・11・12・16 号掘立柱建物、第 338・816 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 5.00 m、短軸 4.28 m の長方形で、主軸方向は N - 27° - E である。壁は高さ 13 ~ 34 cm で、ほぼ直立している。

床 平坦で、炉を除く中央部が踏み固められている。壁溝が、全周している。

炉 中央部の北寄りに付設されている。長径 65 cm、短径 40 cm の楕円形の地床炉である。深さ 10 cm ほど掘りくぼめ、炉床が構築されている。炉床面は地山で、火熱を受けて赤変硬化している。覆土は単一層で、ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

### 炉土層解説

1 にぶい赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量

ピット 2 か所。P 1・P 2 は深さ 40 cm・30 cm で、配置から主柱穴である。P 1・P 2 の底面で、柱の当たりを確認した。

覆土 4 層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

### 土層解説

1 褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量

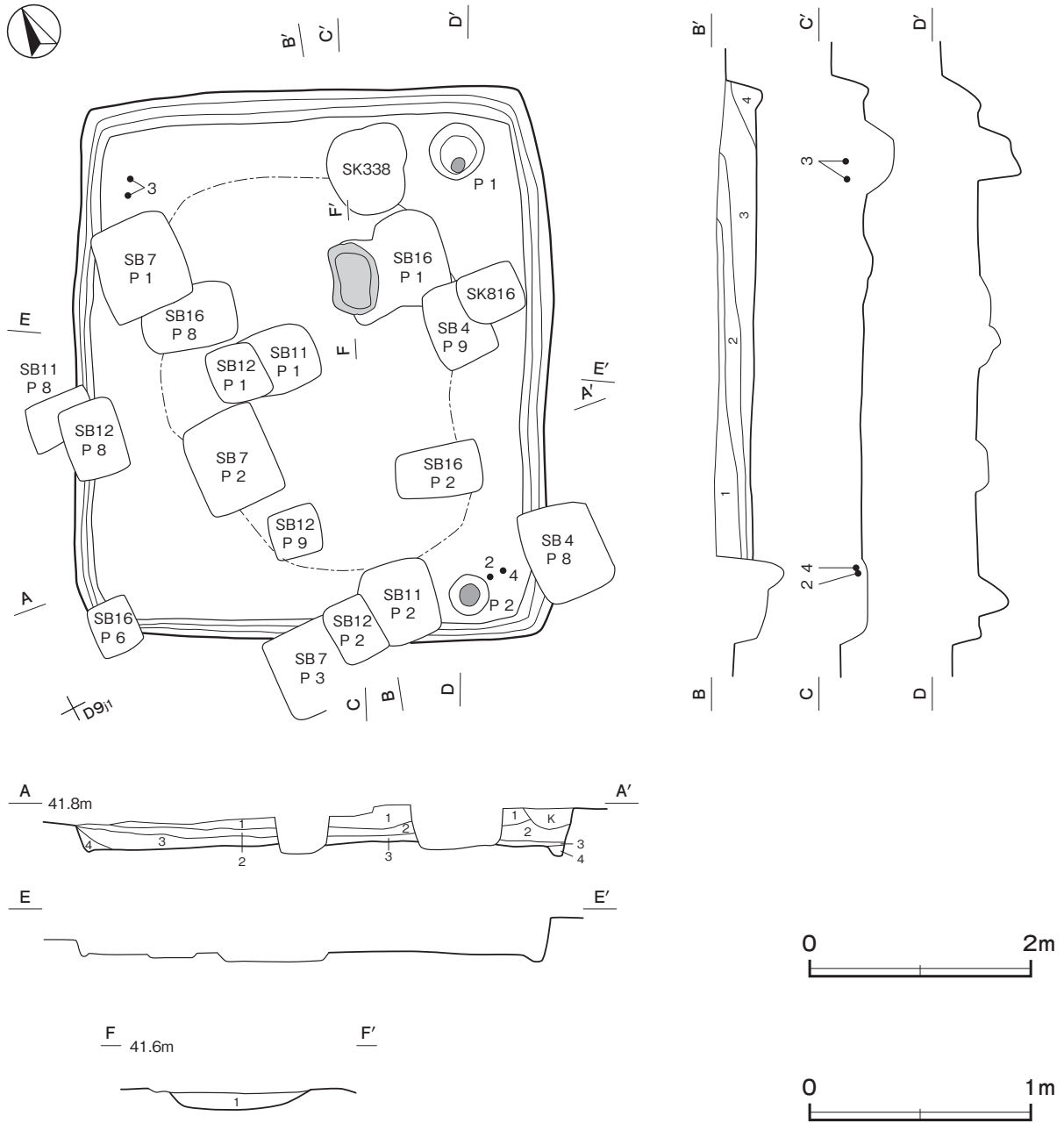
3 褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化物微量

2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量

4 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片 72 点 (埴 6, 壺類 1, 甕類 65), 土製品 1 点 (不明) のほか、縄文土器片 40 点 (深鉢), 弥生土器片 11 点 (壺類), 須恵器片 1 点 (盤), 陶器片 1 点 (碗) が、主に壁際から出土している。多くの土器は中型の破片や小片で、接合関係に乏しいことから、埋没の過程で投棄されたと考えられる。

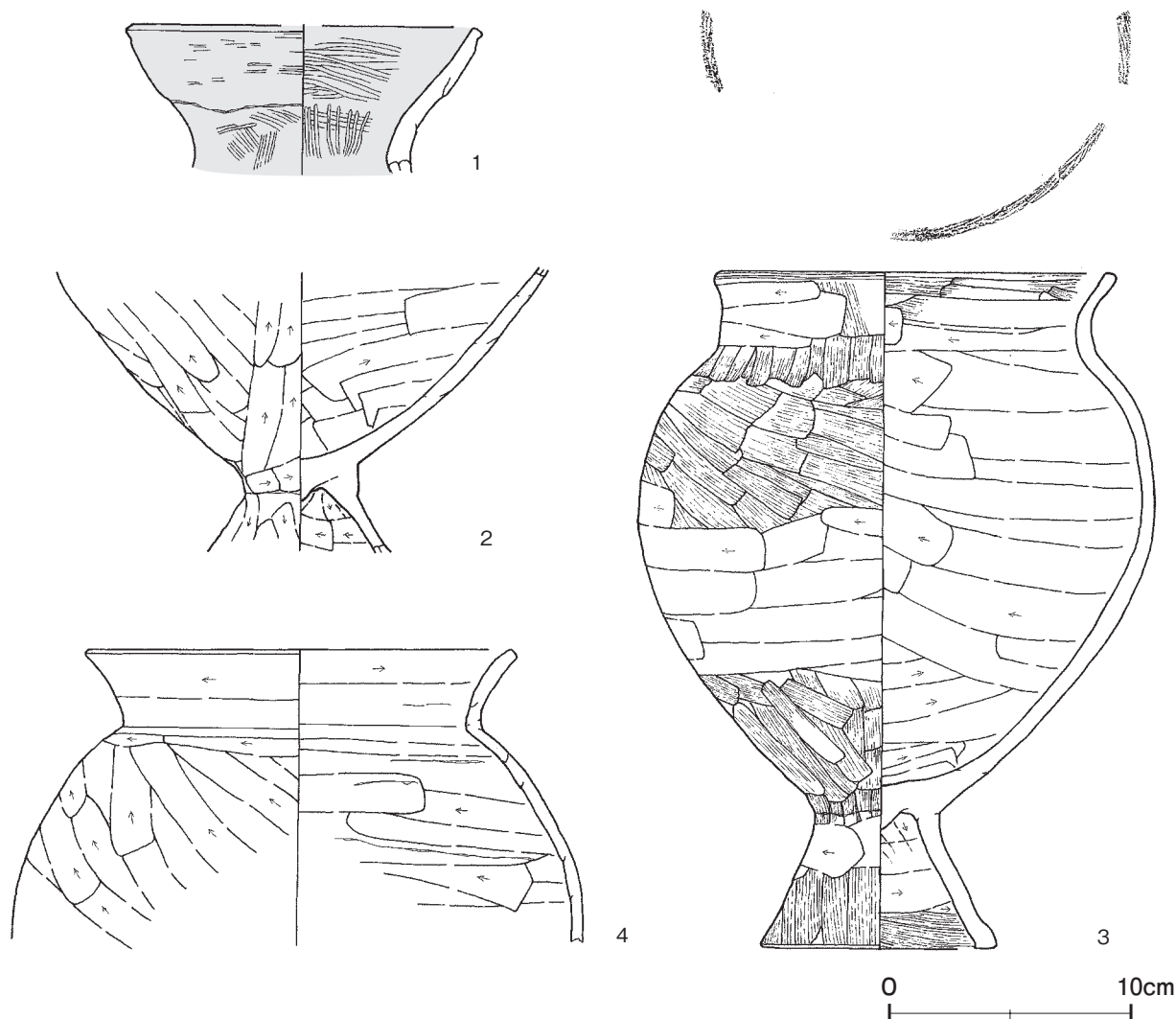
所見 時期は、出土土器から 4 世紀中葉に比定できる。主柱穴は P 1・P 2 しか確認できなかったが、対応する主柱穴が西壁際に存在したものと推定できる。



第144図 第82号竖穴建物跡実測図

第82号竖穴建物跡出土遺物観察表 (第145図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	壺	[14.0]	(6.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外面横位の磨き、内面横・斜位の磨き 頸部外面横・斜位の磨き、内面ハケ目調整後ナデ消し、縦位の磨き、赤彩	覆土中	10%
2	土師器	台付甕	-	(11.7)	-	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	体部外面縦・斜位のナデ、下端部横位のナデ、 内面横位のナデ、台部外面縦位のナデ、内面縦位のナデ後横位のナデ	覆土下層	30% PL76
3	土師器	台付甕	16.7	28.0	9.6	長石・石英・針状物質・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外・内面ハケ目調整後ナデ消し、体部外面縦・斜位のハケ目調整後ナデ消し、内面横・斜位のナデ、台部外・内面ハケ目調整後ナデ消し	覆土中層	70% PL79 煤付着
4	土師器	甕	17.3	(12.1)	-	長石・石英・雲母・針状物質	灰褐	普通	口縁部横ナデ、体部外面斜位のナデ後上位横位のナデ、体部内面横・斜位のナデ	覆土下層	40% 煤付着



第 145 図 第 82 号竪穴建物跡出土遺物実測図

**第 83 号竪穴建物跡** (第 146・147 図)

**調査年度** 平成 26 年度

**位置** 調査区東部の D 8 g8 区, 標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

**重複関係** 第 87 号竪穴建物跡を掘り込み, 第 68 号竪穴建物, 第 806 号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 北部が調査区域外に延びていることから, 東西軸は 5.00 m で, 南北軸は 4.02 m しか確認できなかった。方形もしくは長方形と推定できる。主軸方向は N - 15° - W である。壁は高さ 40 ~ 50cm で, ほぼ直立している。

**床** 平坦な貼床で, 調査区域外の北部, 第 68 号竪穴建物に掘り込まれた部分, 貯蔵穴の周辺, 南西隅部壁際を除いて, 踏み固められている。貼床は, 第 8 層を 10 ~ 15cm ほど埋め戻して構築されている。掘方は, 平坦である。壁溝が, 調査区域外及び南東隅部除いて巡っている。

**ピット** 3 か所。P 1・P 2 は深さ 50cm・65cm で, 配置から支柱穴である。P 3 は深さ 20cm で, 配置から出入り口施設に伴うピットである。第 1 ~ 3 層は, 柱材を抜き取った後の覆土である。P 1 ~ P 2 の底面で, 柱の当たりを確認した。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- 1 灰黄褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

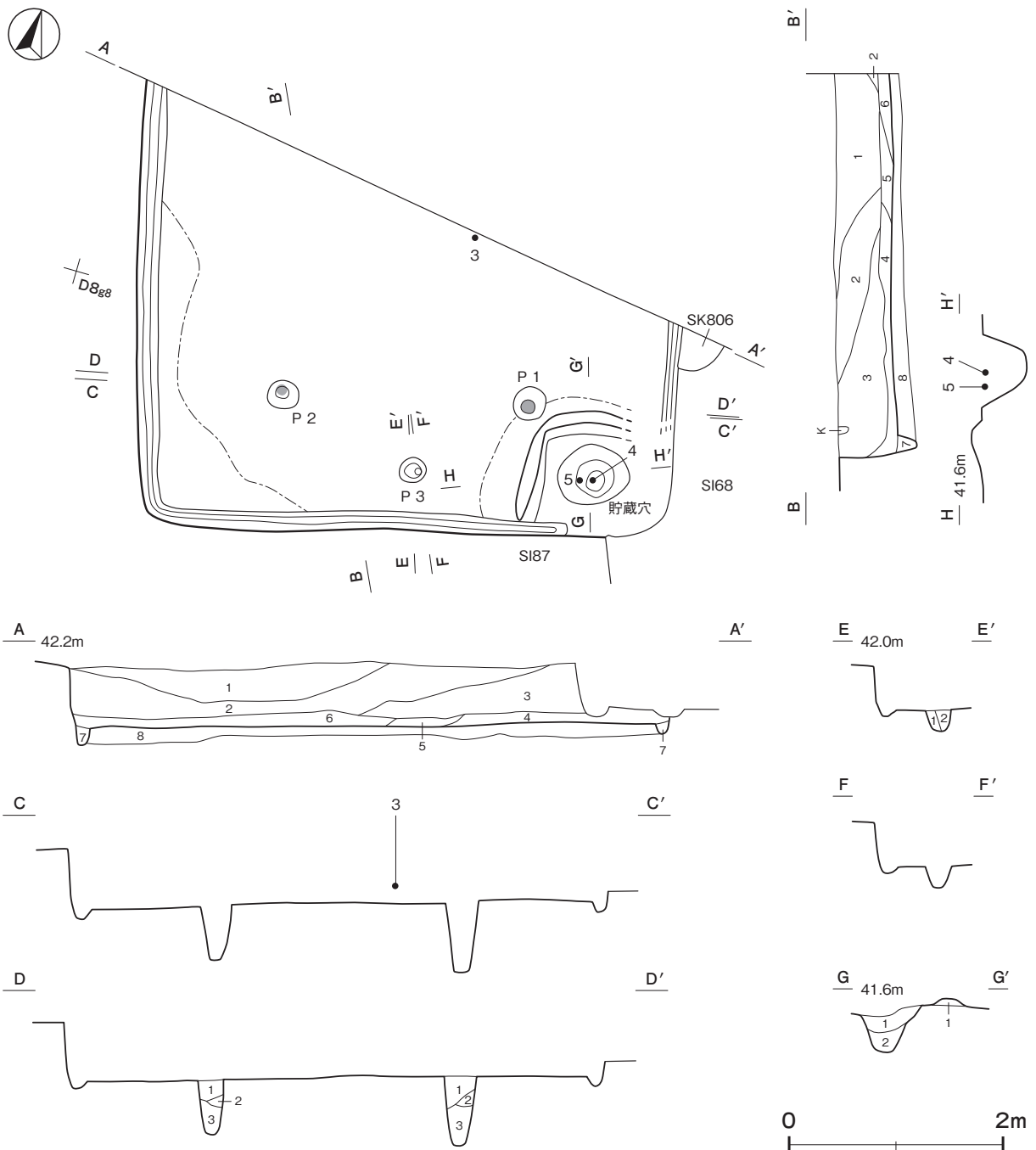
- 3 にぶい黄褐色 ロームブロック少量

**貯蔵穴** 南東部に位置している。径 60cm の円形で、深さは 40cm である。底面は皿状で、壁は外傾している。2 層に分層でき、ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。貯蔵穴の北辺及び西辺に L 字状の周堤を構築している。第 68 号竪穴建物に掘り込まれていることから、南北の長さは 90cm で、東西の長さは 80cm しか確認できなかった。上幅 8~16cm、下幅 35~60cm、高さ 10cm ほどで、断面形は不整な台形である。

貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量

- 2 灰黄褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量



第 146 図 第 83 号竪穴建物跡実測図



周堤土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量

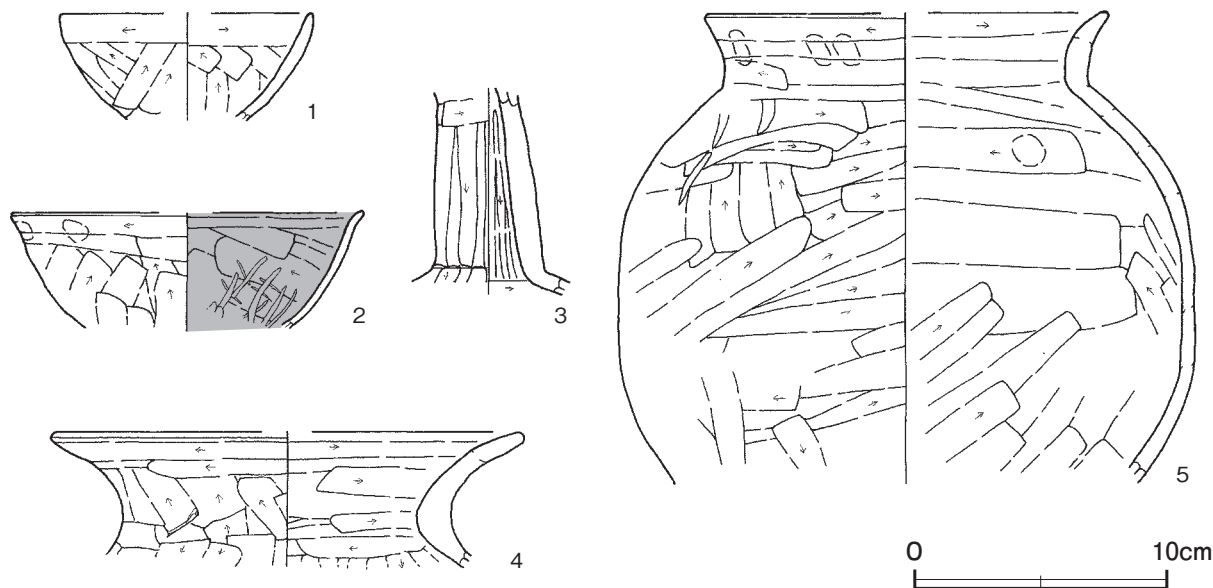
覆土 7層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第8層は貼床の構築土である。

土層解説

- |       |                        |          |                        |
|-------|------------------------|----------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量  | 5 におい黄褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量         | 6 におい黄褐色 | ロームブロック中量              |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色    | ロームブロック微量              |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 8 黄褐色    | ロームブロック中量              |

遺物出土状況 土師器片 139点(椀2, 卍4, 器台1, 高坏19, 鉢9, 甕類104)のほか、縄文土器片66点(深鉢), 弥生土器片4点(壺類)が、主に西壁際や貯蔵穴から出土している。多くの土器は小片で、接合関係に乏しいことから、破損したものが廃絶に伴って投棄されたと考えられる。3は、第86号竪穴建物跡からの混入と思われる。

所見 時期は、出土土器から5世紀前葉に比定できる。



第147図 第83号竪穴建物跡出土遺物実測図

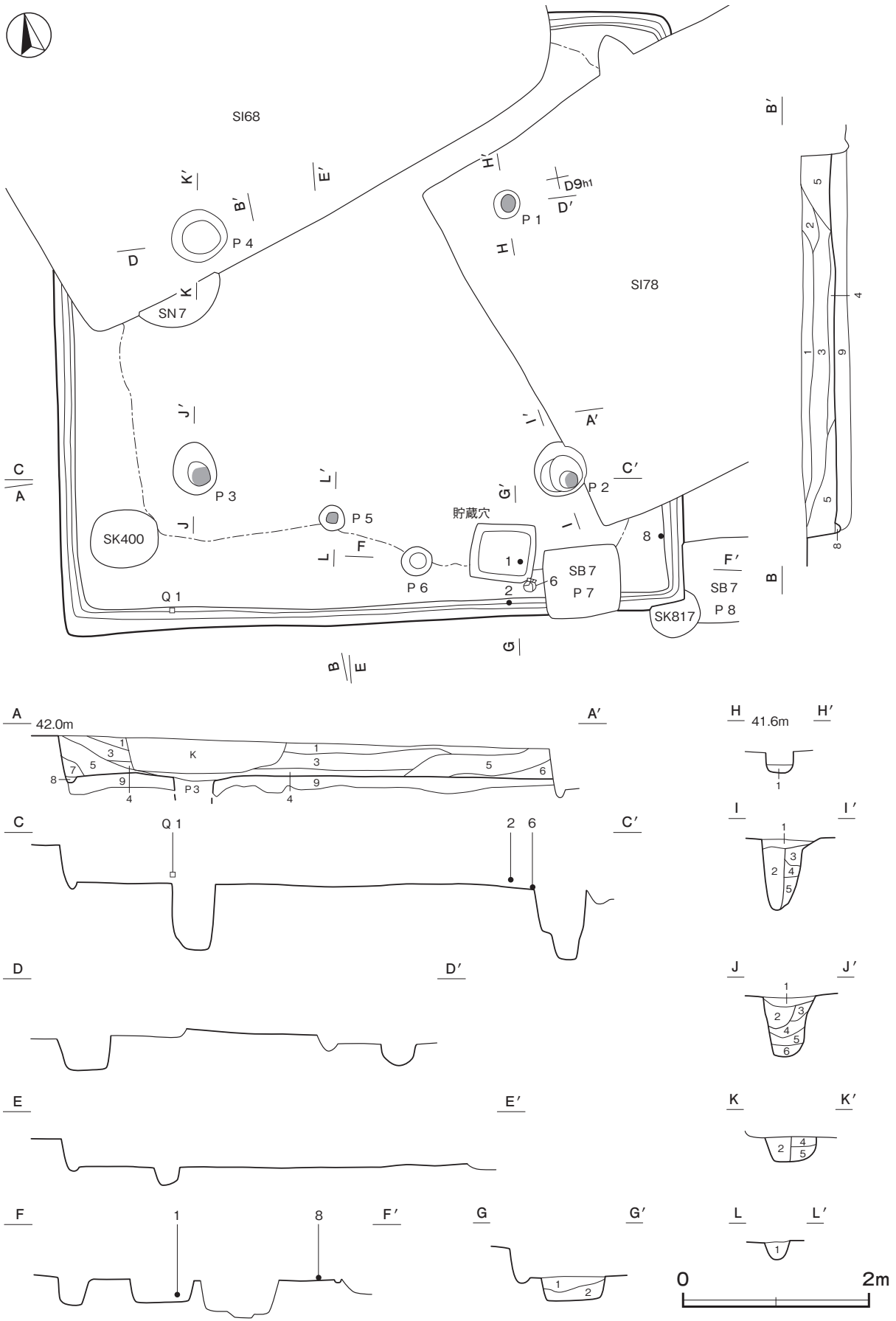
第83号竪穴建物跡出土遺物観察表(第147図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	椀	[9.8]	(4.3)	-	長石・石英・雲母・針状物質	におい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面斜位のナデ 体部内面縦位のナデ後斜位のナデ	覆土中	10%
2	土師器	椀	[14.4]	(4.6)	-	長石・石英・雲母・針状物質	におい褐	普通	口縁部横ナデ, 指頭痕 体部外面斜位のナデ 体部内面斜位のナデ後二方向の磨き 内面黒色処理	覆土中	10%
3	土師器	高坏	-	(8.1)	-	長石・石英・雲母・針状物質	におい橙	普通	脚部外面縦位の削り後上位横位のナデ 脚部内面縦位のナデ後横位のナデ	覆土中層	10%
4	土師器	甕	[18.6]	(5.3)	-	長石・石英・針状物質・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦・斜位のナデ 体部内面縦位のナデ後横位のナデ	貯蔵穴覆土上層	10% 煤付着
5	土師器	甕	[15.5]	(18.0)	-	長石・石英・雲母・針状物質	褐 灰	普通	口縁部横ナデ, 外面指頭痕 体部外面縦・斜位のナデ 体部内面横位のナデ後斜位のナデ	貯蔵穴覆土上層	40% 煤付着

第84号竪穴建物跡(第148・149図 PL17)

調査年度 平成26年度

位置 調査区東部のD8h0区, 標高42mほどの台地平坦面に位置している。

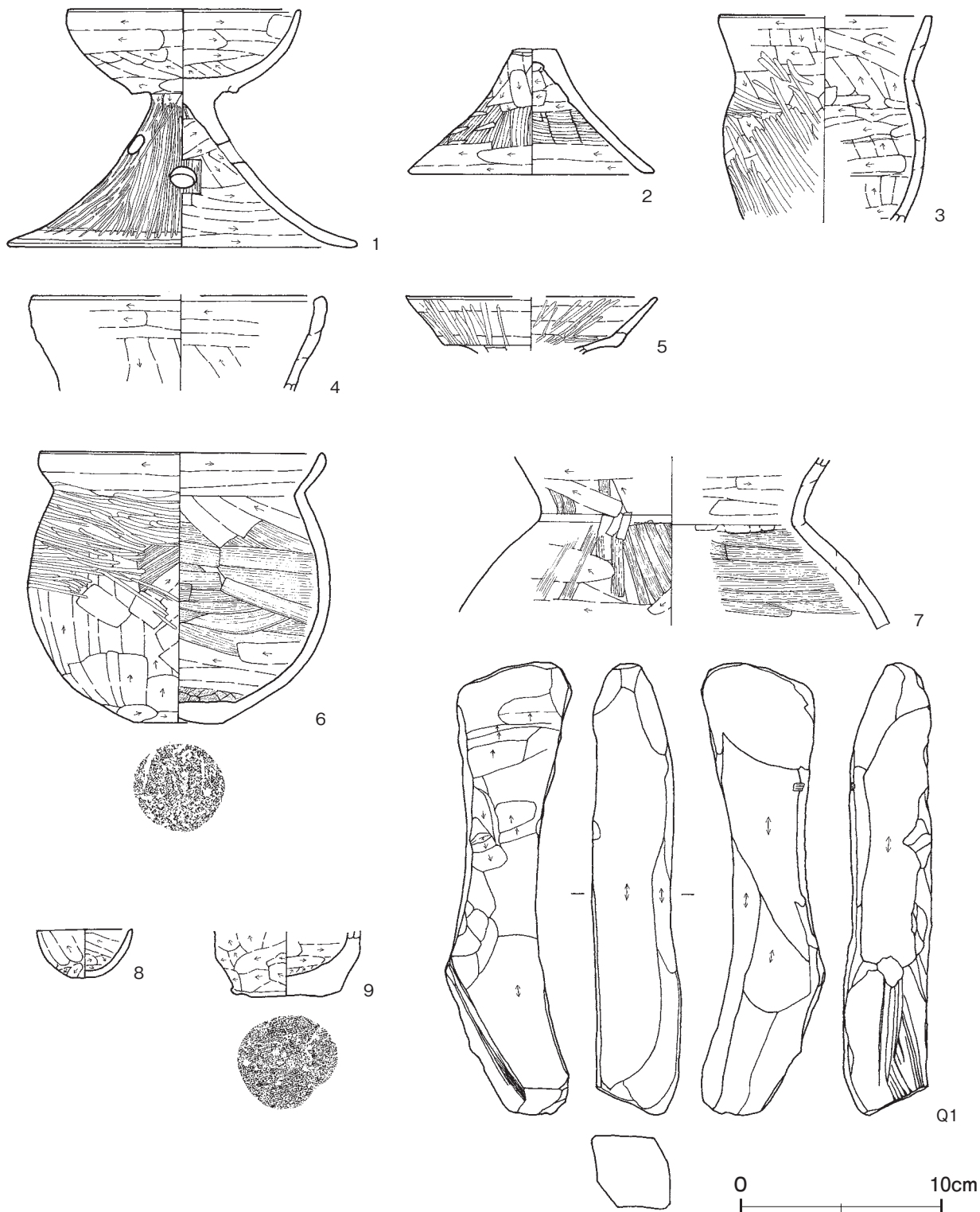


第 148 图 第 84 号竖穴建物迹实测图

**重複関係** 第68・78号竪穴建物, 第7号掘立柱建物, 第7号粘土貼土坑, 第400・817号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸6.70m, 短軸6.40mの方形で, 主軸方向はN-10°-Eである。壁は高さ32~38cmで, ほぼ直立している。

**床** 平坦な貼床で, 中央部が踏み固められている。貼床は, 第9層を10~15cmほど埋め戻して構築されている。掘方は, 平坦である。壁溝が, ほぼ全周している。



第149図 第84号竪穴建物跡出土遺物実測図

ピット 6か所。P1～P4は深さ20～80cmで、配置から支柱穴である。P5は深さ25cmで、配置から出入口施設に伴うピットである。P6は深さ20cmで、性格は不明である。第5・6層が埋土、第2～4層が柱材を抜き取った後の覆土、第1層が流入土である。P1～P3・P5の底面で、柱の当たりを確認した。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- |                        |                 |
|------------------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子微量          | 4 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 5 褐灰色 ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量        | 6 褐灰色 ロームブロック少量 |

貯蔵穴 南壁下に位置している。一辺60cmの方形で、深さは25cmである。底面は平坦で、壁はほぼ直立している。2層に分層でき、ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

貯蔵穴土層解説

- |                      |                             |
|----------------------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 | 2 にぶい黄褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック微量 |
|----------------------|-----------------------------|

覆土 8層に分層できる。ロームブロックが含まれる不規則な堆積をしていることから、埋め戻されている。第9層は貼床の構築土である。

土層解説

- |                           |                              |
|---------------------------|------------------------------|
| 1 褐灰色 ロームブロック微量           | 6 灰黄褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 灰黄褐色 ロームブロック微量          | 7 にぶい黄褐色 ロームブロック中量           |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量           | 8 黒褐色 ロームブロック中量              |
| 4 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 9 明黄褐色 ロームブロック少量             |
| 5 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量  |                              |

遺物出土状況 土師器片130点(埴14,高坏7,壺類3,甕類104,ミニチュア土器2),石器1点(砥石)のほか、縄文土器片66点(深鉢,弥生土器片7点(壺類),陶器片1点(碗))が、主に壁際や貯蔵穴から出土している。多くの土器は中型の破片や小片で、接合関係に乏しいことから、破損したものが廃絶に伴って投棄されたと考えられる。1・6は貯蔵穴やその周辺から良好な遺存状態で出土していることから、廃絶に伴って遺棄されたと考えられる。

所見 時期は、出土土器から4世紀中葉に比定できる。

第84号堅穴建物跡出土遺物観察表(第149図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	高坏	11.4	11.8	17.2	長石・石英・雲母・針状物質	浅黄橙	普通	坏部外面斜位のナデ後下部横位のナデ、内面横位のナデ、脚部外面縦位の磨き、内面縦位のナデ後横・斜位のナデ 穿孔6か所	貯蔵穴 覆土上層	90% PL75
2	土師器	高坏	-	(6.2)	12.0	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	脚部外面縦位のハケ目調整後上位縦・斜位の削り、下位横位のナデ、内面横位のハケ目調整後ナデ消し、下部部外・内面横ナデ	覆土中層	40% PL76
3	土師器	広口壺	[10.6]	(10.2)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位のナデ後横位のナデ、中位以下斜位の削り後二方向の磨き、内面縦位のナデ後横・斜位のナデ、輪積痕	覆土中	20% 煤付着
4	土師器	広口壺	[14.4]	(4.7)	-	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	口縁部外・内面斜位のナデ後横ナデ	覆土中	10%
5	土師器	小形壺	[12.2]	(2.7)	-	長石・石英・雲母・針状物質	明赤褐	普通	口縁部横ナデ後縦位の磨き 頸部外面縦位のナデ、内面一方向の磨き	覆土中	10%
6	土師器	小形甕	13.9	13.5	4.4	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面斜位のハケ目調整後ナデ消し 上位斜位の磨き、内面横・斜位のハケ目調整後ナデ消し 底部外面縁辺に沿った削り	覆土下層	90% 煤付着
7	土師器	甕	-	(2.0)	3.6	長石・石英	橙	普通	体部下端部斜位の削り 体部内面斜位のナデ 底部外・内面一方向のナデ	覆土中	10%
8	土師器	ミニチュア土器	4.9	2.9	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外・内面斜位のナデ 底部外・内面一方向のナデ	覆土下層	50%
9	土師器	ミニチュア土器	-	(3.3)	5.1	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐	普通	体部外面縦・斜位のナデ後下部横位のナデ 体部内面横位のナデ 底部外・内面一方向のナデ	覆土中	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	砥石	22.4	4.4	6.2	675.16	凝灰岩	砥面4面 左側面削り痕 下面線刻状の研線	覆土中	PL104

**第 85 号 竪穴建物跡** (第 150・151 図 PL20)

**調査年度** 平成 26 年度

**位置** 調査区東部の D 8j9 区, 標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

**重複関係** 第 86 号 竪穴建物跡を掘り込み, 第 8・9・11～14 号 粘土貼土坑, 第 351～353 号 土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸 4.66 m, 短軸 4.52 m の方形で, 主軸方向は N - 60° - E である。壁は高さ 35～40cm で, ほぼ直立している。

**床** 平坦な貼床で, 全面が踏み固められている。貼床は, 第 7 層を 5～10cm ほど埋め戻して構築されている。掘方は, 平坦である。壁溝が, 全周している。

**竈** 北東壁中央部の南東寄りに付設されている。焚口部から煙道部までは, 煙道部に攪乱を受けているものの, 120cm と推定できる。燃焼部の幅は 50cm である。燃焼部は床面から 5cm ほど掘りくぼめられ, 第 5 層で埋め戻されている。袖部は, 床面に第 4 層を積み上げて構築されている。火床面は第 5 層の上面で, 火熱を受けて赤変硬化している。Q 1 は下端部が第 5 層上面に据え置かれていることから, 支脚として用いられている。煙道部は壁外に 50cm ほど掘り込まれ, 床面から外傾している。第 1～3 層には, ロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから, 壊されている。

**竈土層解説**

- |          |                     |        |                                    |
|----------|---------------------|--------|------------------------------------|
| 1 黒褐色    | 焼土ブロック・粘土ブロック少量     | 4 褐色   | 粘土ブロック少量, ロームブロック微量                |
| 2 暗褐色    | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 5 暗赤褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・粘土ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 にぶい黄褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック少量     |        |                                    |

**ピット** 6 か所。P 1～P 4 は深さ 50～70cm で, 配置から主柱穴である。第 4・5 層は埋土, 第 3 層は柱痕跡, 第 1・2 層は柱材を抜き取った後の覆土である。P 5 は深さ 20cm で, 出入り口施設に伴うピットである。P 6 は深さ 30cm で, 性格は不明である。P 1～P 5 の底面で, 柱の当たりを確認した。

**ピット土層解説 (各ピット共通)**

- |          |                         |       |           |
|----------|-------------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色    | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量 | 4 褐色  | ロームブロック中量 |
| 4 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量               | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色    | ローム粒子少量                 |       |           |

**覆土** 6 層に分層できる。ロームブロックが含まれる不規則な堆積をしていることから, 埋め戻されている。第 7 層は貼床の構築土である。

**土層解説**

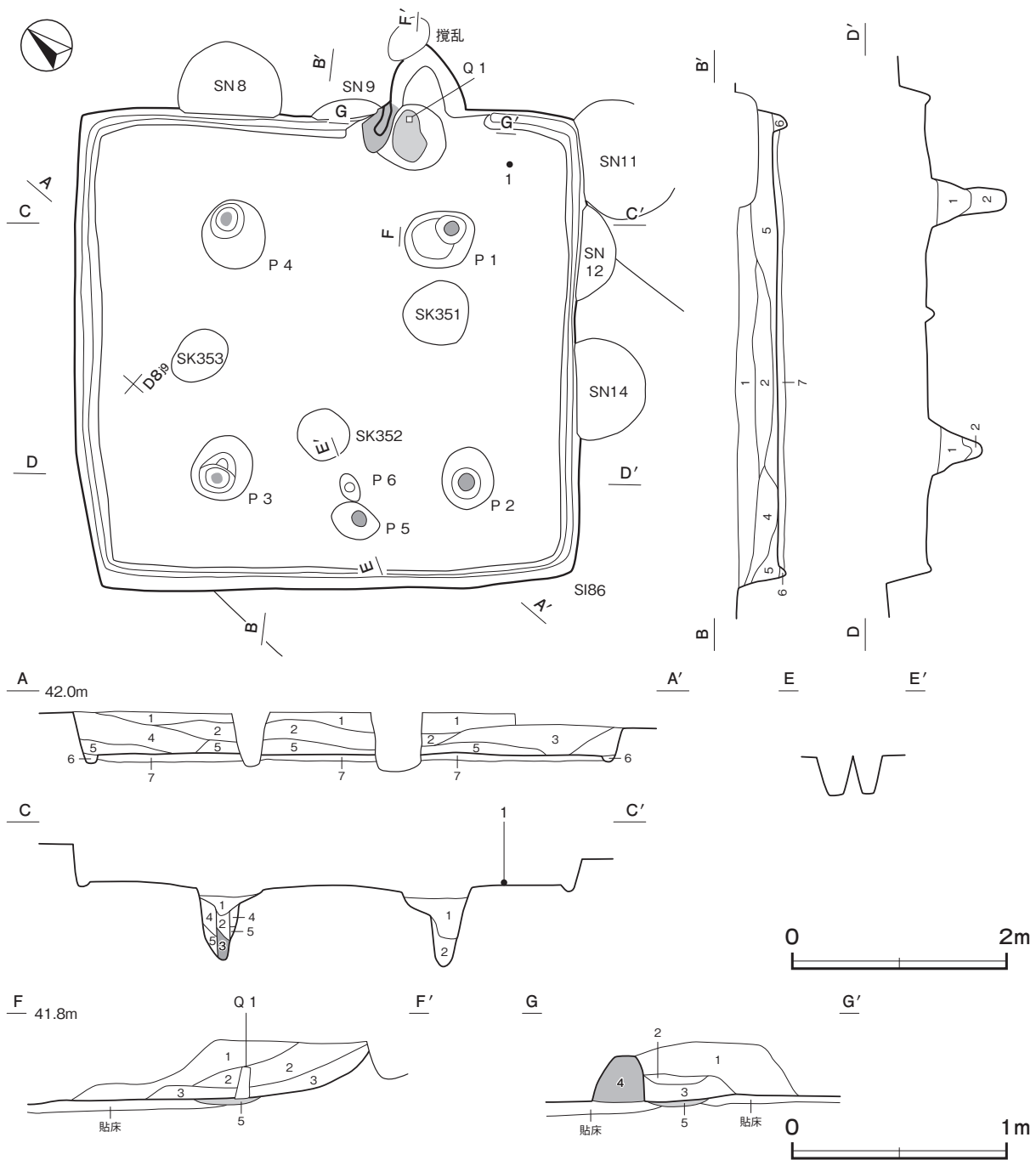
- |       |                  |          |           |
|-------|------------------|----------|-----------|
| 1 褐灰色 | ロームブロック・焼土粒子微量   | 5 黒褐色    | ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量        | 6 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 | 7 黒褐色    | ロームブロック少量 |
| 4 黒色  | ロームブロック少量        |          |           |

**遺物出土状況** 土師器片 194 点 (坏 17, 椀 2, 高坏 4, 鉢 1, 甕類 169, ミニチュア土器 1), 須恵器片 2 点 (坏, 甕), 石製品 2 点 (支脚, 竈材) のほか, 縄文土器片 36 点 (深鉢), 弥生土器片 4 点 (壺類) が, 主に全域に散在している。多くの土器は中型の破片や小片で, 接合関係が良好であることから, 埋め戻しに伴って投棄されたと考えられる。

**所見** 時期は, 出土土器から 6 世紀後葉に比定できる。

**第 85 号 竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 151 図)**

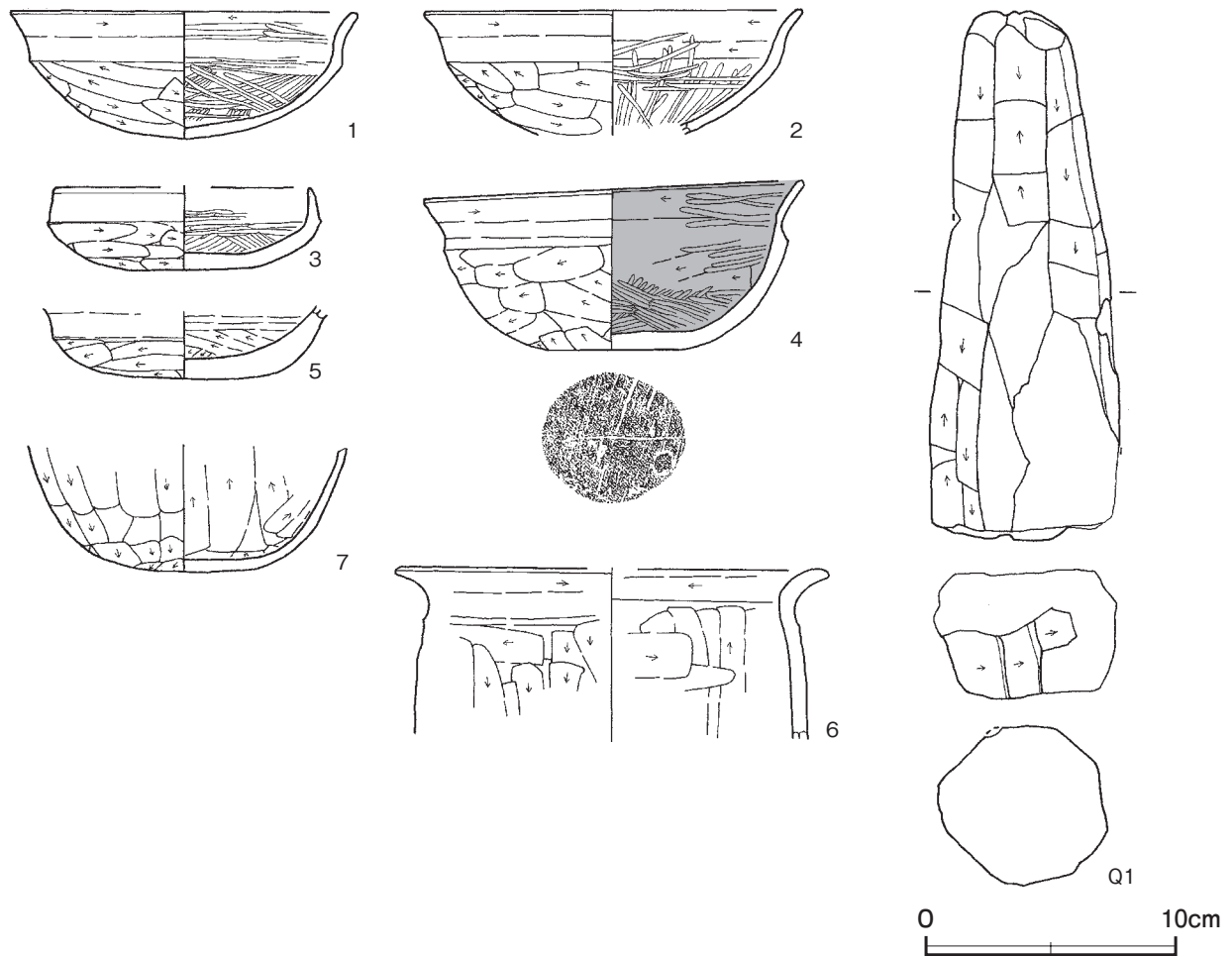
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	13.8	5.1	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ, 内面横位のへら磨き 斜位の削り 底部内面多方向の磨き	覆土下層	80% PL68
2	土師器	坏	14.9	(4.9)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ 底部外面斜位の削り 底部内面二方向の磨き	覆土中	30%



第150図 第85号竪穴建物跡実測図

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
3	土師器	坏	[10.1]	3.3	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい黄褐	普通	口縁部横ナデ、内面横位の磨き 底部外面横・斜位の削り 底部内面三方向の磨き	覆土中	20%
4	土師器	坏	15.0	6.7	6.0	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	口縁部横ナデ、内面横位の磨き 体部外面斜位のナデ 体部内面横位のナデ後横位の磨き 底部外面一方向の削り 底部内面二方向の磨き 内面黒色処理	覆土中	80% PL69
5	須恵器	坏	-	(3.0)	-	長石・石英・雲母・針状物質	灰	普通	口縁部クロナデ 底部外面斜位の削り 底部内面二方向のナデ	覆土中	20% 在地産
6	土師器	甕	17.0	(6.8)	-	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面横位のナデ後縦位のナデ 体部内面縦位のナデ後横位のナデ	覆土中	10%
7	土師器	甕	-	(5.0)	[4.0]	長石・石英・雲母・針状物質	明赤褐	普通	体部外面縦位の削り 体部内面縦位のナデ 底部外面一方向の削り 底部内面一方向のナデ	覆土中	40% 煤付着

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	支脚	21.1	7.5	6.4	(545.62)	凝灰質泥岩	上面劣化のため調整不明 側面縦位の削り調整 下面一方向の削り調整	竈火床面	



第 151 図 第 85 号 豎穴建物跡出土遺物実測図

### 第 86 号 豎穴建物跡 (第 152・153 図)

調査年度 平成 26 年度

位置 調査区東部の E 8 a9 区, 標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第 85 号 豎穴建物, 第 12・14・15 号 粘土貼土坑, 第 89～91・351・352 号 土坑に掘り込まれている。

規模と形状 第 85 号 豎穴建物に掘り込まれていることから, 東西軸が 4.85m で, 南北軸は 3.70m しか確認できなかった。方形もしくは長方形と推定でき, 主軸方向は  $N-0^{\circ}$  である。壁は高さ 30～40cm で, ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で, 全面が踏み固められている。貼床は, 第 5・6 層を 20cm ほど埋め戻して構築されている。掘方は, 平坦である。壁溝が, 第 85 号 豎穴建物に掘り込まれている部分を除いて, 全周している。

ピット 5 か所。P 1～P 4 は深さ 38～46cm で, 配置から支柱穴である。P 5 は深さ 12cm で, 出入り口施設に伴うピットである。第 3 層が埋土, 第 1・2 層が柱材を抜き取った後の覆土である。P 1～P 4 の底面で, 柱の当たりを確認した。

#### ピット土層解説 (各ピット共通)

1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量  
2 暗褐色 ロームブロック少量

3 にぶい黄褐色 ロームブロック少量

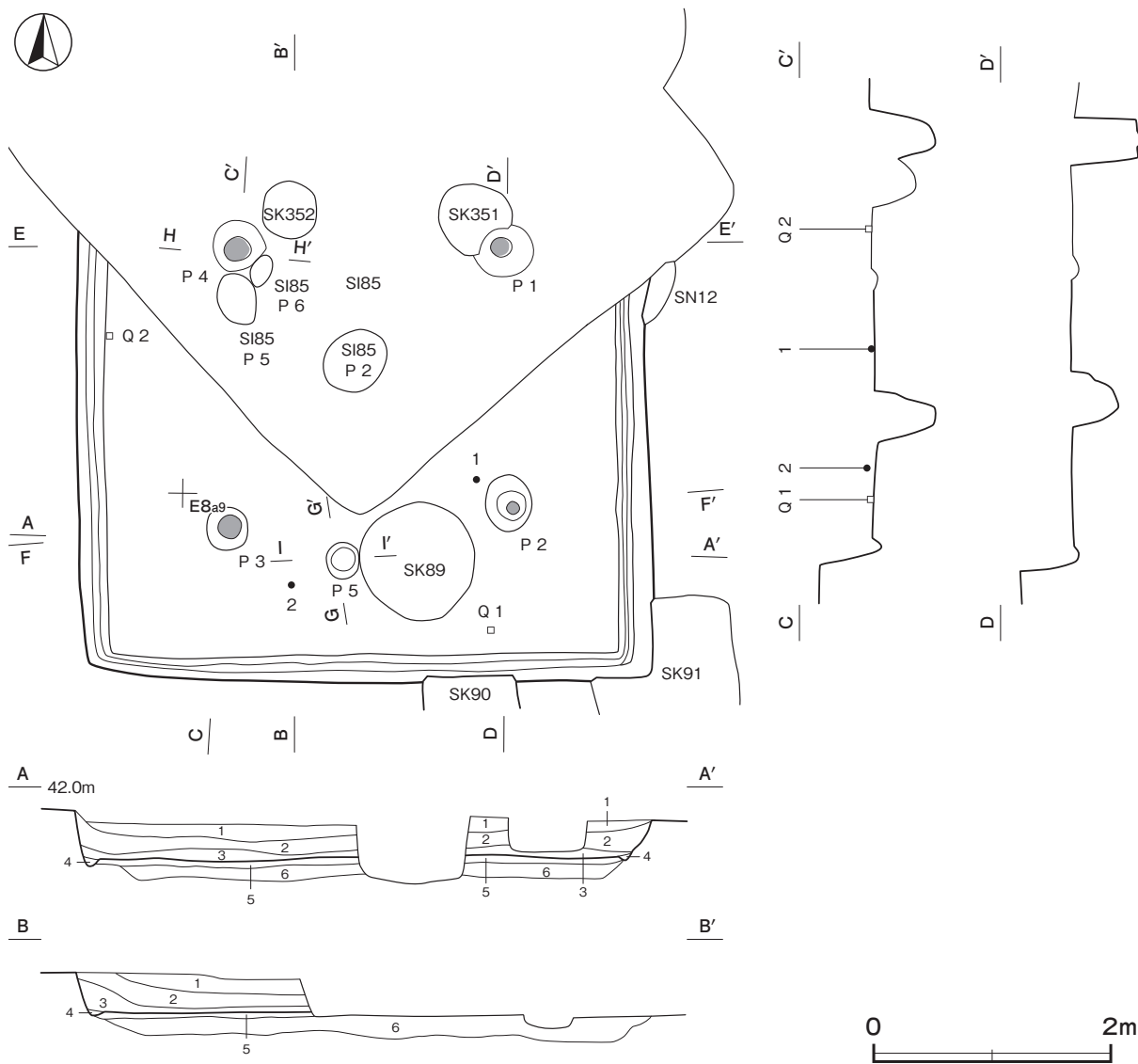
覆土 4 層に分層できる。レンズ状に堆積していることから, 自然堆積である。第 5・6 層は貼床の構築土である。

土層解説

- |       |                     |       |                        |
|-------|---------------------|-------|------------------------|
| 1 褐灰色 | ローム粒子微量             | 4 黒褐色 | ロームブロック微量              |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量             | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 (第6層より締まり強い) |
| 3 黒色  | 炭化物少量, ローム粒子・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量 (第5層より締まり弱い) |

遺物出土状況 土師器片 52 点 (埴 13, 高坏 1, 甕類 38) のほか, 縄文土器片 44 点 (深鉢), 弥生土器片 5 点 (壺類), 石器 2 点 (砥石) が, 主に南半部から出土している。多くの土器は中型の破片や小片で, 接合関係に乏しいことから, 埋没の過程で投棄されたと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から 4 世紀後葉に比定できる。

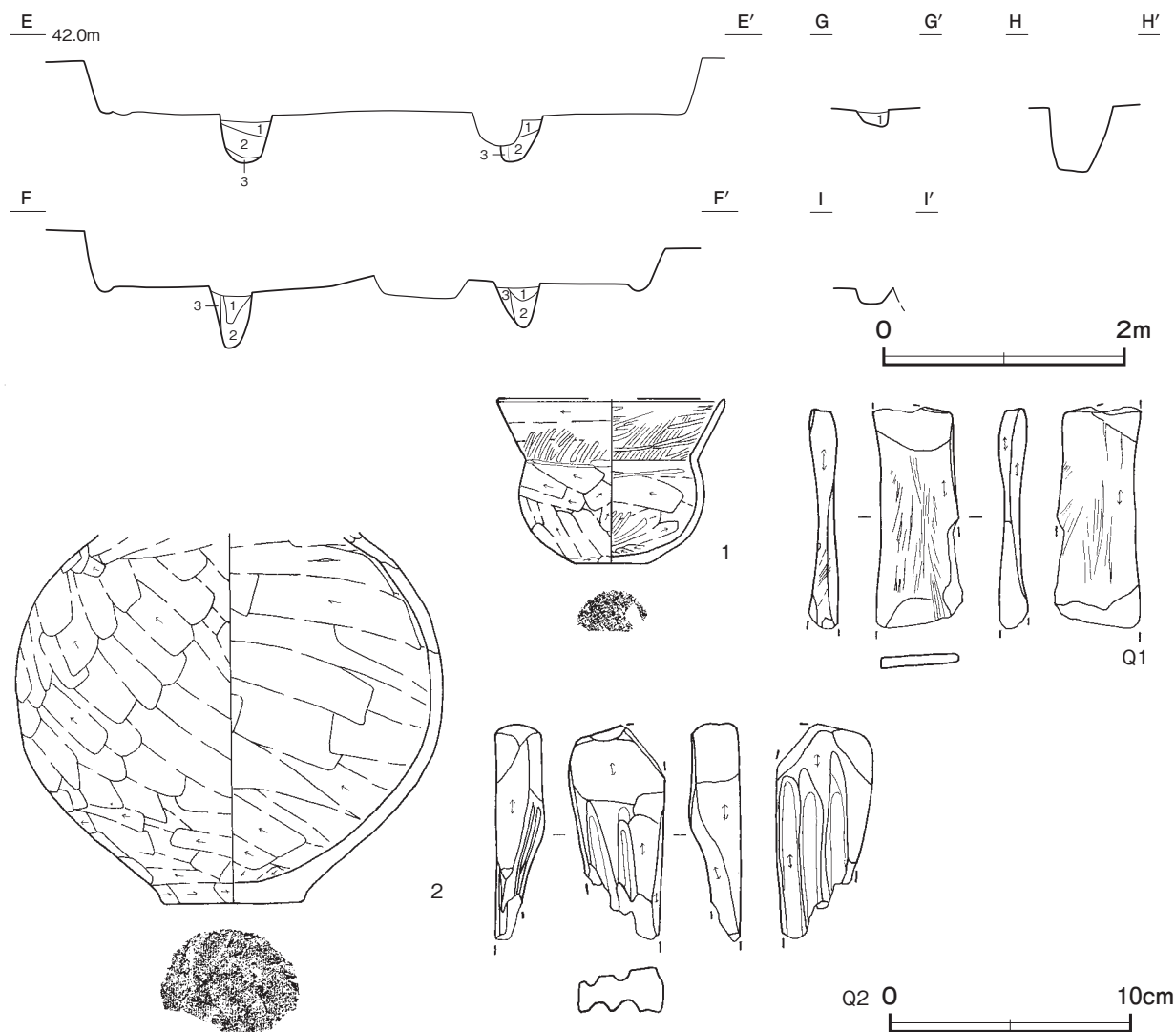


第 152 図 第 86 号竪穴建物跡実測図

第 86 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 153 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	埴	[9.4]	6.8	3.0	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	口縁部横ナデ, 外面斜位の磨き, 内面二方向の磨き, 体部外・内面縦・斜位のナデ, 内面横・斜位の磨き, 底部外・内面一方向のナデ	覆土下層	50% PL72
2	土師器	甕	-	(15.5)	5.9	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい褐	普通	体部外・内面横・斜位のナデ, 外面下端部横位のナデ, 底部外面多方向のナデ, 底部内面一方向のナデ	覆土下層	40%





第 153 図 第 86 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	砥石	(9.3)	(3.7)	(1.3)	(44.32)	泥岩	両端部欠損 砥面 4 面 上・下面と側面 1 か所に線刻状の研磨痕	覆土下層	
Q 2	砥石	(8.9)	4.1	2.2	(85.23)	泥岩	端部欠損 砥面 4 面 上・下面に溝状の砥面	覆土下層	PL104

### 第 87 号竪穴建物跡 (第 154 図)

調査年度 平成 26 年度

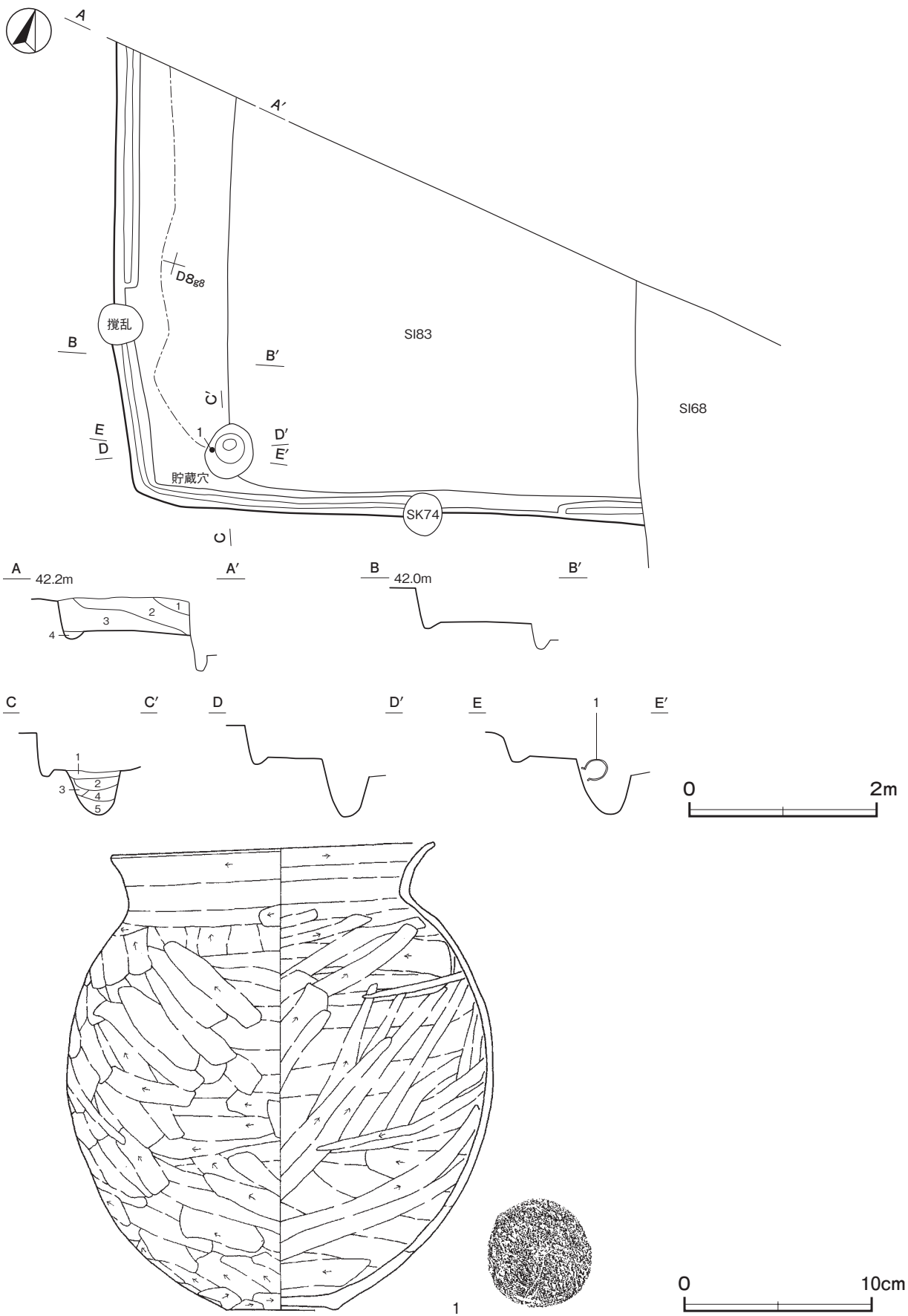
位置 調査区東部の D 8 g 8 区, 標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第 68・83 号竪穴建物, 第 74 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北部が調査区域外に延びていることから, 南北軸は 4.68 m, 東西軸は 5.55 m しか確認できなかった。方形もしくは長方形で, 主軸方向は N - 20° - W である。壁は高さ 32 ~ 36 cm で, ほぼ直立している。

床 平坦で, 調査区域外の北部, 第 68・83 号竪穴建物に掘り込まれた部分, 南壁及び西壁際を除いて踏み固められている。壁溝が, 西壁及び南壁下の一部を除いて, 巡っている。

貯蔵穴 南西部に位置している。長径 60 cm, 短径 50 cm の楕円形である。深さは 50 cm である。底面は皿状で,



第 154 图 第 87 号竖穴建物跡・出土遺物実測図

壁は外傾している。5層に分層でき、第2～5層は、ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第1層は流入土である。

**貯蔵穴土層解説**

- |       |           |       |           |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量   | 4 褐色  | ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量 | 5 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量 |       |           |

**覆土** 4層に分層できる。堆積状況から、自然堆積である。

**土層解説**

- |       |                   |          |                     |
|-------|-------------------|----------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量    | 3 におい黄褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 におい黄褐色 | ローム粒子微量             |

**遺物出土状況** 土師器片 18点（埴1，甕類17）のほか、縄文土器片2点（深鉢）が、主に西壁際から出土している。多くの土器は小片で、接合関係に乏しいことから、埋没の過程で投棄されたと考えられる。1は貯蔵穴から良好な遺存状態で出土していることから、廃絶に伴って遺棄されたと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から4世紀後葉に比定できる。

**第87号竪穴建物跡出土遺物観察表（第154図）**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	甕	17.2	25.0	5.9	長石・石英・雲母・針状物質	におい褐	普通	口縁部横ナデ 体部外・内面横位のナデ後斜位のナデ 底部一方向のナデ後縁に沿った円状のナデ	貯蔵穴 覆土上層	80% PL80

**第92号竪穴建物跡（第155図）**

**調査年度** 平成27年度

**位置** 調査区中央部のE5fl区、標高42mほどの台地平坦面に位置している。

**重複関係** 第435・436・454号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 北部が攪乱を受け、東部が調査区域外に延びていることから、南北軸は3.44m、東西軸は2.30mしか確認できなかった。方形もしくは長方形と推定できるが、主軸方向は不明である。壁は高さ20～22cmで、外傾している。

**床** 平坦な貼床で、全面が踏み固められている。貼床は、第7層を10～15cmほど埋め戻して構築されている。掘方は、全域がほぼ平坦に掘り込まれている。

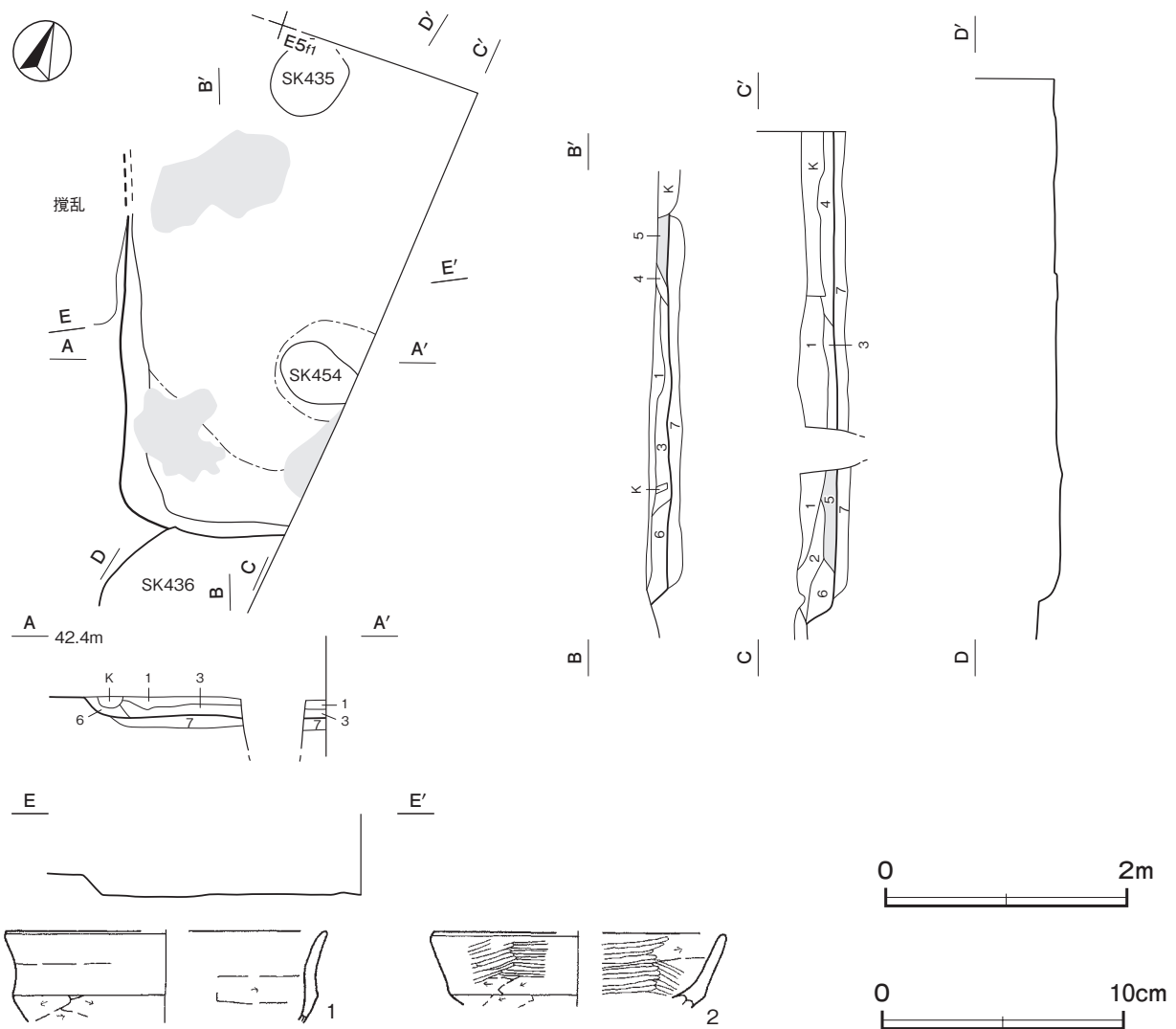
**覆土** 6層に分層できる。ロームブロックが含まれる不規則な堆積をしていることから、埋め戻されている。第5層は焼土が含まれている堆積層で、壁際の3か所で焼土のまとまりを確認した。第6層上に堆積していることや炭化材が確認できなかったから、埋め戻しに伴って投棄されたものと考えられる。第7層は貼床の構築土である。

**土層解説（焼土・覆土共通）**

- |       |                    |       |                  |
|-------|--------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量     | 5 暗褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量   | 6 褐色  | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 炭化粒子少量、ロームブロック微量   | 7 暗褐色 | ロームブロック中量        |
| 4 暗褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック微量 |       |                  |

**遺物出土状況** 土師器片 35点（坏7，壺類1，甕類27）のほか、縄文土器片2点（深鉢）、陶器片1点（甕）、鉄製品1点（不明）が、西半部から出土している。多くの土器は小片で、接合関係に乏しいことから、破損したものが廃絶に伴って投棄されたと考えられる。1は二次焼成が認められることから、焼土とともに投棄されたと推定できる。

**所見** 時期は、出土土器から7世紀前葉に比定できる。



第 155 図 第 92 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 92 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 155 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[13.2]	(3.8)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 底部外面斜位の削り, 内面横位のナデ	覆土中	10% 二次焼成
2	土師器	坏	[12.1]	(3.0)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ後二方向の磨き 底部外面斜位のナデ, 内面二方向の磨き	覆土中	10%

### 第 93 号竪穴建物跡 (第 156 ~ 161 図 PL20・21)

調査年度 平成 27 年度

位置 調査区中央部の D 5 e8 区, 標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

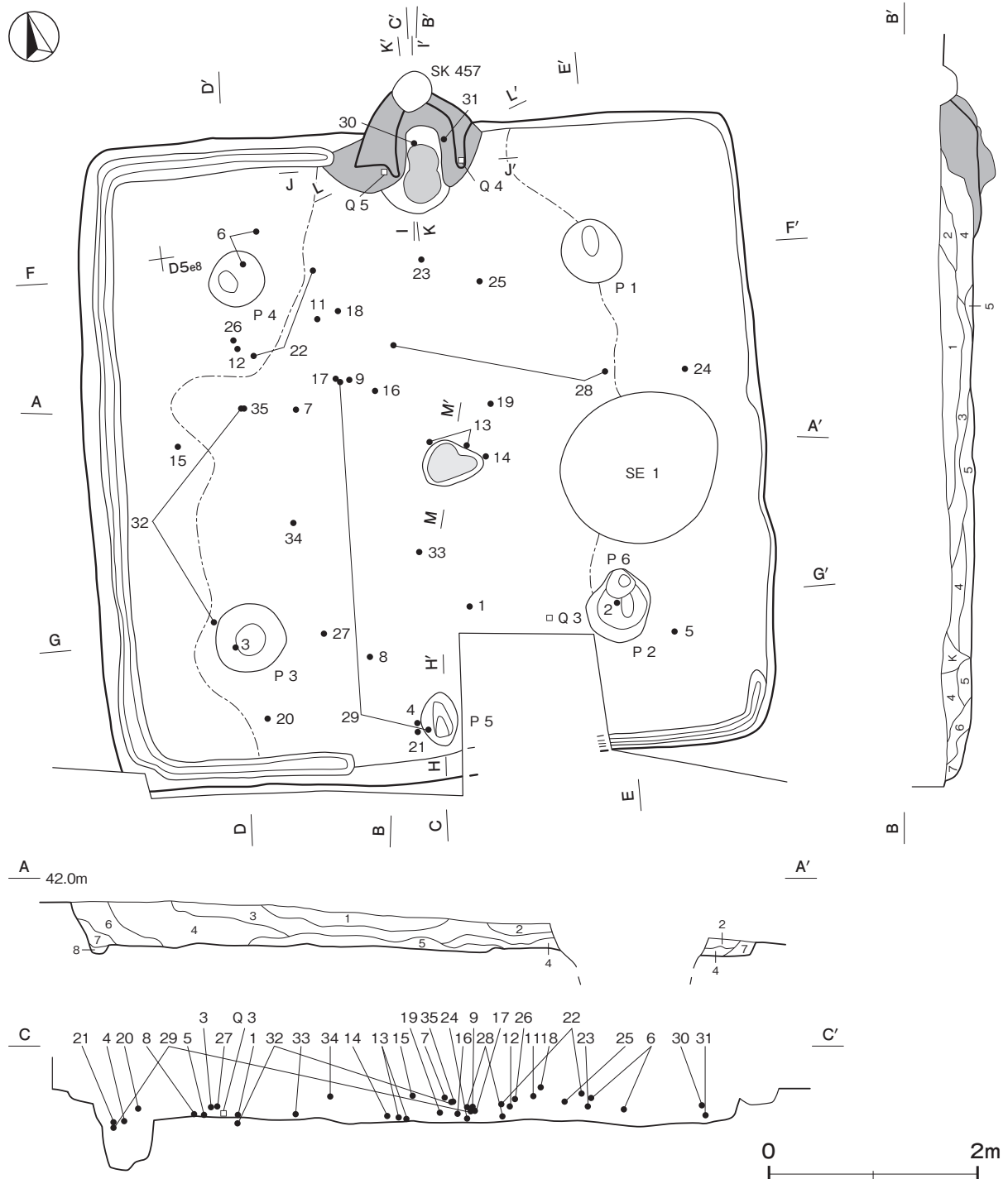
重複関係 第 1 号井戸, 第 457 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南西部が調査区域外に延びているが, 長軸 6.54 m, 短軸 6.24 m の方形で, 主軸方向は N - 6° - E である。壁は高さ 14 ~ 40cm で, ほぼ直立している。

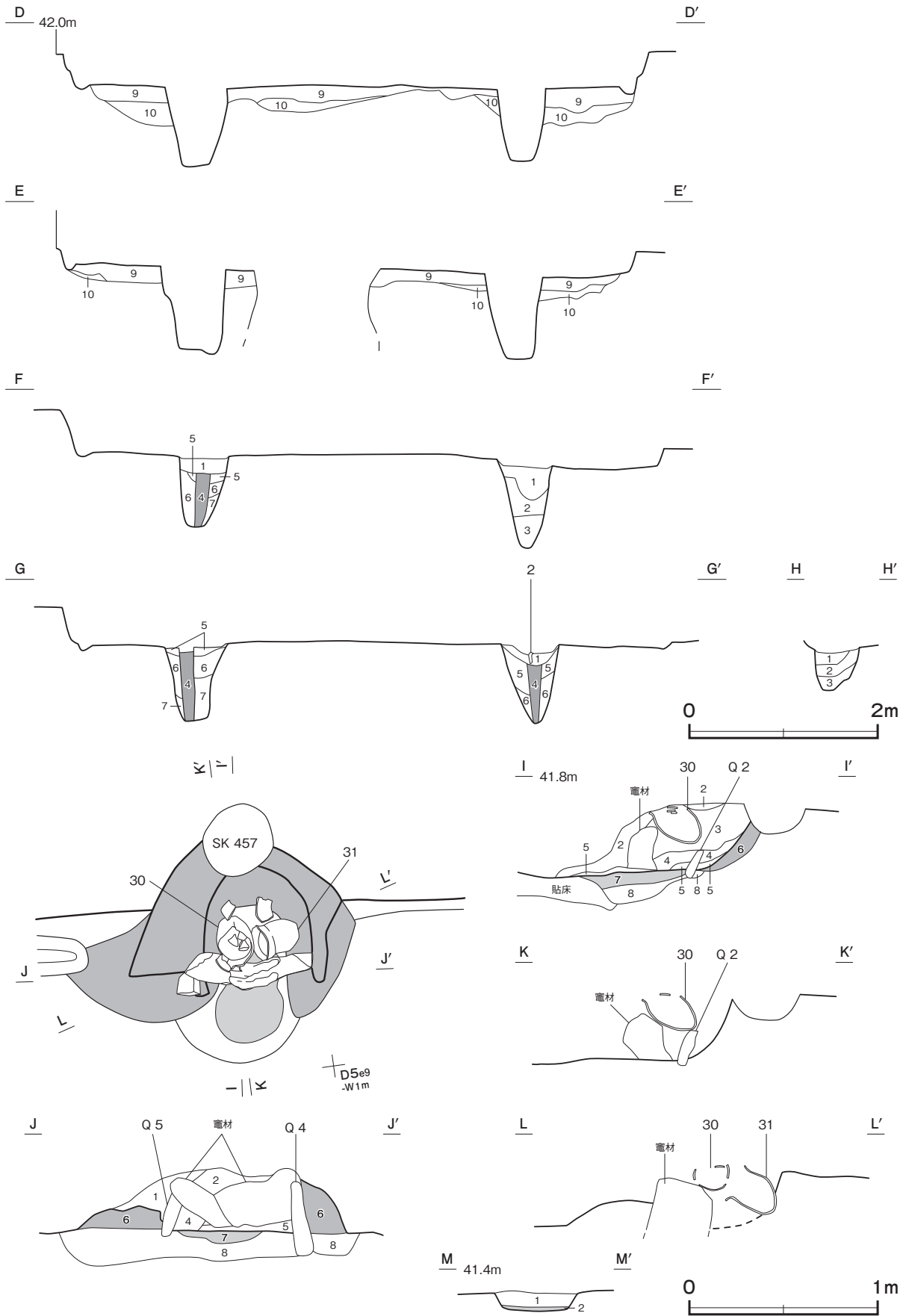
床 平坦な貼床で, 東壁及び西壁際を除いて踏み固められている。貼床は, 第 9・10 層を 10 ~ 38cm ほど埋め戻して構築されている。掘方は全域が掘り込まれているが, 壁際が深く掘り込まれている。壁溝が, 東壁の壁

下及び北壁，南壁の壁下の一部を除いて巡っている。

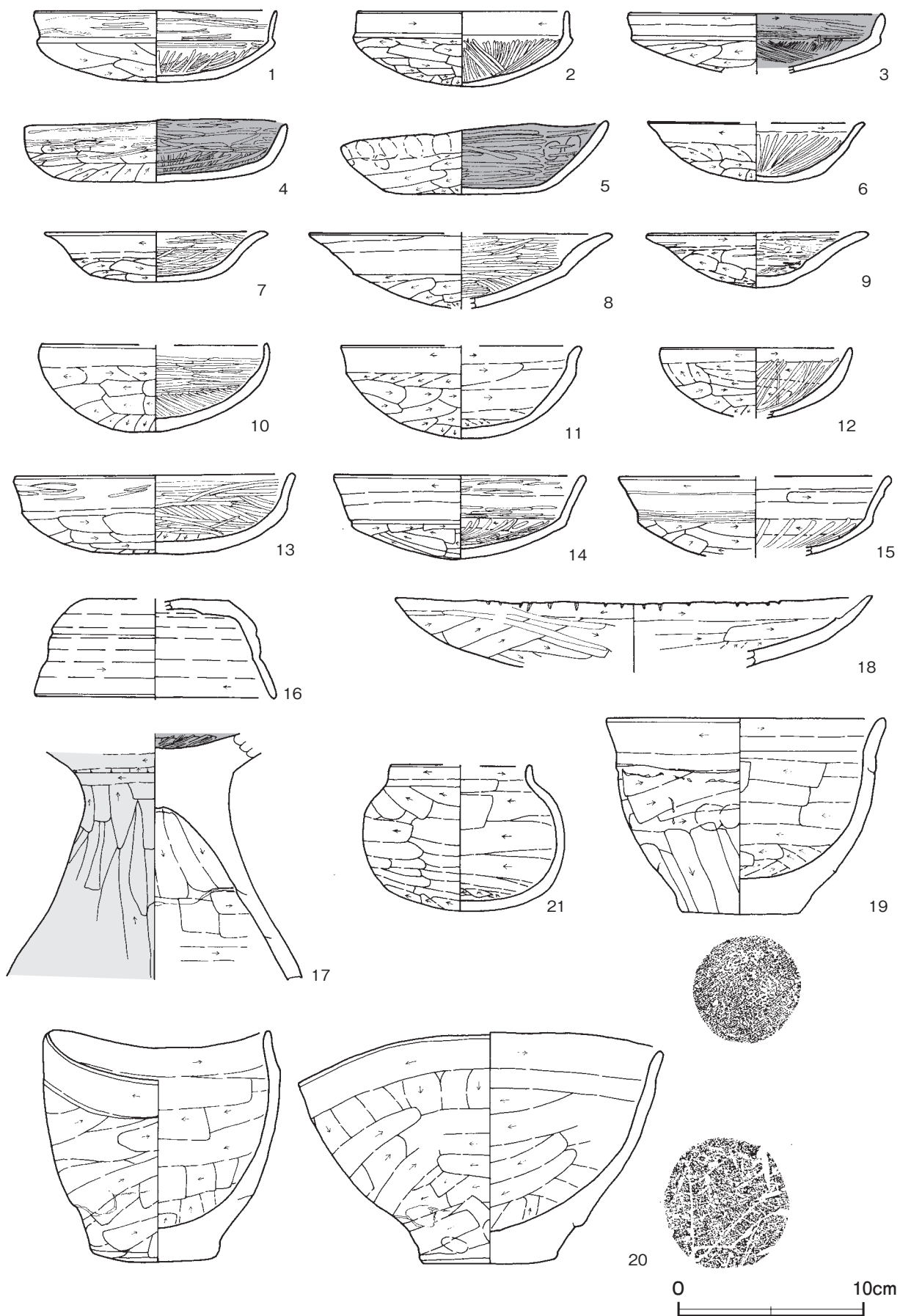
**竈** 北壁の中央部に付設されている。第457号土坑に掘り込まれているが，焚口部から煙道部までの長さは，140cmと推定でき，燃烧部の幅は50cmである。燃烧部は床面から15cmほど掘りくぼめられ，第7・8層で埋め戻されている。袖部は，芯材として加工されたQ4・Q5を深さ10～20cmのピットに第8層で固定した後，第8層上面に第6層を積み上げて構築されている。火床面は第7・8層の上面で，第7層は火熱を受けて赤変硬化している。Q2は下端部が第8層で固定され，火床部に据えつけられていることから，支脚として用いられている。煙道部は壁外に推定で50cmほど掘り込まれ，第6層を貼り付けて構築されている。火床面からは



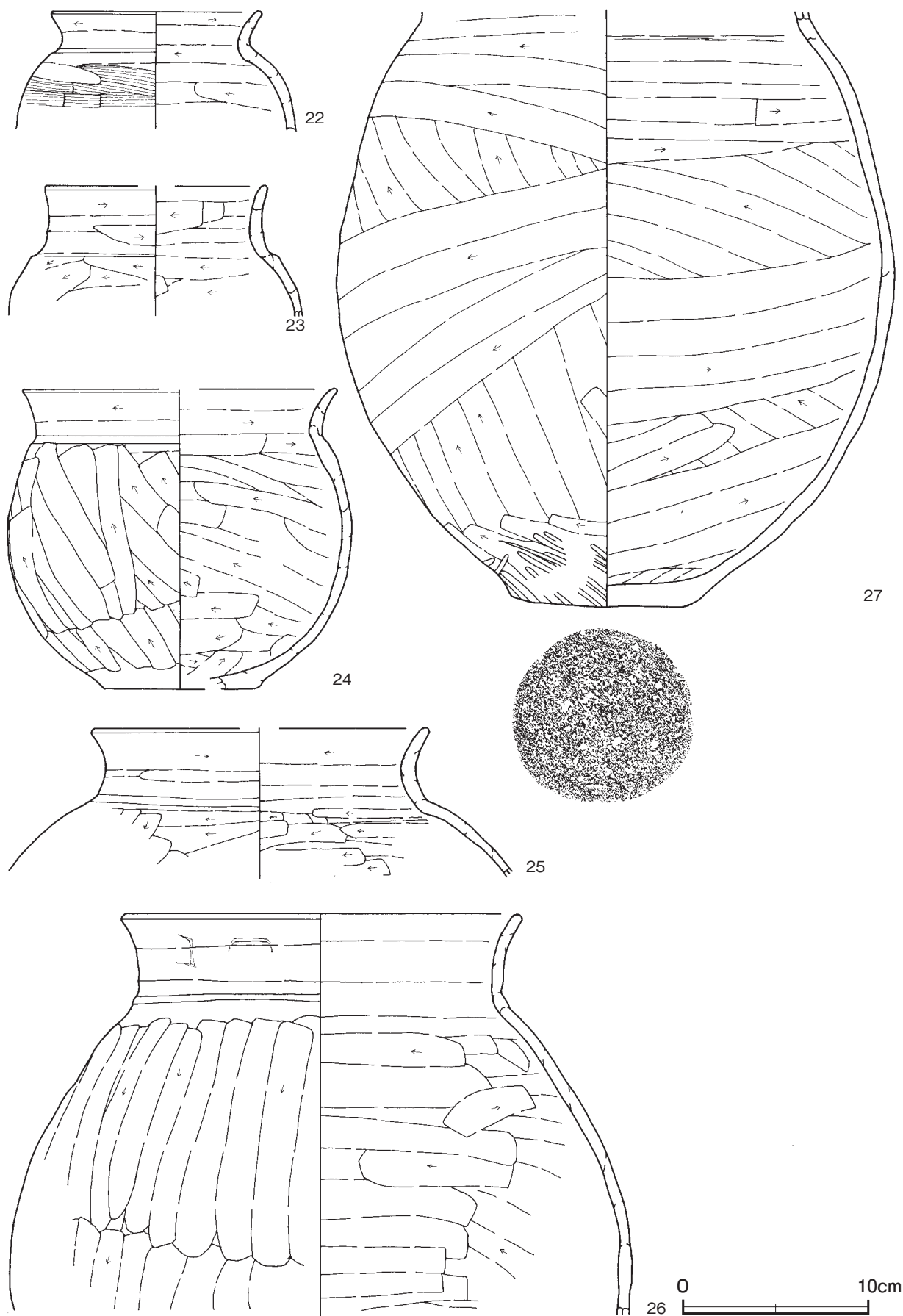
第156図 第93号竪穴建物跡実測図(1)



第 157 図 第 93 号竪穴建物跡実測図(2)

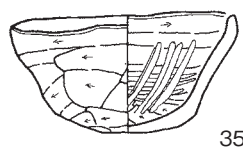
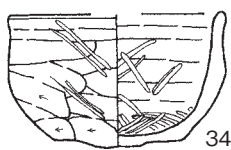
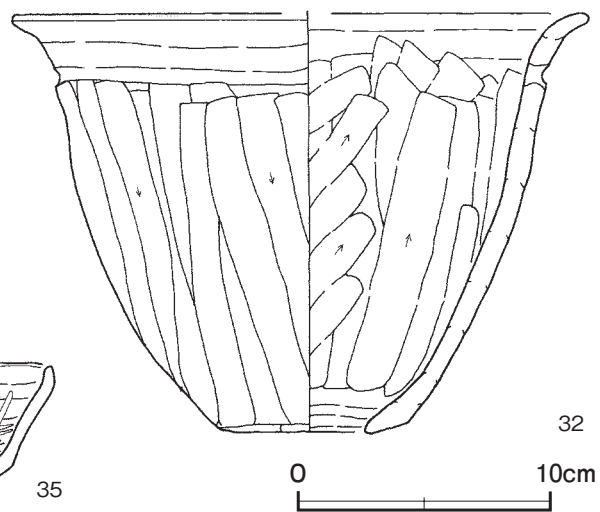
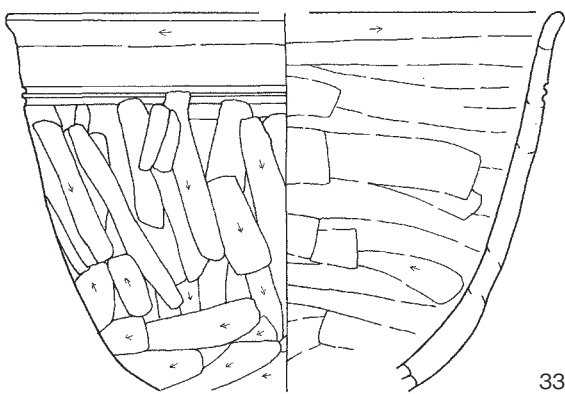
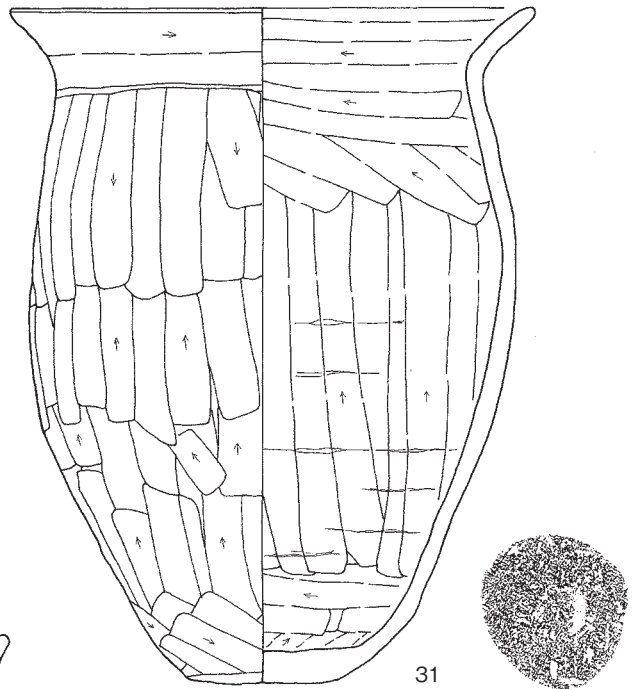
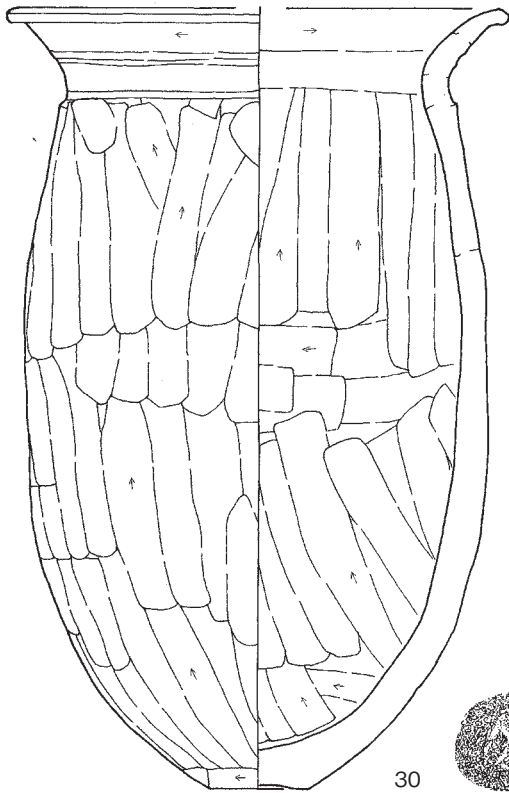
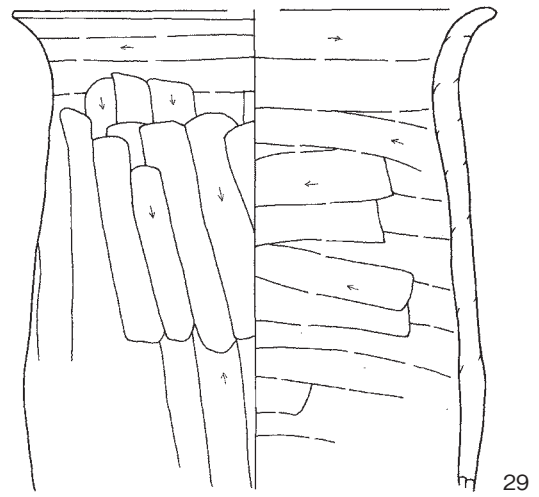
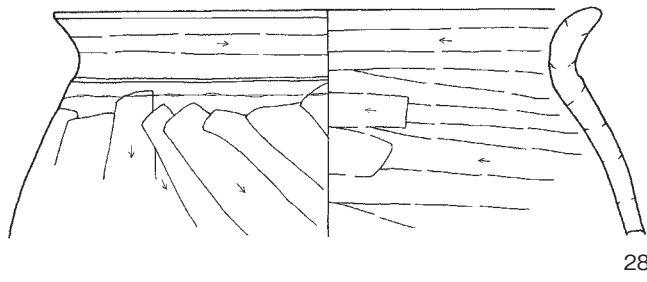


第 158 图 第 93 号竖穴建物迹出土遗物实测图(1)

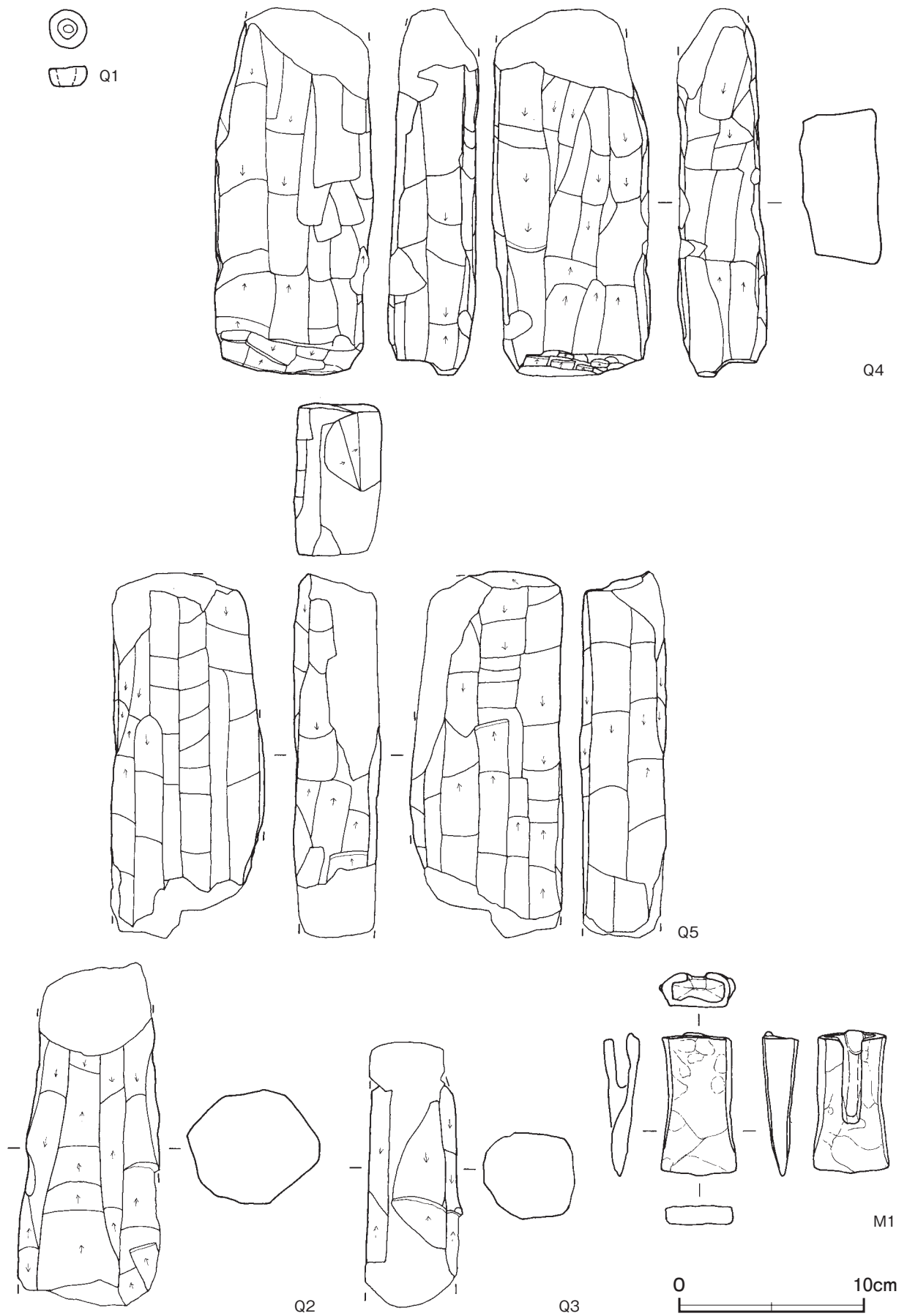


第 159 图 第 93 号竖穴建物跡出土遺物実測図(2)





第 160 图 第 93 号竖穴建物跡出土遺物実測图(3)



第 161 图 第 93 号竖穴建物跡出土遺物実測図(4)

外傾している。第5層は袖部内壁の崩落、第3・4層は天井部や袖部の崩落土で、懸架材として加工された凝灰質泥岩や30・31が良好な状態で出土していることから、自然に崩壊している。第1・2層は崩落後の堆積である。

**竈土層解説**

- |                                 |                          |
|---------------------------------|--------------------------|
| 1 暗褐色 焼土粒子少量, ローム粒子微量           | 5 暗赤褐色 焼土ブロック中量, ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 粘土ブロック少量, ローム粒子微量         | 6 灰褐色 粘土ブロック多量, 焼土ブロック微量 |
| 3 灰褐色 粘土ブロック中量, 焼土粒子少量, ローム粒子微量 | 7 暗赤褐色 焼土ブロック多量          |
| 4 暗褐色 粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量        | 8 暗褐色 ロームブロック中量          |

**炉** 中央部に付設されている。長径50cm, 短径30cmの不整楕円形の地床炉である。深さ10cmほど掘りくぼめ、炉床が構築されている。炉床面は第2層の上面で、火熱を受けて赤変硬化している。第1層はロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

**炉土層解説**

- |                 |                          |
|-----------------|--------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック多量 | 2 暗赤褐色 焼土ブロック多量, ローム粒子微量 |
|-----------------|--------------------------|

**ピット** 6か所。P1～P4・P6は深さ70～90cmで、配置から主柱穴である。P2・P6は、重複しているが、新旧関係は不明である。P5は深さ40cmで、出入り口施設に伴うピットである。P1～P5の覆土は、第5～7層が埋土、第4層が柱痕跡、第1～3層が柱材を抜き取った後の覆土である。

**土層解説 (P1～P5共通)**

- |                           |                 |
|---------------------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量           | 5 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 2 褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック微量  | 6 褐色 ロームブロック多量  |
| 3 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック微量 | 7 褐色 ロームブロック中量  |
| 4 黒褐色 ローム粒子少量             |                 |

**覆土** 8層に分層できる。第2～8層はロームブロックが含まれる不規則な堆積をしていることから、埋め戻されている。第1層は、埋め戻された後の自然堆積である。第9・10層は貼床の構築土である。

**土層解説**

- |                               |                                |
|-------------------------------|--------------------------------|
| 1 黒色 ローム粒子微量                  | 6 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 粘土ブロック中量, ロームブロック・炭化物微量 | 7 褐色 ロームブロック少量・粘土ブロック微量        |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量  | 8 暗褐色 ロームブロック多量                |
| 4 黒褐色 ロームブロック少量, 粘土ブロック微量     | 9 暗褐色 ロームブロック中量                |
| 5 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量           | 10 褐色 ロームブロック中量                |

**遺物出土状況** 土師器片2,236点(坏309, 器台1, 高坏17, 鉢類5, 壺類1, 甕類1,895, 甗2, ミニチュア土器6), 須恵器片7点(坏3, 蓋2, 瓶1, 甕類1), 石器1(砥石), 石製品7点(小玉1, 支脚2, 袖部芯材2, 竈材1, 不明1)のほか、縄文土器片168点(深鉢), 弥生土器片9点(壺類)が、竈近辺や全域から出土している。多くの土器は完形品や大型の破片で、接合関係が良好であることから、埋め戻しに伴って一括で投棄されたと考えられる。30・31は竈の燃焼部から良好な遺存状態で出土していることから、廃絶に伴って竈に掛けられたまま廃棄されたと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から6世紀中葉に比定できる。

第93号竪穴建物跡出土遺物観察表(第158～161図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	12.9	3.9	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ後横位の磨き。底部外面一方向の削り後斜位の削り。内面放射状の磨きを模した二方向の磨き後横位の磨き。漆処理	覆土下層	95% PL68
2	土師器	坏	11.3	4.1	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ。底部外面斜位のナデ。一方向の削り後斜位の削り。内面放射状の磨き。漆処理	覆土中	95% PL68
3	土師器	坏	13.7	(3.2)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ後内面横位の磨き。底部外面横・斜位の削り。内面二方向の磨き。内面黒色処理	覆土中層	50% PL69
4	土師器	坏	14.1	3.4	-	長石・石英・雲母・針状物質	明赤褐	普通	口縁部横ナデ後横位の磨き。底部外面一方向の削り後横位の削り。横位の磨き。内面多方向の磨き。内面黒色処理	覆土下層	95% PL69
5	土師器	坏	14.4	4.0	6.5	長石・石英・雲母・針状物質	褐	普通	口縁部横ナデ。内面横位の磨き。指頭痕。底部外面一方向の削り後横位の削り。内面横位の磨き。内面黒処理	覆土下層	50%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
6	土師器	坏	11.6	3.3	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 底部外面斜位のナデ、底面一方向の削り後斜位の削り 底部内面放射状の磨きを模した二方向の磨き	覆土中層	95% PL67 煤付着
7	土師器	坏	11.9	2.7	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ、内面横位の磨き 底部外面横位のナデ後横位の削り、内面二方向の磨き	覆土中層	80% PL67
8	土師器	坏	[16.0]	(4.1)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ、内面横位の磨き 底部外面一方向の削り後斜位の削り、内面二方向の磨き	覆土下層	40%
9	土師器	坏	[12.0]	3.0	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ後横位の磨き 底部外面底部からの螺旋状の削り、内面横位のナデ後二方向の磨き	覆土中層	30% PL67
10	土師器	坏	12.2	4.2	-	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	口縁部横ナデ 底部外面横位のナデ、一方向の削り後斜位の削り、内面一方向の磨き後横位の磨き 漆処理	覆土中	95% PL68
11	土師器	坏	[12.8]	5.1	-	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	口縁部横ナデ 底部外面一方向の削り後横・斜位の削り、内面一方向のナデ後横位のナデ	覆土中層	50% PL70
12	土師器	坏	10.2	3.8	-	長石・石英・雲母・針状物質	褐灰	普通	口縁部横ナデ 底部外面縦・横位のナデ、一方向の削り後斜位の削り、内面横位のナデ後放射状の磨きを模した二方向の磨き	覆土中層	80% PL70
13	土師器	坏	15.0	4.2	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ後横位の磨き 底部外面一方向の削り後横位の削り、内面一方向のナデ後多方向の磨き 漆処理	覆土下層	90%
14	土師器	坏	13.4	4.5	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ後内面横位の磨き 底部外面横位のナデ 一方向の削り後横位の削り、内面放射状の磨きを模した多方向の磨き 内面漆処理	覆土中層	90% PL67 外面煤付着
15	土師器	坏	[14.5]	(4.3)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ 底部外面一方向の削り後斜位の削り、内面横位のナデ後放射状の磨き	覆土中層	30% PL67
16	須恵器	蓋	[13.0]	5.4	-	長石・石英・雲母・白色粒子	灰	良好	口縁部・体部外・内面口クロナデ 天蓋部一方向のナデ	覆土下層	30% PL86 産地不明
17	土師器	器台	-	(13.2)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい黄橙	普通	坏部外面下端面縦位の削り後横位のナデ、内面一方向のナデ後一方向の磨き 脚部外面縦位の削り、内面縦・横位のナデ 外面赤彩、内面黒色処理	覆土中層	20% PL77
18	土師器	高坏	26.0	(3.8)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ後刻み 体部下端面一方向の削り後斜位の削り、斜位の磨き、内面一方向のナデ後横位のナデ	覆土中層	10%
19	土師器	鉢	15.0	11.7	6.4	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面横・斜位のナデ後縦位の削り、内面横・斜位のナデ 底部外・内面一方向のナデ	覆土下層	60%
20	土師器	鉢	19.5	12.6	7.0	長石・石英・雲母・針状物質	明赤褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位のナデ後横・斜位のナデ、内面横・斜位のナデ 底部外面木炭痕、内面一方向のナデ	覆土中層	95% PL77 二次焼成
21	土師器	小形壺	[7.6]	7.9	-	長石・石英・雲母・細礫	赤褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面横位のナデ後上位斜位の削り、内面横位のナデ 底部外面多方向のナデ、内面螺旋状のナデ	覆土下層	60% PL72
22	土師器	小形甕	11.2	(6.4)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面 4条1単位の横位のハケ目調整後ナデ消し、内面横位のナデ	覆土中層	30% 二次焼成
23	土師器	小形甕	[11.9]	(7.0)	-	長石・石英・雲母・針状物質	灰褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面横・斜位のナデ、内面横位のナデ	覆土中層	10% 煤付着
24	土師器	甕	[16.8]	16.3	[8.2]	長石・石英・雲母・針状物質	黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部下端面横位のナデ後縦・斜位の削り、内面横・斜位のナデ 底部外面一方向の削り、内面二方向のナデ	覆土下層	50% 煤付着
25	土師器	甕	[18.0]	(8.0)	-	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面横・斜位のナデ後縦位の削り、内面横位のナデ	覆土中層	10% 煤付着
26	土師器	甕	21.0	21.5	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい黄褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位のナデ、内面横位のナデ	覆土中層	40% 煤付着
27	土師器	甕	-	(32.3)	10.2	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	体部外面縦位のナデ後横・斜位のナデ、下端面斜位の磨き、内面斜位のナデ後横位のナデ 底部外面多方向のナデ、内面一方向のナデ	覆土中層	60%
28	土師器	甕	[21.4]	(9.0)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦・斜位の削り、内面横位のナデ	覆土中層 覆土下層	20% 煤付着
29	土師器	甕	[19.2]	19.0	-	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の削り、内面横位のナデ	覆土下層	50% 煤付着
30	土師器	甕	[18.9]	31.0	4.0	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位のナデ後下端面横位の削り、内面横位のナデ後縦位のナデ 底部外・内面一方向のナデ	覆土中層	70% PL82 煤付着
31	土師器	甕	20.6	26.9	5.9	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の削り後下端面斜位の削り、内面下位横位のナデ、縦位のナデ後横・斜位のナデ 底部外・内面一方向のナデ	覆土中層	95% PL82 煤付着
32	土師器	甕	[22.5]	16.6	7.5	長石・石英・細礫	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の削り、下端面横位の削り、内面縦・斜位のナデ、下端面横位のナデ	覆土中層 覆土下層	50% 煤付着
33	土師器	甕	[21.8]	(15.1)	-	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦・斜位の削り後下端面横位の削り、内面横・斜位のナデ	覆土下層	40% 煤付着
34	土師器	ミニチュア土器	[8.4]	(5.2)	(5.2)	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面横・斜位のナデ後二方向の磨き、内面横位のナデ後二方向の磨き 底部外面一方向のナデ、内面多方向の磨き	覆土中層	50% 煤付着
35	土師器	ミニチュア土器	8.8	4.7	3.0	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面横位のナデ後下端面横位の削り、内面横位のナデ後二方向の磨き 底部外面一方向のケズリ、内面一方向のナデ	覆土中層	95% PL85 底部内面煤付着

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	丸玉	1.0	0.6	0.6~0.2	3.36	翡翠	全面研磨 上面からの一方向の穿孔	覆土中	PL107

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 2	支脚	(18.7)	(7.7)	(6.2)	(330.56)	凝灰質泥岩	上面欠損 下面一方向の削り調整 側面削り調整	竈床面	
Q 3	支脚	14.5	5.4	4.6	(164.14)	凝灰質泥岩	上面欠損 下面劣化のため調整不明 側面削り調整	覆土下層	
Q 4	袖部芯材	33.4	14.2	8.0	2.235	凝灰質泥岩	上面劣化のため調整不明 側面4面縦位の削り調整 下面一方向の削り調整	袖部構築土中	PL106
Q 5	袖部芯材	33.1	13.9	8.0	2.155	凝灰質泥岩	上面一方向の削り調整 側面4面縦位の削り調整 下面劣化のため調整不明	袖部構築土中	PL106

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 1	鉄斧	7.8	4.0	1.9	170.07	鉄	袋部断面C字状 孔は四角錐、奥行き4.5cm 刃部断面V字状 鋳造製	覆土中	PL109

## 第 94 号竪穴建物跡（第 162 図）

調査年度 平成 27 年度

位置 調査区中央部の D 5 b0 区，標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第 468・469 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 4.90 m，短軸 4.67 m の方形で，主軸方向は N - 36° - W である。壁は高さ 10 ~ 15cm で，ほぼ直立している。

床 平坦で，中央部及び竈の前面が踏み固められている。

竈 2 か所。竈 1 は北壁の中央部に付設されている。煙道部のみで，壁外に 30cm ほどしか確認できなかった。煙道部には第 2 層が貼り付けられており，燃烧部からは外傾していたと推定できる。第 1 層にはロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。袖部は竈 2 の構築に伴って壊されていることから，造り替えられている。竈 2 は北壁中央部の東寄りに付設されている。焚口部から煙道部までは 80cm，燃烧部の幅は 35 cm である。燃烧部は床面とほぼ水平で，火床面は火熱を受けているものの，赤変硬化はしていない。袖部は，床面に第 5・6 層を積み上げて構築されている。煙道部は壁外に 50cm ほど掘り込まれ，第 5 層が貼り付けられている。火床面からは外傾している。第 1 ~ 4 層には粘土ブロックが含まれることから，壊されている。

### 竈 1 土層解説

1 におい黄褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量 2 灰黄褐色 粘土ブロック中量，ロームブロック少量

### 竈 2 土層解説

1 暗褐色 粘土ブロック多量，焼土ブロック中量 4 暗褐色 焼土ブロック・粘土ブロック中量  
2 暗褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量 5 灰黄褐色 粘土ブロック・焼土粒子中量  
3 黒褐色 粘土ブロック多量 6 黒色 粘土ブロック多量，焼土粒子少量，ローム粒子微量

ピット 3 か所。P 1・P 2 は深さ 25cm・40cm で，配置から主柱穴である。P 3 は深さ 28cm で，補助柱穴もしくは出入口施設に伴うピットである。第 4 層は埋土，第 1 ~ 3 層は柱材を抜き取った後の覆土である。

### ピット土層解説（各ピット共通）

1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・七本桜軽石粒子微量 3 黒色 ロームブロック少量，焼土粒子微量  
2 におい黄褐色 七本桜軽石粒子中量，ローム粒子少量 4 暗褐色 ロームブロック中量

覆土 6 層に分層できる。レンズ状に堆積をしていることから，自然堆積である。

### 土層解説

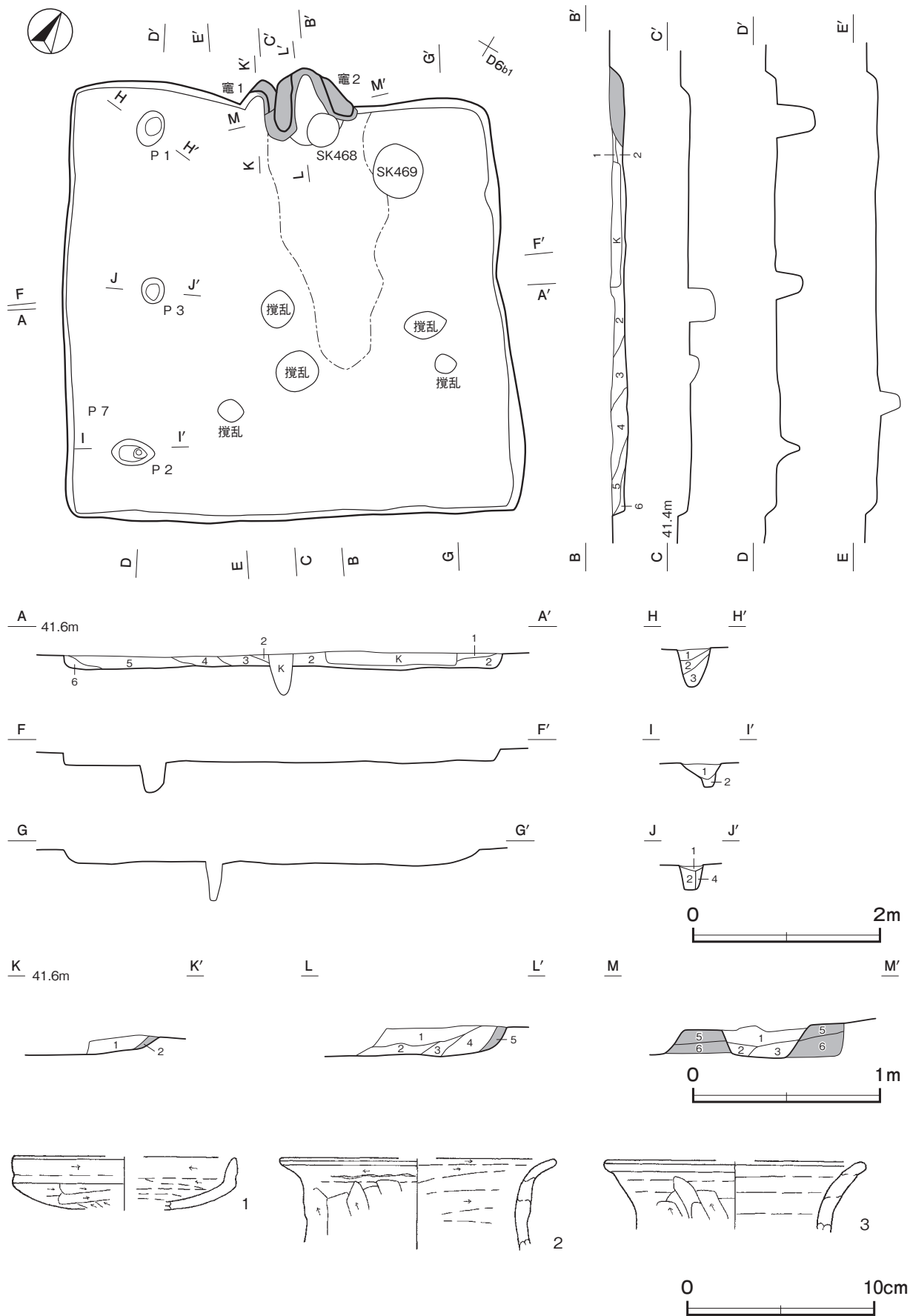
1 黒色 ローム粒子微量 4 暗褐色 ローム粒子中量，七本桜軽石粒子少量  
2 暗褐色 七本桜軽石粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量 5 暗褐色 七本桜軽石粒子多量，ローム粒子中量  
3 黒褐色 七本桜軽石粒子中量，ローム粒子・焼土粒子微量 6 暗褐色 粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・砂粒微量

遺物出土状況 土師器片 81 点（坏 10，甕類 71）のほか，縄文土器片 16 点（深鉢），弥生土器片 4 点（壺類）が，全域に散在している。多くの土器は小片で，接合関係に乏しいことから，埋没の過程で破損したものが投棄されたと考えられる。

所見 時期は，出土土器や建物跡の主軸方向から 7 世紀前葉に比定できる。

## 第 94 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 162 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[11.9]	(2.8)	-	長石・石英・雲母・針状物質	褐灰	普通	口縁部横ナデ，底部外面一方向の削り後横位の削り，内面横位のナデ	覆土中	10%
2	土師器	甕	[14.4]	(4.8)	-	長石・石英・雲母・針状物質	におい黄橙	普通	口縁部横ナデ，輪積痕，体部外面縦位の削り，内面横位のナデ	覆土中	5%
3	土師器	甕	[13.6]	(3.7)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	におい黄橙	普通	口縁部横ナデ，体部外面縦位の削り，内面横位のナデ	覆土中	5%



第 162 図 第 94 号竖穴建物跡・出土遺物実測図

第 95 号 竪穴建物跡 (第 163・164 図)

調査年度 平成 27 年度

位置 調査区中央部の D 5 a8 区, 標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

規模と形状 北部及び東部が調査区域外に延びていることから, 南北軸は 2.51 m, 東西軸は 4.74 m しか確認できなかった。方形もしくは長方形と推定でき, 主軸方向は南壁の軸方向から  $N - 20^{\circ} - W$  と推定できる。壁は高さ 40cm で, ほぼ直立している。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。壁溝が, 南壁下の東側を除いて巡っている。

ピット 3 か所。P 1・P 2 は深さ 73cm で, 配置から支柱穴である。P 3 は深さ 15cm で, 配置から出入り口施設に伴うピットである。第 3 層は埋土, 第 1・2 層は柱材を抜き取った後の覆土である。P 1・P 2 の底面で, 柱の当たりを確認した。

ピット土層解説 (各ピット共通)

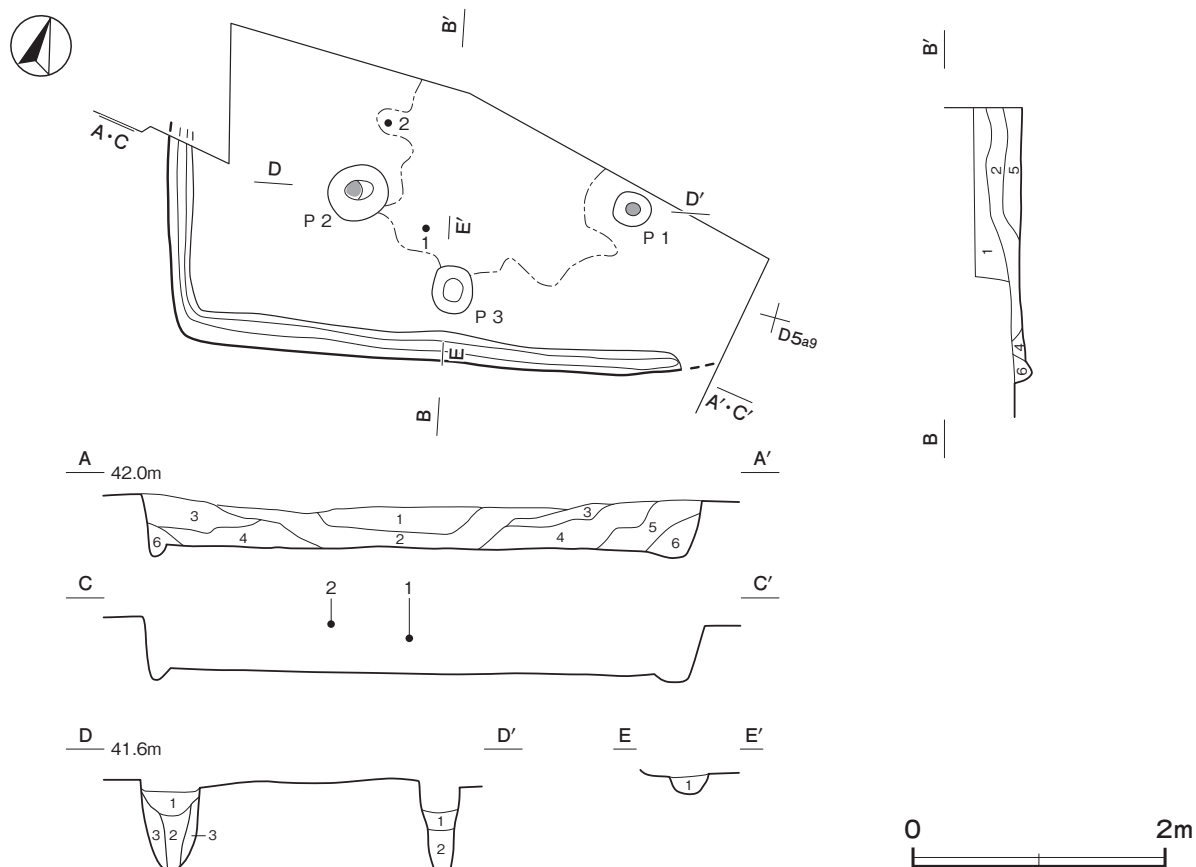
- |                 |                   |
|-----------------|-------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量 | 3 泥い黄褐色 ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量   |                   |

覆土 6 層に分層できる。ロームブロックが含まれる不規則な堆積をしていることから, 埋め戻されている。

土層解説

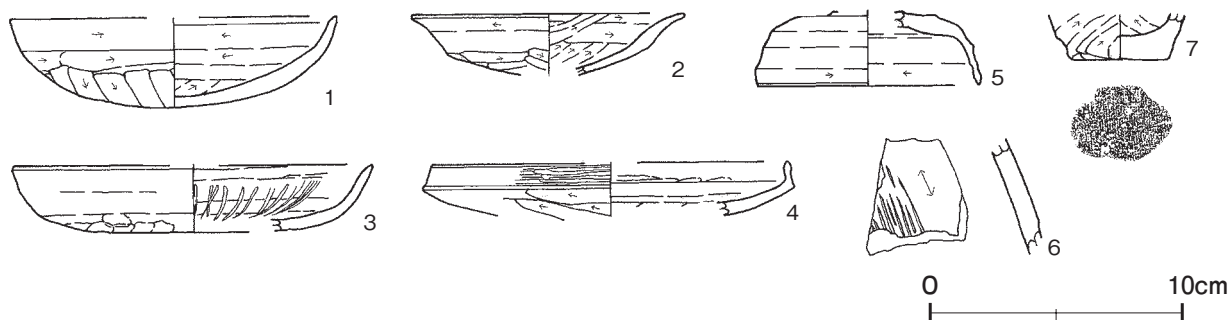
- |                      |                 |
|----------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック中量      | 4 暗褐色 ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量      | 5 黒褐色 ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量 | 6 暗褐色 ロームブロック中量 |

遺物出土状況 土師器片 220 点 (坏 63, 高坏 1, 甕類 153, ミニチュア土器 2, 不明 1), 須恵器片 1 点 (蓋), のほか, 縄文土器片 23 点 (深鉢), 弥生土器片 2 点 (壺類) が, 全域に散在している。多くの土器は中型の破片や小片で, 接合関係に乏しいことから, 破損したものが廃絶に伴って投棄されたと考えられる。



第 163 図 第 95 号 竪穴建物跡実測図

所見 時期は、出土土器から7世紀前葉に比定できる。



第 164 図 第 95 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 95 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 164 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[13.0]	3.6	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 底部外面横位のナデ後一方向の削り、内面底面一方向のナデ後横位のナデ 内面黒色処理	覆土中層	30% PL70
2	土師器	坏	10.8	(2.4)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ 底部外面横・斜位の削り、内面底面一方向のナデ後中位から口縁部に連続する横・斜位のナデ	覆土上層	40%
3	土師器	坏	[14.2]	2.5	[8.1]	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	口縁部横ナデ 底部外面横位のナデ後一方向のナデ、内面横位のナデ後放射状の磨き	覆土中	10% PL70
4	土師器	坏	[14.0]	(2.0)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ後横位の磨き 底部外面横・斜位の削り、内面底面一方向のナデ後横位のナデ	覆土中	10%
5	須恵器	蓋	[8.8]	(3.0)	-	長石・石英・針状物質	灰	普通	口縁部・体部クロコナデ 天蓋部ヘラ切りを残す一方向のナデ	覆土中	10% 轆山窯
6	土師器	甕	-	(4.7)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面線刻状の研磨痕 砥石転用。	覆土中	10%
7	土師器	ミニチュア土器	-	(1.8)	4.0	長石・石英・針状物質	浅黄橙	普通	体部外面斜位のナデ 底部外面二方向のナデ、内面一方向のナデ	覆土中	20%

### 第 96 号竪穴建物跡 (第 165 ~ 167 図)

調査年度 平成 27 年度

位置 調査区中央部の D 5 a6 区、標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第 12 号溝、第 459・464 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 5.08 m、短軸 4.94 m の方形で、主軸方向は N - 27° - W である。壁は高さ 4 ~ 20cm で、ほぼ直立している。

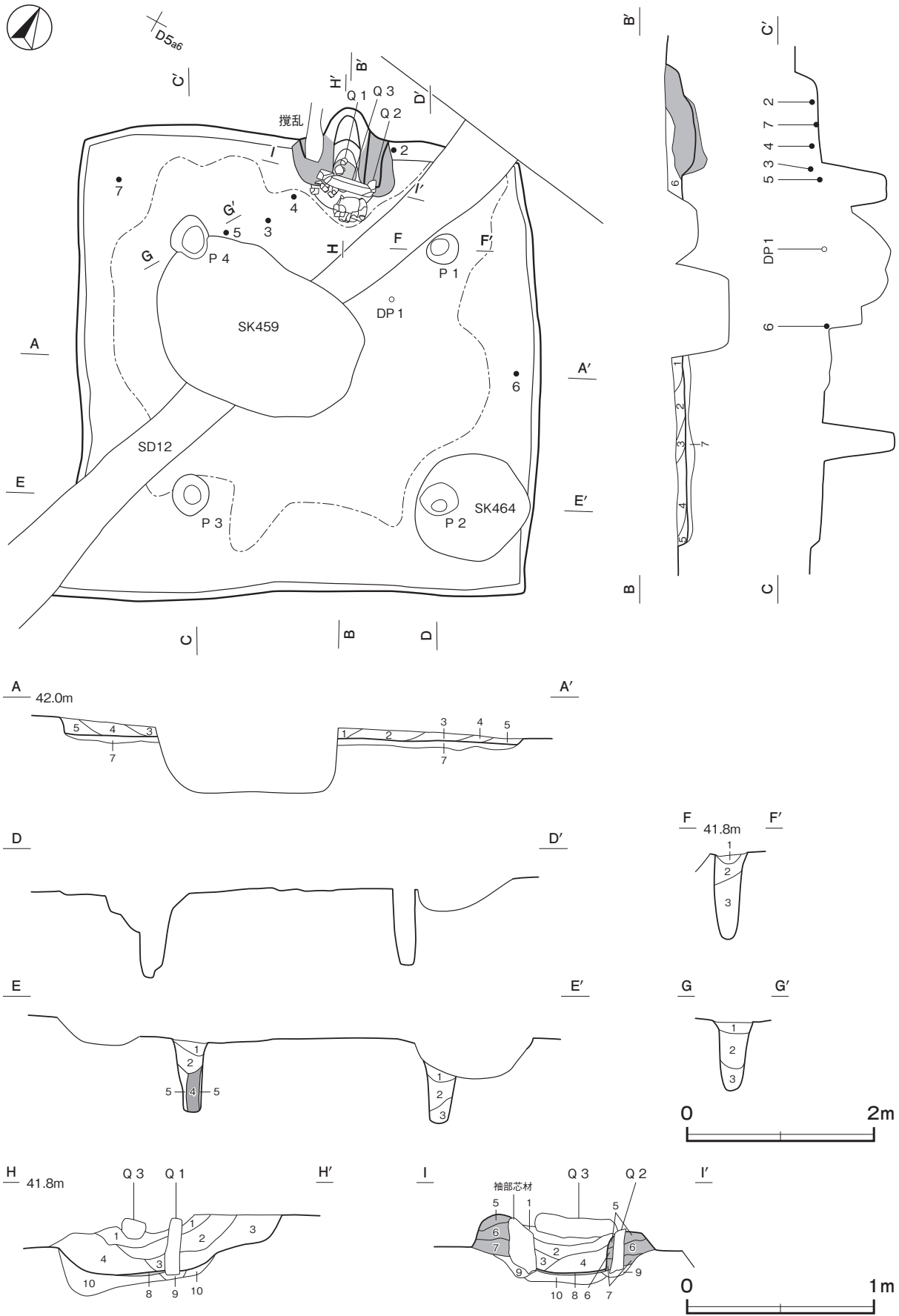
床 平坦な貼床で、中央部及び竈の前面が踏み固められている。貼床は、第 7 層を 5 ~ 10cm ほど埋め戻して構築されている。

竈 北壁中央部の東寄りに付設されている。焚き口部から煙道部までは 100cm、燃焼部の幅は 30cm である。燃焼部は床面から 30cm ほど掘りくぼめられ、第 10 層で埋め戻されている。袖部は、芯材として加工された Q 2 や凝灰質泥岩を深さ 5 cm のピットに第 9 層で固定した後、床面及び第 9・10 層上面に第 5 ~ 7 層を積み上げて構築されている。火床面は第 8 ~ 10 層の上面で、第 8 層は火熱を受けて赤変硬化している。Q 1 は下端部が第 9 層で固定され、火床部に据えつけられていることから、支脚として用いられている。煙道部は壁外に 30cm ほど掘り込まれ、火床面から外傾している。第 1 ~ 4 層は天井部や袖部の崩落土で、懸架材として用いられた Q 3 が残存していることから、自然に崩壊している。

#### 竈土層解説

1 暗褐色 焼土ブロック・焼土ブロック中量、ローム粒子微量	7 灰黄褐色 粘土ブロック・砂粒中量、ロームブロック・焼土ブロック少量
2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック中量、砂粒少量	8 赤褐色 焼土ブロック中量
3 灰黄褐色 焼土ブロック中量、粘土ブロック・炭化粒子少量	9 暗褐色 粘土ブロック中量、ロームブロック・砂粒少量
4 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量、粘土ブロック・ローム粒子微量	10 暗褐色 ローム粒子・砂粒中量、焼土ブロック少量
5 暗褐色 ローム粒子・砂粒少量、焼土粒子微量	
6 灰黄褐色 砂粒中量、ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子少量	





第 165 图 第 96 号竖穴建物跡実测图

ピット 4か所。P1～P4は深さ65～85cmで、配置から支柱穴である。第5層は埋土、第4層は柱痕跡、第1～3層は柱材を抜き取った後の覆土である。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- |                           |                    |
|---------------------------|--------------------|
| 1 暗褐色 粘土ブロック・ローム粒子微量      | 4 黒褐色 ローム粒子少量      |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量, 粘土ブロック微量 | 5 におい黄褐色 ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量, 粘土ブロック微量 |                    |

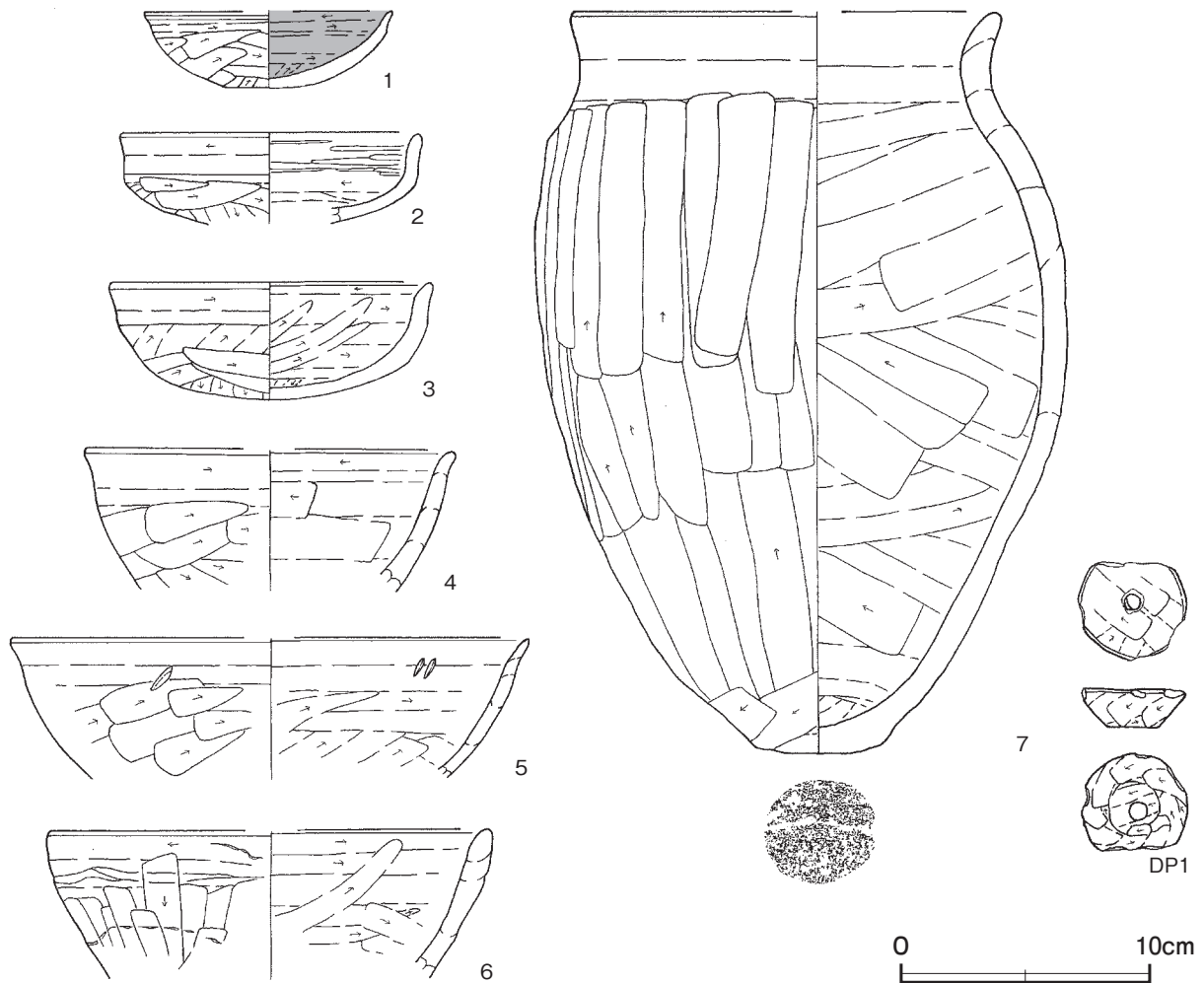
覆土 6層に分層できる。レンズ状に堆積をしていることから、自然堆積である。第7層は貼床の構築土である。

土層解説

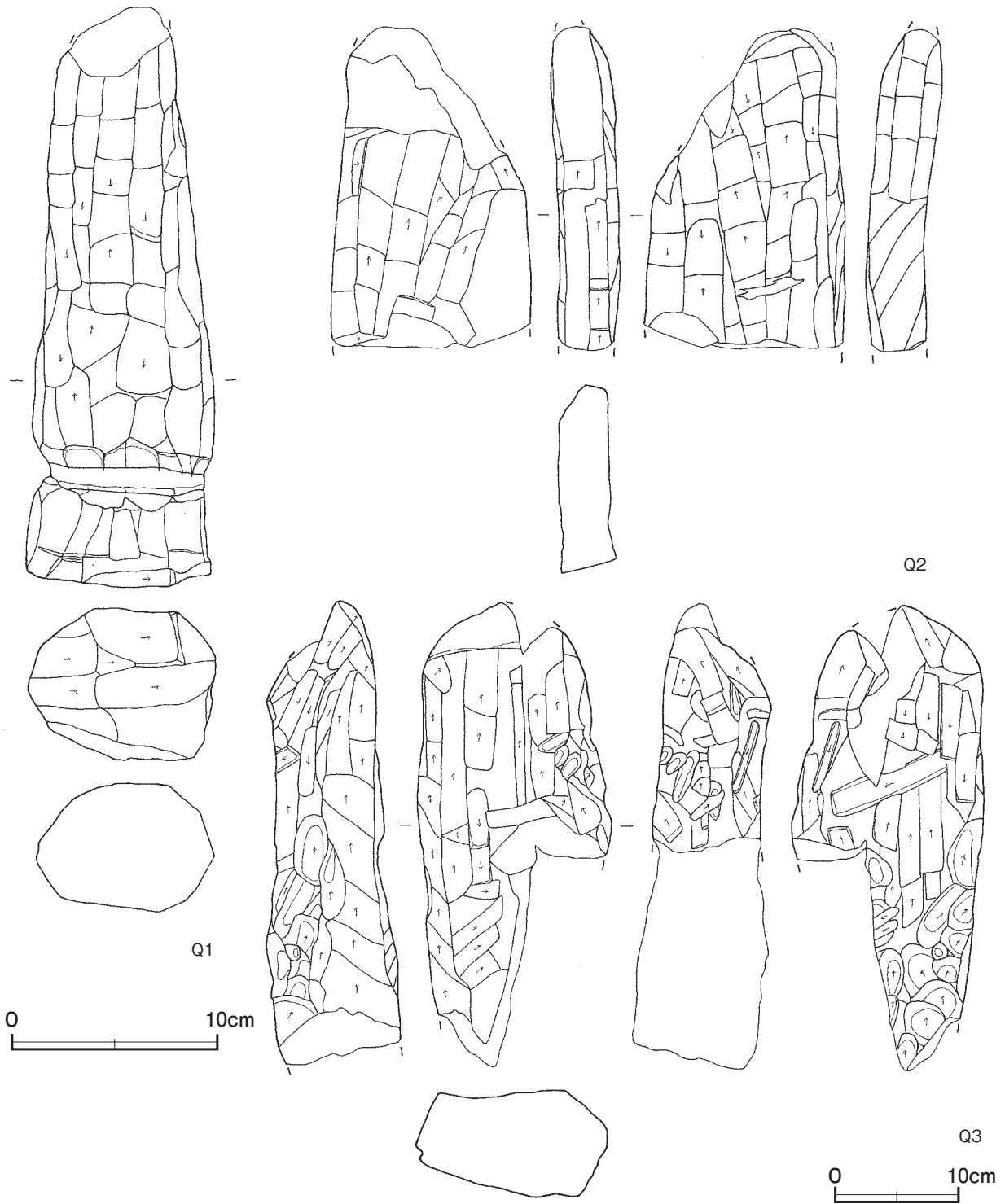
- |                              |                         |
|------------------------------|-------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量                | 5 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量, 粘土ブロック微量      | 6 黒褐色 粘土ブロック中量, ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子中量, 粘土ブロック・焼土粒子微量 | 7 黒褐色 ロームブロック多量         |
| 4 褐色 ローム粒子多量                 |                         |

遺物出土状況 土師器片 272点 (坏52, 鉢類1, 甕類219), 須恵器片1点 (蓋), 石器1点 (砥石), 石製品11点 (支脚1, 袖部芯材2, 竈材8)のほか、縄文土器片20点 (深鉢), 弥生土器片4点 (壺類)が、竈の近辺及び北半部から出土している。土器は大型や中型の破片が主で、多くは覆土下層から出土していることから、埋没の早い段階で投棄されたと考えられる。3は竈の近辺から良好な遺存状態で出土していることから、廃絶に伴って廃棄されたと考えられる。

所見 時期は、出土土器から7世紀前葉に比定できる。



第166図 第96号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 167 図 第 96 号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第 96 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 166・167 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[10.0]	(3.0)	-	長石・石英・雲母・針状物質	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ 底部外面一方向の削り後斜位の削り、内面一方向のナデ後横位のナデ内面黒色処理	覆土中	20%
2	土師器	坏	11.9	(3.6)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ後内面横位の磨き、底部外面一方向の削り後斜位の削り、内面横位のナデ	覆土下層	40%
3	土師器	坏	12.9	4.8	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 底部外面斜位のナデ、一方向の削り後斜位の削り、内面一方向のナデ後中位から口縁部に連続する横・斜位のナデ	覆土下層	95% PL68
4	土師器	坏	[14.6]	(5.7)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 底部外面横・斜位の削り、内面横位のナデ	覆土下層	10%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
5	土師器	坏	[20.7]	(5.6)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 底部外面斜位の削り、内面二方向のナデ後横位のナデ	覆土下層	10%
6	土師器	鉢	[17.4]	(6.0)	-	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	口縁部横ナデ、輪積痕 体部外面横位のナデ後縦位の削り、内面横・斜位のナデ	覆土下層	20%
7	土師器	甕	[16.6]	30.0	5.0	長石・石英・赤色粒子・細礫	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の削り後下端部斜位の削り、内面横・斜位のナデ 底部外・内面一方向のナデ	覆土下層	60%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	紡錘車	4.3	(1.6)	0.7	(22.08)	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい黄橙	上面二方向のナデ 下面一方向のナデ 側面横位のナデ後斜位のナデ 上面からの一方向の穿孔	覆土下層	80% PL101

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	支脚	(28.4)	8.9	7.5	(850.43)	凝灰質泥岩	上面劣化のため調整不明 下面一方向の削り調整 側面縦位の削り調整	竈火床面	PL105
Q 2	袖部芯材	(26.1)	16.2	6.1	(1015)	凝灰質泥岩	上・下面欠損 側面4面縦位の削り調整	袖構築土中	
Q 3	竈材	(37.9)	15.8	11.2	(2027)	凝灰質泥岩	両端部欠損、残存部削り調整 側面多方向の削り調整 懸架材	竈覆土中	

### 第 97 号竪穴建物跡（第 168・169 図）

調査年度 平成 27 年度

位置 調査区中央部の D 5c3 区、標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第 444 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東部の一部が後世の耕作などによる削平を受けているが、長軸 5.27 m、短軸 4.89 m の方形である。主軸方向は N - 25° - W である。壁は高さ 16 ~ 23cm で、ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で、中央部及び竈の近辺、南壁際の一部が踏み固められている。貼床は、第 6・7 層を 10 ~ 30cm ほど埋め戻して構築されている。掘方は、壁際が回りの字状に掘り込まれている。壁溝が、北東隅部及び北西隅部の壁下に巡っている。

竈 北壁の中央部に付設されている。焚き口部から煙道部までは 100cm、燃焼部の幅は 40cm である。燃焼部は床面から 5cm ほど掘りくぼめられ、第 6・7 層で埋め戻されている。袖部は、芯材として加工された凝灰質泥岩を第 6 層で固定した後、床面及び第 7 層上面に第 4・5 層を積み上げて構築されている。火床面は第 6・7 層の上面で、第 6 層が火熱を受けて赤変硬化している。下端部が第 6 層で固定された凝灰質泥岩は、火床部に据えつけられていることから、支脚として用いられている。煙道部は壁外に 20cm ほど掘り込まれ、第 4 層が貼り付けられている。火床面からは、外傾している。第 3 層は煙道部からの流入土、第 1・2 層は粘土ブロックが含まれた天井部の崩落土で、懸架材として加工された凝灰質泥岩が良好な状態で出土したことから、自然に崩壊している。

#### 竈土層解説

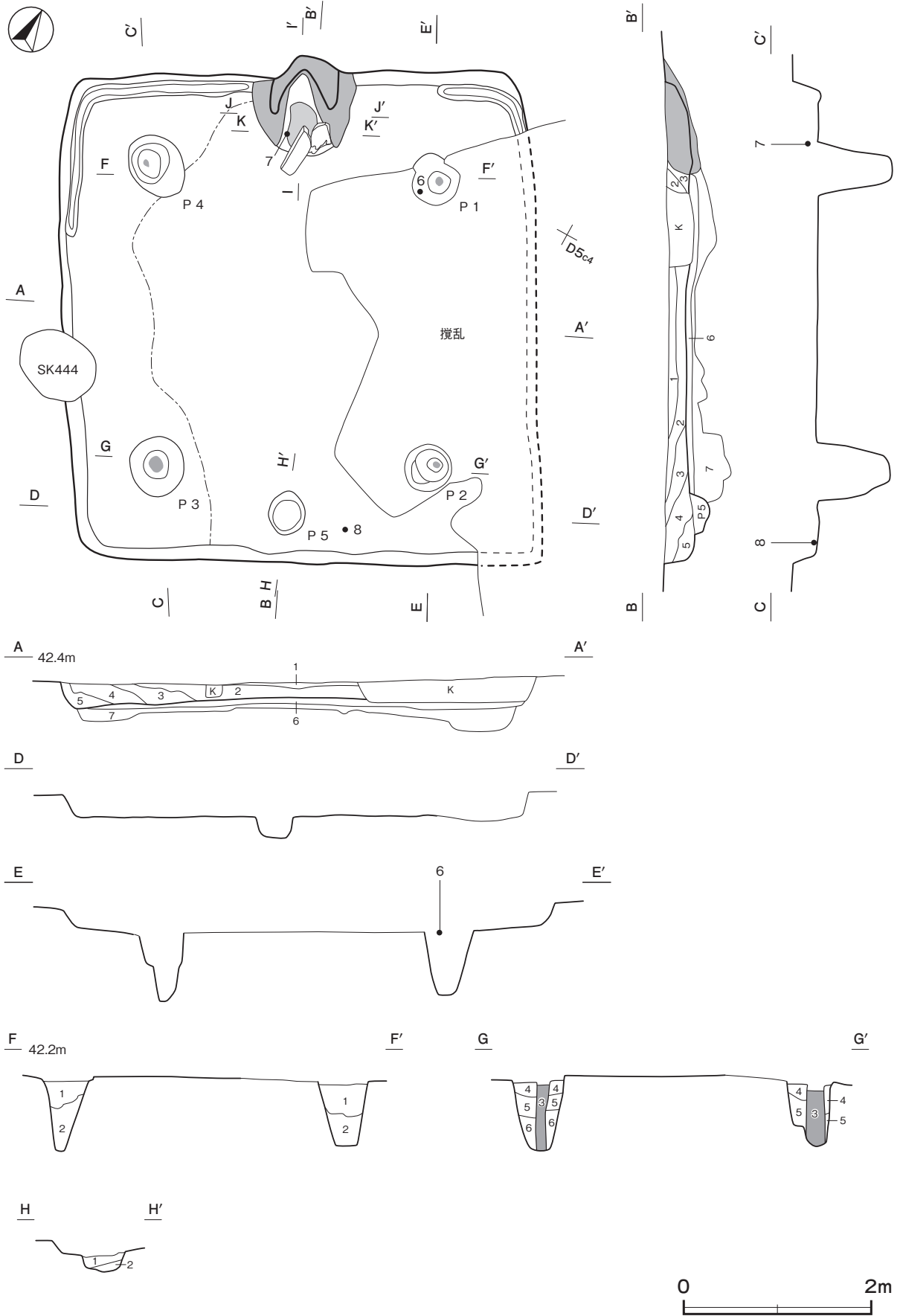
- |                             |                         |
|-----------------------------|-------------------------|
| 1 灰褐色 粘土ブロック中量、ロームブロック微量    | 5 暗赤褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量 |
| 2 灰褐色 粘土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 6 暗赤褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量  |
| 3 褐色 ローム粒子中量                | 7 褐色 ロームブロック中量          |
| 4 暗赤褐色 粘土ブロック・焼土粒子中量        |                         |

ピット 5 か所。P 1 ~ P 4 は深さ 70 ~ 75cm で、配置から主柱穴である。P 5 は深さ 20cm で、出入り口施設に伴うピットである。第 4 ~ 6 層は埋土、第 3 層は柱痕跡、第 1・2 層は柱材を抜き取った後の覆土である。P 1 ~ P 4 の底面で、柱の当たりを確認した。

#### ピット土層解説（各ピット共通）

- |                        |                 |
|------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量   | 4 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 5 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量、炭化物微量  | 6 褐色 ロームブロック少量  |

覆土 5 層に分層できる。第 2 ~ 5 層はロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第 1 層



第 168 图 第 97 号竖穴建物迹实测图

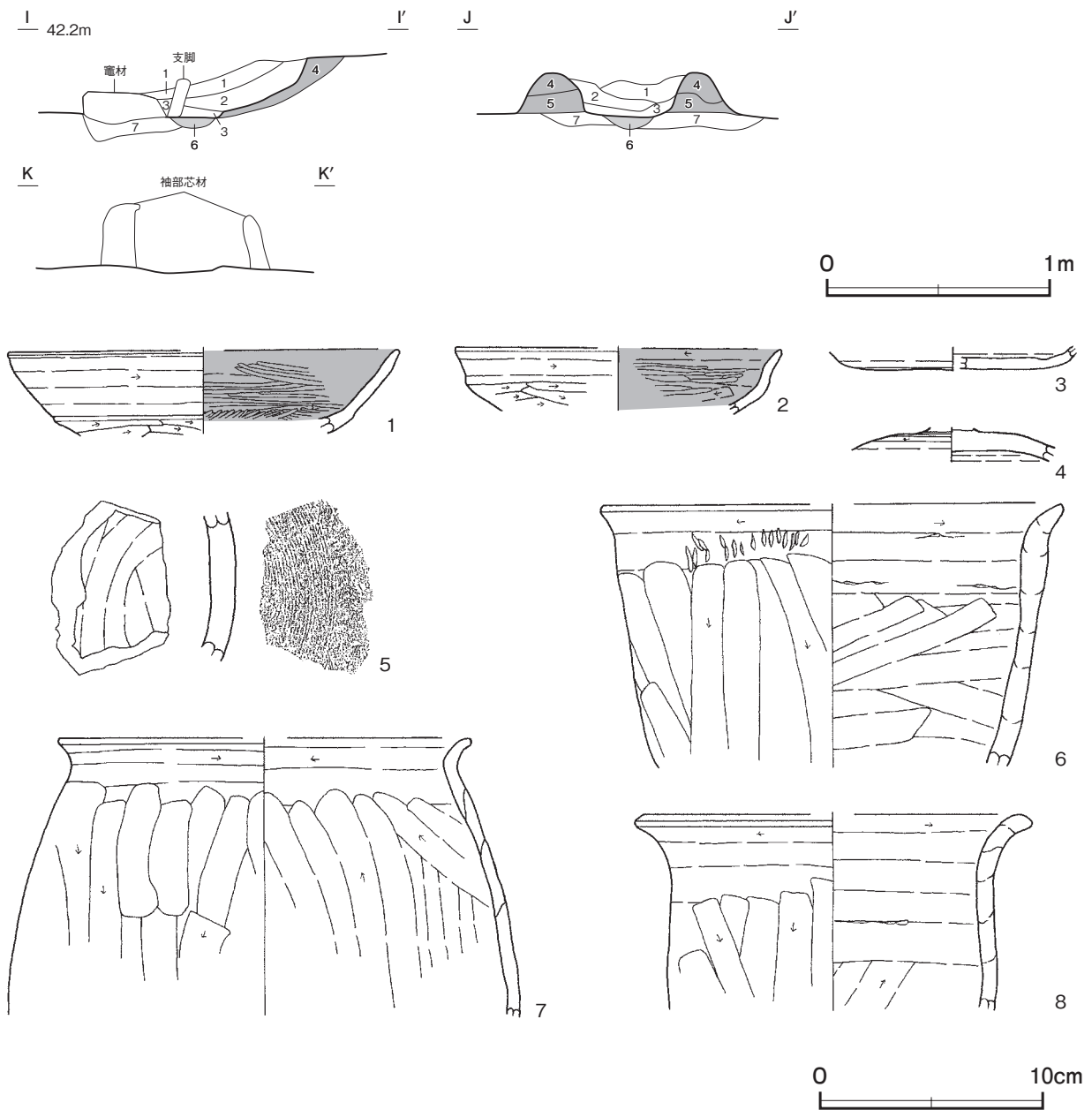
は、埋め戻された後の自然堆積である。第6・7層は貼床の構築土である。

**土層解説**

- |       |                         |       |                     |
|-------|-------------------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量            | 5 褐色  | ロームブロック少量, 粘土ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量       | 6 黄褐色 | ロームブロック多量           |
| 3 黄褐色 | ロームブロック中量, 粘土ブロック・炭化物微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック中量           |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量, 粘土ブロック微量     |       |                     |

**遺物出土状況** 土師器片 165 点 (坏 16, 甕類 149), 須恵器片 5 点 (坏 2, 蓋 2, 壺 1), 石器 1 点 (砥石), 石製品 58 点 (袖部芯材 2, 竈材 56) のほか, 縄文土器片 38 点 (深鉢), 弥生土器片 5 点 (壺類) が, 全域に散在している。多くの土器は小片で, 接合関係に乏しいことから, 破損したものが廃絶に伴って投棄されたと考えられる。

**所見** 時期は, 出土土器から 7 世紀中葉に比定できる。



第 169 図 第 97 号 竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 97 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 169 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[17.6]	(3.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ後内面横位の磨き、底部外面斜位の削り、内面二方向の磨き、内面黒色処理	覆土中	10%
2	土師器	坏	[14.5]	(2.9)	-	長石・石英・針状物質・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ後内面横位の磨き、底部外面横位の削り、内面横位のナデ後横位の磨き、内面黒色処理	覆土中	10%
3	須恵器	坏	-	(1.0)	[8.0]	長石・石英・針状物質	灰黄	普通	体部ロクロナデ 底部回転ヘラ削り	覆土中	10% 轆山窯カ
4	須恵器	蓋	-	(1.5)	-	長石・石英・針状物質	灰黄	普通	体部ロクロナデ 天蓋部回転ヘラ削り	覆土中	10% 轆山窯カ
5	須恵器	壺	-	(7.8)	-	長石・石英・針状物質	褐灰	普通	体部ロクロナデ後外面カキ目調整 自然袖付着、内面天井部一方向のナデ	覆土中	10% 轆山窯カ
6	土師器	甕	[20.6]	(11.8)	-	長石・石英・針状物質・細礫	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の削り、内面横・斜位のナデ、輪積痕	覆土下層	10% 煤付着
7	土師器	甕	[18.4]	(12.5)	-	長石・石英・雲母・針状物質・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の削り、内面縦・斜位のナデ	覆土下層	10% 煤付着
8	土師器	甕	[18.0]	(8.8)	-	長石・石英・針状物質・砂礫	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の削り、内面斜位のナデ	覆土下層	10% 煤付着

第 98 号竪穴建物跡（第 170・171 図）

調査年度 平成 27 年度

位置 調査区中央部の D 5 d2 区、標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第 444 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 西部が調査区域外に延びていることから、南北軸は 5.13 m で、東西軸は 4.40 m しか確認できなかった。方形もしくは長方形と推定でき、主軸方向は N - 7° - E である。壁は高さ 6 ~ 15cm で、ほぼ直立している。

床 平坦で、中央部及び竈の近辺、南壁際の一部が踏み固められている。壁溝が、北壁下の一部及び攪乱を受けた部分を除いて巡っている。

竈 北壁に付設されているが、詳細な位置は不明である。焚き口部から煙道部までは 120cm、燃焼部の幅は 40 cm である。燃焼部は床面から 10 ~ 20cm ほど掘りくぼめられ、第 5 ~ 7 層で埋め戻されている。袖部は、芯材として加工された凝灰質泥岩を第 6 層で固定した後、第 6・7 層上面に第 3・4 層を積み上げて構築されている。火床面は第 5 ~ 7 層の上面で、第 5 層は火熱を受けて赤変硬化している。Q 1 は下端部が第 6 層で固定され、火床部に据えつけられていることから、支脚として用いられている。煙道部は壁外に 30cm ほど掘り込まれ、第 3 層が貼り付けられている。火床面からは、外傾している。第 1・2 層はロームブロックや粘土ブロックが含まれていることや、懸架材として用いられた凝灰質泥岩が破碎されていることから、壊されている。

竈土層解説

- |          |                         |          |                |
|----------|-------------------------|----------|----------------|
| 1 にぶい黄褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量 | 5 にぶい赤褐色 | 焼土粒子多量、ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色    | ロームブロック中量               | 6 暗褐色    | ロームブロック多量      |
| 3 灰黄褐色   | 焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子少量   | 7 にぶい黄褐色 | ロームブロック多量      |
| 4 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック少量、ロームブロック微量      |          |                |

ピット 6 か所。P 1 ~ P 4 は深さ 25 ~ 90cm で、配置から主柱穴である。P 5・P 6 は深さ 20cm で、配置から出入口施設に伴うピットである。第 3 層は埋土、第 1・2 層が柱材を抜き取った後の覆土である。

ピット土層解説（各ピット共通）

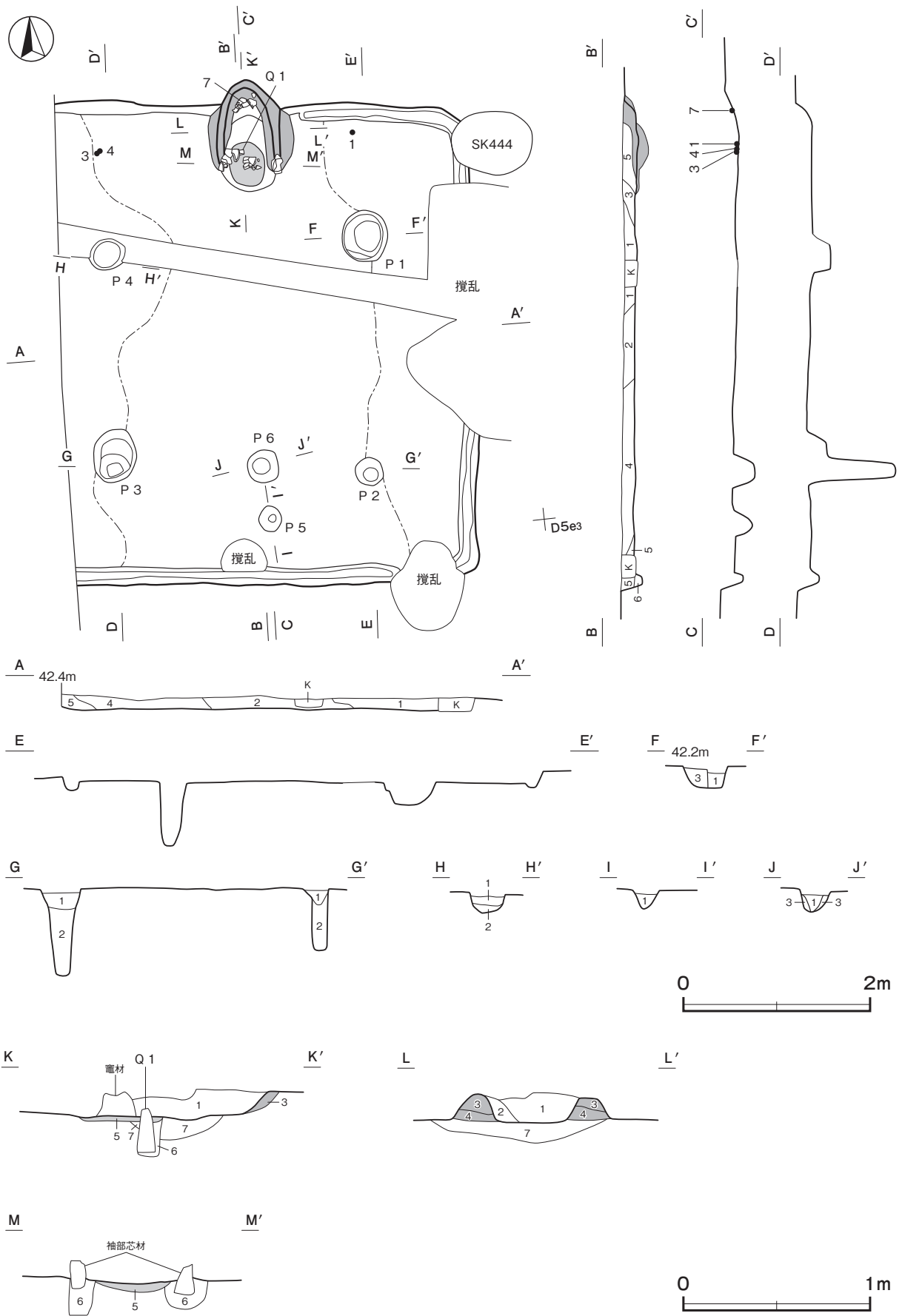
- |       |           |      |           |
|-------|-----------|------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量 | 3 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 褐色  | ロームブロック少量 |      |           |

覆土 5 層に分層できる。レンズ状に堆積をしていることから、自然堆積である。

土層解説

- |       |         |       |         |
|-------|---------|-------|---------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量 | 4 褐色  | ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量 | 5 黒褐色 | ローム粒子中量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量 |       |         |

遺物出土状況 土師器片 120 点（坏 2, 甕類 118）, 須恵器片 18 点（蓋 1, 甕類 17）, 石製品 3 点（支脚 1, 竈材 2）

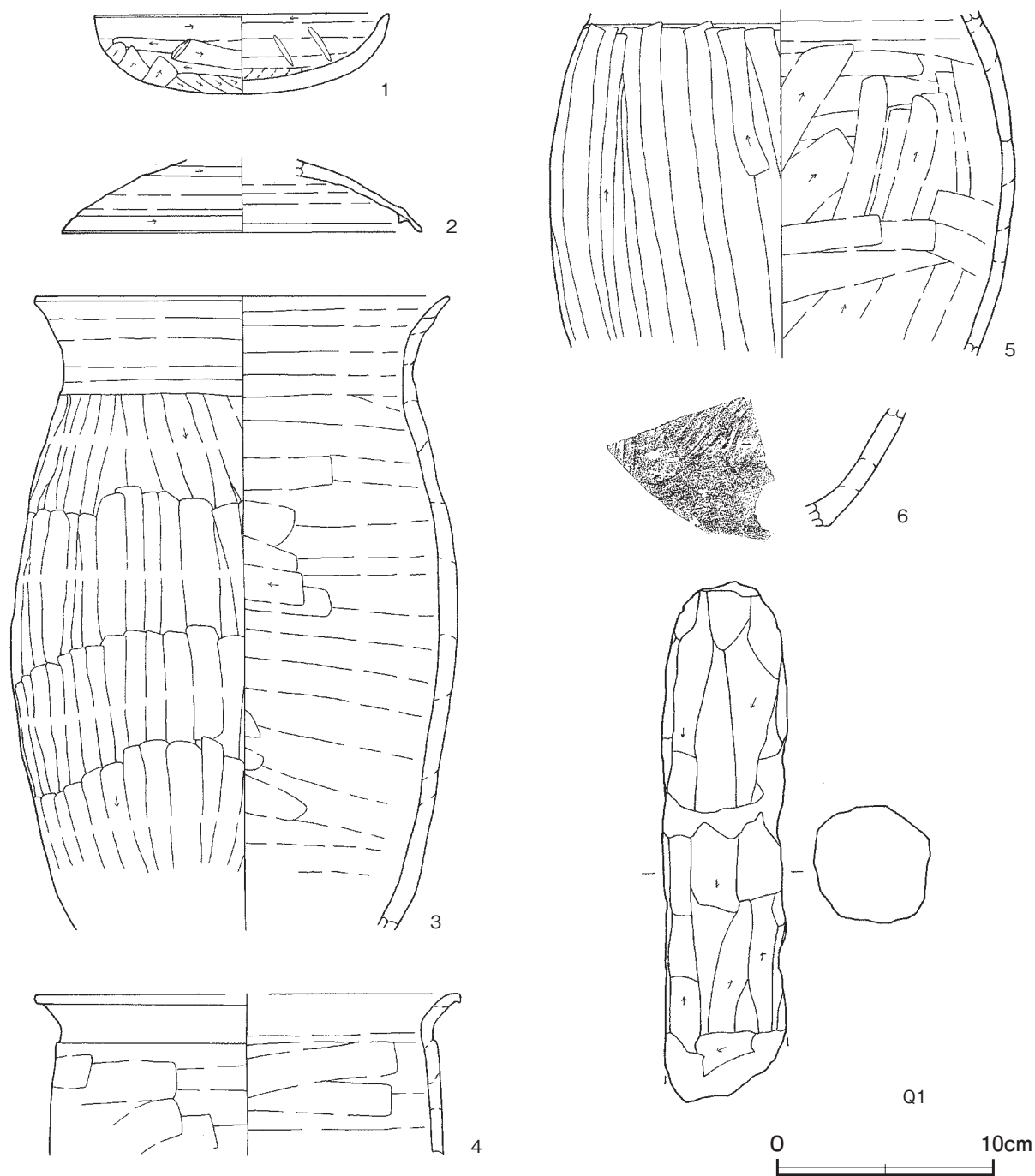


第 170 图 第 98 号竖穴建物迹实测图



のほか、縄文土器片 16 点（深鉢）、弥生土器片 2 点（壺類）が、主に竈の近辺から出土している。多くの土器は、大型の破片と小片に分かれる。大型の破片は接合関係が良好で、主に覆土の中層や下層から出土していることから、埋没の早い段階で投棄されたと考えられる。2・6 は小片で覆土の上位から出土していることから、埋没の過程での流入と考えられる。4 は、竈の燃焼部や煙道部から出土しているが、接合関係が乏しいことから、廃絶後の投棄である。

所見 時期は、出土土器から 7 世紀後葉に比定できる。



第 171 図 第 98 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 98 号 竪穴建物跡出土遺物観察表（第 171 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	13.6	3.7	-	長石・石英・雲母・針状物質	赤褐	普通	口縁部横ナデ 底部外面一方向の削り後横・斜位の削り、内面一方向のナデ後横位のナデ	覆土下層	95%
2	須恵器	蓋	[16.5]	(3.4)	-	長石・石英・針状物質	灰褐	良好	口縁部・体部ロクロナデ 天蓋部回転ヘラ削り	覆土中	10% 産地不明
3	土師器	甕	19.0	(29.5)	-	長石・石英・雲母・針状物質・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の削り、内面横位のナデ	覆土下層	70% 煤付着
4	土師器	甕	[19.6]	(7.5)	-	長石・石英・雲母・針状物質	明赤褐	普通	口縁部横ナデ 体部外・内面横・斜位のナデ	覆土上層	5% 煤付着
5	土師器	甕	-	(16.1)	-	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	体部外面縦位の削り、内面縦・横位のナデ	覆土下層	30% 煤付着
6	須恵器	甕	-	(5.5)	-	長石・石英・針状物質	赤灰	良好	体部ロクロナデ 体部外面縦位の平行叩き後下 端部斜位の削り	覆土中	5% 木葉下窯

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	支脚	(24.1)	5.4 ~ 5.9	5.9	(430.66)	凝灰質泥岩	上面劣化のため詳細不明 下面欠損 側面削り調整	竈火床面	

第 99 号 竪穴建物跡（第 172 図）

調査年度 平成 27 年度

位置 調査区中央部の C 5 h4 区、標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第 105 号 竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 東部が調査区域外に延びていることから、南北軸は 3.88 m、東西軸は 2.10 m しか確認できなかった。方形もしくは長方形と推定できるが、主軸方向は不明である。壁は高さ 47 ~ 55cm で、ほぼ直立している。床 平坦で、南西部の壁際を除いて踏み固められている。壁溝が、調査区域外及び北西部の壁下を除いて巡っている。

ピット P 1 は深さ 25cm で、配置から支柱穴の可能性がある。第 2 層は埋土、第 1 層は柱材を抜き取った後の覆土である。

ピット土層解説

- |       |           |      |           |
|-------|-----------|------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量 | 2 褐色 | ロームブロック中量 |
|-------|-----------|------|-----------|

覆土 10 層に分層できる。第 4 ~ 10 層はロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第 1 ~ 3 層はレンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

土層解説

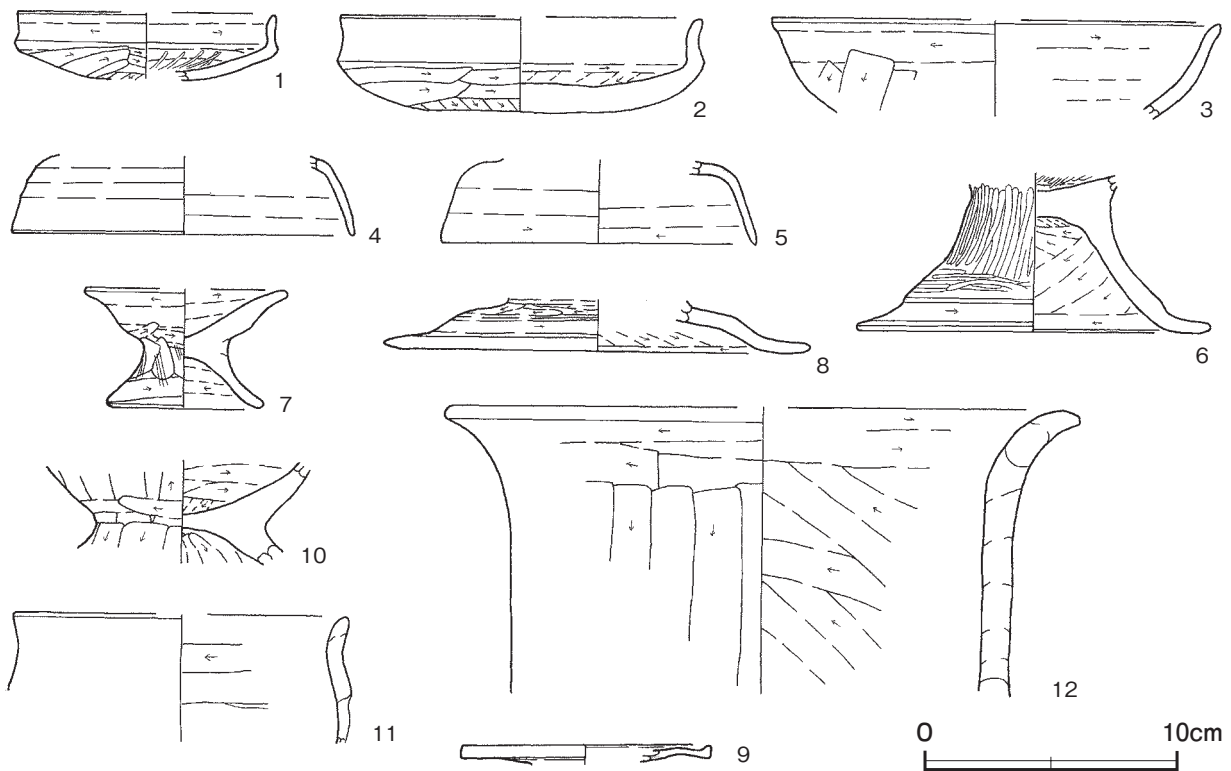
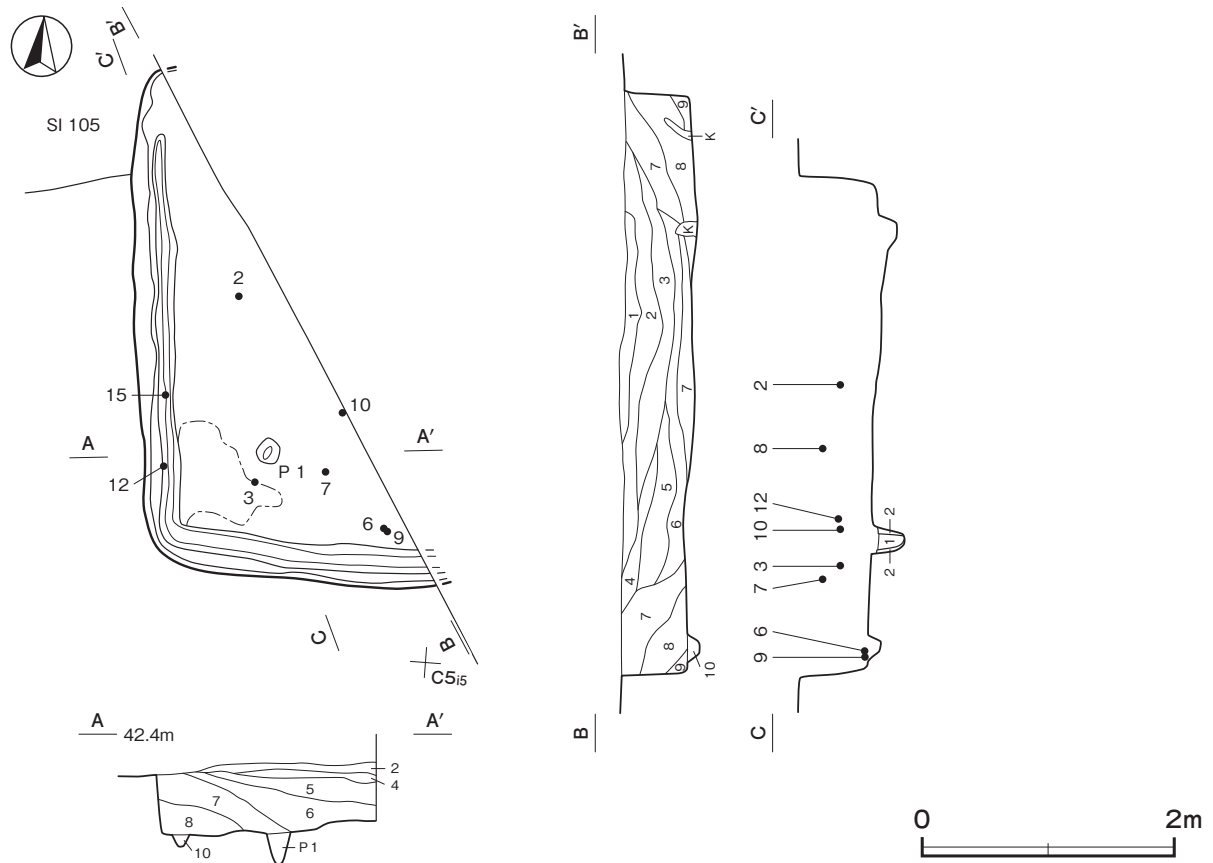
- |       |                     |          |                      |
|-------|---------------------|----------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量        | 6 におい黄褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量、炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色    | ロームブロック・炭化粒子微量       |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量    | 8 黄褐色    | ロームブロック少量            |
| 4 褐色  | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色    | ロームブロック微量            |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量           | 10 褐色    | ロームブロック中量            |

遺物出土状況 土師器片 315 点（坏 42、高坏 6、甕類 267）、須恵器片 6 点（坏 2、蓋 2、瓶類 1、甕類 1）のほか、縄文土器片 5 点（深鉢）、弥生土器片 2 点（壺類）が、西半部から出土している。多くの土器は中型の破片や小片で、接合関係に乏しいことから、破損したものが廃絶に伴って投棄されたと考えられる。覆土上層から出土は、流入と思われる。

所見 時期は、出土土器から 7 世紀前葉に比定できる。

第 99 号 竪穴建物跡出土遺物観察表（第 172 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[5.4]	(2.4)	-	長石・石英・雲母	黒褐	普通	口縁部横ナデ 底部外面一方向の削り後横・斜位の削り、内面横位のナデ後放射状の磨き 処理	覆土中	10%
2	土師器	坏	[14.0]	(3.7)	-	長石・石英・雲母・針状物質・赤色粒子	におい黄褐	普通	口縁部横ナデ 底部外面一方向の削り後横・斜位の削り、内面一方向のナデ後横位のナデ	覆土中層	20%



第 172 图 第 99 号竖穴建物跡・出土遺物実測図

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
3	土師器	坏	[17.6]	(3.8)	-	長石・雲母・針状物質・赤色粒子	橙	普通	口縁部・体部ロクロナデ 体部外面縦・斜位の削り	覆土中層	10%
4	須恵器	蓋	[12.4]	(3.3)	-	長石・石英・針状物質	黄灰	普通	口縁部・体部ロクロナデ	覆土中	10% 轆山窯 <sub>2</sub>
5	須恵器	蓋	[13.4]	(3.1)	-	長石・石英・針状物質	灰白	普通	口縁部・体部ロクロナデ	覆土中	10% 轆山窯 <sub>2</sub>
6	土師器	高坏	-	(6.3)	13.5	長石・石英・雲母・針状物質・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	坏部内面一方向の磨き 脚部外面縦・横位の磨き後下端部横ナデ、内面螺旋状のナデ 外面漆処理	覆土中層	40% PL76
7	土師器	高坏	[7.8]	4.7	[5.8]	長石・石英・雲母・針状物質・赤色粒子	橙	普通	坏部・脚部ロクロナデ 坏部外面下端部斜位のナデ 脚部外面3～4条のハケ目調整後斜位の削り	覆土中層	80% PL76 煤付着
8	土師器	高坏	-	(2.1)	[16.9]	長石・石英・雲母・針状物質・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	脚部外面横・斜位のナデ後下端部横ナデ、内面一方向のナデ	覆土中層	10%
9	須恵器	瓶類	(9.8)	(0.7)	-	長石・石英・針状物質	黄灰	普通	口縁部ロクロナデ	覆土中層	5% 轆山窯 <sub>2</sub>
10	土師器	脚付甕	-	(4.1)	-	長石・雲母・針状物質・赤色粒子	橙	普通	体部外面縦位の削り後横位のナデ、内面一方向のナデ後横位のナデ 脚部外面縦位の削り、内面縦位のナデ	覆土中層	30%
11	土師器	小形甕	[13.4]	(5.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部・体部外面劣化のため調整不明 口縁部内面横ナデ、体部内面横位のナデ	覆土中	5% 二次焼成
12	土師器	甕	[25.2]	(11.2)	-	長石・石英・雲母・針状物質・赤色粒子	暗灰	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の削り、内面斜位のナデ	覆土中層	5% 煤付着

## 第100号竪穴建物跡（第173図）

調査年度 平成27年度

位置 調査区中央部のC5g3区、標高42mほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第105号竪穴建物跡を掘り込み、第3号方形竪穴遺構に掘り込まれている。

規模と形状 後世の耕作などによる削平を受けていることから、床面が露呈している状態で確認した。西隅部が調査区域外に延びているが、長軸は5.40m、短軸は4.69mの方形と推定できる。主軸方向はN-30°-Wである。

床 平坦な貼床で、中央部及び西壁際、北東部が踏み固められている。貼床は、第2層を5cmほど埋め戻して構築されている。

竈 北壁中央部のやや東寄りに付設されている。焚き口部から煙道部までは110cmしか確認できなかったが、燃焼部の幅は90cmほどと推定できる。燃焼部は床面から10cmほど掘りくぼめられ、第1層で埋め戻されている。火床面は第1層の上面で、火熱を受けているものの、赤変硬化はしていない。煙道部は壁外に60cmほどが残存しているが、火床面から煙道部の傾斜は不明である。

ピット P1は深さ55cmで、配置から出入り口施設に伴うピットである。第3層は埋土、第1・2層は、柱材を抜き取った後の覆土である。

### ピット土層解説

- |                 |                    |
|-----------------|--------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量   | 3 にぶい黄褐色 ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量 |                    |

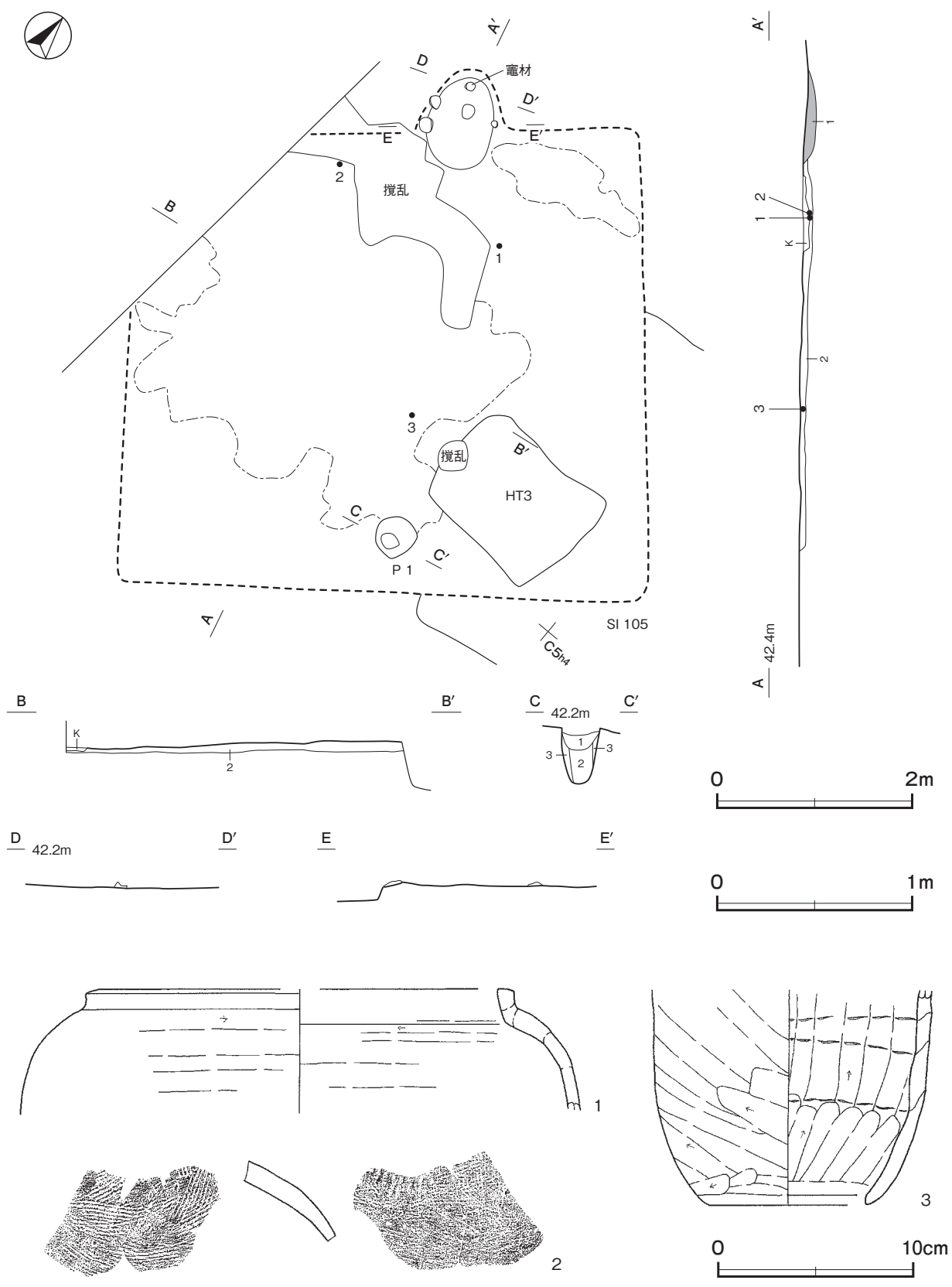
貼床構築土 単一層である。第2層は、床の構築に伴って埋め戻されている。第1層は、竈の掘方の覆土である。

### 竈及び貼床構築土土層解説

- |                 |                    |
|-----------------|--------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック微量 | 2 にぶい黄褐色 ロームブロック少量 |
|-----------------|--------------------|

遺物出土状況 土師器片34点（坏9、甕類24、甑1）、須恵器片2点（甕類）のほか、縄文土器片5点（深鉢）が、掘方の覆土から出土している。多くの土器は小片で、接合関係に乏しいことから、床の構築に伴って破損したものが廃絶に伴って投棄、もしくは混入したと考えられる。

所見 時期は、出土土器から6世紀後葉に比定できる。



第 173 図 第 100 号豎穴建物跡・出土遺物実測図

第 100 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 173 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	短頸壺	[20.5]	(6.2)	-	長石・石英・雲母・針状物質	赤褐	普通	口縁部・体部ロクロナデ	貼床構築土	10%
2	須恵器	甕	-	-	-	長石・石英・針状物質・黒色粒子	灰	普通	体部ロクロナデ 体部外面縦位の平行叩き後カキ目調整、内面横位のナデ後多方向のカキ目調整	貼床構築土	5% 幡山窯
3	土師器	甗	-	(10.9)	[8.0]	長石・石英・雲母・針状物質	明黄褐	普通	体部外面斜位のナデ後下端部横位のナデ、内面縦位のナデ後下端部横位のナデ 底部口腔部横位のヘラ削り	貼床構築土	20% 煤付着

第 101 号竪穴建物跡（第 174・175 図）

調査年度 平成 27 年度

位置 調査区中央部の C 5 h3 区，標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第 111 号竪穴建物跡，第 479・500 号土坑を掘り込み，第 455・466 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 4.20 m，短軸 3.84 m の方形で，主軸方向は N - 9° - W である。壁は高さ 26 ~ 30cm で，ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で，確認できた部分では，東壁際を除いて踏み固められている。貼床は，第 7 層を 10 ~ 20cm ほど埋め戻して構築されている。壁溝が，西半部の壁下に巡っている。

竈 北壁の中央部に付設されている。焚き口部から煙道部までは 100cm，燃烧部の幅は 40cm である。燃烧部は床面から 20cm ほど掘りくぼめられ，第 7・8 層で埋め戻されている。袖部は，床面及び第 8 層上面に第 5・6 層を積み上げて構築されている。火床面は第 7・8 層の上面で，第 7 層は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 50cm ほど掘り込まれ，第 5 層が貼り付けられている。火床面からは，外傾している。第 4 層は袖部からの崩壊土，第 2・3 層は天井部の崩落土，第 1 層は崩壊後の覆土であることから，自然に崩壊している。

竈土層解説

- |                              |                             |
|------------------------------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 焼土ブロック・粘土ブロック中量，炭化粒子少量 | 5 灰褐色 粘土ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 2 灰黄褐色 粘土ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子微量 | 6 灰褐色 粘土ブロック多量，ローム粒子微量      |
| 3 暗赤褐色 焼土粒子中量，炭化粒子少量，ローム粒子微量 | 7 暗赤褐色 焼土ブロック多量             |
| 4 灰褐色 ローム粒子中量，粘土ブロック・炭化粒子微量  | 8 暗褐色 ローム粒子少量               |

ピット 4 か所。P 1 ~ P 3 は深さ 35 ~ 60cm で，配置から主柱穴である。P 1・P 2 の覆土は，第 3 層が埋土，第 1・2 層が柱材を抜き取った後の覆土である。P 4 は深さ 20cm で，貯蔵穴の可能性はあるが，不明である。第 1 ~ 3 層はロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。P 1 ~ P 3 の底面で，柱の当たりを確認した。

P 1・2 土層解説

- |                 |                    |
|-----------------|--------------------|
| 1 褐色 ロームブロック少量  | 3 にぶい黄褐色 ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量 |                    |

P 4 土層解説

- |                        |                 |
|------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 | 3 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 褐色 ロームブロック少量         |                 |

覆土 6 層に分層できる。第 1 ~ 6 層はロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。第 7 層は貼床の構築土である。

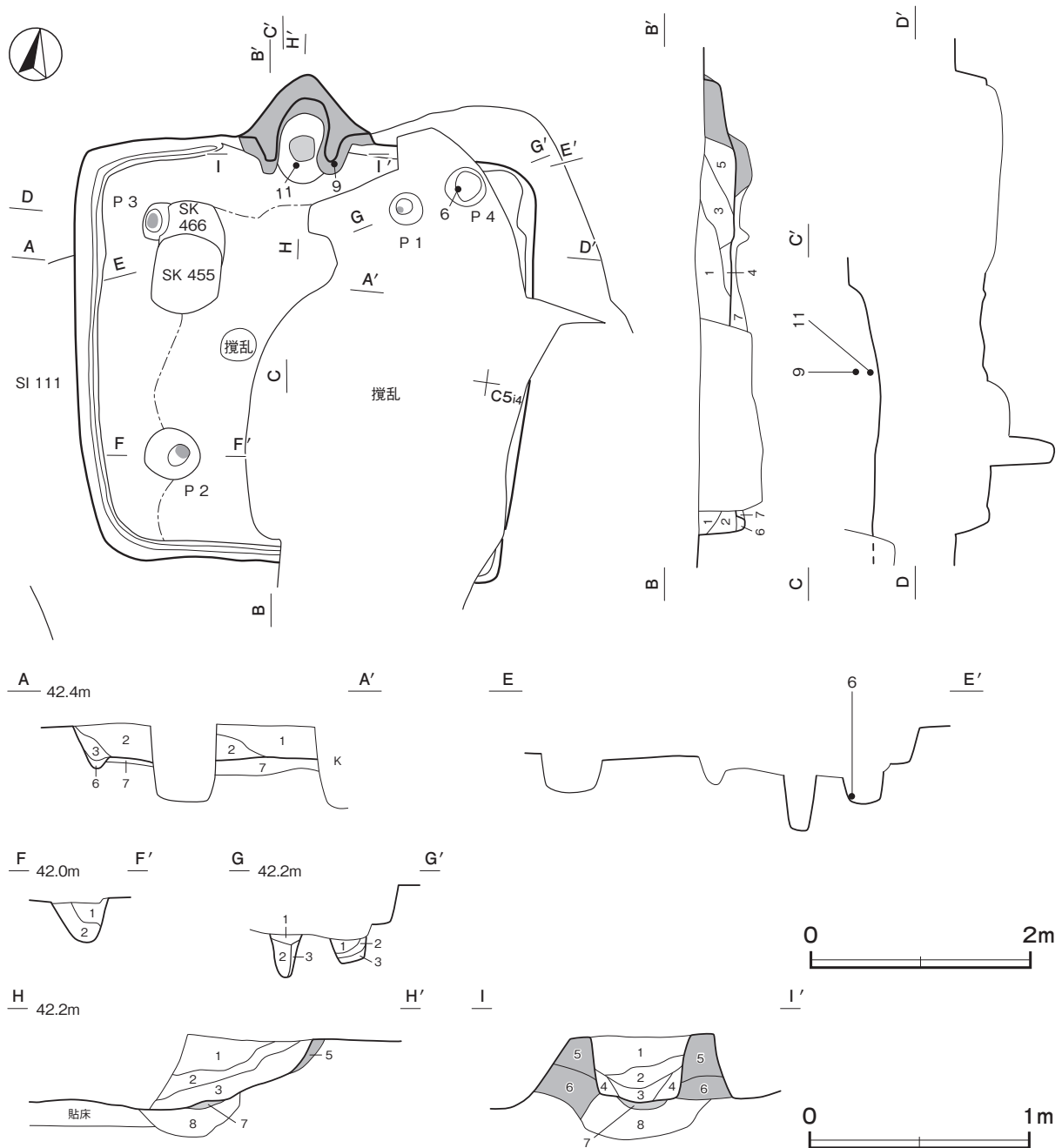
土層解説

- |                                |                                  |
|--------------------------------|----------------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量           | 5 暗褐色 ローム粒子少量，粘土ブロック・焼土粒子微量      |
| 2 褐色 ロームブロック中量                 | 6 にぶい黄褐色 ローム粒子中量，粘土ブロック少量，焼土粒子微量 |
| 3 灰黄褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量，焼土粒子微量 | 7 暗褐色 ロームブロック中量                  |
| 4 暗褐色 ローム粒子少量                  |                                  |

遺物出土状況 土師器片 659 点（坏 67，甕類 592），須恵器片 13 点（坏 5，蓋 1，甕類 6，横瓶 1），のほか，

縄文土器片 28 点 (深鉢), 弥生土器片 4 点 (壺類) が, 主に竈の近辺から出土している。多くの土器は中型の破片や小片で, 接合関係に乏しいことから, 破損したものが廃絶に伴って投棄投棄されたと考えられる。1・7・8 は 6 世紀後葉の所産であることから, 第 111 号竪穴建物跡からの混入と思われる。

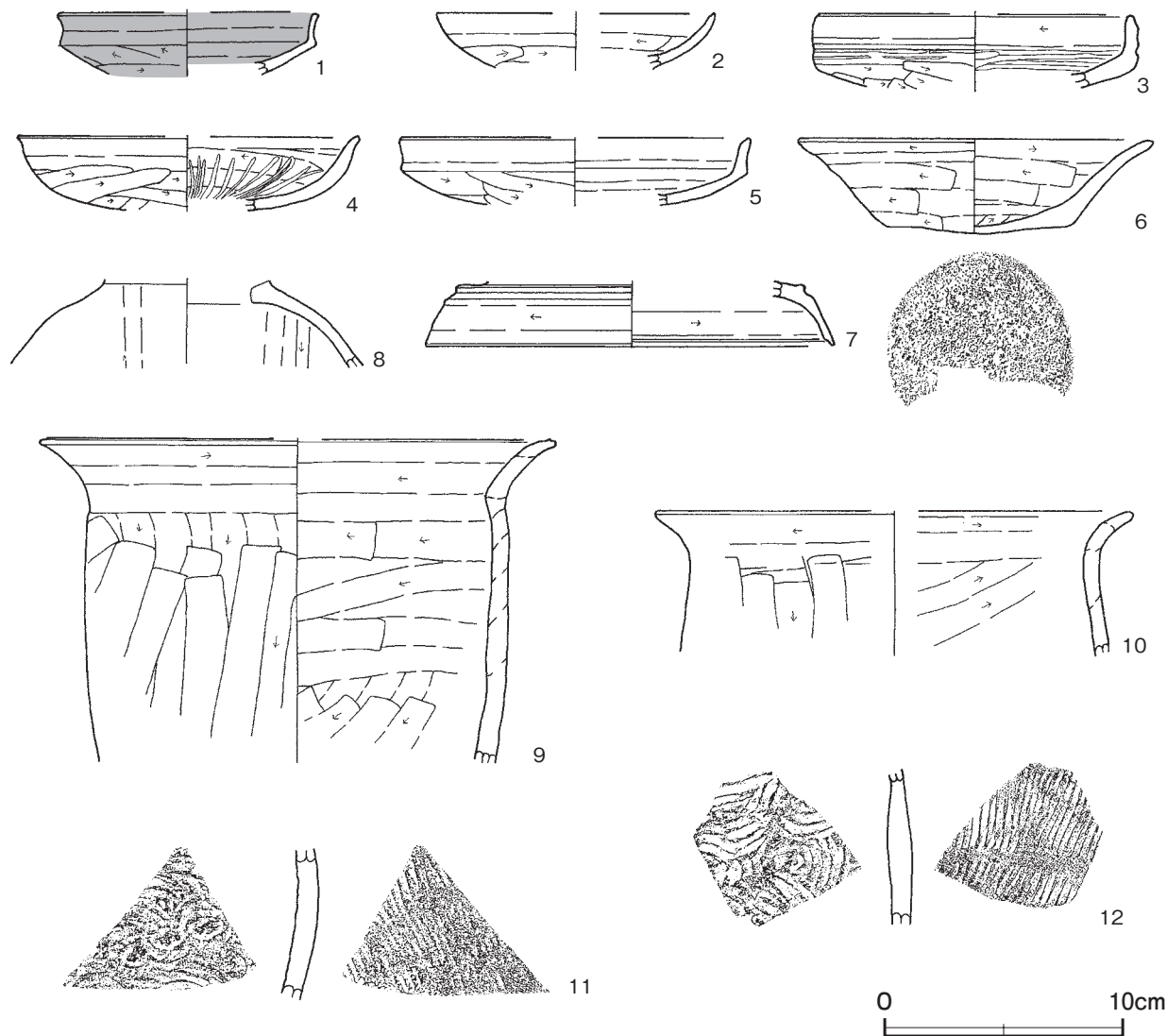
所見 時期は, 出土土器から 7 世紀前葉に比定できる。



第 174 図 第 101 号竪穴建物跡実測図

第 101 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 175 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[10.6]	(2.6)	-	長石・石英・針状物質	灰黄褐	普通	口縁部横ナデ 底部外面横・斜位の削り, 内面横位のナデ 外・内面黒色処理	覆土中	10%
2	土師器	坏	[11.5]	(2.3)	-	長石・石英・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 底部外面斜位の削り, 内面横位のナデ 漆処理	覆土中	10%
3	土師器	坏	[13.0]	(3.0)	-	長石・石英・針状物質	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ, 外面沈線状のナデ 底部外面斜位の削り, 内面横位の磨き	覆土中	10%



第175図 第101号竪穴建物跡出土遺物実測図

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
4	土師器	坏	[14.2]	(3.1)	-	長石・石英・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 底部外面一方向の削り後斜位の削り、内面横位のナデ後放射状の磨き	覆土中	20%
5	土師器	坏	[14.6]	(2.6)	-	長石・石英・針状物質・赤色粒子	灰褐	普通	口縁部横ナデ 底部外面斜位の削り、内面横位のナデ 漆処理	覆土中	20%
6	土師器	坏	14.8	4.0	7.6	長石・石英・針状物質	明褐	普通	口縁部横ナデ 体部外・内面横位のナデ 底部外面二方向の削り、内面一方向のナデ	P 4 覆土中	70 PL67
7	須恵器	蓋	[17.7]	(2.7)	-	長石・石英・針状物質	灰	普通	口縁部・体部クロコナデ 天井部回転ヘラ削り	覆土中	5% 轆山窯。
8	須恵器	横瓶	-	(3.5)	-	長石・黒色粒子	灰白	良好	体部クロコナデ	覆土中	5% 東海産 自然釉付着
9	土師器	甕	[21.5]	(13.6)	-	長石・石英・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部内面縦位のナデ後縦位の削り 体部内面縦位のナデ後横・斜位のナデ	竈覆土中	10% 煤付着
10	土師器	甕	[19.8]	(6.1)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の削り 体部内面斜位のナデ	覆土中	10%
11	須恵器	甕	-	-	-	長石・石英・針状物質	黄灰	普通	体部外面縦位の平行叩き、内面同心円状の当具痕	竈覆土中	5% 轆山窯。
12	須恵器	甕	-	-	-	長石・石英・針状物質	黄灰	普通	体部外面縦位の平行叩き後横位のナデ、内面同心円状の当具痕	覆土中	5% 轆山窯。

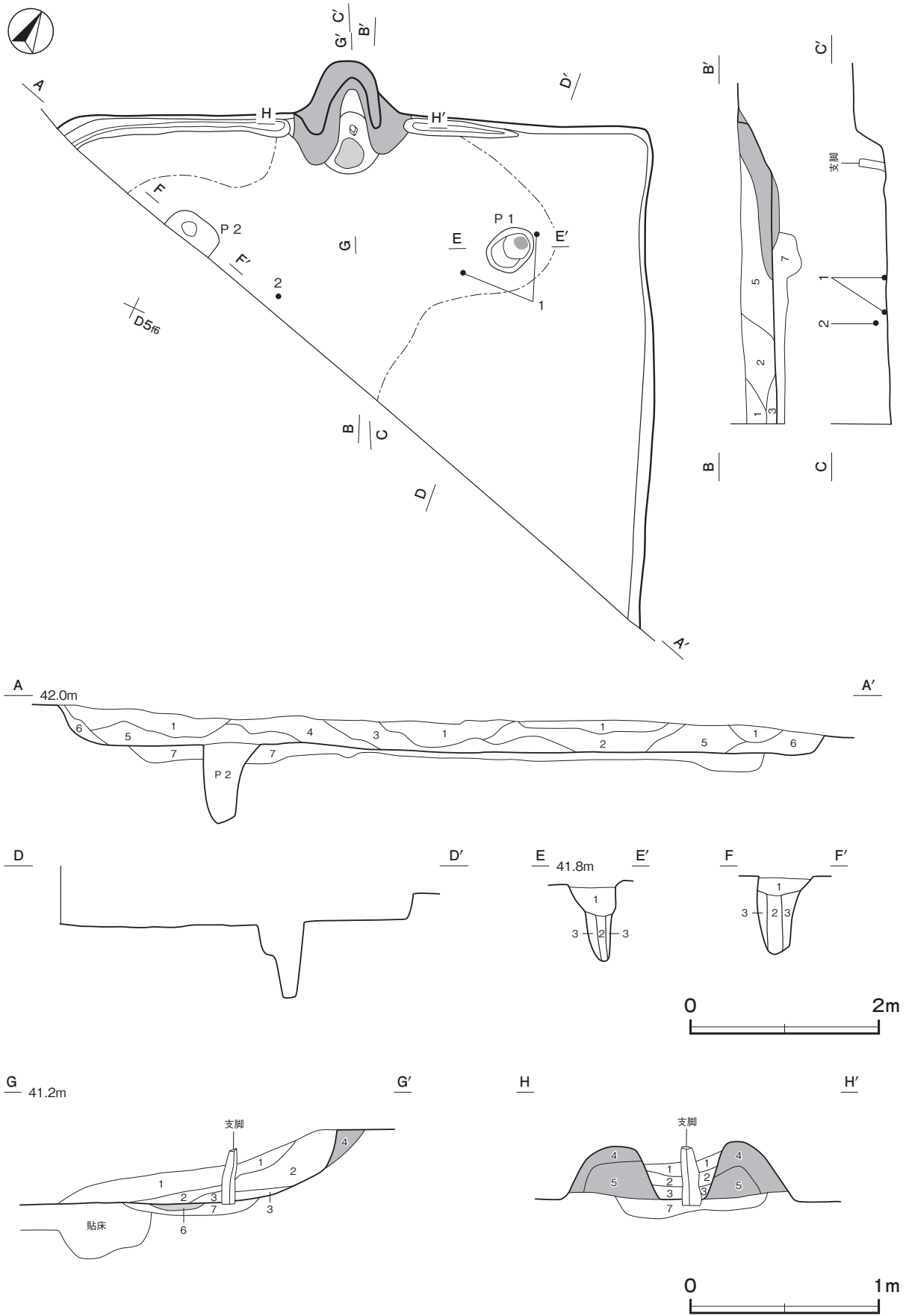
第102号竪穴建物跡 (第176・177図)

調査年度 平成27年度

位置 調査区中央部のD 5e6区、標高42mほどの台地平坦面に位置している。

規模と形状 南部が調査区域外に延びていることから、南北軸は5.25m、東西軸は6.31mしか確認できな





第 176 图 第 102 号竖穴建物跡実測图

った。方形もしくは長方形と推定でき、主軸方向はN-25°-Wである。壁は高さ23~27cmで、外傾している。床 平坦な貼床で、中央部及び竈近辺が踏み固められている。貼床は、第7層を5~10cmほど埋め戻して構築されている。壁溝が、竈周辺及び北東隅部を除く北壁下に巡っている。

**竈** 北壁の中央部に付設されている。焚き口部から煙道部までは120cm、燃焼部の幅は30cmである。燃焼部は床面から10cmほど掘りくぼめられ、第6・7層で埋め戻されている。袖部は、地山及び第7層上面に第4・5層を積み上げて構築されている。火床面は第6・7層の上面で、第6層は火熱を受けて赤変硬化している。加工された凝灰質泥岩が支脚として用いられ、下端部は第6層で埋められて据えつけられている。煙道部は壁外に50cmほど掘り込まれ、第4層が貼り付けられている。火床面からは外傾している。第3層は煙道部からの流入土、第1・2層は天井部の崩落土であることから、自然に崩壊している。

**竈土層解説**

- |                                   |                                  |
|-----------------------------------|----------------------------------|
| 1 にぶい黄褐色 粘土ブロック・ローム粒子中量, 焼土ブロック微量 | 5 にぶい褐色 粘土ブロック多量, 焼土粒子微量         |
| 2 暗赤褐色 焼土粒子中量, 粘土ブロック・ローム粒子少量     | 6 暗赤褐色 焼土粒子中量, ローム粒子微量           |
| 5 暗褐色 粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量         | 7 にぶい褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量, 焼土粒子微量 |
| 4 灰褐色 粘土ブロック中量, ローム粒子少量           |                                  |

**ピット** 2か所。P1・P2は深さともに80cmで、配置から主柱穴である。第3層は埋土、第2層は柱材を抜き取った後の覆土、第1層は流入土である。P1の底面で、柱の当たりを確認した。

**ピット土層解説 (各ピット共通)**

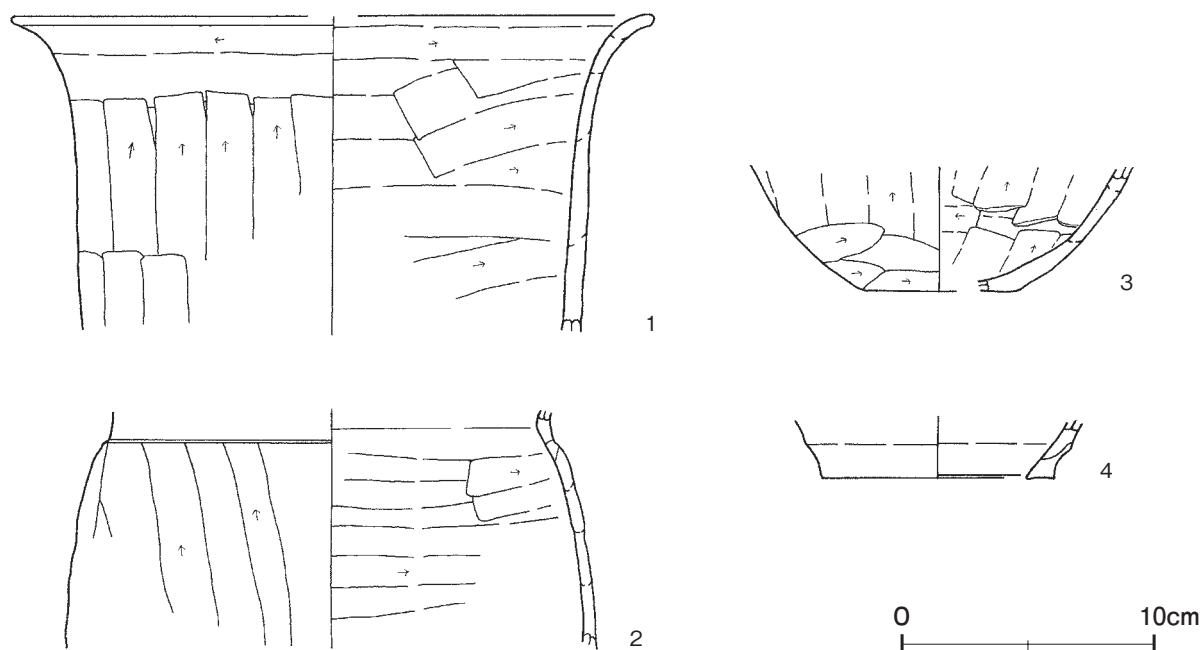
- |                         |                |
|-------------------------|----------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量      | 3 褐色 ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |                |

**覆土** 6層に分層できる。ロームブロックが含まれる不規則な堆積をしていることから、埋め戻されている。第7層は貼床の構築土である。

**土層解説**

- |                         |                                   |
|-------------------------|-----------------------------------|
| 1 褐色 ロームブロック少量          | 5 暗褐色 ロームブロック中量                   |
| 2 褐色 ロームブロック中量          | 6 褐灰色 粘土ブロック中量, ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量         | 7 黒褐色 ロームブロック中量                   |
| 4 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量 |                                   |

**遺物出土状況** 土師器片163点(坏13, 高坏1, 甕類148, 甑1), 石製品2点(支脚)のほか、縄文土器片20点(深鉢), 弥生土器片6点(壺類), が、主に北半部から出土している。多くの土器は小片で、接合関係に乏しいこ



第177図 第102号竪穴建物跡出土遺物実測図

とから、破損したものが廃絶に伴って投棄されたと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から6世紀後葉に推定できる。

#### 第102号竪穴建物跡出土遺物観察表（第177図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	甕	[25.4]	(12.5)	-	長石・石英・針状物質・細礫	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の削り、内面横・斜位のナデ	覆土下層	10% 二次焼成
2	土師器	甕	-	(9.4)	-	長石・石英・針状物質	にぶい橙	普通	体部外面縦位の削り、内面横位のナデ	覆土下層	10% 外面煤付着
3	土師器	甕	-	(4.9)	[6.0]	長石・石英・針状物質	にぶい橙	普通	体部外面縦位のナデ後下端部横・斜位の削り、内面横位のナデ後縦位のナデ 底部一方向の削り	覆土中	10% 外面煤付着
4	土師器	甕	-	(2.3)	[9.2]	長石・石英・針状物質	にぶい褐	普通	体部ロクロナデ	覆土中	10%

#### 第104号竪穴建物跡（第178図）

**調査年度** 平成27年度

**位置** 調査区西部のC2h9区、標高42mほどの台地平坦面に位置している。

**重複関係** 第502～504・510・511号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 後世の耕作などによる削平を受けているが、長軸は4.02m、短軸は3.65mの方形である。主軸方向はN-10°-Eである。

**床** 平坦な貼床で、中央部及び竈の近辺、西壁際の一部が踏み固められている。貼床は、第1層を15cmほど埋め戻して構築されている。掘方は、全域を比較的均一に掘り込んでいる。

**竈** 北壁中央部の西寄りに付設されている。焚き口部から煙道部までは80cm、燃烧部の幅は40cmである。燃烧部は床面から20cmほど掘りくぼめられ、第3層で埋め戻されている。袖部は、床面及び第3層上面に第2層を積み上げて構築されている。火床面は第3層の上面で、火熱を受けているものの赤変硬化はしていない。煙道部は壁外に30cmほど掘り込まれ、火床面から外傾している。第1層には粘土ブロックが含まれることや、燃烧部に竈材と考えられる凝灰質泥岩が飛散していることから、壊されている。

##### 竈土層解説

- |                          |                 |
|--------------------------|-----------------|
| 1 灰黄褐色 粘土ブロック・焼土ブロック中量   | 3 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 にぶい黄褐色 焼土粒子中量、粘土ブロック少量 |                 |

**ピット** 4か所。P1～P3は深さ10～25cmで、配置から主柱穴である。P4は深さ12cmで、配置から入り口施設に伴うピットである。第1・2層は柱材を抜き取った後の覆土である。

##### ピット土層解説（各ピット共通）

- |                    |                |
|--------------------|----------------|
| 1 にぶい黄褐色 ロームブロック少量 | 2 褐色 ロームブロック中量 |
|--------------------|----------------|

**貼床構築土** 単一層である。ロームブロックが含まれていることから、床の構築に伴って埋め戻されている。

##### 土層解説

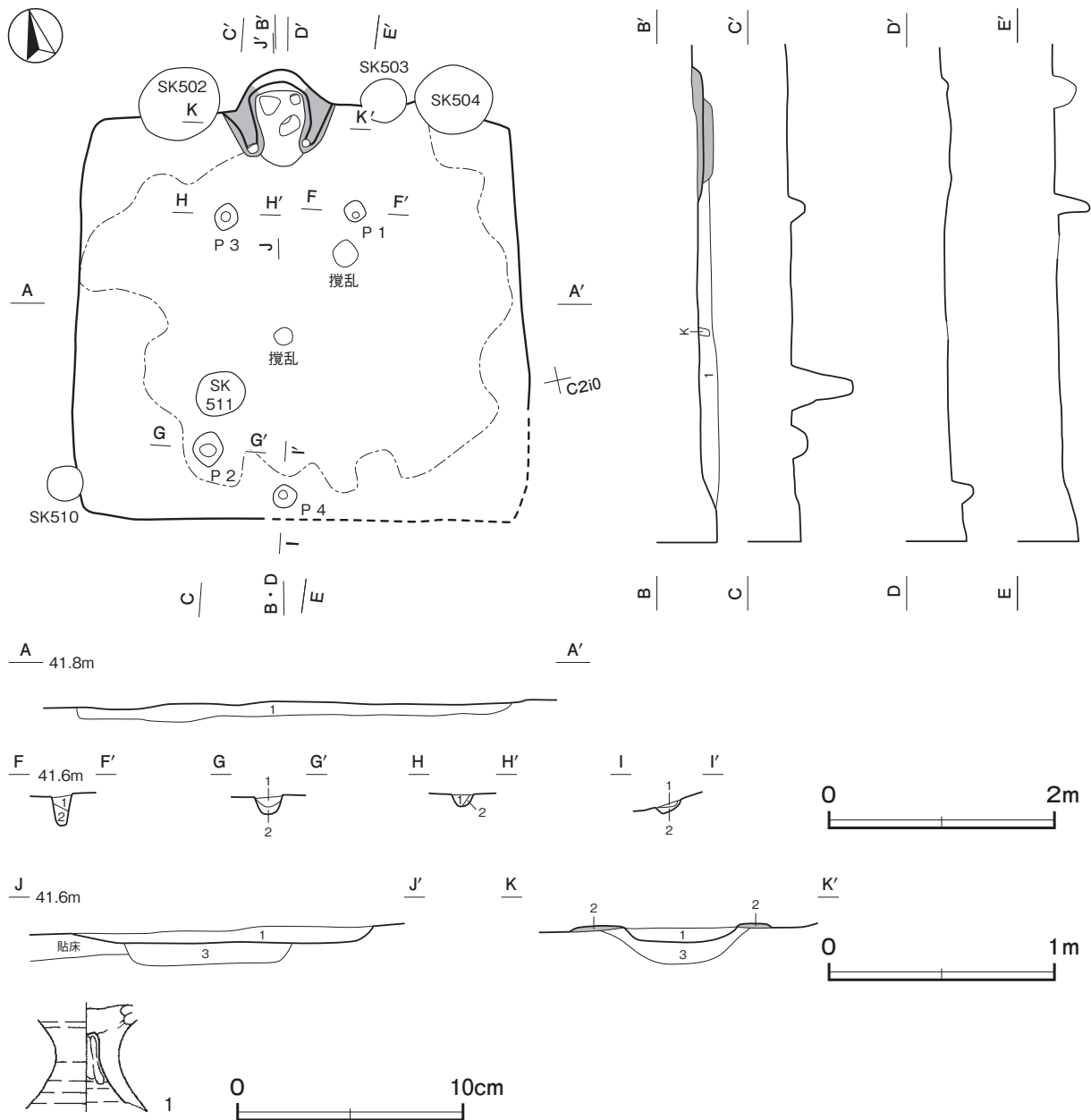
- |                 |
|-----------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック中量 |
|-----------------|

**遺物出土状況** 土師器片34点（坏1、甕類33）、須恵器片3点（坏、高坏、甕類）が、貼床構築土から出土している。多くの土器は小片で、接合関係に乏しいことから、床の構築時に混入したと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から7世紀前葉以降に比定できる。

#### 第104号竪穴建物跡出土遺物観察表（第178図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	高坏	-	(4.8)	-	長石・雲母・針状物質	灰黄	普通	坏部・脚部ロクロナデ 脚部内面縦位のナデ	覆土中	10% 轆山窯



第178図 第104号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第105号竪穴建物跡 (第179～181図 PL22)

調査年度 平成27年度

位置 調査区中央部のC5g3区、標高42mほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第99・100号竪穴建物、第3号方形竪穴遺構に掘り込まれている。

規模と形状 東部が調査区域外に延びていることから、南北軸は3.86mで、東西軸は2.98mしか確認できなかった。方形もしくは長方形と推定でき、主軸方向はN-10°-Wである。壁は高さ28cmで、ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。貼床は、第8層を5～10cmほど埋め戻して構築されている。

竈 北壁に付設されている。焚き口部から煙道部までは100cm、燃焼部の幅は50cmである。燃焼部は床面から20cmほど掘りくぼめられ、第7～8層で埋め戻されている。袖部は、芯材として加工されたQ1・Q2を第

7層で固定した後、第7・9層上面に第5・6層を積み上げて構築されている。火床面は第7～9層の上面で、第8層は火熱を受けて赤変硬化している。支脚として加工された凝灰質泥岩が下端部を第7層で固定され、火床部に据えつけられている。煙道部は壁外に40cmほど掘り込まれ、火床面から外傾している。第1～4層は天井部の崩落土であることや懸架材として用いられた凝灰質泥岩が崩落していることから、自然に崩壊している。

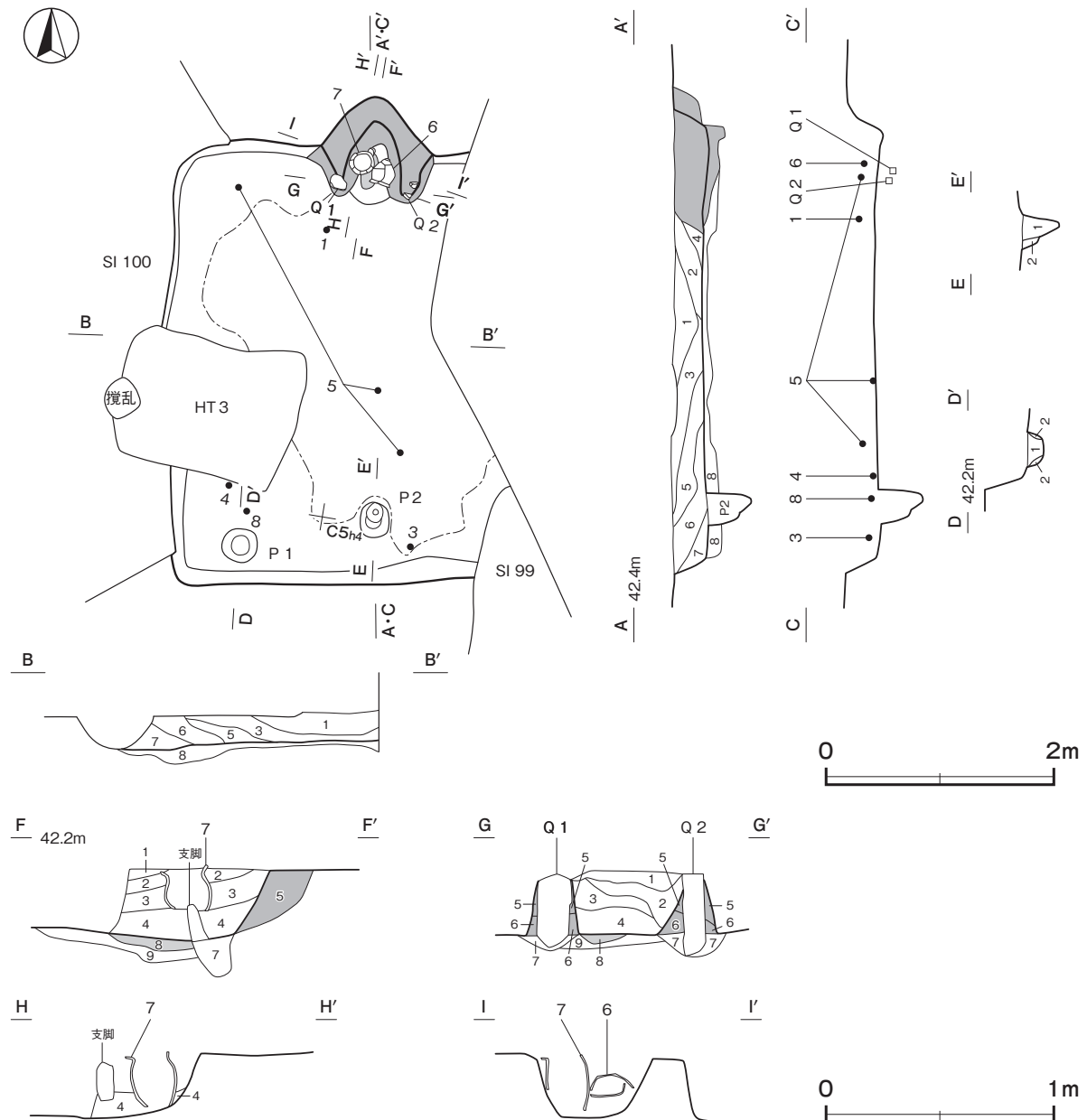
**竈土層解説**

- |                                  |                               |
|----------------------------------|-------------------------------|
| 1 灰黄褐色 粘土ブロック中量, 焼土粒子少量, ローム粒子微量 | 6 暗褐色 粘土ブロック中量, ロームブロック少量     |
| 2 灰黄褐色 粘土ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量     | 7 褐色 焼土ブロック中量, 粘土ブロック微量       |
| 3 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量      | 8 にぶい赤褐色 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック少量        | 9 褐色 ロームブロック微量                |
| 5 灰黄褐色 粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量        |                               |

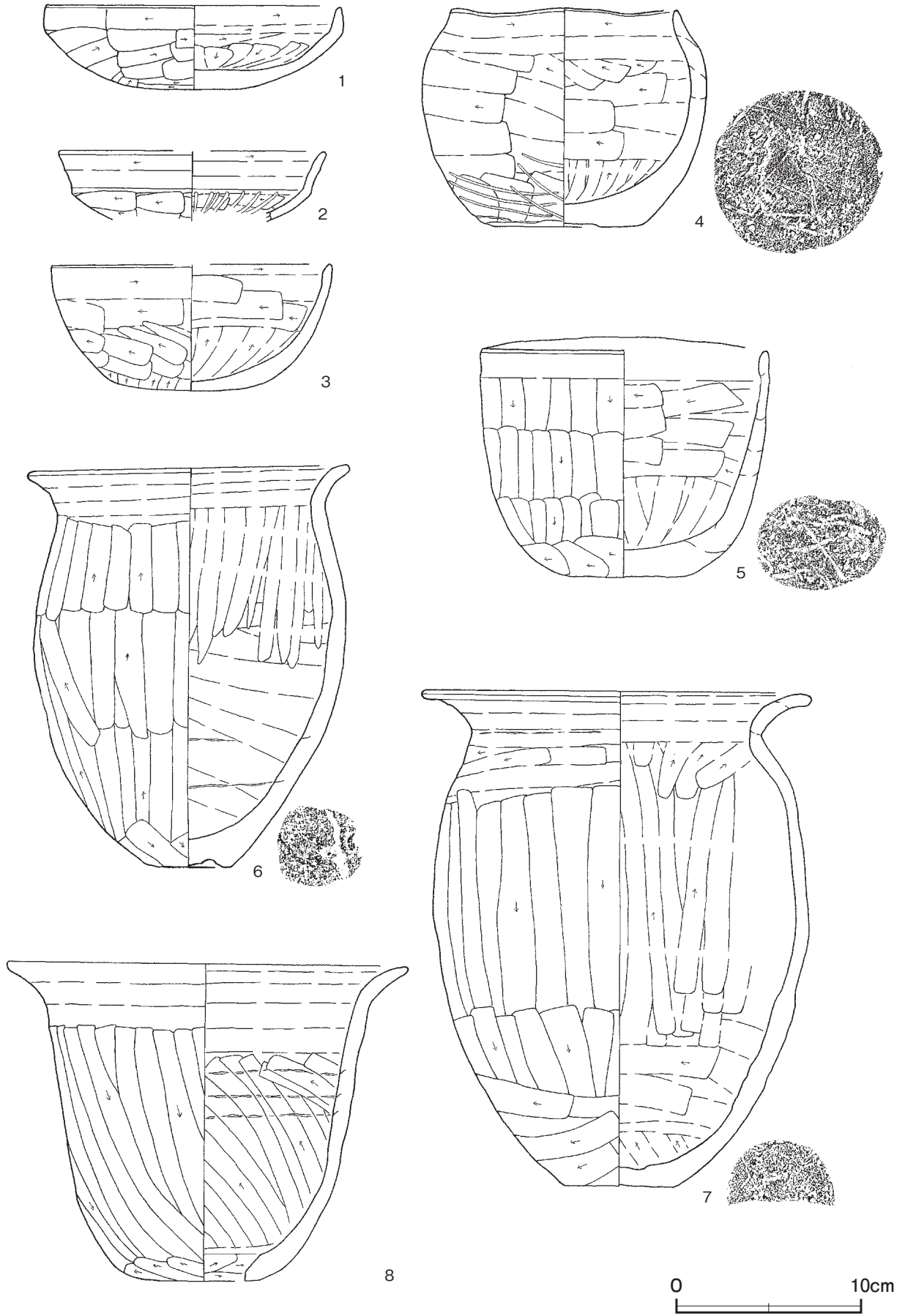
**ピット** 2か所。P1は深さ14cmで、配置から支柱穴である。P2は深さ40cmで、配置から出入口施設に伴うピットである。第2層は埋土、第1層は柱材を抜き取った後の覆土である。

**ピット土層解説 (各ピット共通)**

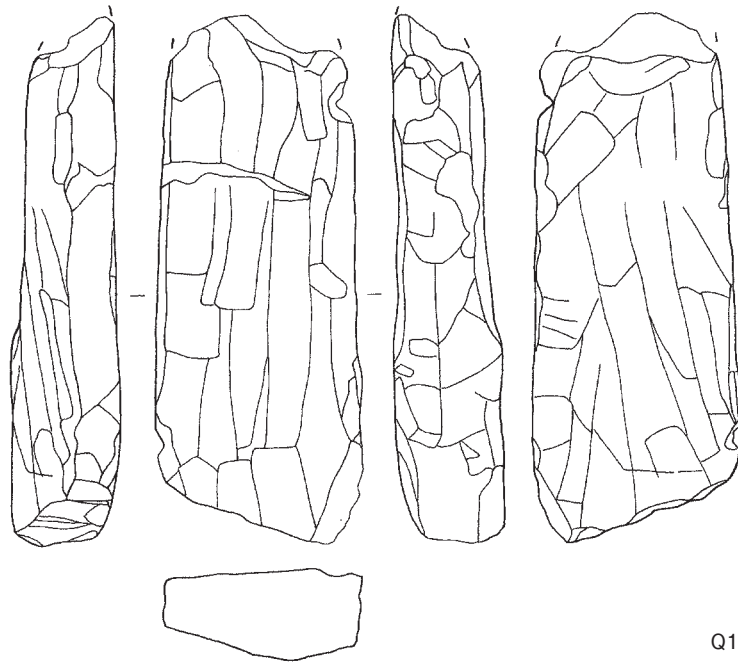
- |                 |                |
|-----------------|----------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック微量 | 2 褐色 ロームブロック微量 |
|-----------------|----------------|



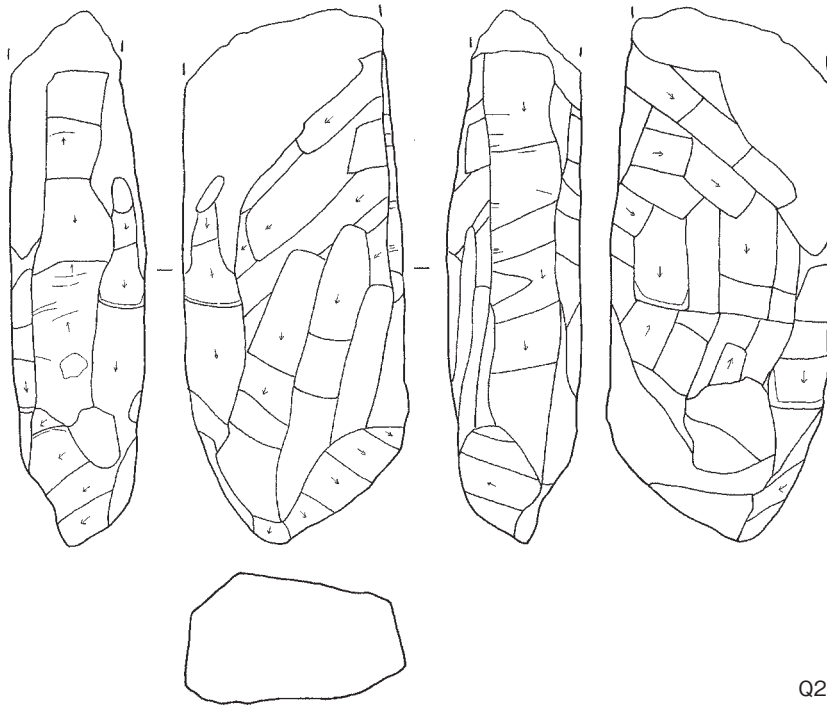
第179図 第105号竪穴建物跡実測図



第 180 图 第 105 号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)



Q1



Q2



第 181 图 第 105 号竖穴建物跡出土遺物実測图(2)

**覆土** 7層に分層できる。ロームブロックが含まれる不規則な堆積をしていることから、埋め戻されている。第8層は貼床の構築土である。

**土層解説**

- |       |                          |          |                          |
|-------|--------------------------|----------|--------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量, 粘土ブロック微量      | 5 におい黄褐色 | ロームブロック中量, 粘土ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | 粘土ブロック少量, ロームブロック・炭化粒子微量 | 6 暗褐色    | ロームブロック微量                |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量, 粘土ブロック微量 | 7 暗褐色    | ロームブロック少量                |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック中量         | 8 におい黄褐色 | ロームブロック中量                |

**遺物出土状況** 土師器片 120 点（坏 10, 鉢類 1, 甕類 107, 甗 1, ミニチュア土器 1）, 石製品 4 点（支脚 1, 袖部芯材 2, 竈材 1）のほか, 縄文土器片 4 点（深鉢）, 弥生土器片 2 点（壺類）が, 竈や全域から出土している。多くの土器は大型や中型の破片で, 接合関係が良好であることから, 埋め戻しに伴って一括で投棄されたと考えられる。6・7は竈の燃焼部から懸架材と共に出土していることから, 竈の廃絶に伴って廃棄されている。

**所見** 時期は, 出土土器から 6 世紀後葉に比定できる。

第 105 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 180・181 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	15.8	4.5	-	長石・石英・針状物質・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 底部外面一方向の削り後横・斜位の削り, 内面横位のナデ後放射状のナデ	覆土中層	80% PL68 二次焼成
2	土師器	坏	[14.4]	(3.7)	-	長石・石英・雲母・針状物質	におい褐	普通	口縁部横ナデ 底部外面横・斜位の削り, 内面横位のナデ後放射状の磨き	覆土中	20%
3	土師器	坏	[14.9]	6.9	4.6	長石・石英・雲母・針状物質	におい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面横位のナデ後斜位の削り, 内面放射状のナデ後横位のナデ 底部一方向の削り	覆土中層	60% PL70 二次焼成
4	土師器	鉢	12.2	11.7	8.8	長石・石英・雲母・針状物質	におい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面横・斜位のナデ後下部斜位の削り, 3条一単位の沈線, 内面放射状のナデ後横位のナデ 底部木葉痕後一方向のナデ	覆土下層	80% PL77
5	土師器	小形甕	[15.3]	13.1	6.3	長石・石英・針状物質	におい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の削り後下部横位の削り, 内面放射状のナデ後横位のナデ 底部木葉痕後一方向のナデ	覆土中層 覆土下層	60% 内面煤付着
6	土師器	甕	16.8	21.9	4.6	長石・石英・雲母・針状物質	におい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の削り後下部斜位の削り, 内面横位のナデ後縦位のナデ 底部一方向の削り	竈覆土中	90% PL83 外面煤付着
7	土師器	甕	20.4	27.0	6.0	長石・石英・雲母・針状物質	におい黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面横位のナデ後縦位の削り, 下部横位の削り, 内面横位のナデ後縦・斜位のナデ 底部外・内面一方向のナデ	竈覆土中	90% PL82 外面煤付着
8	土師器	甗	21.6	17.2	6.0	長石・石英・雲母・針状物質	におい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦・斜位の削り後下部横位の削り, 内面横位のナデ後斜位のナデ 底部穿孔部削り調整	覆土下層	100% PL84 内面煤付着

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	袖部芯材	(35.5)	13.7	7.3	(2,320)	凝灰質泥岩	上面欠損 側面 4 面縦位の削り調整 下面尖底状に加工	袖構築土中	PL106
Q2	袖部芯材	(35.5)	14.7	9.1	(2,990)	凝灰質泥岩	上面欠損 側面 4 面縦位の削り調整 下面尖底状に加工	袖構築土中	PL106

**第 107 号竪穴建物跡（第 182・183 図）**

**調査年度** 平成 27 年度

**位置** 調査区中央部の D 5 a4 区, 標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

**重複関係** 第 108 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

**規模と形状** 南西部などの一部に攪乱を受けているが, 長軸 3.59 m, 短軸 3.59 m の方形で, 主軸方向は N-33°-W である。壁は高さ 13~21cm で, ほぼ直立している。

**床** 平坦な貼床で, 中央部及び竈の前面が踏み固められている。貼床は, 第 5~7 層を 20~35cm ほど埋め戻して構築されている。壁溝が, 南東隅部の壁下に巡っている。

**竈** 北壁中央部の東寄りに付設されている。焚き口部から煙道部までは 90cm, 燃焼部の幅は 32cm である。燃焼部は床面から 40cm ほど掘りくぼめられ, 第 5~7 層で埋め戻されている。袖部は, 芯材として加工された凝灰質泥岩が用いられ, 床面及び第 6 層上面に第 3・4 層を積み上げて構築されている。火床面は第 5~7 層の上面で, 第 5 層は火熱を受けて赤変硬化している。Q 1 は下端部が第 6 層で固定され, 火床面の北端部に据



えつけられていることから、支脚として用いられている。煙道部は壁外に40cmほど掘り込まれ、煙道部には第3層が貼り付けられている。火床面からは、外傾している。第1～3層にはロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから、壊されている。

**竈土層解説**

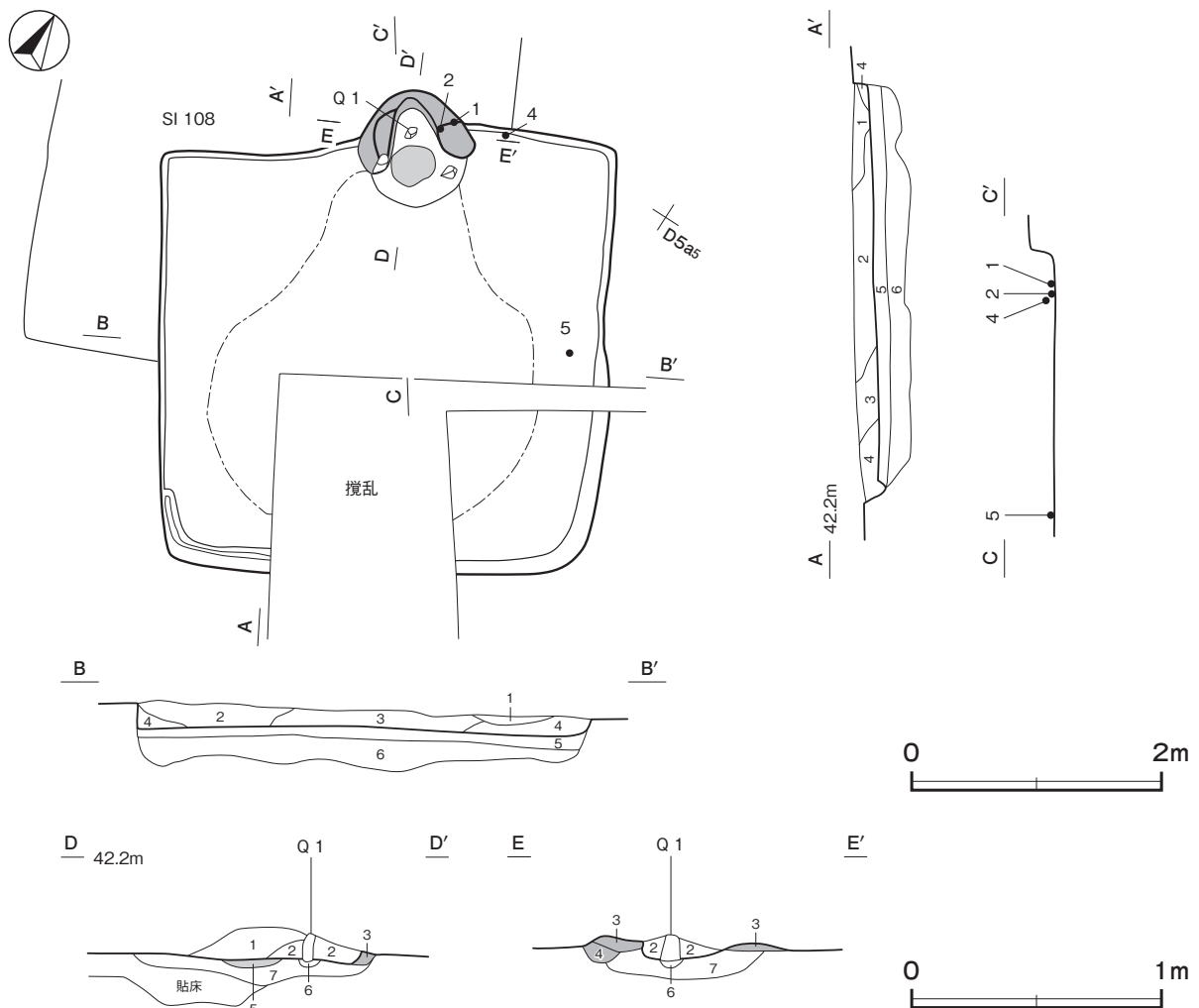
- |        |                    |        |                |
|--------|--------------------|--------|----------------|
| 1 黒褐色  | ロームブロック・焼土ブロック微量   | 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量       |
| 2 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量・ロームブロック少量 | 6 黒褐色  | ロームブロック中量      |
| 3 暗褐色  | ロームブロック・ロームブロック中量  | 7 暗褐色  | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色  | 粘土ブロック中量           |        |                |

**覆土** 4層に分層できる。ロームブロックが含まれる不規則な堆積であることから、埋め戻されている。第5～6層は貼床の構築土である。

**土層解説**

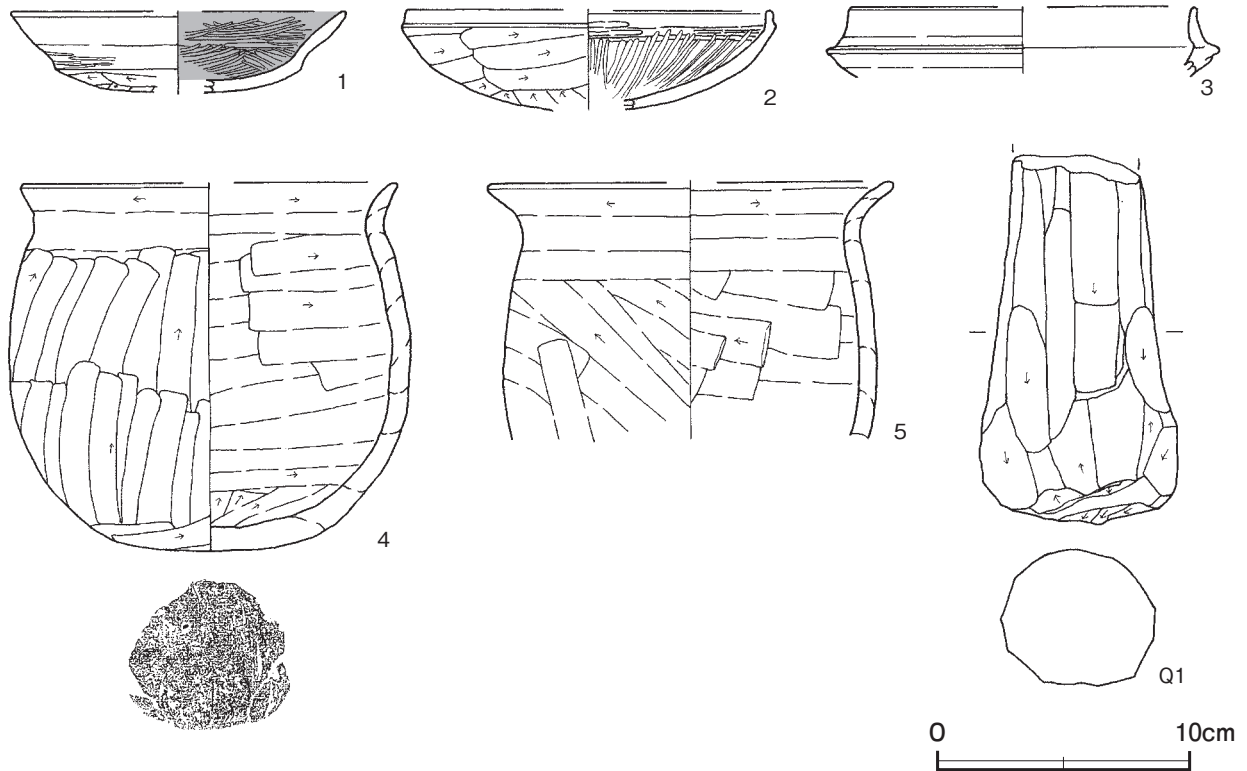
- |       |                |       |           |
|-------|----------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量 | 5 褐色  | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック微量      | 6 黒褐色 | ロームブロック微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック中量      |       |           |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |       |           |

**遺物出土状況** 土師器片 457点（坏51, 高坏4, 鉢2, 甕類400）, 須恵器片2点（坏, 甕類）, 石製品3点（支脚1, 袖部芯材2）のほか、縄文土器片77点（深鉢76, 浅鉢1）, 弥生土器片20点（壺類）が、主に竈の付近から出土している。多くの土器は小片で、接合関係に乏しいことから、破損したものが廃絶に伴って投棄されたと考えられる。



第182図 第107号竪穴建物跡実測図

所見 時期は、出土土器から7世紀前葉に比定できる。



第 183 図 第 107 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 107 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 183 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[13.2]	(3.2)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ後横位の磨き 底部外面一方向の削り後斜位の削り、内面二方向の磨き 内面黒色処理	竈覆土中	30%
2	土師器	坏	[14.3]	(3.9)	-	長石・石英・針状物質・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ、内面横位のナデ 底部外面一方向の削り後横位の削り、内面放射状の磨き	竈覆土中	30%
3	須恵器	坏	[13.6]	(2.8)	-	長石・石英	灰	良好	口縁部・体部クロロナデ	覆土中	5% 柏崎窯
4	土師器	甕	[14.6]	(14.7)	4.0	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の削り後下部横位の削り、内面横位のナデ 底部一方向の削り、内面螺旋状のナデ	覆土中層	40% 煤附着
5	土師器	甕	[15.7]	(10.2)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦・斜位のナデ、内面横位のナデ	覆土下層	10% 煤附着

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	支脚	(14.7)	7.8	6.3	(32261)	凝灰質泥岩	上面欠損 下面一方向の削り調整 側面縦位の削り調整	火床面	

第 108 号竪穴建物跡（第 184・185 図）

調査年度 平成 27 年度

位置 調査区中央部の D5a4 区、標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第 107 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 3.70 m、短軸 3.60 m の方形で、主軸方向は N - 21° - W である。壁は高さ 21 ~ 29cm で、ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で、中央部及び竈の近辺、南壁際の一部が踏み固められている。貼床は、第 5 層を 10 ~ 20cm ほど埋め戻して構築されている。

**竈** 北壁の中央部に付設されている。焚き口部から煙道部までは95cm、燃焼部の幅は30cmである。燃焼部は床面から10cmほど掘りくぼめられ、第2層で埋め戻されている。火床面は第2層の上面で、火熱を受けているものの赤変硬化はしていない。煙道部は壁外に50cmほど掘り込まれ、火床面から外傾している。第1層にはロームブロックが含まれていることや袖部が残存していないことから、壊されている。

**竈土層解説**

- |                     |                         |
|---------------------|-------------------------|
| 1 暗褐色 粘土ブロック・焼土粒子微量 | 2 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量 |
|---------------------|-------------------------|

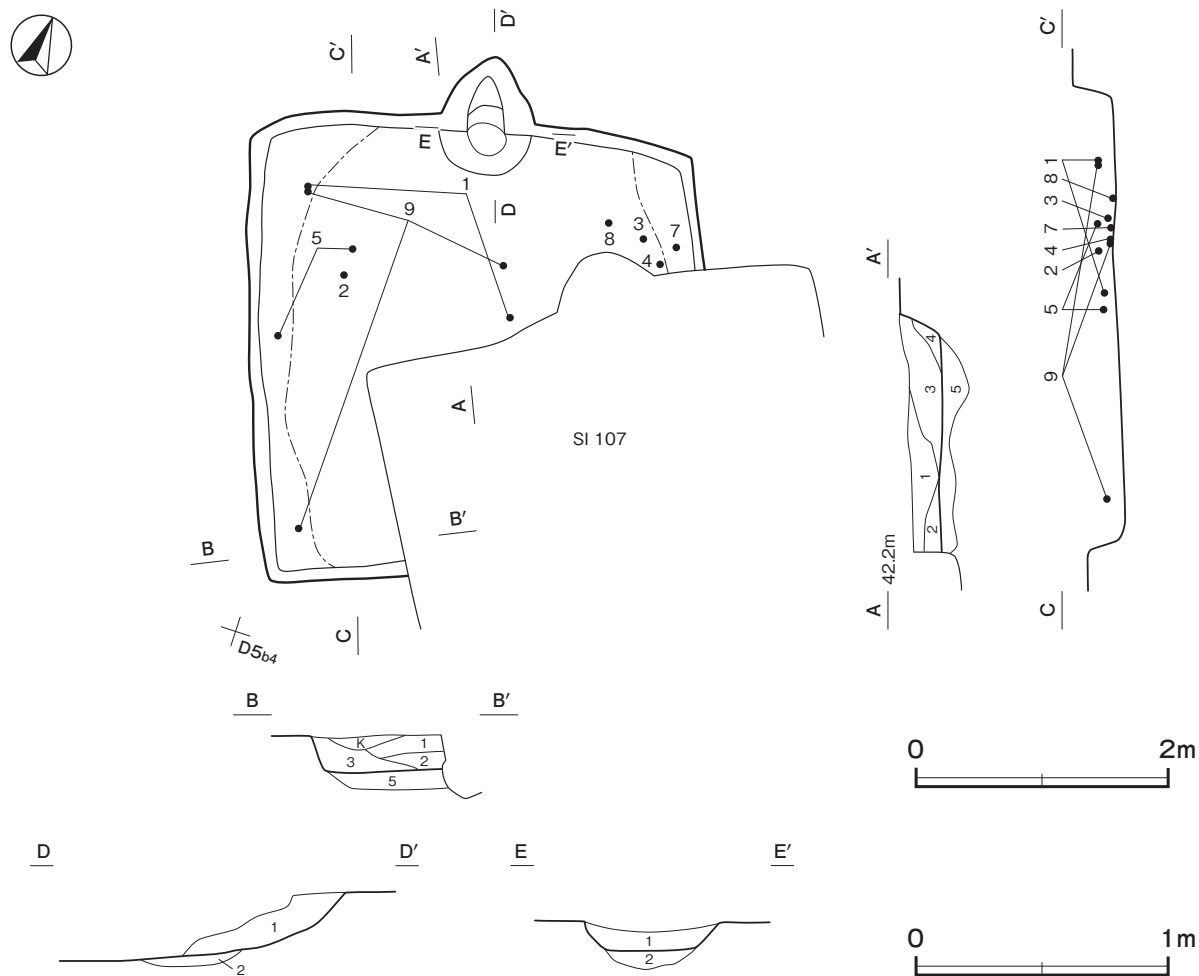
**覆土** 4層に分層できる。ロームブロックが含まれる不規則な堆積をしていることから、埋め戻されている。第5層は貼床の構築土である。

**土層解説**

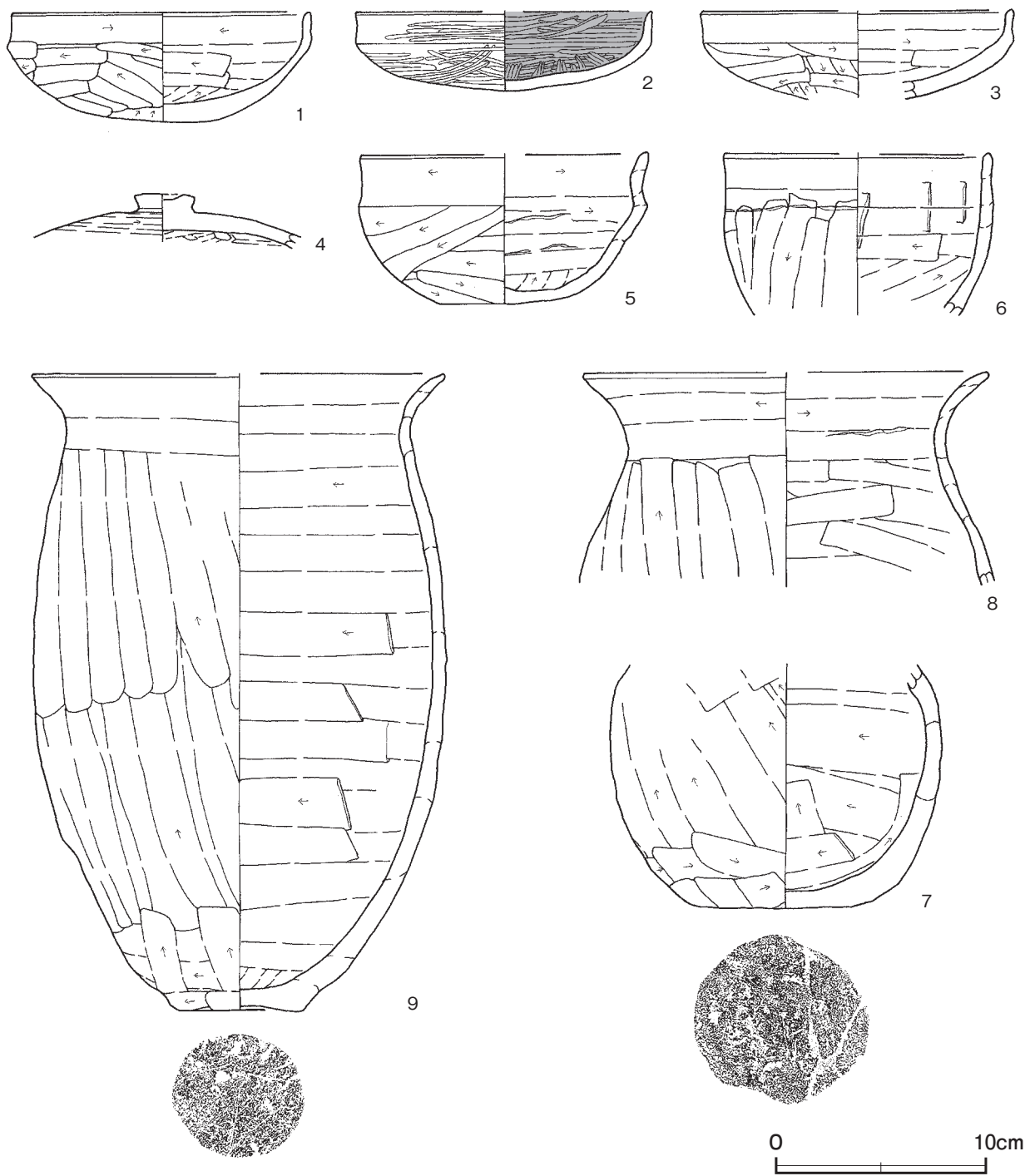
- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量 | 4 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量 | 5 黒褐色 ロームブロック中量 |
| 3 褐色 ロームブロック少量  |                 |

**遺物出土状況** 土師器片95点(坏18, 鉢類2, 甕類75), 須恵器片1点(蓋)のほか, 縄文土器片3点(深鉢)が, 全域に散在している。多くの土器は大型や中型の破片で, 接合関係が良好であることから, 埋め戻しに伴って一括で投棄されたと考えられる。

**所見** 時期は, 出土土器から6世紀後葉に比定できる。



第184図 第108号竪穴建物跡実測図



第 185 図 第 108 号竖穴建物跡出土遺物実測図

第 108 号竖穴建物跡出土遺物観察表 (第 185 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	14.1	5.2	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 底部外面一方向の削り後横・斜位の削り、内面放射状のナデ後横位のナデ	覆土中層	90%
2	土師器	坏	[14.1]	3.7	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ後横位の磨き 底部外・内面二方向の磨き 内面黒色処理	覆土中層	30%
3	土師器	坏	[14.8]	(4.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 底部外面縦・横位の削り、内面横位のナデ	覆土中層	40%
4	須恵器	蓋	-	(2.4)	-	長石・石英・雲母・針状物質・細礫	灰	普通	体部ロクロナデ 摘み部中央部に窪み 天井部内面多方向のナデ 新羅系須恵器	覆土下層	40% PL87 産地不明
5	土師器	鉢	[13.4]	7.1	5.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面横・斜位の削り後下部斜位の削り、内面横位のナデ 底部外面一方向の削り、内面一方向のナデ	覆土中層	60%
6	土師器	鉢	[12.6]	(7.7)	-	長石・石英・雲母・針状物質	黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の削り、輪積痕、内面斜位のナデ後横位のナデ	覆土中	30%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
7	土師器	小形甕	-	(11.7)	8.2	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	体部外面縦・斜位のナデ後下部横位の削り、内面縦・横位のナデ 底部一方向の削り	覆土下層	60% 煤付着
8	土師器	甕	[19.0]	(10.2)	-	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の削り、内面横・斜位のナデ	覆土下層	30% 煤付着
9	土師器	甕	[19.4]	30.3	5.9	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦・横位のナデ、内面横位のナデ 底部外面木葉痕、内面一方向のナデ	覆土中層	70% PL83 煤付着

## 第109号竪穴建物跡（第186・187図）

調査年度 平成27年度

位置 調査区中央部のB5f4区、標高42mほどの台地平坦面に位置している。

規模と形状 東部及び西部が調査区域外に伸びているが、長軸は6.50m、短軸は4.76mの長方形と推定でき、主軸方向はN-45°-Eである。壁は高さ28～34cmで、外傾している。

床 平坦で、攪乱部分及び北隅部、南隅部の壁際を除いてが踏み固められている。

ピット 3か所。P1・P2は深さ45～50cmで、配置から主柱穴である。P3は深さ30cmで、配置から出入り口施設に伴うピットである。第4～6層は埋土、第3層は柱材を抜き取った後の覆土、第1・2層は柱材を抜き取った後の覆土である。

### ピット土層解説（各ピット共通）

- |       |           |          |           |
|-------|-----------|----------|-----------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量   | 4 褐色     | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 5 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック微量 | 6 暗褐色    | ロームブロック少量 |

貯蔵穴 南部に位置し、長径80cm、短径55cmの楕円形である。深さは30cm、底面は平坦で、壁は外傾している。3層に分層でき、ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

### 貯蔵穴土層解説

- |       |                    |      |           |
|-------|--------------------|------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量 | 3 褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量   |      |           |

覆土 6層に分層できる。ロームブロックが含まれる不規則な堆積をしていることから、埋め戻されている。

### 土層解説

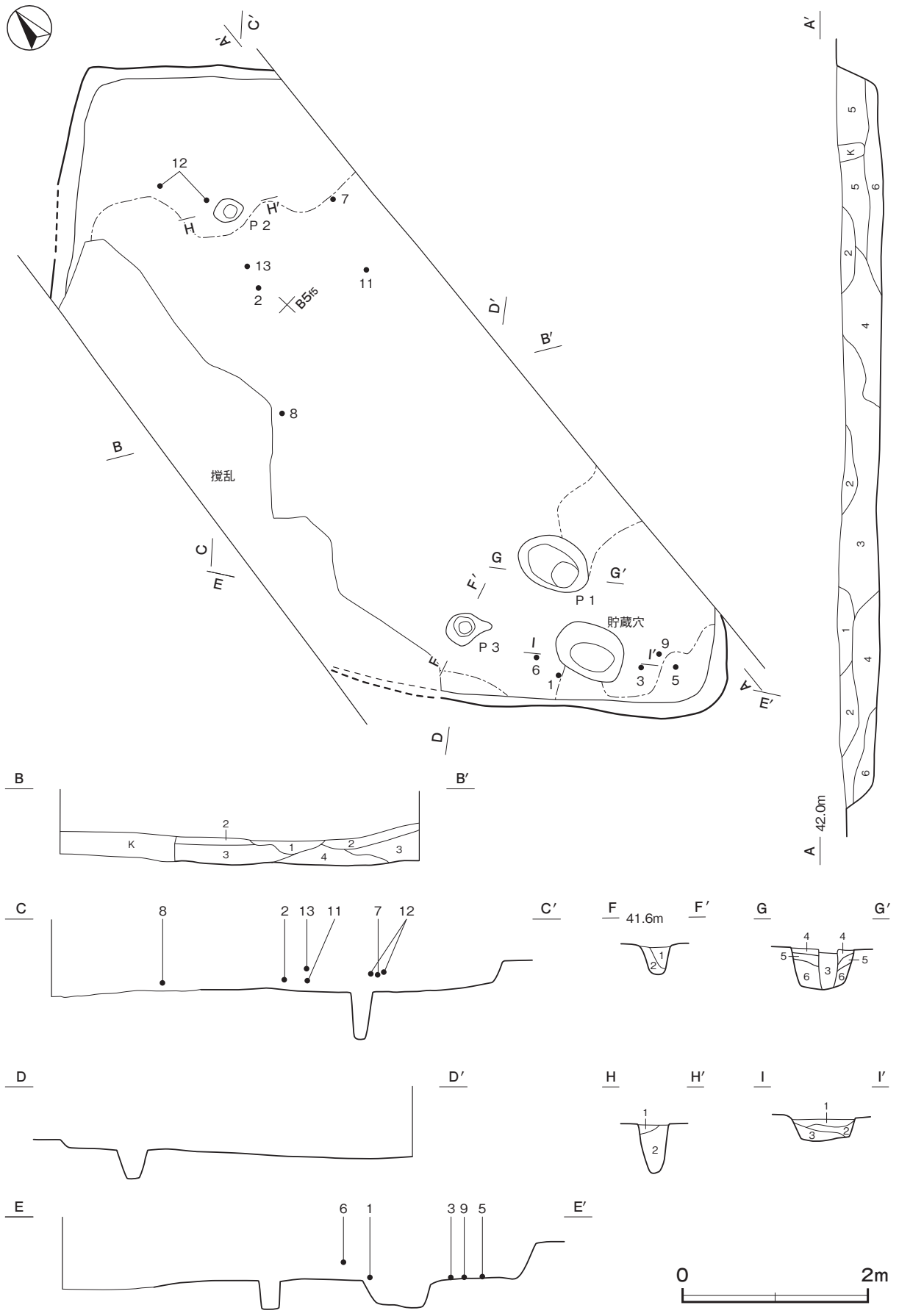
- |       |                  |       |                        |
|-------|------------------|-------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量       |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量        | 5 暗褐色 | ロームブロック・炭化物少量          |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量  | 6 褐色  | ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化材少量 |

遺物出土状況 土師器片415点（埴35、器台14、高坏15、鉢類1、壺類8、甕類340、ミニチュア土器1、手捏土器1）のほか、縄文土器片406点（深鉢405、浅鉢1）、弥生土器片7点（壺類）が、主に貯蔵穴の近辺や全域から出土している。多くの土器は大型や中型の破片で、接合関係が良好であることから、埋め戻しに伴って一括で投棄されたと考えられる。

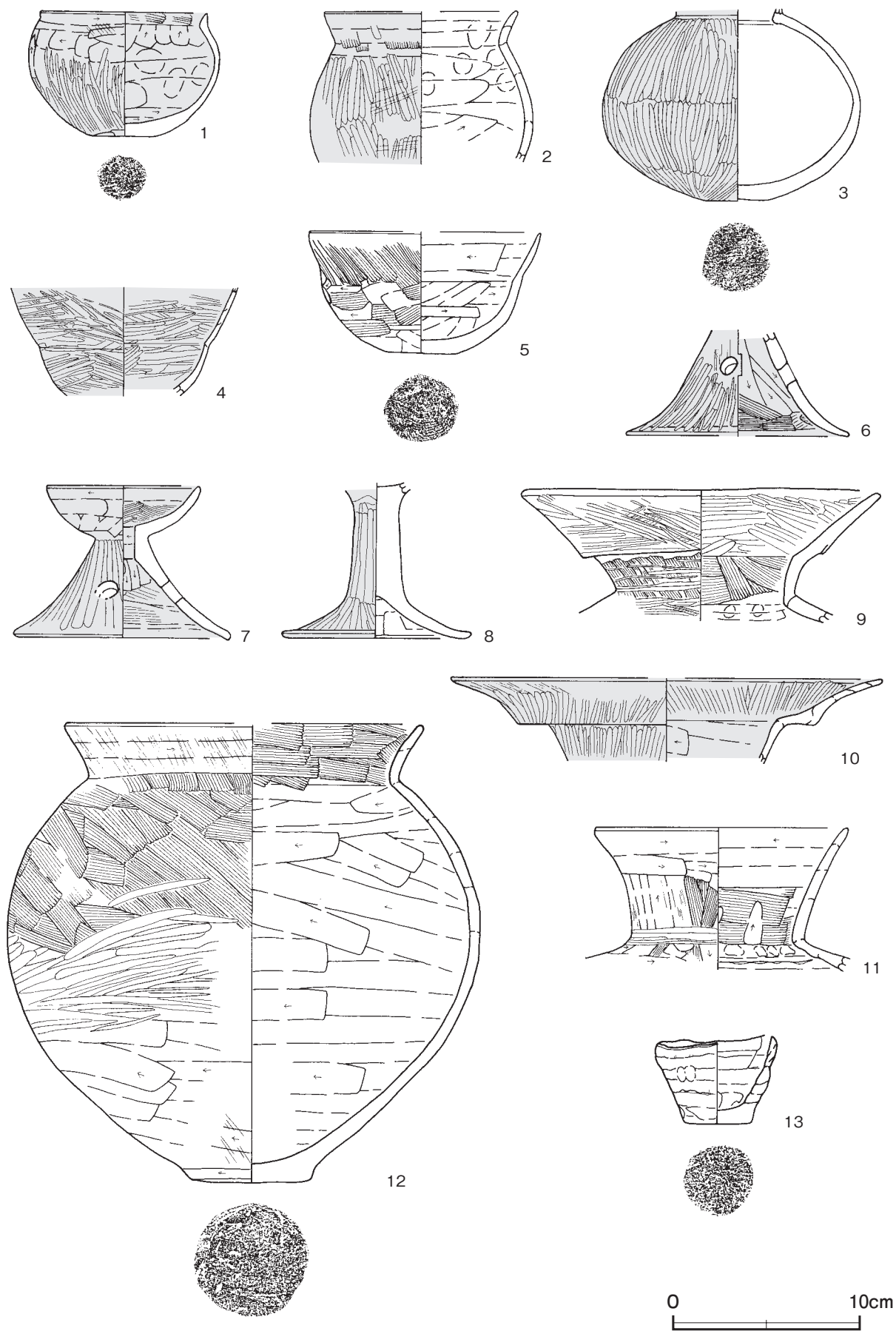
所見 時期は、出土土器から4世紀後葉に比定できる。

## 第109号竪穴建物跡出土遺物観察表（第187図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	埴	8.9	6.7	3.0	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	口縁部横ナデ ハケ目調整ナデ消し 体部外面横位のナデ後縦位の磨き、下部斜位の削り、内面横位のナデ 底部螺旋状のナデ 赤彩	覆土下層	90% PL72
2	土師器	埴	[10.4]	(8.2)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ、ハケ目調整ナデ消し 体部外面縦位の磨き、内面横・斜位のナデ 外面赤彩	覆土下層	30%
3	土師器	埴	-	(10.3)	3.5	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	体部外面縦位の磨き 底部一方向のナデ 外面赤彩	覆土下層	70% PL73
4	土師器	埴	-	(5.9)	-	長石・石英・雲母・針状物質	赤褐色	普通	口縁部・体部二方向の磨き 赤彩	覆土中	20%
5	土師器	埴	[12.4]	7.5	3.6	長石・石英・雲母・針状物質	明赤褐色	普通	口縁部外面縦位のハケ目調整、内面横位のナデ 体部外面横位のハケ目調整後ナデ消し、内面横・斜位のナデ 底部螺旋状のナデ	覆土下層	70% PL72 煤付着
6	土師器	器台	8.2	8.2	[11.8]	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	体部外面縦・横位のナデ、内面横位のナデ後二方向の磨き、脚部外面縦位の磨き、内面横位のハケ目調整後縦位のナデ、外面からの穿孔3か所 赤彩	覆土下層	60%



第 186 図 第 109 号豎穴建物跡実測図



第 187 图 第 109 号竖穴建物跡出土遺物実測図

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
7	土師器	器台	-	(5.7)	[12.0]	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	脚部外面ハケ目調整ナデ消し後縦位の磨き、内面縦位のナデ後横位のハケ目調整、外面からの穿孔3か所 赤彩	覆土中層	40% 二次焼成
8	土師器	高坏	-	(8.4)	[10.2]	長石・石英・雲母・針状物質	赤褐	普通	脚部外面縦位の磨き、内面横位のナデ 外面赤彩	覆土下層	40% PL76
9	土師器	壺	[18.9]	(7.2)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部外・内面二方向の磨き 頸部縦位のハケ目調整後横位の磨き、内面横・斜位のハケ目調整 体部外面横位の磨き、内面横位のナデ	覆土下層	20% PL78
10	土師器	壺	[23.6]	(4.6)	-	長石・石英・雲母・針状物質	赤褐	普通	口縁部外・内面縦位の磨き 頸部外面縦位の磨き 内面横位のナデ 赤彩	覆土中	10%
11	土師器	壺	13.4	(7.2)	-	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	口縁部横ナデ 頸部外面縦位のハケ目調整後一部ナデ消し、内面横位のハケ目調整後部分ナデ消し 体部外・内面横位のナデ	覆土下層	20%
12	土師器	甕	18.9	24.7	6.4	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部外面ハケ目調整後ナデ消し、内面横位のハケ目調整 体部外面斜位のハケ目調整後横位のナデ、横位の磨き、内面横位のナデ 底部二方向のナデ	覆土中層	50%
13	土師器	手提土器	6.2	4.8	3.6	長石・石英・雲母・針状物質	浅黄橙	普通	口縁部・体部輪積痕を残す横位のナデ、指頭痕 底部外面二方向のナデ、内面螺旋状のナデ	覆土中層	100% PL85

## 第110号竪穴建物跡（第188～191図 PL23）

調査年度 平成27年度

位置 調査区中央部のD5c5区、標高42mほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第12号溝に掘り込まれている。

規模と形状 第12号溝に掘り込まれているが、長軸4.32m、短軸4.10mの方形で、主軸方向はN-15°-Wである。壁は高さ20～30cmで、ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で、中央部及び竈の前面、南壁際の一部が踏み固められている。貼床は、第6層を10～30cmほど埋め戻して構築されている。

竈 北壁の中央部に付設されている。煙道部に攪乱を受けていることから、焚き口部から煙道部までは110cmしか確認できなかった。燃焼部の幅は40cmである。燃焼部は床面から12cmほど掘りくぼめられ、第7～9層で埋め戻されている。袖部は、芯材として加工されたQ3・Q4を深さ5～10cmのピットに第8層で固定した後、第8・9層の上面に第5・6層を積み上げて構築されている。火床面は第7～9層の上面で、第7層は火熱を受けて赤変硬化している。支脚として加工された凝灰質泥岩が第8層で固定され、燃焼部に据えつけられている。煙道部は壁外に30cmほど掘り込まれ、火床面から外傾している。第1～4層は天井部の崩落土である。懸架材に用いられた凝灰質泥岩は遺棄されていることから、早い段階で崩壊している。

### 竈土層解説

- |                             |                         |
|-----------------------------|-------------------------|
| 1 黒褐色 粘土ブロック多量、ローム粒子・焼土粒子微量 | 6 褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量   |
| 2 暗褐色 粘土ブロック・焼土粒子少量・ローム粒子微量 | 7 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子微量 |
| 3 灰黄褐色 粘土ブロック中量、ロームブロック少量   | 8 暗褐色 ロームブロック中量         |
| 4 黒褐色 粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量   | 9 褐色 ロームブロック中量          |
| 5 灰黄褐色 焼土ブロック・粘土ブロック中量      |                         |

ピット 5か所。P1～P4は深さ40～60cmで、配置から支柱穴である。P5は深さ25cmで、配置から出入り口施設に伴うピットである。第4～5層が埋土、第3層が柱痕跡、第1・2層が柱材を抜き取った後の覆土である。

### ピット土層解説（各ピット共通）

- |                             |                 |
|-----------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 粘土ブロック多量、ローム粒子・焼土粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 粘土ブロック・焼土粒子少量・ローム粒子微量 | 5 褐色 ロームブロック中量  |
| 3 黒褐色 ロームブロック・炭化物微量         |                 |

貯蔵穴 竈の東側に位置し、長軸70cm、短軸60cmの長方形である。深さは30cm、底面は皿状で、壁は外傾している。3層に分層でき、ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

### 貯蔵穴土層解説

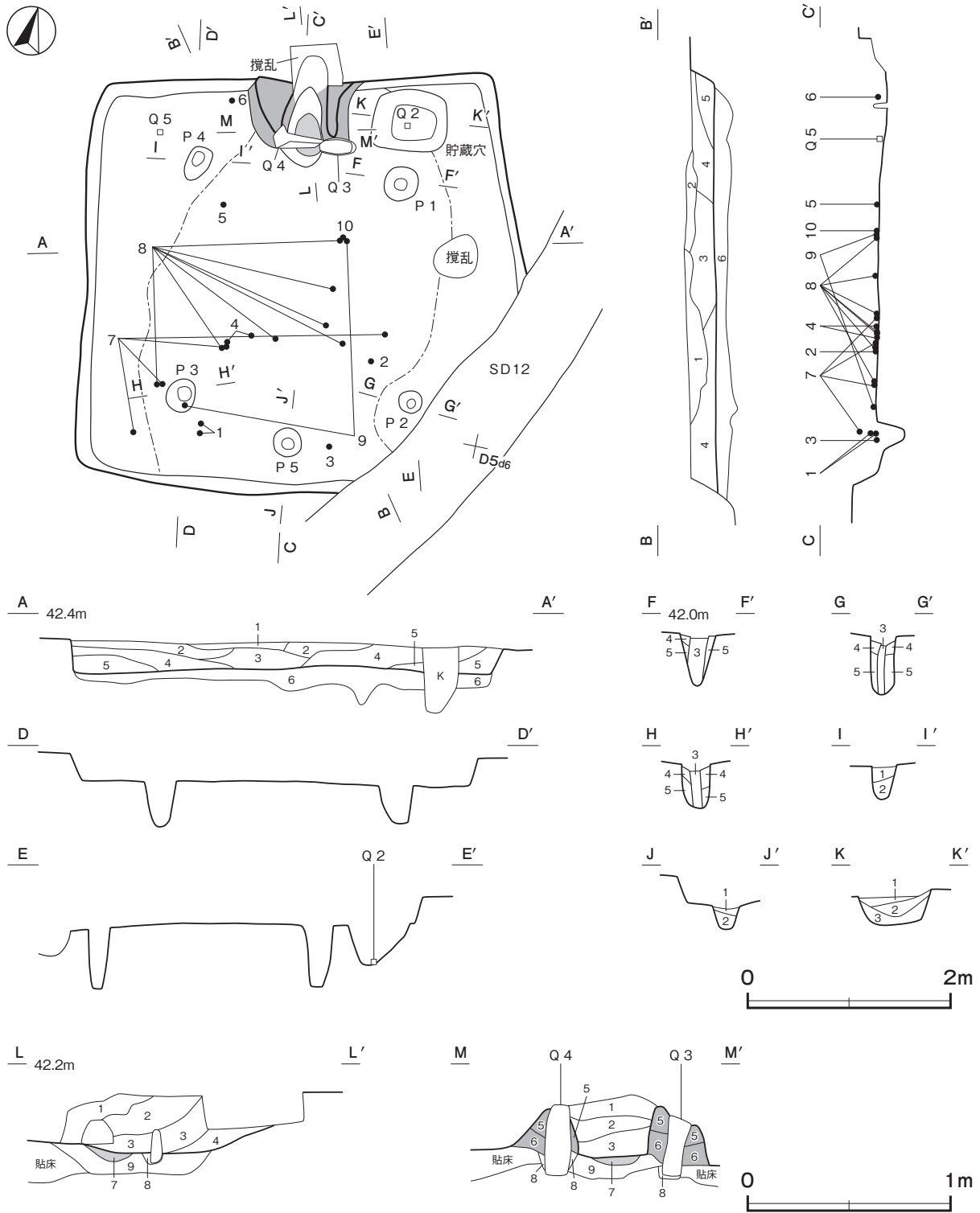
- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック中量 | 3 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量 |                 |



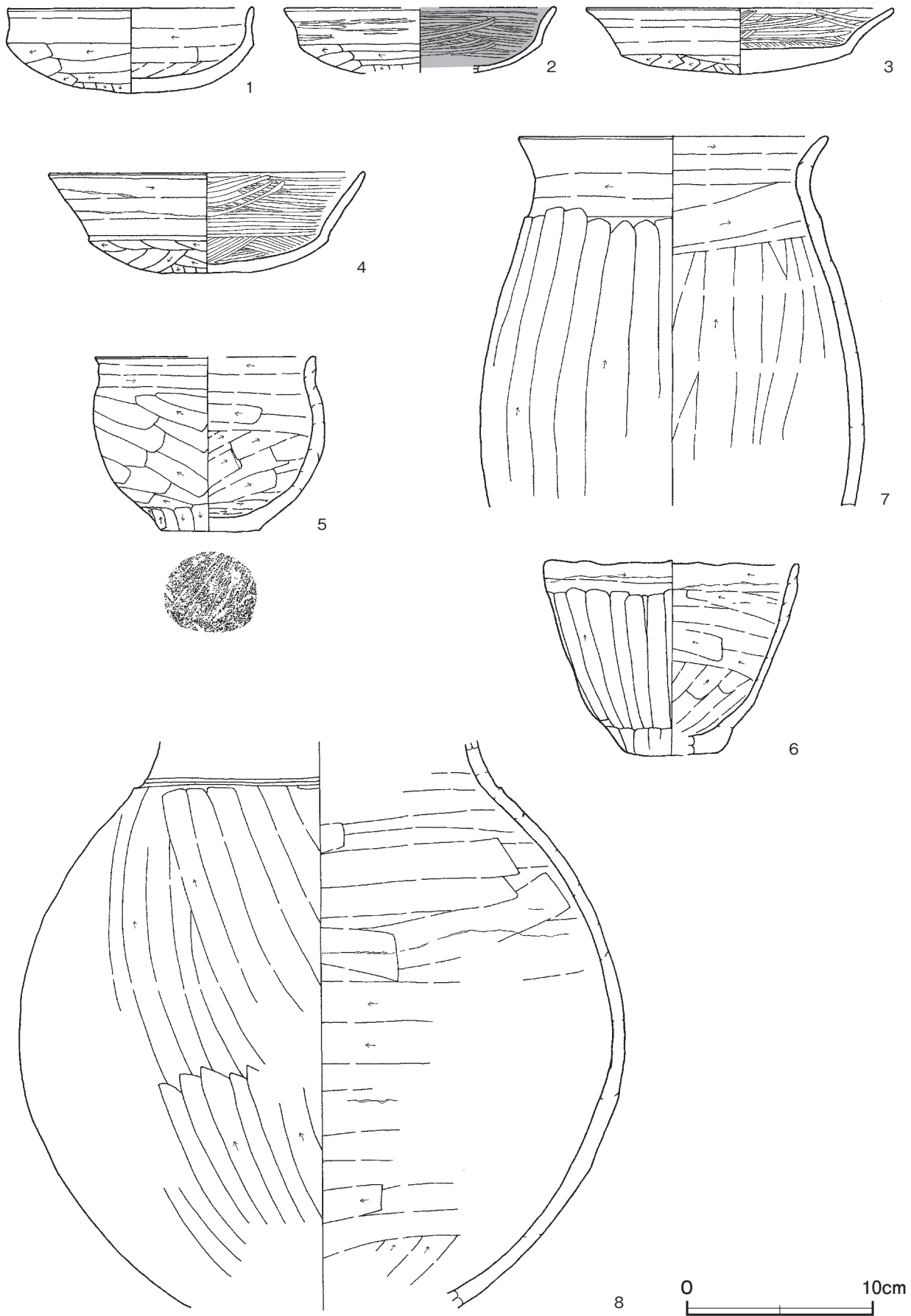
**覆土** 5層に分層できる。ロームブロックが含まれる不規則な堆積をしていることから、埋め戻されている。  
 第6層は貼床の構築土である。

**土層解説**

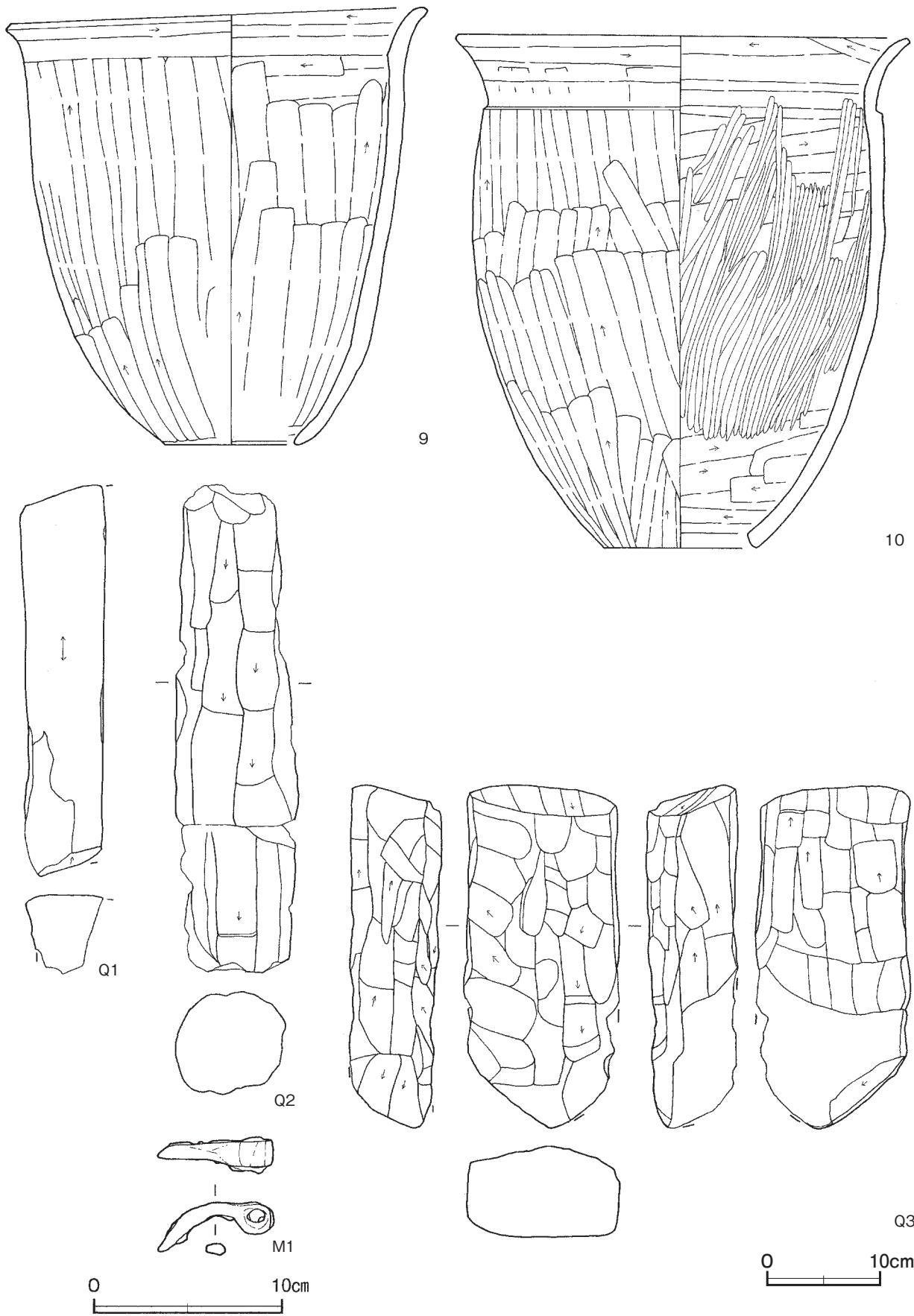
- |       |           |       |                          |
|-------|-----------|-------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量                |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 | 5 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量 | 6 褐色  | ロームブロック多量                |



第188図 第110号竪穴建物跡実測図



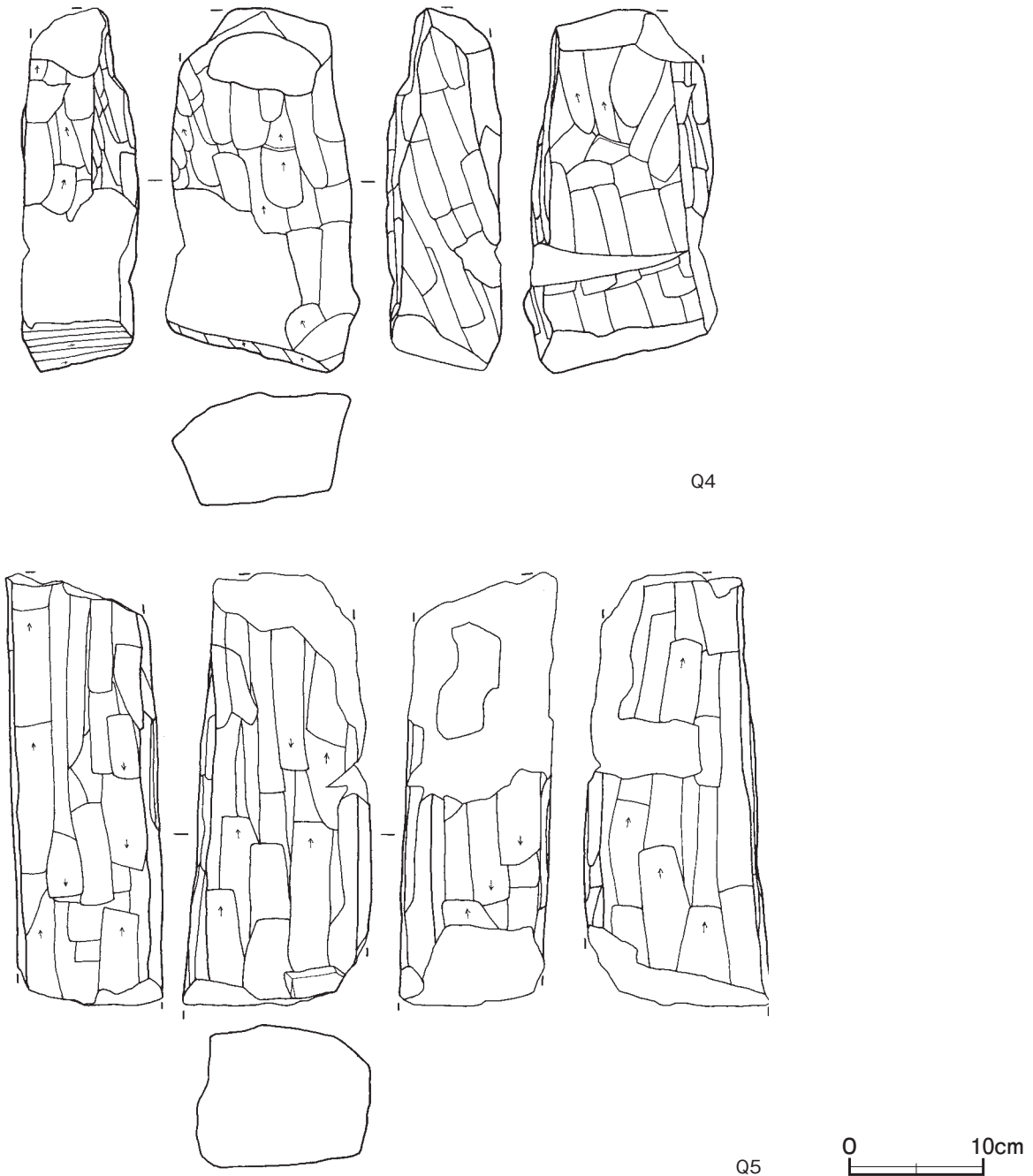
第 189 图 第 110 号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)



第 190 图 第 110 号竖穴建物跡出土遺物実測図(2)

**遺物出土状況** 土師器片 202 点 (坏 28, 高坏 1, 鉢類 7, 甕類 163, 甗 3), 石器 1 点 (砥石), 石製品 26 点 (支脚 3, 袖部芯材 2, 竈材 21), 金属製品 1 点 (壺金) のほか, 縄文土器片 54 点 (深鉢), 弥生土器片 2 点 (壺類) が, 全域に散在している。多くの土器は大型や中型の破片で, 接合関係が良好であることから, 埋め戻しに伴って一括で投棄されたと考えられる。2 は 7 世紀前葉の所産であることから, 第 101 号堅穴建物からの混入である。

**所見** 時期は, 出土土器から 6 世紀後葉に比定できる。



第 191 図 第 110 号堅穴建物跡出土遺物実測図(3)

第 110 号 竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 189 ~ 191 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	13.0	4.6	-	長石・石英・雲母・針状物質	灰褐	普通	口縁部横ナデ 底部外面一方向の削り後横位の削り、内面一方向のナデ後横位のナデ漆処理	覆土下層	90% PL68 内面煤付着
2	土師器	坏	[14.4]	(3.5)	-	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	口縁部横ナデ後横位の磨き 底部外面一方向の削り後横位の削り、内面二方向の磨き 内面黒色処理	覆土下層	40%
3	土師器	坏	16.4	3.5	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ後内面横位の磨き 体部外面一方向の削り後斜位の削り、内面二方向の磨き	覆土下層	90% PL67 煤付着
4	土師器	坏	17.0	5.4	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ後内面横位の磨き 体部外面一方向の削り後斜位の削り、内面二方向の磨き 漆処理	覆土下層	70% PL67
5	土師器	鉢	11.8	9.5	5.2	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面斜位の削り後下部縦位の削り、内面斜位のナデ後横位のナデ 底部外面一方向の削り、内面一方向のナデ	覆土下層	40% PL77
6	土師器	小形甕	13.5	10.4	[5.0]	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の削り、内面横位のナデ	覆土下層	60% 煤付着
7	土師器	甕	16.5	(20.0)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい黄褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の削り、内面縦位のナデ後横位のナデ	覆土中層 覆土下層	30% 煤付着
8	土師器	甕	-	(30.6)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい褐	普通	体部外面縦位のナデ後下位縦位の削り、内面縦位のナデ後横位のナデ	覆土下層	50%
9	土師器	甕	21.8	23.4	7.0	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位のナデ後下位縦位の削り、内面横位のナデ後縦位のナデ	覆土下層	70% 煤付着
10	土師器	甕	23.7	27.4	8.0	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位のナデ、内面横位のナデ後縦位の磨き	覆土下層	90% PL84

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	砥石	20.8	(4.5)	(5.1)	(660.12)	緑色変成岩	下面・右側面欠損 砥面 1 面	覆土中	
Q 2	支脚	(26.1)	6.6	5.5	(460.63)	凝灰質泥岩	上面欠損 下面劣化のため詳細不明 側面削り調整	貯蔵穴床面	
Q 3	袖部芯材	(30.5)	13.7	8.1	(2.105)	凝灰質泥岩	上面一方向の削り 側面削り調整 下面一部欠損、尖底状に加工	袖部構築土中	
Q 4	袖部芯材	27.4	14.2	8.7	(2.072)	凝灰質泥岩	上面一部欠損、未加工 側面削り調整 下面一方向の削り調整	袖部構築土中	
Q 5	竈材	(32.6)	14.2	12.0	(3.235)	凝灰質泥岩	両端部欠損 側面削り調整 懸架材。	覆土下層	二次焼成 下面煤付着

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 1	壺金	6.2	2.6	1.8	25.32	鉄	軸部先端部尖頭状、断面長方形 受部円筒形	覆土中	PL109

第 111 号 竪穴建物跡 (第 192・193 図)

調査年度 平成 27 年度

位置 調査区中央部の C 5 i3 区、標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第 479・500・517 号土坑を掘り込み、第 101 号竪穴建物、第 455・466 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 6.56 m、短軸 6.12 m の方形で、主軸方向は N - 20° - W である。壁は高さ 11 ~ 15 cm で、外傾している。

竈 北壁の東寄り、右袖と掘方の一部を確認した。燃焼部は床面から 10 cm ほど掘りくぼめられ、第 2 層で埋め戻されている。袖部は、第 2 層上面に第 1 層を積み上げて構築されている。火床面は第 2 層の上面と推定できるが、第 101 号竪穴建物に壊されていることから、明確にはできなかった。

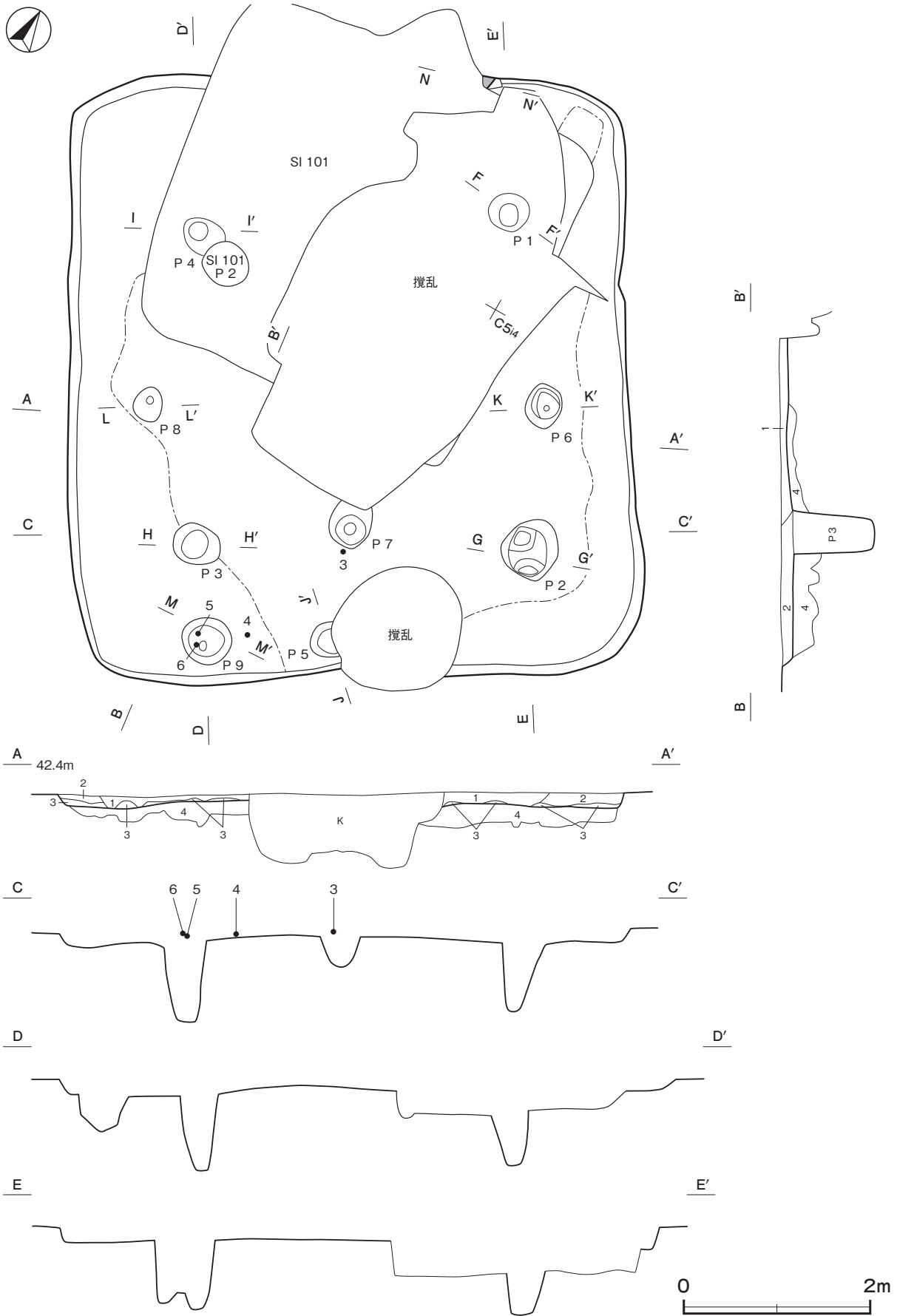
竈土層解説

1 灰 褐 色 焼土ブロック・粘土ブロック中量, ローム粒子微量 2 暗 褐 色 ロームブロック少量

ピット 9 か所。P 1 ~ P 4 は深さ 50 ~ 80 cm で、配置から主柱穴である。P 5 は深さ 20 cm で、配置から出入り口施設に伴うピットである。P 6 ~ P 8 は深さ 30 cm で、配置から補助柱穴の可能性がある。P 1 ~ P 8 の覆土は、第 5 ~ 7 層が埋土、第 4 層が柱痕跡、第 1 ~ 3 層が柱材を抜き取った後の覆土である。P 9 は長径 60 cm、短径 55 cm の円形で、深さは 30 cm である。3 層に分層でき、ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。配置から貯蔵穴の可能性はあるが、不明である。

P 1 ~ P 8 土層解説

1 黒 褐 色 ローム粒子微量 5 暗 褐 色 ローム粒子少量  
 2 暗 褐 色 ローム粒子中量 6 暗 褐 色 ロームブロック微量  
 3 褐 色 ロームブロック少量 7 暗 褐 色 ロームブロック少量  
 4 黒 色 ローム粒子中量



第 192 图 第 111 号竖穴建物迹实测图

**P 9土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量

- 3 黒褐色 ロームブロック中量

**覆土** 3層に分層できる。第1～3層はロームブロックが含まれる不規則な堆積をしていることから、埋め戻されている。第4層は貼床の構築土である。

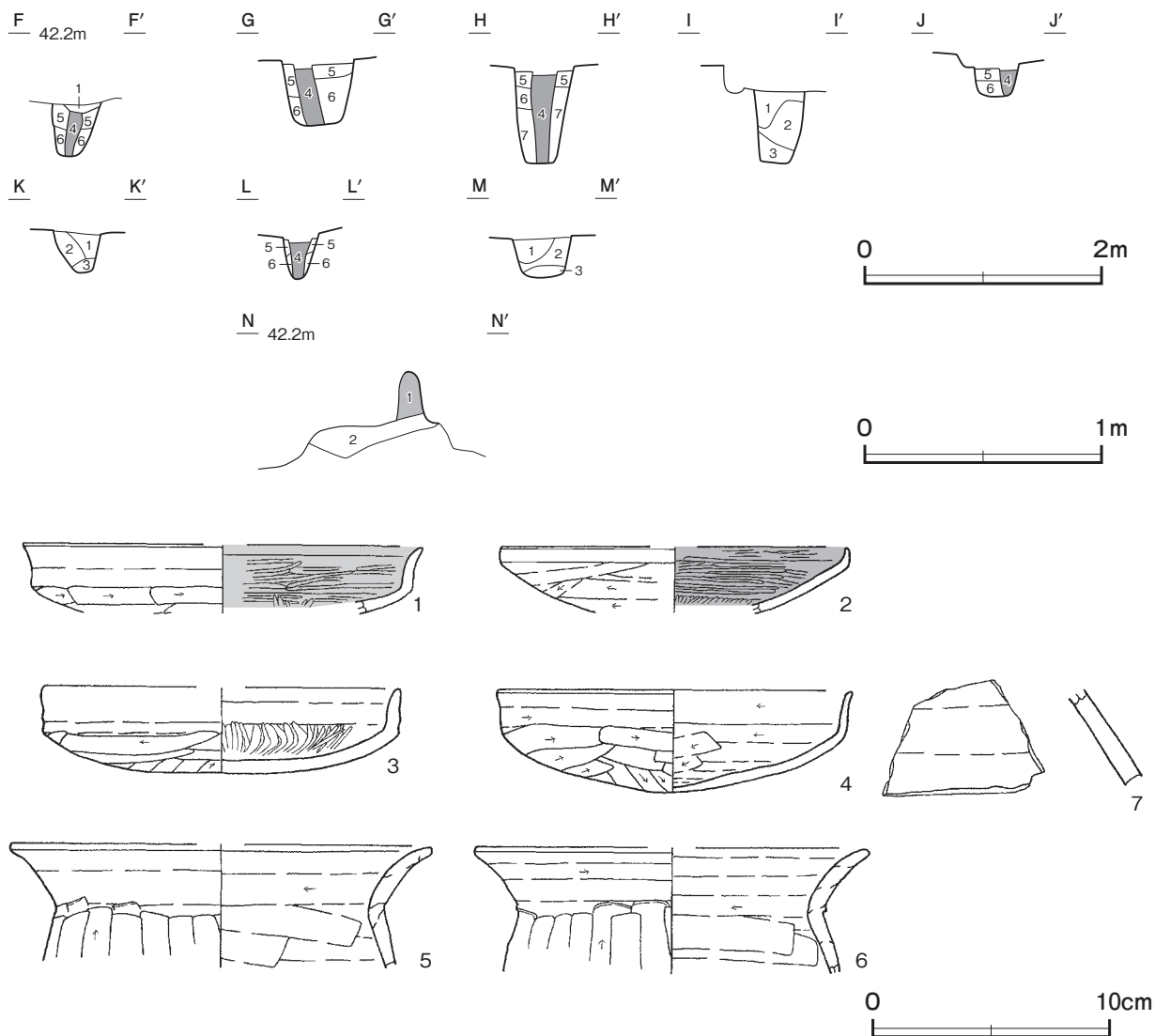
**土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

- 3 黒褐色 ロームブロック微量
- 4 黄褐色 ロームブロック中量

**遺物出土状況** 土師器片 216 点（坏 40，高坏 2，鉢類 1，甕類 173），須恵器片 2 点（甕類）のほか，縄文土器片 20 点（深鉢，弥生土器片 5 点（壺類），剥片 1 点（瑪瑙）が，主に南半部及び P 9 周辺から出土している。多くの土器は中型の破片や小片で，接合関係が良好であることから，埋め戻しに伴って投棄されたと考えられる。7 は幡山窯で生産された甕の可能性があるので，後世の流入や混入と考えられる。

**所見** 時期は，出土土器から 6 世紀後葉に比定できる。



第 193 図 第 111 号 竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 111 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 193 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[16.8]	(2.9)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ後内面横位の磨き、底部外面横位の削り、内面二方向の削り、内面黒色処理	覆土中	10%
2	土師器	坏	[14.4]	(2.7)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ後内面横位の磨き、底部外面横位の削り、内面二方向の削り、外・内面黒色処理	覆土中	20%
3	土師器	坏	[14.8]	(3.6)	-	長石・石英・針状物質	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ、底部外面一方向の削り後横位の削り、内面放射状の磨きを模した二方向の磨き	覆土下層	40%
4	土師器	坏	14.7	4.4	-	長石・石英・雲母・針状物質	浅黄橙	普通	口縁部横ナデ、底部外面一方向の削り後横位の削り、同心円状のナデ後斜位のナデ	覆土下層	60%
5	土師器	甕	[17.6]	(5.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ、体部外面縦位の削り、内面横位のナデ	覆土下層	10%
6	土師器	甕	[16.4]	(5.4)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ、体部外面縦位の削り、内面横位のナデ	覆土下層	10%
7	須恵器	甕	-	(4.0)	-	長石・石英・針状物質・黒色粒子	灰	良好	体部ロクロナデ、内面同心円状の当具痕、自然釉付着	覆土中	5% 轆山窯。

第 113 号竪穴建物跡（第 194 図）

調査年度 平成 27 年度

位置 調査区西部の C 3i3 区、標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第 1 号遺物包含層を掘り込み、第 114 号竪穴建物、第 14 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南部が調査区域外に延びていることから、東西軸は 6.90 m で、南北軸は 4.92 m しか確認できなかった。方形もしくは長方形と推定できるが、主軸方向は不明である。壁は高さ 20 ~ 30 cm で、ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で、全面が踏み固められている。貼床は、第 6 層を 5 ~ 10 cm ほど埋め戻して構築されている。

ピット 3 か所。P 1 ~ P 3 は深さ 24 ~ 50 cm で、配置から主柱穴である。P 3 の覆土は第 3 層が埋土、第 1・2 層が柱材を抜き取った後の覆土である。

P 3 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

覆土 5 層に分層できる。ロームブロックが含まれる不規則な堆積をしていることから、埋め戻されている。第 6 層は貼床の構築土である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
- 5 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 6 黒褐色 ロームブロック中量

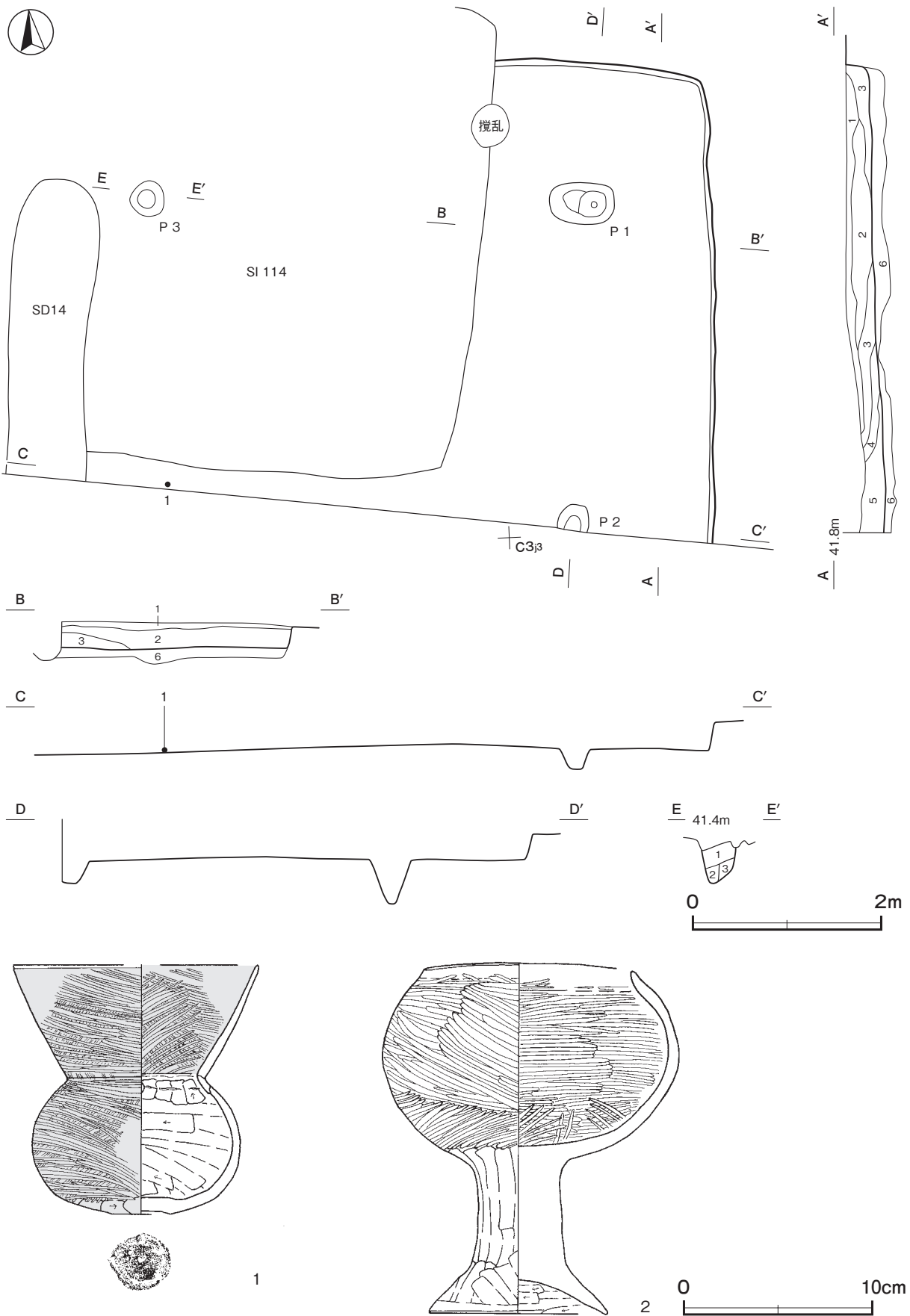
遺物出土状況 土師器片 115 点（埴 1, 器台 1, 高坏 16, 脚付盃 1, 壺類 4, 台付甕 1, 甕類 90, ミニチュア土器 1）のほか、縄文土器片 71 点（深鉢）、弥生土器片 3 点（壺類）が、全域に散在している。多くの土器は中型の破片や小片で、接合関係に乏しいことから、破損したものが廃絶に伴って投棄されたと考えられる。1・2 は良好な遺存状態で出土していることから、廃絶に伴って廃棄されたと考えられる。

所見 時期は、出土土器から 4 世紀後葉に比定できる。

第 113 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 194 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	埴	[13.0]	13.0	3.1	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部外・内面二方向の磨き、体部下端部横位のナデ後二方向の磨き、内面横位のナデ、底部一方向のナデ、赤彩	覆土下層	60% PL73
2	土師器	脚付盃	11.1	18.5	9.3	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ、腕部外面二方向の磨き、内面横位の磨き後下位多方向の磨き、脚部外面縦位のナデ、内面横位のナデ	覆土中	90% PL77





第 194 図 第 113 号竖穴建物跡・出土遺物実測図

第 116 号 竪穴建物跡 (第 195・196 図)

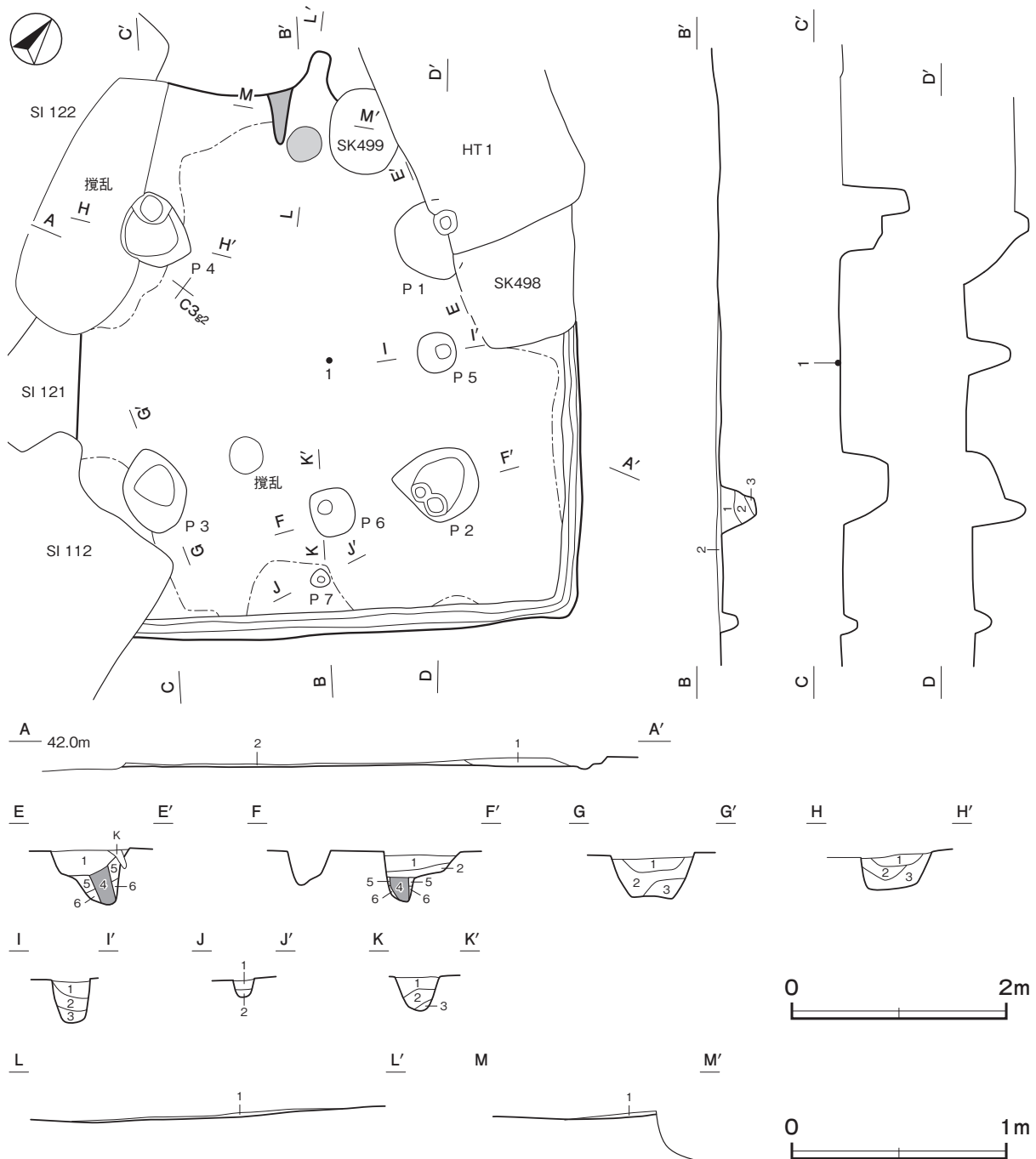
調査年度 平成 27 年度

位置 調査区西部の C 3 f2 区, 標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第 1 号遺物包含層を掘り込み, 第 112・121・122 号竪穴建物, 第 1 号方形竪穴遺構, 第 498・499 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 5.12 m, 短軸 4.66 m の方形で, 主軸方向は N - 36° - W である。壁は高さ 5 cm で, ほぼ直立している。

床 平坦で, 西隅部及び南隅部の付近を除いて踏み固められている。壁溝が, 西壁及び北壁下を除いて巡っている。



第 195 図 第 116 号 竪穴建物跡実測図

**竈** 北壁の中央部に付設されている。焚き口部から煙道部までは110cm、燃焼部の幅は第499号土坑に掘り込まれているものの40cmほどと推定できる。袖部は、左袖部の基部に締まりの強い部分を確認したものの、粘土などの構築材は確認できなかった。火床面は第1層の上面で、第1層は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に40cmほど掘り込まれているが、火床面からの断面の形状は不明である。

**竈土層解説**

1 暗赤褐色 焼土ブロック中量, ローム粒子微量

**ピット** 7か所。P1～P4は深さ42～60cmで、配置から主柱穴である。P2は、重複したピットを確認したことから、立て替えが想定できるが、新旧関係は不明である。P5・P6は深さ40cmで、配置から補助柱穴の可能性がある。P7は深さ20cmで、配置から出入口施設に伴うピットである。第5・6層は埋土、第4層は柱痕跡、第1～3層は柱材を抜き取った後の覆土である。

**ピット土層解説 (各ピット共通)**

- |                           |                    |
|---------------------------|--------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック中量           | 4 黒褐色 ローム粒子少量      |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 5 暗褐色 ロームブロック中量    |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 6 にぶい黄褐色 ロームブロック中量 |

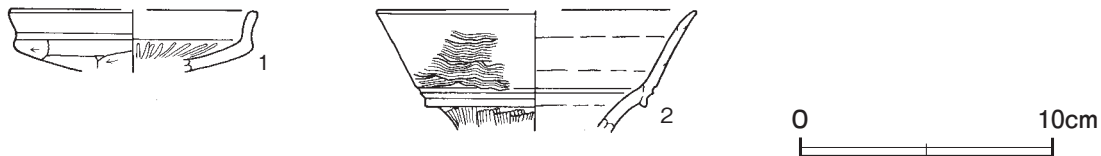
**覆土** 2層に分層できる。層厚が5cmほどであることから、堆積状況は不明である。

**土層解説**

- |                 |                    |
|-----------------|--------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量 | 2 にぶい黄褐色 ロームブロック中量 |
|-----------------|--------------------|

**遺物出土状況** 土師器片20点(坏1, 甕類19), 須恵器片1点(甕)のほか、縄文土器片7点(深鉢)が、全域に散在している。多くの土器は小片で、接合関係に乏しいことから、破損したものが廃絶に伴って投棄されたと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から6世紀後葉に比定できる。



第196図 第116号竪穴建物跡出土遺物実測図

第116号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第196図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[10.0]	(2.5)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい黄褐色	普通	口縁部横ナデ 底部外面横位の削り, 内面放射状の磨き	覆土下層	20%
2	須恵器	甕	[12.6]	(4.9)	-	長石・石英・黒色粒子	黄灰	普通	口縁部外面8条単位の波状文 ハケ目状調整	覆土中	10% PL88 幡山窯

**第117号竪穴建物跡 (第197・198図 PL23)**

**調査年度** 平成27・28年度

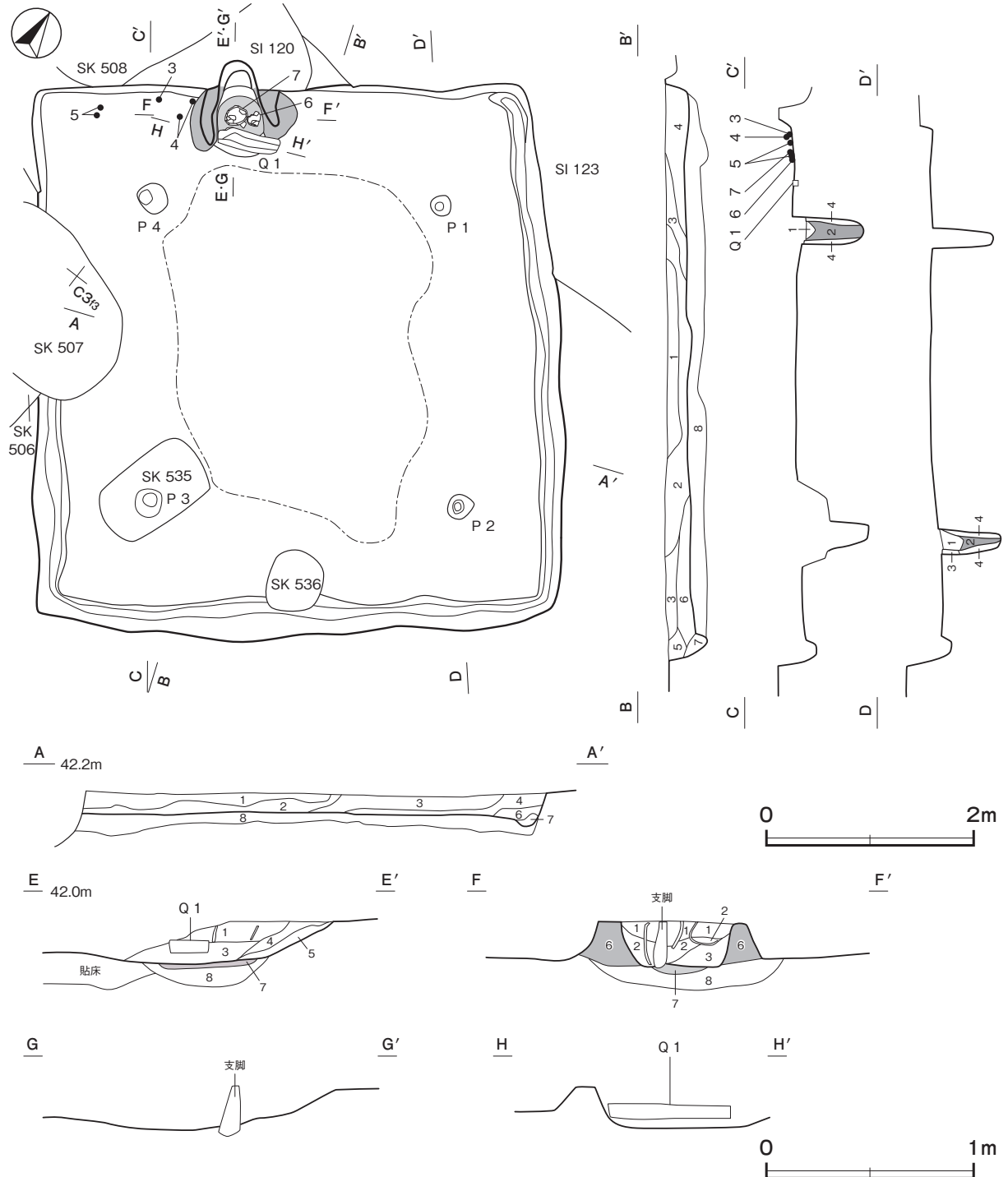
**位置** 調査区西部のC3e3区、標高42mほどの台地平坦面に位置している。

**重複関係** 第506・508号土坑を掘り込み、第120・123号竪穴建物、第507・532・535・536号土坑に掘り込まれている。

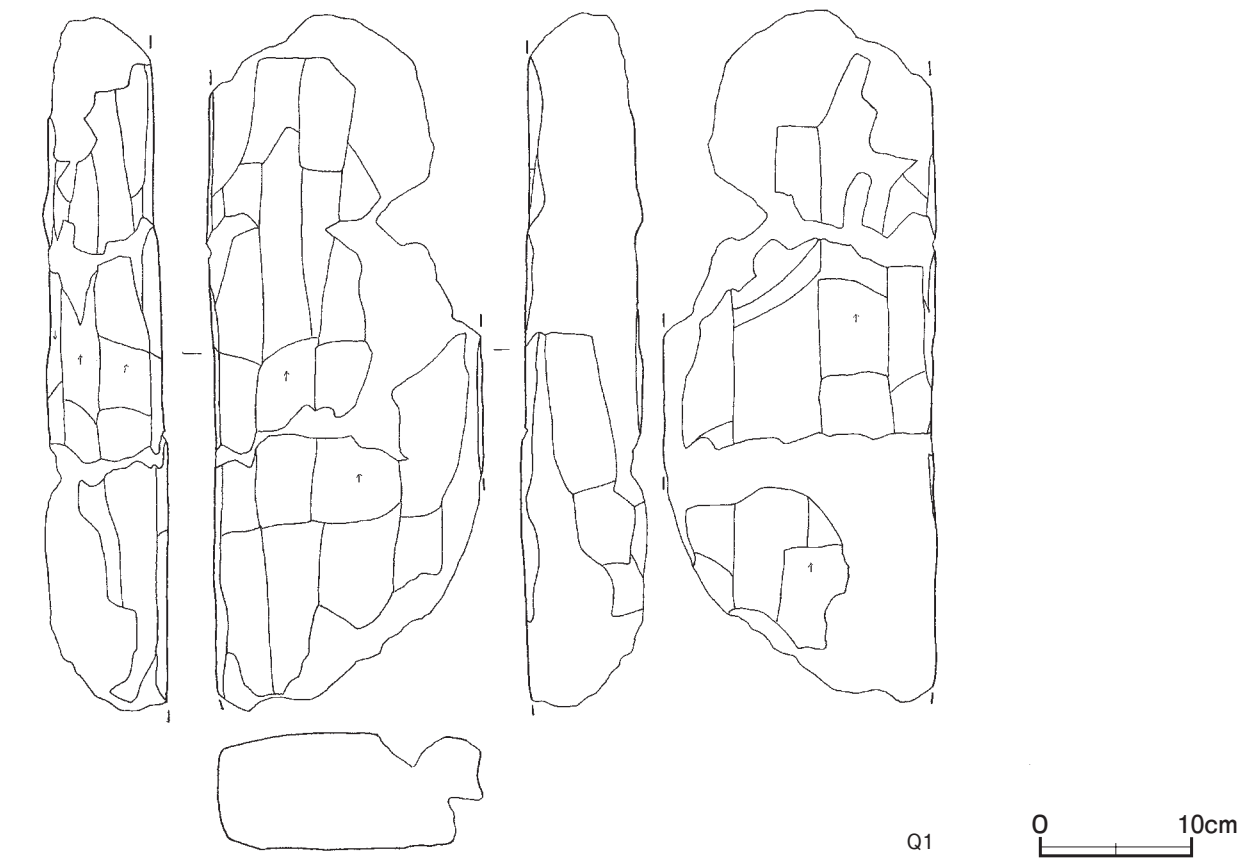
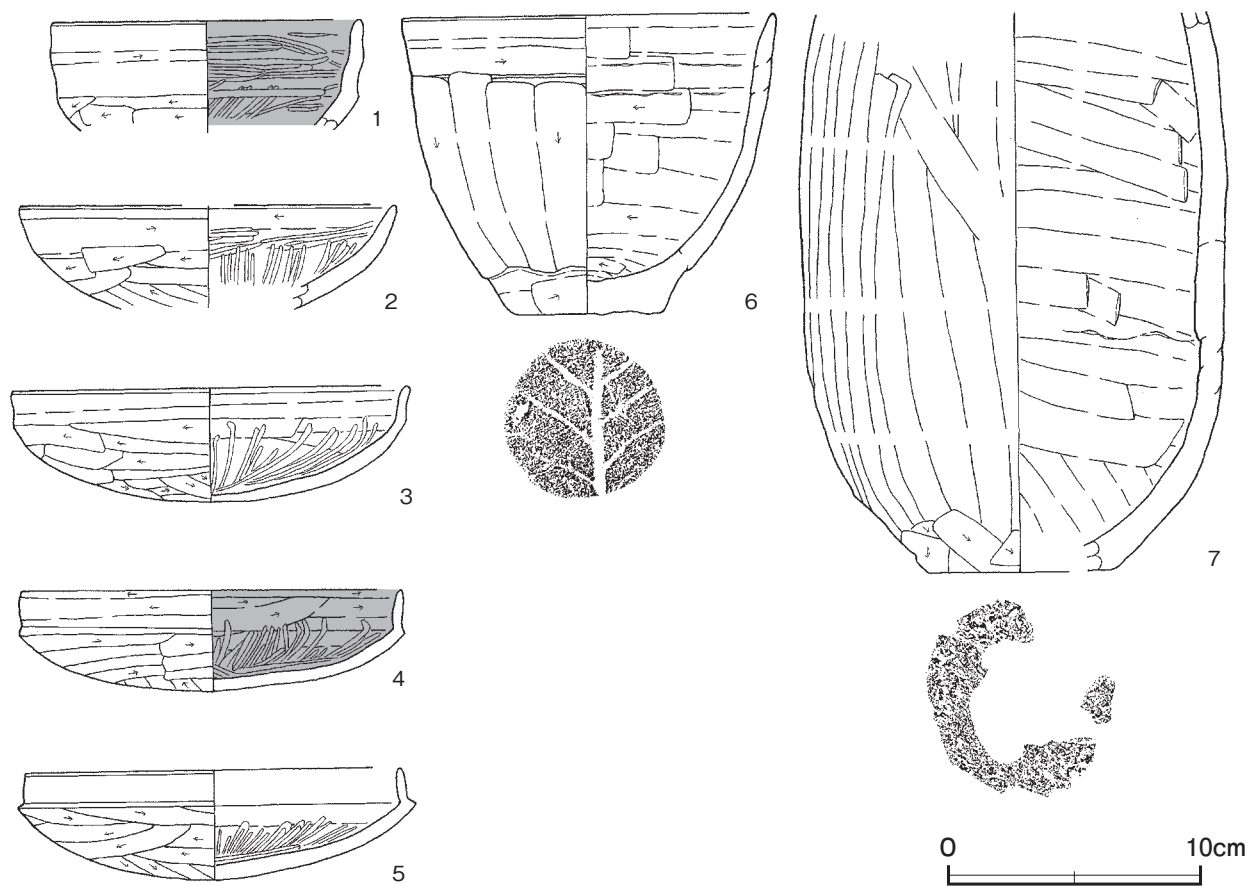
**規模と形状** 長軸5.22m、短軸5.11mの方形で、主軸方向はN-37°-Wである。壁は高さ22～28cmで、ほぼ直立している。

**床** 平坦な貼床で、中央部が踏み固められている。貼床は、第8層を10～20cmほど埋め戻して構築されている。壁溝が、北西壁下の北半部及び北壁下を除いて巡っている。

竈 北壁中央部の西寄りに付設されている。焚き口部から煙道部までは90cm，燃焼部の幅は50cmである。燃焼部は床面から20cmほど掘りくぼめられ，第7・8層で埋め戻されている。袖部は，床面及び第8層上面に第6層を積み上げて構築されている。火床面は第7・8層の上面で，第7層は火熱を受けて赤変硬化している。支脚として加工された凝灰質泥岩は，下端部が第7層で固定され，火床部に据えつけられている。煙道部は壁外に30cmほど掘り込まれ，火床面から外傾している。第4・5層は煙道部からの流入土，第1～3層は天井部や袖部内壁の崩落土で，懸架材に用いられたQ1が遺棄された後に崩落していることから，自然に崩壊している。



第197図 第117号竪穴建物跡実測図



第 198 図 第 117 号竖穴建物跡出土遺物実測図

**竈土層解説**

- |        |                       |        |                       |
|--------|-----------------------|--------|-----------------------|
| 1 灰黄褐色 | ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子微量 | 5 暗褐色  | 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量      |
| 2 暗褐色  | 粘土ブロック中量, ロームブロック微量   | 6 褐色   | 焼土ブロック・粘土ブロック少量       |
| 3 灰黄褐色 | 粘土ブロック多量, ロームブロック微量   | 7 暗赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量      |
| 4 暗褐色  | 粘土ブロック中量, 焼土粒子少量      | 8 暗褐色  | ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子少量 |

**ピット** 4か所。P1～P4は深さ60cmで、配置から支柱穴である。P2・P4の覆土は、第3・4層が埋土、第2層が柱痕跡、第1層が柱材を抜き取った後の覆土である。

**P2・P4ピット土層解説**

- |       |                  |       |                |
|-------|------------------|-------|----------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量     | 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 | 4 褐色  | ロームブロック中量      |

**覆土** 7層に分層できる。ロームブロックや粘土ブロックが含まれる不規則な堆積をしていることから、埋め戻されている。第8層は貼床の構築土である。

**土層解説**

- |       |                   |       |                  |
|-------|-------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量  | 5 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック中量        |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック少量        |
| 4 褐色  | ロームブロック中量         | 8 褐色  | ロームブロック多量        |

**遺物出土状況** 土師器片149点(坏27, 高坏3, 鉢類1, 甕類118,)、須恵器片2点(蓋, 甕類)、石製品2点(支脚, 竈材)のほか、縄文土器片113点(深鉢)、弥生土器片4点(壺類)が、主に竈の近辺から出土している。多くの土器は大型や中型の破片で、接合関係が良好であることから、埋め戻しに伴って投棄されたと考えられる。6・7は竈の燃焼部から支脚や懸架材と共に出土していることから、廃絶に伴って遺棄された後、竈の崩壊時に燃焼部に混入したものと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から6世紀後葉に比定できる。

**第117号竪穴建物跡出土遺物観察表(第198図)**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[12.1]	(4.3)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ後内面横位の磨き 底部横・斜位の削り、内面二方向の磨き 内面黒色処理	覆土中	20%
2	土師器	坏	[14.8]	(4.1)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 底部外面一方向の削り後横位の削り、内面放射状の磨き	覆土中	20% 二次焼成
3	土師器	坏	15.6	4.6	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ 底部外面二方向の削り後横位の削り、内面放射状の磨き 漆処理	覆土下層	90% PL69
4	土師器	坏	15.6	4.0	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ 底部外面一方向の削り後横位の削り、内面放射状の磨きを模した多方向の磨き 外面漆処理、内面黒色処理	覆土下層	80% PL69
5	土師器	坏	14.7	4.3	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ 底部外面一方向の削り後横・斜位の削り、内面放射状の磨きを模した多方向の磨き 漆処理	覆土下層	70% PL68
6	土師器	甕	14.7	11.9	5.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位のナデ後下端部横位のナデ、内面横位のナデ 底部外面木葉痕、内面螺旋状のナデ	竈覆土中	90% PL77 煤付着
7	土師器	甕	-	(22.2)	7.3	長石・石英・雲母・細礫	にぶい橙	普通	体部外面縦位のナデ後下端部斜位の削り、内面縦位のナデ後横位のナデ 底部一方向の削り	竈覆土中	60% 外面煤付着

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	竈材	(45.9)	18.0	8.2	(3,500)	凝灰質泥岩	両端部欠損 側面削り調整	竈覆土中	

**第118号竪穴建物跡(第199図)**

**調査年度** 平成27年度

**位置** 調査区西部のE4f8区、標高42mほどの台地平坦面に位置している。

**規模と形状** 東部が調査区域外に延びていることから、南北軸は3.67mで、東西軸は1.33mしか確認できなかったが、方形もしくは長方形と推定でき、主軸方向はN-3°-Wである。壁は高さ12cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、北壁及び北壁際を除いて踏み固められている。

ピット 2か所。P1・P2は深さ20cmで、配置から主柱穴の可能性はある。第3層は埋土、第1・2層は柱材を抜き取った後の覆土である。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量

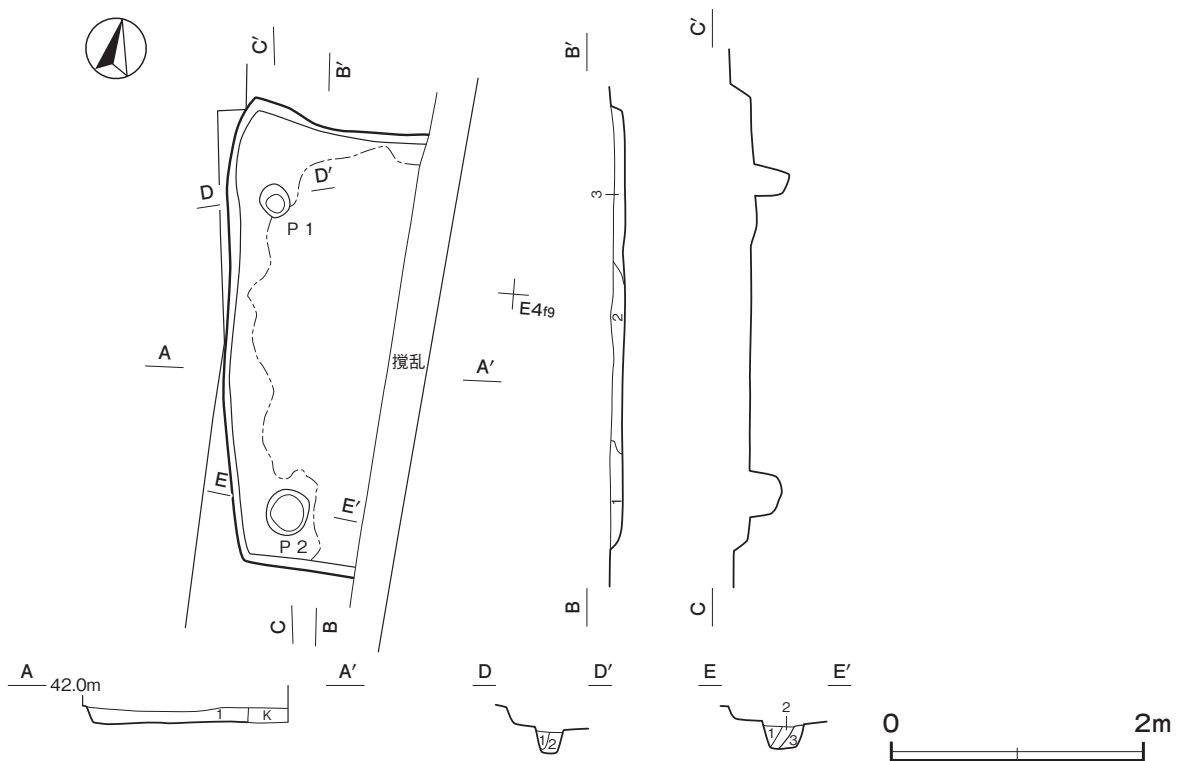
覆土 3層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 黄褐色 ロームブロック多量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片21点(甕類)、須恵器片2点(蓋)のほか、弥生土器片1点(壺類)が、主に全域に散在している。多くの土器は小片で、接合関係に乏しいことから、破損したものが廃絶に伴って投棄されたと考えられる。

所見 時期は、小片で実測できないが、単口縁の甕や須恵器の蓋が出土していることや建物の主軸方向から、7世紀前半に推定できる。



第199図 第118号竪穴建物跡実測図

第119号竪穴建物跡 (第200・201図)

調査年度 平成27年度

位置 調査区西部のE4g8区、標高42mほどの台地平坦面に位置している。

規模と形状 東部及び西部が調査区域外に延びていることから、南北軸は5.35m、東西軸は1.65mしか確認できなかった。方形もしくは長方形と推定できるが、主軸方向は不明である。壁は高さ14~50cmで、ほぼ直

立している。

**床** 平坦で、中央部及び北壁際の一部が踏み固められている。

**ピット** 2か所。P1・P2は深さ20cm・40cmで、支柱穴や補助柱穴の可能性があるが不明である。P1の覆土は、柱材を抜き取った後の覆土である。

**P1土層解説**

- |                   |                 |
|-------------------|-----------------|
| 1 泥い黄褐色 ロームブロック微量 | 2 黒褐色 ロームブロック少量 |
|-------------------|-----------------|

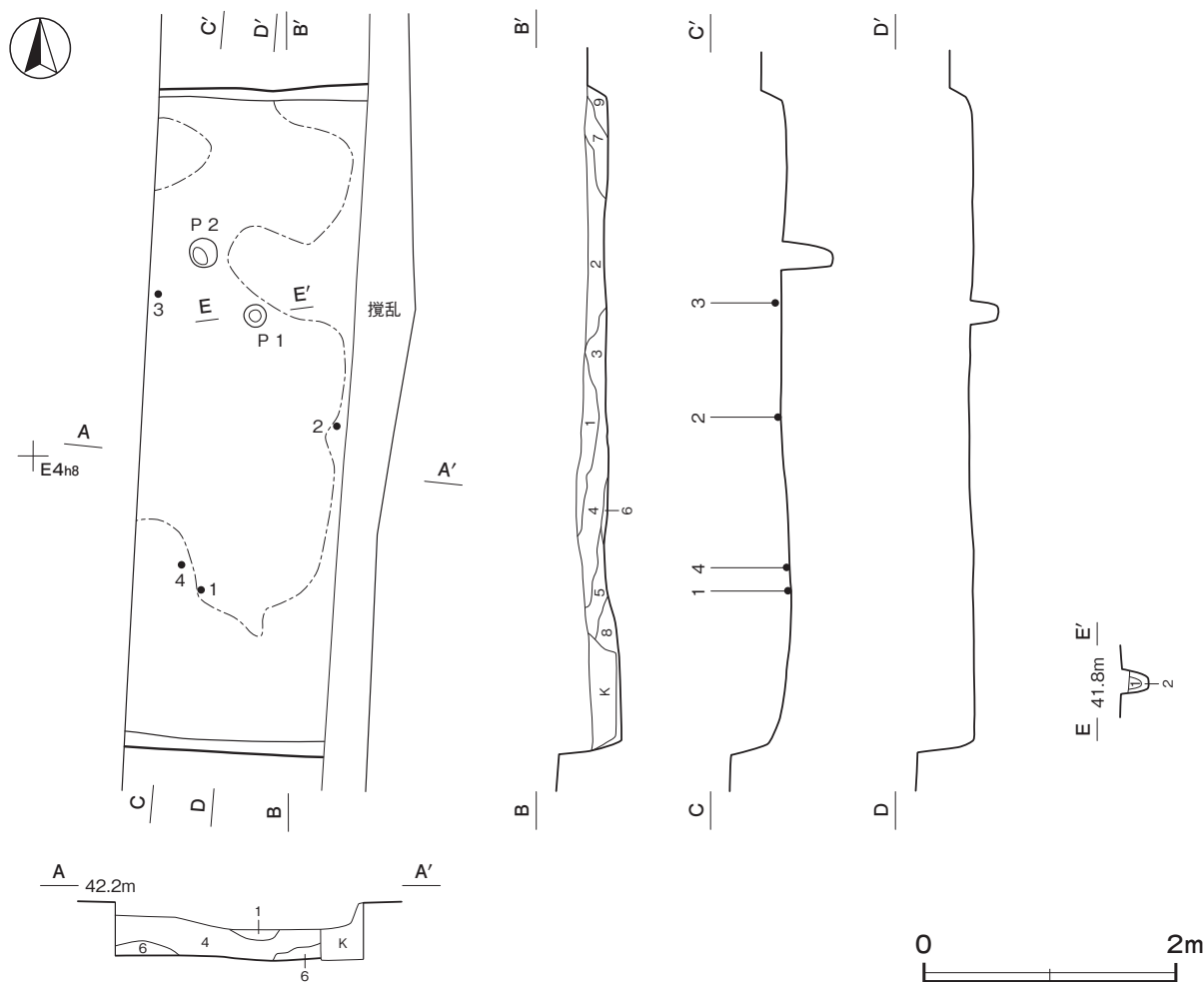
**覆土** 9層に分層できる。第2～9層はロームブロックが含まれる不規則な堆積をしていることから、埋め戻されている。第1層は、埋め戻された後の自然堆積である。

**土層解説**

- |                              |                         |
|------------------------------|-------------------------|
| 1 黒色 ローム粒子微量                 | 6 暗褐色 ロームブロック中量         |
| 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量         | 7 褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量     | 8 黒褐色 ロームブロック中量、炭化物微量   |
| 4 黒褐色 焼土ブロック・炭化物少量、ロームブロック微量 | 9 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物少量   |
| 5 黒褐色 炭化物中量、ロームブロック少量        |                         |

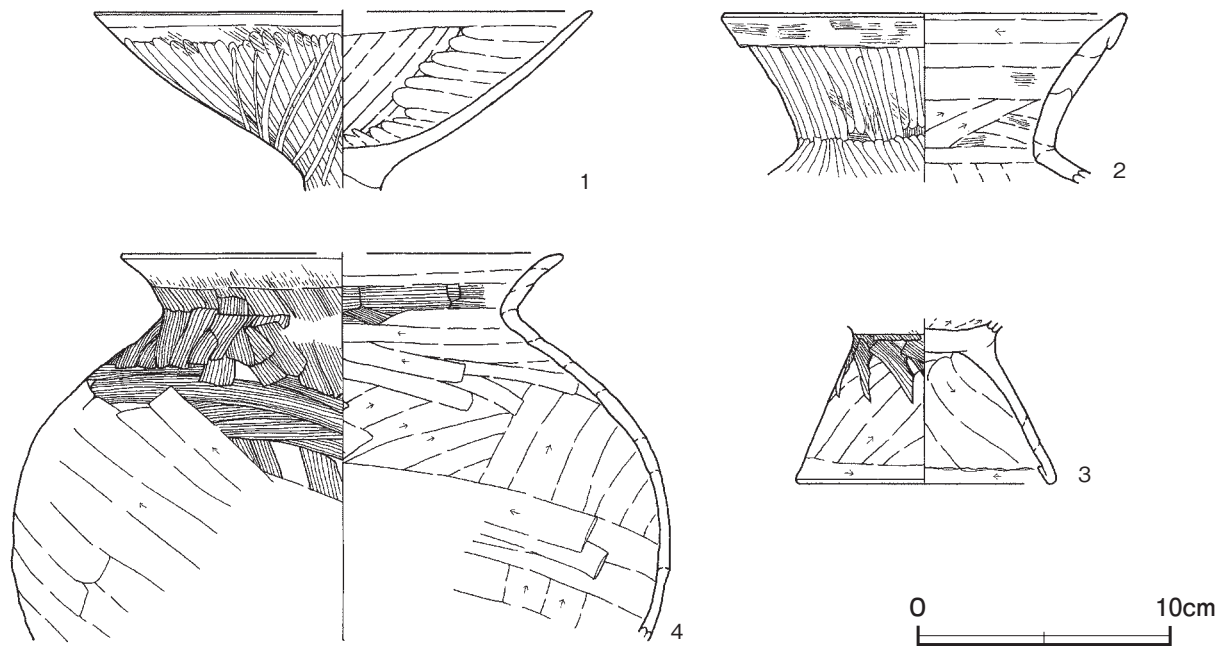
**遺物出土状況** 土師器片152点（埴5、高坏2、壺類1、台付甕1、甕類143）のほか、縄文土器片4点（深鉢）、弥生土器片4点（壺類）が、全域に散在している。多くの土器は中型の破片や小片で、接合関係が良好であることから、埋め戻しに伴って投棄されたと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から4世紀後葉に比定できる。



第200図 第119号竪穴建物跡実測図





第 201 図 第 119 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 119 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 201 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	高坏	[19.6]	(7.0)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい褐色	普通	坏部外面二方向の磨き、ハケ目調整ナデ消し、内面二方向のナデ	覆土下層	30% 外面煤付着
2	土師器	壺	15.7	(6.7)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐色	普通	口縁部横ナデ後外面縦位の磨き、内面縦・斜位のナデ、ハケ目調整ナデ消し	覆土下層	30% 煤付着
3	土師器	台付甕	-	(6.5)	[10.0]	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい黄褐色	普通	台部外・内面螺旋状のナデ、外面上端部ハケ目調整	覆土下層	10% 二次調整
4	土師器	甕	[17.3]	(15.4)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面ハケ目調整後横・斜位のナデ、内面縦・横位のナデ	覆土下層	20% 煤付着

### 第 121 号竪穴建物跡 (第 202 図)

調査年度 平成 27 年度

位置 調査区西部の C 3 g1 区、標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第 116 号竪穴建物跡、第 505 号土坑を掘り込み、第 112・122 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 第 112・116 号竪穴建物に掘り込まれているが、確認した硬化面の範囲から、長軸は 4.85 m、短軸は 4.72 m の方形と推定できる。主軸方向は N - 37° - E である。壁は高さ 3 cm で、ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で、掘り込まれている部分や P 3 周辺及び南西壁などの一部を除いて踏み固められている。貼床は、第 3 層を 20cm ほど埋め戻して構築されている。

ピット 4 か所。P 1・P 2 は深さ 45 ~ 50cm で、配置から主柱穴である。P 3 は深さ 30cm で、配置から入り口施設に伴うピットである。P 4 は深さ 20cm で、性格は不明である。第 4 ~ 6 層が埋土、第 3 層が柱痕跡、第 1・2 層が柱材を抜き取った後の覆土である。

#### ピット土層解説 (各ピット共通)

- |          |           |        |           |
|----------|-----------|--------|-----------|
| 1 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量 | 4 暗褐色  | ロームブロック少量 |
| 2 にぶい黄褐色 | ローム粒子中量   | 5 黒褐色  | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色    | ローム粒子微量   | 6 灰黄褐色 | ロームブロック中量 |

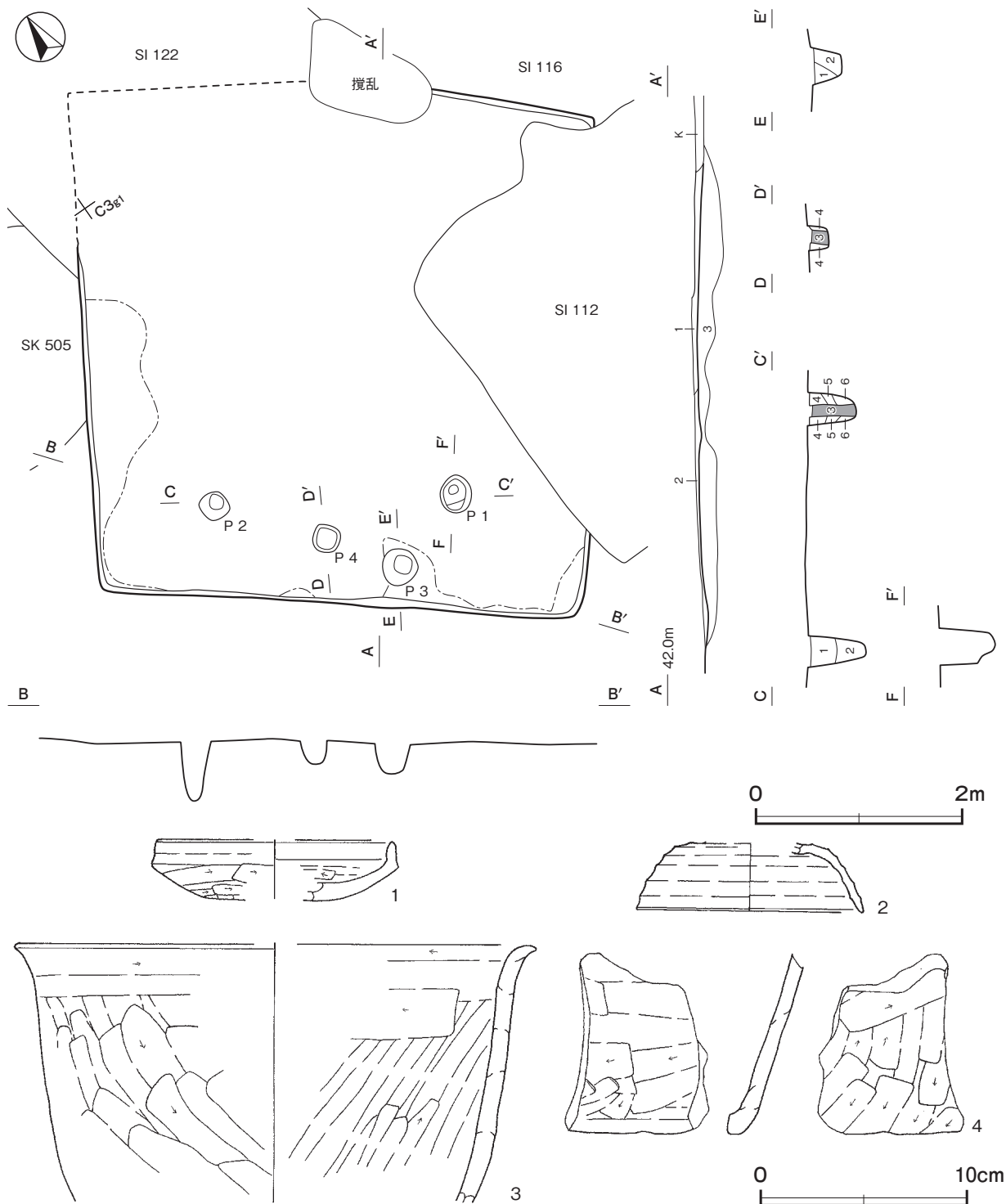
覆土 2 層に分層できる。層厚が 5 cm ほどであることから、堆積状況は不明である。第 3 層は貼床の構築土である。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片 37 点 (坏 1, 高坏 2, 甕類 32, 甑 2), 須恵器片 1 点 (蓋) のほか, 縄文土器片 23 点 (深鉢) が, 全域に散在している。多くの土器は小片で, 接合関係に乏しいことから, 破損したものが廃絶に伴って投棄されたと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から 7 世紀前葉に比定できる。



第 202 図 第 121 号 竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 121 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 202 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[11.3]	2.9	-	長石・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 底部外面一方向の削り後横位の削り、内面横位のナデ	覆土中	10%
2	須恵器	蓋	[11.0]	(3.3)	-	長石・石英・雲母・針状物質	黄灰	普通	口縁部・体部ロクロナデ	覆土中	20% 幡山窯
3	土師器	甌	[24.6]	(12.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位のナデ後縦位の削り、内面斜位のナデ	覆土中	10%
4	土師器	甌	-	(8.7)	-	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	体部外面縦位のナデ、内面縦位のナデ後横位のナデ	覆土中	10%

第 124 号竪穴建物跡 (第 203・204 図)

調査年度 平成 27 年度

位置 調査区西部の D 4 f9 区、標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第 1 号墳に掘り込まれている。

規模と形状 西部が調査区域外に延びていること、東部が第 1 号墳に掘り込まれていることから、南北軸は 2.22 m、東西軸は 3.43 m しか確認できなかった。方形もしくは長方形と推定できるが、主軸方向は不明である。壁は高さ 30cm で、ほぼ直立している。

床 平坦で、北壁際の一部を除いて踏み固められている。

ピット P 1 は深さ 15cm で、性格は不明である。第 1・2 層は柱材を抜き取った後の覆土である。

ピット土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量

2 にぶい黄褐色 ロームブロック少量

覆土 4 層に分層できる。第 1～4 層はロームブロックが含まれる不規則な堆積をしていることから、埋め戻されている。

土層解説

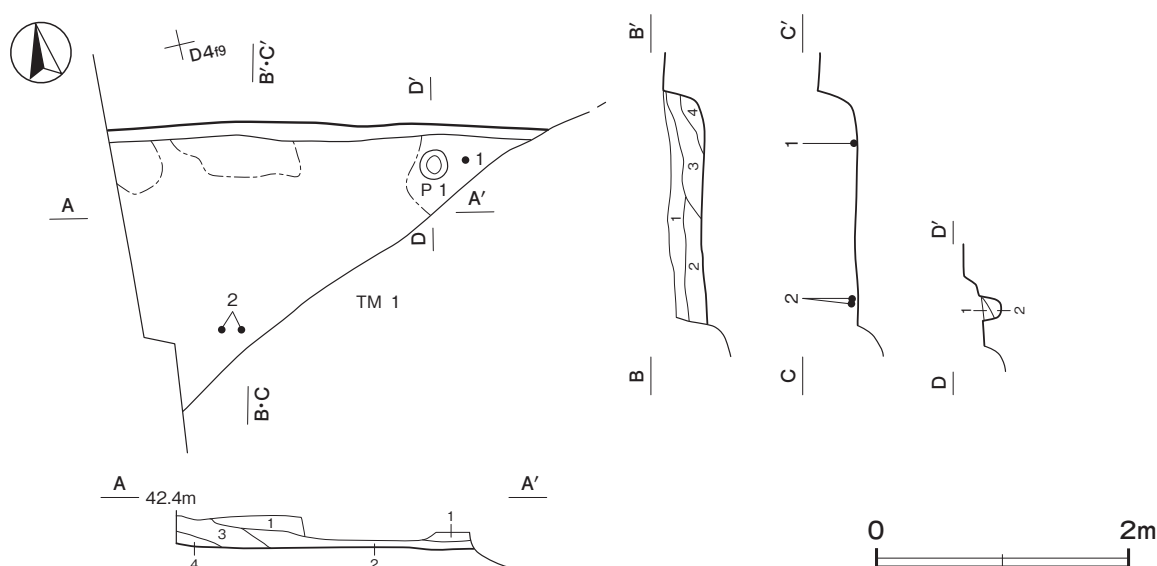
1 黒褐色 ロームブロック少量

3 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量

2 暗褐色 ロームブロック中量

4 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量

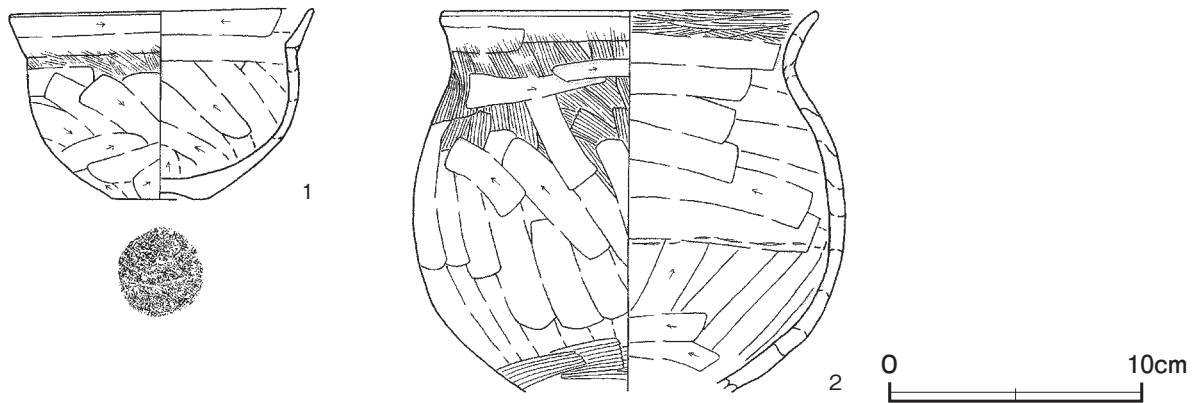
遺物出土状況 土師器片 7 点 (埴 1, 甕 6) のほか、縄文土器片 3 点 (深鉢), 弥生土器片 1 点 (壺類) が,



第 203 図 第 124 号竪穴建物跡実測図

全域に散在している。多くの土器は大型や中型の破片で、接合関係が良好であることから、埋め戻しに伴って投棄されたと考えられる。

所見 時期は、出土土器から4世紀後葉に比定できる。



第 204 図 第 124 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 124 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 204 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	埴	11.9	7.6	3.6	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ、体部外・内面縦位のナデ後斜位のナデ、外面ハケ目調整ナデ消し、底部二方向のナデ	覆土下層	70% PL71 煤附着
2	土師器	小形甕	14.8	(15.1)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい褐	普通	口縁部外面横位のナデ、内面ハケ目調整、体部外面ハケ目調整ナデ消し、後下端部横位の磨き、内面縦位のナデ後横位ナデ	覆土下層	70% 煤附着

### 第 127 号竪穴建物跡（第 205 図）

調査年度 平成 28 年度

位置 調査区西部の B 5 f2 区、標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第 5 号埋甕を掘り込み、第 128 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 第 128 号竪穴建物に掘り込まれ、西隅部及び東半部が調査区域外に延びていることから、南北軸は 3.22 m、東西軸は 3.00 m しか確認できなかつた。方形もしくは長方形と推測できるが、主軸方向は不明である。壁は高さ 5 cm で、外傾している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

ピット 2 か所。P 1 は深さ 58 cm で、配置から主柱穴である。P 2 は深さ 54 cm で、配置から主柱穴もしくは補助柱穴の可能性がある。第 2・3 層は埋土、第 1 層は柱痕跡である。

#### ピット土層解説（各ピット共通）

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量

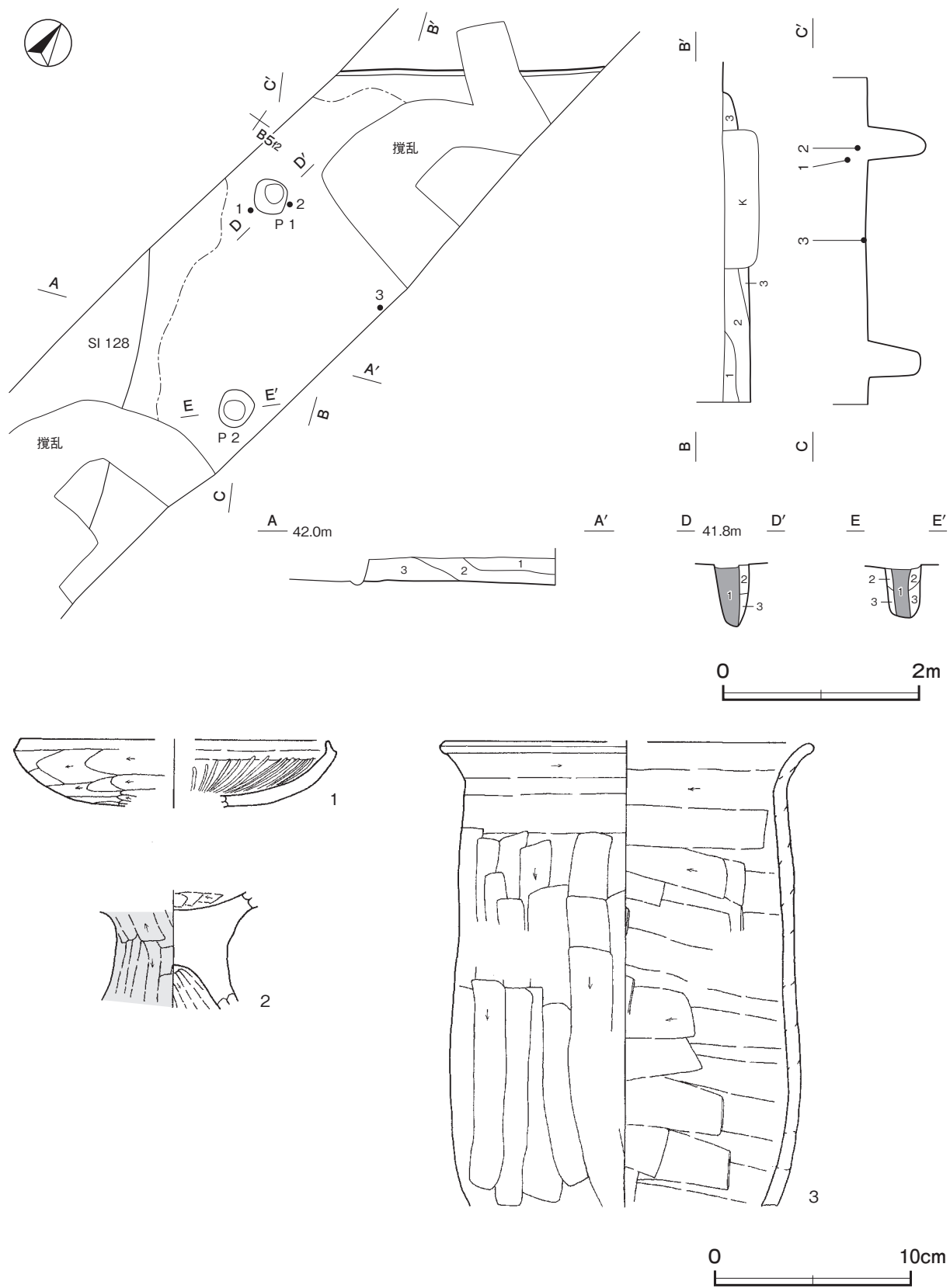
覆土 3 層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

#### 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 3 黄褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片 3 点（坏、高坏、甕類）のほか、縄文土器片 3 点（深鉢）が、全域に散在している。多くの土器は小片で、接合関係に乏しいことから、埋没の過程での投棄や破損したものが廃絶に伴って投棄されたと考えられる。

所見 時期は、出土土器から6世紀末葉から7世紀初頭に比定できる。



第 205 図 第 127 号 竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 127 号竖穴建物跡出土遺物観察表（第 205 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[15.6]	(3.3)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ 底部外面一方向の削り後斜位の削り、内面横位のナデ後放射状磨き 漆処理	覆土中層	20%
2	土師器	高坏	-	(6.0)	-	長石・石英・雲母・針状物質・細礫	赤褐	普通	体部・脚部外面縦位のナデ 体部内面横位のナデ 脚部内面縦位のナデ 赤彩	覆土下層	10%
3	土師器	甕	[18.3]	(23.7)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい黄褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の削り、内面横位のナデ	覆土下層	20% 外面煤付着

第 128 号竖穴建物跡（第 206 図）

調査年度 平成 28 年度

位置 調査区西部の B 5g1 区、標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第 127 号竖穴建物跡を掘り込み、第 21 号粘土貼土坑、第 9 号墓坑、第 549 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 大部分が調査区域外に延びていることから、南北軸は 5.54 m、東西軸は 2.28 m しか確認できなかった。方形もしくは長方形と推測できるが、主軸方向は不明である。壁は高さ 15～24cm で、ほぼ直立もしくは外傾している。

床 平坦で、確認した部分の全面が踏み固められている。東壁下の一部に壁溝が巡っている。

ピット 2 か所。P 1・P 2 は深さ 60～70cm で、配置から主柱穴の可能性はある。P 1 は P 2 に掘り込まれていることから、立て替えられている。P 2 の覆土は埋土、P 1 の覆土は柱材を抜き取った後の覆土である。

P 1 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

P 2 土層解説

- 3 にぶい黄褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック少量

覆土 4 層に分層できる。ロームブロックが含まれる不規則な堆積をしていることから、埋め戻されている。

土層解説

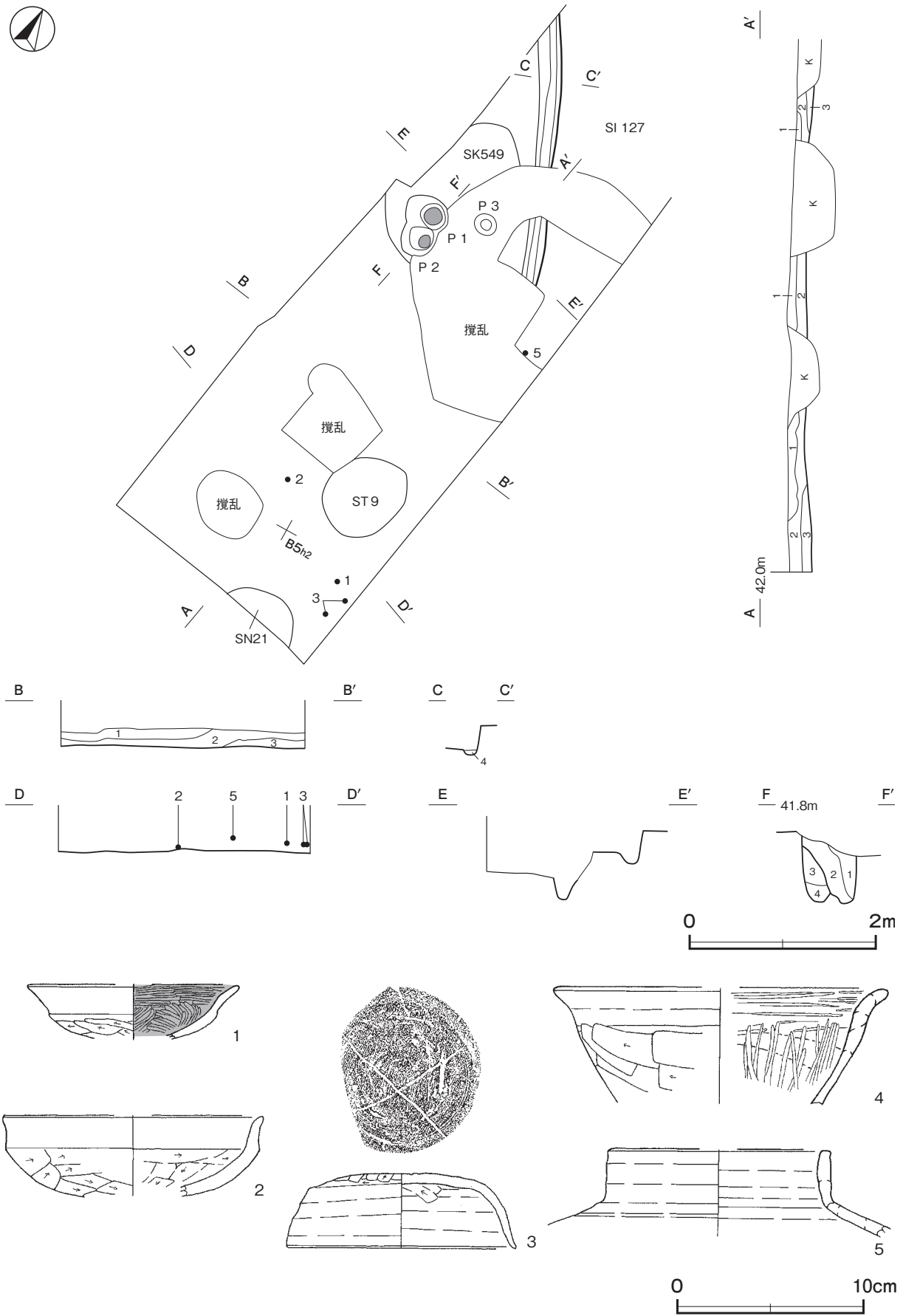
- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック中量
- 4 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片 51 点（坏 5、鉢 1、甕類 45）、須恵器片 4 点（蓋 1、甕類 3）のほか、縄文土器片 15 点（深鉢）が、全域に散在している。多くの土器は中型の破片や小片で、接合関係が良好であることから、埋め戻しに伴って投棄されたと考えられる。5 は 7 世紀後葉以降の所産であることから、混入である。

所見 時期は、出土土器から 7 世紀前葉に比定できる。

第 128 号竖穴建物跡出土遺物観察表（第 206 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[11.0]	(2.9)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ後内面横位の磨き 底部斜位の削り、内面多方向の磨き 内面黒色処理	覆土下層	20%
2	土師器	坏	[13.8]	(4.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 底部外面一方向の削り後斜位の削り、内面一方向のナデ後横位のナデ	覆土下層	10%
3	須恵器	蓋	12.1	4.0	7.7	長石・石英・雲母・針状物質・細礫	オリーブ黒	普通	口縁部・体部ロクロナデ 天井部一方向の削り、「十」字状のヘラ書き、内面一方向のナデ	覆土下層	70% 幡山窯
4	土師器	鉢	[18.0]	(6.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ後内面横位の磨き 体部外面斜位の削り、内面斜位のナデ後縦位の磨き	覆土中	20%
5	須恵器	短頸壺	12.0	(4.6)	-	長石・石英・黒色粒子	灰黄	良好	口縁部・体部ロクロナデ 体部外面縦位の平行叩き後ナデ消し、沈線状のナデ周回	覆土中層	30% 東海産



第 206 図 第 128 号竖穴建物跡・出土遺物実測図

第 130 号 竪穴建物跡 (第 207 ~ 209 図)

調査年度 平成 28 年度

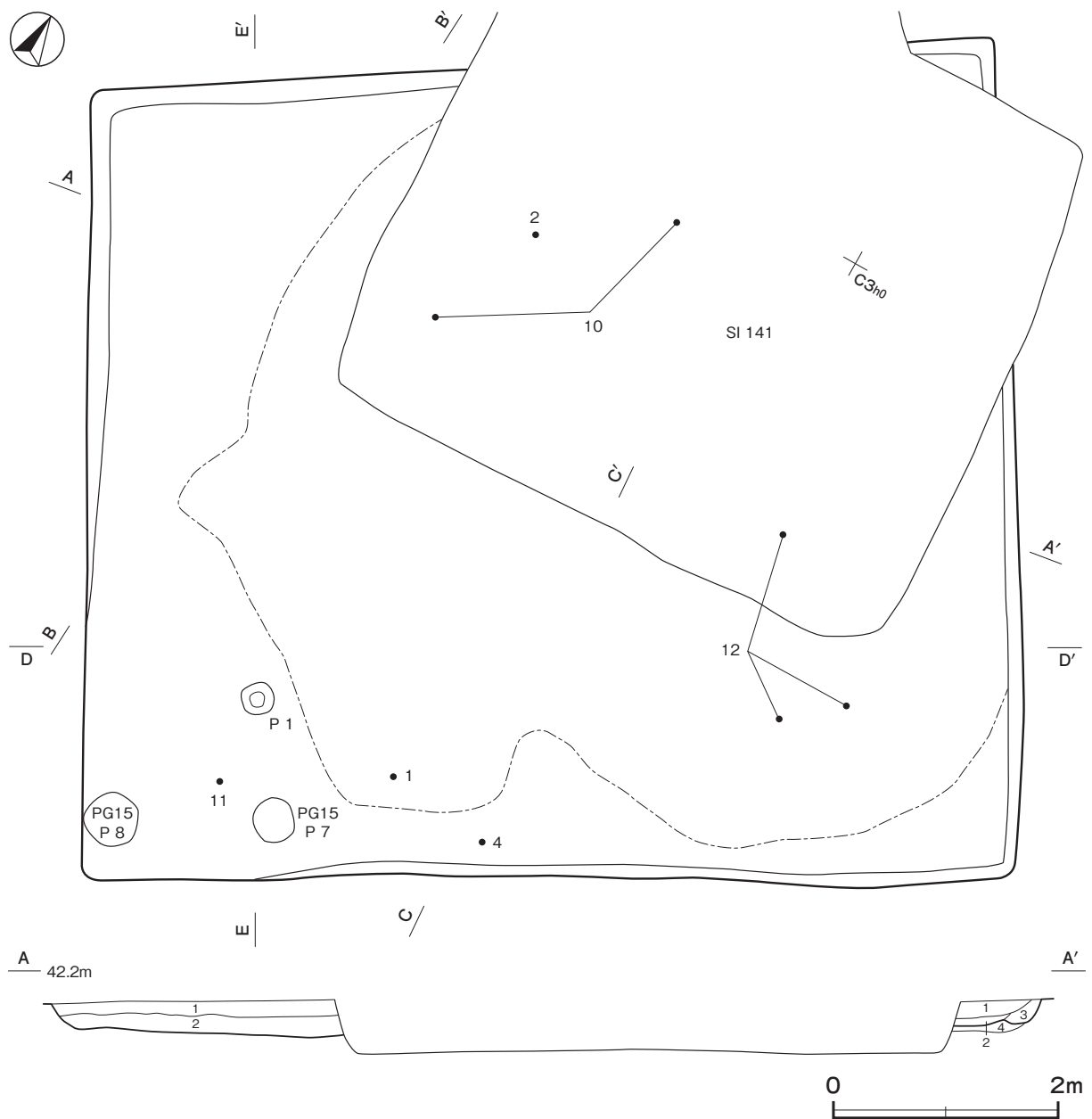
位置 調査区西部の C 3h9 区, 標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第 1 号遺物包含層を掘り込み, 第 141 号竪穴建物, 第 571 号土坑, 第 15 号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 8.23 m, 短軸 7.20 m の長方形で, 主軸方向は N - 60° - W と推定できる。壁は高さ 5 ~ 20 cm で, ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で, 中央部及び東壁が踏み固められている。貼床は, 第 4 層を 10cm ほど埋め戻して構築されている。

ピット P1 は深さ 50cm で, 配置から支柱穴の可能性はある。



第 207 図 第 130 号 竪穴建物跡実測図



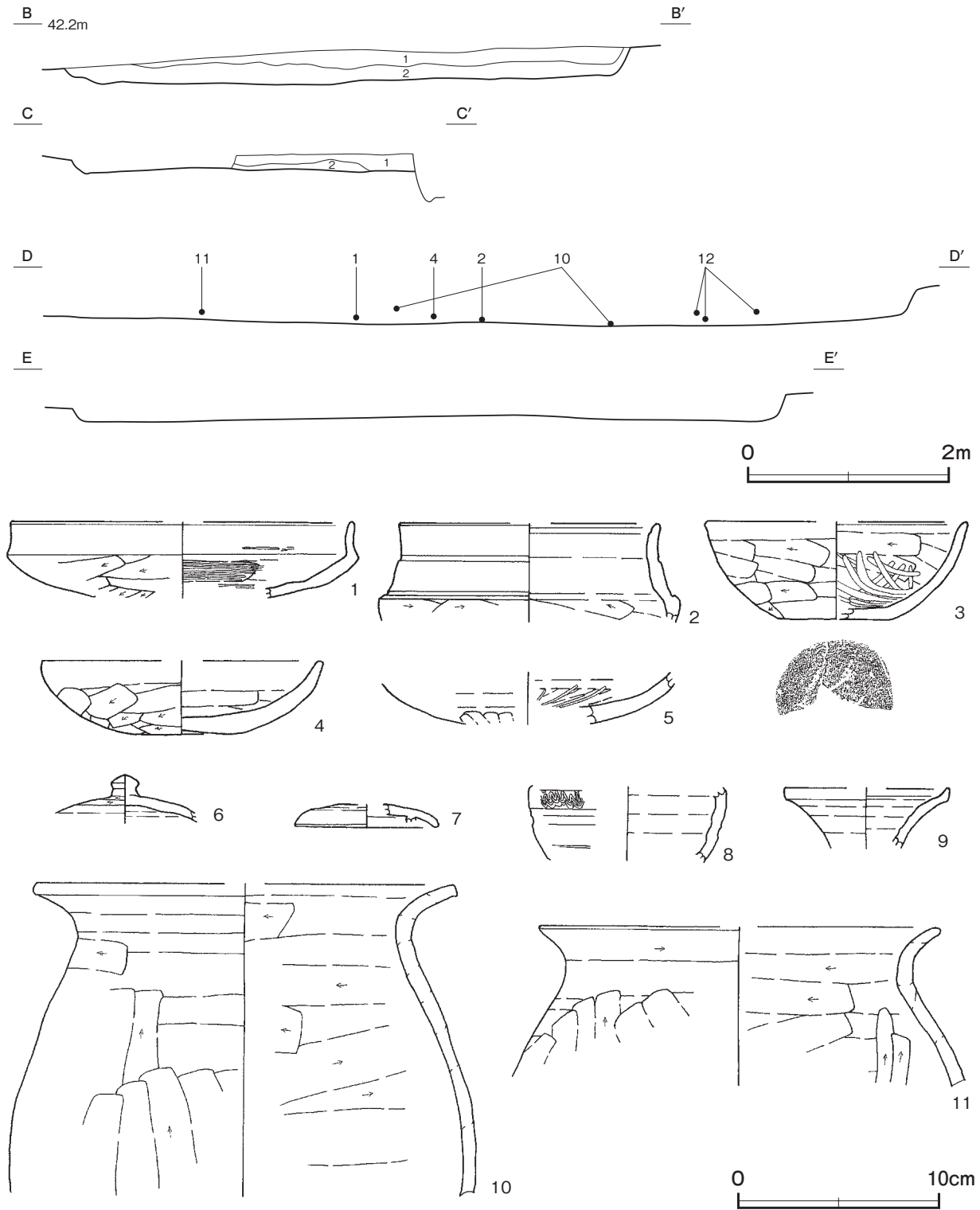
**覆土** 3層に分層できる。レンズ状の堆積をしていることから、自然堆積である。第4層は貼床の構築土である。

**土層解説**

- 1 暗褐色 炭化物・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

- 3 暗褐色 ローム粒子中量
- 4 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量

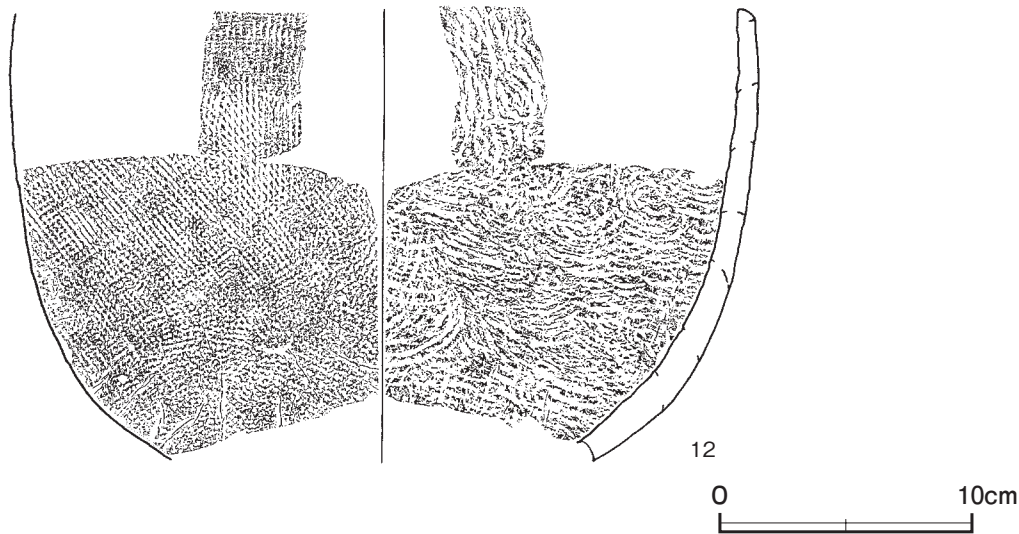
**遺物出土状況** 土師器片 43点（坏14, 鉢類1, 甕類27, ミニチュア土器1）, 須恵器片 3点（坏1, 甕類2）が、全域に散在している。多くの土器は中型の破片や小片で、接合関係に乏しいことから、流入や埋没の過程



第 208 図 第 130 号 竪穴建物跡・出土遺物実測図

で投棄されたと考えられる。

所見 時期は、出土土器から7世紀中葉に比定できる。



第209図 第130号竪穴建物跡出土遺物実測図

第130号竪穴建物跡出土遺物観察表（第208・209図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[16.9]	(3.8)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ後内面横位の磨き、底部外面斜位の削り、内面横位のナデ後横位の磨き	覆土下層	20%
2	土師器	坏	[12.8]	(4.9)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ、外面沈線状のナデ、底部斜位の削り、内面斜位のナデ	覆土下層	10%
3	土師器	坏	[13.0]	4.8	5.6	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ、体部外面斜位の削り、内面横位のナデ後二方向の磨き、底部一方向のナデ	覆土中	40%
4	土師器	坏	[13.8]	3.7	-	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	口縁部横ナデ、底部外面斜位の削り、内面横位のナデ	覆土下層	50% 煤附着
5	須恵器	坏	-	(2.5)	-	長石・石英・黒色粒子	黄灰	良好	底部外面一方向のナデ、内面一方向のナデ後横位のナデ、放射状の磨き	覆土中	10% 柏崎産。
6	須恵器	蓋	-	(2.3)	-	長石・石英・針状物質	灰黄	普通	体部ロクロナデ、天井部回転ヘラ削り、摘まみ部貼付	覆土中	10% 馬頭根窯。
7	須恵器	蓋	[7.1]	(1.1)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	灰	普通	体部ロクロナデ、かえり部欠損	覆土中	10% 在地産
8	須恵器	甕	-	(3.6)	-	長石・石英・針状物質	灰	普通	体部ロクロナデ、外面沈線上のナデ、上位に波状文	覆土中	10% 幡山窯。
9	須恵器	瓶類	[8.0]	(3.0)	-	長石・石英・針状物質	暗灰黄	良好	口縁部ロクロナデ	覆土中	10% 在地産
10	土師器	甕	[20.8]	(15.6)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ、体部外面横位のナデ後縦位のナデ、内面横位のナデ	覆土中層 覆土下層	10% 煤附着
11	土師器	甕	[20.0]	(7.9)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ、体部外・内面横位のナデ後縦位のナデ	覆土下層	10%
12	須恵器	甕	-	(17.9)	-	長石・石英・黒色粒子・細礫	黄灰	普通	体部外面格子状の多叩き後上位横位のナデ、内面同心円状の当具痕	覆土下層	10% 在地産

### 第135号竪穴建物跡（第210～212図）

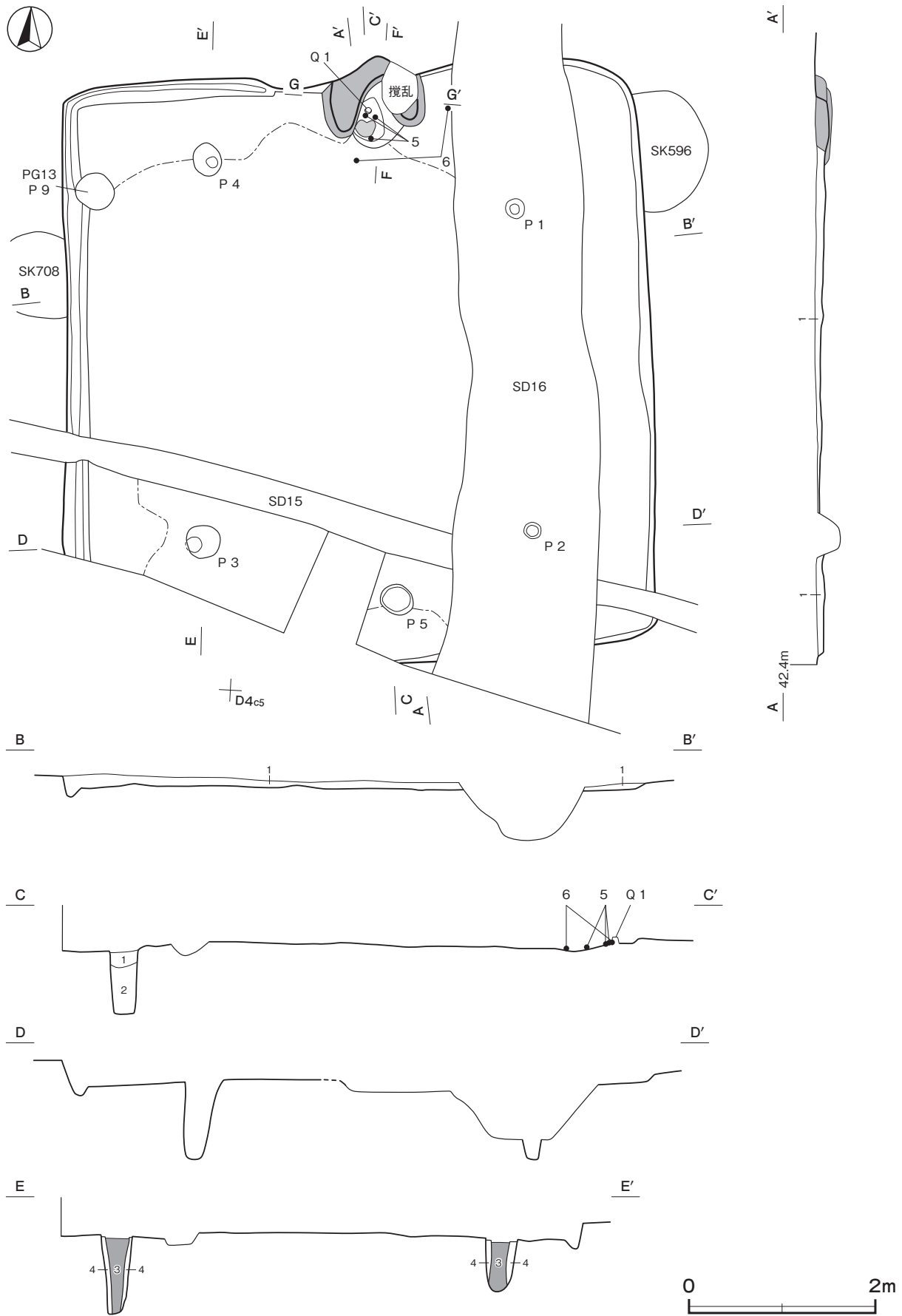
調査年度 平成28年度

位置 調査区西部のD4a5区、標高42mほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第596・706～708・712号土坑を掘り込み、第15・16号溝、第13号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 南部が調査区域外に延びているが、長軸6.40m、短軸6.29mの方形で、主軸方向はN-5°-Wである。壁は高さ6～17cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、竈の前庭部及び中央部、西壁際の一部が踏み固められている。壁溝が、北壁の西半部及び西壁下を巡っている。



第 210 图 第 135 号竖穴建物迹实测图(1)

**竈** 北壁の中央部に付設されている。焚口部から煙道部までは100cm、燃焼部の幅は40cmである。燃焼部は床面から10cmほど掘りくぼめられ、第6層で埋め戻されている。火床面は第6層の上面で、火熱を受けて一部が赤変硬化している。Q1は第6層の上面からの出土で、火床部に据えつけられていることから、支脚として用いられている。煙道部は壁外に30cmほど掘り込まれ、第4層が貼り付けられている。火床面からは、外傾している。第1～3層にはロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから、壊されている。

**竈土層解説**

- |       |                    |        |                  |
|-------|--------------------|--------|------------------|
| 1 褐色  | ロームブロック・粘土ブロック少量   | 4 褐色   | ロームブロック中量、炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック少量    | 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量         |
| 3 褐色  | ロームブロック中量、焼土ブロック少量 | 6 暗褐色  | ロームブロック・炭化粒子少量   |

**ピット** 5か所。P1～P4は深さ40～90cmで、配置から主柱穴である。P5は深さ70cmで、配置から出入り口施設に伴うピットである。P3～P5の覆土は、第4層が埋土、第3層が柱痕跡、第1・2層は柱材を抜き取った後の覆土である。

**P3～P5ピット土層解説**

- |       |                  |       |              |
|-------|------------------|-------|--------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、炭化物微量    | 3 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 4 褐色  | ロームブロック中量    |

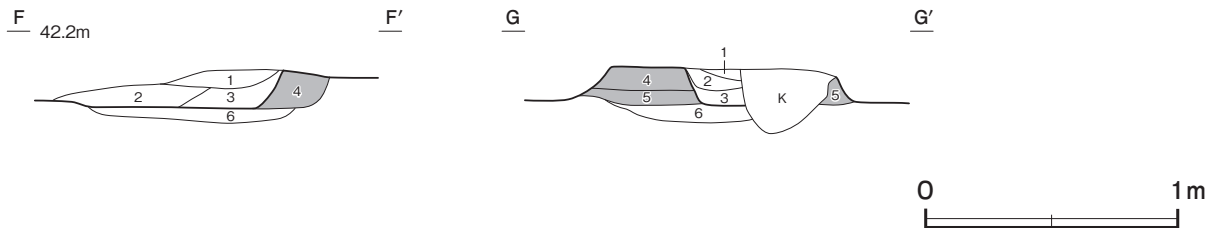
**覆土** 単一層である。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

**土層解説**

- |       |                  |
|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 |
|-------|------------------|

**遺物出土状況** 土師器片67点（坏5、甕類62）、須恵器片3点（高坏、甕、甕類）、石製品1点（支脚）のほか、縄文土器片18点（深鉢）、弥生土器片3点（壺類）が、全域に散在している。多くの土器は小片で、接合関係に乏しいことから、破損したものが埋め戻しに伴って投棄されたと考えられる。5は竈の覆土中から出土していることから、廃絶に伴って廃棄されている。

**所見** 時期は、出土土器から6世紀後葉に比定できる。



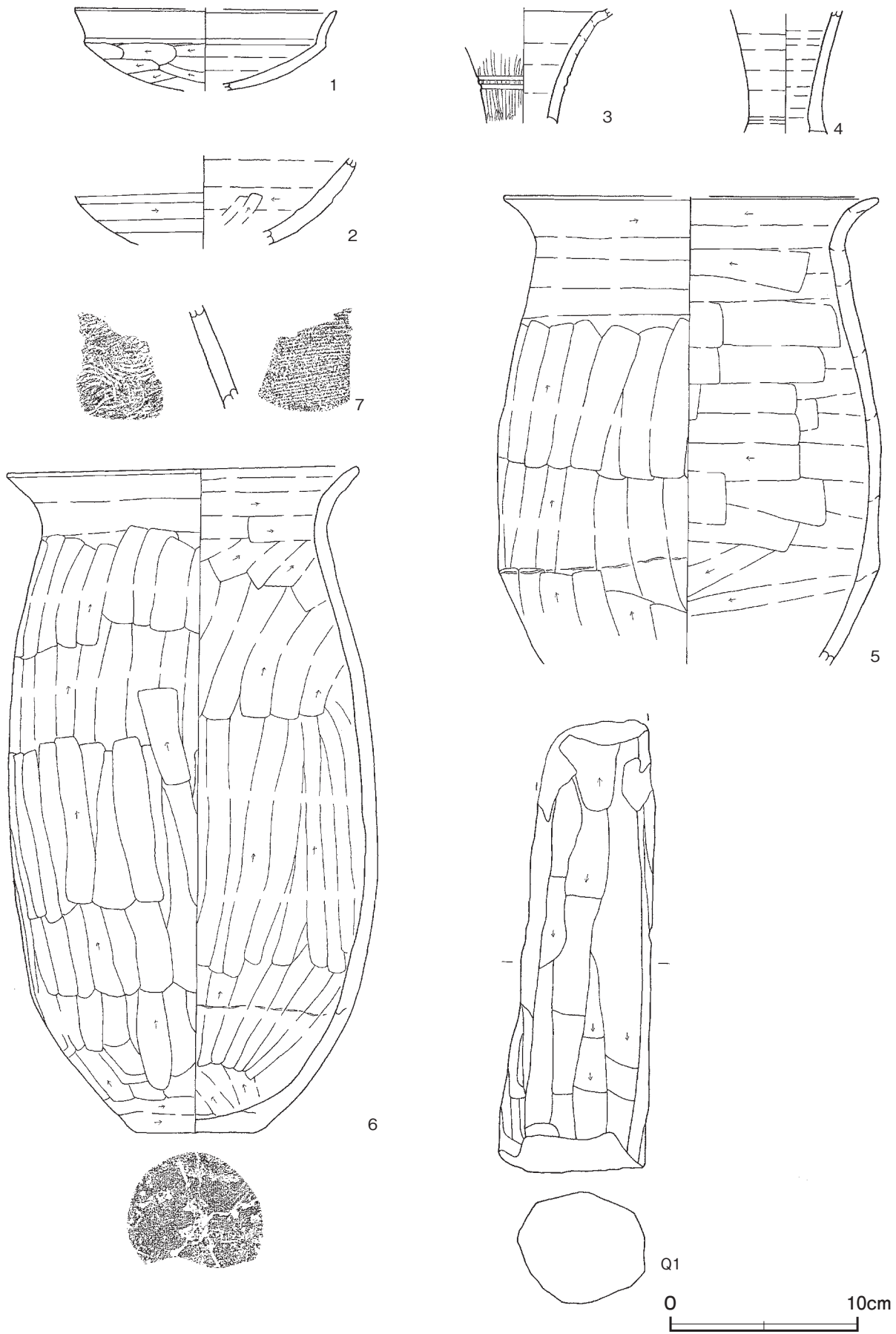
第211図 第135号竈穴建物跡実測図(2)

第135号竈穴建物跡出土遺物観察表（第212図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[13.8]	(4.3)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい黄褐	普通	口縁部横ナデ 底部外面横位の削り、内面横位のナデ 内面漆処理	覆土中	20%
2	須恵器	高坏	-	(4.8)	-	長石・石英・雲母・針状物質	灰黄褐	普通	坏部ロクロナデ 外面回転ヘラ削り、内面一方向のナデ	覆土中	10% 轆山窯。
3	須恵器	甕	-	(6.2)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	灰	普通	頸部ロクロナデ、外面縦位の多糸沈線後横位2条の沈線	覆土中	5% 轆山窯。
4	土師器	瓶類	-	(6.6)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	頸部ロクロナデ	覆土中	10%
5	土師器	甕	[20.0]	(25.1)	-	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位のナデ後縦位の削り、内面横位のナデ	竈覆土中	40% 外面煤付着
6	土師器	甕	18.5	35.8	7.2	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位のナデ後縦位の削り、内面縦位のナデ 底部二方向のナデ	覆土下層	90% PL83 煤付着
7	須恵器	甕	-	(5.6)	-	長石・石英・針状物質・細礫	灰	普通	体部外面カキ目、内面同心円状の当具痕	覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	支脚	(24.3)	8.1	6.0	(616.64)	凝灰質粘土岩	上面欠損 下面調整不明 側面縦位の削り	竈火床面	



第 212 图 第 135 号竖穴建物跡出土遺物実測図

第 142 号 竪穴建物跡 (第 213・214 図 PL24)

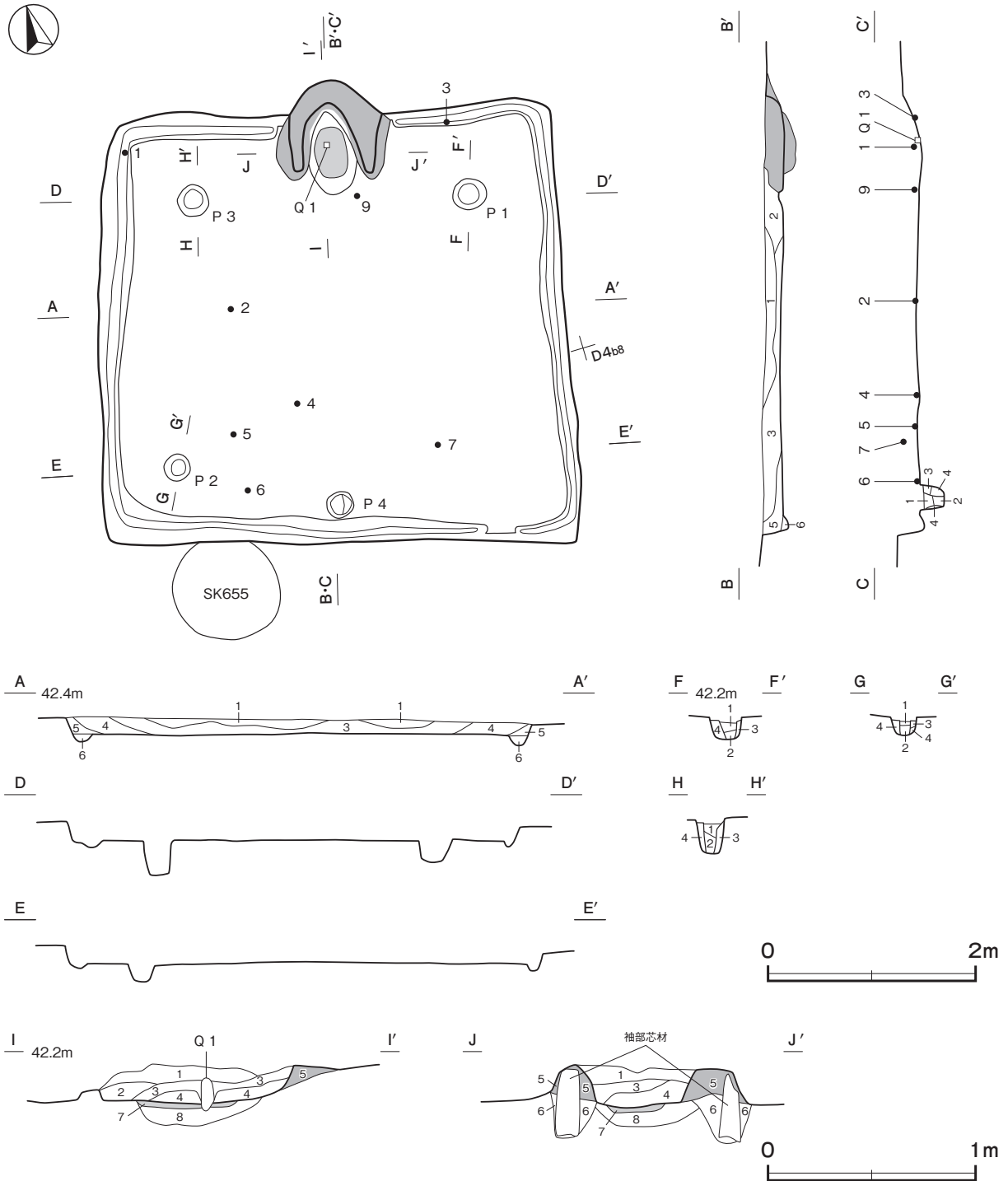
調査年度 平成 28 年度

位置 調査区西部の D 4 a7 区, 標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第 655 号土坑を掘り込んでいる。

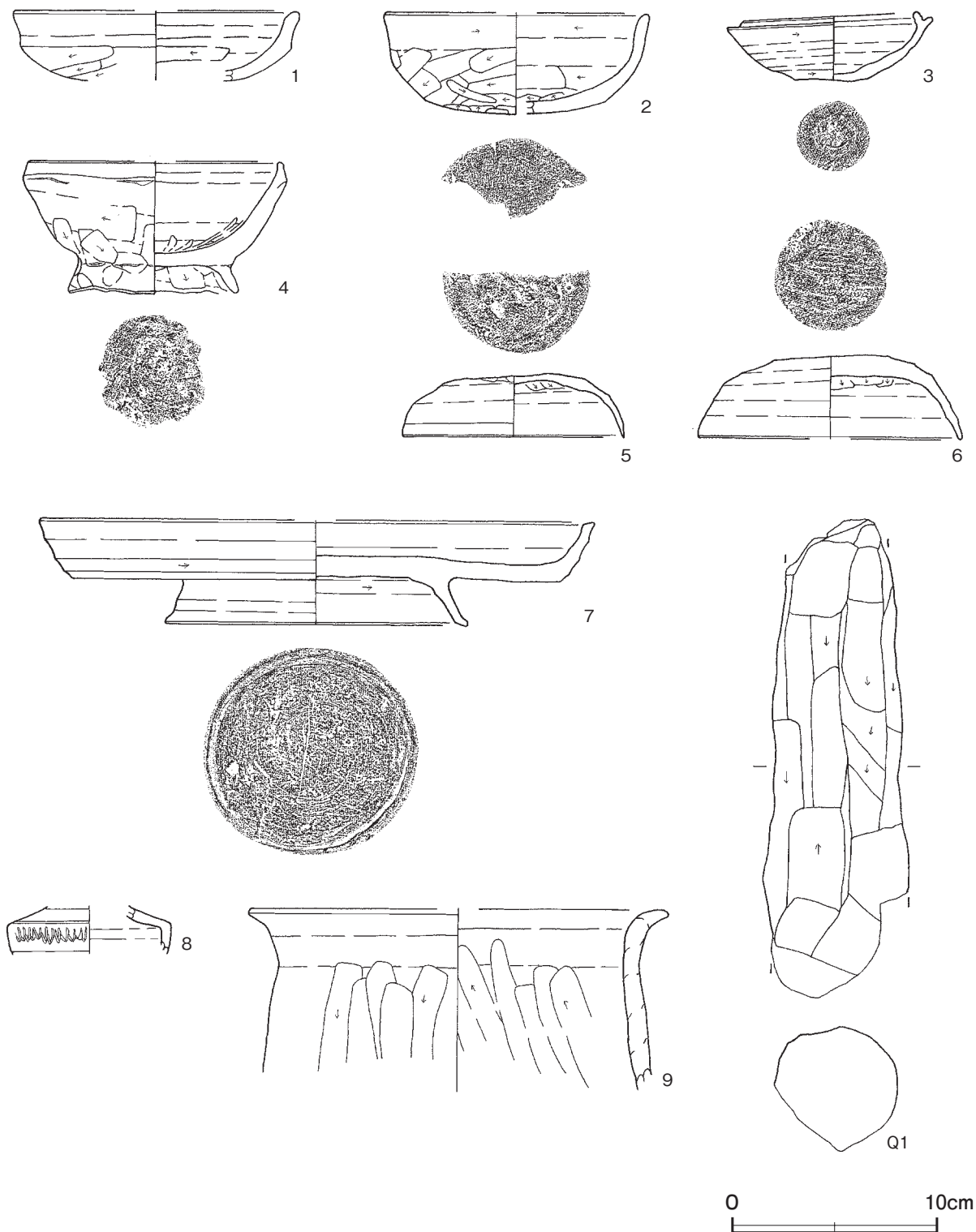
規模と形状 長軸 4.52 m, 短軸 4.12 m の方形で, 主軸方向は  $N - 14^\circ - E$  である。壁は高さ 7 ~ 23 cm で, ほぼ直立している。

床 平坦である。壁溝が, 竈の周辺及び南壁下の一部を除いて巡っている。



第 213 図 第 142 号 竪穴建物跡実測図

竈 北壁の中央部に付設されている。焚口部から煙道部までは110cm， 燃烧部の幅は40cmである。燃烧部は床面から20cmほど掘りくぼめられ， 第7・8層で埋め戻されている。袖部は， 芯材として加工された凝灰質泥岩を深さ20～25cmの掘方に第6層で固定した後， 床面及び第8層上面に第5層を積み上げて構築されている。火床面は第7・8層の上面で， 第7層は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に40cmほど掘り込まれ， 第5層を貼り付けて構築されている。火床面からは， 外傾している。第1～4層にはロームブロックや粘土ブ



第214図 第142号竪穴建物跡出土遺物実測図

ロックなどが含まれていることから、壊されている。

**竈土層解説**

- |                                |                          |
|--------------------------------|--------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量, 粘土ブロック微量 | 5 極暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量  |
| 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量           | 6 黒褐色 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 黒褐色 粘土ブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量    | 7 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量     |
| 4 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量         | 8 褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量    |

**ピット** 4か所。P1～P3は深さ15～30cmで、配置から支柱穴である。P4は深さ20cmで、配置から出入り口施設に伴うピットである。第3・4層が埋土、第1・2層が柱材を抜き取った後の覆土である。

**ピット土層解説 (各ピット共通)**

- |                 |                        |
|-----------------|------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック微量 | 3 暗褐色 ロームブロック少量        |
| 2 褐色 ローム粒子微量    | 4 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量 |

**覆土** 6層に分層できる。第3～6層はロームブロックが含まれる不規則な堆積をしていることから、埋め戻されている。第1・2層は、埋め戻された後の自然堆積である。

**土層解説**

- |                      |                              |
|----------------------|------------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量        | 4 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子微量        | 5 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 | 6 褐色 ロームブロック少量               |

**遺物出土状況** 土師器片82点(坏11, 高坏1, 甕類70), 須恵器片7点(脚付椀1, 蓋4, 盤1, 甗1), 石製品1点(支脚)のほか、縄文土器片37点(深鉢), 弥生土器片1点(壺類)が、全域に散在している。多くの土器は大型や中型の破片で、接合関係が良好であることから、埋め戻しに伴って一括で投棄されたと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から7世紀前葉に比定できる。

**第142号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第214図)**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[14.0]	(3.5)	-	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	口縁部横ナデ 底部外面斜位の削り, 内面横位のナデ	覆土下層	10%
2	土師器	坏	[12.8]	(5.0)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 底部外面一方向の削り後斜位の削り, 内面横位のナデ後二方向のナデ	覆土下層	40% PL69
3	須恵器	坏	10.0	3.2	3.7	長石・石英・黒色粒子	灰白	良好	口縁部・体部ロクロナデ 底部回転ヘラ削り	覆土下層	90% PL86 湖西産
4	土師器	脚付椀	[12.1]	6.5	8.0	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面横・斜位のナデ後下部斜位の削り, 内面横位のナデ後放射状のナデ	覆土下層	90%
5	須恵器	蓋	10.8	3.1	-	長石・石英・針状物質	灰	普通	ロクロナデ 天井部外・内面一方向のナデ	覆土下層	50% PL86 幡山窯
6	須恵器	蓋	[12.8]	4.2	-	長石・石英	灰白	良好	ロクロナデ 天井部外・内面一方向のナデ	覆土下層	40% 東海産
7	須恵器	高脚付盤	[27.0]	5.1	14.8	長石・石英・針状物質	褐灰	良好	ロクロナデ 体部下端部回転ヘラ削り 底部「一」字状のヘラ書き	覆土中層	70% PL87 幡山窯
8	須恵器	甗	-	(2.4)	-	長石・石英・針状物質	灰褐	普通	体部ロクロナデ 外面沈線状のナデ区画内に波状文	覆土中	5% PL88 幡山窯
9	土師器	甕	[20.0]	(8.8)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の削り, 内面縦位のナデ	覆土下層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	支脚	(23.5)	7.1	5.1	(438.42)	凝灰質泥岩	上面・下面欠損 側面削り調整	火床面	

**第143号竪穴建物跡 (第215図)**

**調査年度** 平成28年度

**位置** 調査区西部のC4i0区, 標高42mほどの台地平坦面に位置している。

**重複関係** 第146号竪穴建物, 第618・692号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 北部及び東部が調査区域外に延び、第146号竪穴建物に掘り込まれていることから、南北軸は3.95m, 東西軸は3.53mしか確認できなかった。方形もしくは長方形と推定できるが、主軸方向は不明である。壁は高さ20～25cmで、ほぼ直立している。



床 平坦である。

ピット P 1 は深さ 50cm で、配置から出入口施設に伴うピットの可能性があるが、深さがあり性格は不明である。

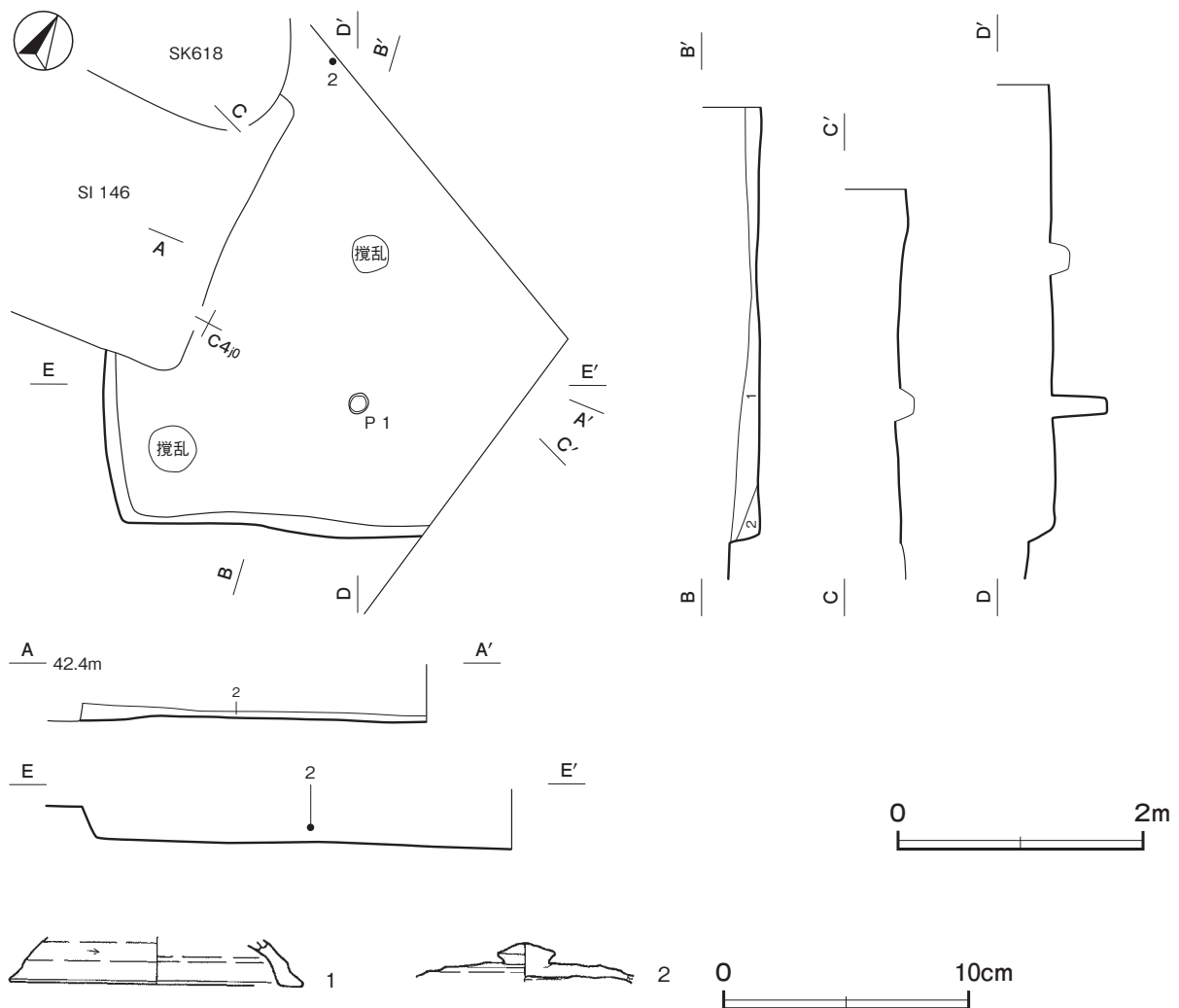
覆土 2層に分層できる。ロームブロックが含まれない堆積をしていることから、自然堆積の可能性がある。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量                      2 褐色 ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片 53 点 (坏 11, 甕類 42), 須恵器片 4 点 (蓋 3, 甕類 1) のほか、縄文土器片 20 点 (深鉢), 弥生土器片 1 点 (壺類) が、全域に散在している。多くの土器は小片で、接合関係に乏しいことから、埋没の過程で投棄されたと考えられる。

所見 時期は、出土土器から 7 世紀中葉に比定できる。



第 215 図 第 143 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 143 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 215 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	蓋	[12.0]	(1.8)	-	長石・石英・雲母・針状物質	褐灰	普通	口縁部ロクロナデ	覆土中	10% 幡山窯
2	須恵器	蓋	-	(1.6)	-	長石・石英・針状物質・黒色粒子	灰	良好	天井部ロクロナデ	覆土中層	10% 幡山窯

第 144 号 竪穴建物跡 (第 216・217 図)

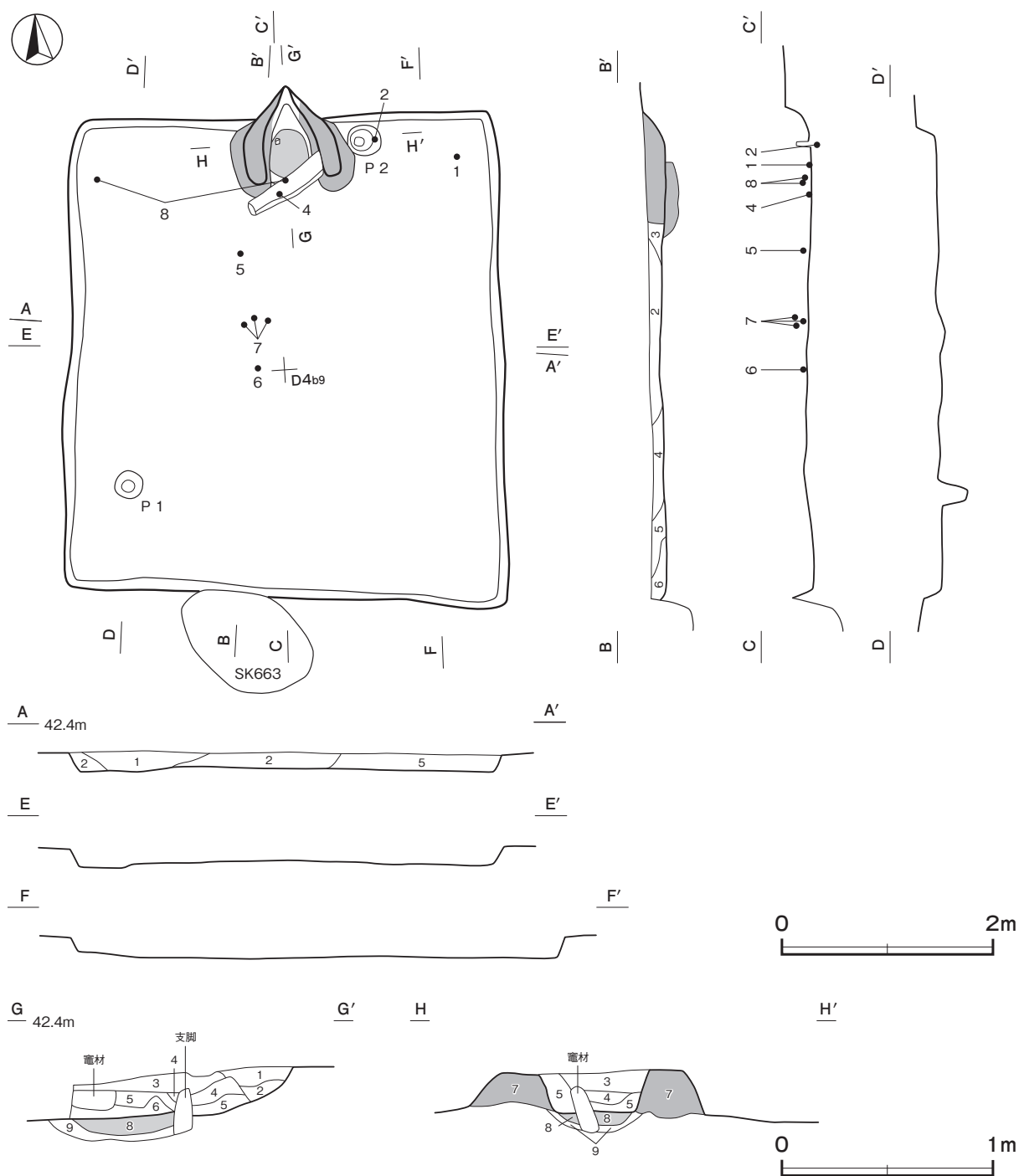
調査年度 平成 28 年度

位置 調査区西部の D 4a8 区, 標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第 663 号土坑に掘り込まれている。

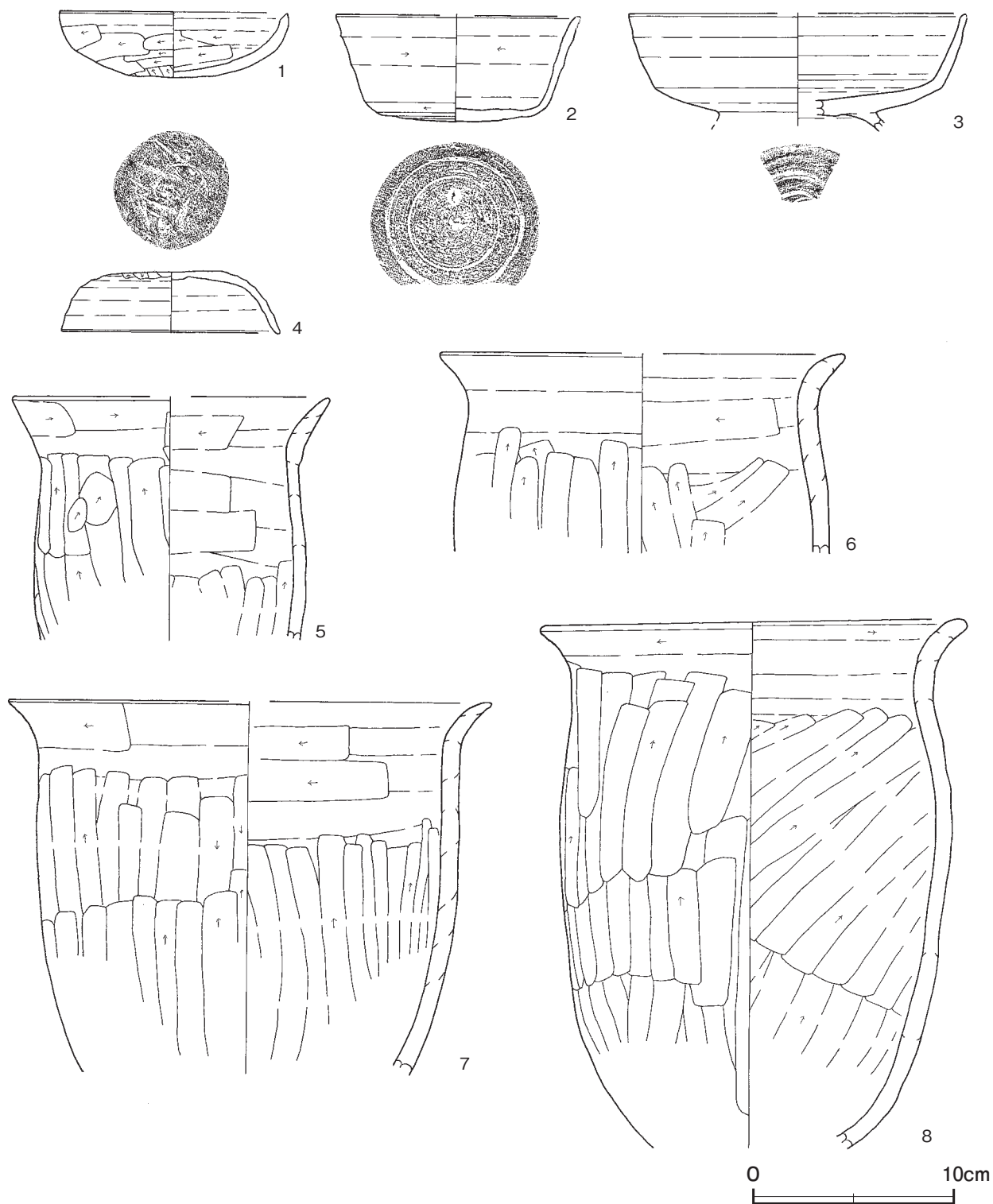
規模と形状 長軸 4.79 m, 短軸 4.15 m の長方形で, 主軸方向は  $N - 5^{\circ} - E$  である。壁は高さ 15 ~ 20 cm で, ほぼ外傾している。

床 平坦である。



第 216 図 第 144 号 竪穴建物跡実測図

竈 北壁の中央部に付設されている。焚口部から煙道部までは90cm、燃焼部の幅は50cmである。燃焼部は床面から25cmほど掘りくぼめられ、第8・9層で埋め戻されている。袖部は、床面及び第9層上面に第7層を積み上げて構築されている。火床面は第8・9層の上面で、第8層は火熱を受けて赤変硬化している。加工された凝灰質泥岩の下端部が第8・9層で固定され、火床部に据えつけられていることから、支脚として用いられている。煙道部は壁外に30cmほど掘り込まれ、火床面から外傾している。第1～6層にはロームブロック



第217図 第144号竪穴建物跡出土遺物実測図

や焼土ブロックが含まれた不規則な堆積で、崩落した懸架材が廃棄されていることから、壊されている。

**竈土層解説**

- |                               |                           |
|-------------------------------|---------------------------|
| 1 赤褐色 焼土ブロック中量, 粘土ブロック・炭化物少量  | 6 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック微量 |
| 2 灰褐色 粘土ブロック多量                | 7 灰褐色 粘土ブロック中量, ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量    | 8 赤褐色 焼土ブロック中量, ロームブロック少量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量           | 9 褐色 ロームブロック中量, 粘土ブロック微量  |
| 5 赤褐色 焼土ブロック少量, ロームブロック・炭化物微量 |                           |

**ピット** 2か所。P 1は深さ40cmで、配置から主柱穴である。P 2は深さ30cmで、竈の袖部付近に配置されていることから、竈との関連性が考えられる。

**覆土** 6層に分層できる。ロームブロックが含まれる不規則な堆積をしていることから、埋め戻されている。

**土層解説**

- |                            |                        |
|----------------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量            | 4 暗褐色 ロームブロック少量        |
| 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 5 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量     | 6 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量 |

**遺物出土状況** 土師器片 103点 (坏 14, 甕類 89), 須恵器片 42点 (坏 1, 脚付椀 1, 蓋 8, 甕類 32), 石器 1点 (砥石) のほか、縄文土器片 32点 (深鉢) が、主に北半部から出土している。多くの土器は大型や中型の破片で、接合関係が良好であることから、埋め戻しに伴って投棄されたと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から7世紀中葉に比定できる。竈は、出土した支脚の位置から二掛けと推定できる。

**第 144 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 217 図)**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	11.2	3.3	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ 底部外面一方向の削り後横位の削り, 内面横位のナデ	覆土下層	90% PL69 二次焼成
2	須恵器	坏	[12.1]	5.4	8.0	長石・石英・針状物質	褐灰	良好	口縁部・体部ロクロナデ 底部回転ヘラ削り	覆土下層	60% PL86 轆山窯。
3	須恵器	高台付杯	16.8	5.5	-	長石・石英・雲母・針状物質	褐灰	良好	口縁部・体部ロクロナデ 高台部貼付	P 2 覆土中	30% 轆山窯。
4	須恵器	蓋	10.8	3.2	5.8	長石・石英・雲母・針状物質	灰黄	普通	口縁部・体部ロクロナデ 天井部外面二方向のナデ	覆土中	80% PL86 轆山窯。
5	土師器	小形甕	[15.6]	(11.9)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい黄褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の削り, 内面横位のナデ後縦位のナデ	覆土下層	10% 二次焼成
6	土師器	甕	[20.2]	(10.0)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の削り, 内面横位のナデ後縦・斜位のナデ	覆土下層	10% 煤付着
7	土師器	甕	[24.0]	(18.6)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の削り, 内面横位のナデ後縦位のナデ	覆土下層	20% 煤付着
8	土師器	甕	20.9	(26.6)	-	長石・石英・雲母・針状物質・細礫	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の削り, 内面横位のナデ後斜位のナデ	覆土中	80% 煤付着

**第 145 号竪穴建物跡 (第 218 図)**

**調査年度** 平成 28 年度

**位置** 調査区西部の C 4j6 区, 標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

**重複関係** 第 717 号土坑を掘り込み, 第 693 号土坑, 第 21・24 号溝, 第 18 号ピット群に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸 4.90 m, 短軸 3.56 m の長方形で, 主軸方向は N - 17° - W である。壁は高さ 14 ~ 20cm で, ほぼ直立している。

**床** 平坦で, 竈の前庭部及び中央部が踏み固められている。

**竈** 北壁の中央部に付設されている。焚口部から煙道部までは 80cm, 燃焼部の幅は 60cm である。燃焼部は床面から 5cm ほど掘りくぼめられている。袖部は, 床面に第 3 層を積み上げて構築されている。火床面は掘りくぼめられた地山の上面で, 火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 40cm ほど掘り込まれ, 第 3 層を貼り付けて構築されている。火床面からは, ほぼ直立している。第 1・2 層にはロームブロックなどが含まれていることから, 壊されている。

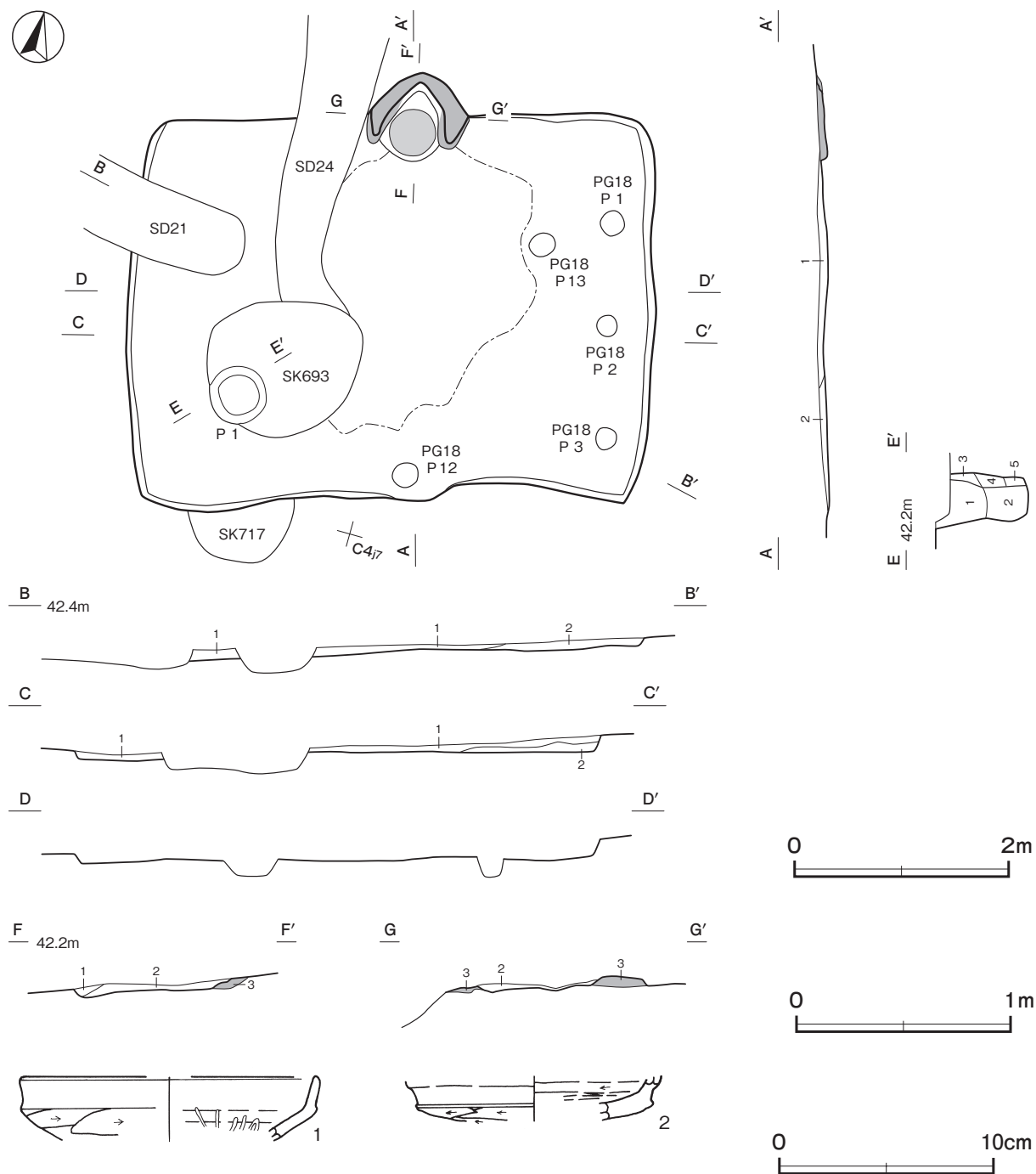
**竈土層解説**

- |                         |                        |
|-------------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量         | 3 暗褐色 焼土ブロック, 粘土ブロック少量 |
| 2 赤褐色 焼土ブロック中量, ローム粒子少量 |                        |

**ピット** P 1は深さ70cmで, 配置から支柱穴の可能性はある。第3～5層は埋土, 第1・2層は柱材を抜き取った後の覆土である。

**ピット土層解説**

- |                         |                 |
|-------------------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量    | 4 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 5 褐色 ロームブロック中量  |
| 3 褐色 ロームブロック少量          |                 |



第218図 第145号竪穴建物跡・出土遺物実測図

覆土 2層に分層できる。ロームブロックが含まれる不規則な堆積をしていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量

遺物出土状況 土師器片 50 点 (坏 6, 高坏 1, 甕類 43), 須恵器片 1 点 (高坏) が, 全域に散在している。多くの土器は小片で, 接合関係に乏しいことから, 破損したものが廃絶に伴って投棄されたと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から 7 世紀前葉に比定できる。

第 145 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 218 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[13.6]	(3.6)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ 底部外面横位の削り, 内面横位のナデ後放射状の磨き	覆土中	10%
2	土師器	坏	-	(2.0)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい黄褐	普通	口縁部横ナデ 底部外面横位の削り, 内面横位のナデ	覆土中	10%

第 147 号竪穴建物跡 (第 219 図)

調査年度 平成 28 年度

位置 調査区西部の D 4 a1 区, 標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第 2 A・B 号道路に掘り込まれている。

規模と形状 南部が調査区域外に延びているが, 長軸 3.62 m, 短軸 2.80 m の長方形で, 主軸方向は N - 20° - W である。壁は高さ 18cm で, ほぼ直立している。

床 平坦である。

竈 北壁の中央部に付設されている。焚口部から煙道部までは 62cm しか確認できなかったが, 燃烧部の幅は 50cm である。燃烧部は床面からわずかに掘りくぼめられ, 火床面は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 10cm ほど掘り込まれている。袖部の芯材や支脚が残存しているものの, 袖部が確認できなかったことから, 壊されていると推察できる。

貯蔵穴 西隅部に位置し, 長径 100cm, 短径 80cm の楕円形である。深さは 30cm である。底面は平坦で, 壁は外傾している。2層に分層でき, ロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

貯蔵穴土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量

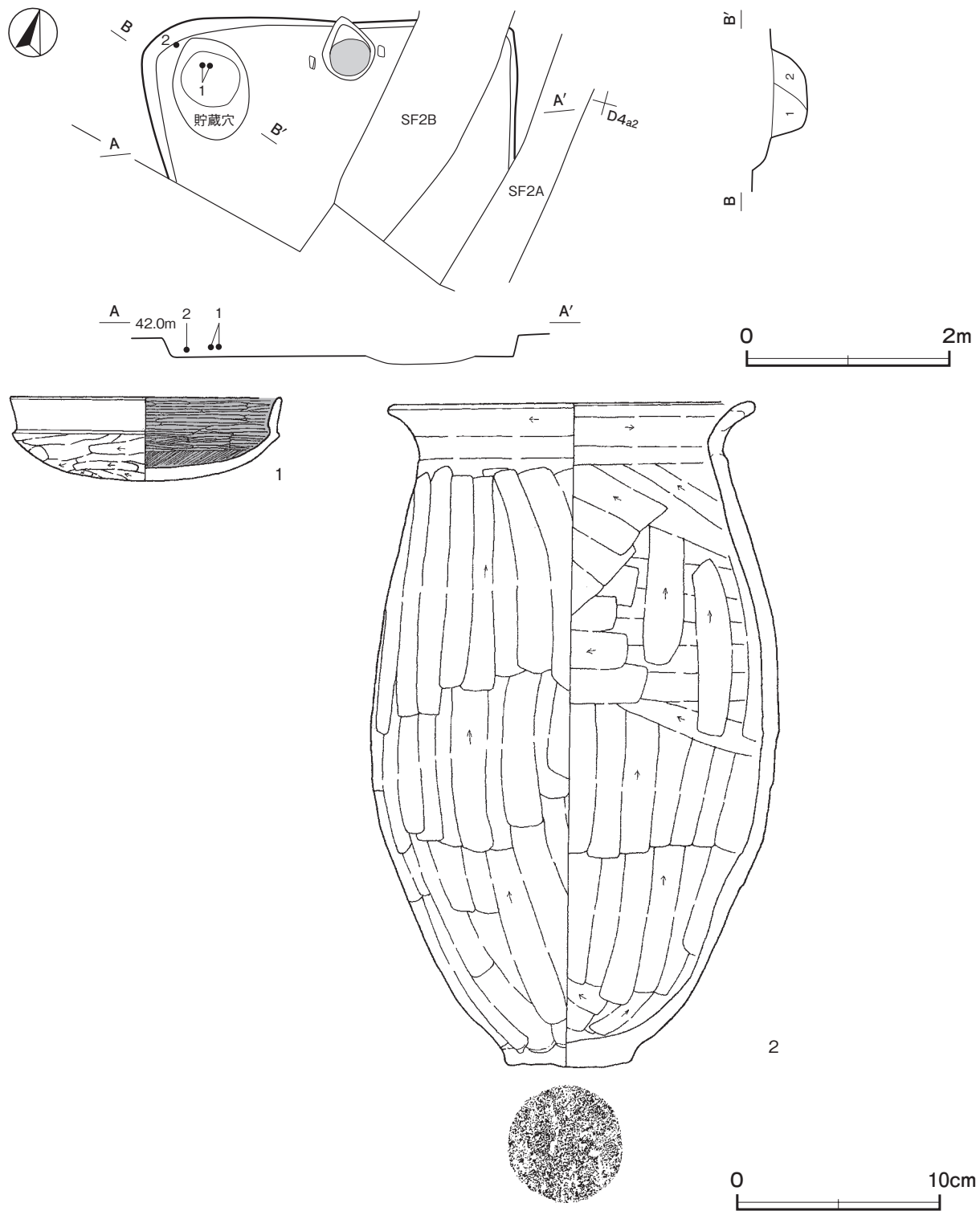
2 褐色 ロームブロック中量, 炭化物少量

遺物出土状況 土師器片 9 点 (坏 1, 甕類 8), 須恵器片 8 点 (蓋 6, 甕類 1, 甌 1), 石器 1 点 (砥石) のほか, 縄文土器片 3 点 (深鉢) が, 全域に散在している。多くの土器は小片で, 接合関係に乏しいことから, 破損したものが廃絶に伴って投棄されたと考えられる。1・2 は良好な遺存状態で出土していることから, 廃絶に伴って投棄されている。

所見 時期は, 出土土器から 6 世紀前後葉に比定できる。

第 147 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 219 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	13.2	4.1	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ後内面横位の磨き 底部外面横・斜位のナデ, 内面一方向の磨き 内面黒色処理	覆土中層	90% PL69
2	土師器	甕	18.0	33.0	6.3	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位のナデ, 内面縦・横位のナデ 底部二方向のナデ	覆土中層	90% PL83 煤付着



第 219 図 第 147 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 149 号竪穴建物跡 (第 220 図)

調査年度 平成 28 年度

位置 調査区西部の D 4 c7 区, 標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第 698 号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 西部が調査区域外に延び、南部が攪乱を受けていることから、南北軸は2.42 m、東西軸は2.62 mしか確認できなかった。方形もしくは長方形と推定できるが、主軸方向は不明である。壁は高さ12cmで、ほぼ直立している。

**床** ほぼ平坦である。

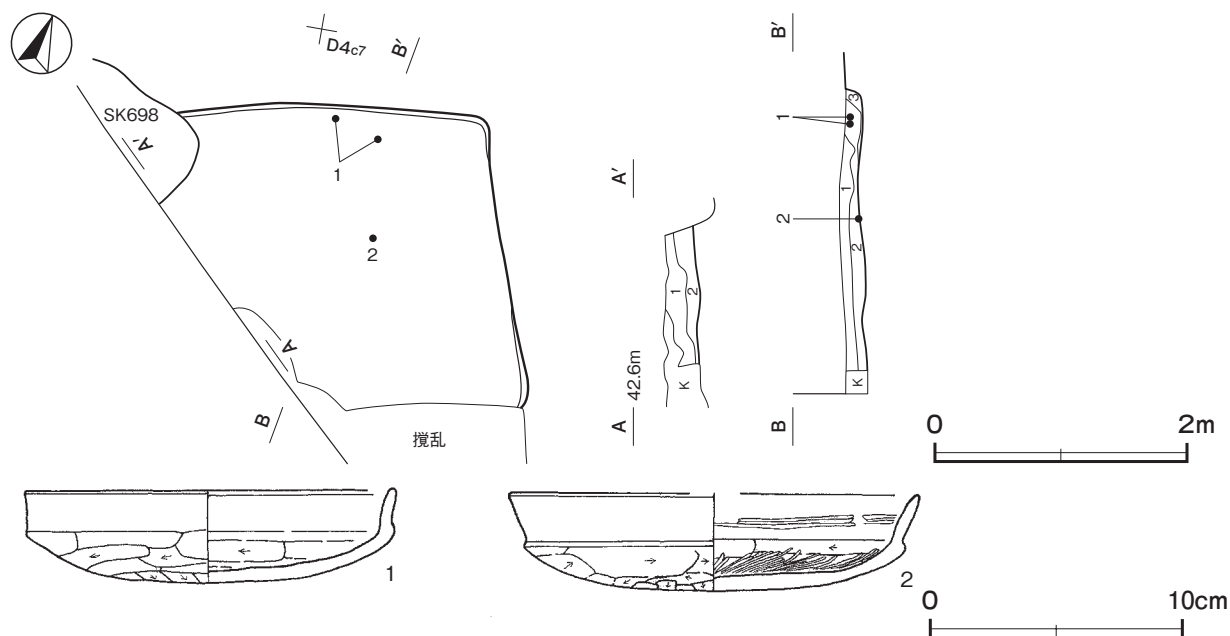
**覆土** 3層に分層できる。ロームブロックが含まれる不規則な堆積をしていることから、埋め戻されている。

**土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量

**遺物出土状況** 土師器片46点（坏2，甕類44），須恵器片1点（甕類）のほか、縄文土器片3点（深鉢）が、全域に散在している。多くの土器は小片で、接合関係に乏しいことから、破損したものが廃絶に伴って投棄されたと考えられる。1・2は壁際から良好な遺存状態で出土していることから、廃絶に伴って投棄されたと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から6世紀後葉に比定できる。



第220図 第149号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第149号竪穴建物跡出土遺物観察表（第220図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	14.4	3.1	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい褐色	普通	口縁部横ナデ 底部外面一方向の削り後斜位の削り、内面横位のナデ 漆処理	覆土下層	90%
2	土師器	坏	[16.0]	3.9	-	長石・石英・雲母・針状物質	灰黄褐色	普通	口縁部横ナデ後内面横位の磨きのナデ後一方向の削り 漆処理 底部外面斜位	覆土下層	40%

表6 古墳時代竪穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		壁高	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考
				長軸×短軸(m)	(cm)				主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
1	D10j2	N-7°-E	長方形	4.09 × 3.67	4~26	貼床平坦	一部	3	1	1	北壁	-	自然	土師器、須恵器、石製品	6世紀後葉から7世紀前葉	SI56→本跡→SD 1, SK 7・8	
3	D 9i0	N-5°-E	[方形・長方形]	3.42 × (0.70)	5	貼床平坦	-	-	-	-	北壁	-	人為	土師器、石製品	6世紀中葉	本跡→SI 2	
4	E10a1	N-30°-E	方形	3.10 × 2.90	15~32	貼床平坦	一部	-	-	-	北壁	-	人為	土師器、須恵器、石製品	7世紀後葉	SI 5→本跡→SI 7	





番号	位置	主軸方向	平面形	規模	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考
				長軸×短軸 (m)				主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
92	E 5 f1	不 明	[方形・長方形]	(3.44) × (2.30)	20 ~ 22	貼床 平坦	-	-	-	-	-	-	人為	土師器	7世紀前葉	本跡→SK435・436・454
93	D 5 e8	N - 6° - E	方形	6.54 × 6.24	14 ~ 40	貼床 平坦	一部	5	1	-	炉1 北壁	-	自然 人為	土師器, 須恵器, 石器, 石製品	6世紀中葉	本跡→SE1, SK457
94	D 5 b0	N - 36° - W	方形	4.90 × 4.67	10 ~ 15	平坦	-	2	-	1	北壁 2	-	自然	土師器	7世紀前葉	本跡→SK468・469
95	D 5 a8	N - 20° - W	方形・長方形	(4.74) × (2.51)	40	平坦	ほぼ 全周	2	1	-	-	-	人為	土師器, 須恵器	7世紀前葉	
96	D 5 a6	N - 27° - W	方形	5.08 × 4.94	4 ~ 20	貼床 平坦	-	4	-	-	北壁	-	自然	土師器, 須恵器, 石器, 石製品	7世紀前葉	本跡→SD12, SK459・464
97	D 5 c3	N - 25° - W	方形	5.27 × 4.89	16 ~ 23	貼床 平坦	一部	4	1	-	北壁	-	自然 人為	土師器, 須恵器, 石器, 石製品	7世紀中葉	本跡→SK444
98	D 5 d2	N - 7° - E	[方形・長方形]	5.13 × (4.40)	6 ~ 17	平坦	ほぼ 全周	4	2	-	北壁	-	自然	土師器, 須恵器, 石器, 石製品	7世紀後葉	本跡→SK444
99	C 5 h4	不 明	[方形・長方形]	3.88 × (2.10)	47 ~ 55	平坦	一部	1	-	-	-	-	自然 人為	土師器, 須恵器	7世紀前葉	SI105 → 本跡
100	C 5 g3	N - 30° - W	[方形]	(5.40) × (4.69)	-	貼床 平坦	-	-	1	-	北壁	-	-	土師器, 須恵器	6世紀後葉	SI105 → 本跡 → HT3
101	C 5 h3	N - 9° - W	方形	4.20 × 3.84	26 ~ 30	貼床 平坦	[ほぼ 全周]	3	-	1	北壁	-	人為	土師器, 須恵器	7世紀前葉	SI111, SK479・500 → 本跡 → SK455・466
102	D 5 e6	N - 25° - W	[方形・長方形]	(6.31) × (5.25)	23 ~ 27	貼床 平坦	一部	2	-	-	北壁	-	人為	土師器, 石製品	6世紀後葉	
104	C 2 h9	N - 10° - E	方形	4.02 × 3.65	-	貼床 平坦	-	3	1	-	北壁	-	-	土師器, 須恵器	7世紀前葉 以降	本跡→SK502 ~ 504・510・511
105	C 5 g3	N - 10° - W	[方形・長方形]	3.86 × (2.98)	28	貼床 平坦	-	1	1	-	北壁	-	人為	土師器, 石製品	6世紀後葉	本跡→SI99・100, HT3
107	D 5 a4	N - 33° - W	方形	3.59 × 3.59	13 ~ 21	貼床 平坦	一部	-	-	-	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 石器, 石製品	7世紀前葉	SI108 → 本跡
108	D 5 a4	N - 21° - W	方形	3.70 × 3.60	21 ~ 29	貼床 平坦	-	-	-	-	北壁	-	人為	土師器, 須恵器	6世紀後葉	本跡→SI107
109	B 5 f4	N - 45° - E	[長方形]	[6.50] × [4.76]	28 ~ 34	平坦	-	2	1	-	-	1	人為	土師器	4世紀後葉	
110	D 5 c5	N - 15° - W	方形	4.32 × 4.10	20 ~ 30	貼床 平坦	-	4	1	-	北壁	1	人為	土師器, 石器 石製品, 金属製品	6世紀後葉	本跡→SD12
111	C 5 i3	N - 20° - W	方形	6.56 × 6.12	11 ~ 15	平坦	-	4	1	4	北壁	-	人為	土師器, 須恵器	6世紀後葉	SK479・500・517 → 本跡 → SI101, SK455・466
113	C 3 i3	不 明	[方形・長方形]	6.90 × (4.92)	24 ~ 30	貼床 平坦	-	3	-	-	-	-	人為	土師器	4世紀後葉	HG1 → 本跡 → SI114, SD14
116	C 3 i2	N - 36° - W	[方形]	5.12 × 4.66	5	平坦	一部	4	1	2	北壁	-	不明	土師器, 須恵器	6世紀後葉	HG1 → 本跡 → SI112・121・122・ HT1, SK498・499
117	C 3 e3	N - 37° - W	方形	5.22 × 5.11	22 ~ 28	貼床 平坦	ほぼ 全周	4	-	-	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 石器, 石製品	6世紀後葉	SK506・508 → 本跡 → SI120・123, SK507・ 532・535・536
118	E 4 f8	N - 3° - W	[方形・長方形]	3.67 × (1.33)	12	平坦	-	-	-	2	-	-	人為	土師器, 須恵器	7世紀前半	
119	E 4 g8	不 明	[方形・長方形]	5.35 × (1.65)	14 ~ 50	平坦	-	-	-	2	-	-	自然 人為	土師器	4世紀後葉	
121	C 3 g1	N - 37° - E	[方形]	[4.85] × [4.72]	3	貼床 平坦	-	2	1	1	-	-	不明	土師器, 須恵器	7世紀前葉	SI116・SK505 → 本跡→SI112・ 122
124	D 4 f9	不 明	[方形・長方形]	(3.43) × (2.22)	30	平坦	-	-	-	1	-	-	人為	土師器	4世紀後葉	本跡→TM1
127	B 5 f2	不 明	[方形・長方形]	(3.22) × (3.00)	5	平坦	-	2	-	-	-	-	人為	土師器	6世紀末葉 から7世紀 初葉	第5号埋藏→本跡 → SI128
128	B 5 g1	不 明	[方形・長方形]	(5.54) × (2.28)	15 ~ 24	平坦	東壁	2	-	-	-	-	人為	土師器, 須恵器	7世紀前葉	SI127 → 本跡 → SN21, ST 9, SK549
130	C 3 h9	[N - 60° - W]	長方形	8.23 × 7.20	5 ~ 20	貼床 平坦	-	1	-	-	-	-	自然	土師器, 須恵器	7世紀中葉	HG1 → 本跡→ SI141, SK571, PG15
135	D 4 a5	N - 5° - W	方形	6.40 × 6.29	6 ~ 17	平坦	一部	4	1	-	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 石器, 石製品	6世紀後葉	SK596・706 ~ 708・712 → 本跡 → SD15・16, PG13
142	D 4 a7	N - 14° - E	方形	4.52 × 4.12	7 ~ 23	平坦	全周	3	1	-	北壁	-	自然 人為	土師器, 須恵器, 石器, 石製品	7世紀前葉	本跡→SK655
143	C 4 i0	不 明	[方形・長方形]	(3.95) × (3.53)	20 ~ 25	平坦	-	-	1	-	-	-	自然	土師器, 須恵器	7世紀中葉	本跡→SI146, SK618・692
144	D 4 a8	N - 5° - E	長方形	4.79 × 4.15	15 ~ 20	平坦	-	1	-	1	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 石器	7世紀中葉	本跡→SK663
145	C 4 j6	N - 17° - W	長方形	4.90 × 3.56	14 ~ 20	平坦	-	1	-	-	北壁	-	人為	土師器, 須恵器	7世紀前葉	SK717 → 本跡 → SK693, SD21・ 24, PG18
147	D 4 a1	N - 20° - W	長方形	3.62 × 2.80	18	平坦	-	-	-	-	北壁	1	-	土師器, 須恵器, 石器	6世紀後葉	本跡→SF 2 A・B
149	D 4 c7	不 明	[方形・長方形]	(2.62) × (2.42)	12	平坦	-	-	-	-	-	-	人為	土師器, 須恵器	6世紀後葉	本跡→SK698

## (2) 掘立柱建物跡

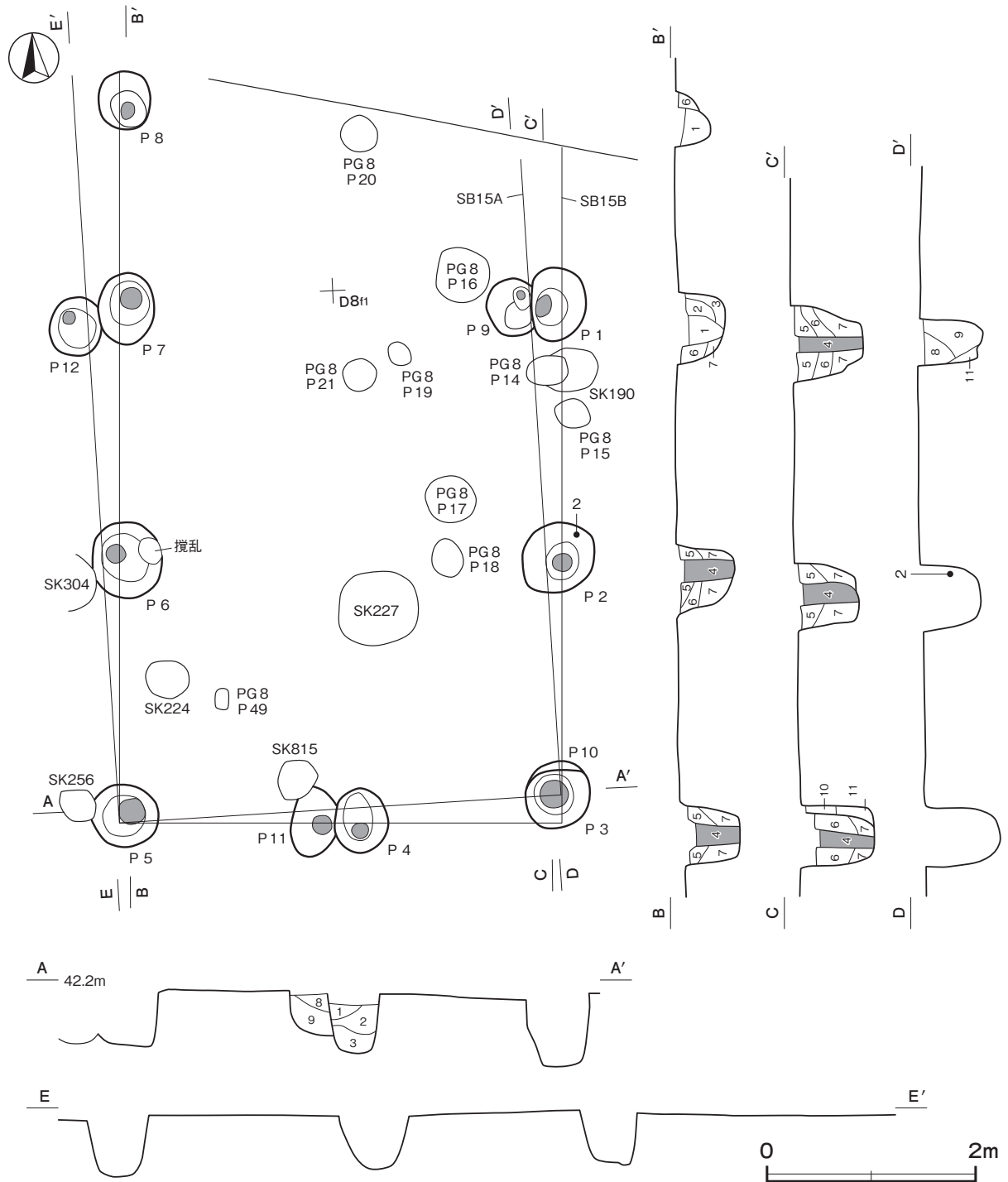
### 第 15A 号掘立柱建物跡 (第 221 図 PL25)

調査年度 平成 26 年度

位置 調査区東部の D 7 f0 区, 標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

**重複関係** 第200・201・232・245・254号土坑を掘り込み，第15B号掘立柱建物，第224・227・246・256・815・845号土坑，第8号ピット群に掘り込まれている。

**規模と遺構** 北部が調査区域外に延びていることから，梁行は2間で，桁行は2間しか確認できなかった。第15B号掘立柱建物跡に建て替えられていると考えられることから，梁行2間，桁行は3間以上の側柱建物跡で，桁行方向がN - 2° - Wの南北棟である。規模は梁行4.2m，桁行は7.4mしか確認できなかった。確認できた面積は31.08㎡である。柱間寸法は桁行が南妻側と中央間の一部が2.4m（8尺），梁行は2.1m（7尺）である。柱筋はほぼ揃っている。



第221図 第15A・B号掘立柱建物跡実測図

**柱穴** 第15B号掘立柱建物に掘り込まれていることから、4か所しか確認できなかった。平面形は円形もしくは楕円形で、長径0.52～0.68m、短径0.42～0.48mである。深さは48～62cmで、掘方の壁は直立している。第10・11層は埋土、第8・9層は柱材を抜き取った後の覆土である。P9・P11・P12の底部から、柱のあたりを確認した。柱のあたりの規模から、柱の直径は10～20cmほどと推定できる。

**柱穴土層解説 (P10・P11ピット共通)**

- |       |           |         |           |
|-------|-----------|---------|-----------|
| 8 暗褐色 | ロームブロック中量 | 10 黄褐色  | ロームブロック中量 |
| 9 黒褐色 | ロームブロック少量 | 11 明黄褐色 | ロームブロック多量 |

**所見** 時期は、第15B号掘立柱建物跡の年代から、7世紀中葉と考えられる。性格は、「屋」としての機能が考えられる。

**第15B号掘立柱建物跡 (第221・222図 PL25)**

**調査年度** 平成26年度

**位置** 調査区東部のD7f0区、標高42mほどの台地平坦面に位置している。

**重複関係** 第15A号掘立柱建物跡、第200・201・232・245・254号土坑を掘り込み、第224・227・246・256・304・815・845号土坑、第8号ピット群に掘り込まれている。

**規模と構造** 北部が調査区域外に延びていることから、梁行は2間で、桁行は3間しか確認できなかったことから、桁行が3間以上の側柱建物跡で、桁行方向がN-4°-Eの南北棟である。規模は梁行4.2m、桁行は7.3mしか確認できなかった。確認できた面積は30.66㎡である。柱間寸法は桁行が南妻側から2.4m(8尺)、2.4m(8尺)、1.8m(6尺)、梁行は2.1m(7尺)である。柱筋はほぼ揃っている。

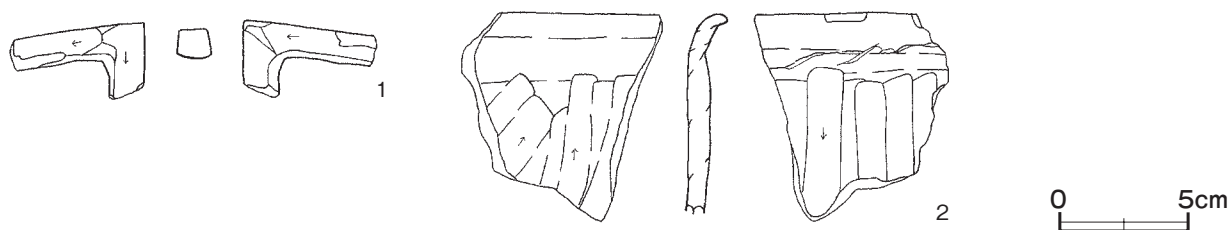
**柱穴** 8か所。平面形は円形もしくは楕円形で、長径0.57～0.72m、短径0.48～0.68mである。深さは50～68cmで、掘方の壁は直立している。第5～7層は埋土、第4層は柱痕跡、第1～3層は柱材を抜き取った後の覆土である。P1～P8の底部から、柱のあたりを確認した。柱のあたりや柱痕跡から、柱の直径は10～30cmほどと推定できる。

**柱穴土層解説 (P1～P8ピット共通)**

- |       |                    |          |           |
|-------|--------------------|----------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量    | 5 暗褐色    | ロームブロック少量 |
| 2 横褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック少量 | 6 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化物微量      | 7 黒褐色    | ロームブロック少量 |
| 4 黒色  | ローム粒子少量、炭化物微量      |          |           |

**遺物出土状況** 土師器片1点(甗), 須恵器片1点(平瓶)が、P2・P3から出土している。2は細片で第5～7層から出土していることから、構築時の混入と考えられる。

**所見** 時期は、出土土器や第1B号柱穴列の年代から7世紀後葉と考えられる。性格は、「屋」としての機能が考えられる。



第222図 第15B号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第 15B 号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第 222 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	平瓶	-	-	-	石英・黒色粒子・白色粒子	黄灰	良好	瓶部欠損 全面ナデ調整 残存部の長さ 5.2cm, 高さ 3.0cm, 厚さ 1.2cm	P 3 第 5～7 層	10% 湖西産。
2	土師器	甗	-	8.0	-	長石・石英・雲母・細礫	明赤褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の削り, 内面縦・斜位のナデ	P 2 覆土中	10%

表 7 古墳時代掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	柱間数 桁×梁(間)	規模 桁×梁 (m)	面積 (㎡)	柱間寸法		柱 穴				主な出土遺物	時期	備考
						桁間(m)	梁間(m)	構造	柱穴数	平面形	深さ(cm)			
15A	D 7f0	N - 2° - W	(3) × 2	(7.4) × 4.2	(31.08)	2.4	2.1	側柱	4	円形・楕円形	48～62	-	7世紀中葉	SK200・201・232・245・254→本跡 →SB15B, SK224・227・246・256・815・845, PG8
15B	D 7f0	N - 4° - E	(3) × 2	(7.3) × 4.2	(30.66)	(18)～24	2.1	側柱	8	円形・楕円形	50～68	須恵器・土師器	7世紀後葉	SB15A, SK200・201・232・245・254→本跡 →SK224・227・246・256・304・815・845, PG8

(3) 古墳

第 1 号墳（第 223～228 図 PL25・26）

調査年度 平成 27 年度

位置 調査区中央部の D 4 f8～E 5 c2 区, 標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

確認状況 墳丘は削平されており, 周溝のみを確認した。

重複関係 第 124 号竪穴建物跡を掘り込み, 第 20 号粘土貼土坑, 第 355・356・433, 520・528～531・534, 808 号土坑, 第 11 号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 墳丘及び埋葬施設は確認できなかった。周溝の一部が調査区域外に延び, 第 355 号土坑などによって攪乱を受けているが, 内径 21.86～22.32 m, 外径 30.34～31.56 m の円墳である。

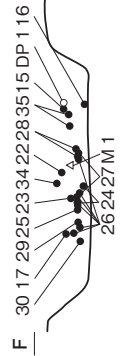
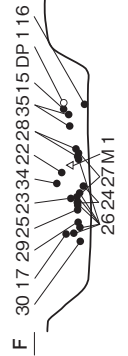
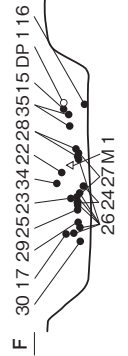
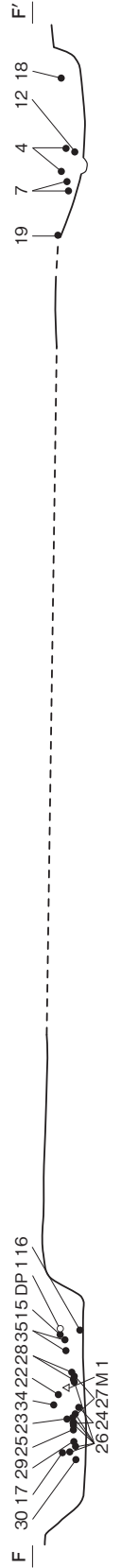
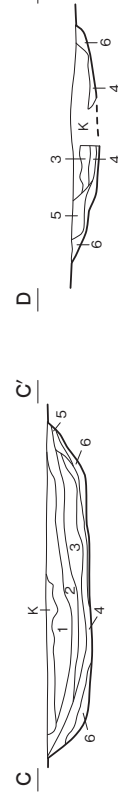
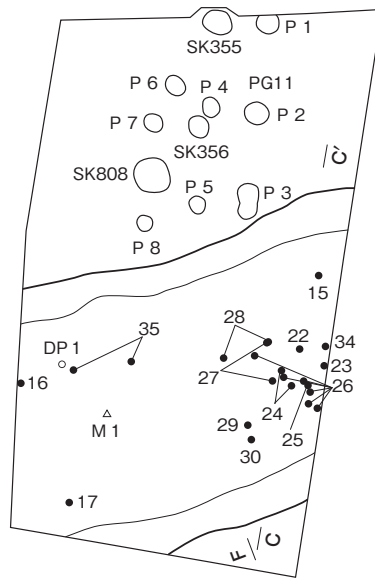
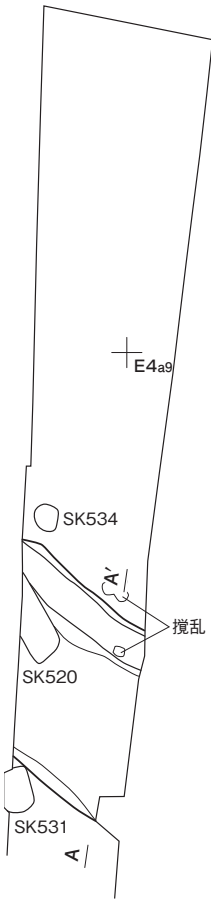
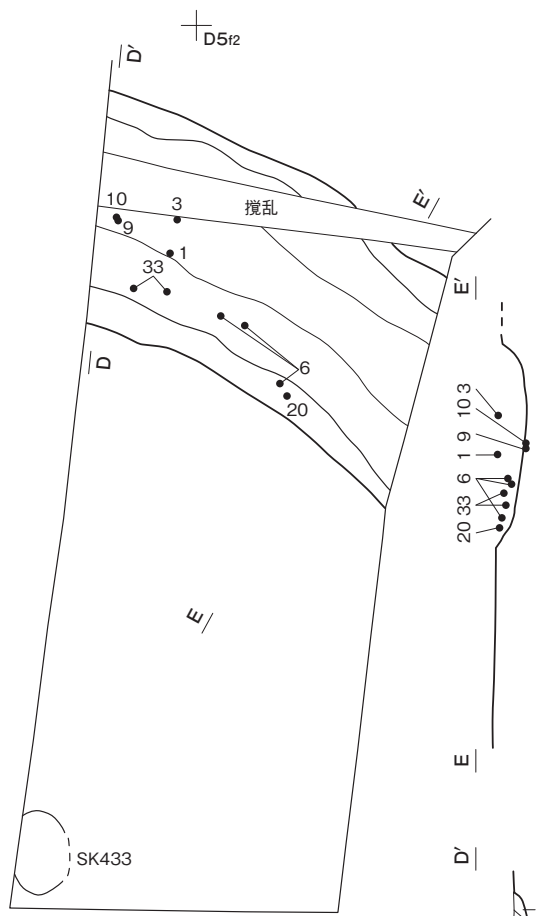
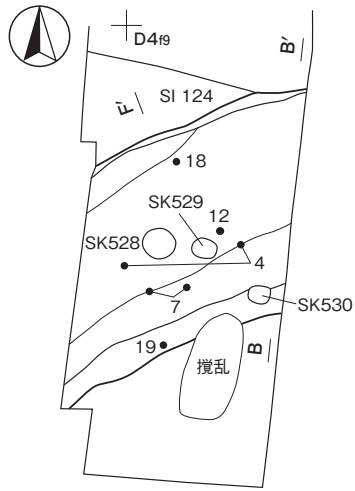
周溝 調査区域外に延びているが, 全周していると推定できる。上幅は 3.58～5.48 m, 下幅は 1.18～4.52 m で, 深さは 40～90cm である。断面形は一様ではないがほぼ逆台形で, 壁は内縁部, 外縁部ともに外傾している。底面はほぼ平坦で, 南西部は浅く, 北西部から南東部にかけては深く掘り込まれている。

覆土 6 層に分層できる。第 5・6 層は墳丘からの流入土および崩落土である。第 3・4 層は, ロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。第 1・2 層は周囲からの流入土で, 自然堆積である。

土層解説

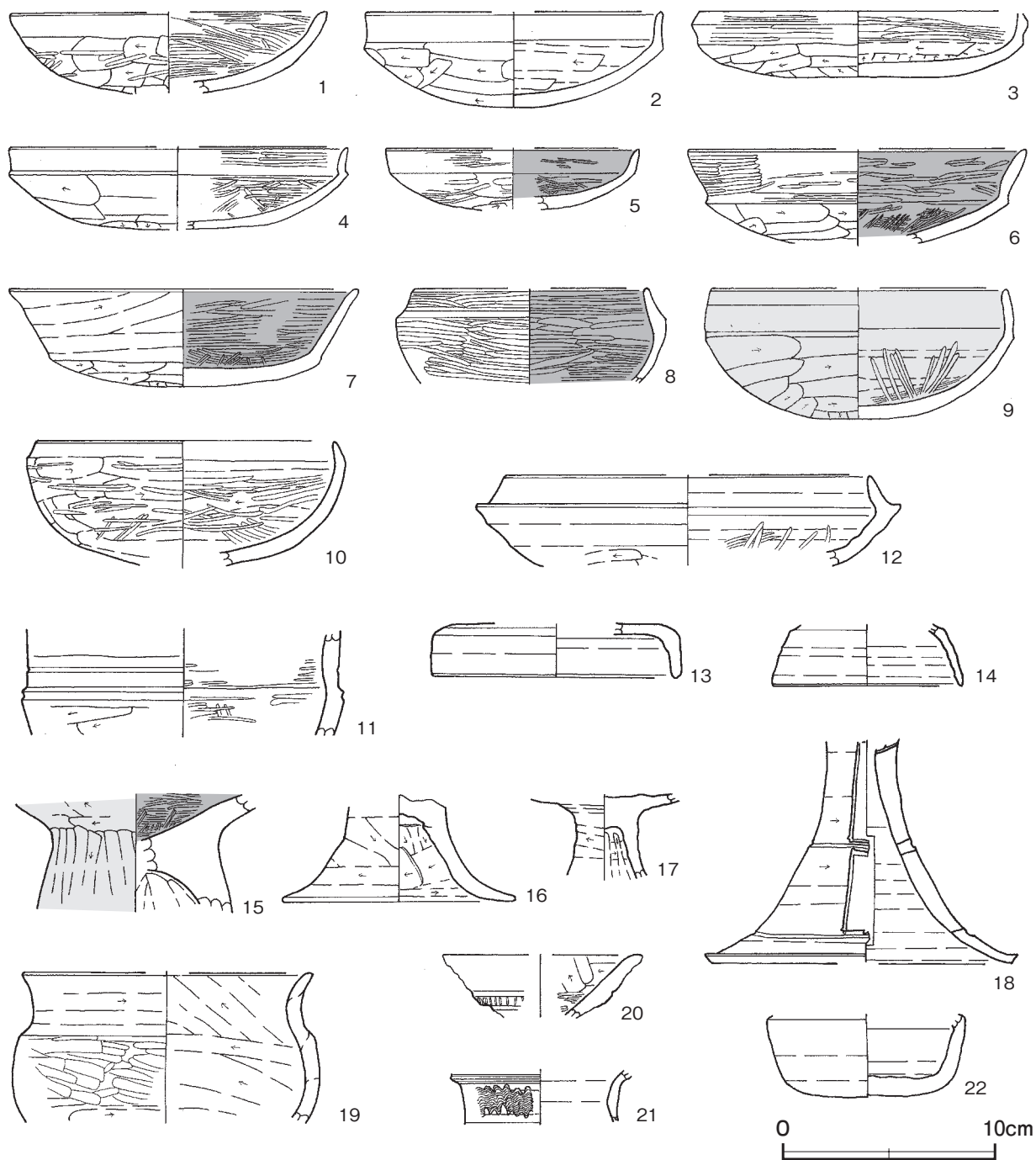
- |       |                  |          |                  |
|-------|------------------|----------|------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量     | 4 暗褐色    | ロームブロック中量        |
| 2 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量     | 5 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 6 褐色     | ロームブロック中量        |

遺物出土状況 土師器片 3820 点（坏 390, 脚付椀 1, 高坏 13, 甗 3, 甕類 3405, 甗 8）, 須恵器片 51 点（坏 2, 蓋 7, 高坏 2, 甗 2, 瓶類 2, 甕類 35, 甗 1）, 土製品 1 点（紡錘車）, 金属製品 3 点（責金具 1, 不明品 2）のほか, 縄文土器片 216 点（深鉢 215, 壺形土器 1）, 弥生土器片 32 点（壺類）, 石器 2 点（鏃, 石皿）が, 主に周溝の上層と中層に分かれて出土している。中層から出土した多くの土器は, 周溝の中央部付近から大型や中型の破片で比較的まとまって確認されている。接合関係が良好であることから, 埋め戻しに伴って一括で投棄されたと考えられる。23～26・29・30 は体部が球形の甕で, 南西部の一面からまとまって出土している。上層から出土した多くの土器は全域に散在し, 中型から小型の破片で接合関係が乏しいことから, 破損したものが埋没の過程で投棄されたと考えられる。

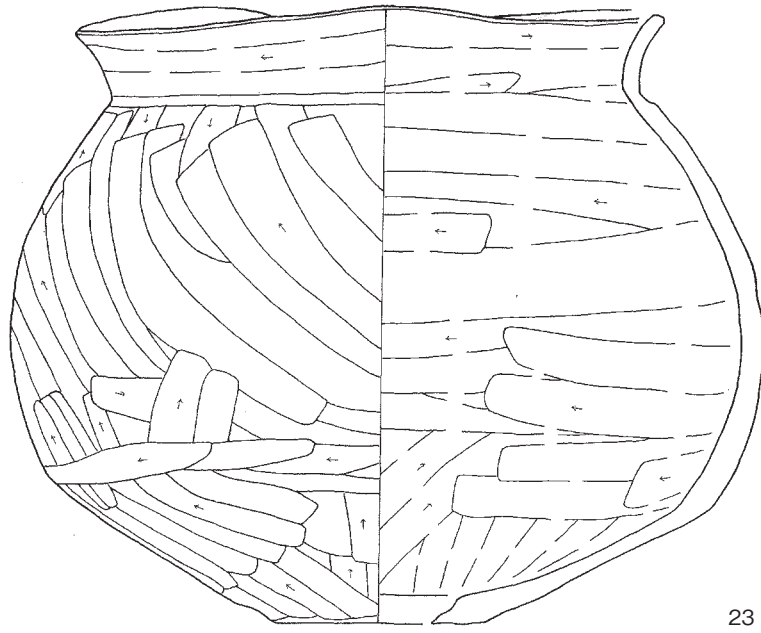


第 223 図 第 1 号墳実測図

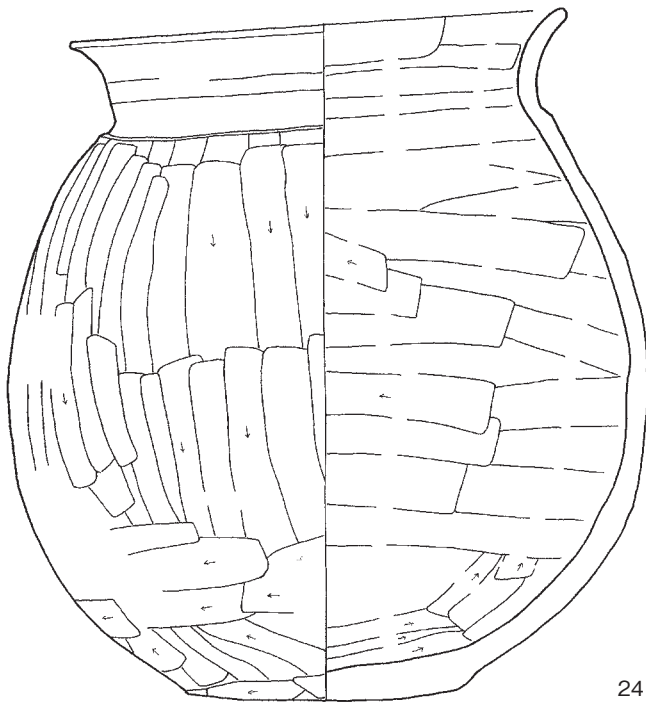
所見 時期は、出土土器から6世紀中葉以降に埋め戻され、その後7世紀前葉に埋没したと考えられる。仮20には底部が穿孔されていることから、古墳の祭祀に用いられたと考えられ、体部が球形の甕をはじめとする中層から出土した土器の多くは、祭祀の後に投棄、もしくは第5・6層の流入に伴って墳丘から転落した可能性がある。



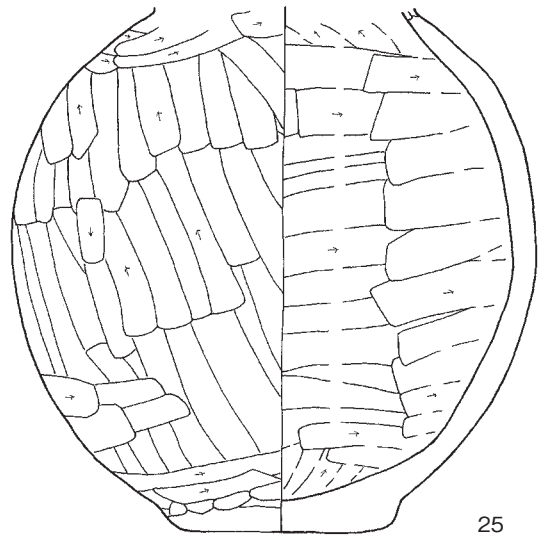
第224図 第1号墳出土遺物実測図(1)



23



24

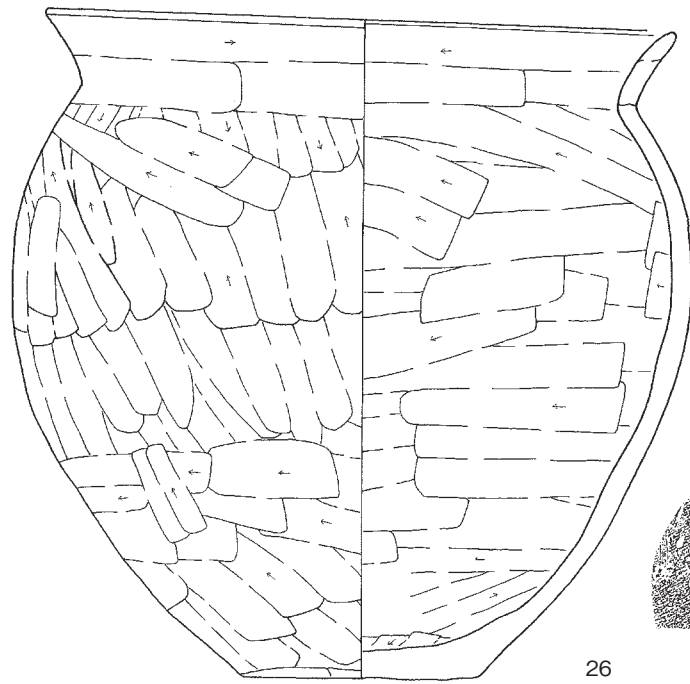


25

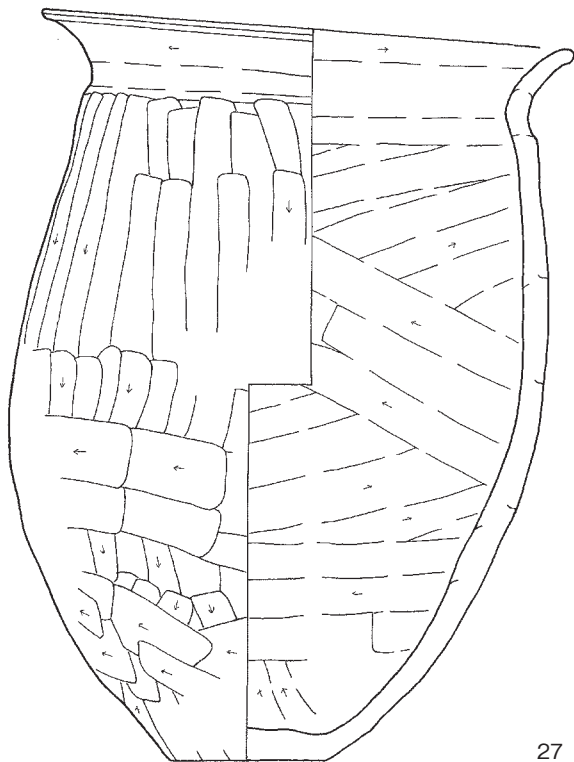


第 225 图 第 1 号墳出土遺物実測図(2)

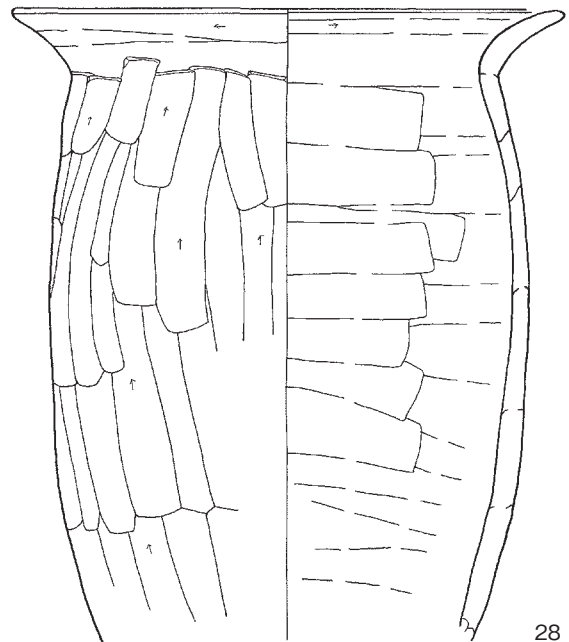




26



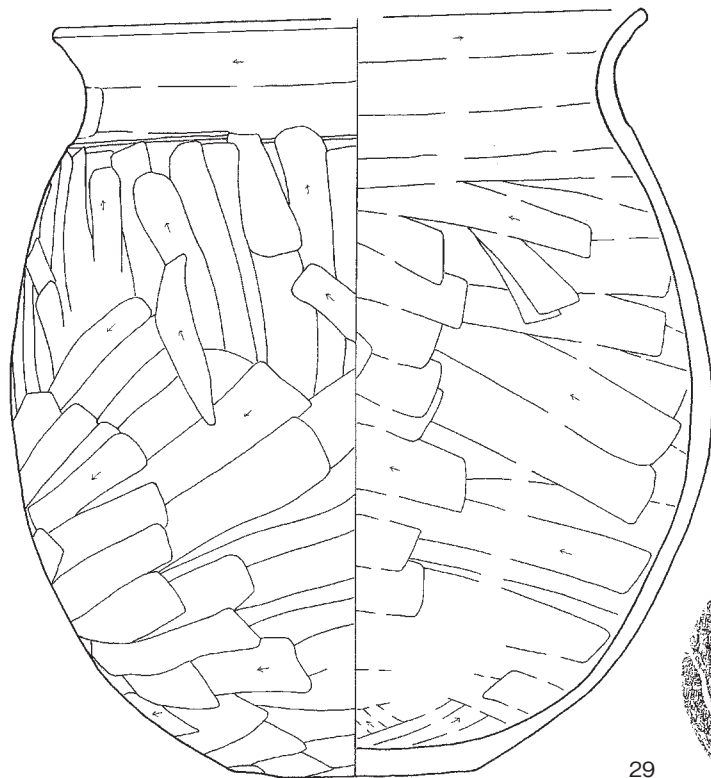
27



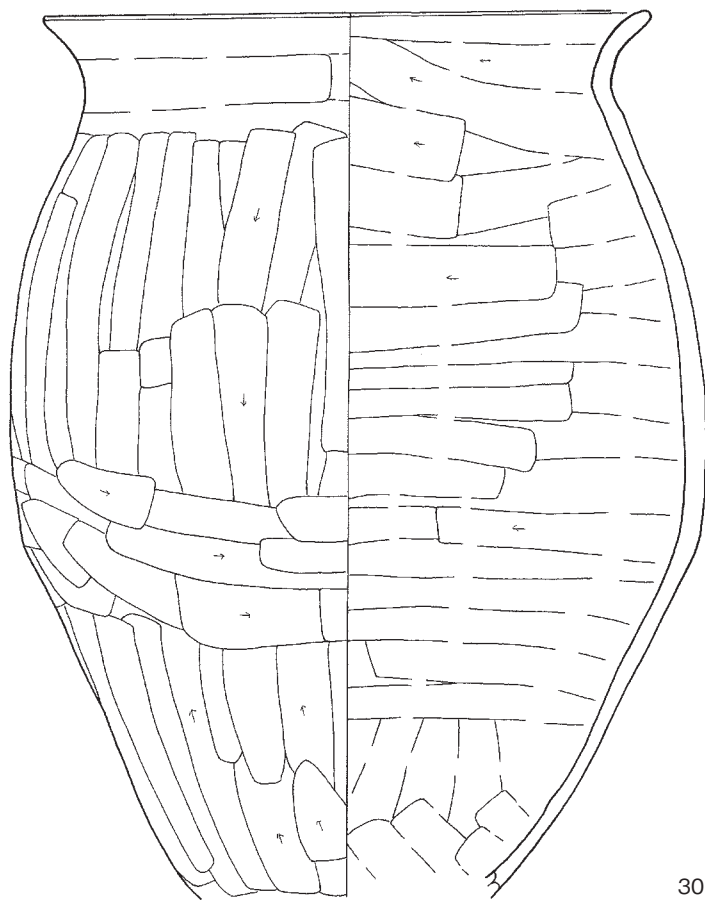
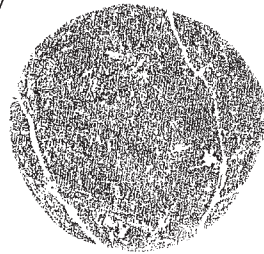
28



第 226 图 第 1 号墳出土遺物実測図(3)



29



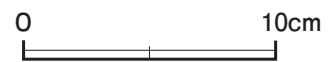
30



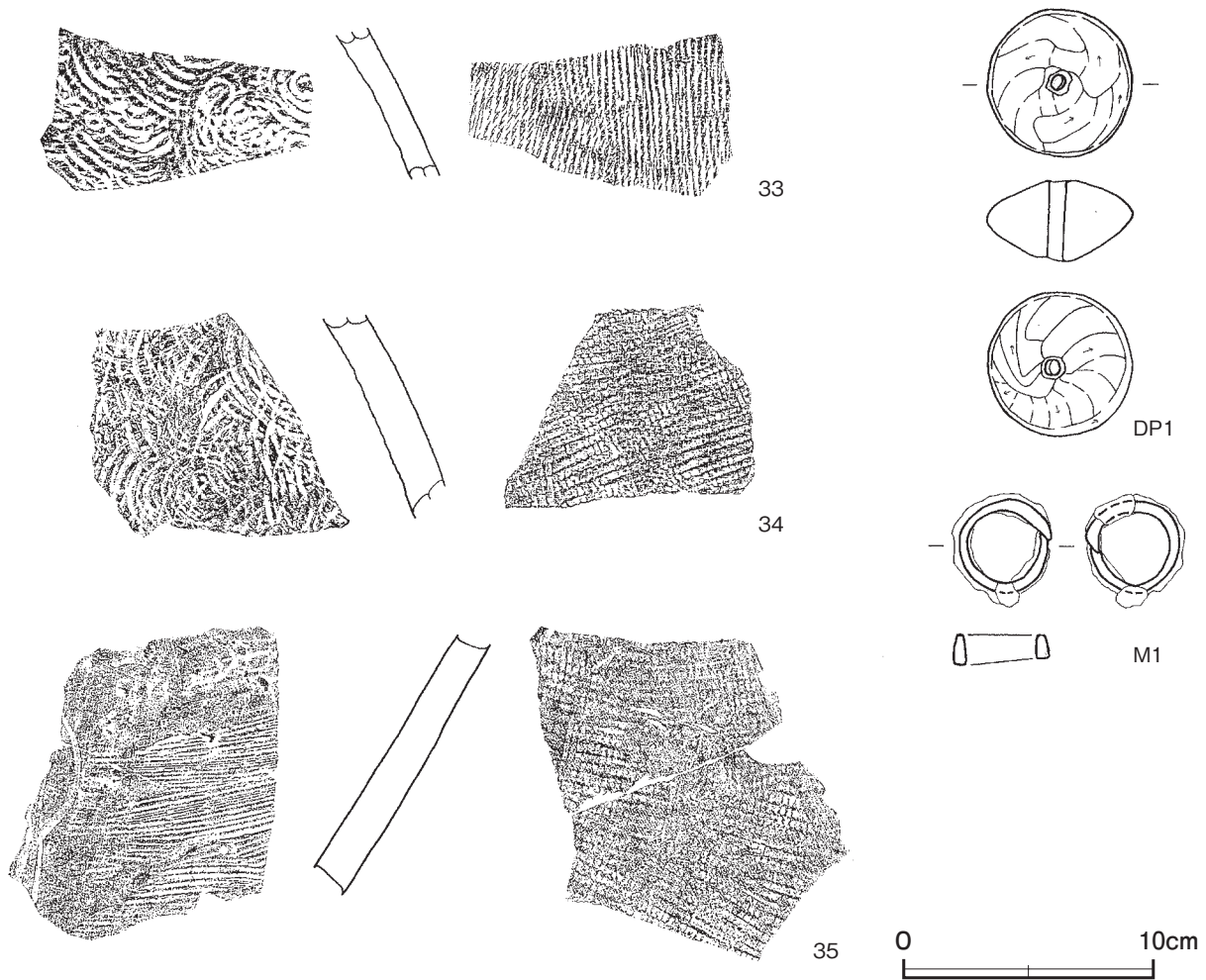
31



32



第 227 图 第 1 号墳出土遺物実測図(4)



第228図 第1号墳出土遺物実測図(5)

第1号墳出土遺物観察表 (第224～228図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[14.8]	(3.8)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ後内面横位の磨き、底部外面斜位の削り後横位の磨き、内面横・斜位の磨き	覆土上層	30%
2	土師器	坏	[13.8]	4.5	-	長石・石英・雲母・針状物質・細礫	明黄褐	普通	口縁部横ナデ 底部外面横・斜位の削り、内面横位のナデ	覆土中	30%
3	土師器	坏	15.2	3.1	-	長石・石英・雲母・針状物質	灰褐	普通	口縁部横位の磨き、底部外面一方向の削り後斜位の削り、内面一方向のナデ後横位のナデ 漆処理	覆土上層	90% PL69
4	土師器	坏	[16.0]	3.9	-	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	口縁部横ナデ後内面横位の磨き、底部外面一方向の削り後横位の削り、内面多方向の磨き	覆土上層	60%
5	土師器	坏	[12.0]	2.9	-	長石・石英・雲母・針状物質	灰褐	普通	口縁部横位の磨き、底部外面斜位の削り後横位の磨き、内面多方向の磨き 内面黒色処理	覆土中	10%
6	土師器	坏	[15.7]	(4.4)	-	長石・石英・雲母・針状物質	明赤褐	普通	口縁部横位の磨き、底部外面横位の削り、内面二方向の磨き 内面黒色処理	覆土上層	40%
7	土師器	坏	16.4	4.7	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ後内面横位の磨き、底部外面一方向の削り後横位の削り、内面二方向の磨き 内面黒色処理	覆土中層	80% PL67
8	土師器	坏	[11.0]	(4.5)	-	長石・石英・雲母	灰褐	普通	口縁部・体部横位の磨き 漆処理	覆土中	10%
9	土師器	坏	[13.8]	6.2	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 底部外面一方向の削り後斜位の削り、内面横位のナデ後縦位の磨き 赤彩	覆土下層	60% PL70 二次焼成
10	土師器	坏	14.0	(6.0)	-	長石・石英・雲母・針状物質	赤褐	普通	口縁部横ナデ 底部横位のナデ後横位の磨き	覆土下層	50% PL70
11	土師器	坏	-	(5.1)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ、外面横位の沈線、内面横位の磨き、底部外面斜位の削り、内面横位の磨き	覆土中	10%
12	須恵器	坏	[17.2]	(4.3)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	灰黄	普通	口縁部・体部クロナデ 底部外面下端部斜位のナデ、内面縦位の磨き	覆土下層	10% PL86 柏崎窯産。
13	土師器	蓋	[11.8]	2.5	9.4	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい黄橙	普通	口縁部・体部クロナデ 天井部一方向のナデ	覆土中	10%
14	須恵器	蓋	[9.0]	(2.9)	-	長石・石英・雲母・針状物質	灰	普通	口縁部・体部クロナデ 天井部回転ヘラ削り	覆土中	10% 幡山窯
15	土師器	高坏	-	(5.6)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい黄橙	普通	坏部外面横・斜位のナデ、内面二方向の磨き、脚部外・内面縦位のナデ、外面赤彩 内面黒色処理	覆土上層	5%
16	土師器	高坏	-	(5.1)	[11.0]	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい褐	普通	脚部外面斜位のナデ後横位のナデ、内面縦位のナデ後横・斜位のナデ	覆土下層	40% PL76

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
17	須恵器	高坏	-	(4.0)	-	長石・石英・雲母・針状物質	灰	良好	脚部ロクロナデ, 内面縦位のナデ	覆土中層	10% 轆山窯
18	須恵器	高坏	-	(10.6)	[14.2]	長石・石英・雲母・黒色粒子	暗灰黄	良好	脚部ロクロナデ, 外面横位の沈線2条 透かし4か所	覆土上層	30% PL87 東海産
19	土師器	鉢	[13.6]	(7.1)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部外面横ナデ, 内面斜位のナデ 体部外面横位のナデ後横位の磨き, 内面斜位のナデ	覆土上層	20%
20	土師器	甕	[7.8]	(3.0)	-	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	口縁部外面横位の沈線2条後刻み文, 内面横・斜位のナデ後横位の磨き	覆土上層	10%
21	須恵器	甕	-	(2.6)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	黄灰	良好	頸部ロクロナデ, 外面横位の沈線2条後波状文	覆土中	5% PL88 湖西産
22	須恵器	平瓶	-	(3.9)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	暗灰黄	良好	体部ロクロナデ, 自然袖付着	覆土上層	20% 猿投産
23	土師器	甕	23.4	24.5	8.4	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦・斜位の削り後横位の削り, 内面縦位のナデ後横位のナデ 底部二方向のナデ	覆土中層	90% PL84 底部穿孔
24	土師器	甕	19.3	27.3	11.0	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の削り後横位の削り, 内面縦位のナデ後横位のナデ 底部外面多方向のナデ, 内面一方向のナデ	覆土中層	80% PL81 二次焼成
25	土師器	甕	-	(20.9)	8.8	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	体部外面縦位の削り後横位のナデ 内面縦位のナデ後横位のナデ 底部多方向のナデ	覆土中層	90% PL82
26	土師器	甕	24.6	26.5	9.2	長石・石英・雲母・針状物質・細礫	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦・斜位のナデ後横位のナデ, 内面縦位のナデ後横位のナデ 底部一方向のナデ	覆土中層	80% PL82 煤付着
27	土師器	甕	20.7	30.0	6.0	長石・石英・雲母・針状物質	明褐灰	普通	口縁部横ナデ 体部縦位の削り後横位の削り, 内面縦位のナデ後横・斜位のナデ 底部一方向のナデ	覆土下層	50%
28	土師器	甕	22.0	(25.1)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の削り, 内面横位のナデ	覆土中層	40% 二次焼成
29	土師器	甕	[23.2]	30.5	9.4	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の削り後横・斜位の削り, 内面横・斜位のナデ 底部外面一方向のナデ, 内面二方向のナデ	覆土中層	80% PL81 煤付着
30	土師器	甕	24.0	(35.3)	-	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	口縁部横ナデ 体部縦位の削り後横位の削り, 内面縦位のナデ後横位のナデ	覆土下層	80% PL82 外面煤付着
31	須恵器	甕	-	-	-	長石・石英・雲母・針状物質	灰黄	普通	体部外面縦位の平行叩き, 内面同心円状の当て具痕	覆土中	10% PL88 轆山窯
32	須恵器	甕	-	-	-	長石・石英・雲母・針状物質	灰	良好	体部外面カキ目, 内面同心円状の当て具痕	覆土中	10% PL88 轆山窯
33	須恵器	甕	-	-	-	長石・石英・雲母・針状物質	灰	良好	体部外面擬格子状の叩き, 内面同心円状の当て具痕	覆土中層	10% PL88 轆山窯
34	須恵器	甕	-	-	-	長石・石英・雲母・針状物質	黄灰	普通	体部外面格子状の叩き, 内面同心円状の当て具痕	覆土上層	10% PL88 轆山窯
35	須恵器	甕	-	-	-	長石・石英・雲母・針状物質	黄灰	良好	体部外面格子状の叩き, 内面ハケ目状の横位のナデ	覆土上層	10% PL88 轆山窯

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	紡錘車	5.8	3.3	0.6	89.85	長石・石英・雲母・針状物質	浅黄橙	上・下面螺旋状のナデ後縁辺部横位のナデ 両面からの穿孔	覆土上層	PL101

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 1	黄金具	3.7	3.7	1.3	35.26	鉄	一枚の鉄材巻付 内径 2.5cm	覆土中層	PL108

#### (4) 円形周溝遺構

##### 第1号円形周溝遺構 (第229図 PL28)

調査年度 平成27年度

位置 調査区西部のD 4c9～D 4e0区, 標高42mほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第148号竪穴建物, 第15号溝, 第673・676・681・682・696・第19号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 東側が調査区域外に延び, 第148号竪穴建物などに掘り込まれているが, 内径は6.84～6.96m, 外径は7.84～8.24mと推定できる。平面形は円形と推定できるが, 台部は上部が削平されていることから, 付帯する施設の存否は不明である。

周溝 全周していると推定できる。北部の外縁部や内縁部がやや膨らむ円形で, 上幅は0.58～0.78m, 下幅は0.22～0.48mで, 深さは22～30cmである。断面形は箱状で, 壁は内縁部, 外縁部ともにほぼ直立もしくは外傾している。底面はほぼ平坦である。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

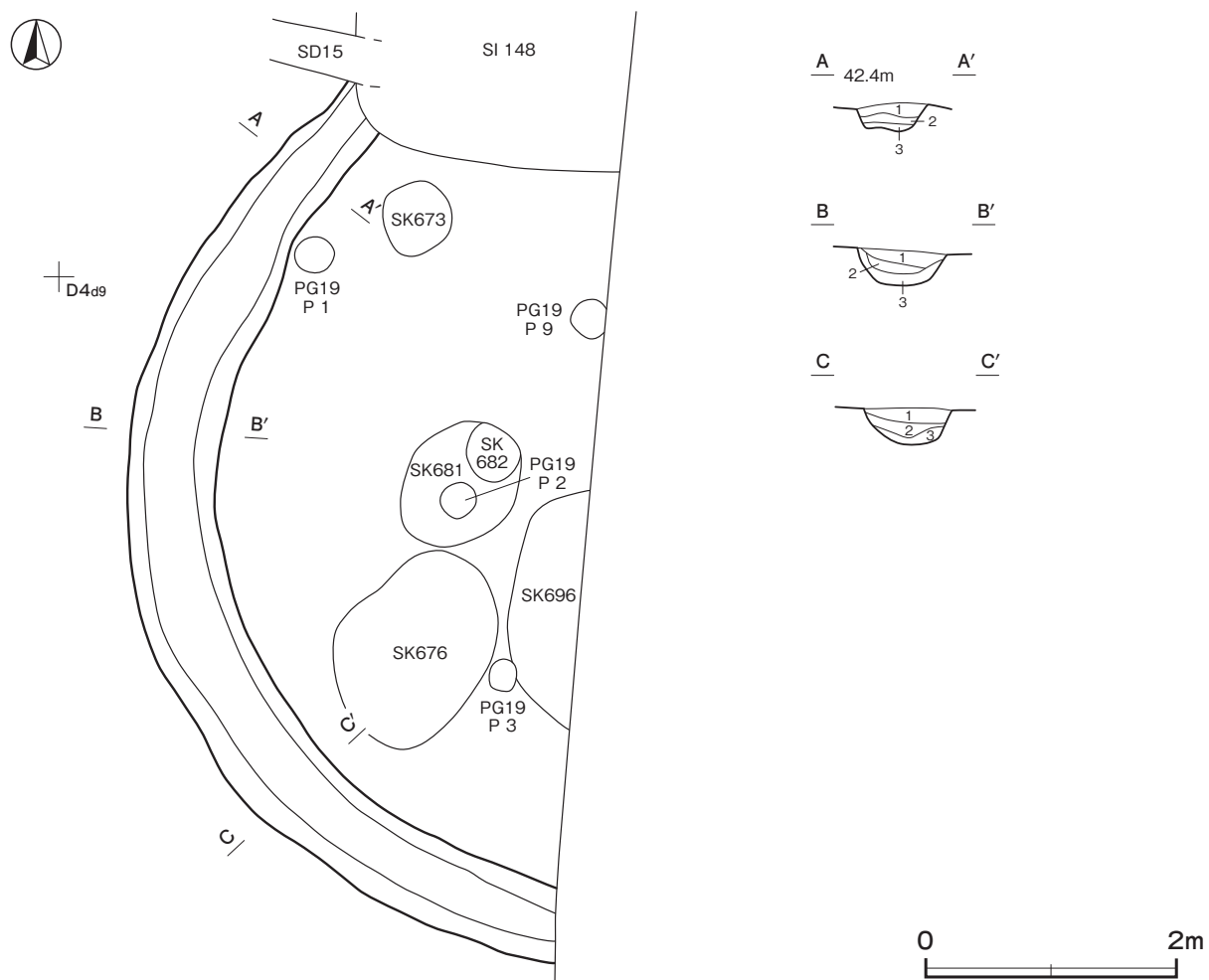
##### 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 2 黒褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量

遺物出土状況 土師器片11点(甕類)のほか, 縄文土器片12点(深鉢)が, 全域に散在している。多くの土

器は小片で、接合関係に乏しいことから、破損した土器が投棄されたと考えられる。

**所見** 時期は、実測可能な遺物はなかったが、重複関係などから6世紀中葉から後葉と推定できる。付近に第1号墳が存在していることから、小型の円墳などが考えられるが、明確な性格は不明である。



第 229 図 第 1 号円形周溝遺構実測図

(5) 井戸跡

第 1 号井戸跡 (第 230 図 PL28)

調査年度 27 年度

位置 調査区中央部の D 5 e9 区、標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第 93 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 確認面は長径 1.27 m、短径 1.08 m の楕円形で、長径方向は N - 14° - E である。確認面から 50 ~ 60 cm までは、漏斗状に掘り込まれ、以下は中部でフラスコ状に広がり、下部は長径 1.24 m、短径 1.10 m の外傾した円筒形である。深さは 170 cm まで掘り下げた段階で、崩落が想定されたため、以下の調査を断念した。

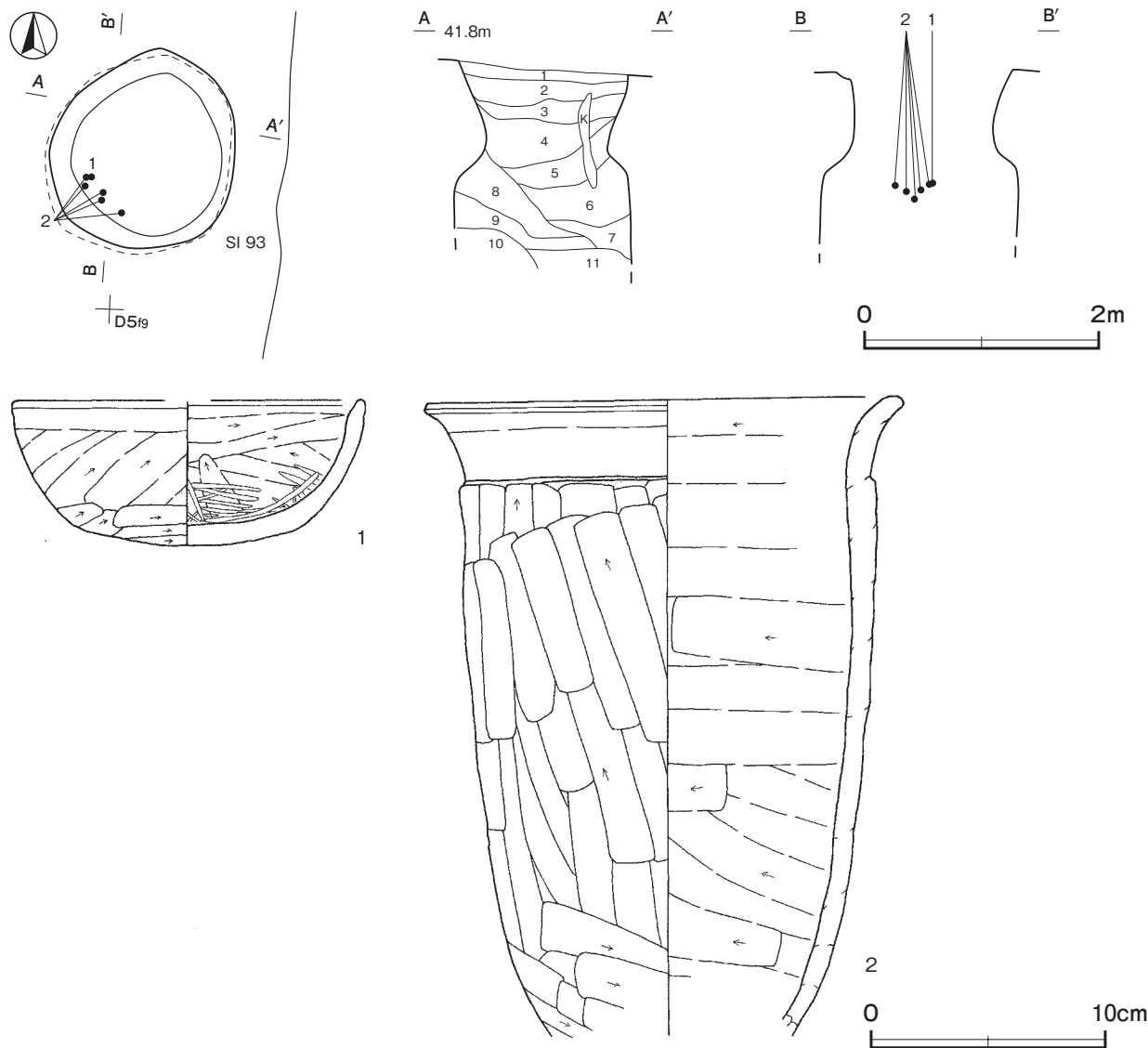
覆土 観察できた部分は、11 層に分層できる。ロームブロックや粘土ブロックなどが含まれる不規則な堆積をしていることから、埋め戻されている。

土層解説

- |       |                 |        |                         |
|-------|-----------------|--------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量       | 7 黒褐色  | 粘土ブロック多量                |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック・礫微量      | 8 暗褐色  | ロームブロック・粘土ブロック少量        |
| 3 暗褐色 | 粘土ブロック・炭化物少量    | 9 暗褐色  | ロームブロック少量, 粘土ブロック微量     |
| 4 暗褐色 | 粘土ブロック微量        | 10 黒褐色 | ロームブロック中量, 粘土ブロック・炭化物少量 |
| 5 黒褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック少量 | 11 暗褐色 | 粘土ブロック中量, ロームブロック少量     |
| 6 黒褐色 | 礫中量, ローム粒子少量    |        |                         |

遺物出土状況 土師器片 243 点（坏 42, 甕 201）、須恵器片 14 点（瓶類 1, 甕 13）のほか縄文土器片（深鉢 13）、弥生土器片 1 点（広口壺）が、覆土中から出土している。第 93 号堅穴建物跡からの混入品が多くみられるが、土器は中型の破片で、接合関係が良好であることから、廃絶に伴ってが投棄されたと考えられる。

所見 時期は、出土土器や周辺の堅穴建物群の年代から 7 世紀前葉に比定できる。



第 230 図 第 1 号井戸跡・出土遺物実測図

第 1 号井戸跡出土遺物観察表（第 230 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[14.7]	6.1	-	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	口縁部横ナデ 底部外面斜位のナデ後一方向の削り、内面横・斜位のナデ後多方向の磨き	覆土中	70%
2	土師器	甕	19.9	(27.2)	-	長石・石英・雲母・針状物質・細礫	にぶい黄褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の削り後下端部斜位の削り、内面横・斜位の削り	覆土中	70% 外面煤付着

(6) 柱穴列

第1A号柱穴列 (第231・232図)

調査年度 平成26年度

位置 調査区東部のD7g9～D8g2区、標高42mほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第261・272・427号土坑を掘り込み、第1B号柱穴列、第8号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 東西方向12.3mの間に12か所の柱穴が配され、配列方向はN-88°-Eである。柱間寸法は、0.6～1.5m(2～5尺)で、柱筋はほぼ揃っている。

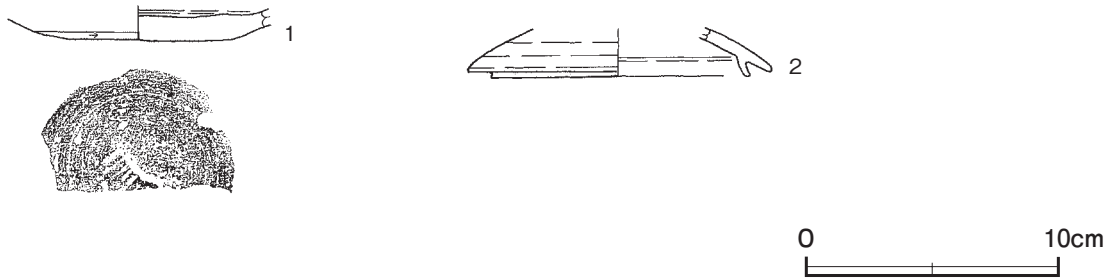
柱穴 12か所。平面形は円形もしくは楕円形で、長径0.26～0.68m、短径0.23～0.44mである。深さは28～72cmで、掘方の壁は直立している。第1～3層は柱材を抜き取った後の覆土である。P5～P7・P9の底部から、柱のあたりを確認した。柱のあたりの規模から、柱の直径は10～20cmほどと推定できる。

柱穴土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 ぬい黄褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 須恵器片2点(坏, 蓋)がP4・P5から出土している。いずれも細片で覆土中から出土していることから、柱材を抜き取った後の混入と考えられる。

所見 時期は、出土土器から7世紀中葉と考えられる。性格は、第15A号掘立柱建物跡の桁行方向にほぼ直交していることから、第15A号掘立柱建物に付随する塀跡と考えられる。



第231図 第1A号柱穴列出土遺物実測図

第1A号柱穴列出土遺物観察表 (第231図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	-	(1.3)	8.1	長石・石英・針状物質・細礫	黄灰	普通	体部ロクロナデ 底部回転ヘラ削り	P5覆土中	5% 東海産
2	須恵器	蓋	[12.0]	(2.2)	-	長石・石英・黒色粒子	黄灰	良好	体部ロクロナデ	P4覆土中	5% 東海産

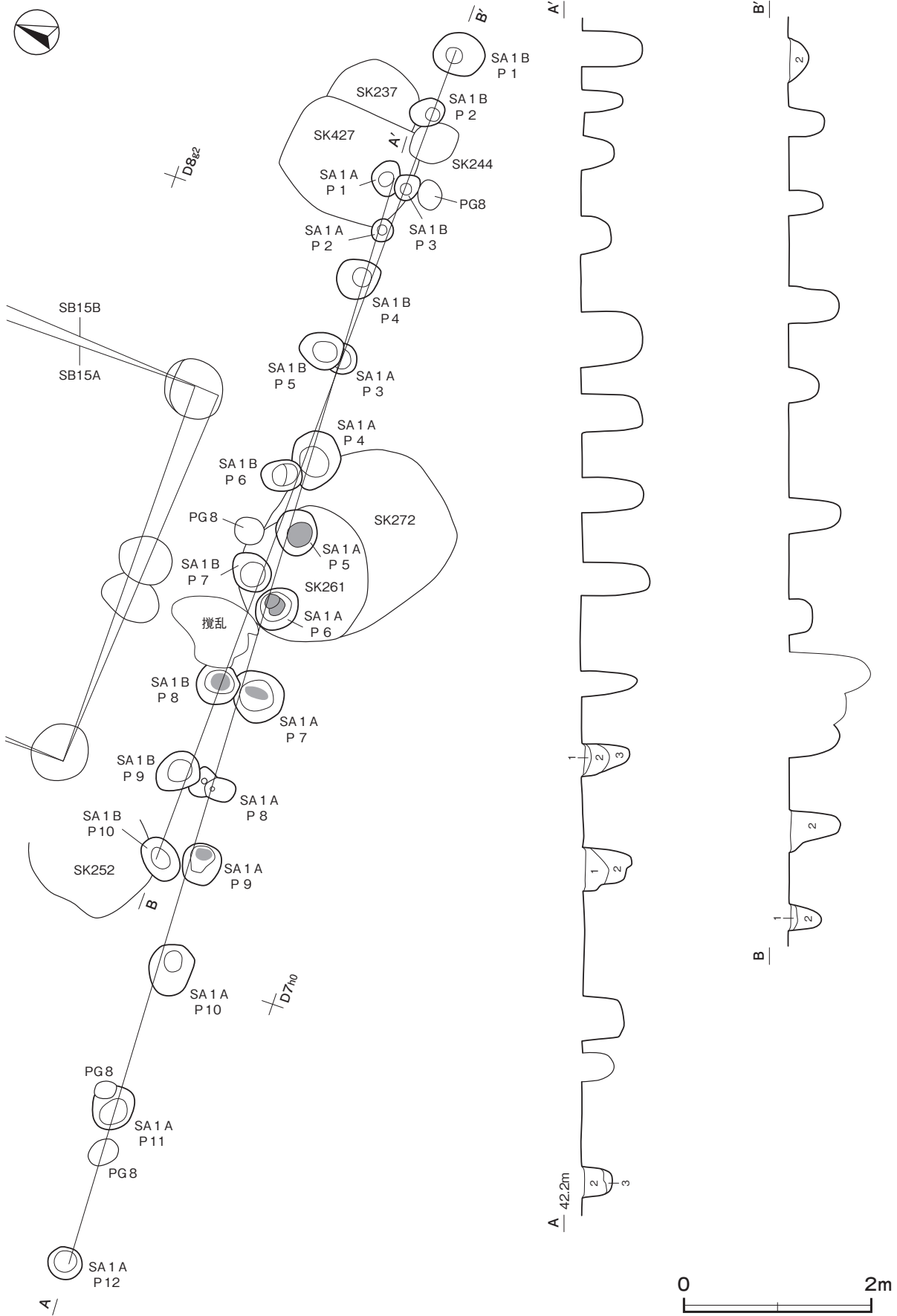
第1B号柱穴列 (第232図)

調査年度 平成26年度

位置 調査区東部のD7g0～D8g2区、標高42mほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第1A号柱穴列、第237・244・252・261・272・427号土坑を掘り込み、第8号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 東西方向9.0mの間に10か所の柱穴が配され、配列方向はN-86°-Wである。柱間寸法は、0.6～1.2m(2～4尺)で、柱筋はほぼ揃っている。



第 232 图 第 1 A·B 号柱穴列实测图



**柱穴** 10か所。平面形は円形もしくは楕円形で、長径0.22～0.62m、短径0.22～0.52mである。深さは20～84cmで、掘方の壁は直立している。第1・2層は柱材を抜き取った後の覆土である。P8の底部から、柱のあたりを確認した。柱のあたりの規模から、柱の直径は20cmほどと推定できる。

**柱穴土層解説**

1 黒褐色 ローム粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

**所見** 時期は、第15B号掘立柱建物跡の年代から、7世紀後葉と考えられる。性格は、第15B号掘立柱建物跡の桁行方向にほぼ直交していることから、第15A号掘立柱建物に付随する塀跡と考えられる。

表8 古墳時代柱穴列一覧表

番号	位置	主軸方向	長さ (m)	柱間 (m)	柱 穴					主な出土遺物	備 考
					柱穴数	平面形	長径 (m)	短径 (m)	深さ (cm)		
1A	D 7g <sup>9</sup> ～ D 8g <sup>2</sup>	N-88°-E	12.3	0.6～1.5	12	円形・ 楕円形	0.26～0.68	0.23～0.44	28～72	須恵器	SK261・272・427→ 本跡→SA 1B, PG 8
1B	D 7g <sup>0</sup> ～ D 8g <sup>2</sup>	N-86°-W	9.0	0.6～1.2	10	円形・ 楕円形	0.22～0.62	0.22～0.52	20～84	-	SA 1A・SK237・244・ 252・261・272・427→ 本跡→PG 8

(7) 溝跡

**第6号溝跡** (第233・234図 PL27)

**調査年度** 平成26年度

**位置** 調査区中央部のD6c9～D6i9区、標高42mほどの台地平坦面に位置している。

**重複関係** 第276号土坑、第3・4号溝、第9号ピット群に掘り込まれている。

**規模と形状** 北部及び南部が調査区域外に延びていることから、長さは23.65mしか確認できなかった。D6c9区から南方向(N-6°-E)へ直線状に延びている。上幅1.45～1.94m、下幅0.60～1.20m、深さ40～65cmで、断面形は台形である。壁は外傾し、底面は、土橋状施設で区切られた南北の両区域ともに南部へ向かって低くなっている。

**覆土** 3層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

**土層解説**

1 暗褐色 ローム粒子少量

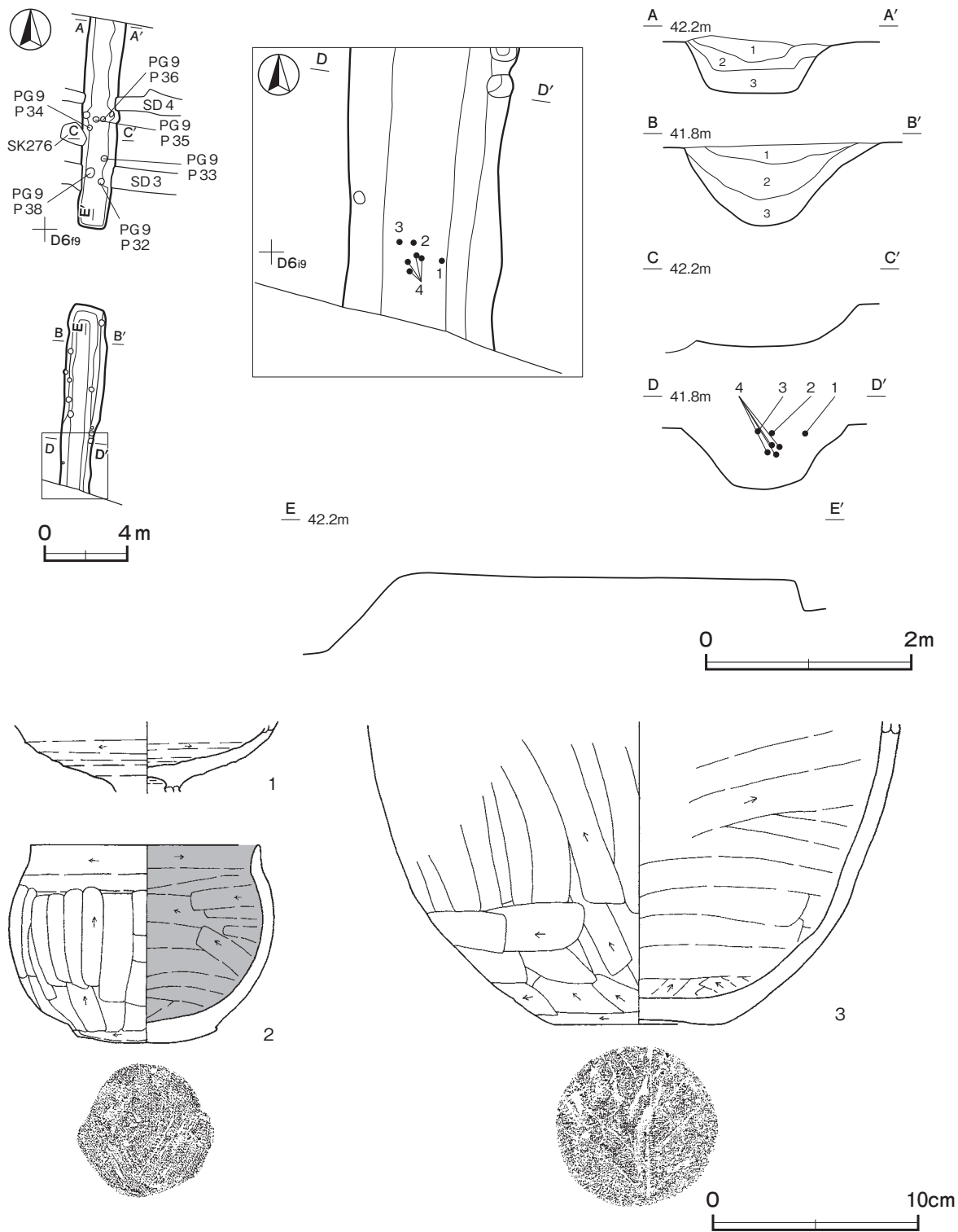
3 にい黄褐色 ローム粒子少量

2 にい黄褐色 ローム粒子中量

**土橋状施設** 確認した範囲の中央部に、地山を掘り残して土橋状施設が構築されている。幅は1.45mで、上幅3.98～4.26m、下幅4.77～5.14m、溝の底面からの高さは30～75cmである。上面は平坦で、法はほぼ直立もしくは外傾している。断面形は不整台形である。

**遺物出土状況** 土師器片150点(坏6, 鉢類1, 高坏1, 甕類142), 須恵器片1点(広口壺)のほか、縄文土器片83点(深鉢), 弥生土器片5点(壺類)が、全域に散在している。多くの土器は中型の破片や小片で、接合関係に乏しいことから、破損したものが埋没の過程で投棄されたと考えられる。

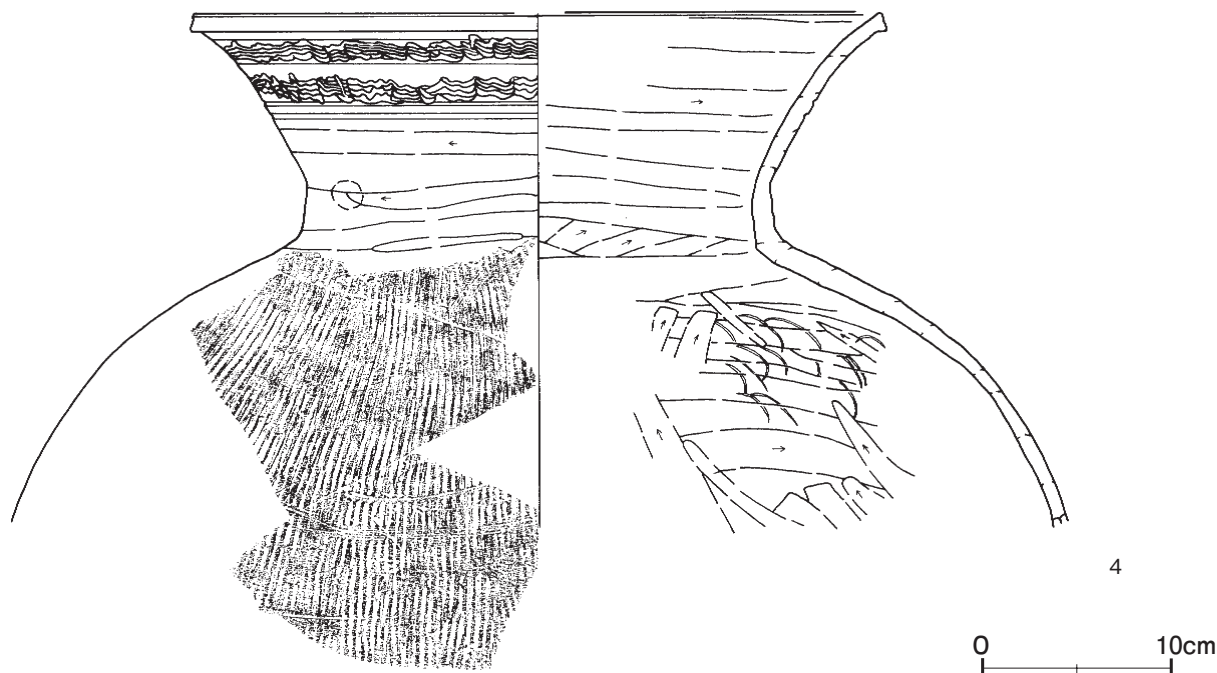
**所見** 時期は、出土土器から6世紀後葉に遺物の投棄が始まり、7世紀前葉頃に埋没したと考えられる。土橋状施設が構築されていることから、出入り口施設を伴う集落の区画と考えられる。



第233図 第6号溝跡・出土遺物実測図

第6号溝跡出土遺物観察表（第233・234図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	高坏	-	(3.5)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい黄橙	普通	坏部口クロナデ	覆土上層	40% 輪山窯
2	土師器	鉢	11.1	9.6	6.7	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面横位のナデ後縦位の削り、内面横・斜位のナデ 底部外面一方向の削り、内面一方向のナデ 内面黒色処理	覆土上層	95%



第 234 図 第 6 号溝跡出土遺物実測図

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
3	土師器	甕	-	(14.7)	8.5	長石・石英・雲母・針状物質・細礫	にぶい黄橙	普通	体部外面縦位の削り後横位の削り、内面横位のナデ。底部外面木葉痕、内面二方向のナデ	覆土上層	30%
4	須恵器	広口壺	[35.8]	(26.9)	-	長石・石英・針状物質	灰	良好	口縁部横位3条の沈線後ヘラによる波状文、内面斜位のナデ後横位のナデ。体部外面縦位の平行叩き、内面横位のナデ後斜位のナデ、当具痕	覆土中層	20% PL87 轆山窯。

(8) 土坑

今回の調査で、当時代の土坑 30 基を確認した。形状や遺物出土状況などから特徴的な土坑 8 基について、本文と実測図を記載する。その他の 22 基については、実測図を掲載する。

第 54 号土坑 (第 235 図 PL28)

調査年度 平成 25 年度

位置 調査区東部の E 9 d6 区、標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第 17 号竪穴建物、第 3 号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 長径 1.63 m、短径 1.60 m の円形である。深さは 60 cm で、壁は直立している。底面は平坦である。

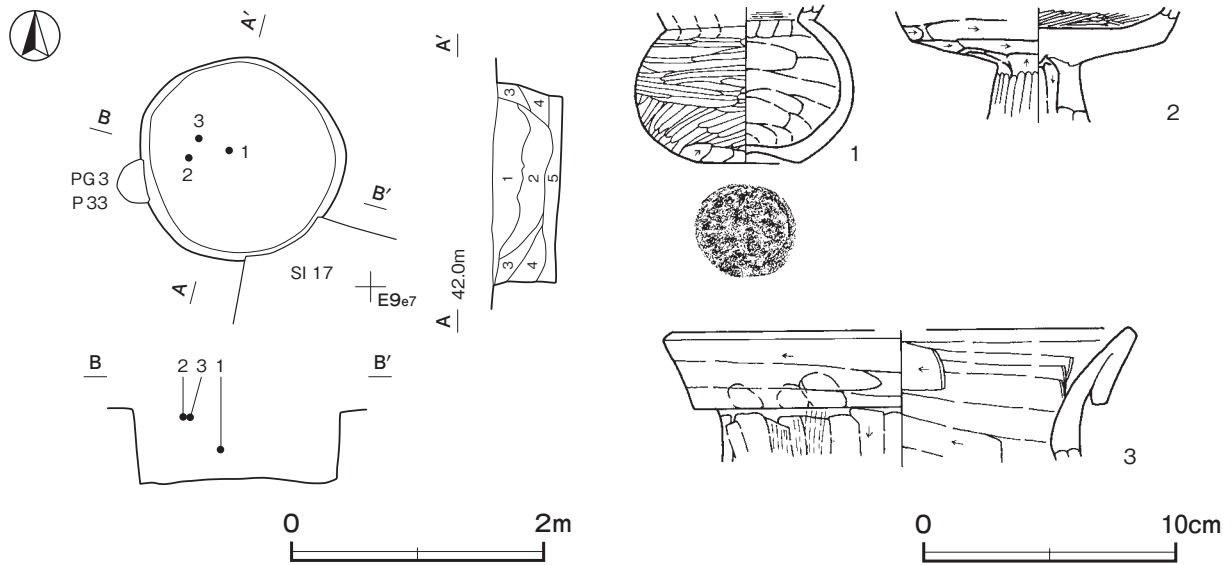
覆土 5 層に分層できる。第 2～5 層はロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第 1 層は、埋め戻された後の自然堆積である。

土層解説

- |                    |                  |
|--------------------|------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量      | 4 灰黄褐色 ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量    | 5 暗褐色 ロームブロック少量  |
| 3 にぶい黄褐色 ロームブロック中量 |                  |

遺物出土状況 土師器片 28 点 (埴 4, 壺類 1, 甕類 23) のほか、縄文土器片 27 点 (深鉢), 弥生土器片 5 点 (壺類) が出土している。多くの土器は、第 2 層以下から出土していることから、埋め戻しに伴って投棄されたと考えられる。

所見 時期は，出土土器から4世紀後葉に比定できる。性格は，貯蔵穴の可能性はある。



第235図 第54号土坑・出土遺物実測図

第54号土坑出土遺物観察表（第235図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	埴	-	(6.3)	4.1	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部外面縦位のナデ，内面横位のハケ目調整 体部外面二方向の磨き後下端部斜位の削り，内面横・斜位のナデ 底部螺旋状のナデ	覆土中層	80%
2	土師器	高坏	-	(4.5)	-	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	坏部横位のナデ後下端部横位の削り，内面螺旋状の磨き 脚部外面縦位の磨き，内面縦位のナデ	覆土上層	40%
3	土師器	壺	[18.2]	(5.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子・細礫	橙	普通	口縁部横ナデ，指頭痕 頸部外面ハケ目調整ナデ消し，内面横位のナデ	覆土上層	30%

### 第154号土坑（第236図）

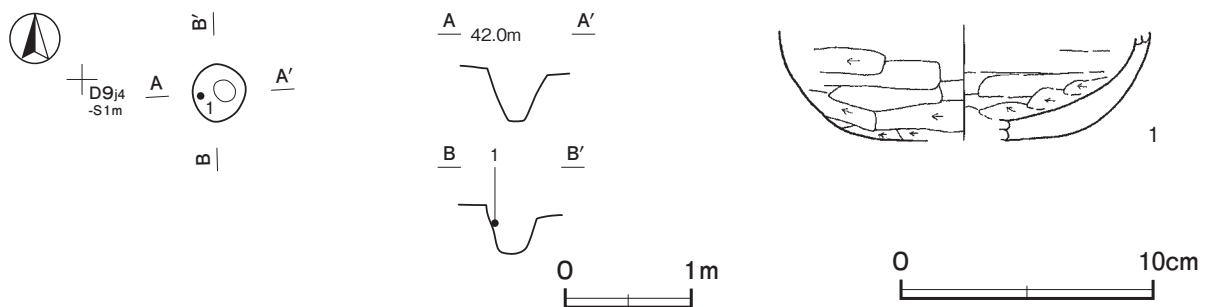
調査年度 平成26年度

位置 調査区東部のD9j4区，標高42mほどの台地平坦面に位置している。

規模と形状 長径0.45m，短径0.42mの円形である。深さは35cmで，壁はほぼ直立している。底面は平坦である。

遺物出土状況 土師器片8点（坏2，甕類6）のほか，縄文土器片1点（深鉢）が出土している。

所見 時期は，出土土器から7世紀代に比定できる。性格は柱穴と考えられるが，建物跡や柵跡などの配列は確認できなかった。



第236図 第154号土坑・出土遺物実測図

第 154 号土坑出土遺物観察表（第 236 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	-	(4.3)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい黄橙	普通	底部外面多方向の削り後横位の削り、内面横位のナデ	覆土中層	20%

第 480 号土坑（第 237 図）

調査年度 平成 27 年度

位置 調査区西部の C 2 e9 区、標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

規模と形状 長径 0.71 m、短径 0.63 m の楕円形で、長径方向は N - 73° - E である。深さは 25cm で、壁は外傾している。底面は平坦である。

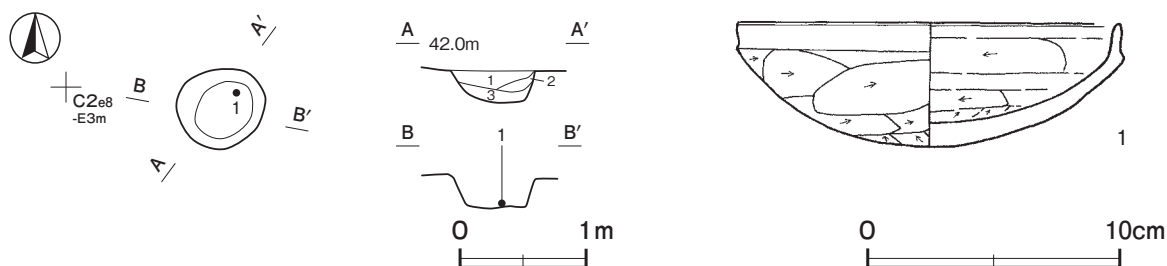
覆土 3 層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 にぶい黄褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片 1 点（坏）が出土している。1 は、埋め戻しに伴って投棄されたと考えられる。

所見 時期は、出土土器から 7 世紀前葉に比定できる。性格は不明である。



第 237 図 第 480 号土坑・出土遺物実測図

第 480 号土坑出土遺物観察表（第 237 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	15.1	4.9	-	長石・石英・雲母・針状物質	灰褐	普通	口縁部横ナデ 底部一方向の削り後横位の削り、内面横位のナデ	覆土中	80%

第 483 号土坑（第 238 図）

調査年度 平成 27 年度

位置 調査区西部の C 3 d2 区、標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第 1 号遺物包含層を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.18 m、短径 0.72 m の楕円形で、長径方向は N - 81° - W である。深さは 44cm で、壁は外傾している。底面はほぼ平坦である。

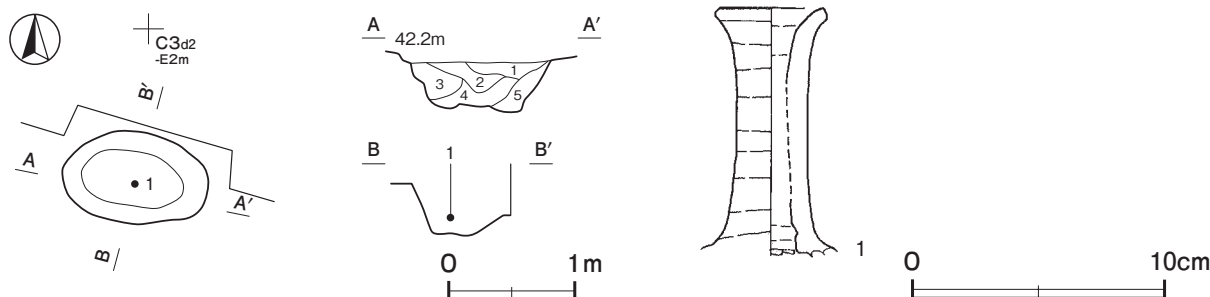
覆土 5 層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量
- 5 にぶい黄褐色 ロームブロック中量

**遺物出土状況** 土師器片 30 点 (甕類), 須恵器片 1 点 (水瓶) のほか, 縄文土器片 1 点 (深鉢), 弥生土器片 1 点 (壺類) が出土している。多くの土器は, 埋め戻しに伴って投棄されたと考えられる。

**所見** 時期は, 出土土器からは 7 世紀中葉に比定できる。性格は不明である。



第 238 図 第 483 号土坑・出土遺物実測図

第 483 号土坑出土遺物観察表 (第 238 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	水瓶	4.0	(9.8)	-	長石・石英・雲母・針状物質	灰	良好	頸部ロクロナデ 自然釉付着	覆土中層	20% PL87 轆山窯。

### 第 534 号土坑 (第 239 図 PL28)

**調査年度** 平成 28 年度

**位置** 調査区西部の E 4 a8 区, 標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

**規模と形状** 長径 0.56 m, 短径 0.50 m の不整楕円形で, 長径方向は N - 32° - W である。深さは 22cm で, 壁は外傾している。底面は皿状である。

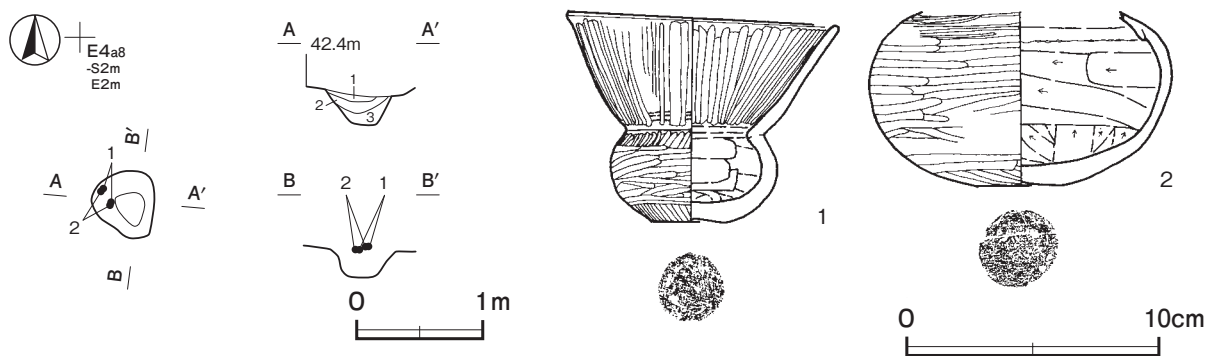
**覆土** 3 層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

#### 土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 におい黄褐色 ロームブロック中量

**遺物出土状況** 土師器片 27 点 (埴 2, 甕類 25) のほか, 弥生土器片 1 点 (壺類) が出土している。多くの土器は, 埋め戻しに伴って投棄されたと考えられる。

**所見** 時期は, 出土土器から 4 世紀後葉に比定できる。性格は不明である。



第 239 図 第 534 号土坑・出土遺物実測図

第 534 号土坑出土遺物観察表 (第 239 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	埴	10.5	8.3	2.7	長石・石英・雲母・針状物質	明赤褐	普通	口縁部縦位の磨き、体部外面二方向の磨き、内面横位のナデ、底部外面二方向のナデ、内面螺旋状のナデ	覆土上層	90%
2	土師器	埴	-	(6.9)	3.1	長石・石英・雲母・針状物質	明赤褐	普通	体部外面二方向の磨き、内面縦位のナデ後横位のナデ、底部一方向のナデ	覆土上層	50%

第 593 号土坑 (第 240 図)

調査年度 平成 28 年度

位置 調査区西部の C 2 g9 区、標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第 592 号土坑を掘り込み、第 103 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 第 103 号竪穴建物に掘り込まれているが、長径 0.63 m、短径は 0.46 m と推定できる楕円形で、長径方向は N - 70° - E である。深さは 43cm で、壁はほぼ直立している。底面は皿状である。

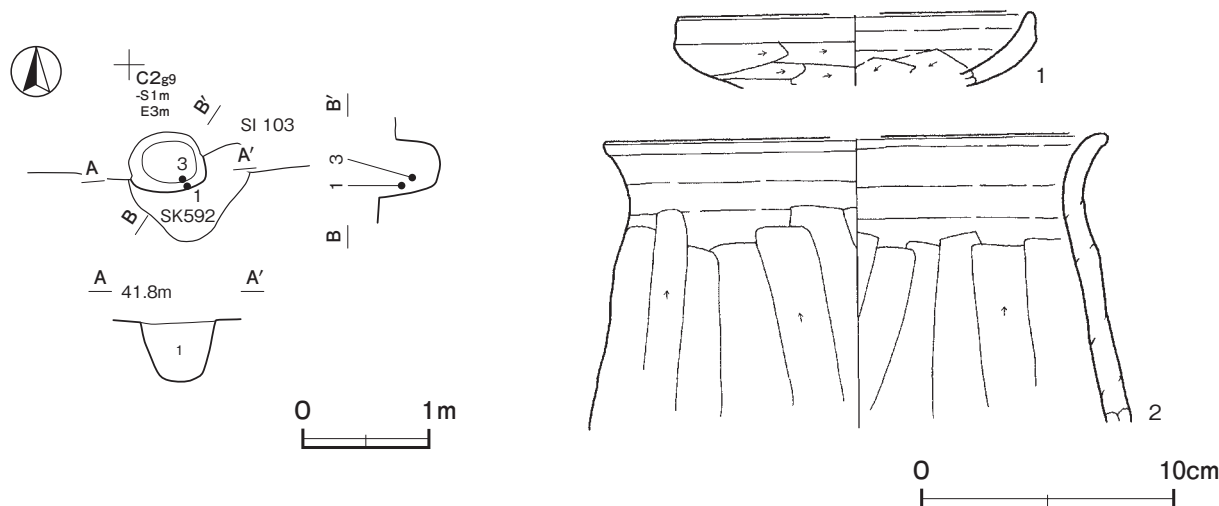
覆土 単一層である。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量

遺物出土状況 土師器片 12 点 (坏 3、甕類 9) のほか、縄文土器片 4 点 (深鉢) が出土している。多くの土器は、埋め戻しに伴って投棄されたと考えられる。

所見 時期は、出土土器から 7 世紀中葉に比定できる。性格は柱穴と考えられるが、建物跡や柵跡などの配列は確認できなかった。



第 240 図 第 593 号土坑・出土遺物実測図

第 593 号土坑出土遺物観察表 (第 240 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[14.0]	(2.9)	-	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	口縁部横ナデ、底部外面横・斜位の削り、内面横位のナデ後ヘラ圧痕を残す斜位のナデ	覆土中層	10%
2	土師器	甕	[20.0]	(11.4)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ、体部外面縦位の削り、内面縦位のナデ	覆土中層	10%

第 605 号土坑 (第 241 図 PL28)

調査年度 平成 28 年度

位置 調査区西部の C 4h6 区, 標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第 24 号溝に掘り込まれている。第 606 号土坑との重複関係は不明である。

規模と形状 第 24 号溝に掘り込まれているが, 長軸は 0.73 m, 短軸は 0.58 m と推定できる隅丸長方形で, 長径方向は N - 81° - E である。深さは 80cm で, 壁は直立している。底面は平坦である。

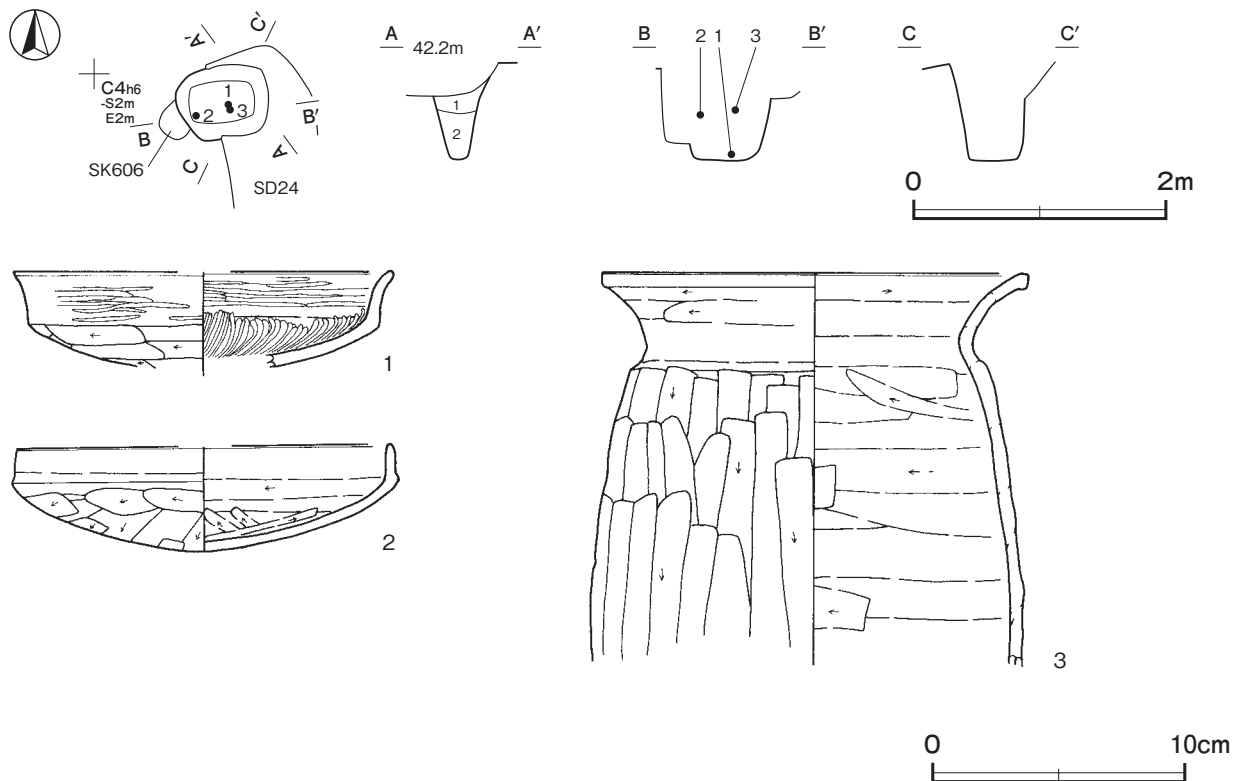
覆土 2 層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量      2 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片 14 点 (坏 2, 甕類 12) のほか, 縄文土器片 18 点 (深鉢) が出土している。多くの土器は, 埋め戻しに伴って投棄されたと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から 6 世紀後葉に比定できる。性格は柱穴と考えられるが, 建物跡や柵跡などの配列は確認できなかった。



第 241 図 第 605 号土坑・出土遺物実測図

第 605 号土坑出土遺物観察表 (第 241 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[14.9]	(3.8)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい黄褐色	普通	口縁部横位の磨き, 底部外面横位の削り, 内面横位のナデ後放射状の磨き	覆土下層	30%
2	土師器	坏	[14.7]	4.1	-	長石・石英・雲母・針状物質	灰褐色	普通	口縁部横ナデ, 底部外面一方向の削り後横位の削り, 内面横位のナデ後二方向のナデ	覆土中層	40%
3	土師器	甕	17.0	(15.5)	-	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	口縁部横ナデ, 体部外面縦位の削り, 内面横位のナデ	覆土中層	50% 外面煤付着



第 628 号土坑（第 242 図）

調査年度 平成 28 年度

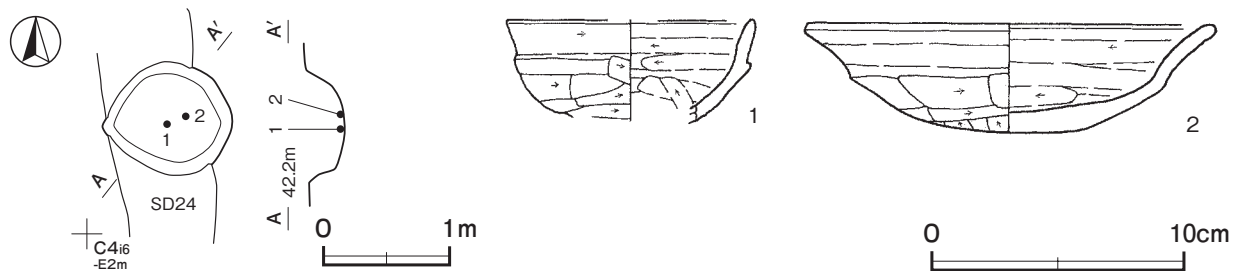
位置 調査区西部の C 4 h6 区，標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第 24 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 第 24 号溝に掘り込まれているが，長径は 0.92 m，短径は 0.86 m と推定できる円形である。深さは 28cm で，壁は外傾している。底面は皿状である。

遺物出土状況 土師器片 6 点（坏 2，甕類 4）のほか，縄文土器片 10 点（深鉢）が出土している。多くの土器は，埋め戻しに伴って投棄されたと考えられる。

所見 時期は，出土土器から 7 世紀前葉に比定できる。性格は不明である。



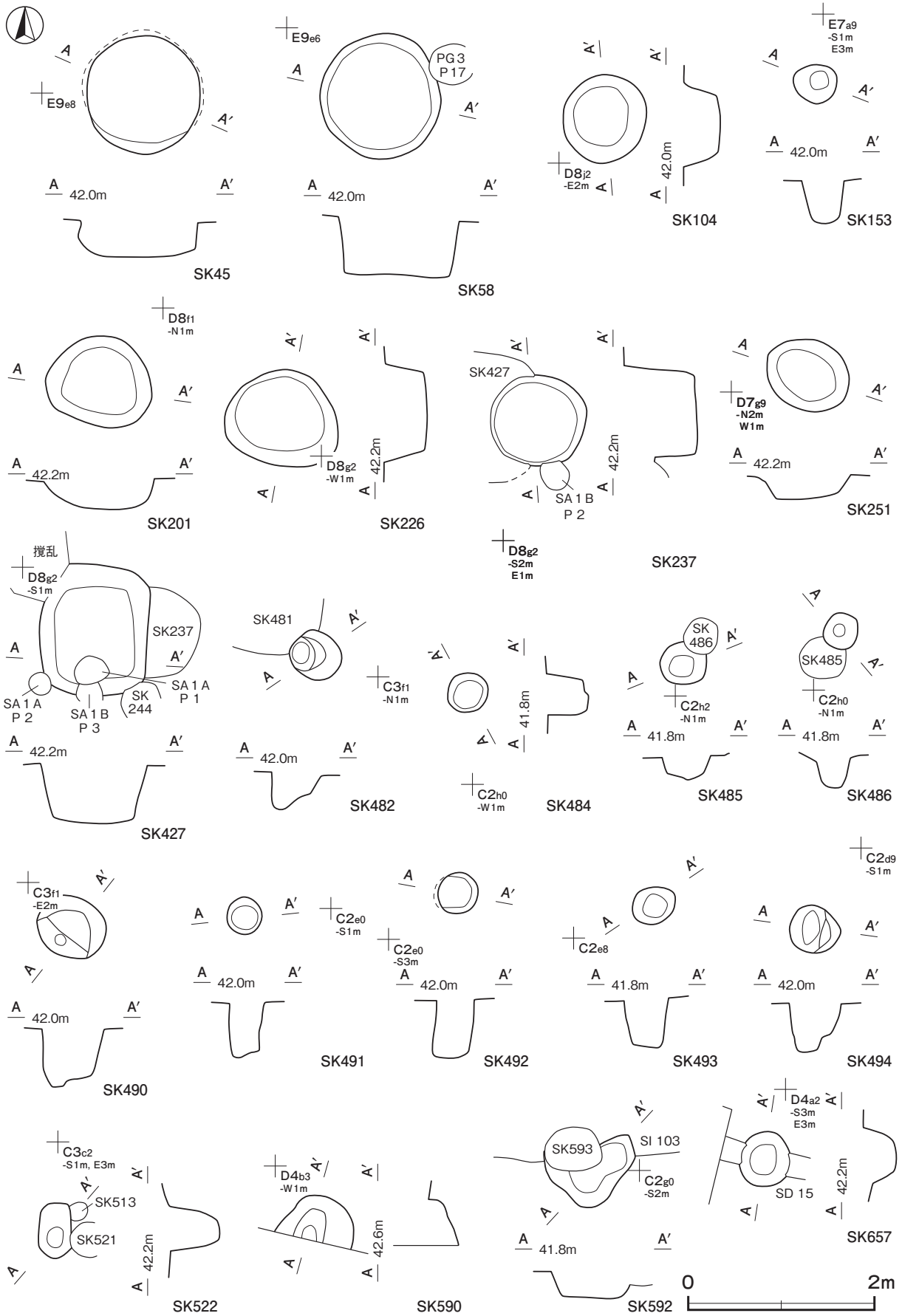
第 242 図 第 628 号土坑・出土遺物実測図

第 628 号土坑出土遺物観察表（第 242 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	9.7	(4.0)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい黄褐	普通	口縁部横ナデ 底部外面横位の削り，内面横・斜位のナデ	覆土下層	70% PL70
2	土師器	坏	16.0	4.2	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 底部外面一方向の削り後横位の削り，内面横位のナデ	覆土下層	80% 内面煤付着

表 9 古墳時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
45	E 9 e8	-	円形	1.36 × 1.27	38	内彎	平坦	-	土師器	
54	E 9 d6	-	円形	1.63 × 1.60	60	直立	平坦	自然 人為	土師器	本跡→SI17, PG 3
58	E 9 e6	-	円形	1.37 × 1.30	62	直立	平坦	-	土師器	
104	D 8 i2	-	円形	0.94 × 0.90	34	ほぼ直立	平坦	-	-	
153	E 7 a9	N - 68° - W	楕円形	0.47 × 0.40	50	ほぼ直立	平坦	-	土師器	
154	D 9 j4	-	円形	0.45 × 0.42	35	ほぼ直立	平坦	-	土師器	
201	D 7 e0	N - 69° - W	楕円形	1.18 × 0.98	32	外傾	皿状	-	土師器	
226	D 8 f1	N - 70° - W	楕円形	1.25 × 1.04	45	ほぼ直立	平坦	人為	-	
237	D 8 g2	N - 87° - W	楕円形	(1.02) × 0.96	49	外傾	皿状	人為	須恵器	本跡→SA 1 B, SK427
251	D 7 g9	N - 72° - W	楕円形	0.95 × 0.76	22	外傾	平坦	-	-	
427	D 8 g2	N - 2° - E	楕円形	1.40 × 1.15	65	ほぼ直立	平坦	人為	-	SK237 → 本跡 → SA 1 A・B, SK244
480	C 2 e9	N - 73° - E	楕円形	0.71 × 0.63	25	外傾	平坦	人為	土師器	
482	C 2 e0	N - 62° - W	楕円形	0.55 × 0.50	40	直立 外傾	有段	-	-	SK481 → 本跡
483	C 3 d2	N - 81° - W	楕円形	1.18 × 0.72	44	外傾	ほぼ平坦	人為	土師器	
484	C 2 g9	-	円形	0.45 × 0.42	44	直立	平坦	-	-	



第 243 图 古墳時代土坑実測図

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
485	C 2 g0	-	円形	0.50 × 0.46	25	緩斜	皿状	-	土師器	本跡→SK486
486	C 2 g0	N-87°-W	楕円形	0.50 × 0.37	34	外傾	皿状	-	-	SK485→本跡
490	C 3 f1	N-56°-W	楕円形	0.75 × 0.64	63	直立 外傾	有段	-	-	
491	C 2 e9	-	円形	0.40 × 0.40	60	直立	鍋底状	-	-	
492	C 2 e0	-	円形	0.45 × 0.45	60	内彎 直立	平坦	-	-	
493	C 2 d8	N-56°-E	楕円形	0.50 × 0.40	52	直立 外傾	平坦	-	土師器	
494	C 2 d8	N-77°-W	楕円形	0.54 × 0.49	53	直立 外傾	有段	-	-	
522	C 3 d2	N-3°-E	楕円形	0.58 × 0.36	55	直立	平坦	-	土師器	HG1→本跡→ SK513・518・521
534	E 4 a8	N-32°-W	[不整楕円形]	0.56 × (0.50)	22	外傾	皿状	人為	土師器	
590	D 4 b2	[N-19°-E]	[楕円形]	0.83 × (0.48)	34	外傾	皿状	-	-	
592	C 2 g9	N-40°-E	[不整楕円形]	1.80 × 1.60	34	外傾	皿状	-	土師器	本跡→SI103・ SK593
593	C 2 g9	N-70°-E	[楕円形]	0.63 × [0.46]	43	ほぼ直立	皿状	人為	土師器	SK592→本跡 →SI103
605	C 4 h6	N-81°-E	[隅丸長方形]	[0.73] × [0.58]	80	直立	平坦	人為	土師器	本跡→SD24, SK606との重複 不明
628	C 4 h6	-	[円形]	(0.92) × (0.86)	28	外傾	皿状	-	土師器	本跡→SD24
657	D 4 a2	-	円形	0.58 × 0.55	38	外傾	皿状	-	土師器	本跡→SD15

#### 4 奈良時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、堅穴建物跡 27 棟を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

##### 堅穴建物跡

##### 第6号堅穴建物跡（第244～246図）

**調査年度** 平成25年度

**位置** 調査区東部のE9a9区、標高42mほどの台地平坦面に位置している。

**重複関係** 第29号堅穴建物、第10号土坑に掘り込まれている。

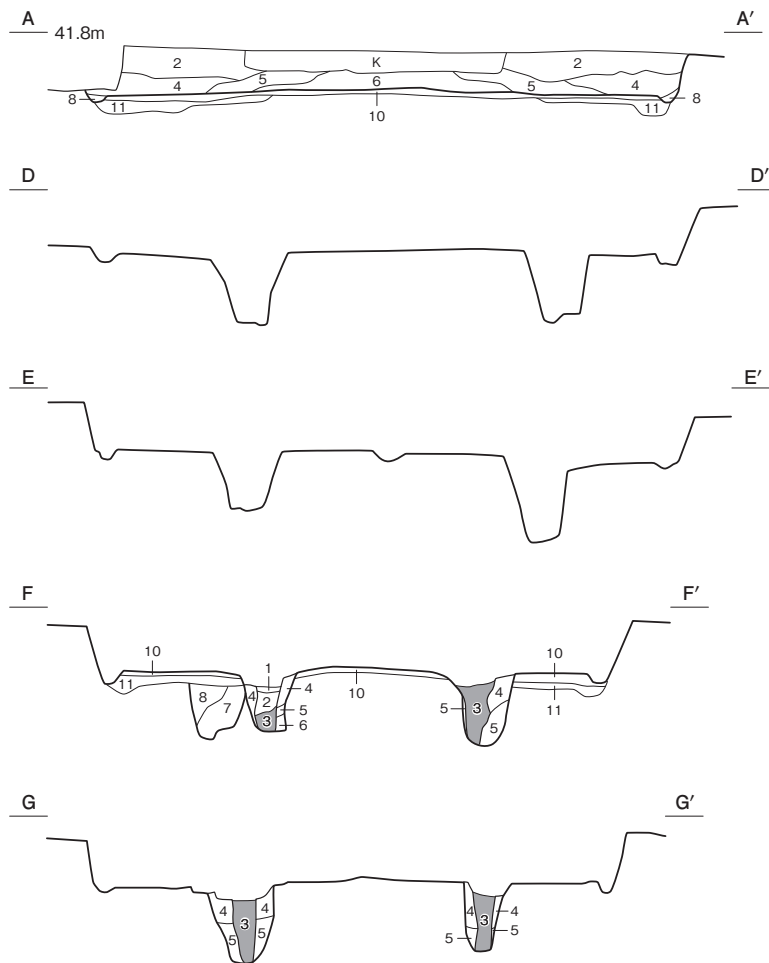
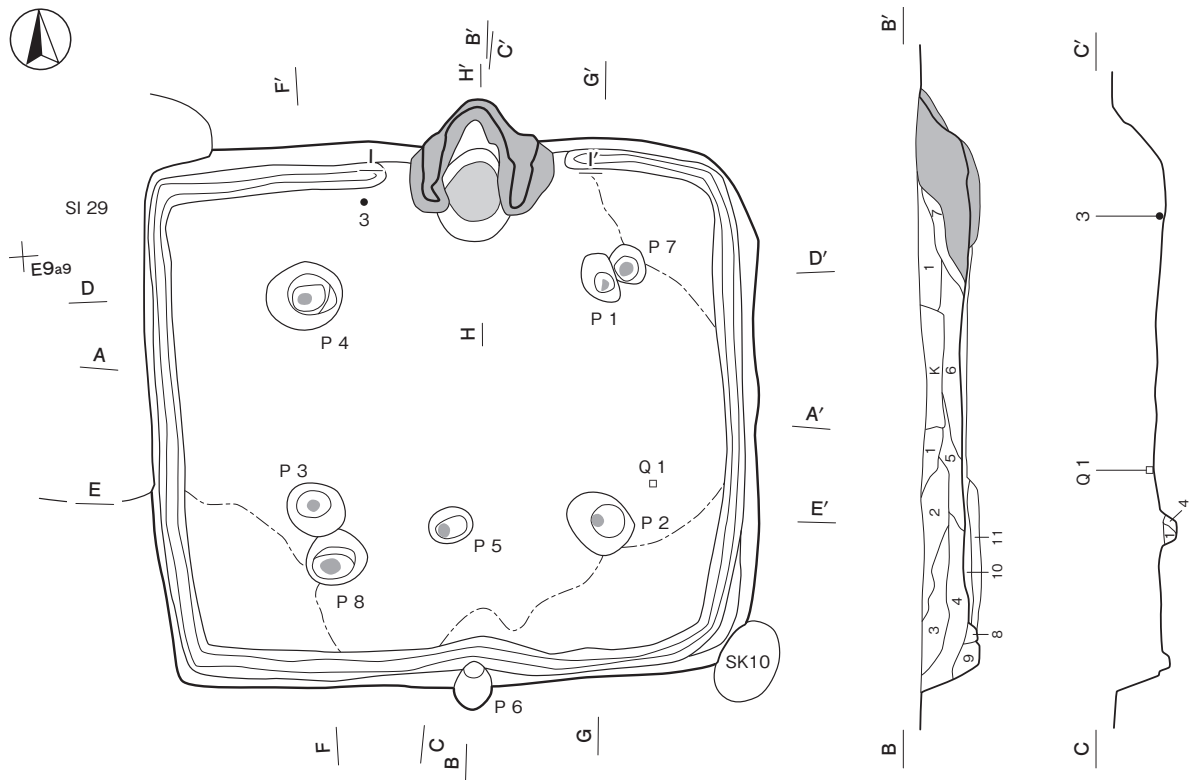
**規模と形状** 長軸4.80m、短軸4.32mの長方形で、主軸方向はN-3°-Eである。壁は高さ22～30cmで、ほぼ直立している。

**床** 平坦な貼床で、北東壁、南東壁、南西壁際を除いて踏み固められている。貼床は、第10・11層を5～15cmほど埋め戻して構築されている。壁溝が、竈付近を除いて巡っている。

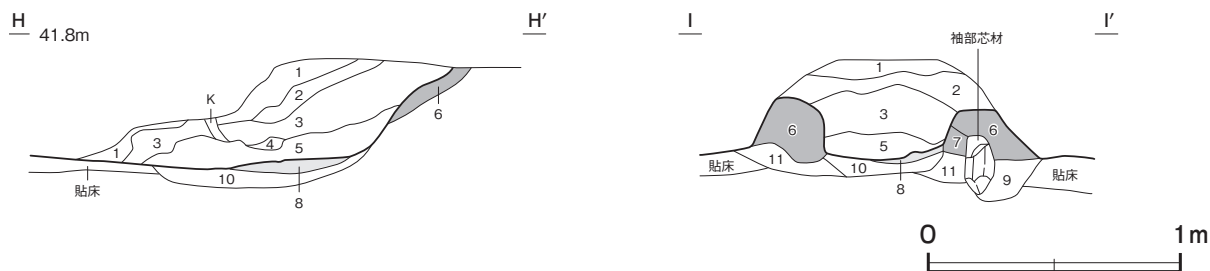
**竈** 北壁の中央部に付設されている。焚口部から煙道部までは112cm、燃焼部の幅は44cmである。燃焼部は床面から20cmほど掘りくぼめられ、第8・10・11層で埋め戻されている。袖部は、芯材として加工された凝灰質泥岩を深さ22cmのピットに第9層で固定した後、床面及び第9～11層上面に第6・7層を積み上げて構築されている。火床面は第8・10層の上面で、第8層は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に40cmほど掘り込まれ、第6層が貼り付けられている。火床面からは外反している。第1～5層には粘土ブロックが含まれることから、壊されている。

##### 竈土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量	7 暗赤褐色	粘土ブロック中量、焼土ブロック少量
2 褐灰色	粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック少量	8 明赤褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック少量
3 褐灰色	粘土ブロック多量、焼土ブロック・炭化物少量	9 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量
4 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量	10 黄橙褐色	粘土ブロック中量、ロームブロック少量
5 褐灰色	炭化物少量、焼土ブロック・粘土ブロック微量	11 におい黄橙色	ロームブロック中量、粘土ブロック少量
6 黄橙色	粘土ブロック多量、焼土ブロック少量		



第 244 图 第 6 号竖穴建物跡实测图(1)



第 245 図 第 6 号竪穴建物跡実測図(2)

**ピット** 8か所。P 1～P 4及びP 7・P 8は深さ48～80cmで、配置から支柱穴である。第7・8層はP 8の覆土で、柱材を抜き取った後の覆土である。P 7はP 1に、P 8はP 3に掘り込まれていることから、立て替えられている。P 5は深さ12cm、P 6は深さ10cmで、出入口施設に伴うピットと考えられる。第4～6層は埋土、第3層は柱痕跡、第1・2層は柱材を抜き取った後の覆土である。P 1～P 5及びP 7・P 8の底面からは、柱の当たりが確認できた。

**ピット土層解説 (各ピット共通)**

- |        |                    |          |           |
|--------|--------------------|----------|-----------|
| 1 黒褐色  | ロームブロック・焼土ブロック少量   | 5 暗褐色    | ロームブロック少量 |
| 2 褐色   | ロームブロック中量、焼土ブロック少量 | 6 にぶい黄褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 黒色   | ローム粒子少量            | 7 褐色     | ロームブロック中量 |
| 4 灰黄褐色 | ロームブロック中量          | 8 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量 |

**覆土** 8層に分層できる。不規則な堆積をしていることから、埋め戻されている。第9層はP 6の覆土、第10・11層は貼床の構築土である。

**土層解説**

- |        |                           |        |                         |
|--------|---------------------------|--------|-------------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック中量                 | 7 黒褐色  | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量 |
| 2 暗褐色  | ロームブロック微量                 | 8 黒褐色  | ロームブロック少量、粘土ブロック微量      |
| 3 暗褐色  | ロームブロック少量                 | 9 褐色   | ロームブロック中量、焼土ブロック少量      |
| 4 極暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量        | 10 黒褐色 | ロームブロック中量               |
| 5 暗褐色  | ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土ブロック微量 | 11 黒褐色 | ロームブロック少量               |
| 6 暗褐色  | 粘土ブロック中量、焼土ブロック・炭化物少量     |        |                         |

**遺物出土状況** 土師器片 267点 (坏 18, 甕類 249), 須恵器片 10点 (坏 3, 高台付坏 1, 蓋 5, 甕類 1), 石器 5点 (砥石), 石製品 10点 (竈材) のほか、縄文土器片 18点 (深鉢), 弥生土器片 26点 (壺類) が、全域から散在して出土している。多くの土器は小片で、接合関係に乏しいことから、埋め戻しに伴って破損したものが投棄されたと考えられる。

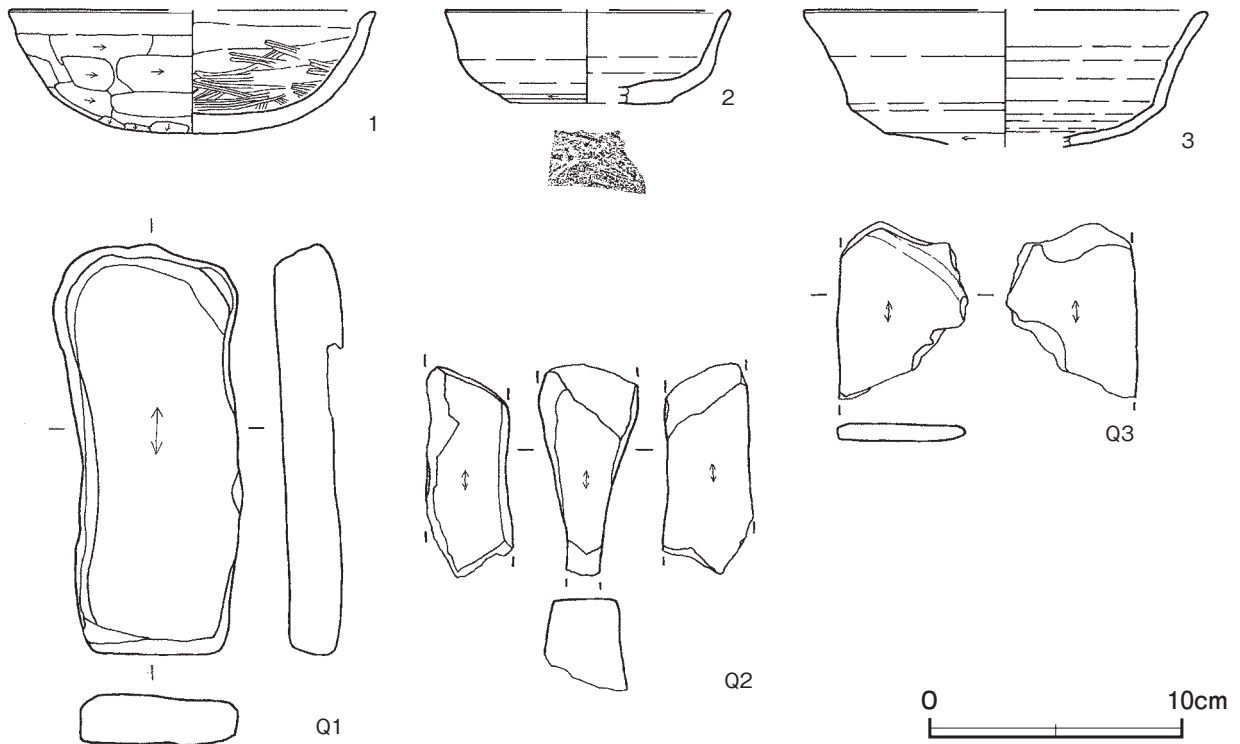
**所見** 時期は、出土土器から8世紀前葉に比定できる。

第 6 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 246 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[14.4]	4.9	-	長石・石英・雲母・針状物質	明赤褐	普通	口縁部横ナデ 底部外面横位のナデの後削り 底部内面ナデの後二方向の磨き	覆土中	40% PL89
2	須恵器	坏	[11.2]	3.6	6.8	長石・石英・針状物質・砂粒	褐灰	普通	口縁部外・内面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り	覆土中	10%
3	須恵器	坏	[15.8]	(5.4)	-	長石・石英・針状物質・砂粒	黄灰	良好	口縁部外・内面ロクロナデ 底部回転ヘラ削り	覆土下層	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	砥石	16.3	(7.5)	(2.1)	(505.21)	緑色変成岩	砥面 1 面	覆土下層	
Q 2	砥石	(8.9)	3.9	3.5	(114.92)	凝灰岩	砥面 3 面	覆土中	
Q 3	砥石	(6.9)	(5.2)	0.7	(38.57)	泥岩	砥面 2 面	覆土中	



第 246 図 第 6 号竪穴建物跡出土遺物実測図

### 第 11 号竪穴建物跡 (第 247・248 図)

調査年度 平成 25 年度

位置 調査区東部の E 9 d0 区, 標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第 14・30 号竪穴建物跡を掘り込み, 第 10・12B 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 第 10・12B 号竪穴建物に掘り込まれているが, 長軸 3.70 m, 短軸 3.00 m の長方形と推定され, 主軸方向は N - 6° - E である。壁は高さ 20cm で, ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で, 第 10・12 号竪穴建物に掘り込まれている部分を除いて踏み固められている。貼床は, 第 3・4 層を 5 ~ 10cm ほど埋め戻して構築されている。

竈 北壁中央部の東寄りに付設されていると推定される。焚口部から煙道部までは 76cm, 燃焼部の幅は 44cm である。燃焼部は床面から 15cm ほど掘りくぼめられ, 第 9・10 層で埋め戻されている。袖部は床面に第 7 層を積み上げて構築されている。火床面は第 8・9 層の上面で, 第 8 層は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 20cm ほど掘り込まれ, 第 7 層が貼り付けられている。火床面からは外傾している。第 1 ~ 6 層には, 焼土ブロックや粘土ブロックが含まれていることから, 壊されている。

#### 竈土層解説

- |                            |                             |
|----------------------------|-----------------------------|
| 1 浅黄橙色 ロームブロック・粘土ブロック少量    | 6 赤褐色 焼土ブロック中量, 粘土ブロック微量    |
| 2 灰赤色 ロームブロック・焼土ブロック少量     | 7 におい黄褐色 粘土ブロック多量, 焼土ブロック少量 |
| 3 におい赤褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量   | 8 明赤褐色 焼土ブロック中量, ロームブロック少量  |
| 4 暗赤褐色 焼土ブロック中量, 粘土ブロック少量  | 9 黒褐色 ロームブロック少量             |
| 5 浅黄橙色 ロームブロック中量, 粘土ブロック少量 | 10 暗褐色 ロームブロック少量            |

ピット 2 か所。P 1・P 2 は, 床面からの深さ 10 ~ 22cm で, 配置から壁柱穴もしくは竈に関連する施設に伴うピットと推定される。

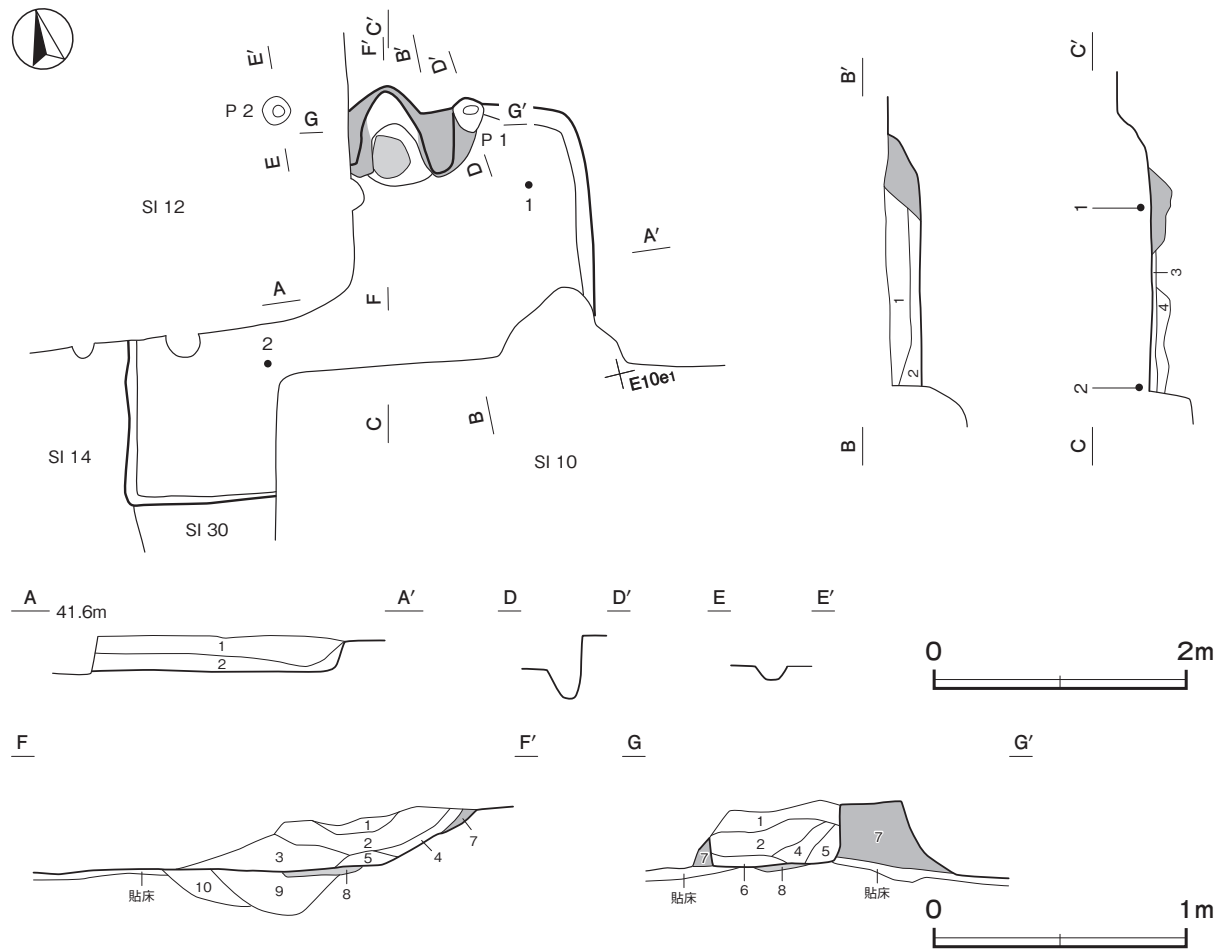
**覆土** 2層に分層できる。ロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第3・4層は貼床の構築土である。

**土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック・粘土ブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

**遺物出土状況** 土師器片 176点（坏1，高台付坏1，甕類174），須恵器片5点（大鉢1，甕類4），石器1点（砥石）のほか、縄文土器片8点（深鉢），弥生土器片15点（壺類）が、全域から散在して出土している。土器は小片で、接合関係に乏しいことから、埋め戻しに伴って破損したものが投棄されたと考えられる。

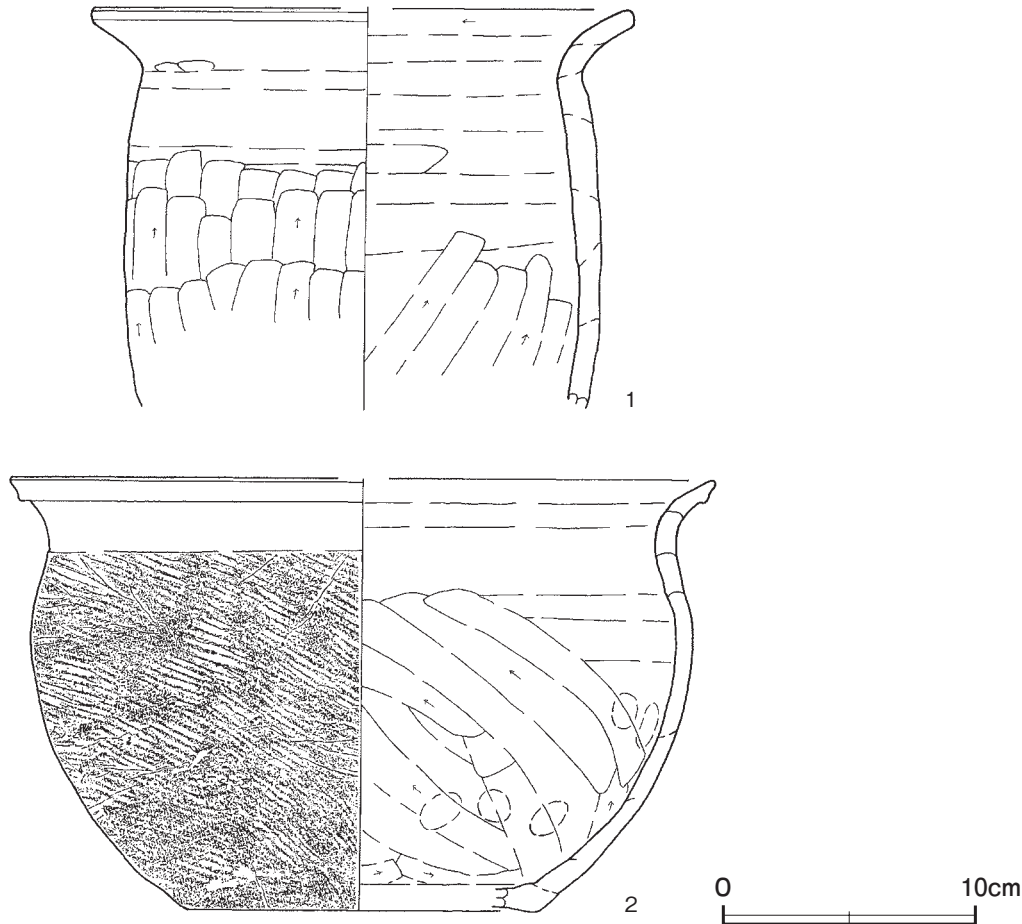
**所見** 時期は、出土土器から8世紀中葉に比定できる。



第247図 第11号竪穴建物跡実測図

第11号竪穴建物跡出土遺物観察表（第248図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	甕	21.1	(15.7)	-	雲母・針状物質・赤色粒子・細礫	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面口クロナデ後縦位の削り 体部内面口クロナデ後斜位のナデ	覆土第2層中	10% 煤付着
2	須恵器	大鉢	[27.8]	17.1	[14.0]	長石・石英・針状物質・白色粒子	灰	普通	口縁部外・内面口クロナデ 体部外面斜位の平行 叩き体部内面口クロナデ後斜位のナデ 底部二方 向のナデ 指頭痕 自然釉付着	覆土第2層中	20% 木葉下窯



第 248 図 第 11 号竪穴建物跡出土遺物実測図

### 第 13 号竪穴建物跡（第 249・250 図）

調査年度 平成 25 年度

位置 調査区東部の E 9c9 区，標高 41 m ほどの台地平坦面に位置している。

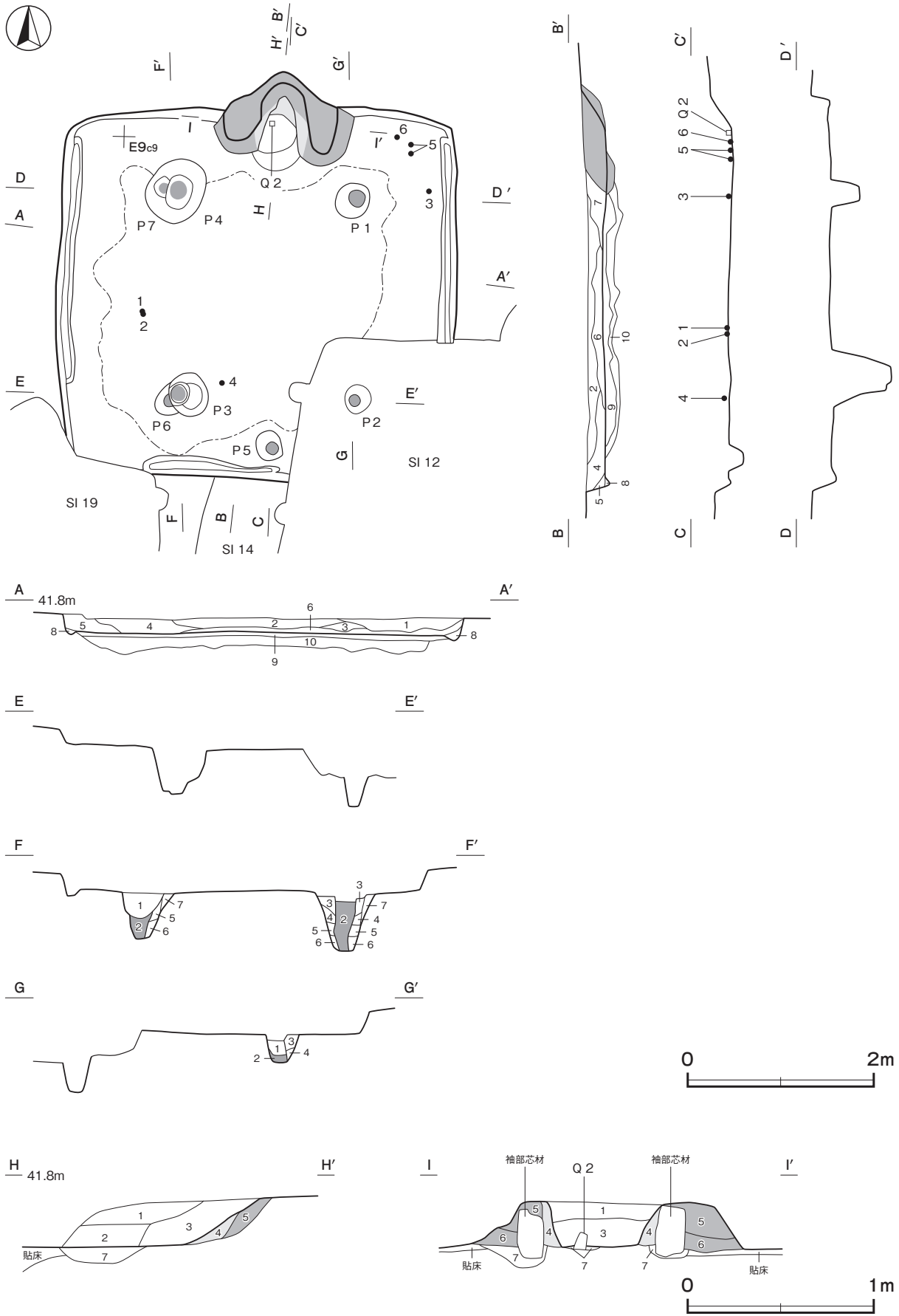
重複関係 第 14 号竪穴建物跡を掘り込み，第 12B・19 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 第 12B・19 号竪穴建物に掘り込まれているが，長軸 4.30 m，短軸 3.92 m の方形と推定され，主軸方向は N - 2° - E である。壁は高さ 14 ~ 22cm で，ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で，第 12 号竪穴建物に掘り込まれている部分を除いて，中央部が踏み固められている。第 9・10 層を 5 ~ 20cm ほど埋め戻して構築されている。壁溝が，南西隅部及び北壁下を除いて巡っている。

竈 北壁の中央部に付設されている。焚口部から煙道部までは 120cm，燃焼部の幅は 46cm である。燃焼部は地山及び貼床面から 20cm ほど掘りくぼめられ，第 7 層で埋め戻されている。袖部は，芯材として加工された凝灰質泥岩を深さ 10 ~ 20cm のピットに第 7 層で固定した後，床面及び第 7 層上面に第 4 ~ 6 層を積み上げて構築されている。火床面は地山及び第 7 層の上面で，火熱を受けているものの赤変硬化はしていない。火床面の北寄りの位置からは，下端部を第 7 層で据えつけられた凝灰質泥岩が出土し，支脚として用いられている。煙道部は壁外に 40cm ほど掘り込まれ，第 4・5 層が貼り付けられている。火床面からは外傾している。第 1 ~ 3 層には焼土ブロックや粘土ブロックが含まれていることから，壊されている。





第 249 图 第 13 号竖穴建物迹实测图

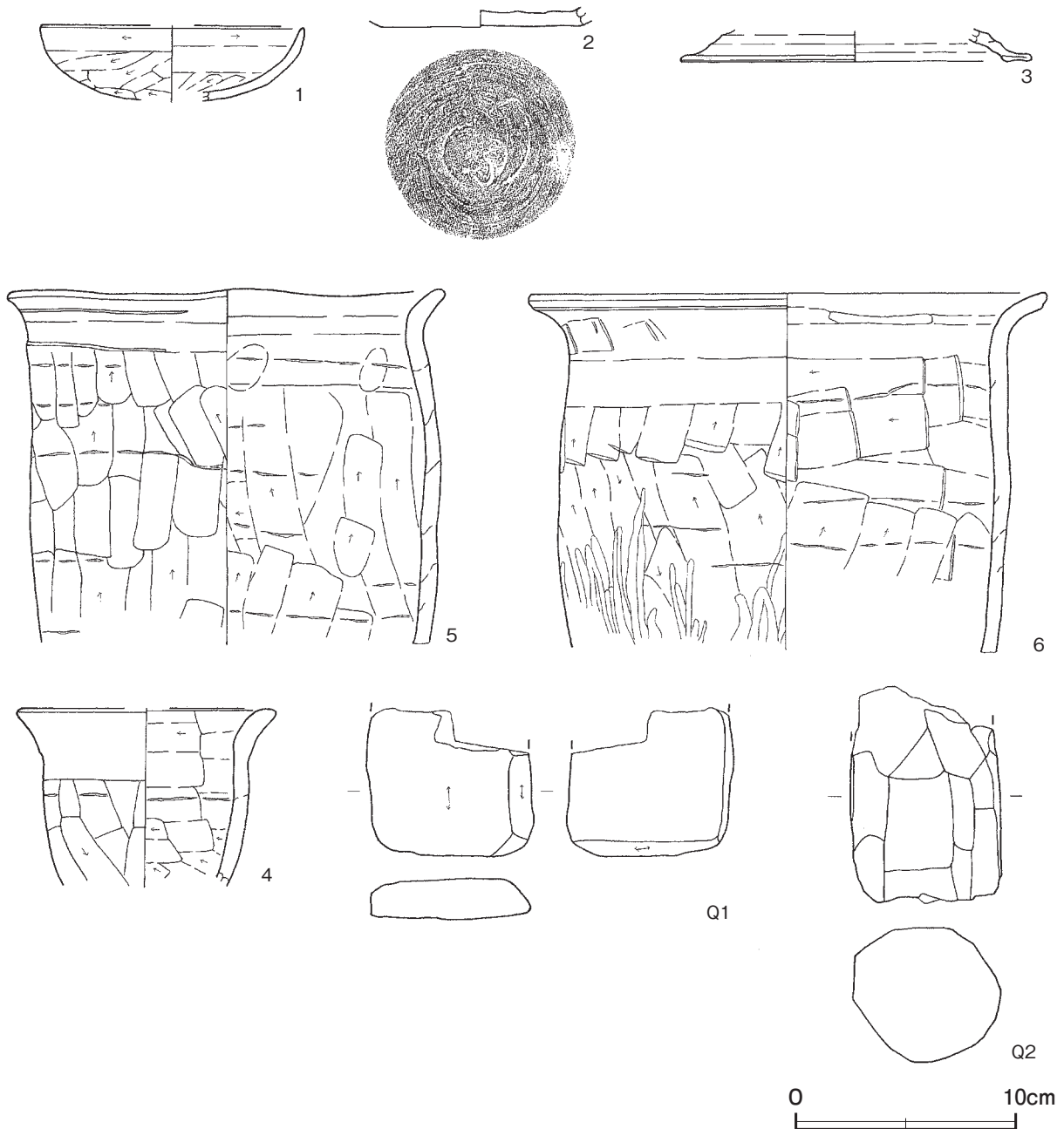
竈土層解説

- |          |                            |          |                     |
|----------|----------------------------|----------|---------------------|
| 1 灰黄褐色   | ロームブロック・焼土ブロック少量, 粘土ブロック微量 | 5 におい黄橙色 | 粘土ブロック多量, 焼土ブロック少量  |
| 2 におい黄褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量           | 6 灰黄褐色   | 粘土ブロック中量, ロームブロック少量 |
| 3 褐灰色    | 焼土ブロック・粘土ブロック少量            | 7 暗褐色    | ロームブロック・粘土ブロック少量    |
| 4 明赤褐色   | 焼土ブロック・粘土ブロック中量            |          |                     |

ピット 7か所。P 1～P 4・P 6・P 7は深さ 30～62cmで、配置から主柱穴である。P 6・P 7は単一層で、埋土である。P 6はP 3に、P 7はP 4に掘り込まれていることから、それぞれ立て替えられている。第3～7層は埋土、第2層は柱痕跡、第1層は柱材を抜き取った後の覆土である。P 5は深さ 16cmで、出入口施設に伴うピットである。P 1～P 7の底面で、柱の当たりを確認した。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- |       |                     |       |           |
|-------|---------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 5 褐色  | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量             | 6 黒褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 褐灰色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量 | 7 褐色  | ロームブロック中量 |
| 4 褐色  | ロームブロック少量           |       |           |



第 250 図 第 13 号 竪穴建物跡出土遺物実測図

**覆土** 8層に分層できる。不規則な堆積をしていることから、埋め戻されている。第9・10層は貼床の構築土である。

土層解説		6 暗 褐 色	ロームブロック少量, 焼土ブロック微量
1 黒 褐 色	ロームブロック中量, 焼土粒子微量	7 褐 色	粘土ブロック少量, 炭化物微量
2 暗 褐 色	ロームブロック少量, 炭化物微量	8 暗 褐 色	ロームブロック少量
3 黒 褐 色	ロームブロック・炭化物少量	9 におい黄褐色	ロームブロック中量
4 褐 灰 色	ロームブロック少量	10 灰 黄 色	ロームブロック少量
5 黒 褐 色	ロームブロック中量		

**遺物出土状況** 土師器片 108 点 (坏 1, 甕類 107), 須恵器片 9 点 (坏 4, 蓋 3, 甕類 2), 石器 1 点 (砥石), 石製品 2 点 (支脚) 金属製品 1 点 (鏃) のほか, 縄文土器片 6 点 (深鉢), 弥生土器片 3 点 (壺類) が, 全域から散在して出土している。多くの土器は中型の破片や小片で, 接合関係に乏しいことから, 破損したものが廃絶に伴って投棄されたと考えられる。

**所見** 時期は, 出土土器から 7 世紀後葉から 8 世紀初頭に比定できる。

第 13 号 竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 250 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 ほか	出土位置	備 考
1	土師器	坏	[11.8]	3.4	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 底部外面横・斜位のナデ後下端削り 底部内面放射状のナデ	覆土下層	10%
2	須恵器	坏	-	(0.9)	9.0	長石・石英・針状物質・細礫	灰	良好	底部回転ヘラ削り	覆土下層	10% 木葉下窯
3	須恵器	蓋	[16.0]	(1.5)	-	長石・石英・雲母・針状物質	灰白	不良	ロクロナデ	覆土下層	10% 輪山窯
4	土師器	小形甕	[11.8]	(8.2)	-	長石・石英・雲母	におい橙	普通	口縁部外面折り返し後横ナデ 口縁部内面横位のナデ 体部外面縦位の削り 体部内面横・斜位のナデ	覆土下層	10% 煤附着
5	土師器	甕	19.4	(16.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	におい橙	普通	口縁部横ナデ 体部内面縦位の削り 体部内面縦・斜位のナデ 指頭痕 輪積痕	覆土中	30% PL91 煤附着
6	土師器	甕	23.5	(16.5)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	におい黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部内面縦位のナデ後中位以下に縦位の磨き 体部内面横位のナデ後縦位のナデ 輪積痕	覆土中	30% PL91 煤附着

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q 1	砥石	(6.8)	7.6	1.9	(156.36)	砂 岩	砥面 3 面 一部欠損	覆土中	
Q 2	支脚	(9.9)	6.7	6.2	(280)	凝灰質泥岩	上部欠損 側面削り調整 底部一方向の削り調整	火床面	

**第 17 号 竪穴建物跡 (第 251・252 図 PL29)**

**調査年度** 平成 25 年度

**位置** 調査区東部の E 9 e7 区, 標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

**重複関係** 第 54 号土坑を掘り込み, 第 3 号ピット群に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸 2.93 m, 短軸 2.89 m の方形で, 主軸方向は N - 18° - E である。壁は高さ 19 ~ 22cm で, ほぼ直立している。

**床** ほぼ平坦な貼床で, 南東隅部及び南西隅部の壁際を除いて踏み固められている。貼床は, 第 7 ~ 9 層を 10 ~ 20cm ほど埋め戻して構築されている。第 8 層は水平な堆積で, 固く締まった層位であることから, 第 7 層以前の貼床の可能性はある。壁溝が, 竈付近を除いて巡っている。

**竈** 北壁中央部の西寄りに付設されている。焚口部から煙道部までは 98cm, 燃焼部の幅は 40cm である。燃焼部は床面から 10cm ほど掘りくぼめられ, 第 8・9 層で埋め戻されている。袖部は, 床面及び第 9 層上面に第 6・7 層を積み上げて構築されている。火床面は第 8・9 層の上面で, 第 8 層は火熱を受けて赤変硬化している。が形成されている。Q 2 は下部のみが確認でき, 第 8・9 層で固定されていることから支脚として用いられたと考えられる。煙道部は壁外に 40cm ほど掘り込まれ, 火床面から外傾している。第 1 ~ 5 層には焼土ブロック・粘土ブロックが含まれていることや, Q 2 の上部が欠損していることから壊されている。

**竈土層解説**

- |          |                    |          |                     |
|----------|--------------------|----------|---------------------|
| 1 黒褐色    | ロームブロック・粘土ブロック少量   | 6 赤灰色    | 焼土ブロック・粘土ブロック少量     |
| 2 灰黄褐色   | 粘土ブロック少量           | 7 浅黄橙色   | 粘土ブロック中量, ロームブロック少量 |
| 3 におい黄褐色 | 粘土ブロック多量, 炭化物少量    | 8 におい赤褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック少量 |
| 4 灰黄褐色   | 焼土ブロック中量, 粘土ブロック少量 | 9 黒褐色    | ロームブロック少量           |
| 5 褐灰色    | 焼土ブロック・粘土ブロック少量    |          |                     |

**ピット** P1は深さ45cmで、出入り口施設に伴うピットである。

**覆土** 6層に分層できる。ロームブロックが含まれる不規則な堆積をしていることから、埋め戻されている。

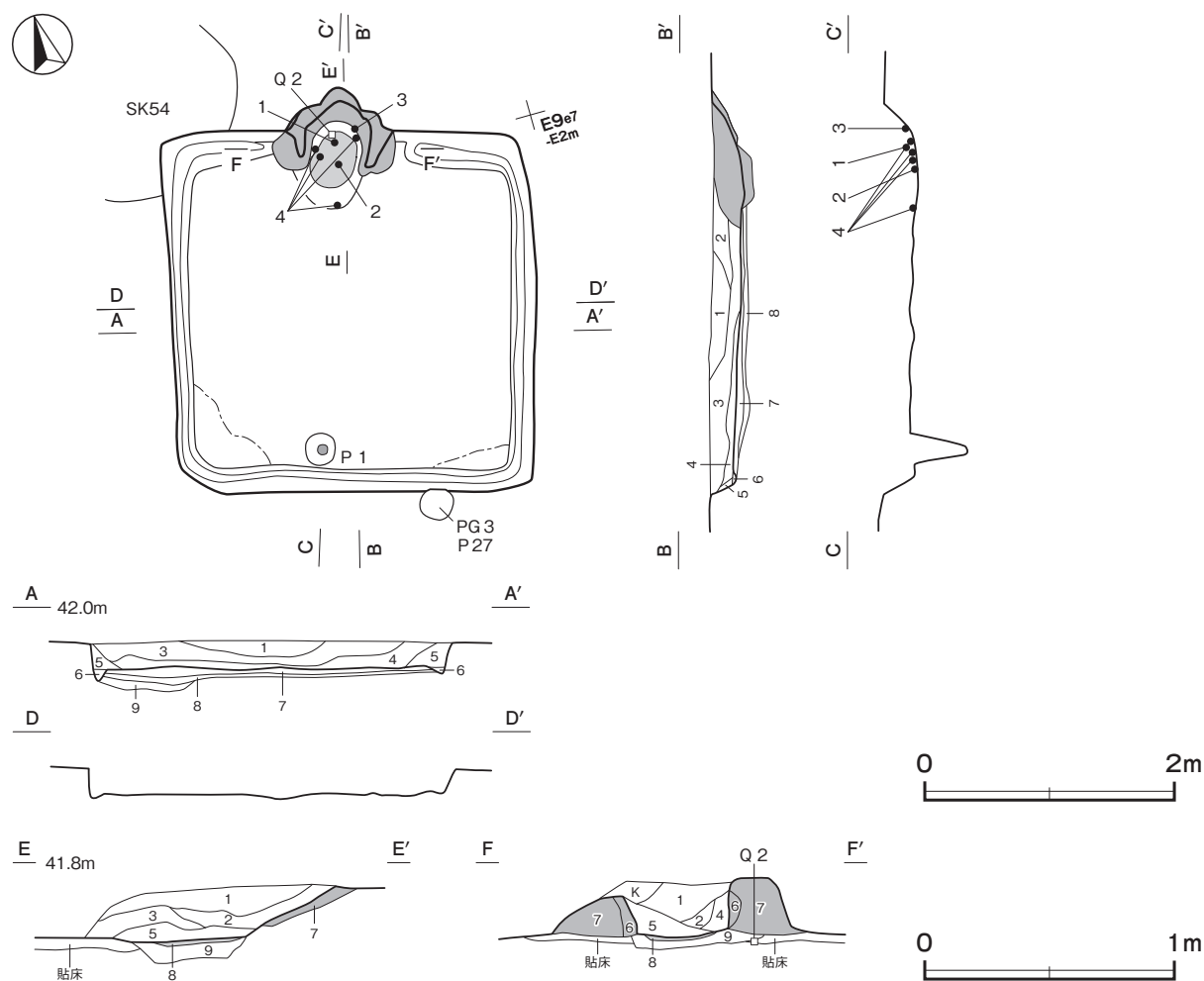
第7～9層は貼床の構築土である。

**土層解説**

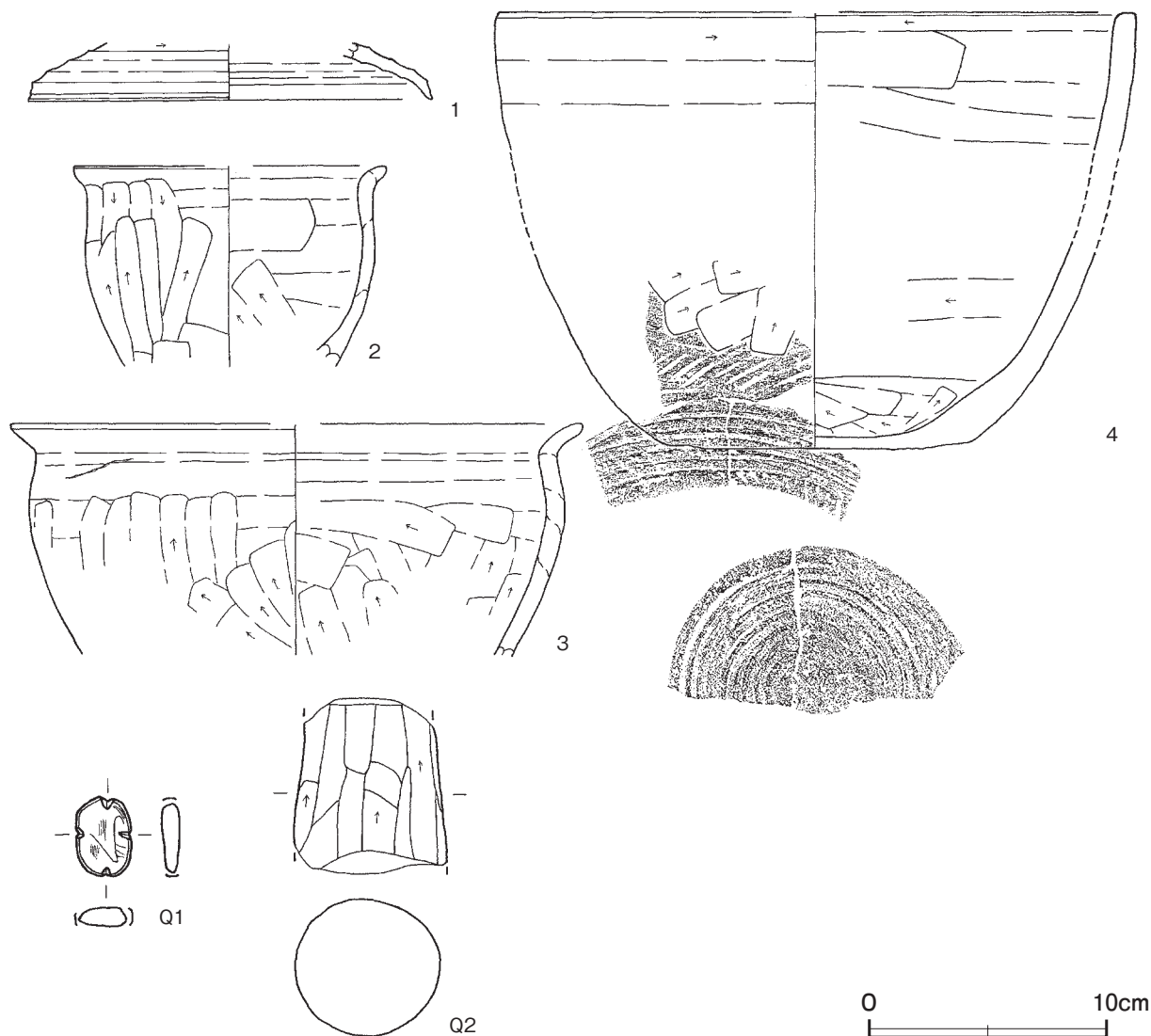
- |          |                            |          |           |
|----------|----------------------------|----------|-----------|
| 1 暗褐色    | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量        | 6 灰黄褐色   | ロームブロック少量 |
| 2 におい黄褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック・粘土ブロック少量 | 7 におい黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 灰黄褐色   | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量    | 8 黒褐色    | ロームブロック少量 |
| 4 褐灰色    | ロームブロック中量, 粘土ブロック少量        | 9 灰黄褐色   | ロームブロック中量 |
| 5 暗褐色    | ロームブロック少量                  |          |           |

**遺物出土状況** 土師器片183点(蓋1, 鉢類2, 甕類180), 須恵器片3点(坏1, 甕類2), 石器1点(石錘), 石製品1点(支脚)のほか、縄文土器片35点(深鉢), 弥生土器片12点(壺類)が、全域から散在して出土している。多くの土器は、小片で接合関係に乏しいことから、破損したものが廃絶に伴って投棄されたと考えられる。1～4は竈から出土していることから、廃絶に伴って投棄されたと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から8世紀後葉に比定できる。



第251図 第17号竪穴建物跡実測図



第 252 図 第 17 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 17 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 252 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	蓋	[17.0]	(2.4)	-	長石・石英・針状物質	にぶい橙	普通	ロクロナデ 天井部回転ヘラ削り	竈覆土中	10% 二次焼成 木葉下蓋
2	土師器	鉢	[13.0]	(8.5)	-	長石・石英・針状物質・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面横位のナデ後縦位の削り 体部内面横位のナデ後縦位のナデ	竈覆土中	30% 二次焼成
3	土師器	鉢	[23.7]	(9.8)	-	長石・石英・針状物質・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面横位のナデ後縦位のナデ 下端縦位の削り、内面縦位のナデ後横位のナデ	竈覆土中	20%
4	土師器	鉢	[26.8]	(18.4)	13.0	針状物質・赤色粒子・細礫	にぶい褐	普通	口縁部内面横・斜位のナデ 体部外面斜位のナデ 下端斜位の平行叩きの後螺旋状のナデ、面横位のナデ 底部外面回転ヘラ削り後二方向のナデ、内面多方向のナデ	竈覆土中	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	石錘	3.4	2.4	0.78	(505.2)	緑色変成岩	一部欠損 表・裏面平滑 刻み部 4 か所	覆土下層	PL107
Q 2	支脚	(5.4)	(6.4)	(5.4)	(169)	凝灰質泥岩	上部欠損、側面に削り調整	竈掘方覆土中	

第 23 号 竪穴建物跡 (第 253・254 図 PL29・30)

調査年度 平成 25 年度

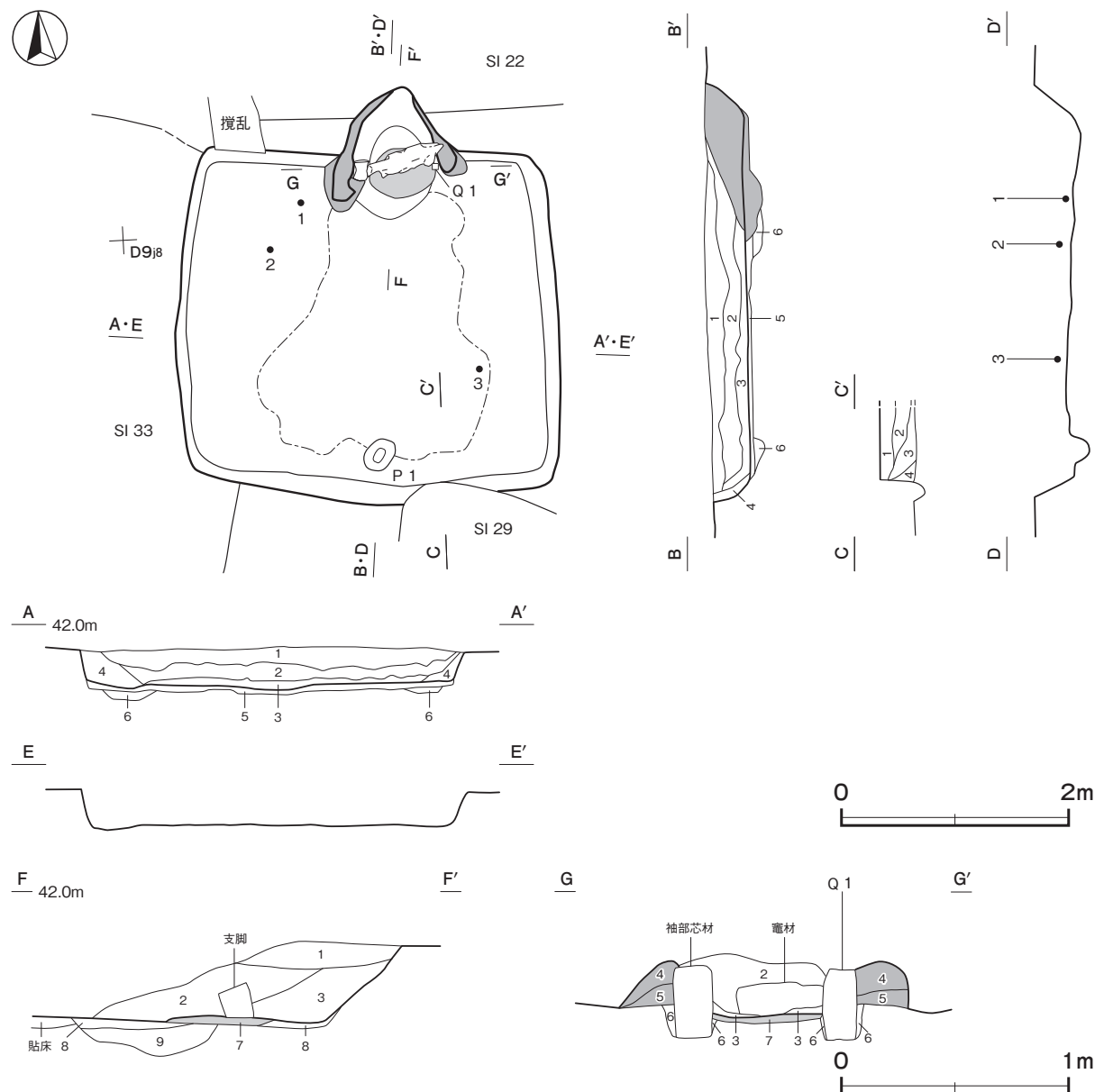
位置 調査区東部の D 9j8 区, 標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第 22・33 号 竪穴建物跡を掘り込み, 第 29 号 竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 第 29 号 竪穴建物に掘り込まれているが, 長軸 3.38 m, 短軸 3.00 m の長方形で, 主軸方向は N-7°-E である。壁は高さ 28~38cm で, ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で, 中央部が踏み固められている。貼床は, 第 5・6 層を 10~20cm ほど埋め戻して構築されている。

竈 北壁の中央部に付設されている。焚口部から煙道部までは 112cm, 燃焼部の幅は 54cm である。燃焼部は床面から 20cm ほど掘りくぼめられ, 第 8・9 層で埋め戻されている。袖部は, 芯材として Q 1 や加工された凝灰質泥岩を深さ 30cm のピットに第 6 層で固定した後, 床面及び第 6 層上面に第 4・5 層を積み上げて構築さ



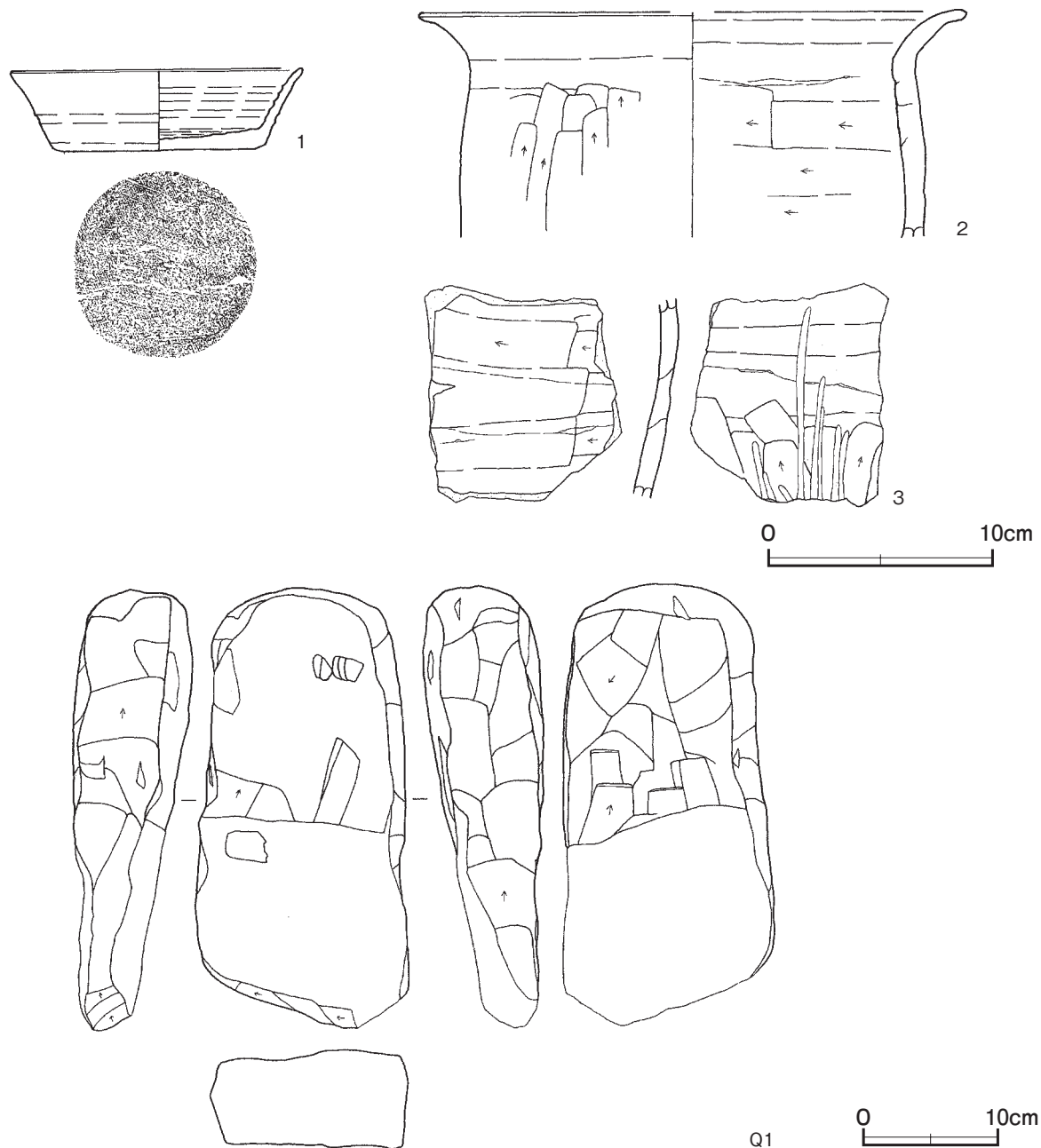
第 253 図 第 23 号 竪穴建物跡実測図

れている。袖の構築土から露呈した状態で確認したQ 1は、赤色に変化していないことから、袖部の構築土によって覆われた芯材と考えられる。火床面は第7・8層の上面で、第7層は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に60cmほど掘り込まれ、火床面から外傾している。第1～5層には、ロームブロックや焼土ブロックが含まれており、懸架材と考えられる凝灰質泥岩が崩落していることから、壊されている。

**土層解説**

- |          |                     |        |                  |
|----------|---------------------|--------|------------------|
| 1 黒褐色    | ロームブロック・焼土ブロック中量    | 6 黒褐色  | ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| 2 灰黄褐色   | 粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量  | 7 明赤褐色 | 焼土ブロック・ロームブロック中量 |
| 3 褐灰色    | 焼土ブロック中量, 粘土ブロック少量  | 8 灰黄褐色 | 粘土ブロック・ロームブロック少量 |
| 4 にぶい黄褐色 | 粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量  | 9 暗褐色  | ロームブロック少量        |
| 5 褐灰色    | 粘土ブロック中量, ロームブロック少量 |        |                  |

**ピット** P 1は深さ20cmで、出入口施設に伴うピットである。



第254図 第23号竪穴建物跡出土遺物実測図

**覆土** 4層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第5・6層は貼床の構築土である。

**土層解説**

- |        |                      |          |                     |
|--------|----------------------|----------|---------------------|
| 1 黒褐色  | ロームブロック・焼土ブロック少量     | 4 褐色     | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量 |
| 2 褐灰色  | ロームブロック・粘土ブロック少量     | 5 におい黄褐色 | ロームブロック中量           |
| 3 灰黄褐色 | ロームブロック中量, ロームブロック少量 | 6 暗褐色    | ロームブロック少量           |

**遺物出土状況** 土師器片 231 点 (坏 4, 甕類 227), 須恵器片 11 点 (坏 10, 蓋 1), 石製品 2 点 (竈材) のほか, 縄文土器片 21 点 (深鉢), 弥生土器片 25 点 (壺類), 石器 1 点 (敲石) が, 主に竈周辺から出土している。多くの土器は小片で, 接合関係に乏しいことから, 破損したものが廃絶に伴って投棄されたと考えられる。

**所見** 時期は, 出土土器から 8 世紀中葉に比定できる。

**第 23 号 竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 254 図)**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	130	36	8.5	石英・白色粒子・黒色粒子	灰	良好	ロクロナデ 底部一方向の手持ち削り	覆土第 3 層中	70% PL89 堀ノ内窯
2	土師器	甕	[24.2]	(10.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の削り 体部内面横位のナデ	覆土第 2 層中	10%
3	土師器	甕	-	(9.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明褐	普通	外面縦位の削り後縦位の磨き 内面横位のナデ	覆土第 2 層中	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	袖部芯材	33.8	15.6	8.9	2,530	凝灰質泥岩	上面調整不明 下面・側面削り調整	袖部構築土中	PL105

**第 24 号 竪穴建物跡 (第 255・256 図 PL30)**

**調査年度** 平成 25 年度

**位置** 調査区東部の E 9b8 区, 標高 41 m ほどの台地平坦面に位置している。

**重複関係** 第 37 号 竪穴建物跡を掘り込み, 第 4 号 方形竪穴遺構に掘り込まれている。

**規模と形状** 第 4 号 方形竪穴遺構に掘り込まれているが, 一辺が 3.64 m の方形で, 主軸方向は N - 16° - E である。壁は高さ 30 ~ 34cm で, ほぼ直立している。

**床** 平坦な貼床で, 北西隅部及び南西隅部を除いて踏み固められている。貼床は, 第 9・10 層を 5 ~ 10cm ほど埋め戻して構築されている。壁溝が, 竈付近を除いて巡っている。

**竈** 北壁の中央部に付設されている。焚口部から煙道部までは 112cm, 燃焼部の幅は 52cm である。燃焼部は床面から 30cm ほど掘りくぼめられ, 第 9・10 層で埋め戻されている。袖部は, 芯材として加工された凝灰質泥岩を深さ 14 ~ 18cm のピットに第 8 層で固定した後, 床面及び第 8・10 層上面に第 6・7 層を積み上げて構築されている。火床面は第 9 層の上面で, 火熱を受けているものの赤変硬化はしていない。火床面で確認できた凝灰質泥岩は, 深さ 8cm のピットに下端部が第 8 層で固定されていることから, 支脚として用いられたと考えられる。煙道部は壁外に 60cm ほど掘り込まれ, 火床面から外傾している。第 1 ~ 5 層には, 焼土ブロックや粘土ブロックが含まれており, 7 が破砕した状態で出土していることから, 壊されている。

**竈土層解説**

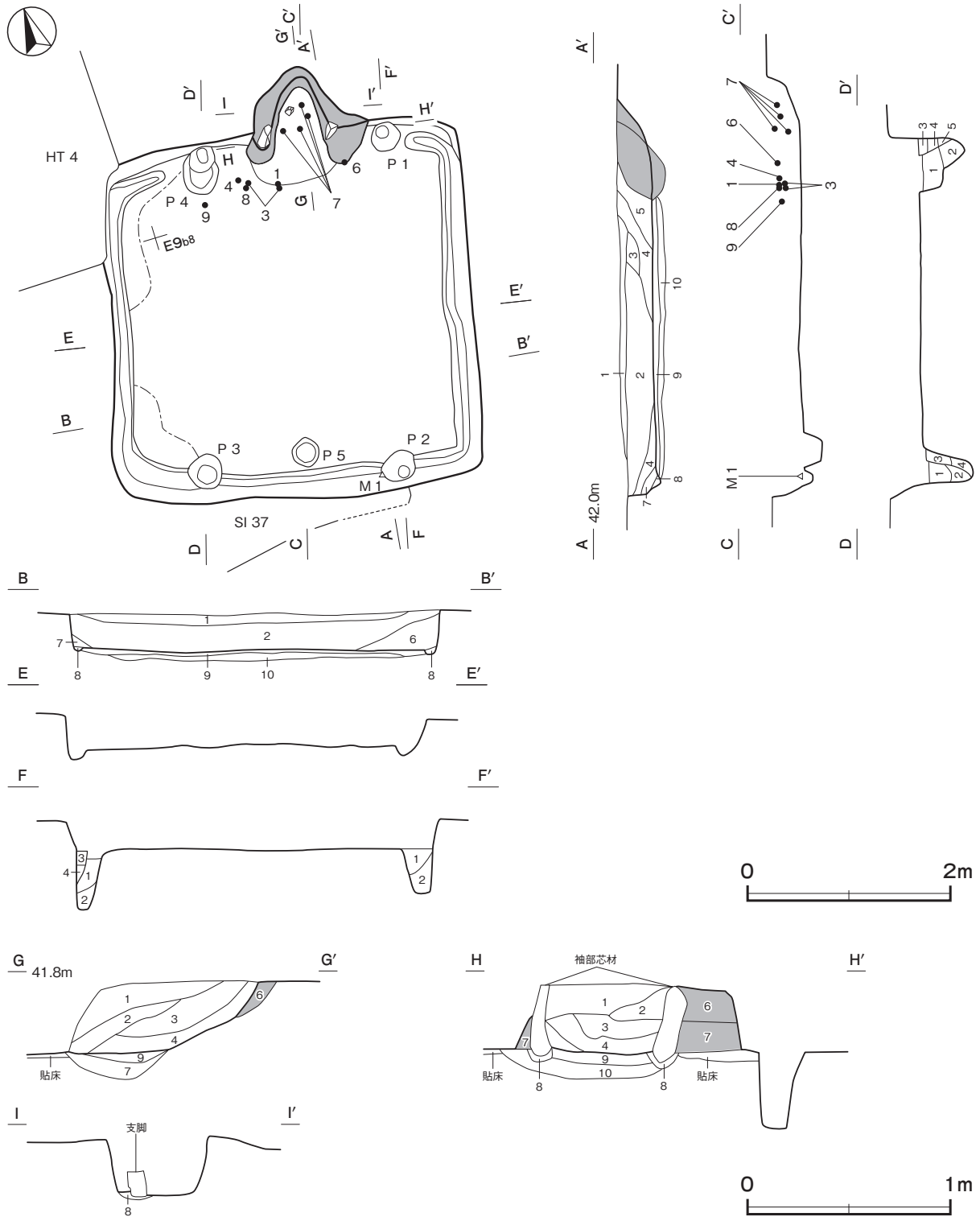
- |          |                  |          |                     |
|----------|------------------|----------|---------------------|
| 1 黒褐色    | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 6 におい黄褐色 | 粘土ブロック中量, ロームブロック少量 |
| 2 黒色     | 焼土ブロック・粘土ブロック少量  | 7 におい黄橙色 | 粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量  |
| 3 浅黄橙色   | 焼土ブロック・粘土ブロック中量  | 8 黄白色    | 粘土ブロック中量            |
| 4 黒褐色    | ロームブロック・粘土ブロック少量 | 9 黒褐色    | 焼土ブロック・粘土ブロック少量     |
| 5 におい黄橙色 | 焼土ブロック・粘土ブロック少量  | 10 灰黄褐色  | ロームブロック少量           |



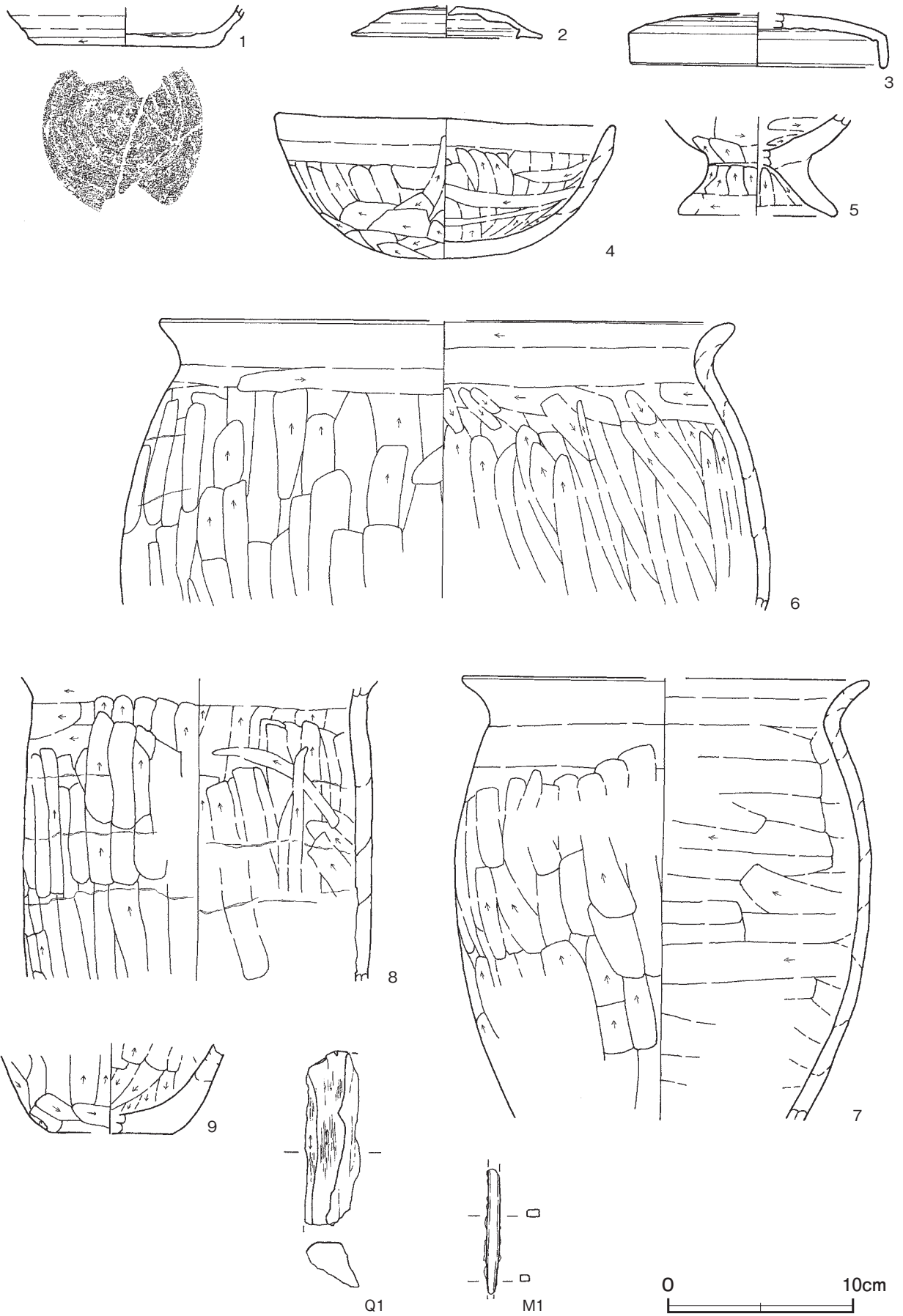
ピット 5か所。P 1～P 4は深さ42～62cmで、配置から支柱穴である。第3～5層は埋土、第1・2層は柱材を抜き取った後の覆土である。P 5は深さ18cmで、出入口施設に伴うピットである。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- |                           |                    |
|---------------------------|--------------------|
| 1 にぶい黄褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 | 4 にぶい黄褐色 ロームブロック中量 |
| 2 褐色 ロームブロック中量, 粘土ブロック少量  | 5 黒褐色 ロームブロック少量    |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量           |                    |



第255図 第24号竪穴建物跡実測図



第 256 图 第 24 号竖穴建物跡出土遺物実測図

**覆土** 8層に分層できる。第2～8層はロームブロックやが含まれる不規則な堆積をしていることから、埋め戻されている。第1層はローム粒子が含まれることから、自然堆積である。第9・10層は貼床の構築土である。

**土層解説**

- |        |                            |          |                     |
|--------|----------------------------|----------|---------------------|
| 1 黒褐色  | ローム粒子少量                    | 6 灰黄褐色   | ロームブロック少量, 粘土ブロック微量 |
| 2 暗褐色  | ロームブロック少量                  | 7 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量, 焼土ブロック少量 |
| 3 褐灰色  | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量        | 8 褐色     | ロームブロック少量           |
| 4 灰黄褐色 | ロームブロック少量, 粘土ブロック微量        | 9 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量           |
| 5 暗褐色  | 粘土ブロック中量, ロームブロック・焼土ブロック少量 | 10 褐色    | ロームブロック少量           |

**遺物出土状況** 土師器片 260 点 (坏 2, 高台付坏 1, 鉢 1, 甕 256), 須恵器片 30 点 (坏 19, 蓋 6, 盤 1, 短頸壺 1, 甕類 3), 石器 1 点 (砥石), 石製品 3 点 (竈材), 金属製品 1 点 (鎌) のほか, 縄文土器片 34 点 (深鉢), 弥生土器片 25 点 (壺類) が, 主に竈及びその周辺から出土している。多くの土器は破片で, 接合関係がやや良好であることから, 埋め戻しに伴って投棄されたと考えられる。7 は竈から出土していることから, 廃絶に伴って投棄されたと考えられる。

**所見** 時期は, 出土土器から 8 世紀前葉から 8 世紀中葉に比定できる。

第 24 号 竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 256 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	-	(2.2)	9.4	長石・石英・黒色粒子・細礫	黄灰	普通	ロクロナデ 底部回転ヘラ削り	覆土第 4・5 層中	40% 堀ノ内窯
2	須恵器	蓋	[10.0]	[1.7]	-	長石・石英・黒色粒子・細礫	にぶい黄橙	良好	ロクロナデ 自然釉付着のため外面の調整不明瞭	覆土中	20% 東海産
3	須恵器	蓋	[13.4]	(2.9)	-	長石・石英・針状物質・細礫	褐灰	良好	天井部回転ヘラ削り	覆土第 4・5 層中	40% 木葉下窯
4	土師器	鉢	18.0	7.1	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 底部外面縦位のナデ後横・斜位の削り 底部内面縦位のナデ後螺旋状のナデ	覆土第 4・5 層中	60% PL89
5	土師器	脚付甕	-	(5.2)	(8.4)	長石・石英・針状物質・細礫	明赤褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位のナデ後縦位の削り 体部内面縦位のナデ 脚部外面縦位の削り 後下部横ナデ 脚部内面縦位のナデ	覆土中	10% 煤付着
6	土師器	甕	[30.6]	(15.4)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の削り 体部内面縦位のナデ	覆土第 4・5 層中	20%
7	土師器	甕	[22.0]	(24.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位のナデ後下部に縦位の削り 体部内面縦位のナデ	竈覆土中	40% 煤付着
8	土師器	甕	-	(16.4)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の削り 体部内面縦位のナデ 輪積痕	覆土第 4・5 層中	20% 煤付着
9	土師器	甕	-	(4.2)	(6.6)	長石・石英・雲母・針状物質	明赤褐	普通	体部外面縦位の削り 後下部横位の削り 体部内面縦位のナデ 底部多方向の手持ち削り	覆土第 4・5 層中	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 1	鎌	(6.8)	0.7	0.4	(7.27)	鉄	鎌身部欠損 鎌柄部一部欠損 断面長方形	覆土第 8 層中	PL108

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	砥石	(9.5)	(3.0)	(2.5)	(78.07)	凝灰質泥岩	端部欠損 側面一部欠損 砥面 2 面	覆土中	

**第 25 号 竪穴建物跡 (第 257 ~ 259 図 PL31)**

**調査年度** 平成 25 年度

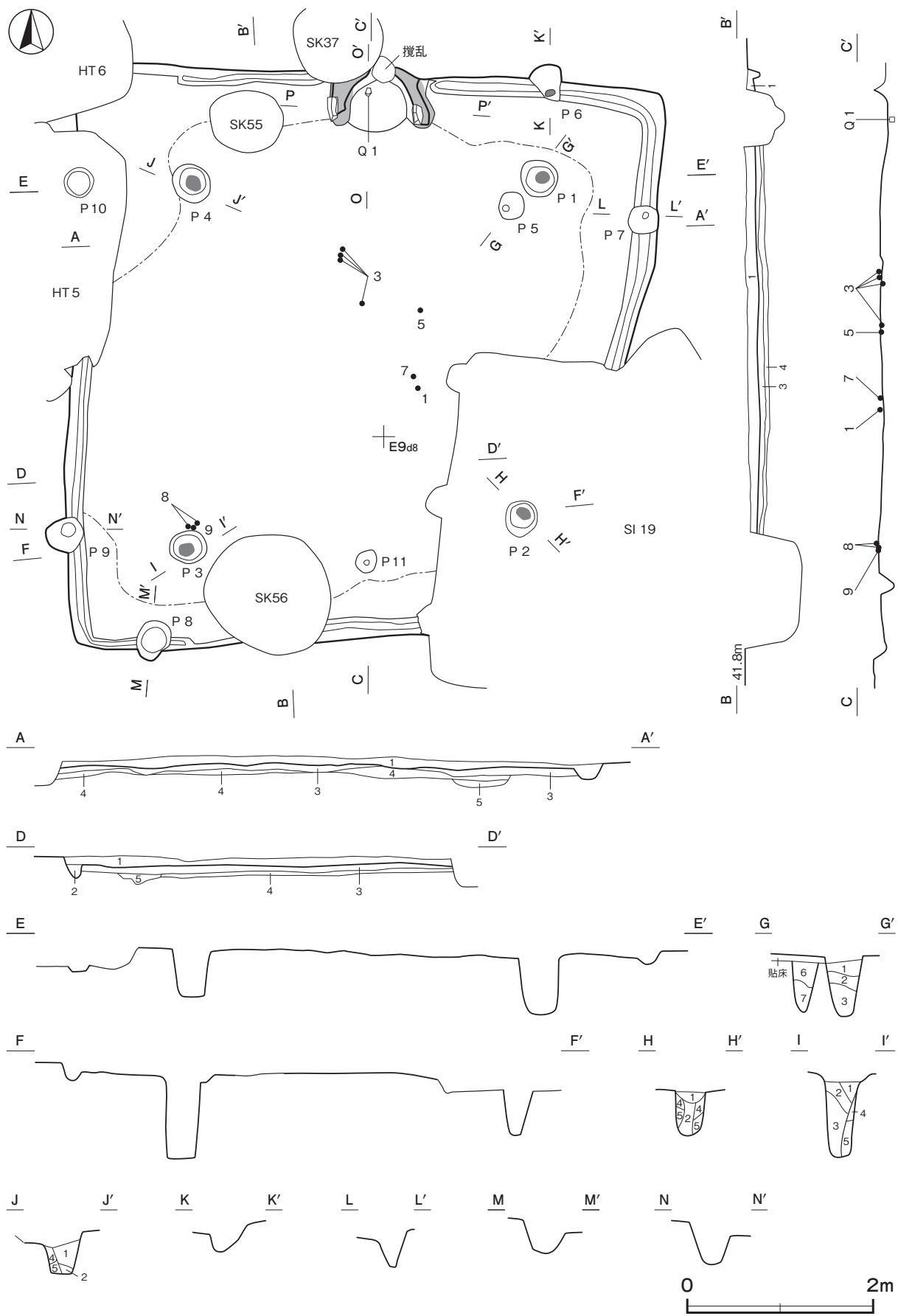
**位置** 調査区東部の E 9c7 区, 標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

**重複関係** 第 19 号 竪穴建物, 第 5・6 号 方形竪穴遺構, 第 37・55・56 号 土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 第 19 号 竪穴建物, 第 5・6 号 方形竪穴遺構などに掘り込まれているが, 一辺が 6.00 m の方形で, 主軸方向は N-3°-E である。壁は高さ 8~10cm で, 直立もしくはほぼ直立している。

**床** 平坦な貼床で, 竈前庭部および中央部が踏み固められている。貼床は, 第 3~5 層を 10~20cm ほど埋め戻して構築されている。第 4 層は水平な堆積で, 固く締まった層位であることから, 第 3 層以前の貼床の可能性がある。壁溝が, 北西隅部及び西壁下を除いて巡っている。

**竈** 北壁の中央部に付設されている。攪乱に掘り込まれていることから, 焚口部から煙道部までは 70cm しか



第 257 图 第 25 号竖穴建物迹实测图

確認できなかった。燃焼部の幅は58cmである。燃焼部は床面から30cmほど掘りくぼめられ、第8～10層で埋め戻されている。袖部は、芯材として加工された凝灰質泥岩を深さ10～15cmのピットに第7層で固定した後、床面及び第7・8層上面に第5・6層を積み上げて構築されている。火床面は第8層の上面で、火熱を受けているものの赤変硬化はしていない。Q1は下端部が第7層で固定され、火床部に据えつけられていることから、支脚として用いられている。煙道部は攪乱に掘り込まれていることから、壁外に10cmほどしか確認できなかった。火床面からは外傾するものと推定できる。第1～4層にはロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから、壊されている。

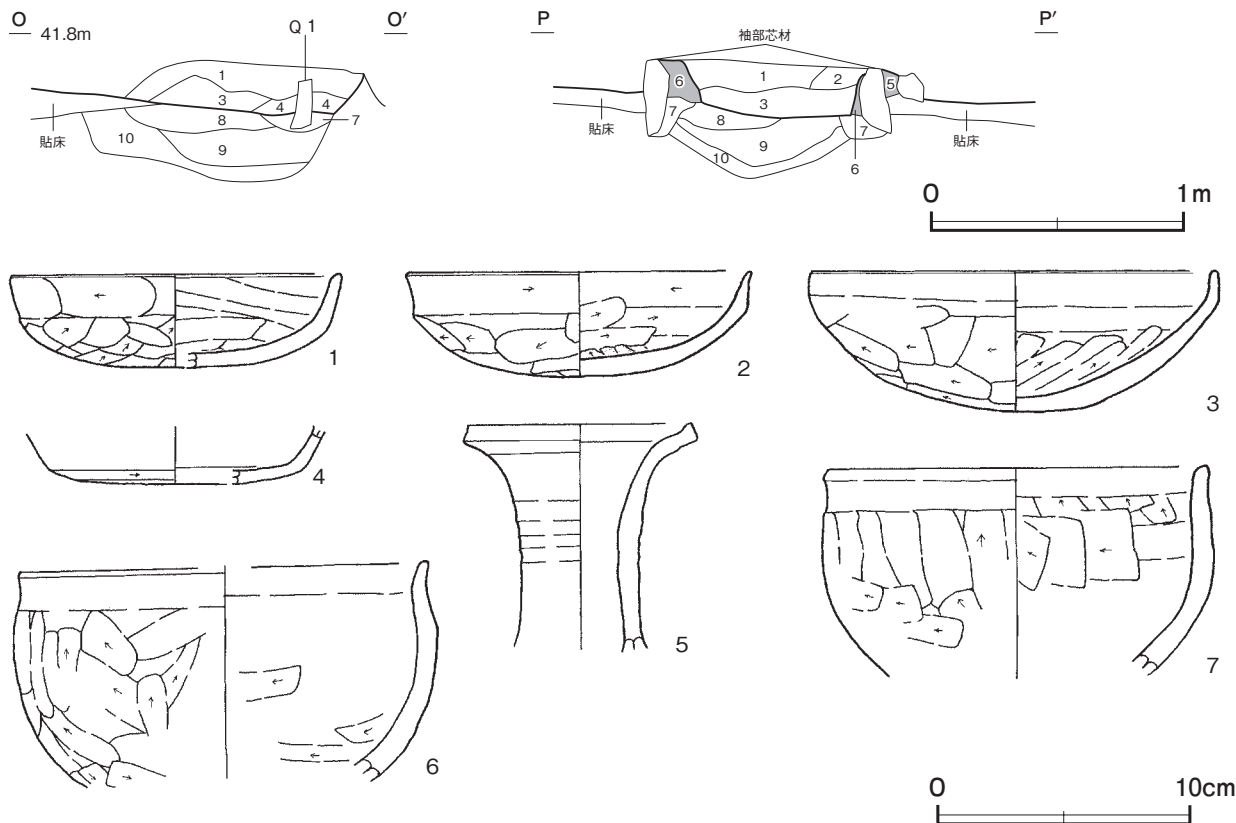
**竈土層解説**

- |                            |                           |
|----------------------------|---------------------------|
| 1 橙 色 粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量   | 6 暗赤褐色 粘土ブロック少量, 焼土ブロック微量 |
| 2 灰黄褐色 ロームブロック少量           | 7 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量    |
| 3 にぶい黄褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量   | 8 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量    |
| 4 灰黄褐色 ロームブロック中量           | 9 黒 色 ロームブロック少量           |
| 5 褐 灰 色 粘土ブロック少量, 焼土ブロック微量 | 10 暗褐色 ロームブロック中量          |

**ピット** 11か所。P1～P5は深さ52～94cmで、配置から支柱穴である。第6・7層はP5の覆土で、柱材を抜き取った後の覆土である。廃絶後、拡張後の貼床と推察できる構築土によって閉塞されていることから、P1に立て替えられている。第4・5層は埋土、第1～3層は柱材を抜き取った後の覆土である。P6～P10は深さ20～30cmで、配置から壁柱穴である。P11は深さ16cmで、出入口施設に伴うピットである。P1～P4の底面で、柱の当たりを確認した。

**P1～P5土層解説**

- |                              |                           |
|------------------------------|---------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック微量              | 5 褐灰色 ロームブロック少量           |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量    | 6 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量    |
| 3 にぶい黄褐色 ロームブロック少量, 粘土ブロック微量 | 7 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 |
| 4 灰黄褐色 ロームブロック中量             |                           |



第258図 第25号竪穴建物跡・出土遺物実測図

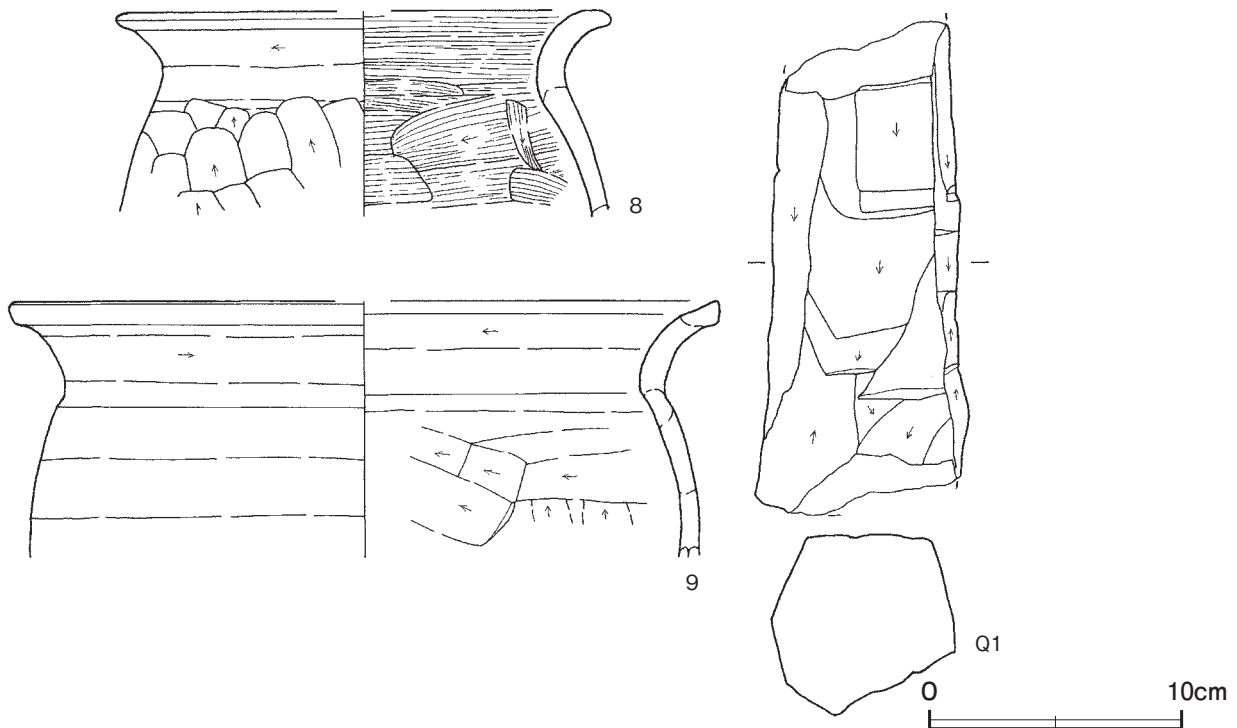
**覆土** 2層に分層できる。第1・2層はロームブロックが含まれることから、埋め戻しに伴う覆土と考えられる。第3層は拡張後の貼床の構築土、第4・5層は拡張前の貼床の構築土である。

**土層解説**

- |          |                    |        |           |
|----------|--------------------|--------|-----------|
| 1 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量、焼土ブロック少量 | 4 灰黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 褐色     | ロームブロック少量          | 5 暗褐色  | ロームブロック少量 |
| 3 褐灰色    | ロームブロック中量          |        |           |

**遺物出土状況** 土師器片 364 点（坏 23, 高台付坏 1, 蓋 1, 甕類 338, 甑 1）, 須恵器片 18 点（坏 9, 高台付坏 1, 蓋 3, 瓶類 3, 甕類 2）, 石製品 4 点（支脚 1, 竈材 3）のほか、縄文土器片 33 点（深鉢）, 弥生土器片 25 点（壺類）が、全域から散在して出土している。多くの土器は破片で、接合関係に乏しいことから、破損したものが廃絶に伴って投棄されたと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から 7 世紀末葉から 8 世紀前葉に比定できる。本跡の壁に沿って、5 か所のピットが確認できたことから、壁建ちの建物であったことが想定できる。



第 259 図 第 25 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 25 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 258・259 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	13.3	3.7	-	長石・雲母・針状物質・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面横ナデ 口縁部内面横位のナデから連続する縦位のナデ 底部外面手持ち削り	覆土中	50%
2	土師器	坏	13.4	4.1	-	長石・雲母・針状物質・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 底部外面手持ち削り 底部内面横位のナデ後見込み部一方向のナデ	覆土中	60%
3	土師器	坏	[16.0]	5.5	-	長石・雲母・針状物質・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 底部外面手持ち削り 底部内面横位のナデ後見込み部一方向のナデ	覆土中	40%
4	須恵器	坏	-	(2.6)	[9.8]	長石・雲母・針状物質	灰黄	普通	ロクロナデ 底部回転ヘラ削り	覆土中	10% 本葉下窯。 二次焼成
5	須恵器	長頸瓶	8.8	(9.0)	-	長石・石英・黒色粒子	灰黄	良好	ロクロナデ 自然袖付着	覆土中	30% PL90 猿投窯。
6	土師器	脚付甕	[15.8]	(8.6)	-	長石・石英・針状物質・白色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦・斜位のナデ後下端部削り 体部内面横位のナデ	覆土中	20% 二次焼成 煤付着
7	土師器	脚付甕	[14.8]	(8.2)	-	長石・石英・針状物質・白色粒子	にぶい赤褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦・斜位のナデ 体部内面横位のナデ	覆土中	40% 二次焼成 煤付着
8	土師器	甕	[19.6]	(8.1)	-	長石・石英・針状物質・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の削り 体部内面横位の刷毛目状ナデ 内面黒色処理	覆土中	10%
9	土師器	甕	[27.8]	(10.2)	-	長石・石英・針状物質・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 体部内面縦位のナデ後横・斜位のナデ	覆土中	10% 煤付着

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	支脚	(19.5)	8.5	7.2	(6.25)	凝灰質泥岩	上面欠損 下面一部欠損 側面二方向の削り調整	火床面	

## 第 27 号竪穴建物跡 (第 260・261 図)

**調査年度** 平成 25 年度

**位置** 調査区東部の D 9h7 区, 標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

**重複関係** 第 52・53 号竪穴建物跡を掘り込み, 第 26 号竪穴建物に掘り込まれている。

**規模と形状** 第 26 号竪穴建物に西壁の一部を掘り込まれているが, 長軸 3.80 m, 短軸 3.73 m の方形で, 主軸方向は N-3°-W である。壁は高さ 18~27cm で, ほぼ直立している。

**床** ほぼ平坦な貼床で, 竈の周辺部及び中央部が踏み固められている。貼床は, 第 5 層を 10cm ほど埋め戻して構築されている。壁溝が, 竈の付近を除いて巡っている。

**竈** 北壁の中央部に付設されている。焚口部から煙道部までは 88cm, 燃焼部の幅は 30cm である。燃焼部は床面から 10cm ほど掘りくぼめられている。袖部は, 床面に第 5~7 層を積み上げて構築されている。火床面は掘りくぼめられた地山の上面で, 火熱を受けているものの赤変硬化はしていない。掘方の調査では, 径 14cm, 深さ 8cm と径 8cm, 深さ 5cm のピット 2 か所が確認できたことから, 支脚が据え付けられていたと推定できる。煙道部は壁外に 30cm ほど掘り込まれ, 火床面から外傾している。第 1~4 層にはロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから, 壊されている。

### 竈土層解説

- |                               |                            |
|-------------------------------|----------------------------|
| 1 灰黄褐色 焼土ブロック・粘土ブロック中量, 炭化物少量 | 5 赤褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量      |
| 2 浅黄橙色 焼土ブロック・粘土ブロック中量        | 6 浅黄橙色 粘土ブロック多量, ロームブロック少量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量        | 7 褐褐色 ロームブロック中量, 粘土ブロック少量  |
| 4 褐灰色 ロームブロック少量               |                            |

**ピット** 3 か所。P 1 は深さ 24cm で, 出入口施設に伴うピットである。P 2・P 3 は, 深さ 58~62cm で, 建物の掘方調査時に確認した。主柱穴の可能性のあるものの, P 2・P 3 に対応する北東部や北西部の柱穴が確認できなかったことから, 不明である。P 1 の底面で, 柱の当たりを確認した。

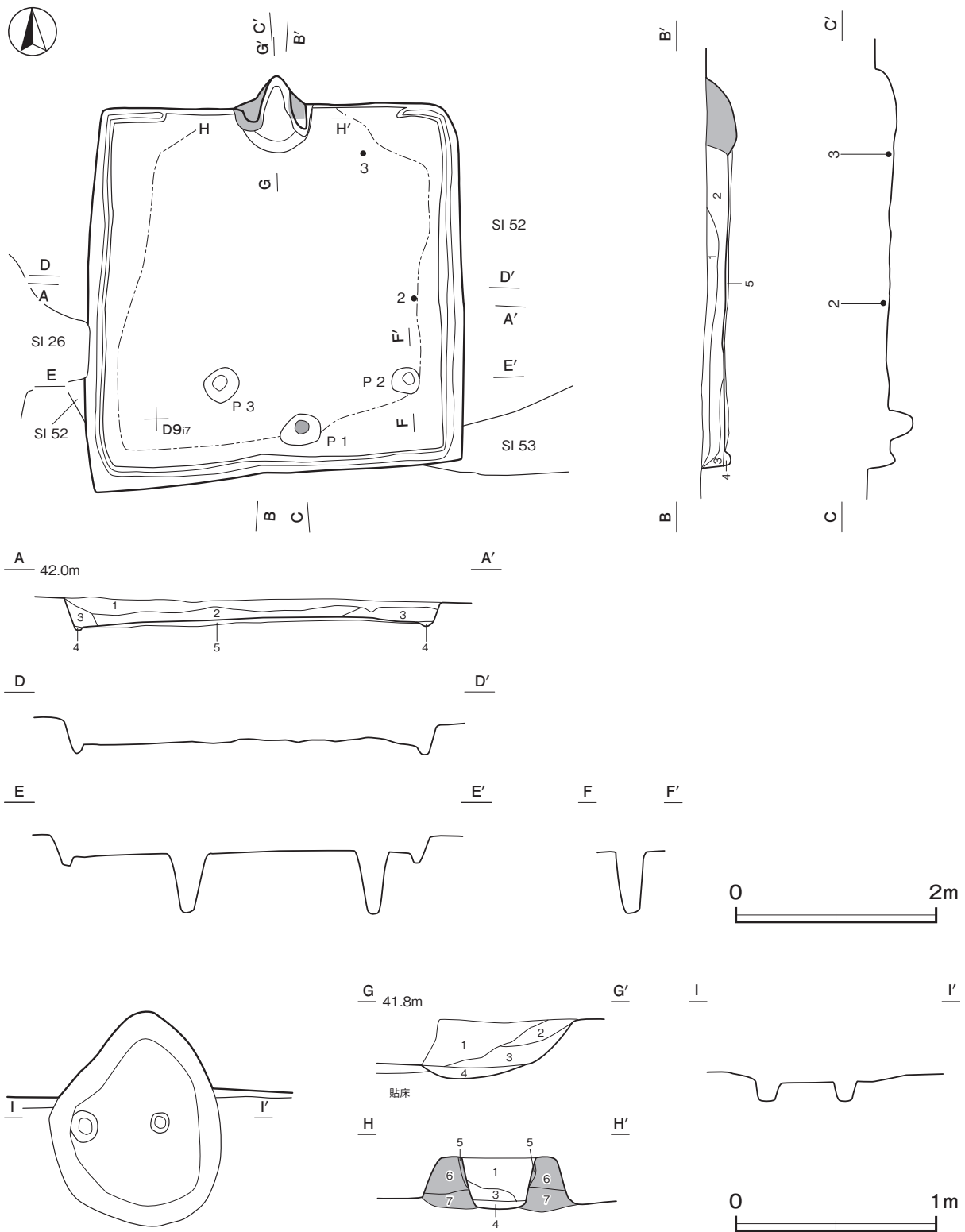
**覆土** 4 層に分層できる。ロームブロックが含まれる不規則な堆積をしていることから, 埋め戻されている。第 5 層は貼床の構築土である。

### 土層解説

- |                               |                    |
|-------------------------------|--------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量               | 4 褐色 ロームブロック少量     |
| 2 にぶい黄褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック少量  | 5 にぶい黄褐色 ロームブロック中量 |
| 3 黄褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量 |                    |

**遺物出土状況** 土師器片 312 点 (坏 6, 甕類 306), 須恵器片 5 点 (坏 3, 蓋 2), 石器 3 点 (砥石), 石製品 1 点 (紡錘車<sub>ナ</sub>), 金属製品 2 点 (鎌・刀子<sub>ナ</sub>) のほか, 縄文土器片 84 点 (深鉢), 弥生土器片 18 点 (壺類) が, 主に竈周辺や壁際から出土している。多くの土器は小片で, 接合関係に乏しいことから, 破損したものが廃絶に伴って投棄されたと考えられる。

**所見** 時期は, 出土土器から 8 世紀前葉に比定できる。竈の掘方で確認できた 2 か所のピットの規模から, 竈は長短各 1 本の支脚を有する二掛けであったと考えられる。

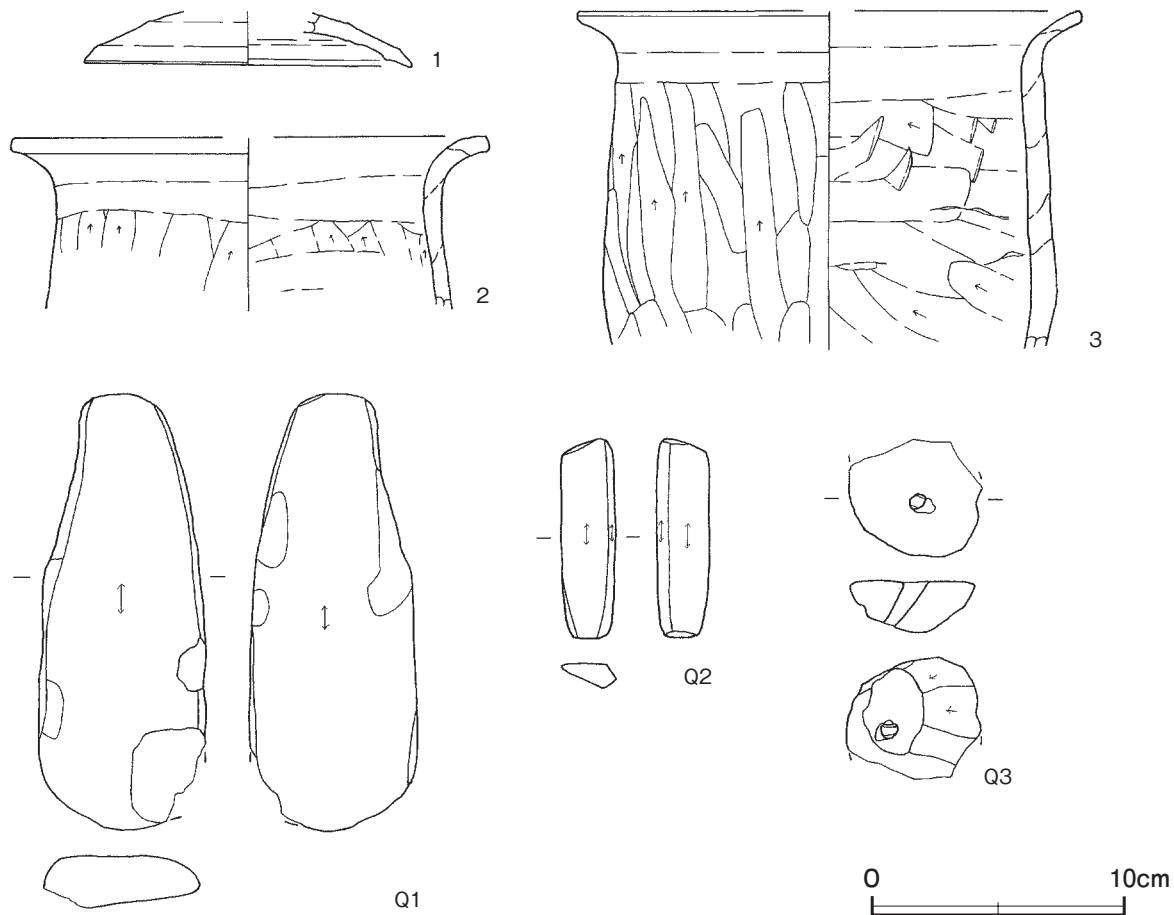


第 260 図 第 27 号竪穴建物跡実測図

第 27 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 261 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	蓋	[13.0]	(2.1)	-	長石・石英・針状物質・細礫	灰黄褐	良好	ロクロナデ	覆土中	10% 木葉下窯
2	土師器	甕	[18.8]	(6.8)	-	長石・石英・針状物質・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の削り 体部内面縦位のナデ後横位のナデ	覆土第 2・3 層中	20%





第 261 図 第 27 号竪穴建物跡出土遺物実測図

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
3	土師器	甕	[20.0]	(13.3)	-	長石・石英・針状物質・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ。体部外面縦・斜位の削り 体部内面横・斜位のナデ	覆土第2・3層中	30% 煤付着

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	砥石	17.3	6.8	2.1	(409.32)	凝灰岩	端部欠損 砥面2面	覆土中	
Q2	砥石	7.9	2.1	1.0	27.04	凝灰岩	砥面4面	覆土中	PL104
Q3	紡錘車	(4.7)	5.3	2.1	(18.51)	凝灰岩	上・下面平滑 側面削り調整 一方向から斜位の穿孔	覆土中	下面に煤付着

### 第 30 号竪穴建物跡 (第 262 図)

調査年度 平成 25 年度

位置 調査区東部の E 9 e0 区、標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第 14 号竪穴建物跡を掘り込み、第 10・11 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 北半部から東半部にかけて、第 10・11 号竪穴建物に掘り込まれていることから、南北軸は 1.78 m、東西軸は 1.09 m しか確認できなかった。方形もしくは長方形と推定できるが、主軸方向は不明である。壁は高さ 24cm で、ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で、南西隅部の壁際を除いて踏み固められている。貼床は、第 5 層を 10cm ほど埋め戻して構築されている。壁溝が、残存している南壁及び西壁下で確認できた。

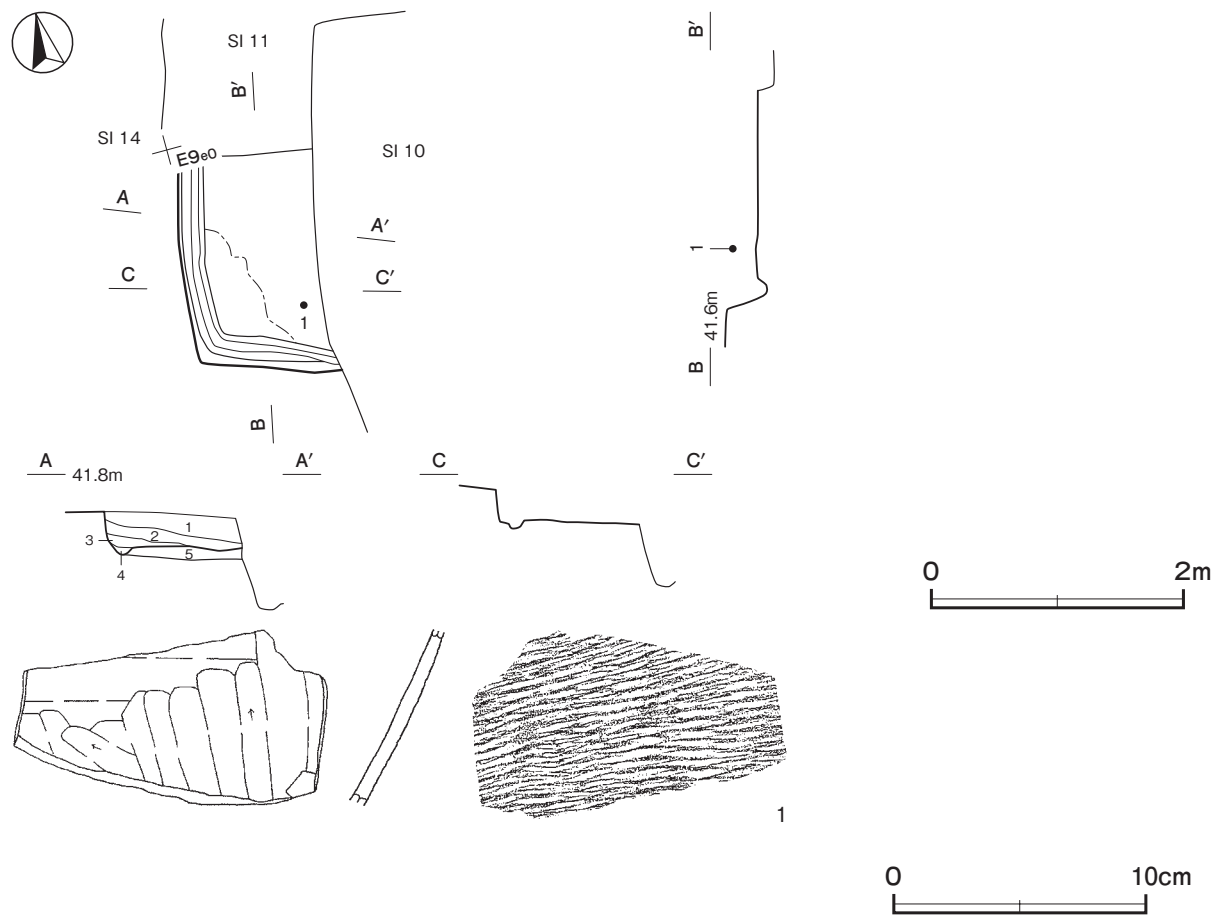
**覆土** 4層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。第5層は貼床の構築土である。

**土層解説**

- |       |                     |          |           |
|-------|---------------------|----------|-----------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、七本桜軽石粒子微量   | 4 暗褐色    | ローム粒子中量   |
| 2 黒褐色 | 七本桜軽石粒子少量、ロームブロック微量 | 5 におい黄褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 褐色  | ロームブロック・七本桜軽石粒子少量   |          |           |

**遺物出土状況** 土師器片 10点（坏1，甕類9），須恵器片 3点（坏1，甕類2）が、残存している南西部全域から散在して出土している。多くの土器は中型の破片や小片で、接合関係に乏しいことから、埋没の過程で破損したものが投棄されたと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から8世紀中葉に比定できる。



第 262 図 第 30 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 30 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 262 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	甕	-	(7.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰白	普通	体部外面横位の平行叩き 体部内面縦・斜位のナデ	覆土中	10% 新治産

**第 31 号竪穴建物跡**（第 263・264 図）

**調査年度** 平成 25 年度

**位置** 調査区東部の D 9j7 区、標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

**重複関係** 第 32～34 号竪穴建物跡を掘り込み、第 4 号方形竪穴遺構に掘り込まれている。

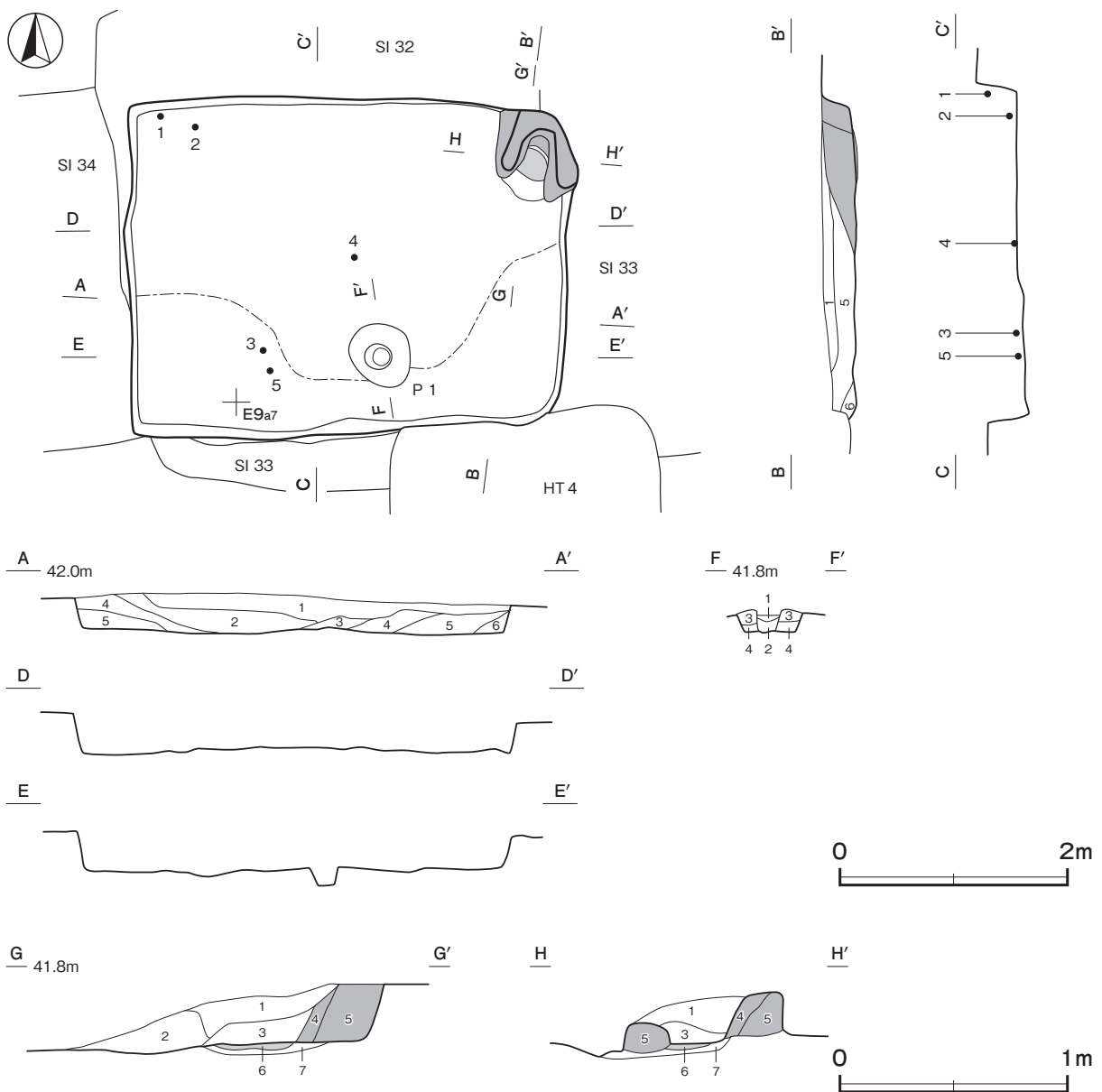
**規模と形状** 長軸 3.86 m, 短軸 2.92 m の長方形で, 主軸方向は N - 3° - E である。壁は高さ 25 ~ 36cm で, ほぼ直立している。

**床** 平坦で, 南東隅部, 南西隅部及び南壁際を除いて踏み固められている。

**竈** 北壁の東隅部に付設されている。焚口部から煙道部までは 80cm, 燃焼部は幅 28cm である。燃焼部は床面から 5cm ほど掘りくぼめられ, 第 6・7 層で埋め戻されている。袖部は, 床面及び第 7 層上面に第 4・5 層を積み上げて構築されている。火床面は第 6・7 層の上面で, 第 6 層は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外にほとんど掘り込まれておらず, 第 5 層を貼り付けて構築されている。火床面からは, ほぼ直立している。第 1~3 層にはロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから, 壊されている。

**竈土層解説**

- |                             |                            |
|-----------------------------|----------------------------|
| 1 にぶい黄橙色 ロームブロック・粘土ブロック中量   | 5 浅黄橙色 粘土ブロック多量            |
| 2 にぶい黄橙色 粘土ブロック多量, 焼土ブロック少量 | 6 明赤褐色 焼土ブロック中量, ロームブロック少量 |
| 3 褐灰色 ロームブロック・焼土ブロック少量      | 7 黒褐色 ロームブロック少量            |
| 4 赤褐色 焼土ブロック中量, 粘土ブロック少量    |                            |



第 263 図 第 31 号竪穴建物跡実測図

ピット P1は深さ20cmで、出入り口施設に伴うピットである。第3・4層は埋土、第1・2層は柱材を抜き取った後の覆土である。

ピット土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 褐灰色 ロームブロック中量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

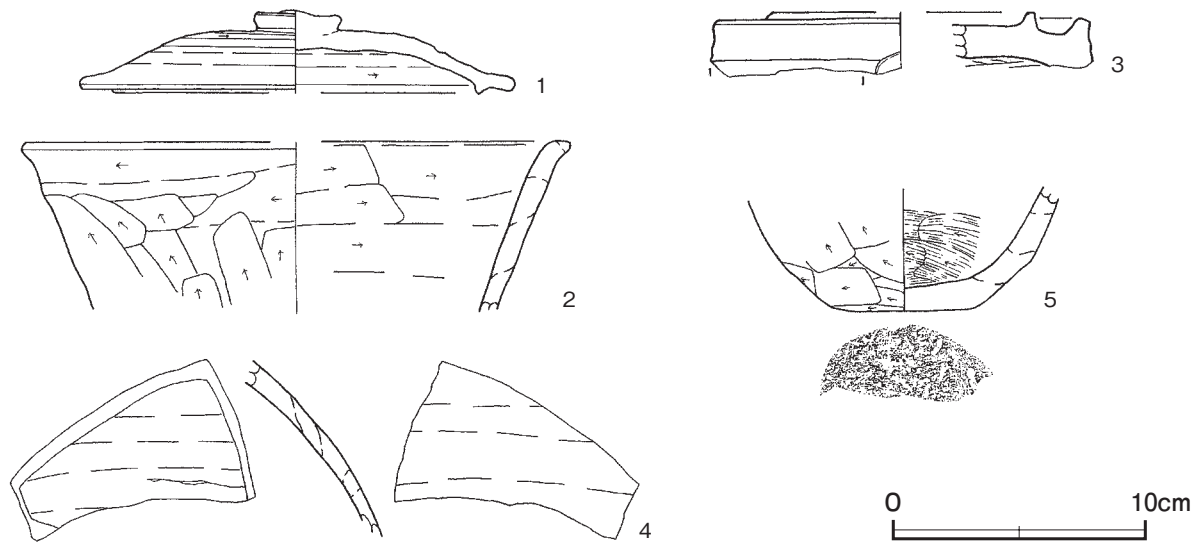
覆土 6層に分層できる。ロームブロックが含まれる不規則な堆積をしていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 褐灰色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 2 黒色 ロームブロック少量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量
- 5 黒褐色 ロームブロック中量、焼土ブロック少量
- 6 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片115点（坏2、鉢1、甕類112）、須恵器片5点（坏1、蓋2、瓶類1、円面硯1）のほか、縄文土器片19点（深鉢）、弥生土器片11点（壺類）が、主に東半部の覆土下層から出土している。多くの土器は中型の破片や小片で、接合関係に乏しいことから、破損したものが廃絶に伴って投棄されたと考えられる。

所見 時期は、出土土器から8世紀前葉に比定できる。



第264図 第31号竪穴建物跡出土遺物実測図

第31号竪穴建物跡出土遺物観察表（第264図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	蓋	[16.9]	3.3	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	ロクロナデ 天井部回転ヘラ削り後摘み部貼付	覆土中層	40% PL90新治窯
2	土師器	鉢	[21.4]	(6.7)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	明赤褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦・斜位の削り 体部内面横位のナデ	覆土下層	5%
3	須恵器	円面硯	[15.0]	(2.5)	-	長石・石英・針状物質・黒色粒子	灰	良好	硯面部下面二方向のナデ 側面横ナデ 透かし部ヘラ切り 脚部上位打ち欠き痕	覆土下層	20% PL90木葉下窯
4	須恵器	瓶	-	(7.2)	-	長石・石英・黒色粒子・細礫	黄灰	良好	ロクロナデ 輪積み痕 自然袖付着	覆土下層	10% 木葉下窯
5	土師器	甕	-	(4.9)	5.9	雲母・針状物質・細礫	褐	普通	体部外面縦・斜位の削り 体部内面底部から上位に向かう螺旋状のハケ目調整 底部多方向の削り	覆土下層	20%

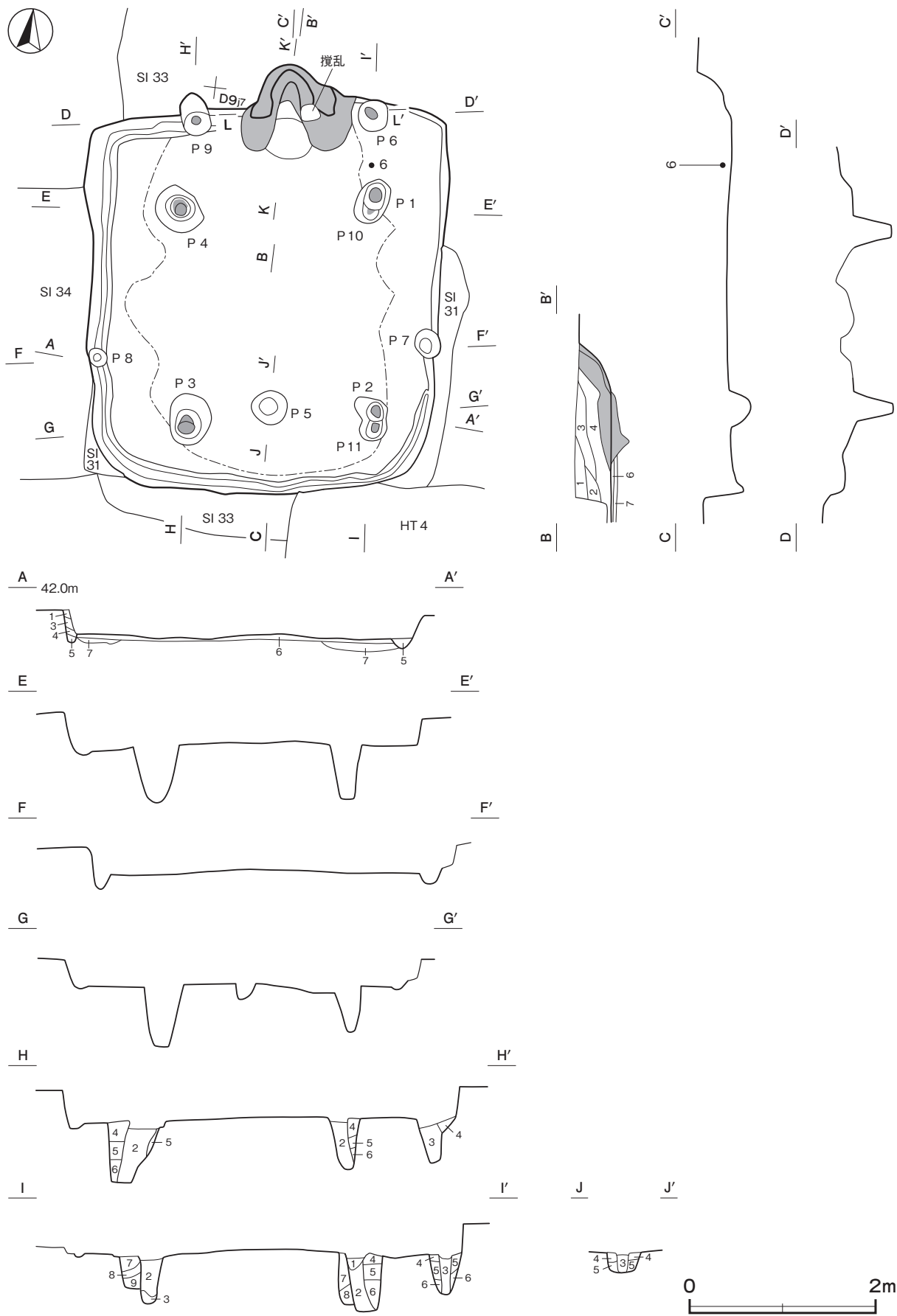
第32号竪穴建物跡（第265・266図）

調査年度 平成25年度

位置 調査区東部のD9j7区、標高42mほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第33・34号竪穴建物跡を掘り込み、第31号竪穴建物、第4号方形竪穴遺構に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.40m、短軸3.90mの長方形で、主軸方向はN-3°-Wである。壁は高さ30~40cmで、



第 265 图 第 32 号竖穴建物跡实测图

ほぼ直立している。

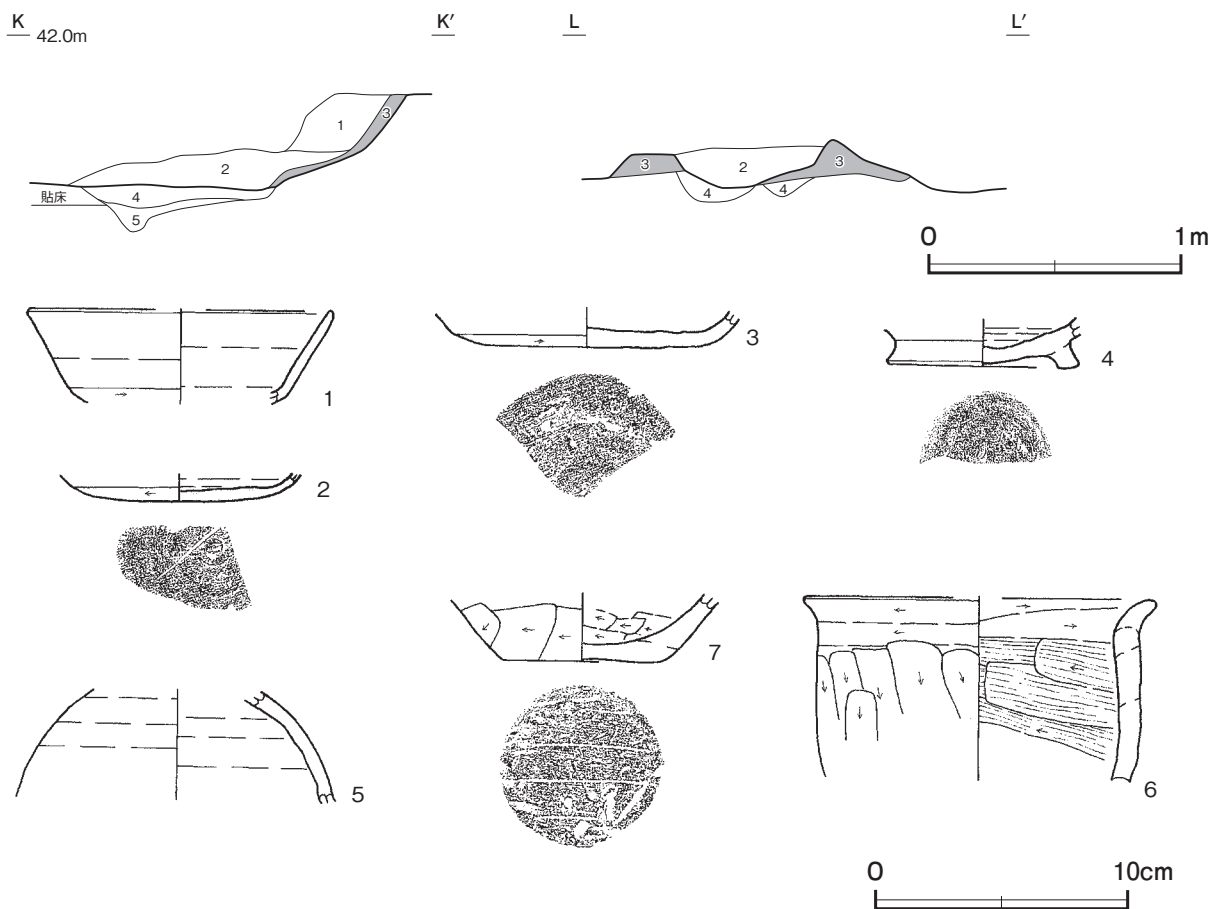
**床** 平坦な貼床で、竈周辺及び中央部が踏み固められている。貼床は、第6・7層を10～20cmほど埋め戻して構築されている。壁溝が、北東隅部及び西壁下の一部を除いて巡っている。

**竈** 北壁の中央部に付設されている。焚口部から煙道部までは98cm、燃烧部の幅は36cmである。燃烧部は床面から5～20cmほど掘りくぼめられ、第4・5層で埋め戻されている。袖部は、床面及び第4層上面に第3層を積み上げて構築されている。火床面は第4層の上面で、火熱を受けているものの赤変硬化はしていない。煙道部は壁外に50cmほど掘り込まれ、第3層が貼り付けられている。火床面からは、内彎している。第1・2層にはロームブロックが含まれていることから、壊されている。

**竈土層解説**

- |                           |                            |
|---------------------------|----------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック中量, 粘土ブロック少量 | 4 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量     |
| 2 にぶい黄褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 | 5 灰黄褐色 粘土ブロック中量, ロームブロック少量 |
| 3 灰黄褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量   |                            |

**ピット** 11か所。P1～P4・P10・P11は深さ38～68cmで、配置から支柱穴である。P10はP1に、P11はP2に掘り込まれていることから、立て替えられている。P5は深さ10cmで、出入口施設に伴うピットである。P6～P9は深さ42～52cmで、壁柱穴の可能性もある。P6・P9については、竈の袖に近接していることから、竈に関わる施設の可能性が考えられる。第7～9層は柱材を抜き取った後の覆土、第4～6層は埋土、第1～3層は柱材を抜き取った後の覆土である。P1～P4・P6・P9～P11の底面で、柱の当たりを確認した。



第266図 第32号竪穴建物跡・出土遺物実測図

**ピット土層解説 (各ピット共通)**

1 黒 褐 色	ロームブロック少量, 焼土ブロック微量	6 におい黄褐色	ロームブロック多量
2 におい黄褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック微量	7 褐 灰 色	ロームブロック少量
3 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック少量	8 におい黄褐色	ロームブロック中量
4 灰黄褐色	ロームブロック中量, 粘土ブロック少量	9 暗 褐 色	ロームブロック少量
5 黒 褐 色	ロームブロック・粘土ブロック少量		

**覆土** 5層に分層できる。ロームブロックが含まれる不規則な堆積をしていることから、埋め戻されている。

第6・7層は貼床の構築土である。

**土層解説**

1 暗 褐 色	ロームブロック・粘土ブロック少量, 焼土粒子微量	5 褐 灰 色	ロームブロック少量
2 黒 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量	6 におい黄褐色	ロームブロック中量
3 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック少量	7 黒 褐 色	ロームブロック少量
4 におい黄褐色	ロームブロック・粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量		

**遺物出土状況** 土師器片 319点 (坏9, 甕類310), 須恵器片 18点 (坏14, 高台付坏1, 蓋1, 瓶類2), 石製品3点 (竈材) のほか, 縄文土器片 43点 (深鉢), 弥生土器片 30点 (壺類) が, 主に北半部から出土している。多くの土器は小片で, 接合関係に乏しいことから, 破損したものが廃絶に伴って投棄されたと考えられる。

**所見** 時期は, 出土土器から7世紀末葉から8世紀前葉に比定できる。4は産地不明であるが, 底部の形状から7世紀後葉以降の製品と思われる。また, 5は7世紀前葉の蓋であることから, 混入である。

**第32号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第266図)**

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	[12.0]	(3.7)	-	長石・石英・針状物質・黒色粒子	灰黄	普通	ロクロナデ 底部回転ヘラ削り	覆土中	10% 木葉下窯
2	須恵器	坏	-	(1.1)	-	長石・石英・雲母・砂粒	暗灰	普通	ロクロナデ 底部回転ヘラ削り 「一」字状のヘラ書き	覆土中	10% 木葉下窯
3	須恵器	坏	-	(1.1)	-	長石・石英・雲母・針状物質	暗灰	普通	ロクロナデ 底部回転ヘラ削り後底部二方向のナデ	覆土中	10% 木葉下窯
4	須恵器	高台付坏	-	(1.9)	[7.6]	雲母・針状物質・黒色粒子・細礫	暗灰	普通	ロクロナデ 高台部貼付	覆土中	20% 産地不明
5	須恵器	蓋	-	(4.4)	-	雲母・針状物質・黒色粒子・砂粒	褐灰	普通	ロクロナデ	覆土中	10% 産地不明
6	土師器	小形甕	[14.0]	(7.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	におい赤褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の削り 体部内面横位のハケ目調整	覆土下層	10% 煤付着
7	土師器	甕	-	(2.4)	6.4	長石・石英・雲母・砂粒	明赤褐	普通	体部外面横位の削り 体部内面横ナデ 底部二方向のナデ後 「一」状のヘラ書き4条	覆土中	10%

**第37号竪穴建物跡 (第267図)**

**調査年度** 平成25年度

**位置** 調査区東部のE9b8区, 標高42mほどの台地平坦面に位置している。

**重複関係** 第24号竪穴建物, 第4・7号方形竪穴遺構, 第3号粘土貼土坑, 第37・38・50号土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 第24号竪穴建物などに掘り込まれていることから, 東西軸は3.42m, 南北軸は3.98mしか確認できなかった。長方形と推定でき, 長軸方向はN-9°-Wである。壁は高さ7cmで, ほぼ直立している。

**床** 平坦であるが, 踏み固められて硬化している部分は確認できなかった。

**ピット** 6か所。P1~P6は深さ48~62cmで, 配置から支柱穴である。P5はP3に, P6はP4に掘り込まれていることから, 立て替えられている。第5層は埋土, 第3・4層は埋土, 第1・2層は柱材を抜き取った後の覆土である。P1~P6の底面で, 柱の当たりを確認した。

**P3・P5土層解説**

1 暗 褐 色	ロームブロック中量, 焼土ブロック少量	4 暗 褐 色	ロームブロック少量
2 におい黄褐色	ロームブロック中量, 焼土ブロック・炭化物少量	5 灰黄褐色	ロームブロック中量, 粘土ブロック少量
3 黄 褐 色	ロームブロック中量		

**覆土** 2層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

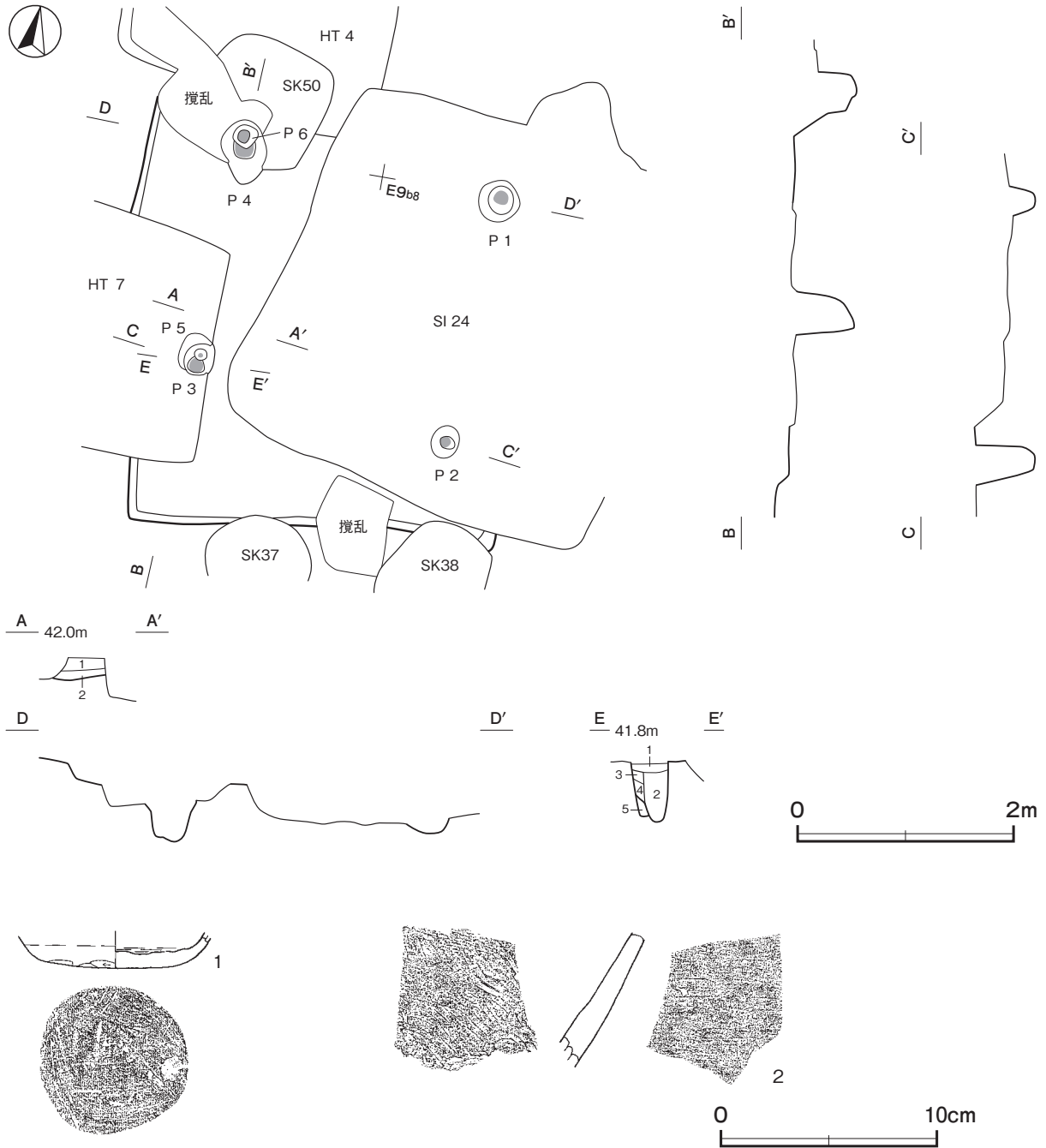
**土層解説**

1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土ブロック微量

2 にぶい黄褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量

**遺物出土状況** 土師器片 17点 (坏2, 甕類15), 須恵器片 5点 (坏3, 瓶類1, 甕1) のほか, 縄文土器片 5点 (深鉢), 弥生土器片 3点 (壺類) が, 主に全域から散在して出土している。多くの土器は小片で, 接合関係に乏しいことから, 破損したものが廃絶に伴って投棄されたと考えられる。

**所見** 時期は, 出土土器から8世紀前葉に比定できる。



第 267 図 第 37 号竪穴建物跡・出土遺物実測図



第 37 号 竪穴建物跡出土遺物観察表（第 267 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	-	(1.7)	6.3	長石・石英・雲母	灰黄	良好	ロクロナデ 体部二方向の削り	覆土中	30% 新治窯
2	須恵器	甕	-	(6.3)	-	長石・石英・針状物質	灰	良好	ロクロナデ 内面同心円状の当具痕を消す縦位のナデ	覆土中	10% 木葉下窯

第 38 号 竪穴建物跡（第 268・269 図）

調査年度 平成 25 年度

位置 調査区東部の E 9 e5 区、標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第 39A・39B 号竪穴建物跡を掘り込み、第 70 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 3.35 m、短軸 2.82 m の長方形で、主軸方向は N - 3° - E である。壁は高さ 37cm で、直立している。

床 平坦で、全面が踏み固められている。壁溝が、全周している。

竈 北壁の中央部に付設されている。焚口部から煙道部までは 84cm、燃焼部の幅は 24cm である。燃焼部は床面から 20cm ほど掘りくぼめられ、第 9～11 層で埋め戻されている。袖部は、芯材として Q 1 を深さ 10cm のピットに第 8 層で固定した後、床面及び第 8 層上面に第 5～7 層を積み上げて構築されている。火床面は掘り込んだ地山の上面が火熱を受け、赤変硬化している。煙道部は壁外に 30cm ほど掘り込まれ、第 6 層が貼り付けられている。火床面からは外傾している。第 1～4 層にはロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから、壊されている。

竈土層解説

1	褐灰色	ロームブロック・粘土ブロック少量、焼土ブロック微量	7	黒褐色	焼土ブロック中量、ロームブロック・粘土ブロック少量
2	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック微量	8	褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量
3	浅黄橙色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック中量	9	黒褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量
4	黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量	10	褐灰色	ロームブロック少量
5	灰黄褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量	11	黒褐色	ロームブロック中量
6	浅黄橙色	ロームブロック・粘土ブロック中量、焼土ブロック少量			

ピット P 1 は深さ 22cm で、出入り口施設に伴うピットである。

覆土 4 層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

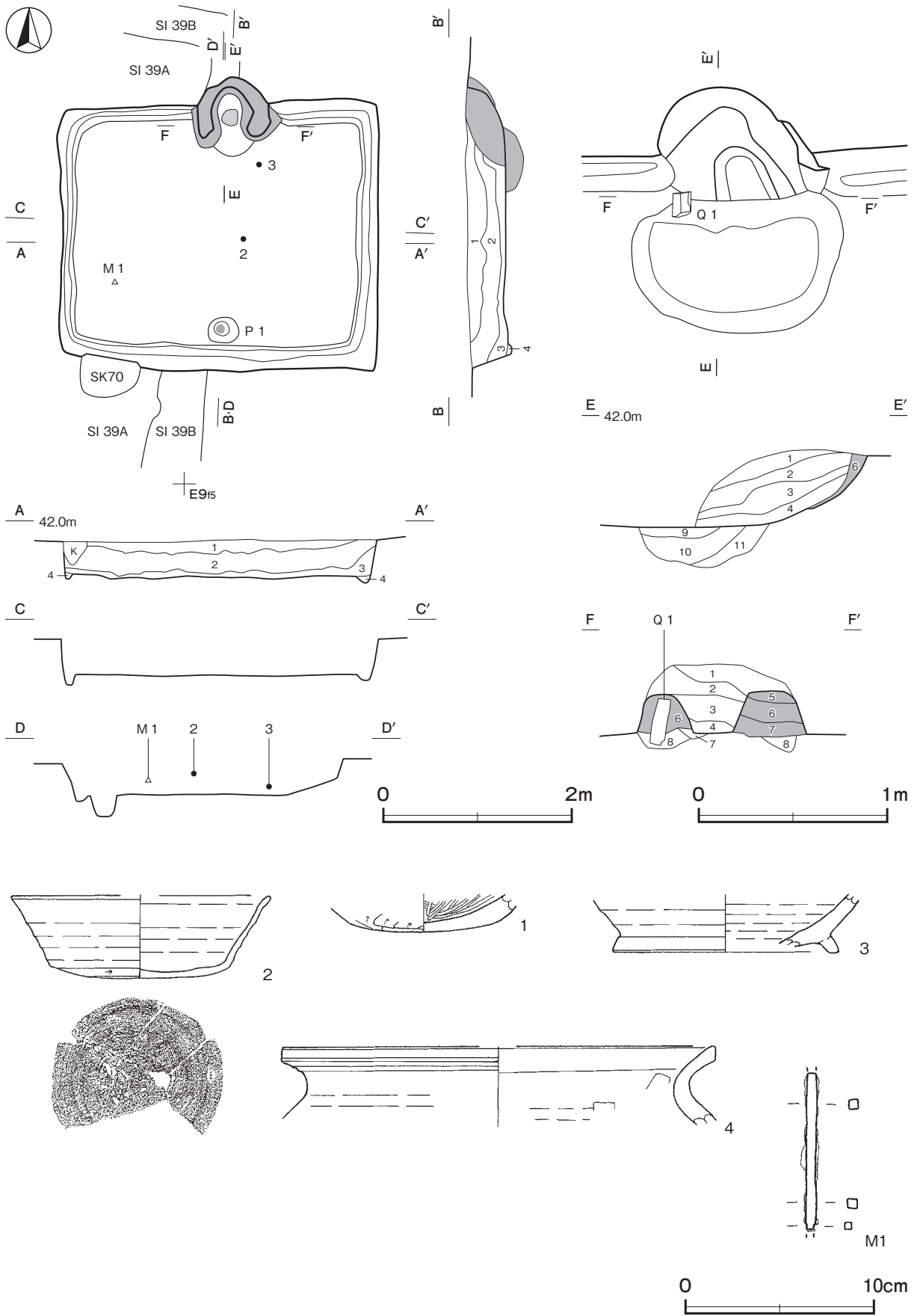
1	暗褐色	ロームブロック少量	3	暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量
2	灰黄褐色	ロームブロック・粘土ブロック少量	4	にぶい黄褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 土師器片 339 点（坏 1、甕類 338）、須恵器片 15 点（坏 7、瓶類 1、甕類 7）、石製品 5 点（竈材）、金属製品 1 点（鏃）のほか、縄文土器片 64 点（深鉢）、弥生土器片 37 点（壺類）が、全域から散在して出土している。多くの土器は小片で、接合関係に乏しいことから、破損したものが廃絶に伴って投棄されたと考えられる。

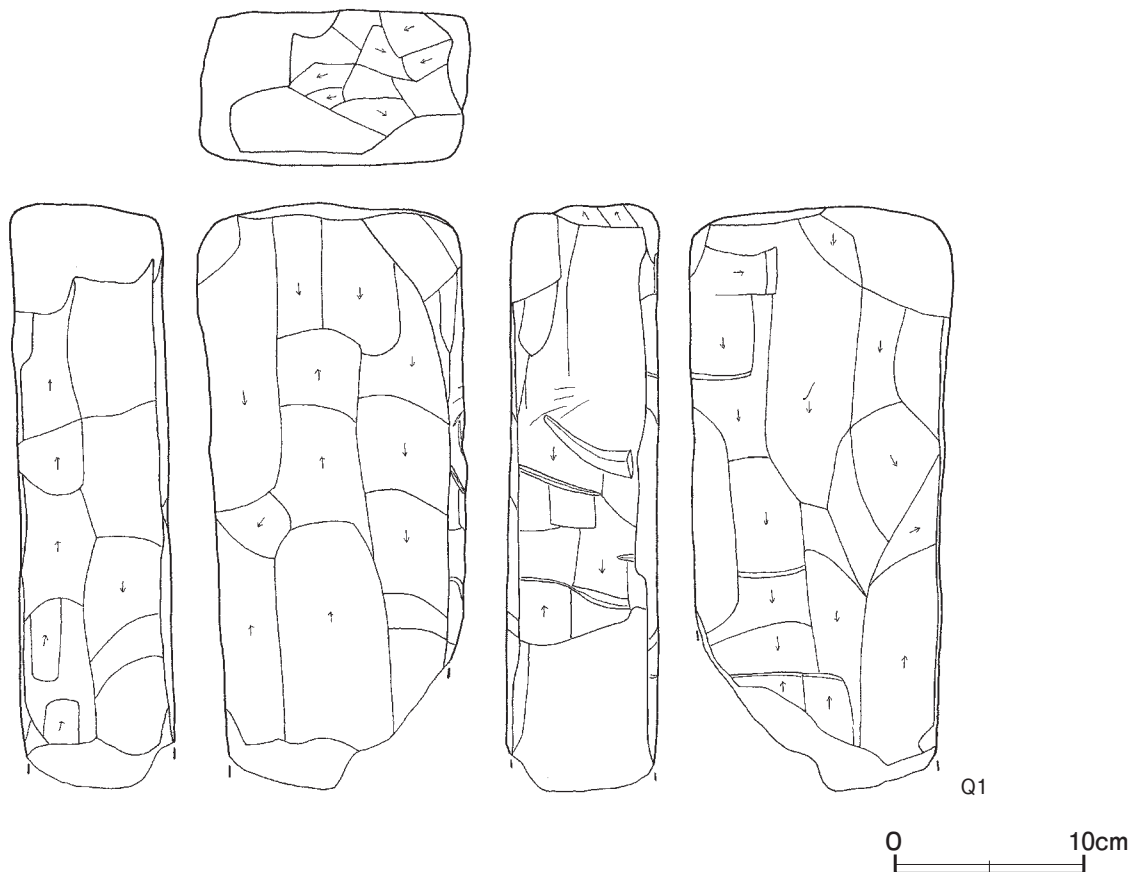
所見 時期は、出土土器から 8 世紀前葉に比定できる。

第 38 号 竪穴建物跡出土遺物観察表（第 268・269 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	-	(2.0)	-	雲母・針状物質・細礫	明赤褐	普通	体部外面縦位の削り 体部内面放射状磨き 底部一方向の削り	覆土中	10%
2	須恵器	坏	[13.7]	4.0	9.5	長石・石英・雲母・針状物質	灰黄	良好	ロクロナデ 底部回転ヘラ削り	覆土中層	30% PL89 木葉下窯
3	須恵器	瓶類	-	(3.1)	[12.0]	長石・石英・針状物質・砂礫	灰	良好	ロクロナデ 高台部貼付	覆土中層	10% 木葉下窯
4	土師器	甕	[22.8]	(4.2)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	ロクロナデ 体部内面縦位のナデ	覆土中	10%



第 268 图 第 38 号竖穴建物跡・出土遺物実測図



第 269 図 第 38 号竪穴建物跡出土遺物実測図

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	袖材	(30.5)	14.0	8.0	(2.150)	凝灰質泥岩	下端部欠損 上面・側面二方向の削り調整	左袖構築土中	PL105
M 1	鎌	(8.2)	0.5	0.5	(11.52)	鉄	鎌身部・茎部末端部欠損 茎部断面正方形	覆土中層	PL108

#### 第 45 号竪穴建物跡 (第 270・271 図 PL32)

調査年度 平成 25 年度

位置 調査区東部の E 9 d4 区, 標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第 39 A・39 B・46 号竪穴建物跡を掘り込み, 第 44 号竪穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 第 44 号竪穴建物に掘り込まれているが, 長軸 4.39 m, 短軸 3.99 m の方形と推定できる。主軸方向は N-8°-E である。壁は高さ 43~47cm で, 直立もしくはほぼ直立している。

床 平坦な貼床で, 確認できた部分は踏み固められている。貼床は, 第 8 層を 5~10cm ほど埋め戻して構築されている。壁溝が, 第 44 号竪穴建物に掘り込まれている部分を除いて巡っている。

ピット 3 か所。P 1 は深さ 45cm, P 2 は深さ 41cm で, 配置から主柱穴である。P 3 は深さ 20cm で, 出入口施設に伴うピットである。

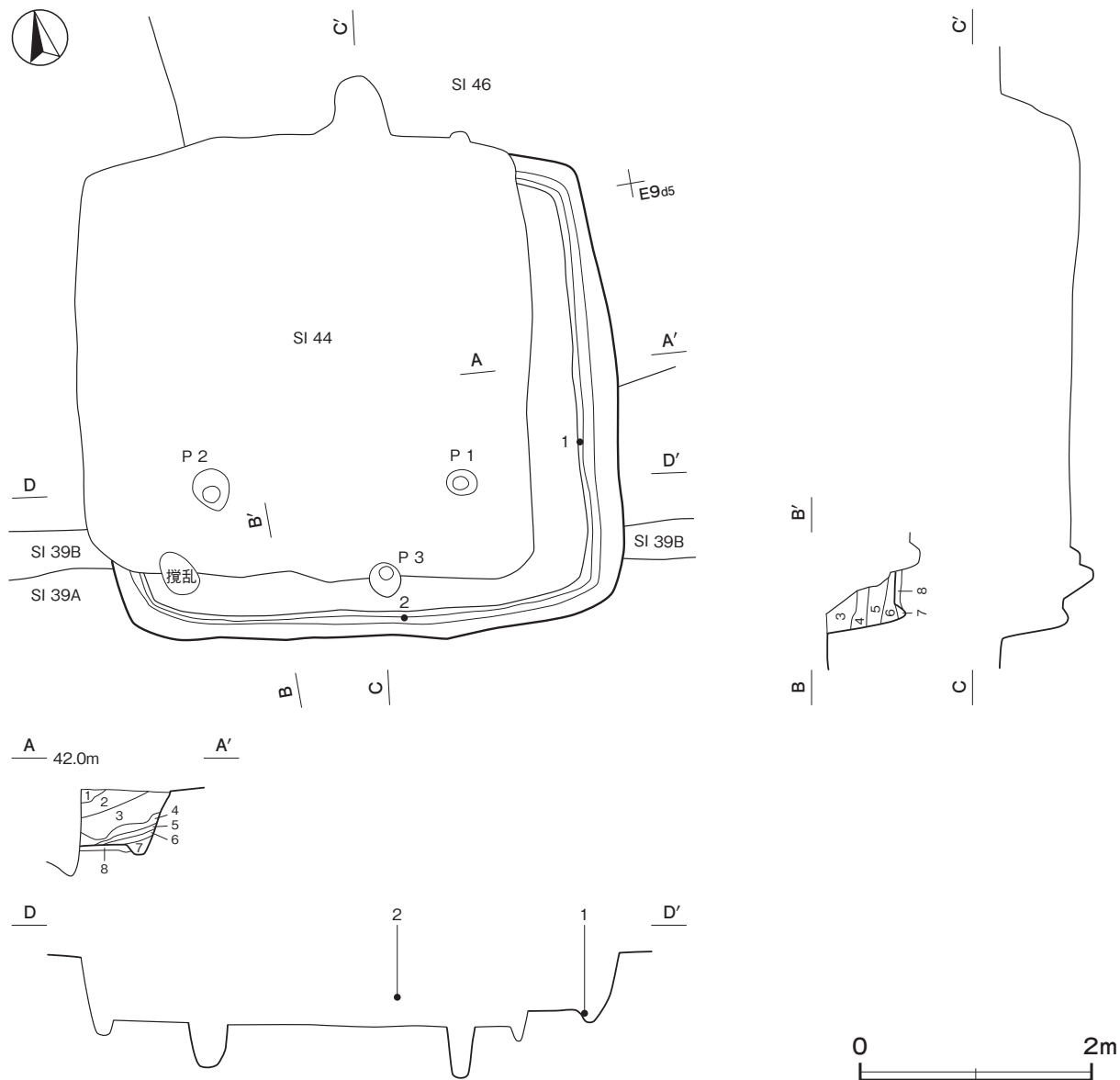
覆土 7 層に分層できる。ロームブロックが含まれる不規則な堆積をしていることから, 埋め戻されている。第 8 層は貼床の構築土である。

土層解説

- |       |                     |          |                  |
|-------|---------------------|----------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量    | 5 暗褐色    | ロームブロック・焼土ブロック中量 |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック少量, ロームブロック微量 | 6 灰黄褐色   | ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量    | 7 褐色     | ロームブロック少量        |
| 4 黒褐色 | ロームブロック中量, 粘土ブロック微量 | 8 におい黄褐色 | ロームブロック中量        |

遺物出土状況 土師器片 52 点 (坏 2, 瓶 1, 甕類 48, 小形甕 1), 須恵器片 7 点 (坏 4, 蓋 2, 瓶 1) のほか, 縄文土器片 5 点 (深鉢), 弥生土器片 4 点 (壺類) が, 主に東壁や南壁際から出土している。土器は大型の破片から小片まであり, 接合関係が良好であることから, 埋め戻しに伴って一括で投棄されたと考えられる。

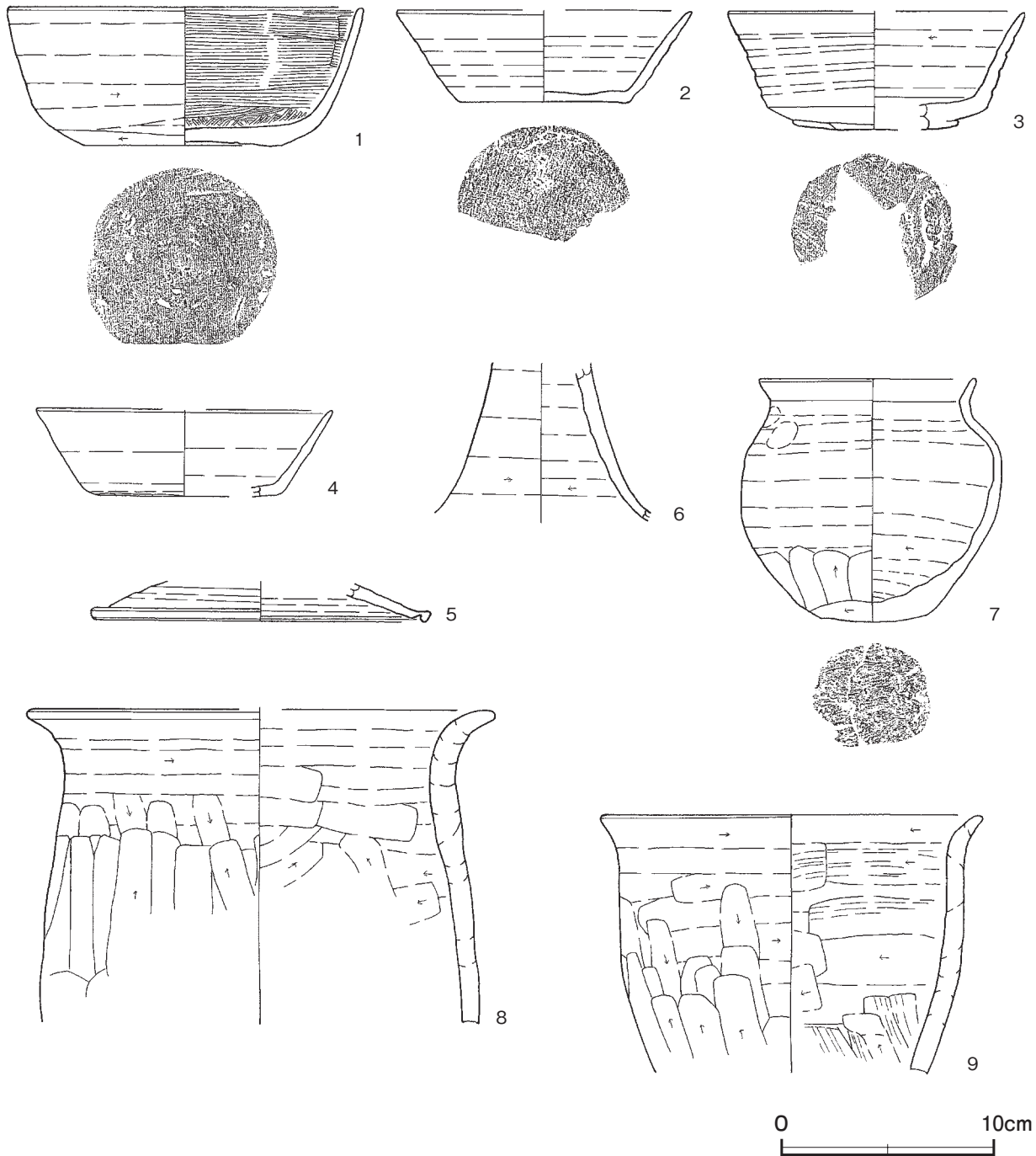
所見 時期は, 出土土器から 8 世紀中葉に比定できる。



第 270 図 第 45 号竪穴建物跡実測図

第 45 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 271 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	16.6	6.5	9.4	長石・石英・雲母・針状物質	におい橙	普通	体部下端手持ち削り 体部内面回転状の磨き 底部外面回転ヘラ削り 底部内面多方向の磨き	覆土下層	60% PL89
2	須恵器	坏	[13.8]	4.3	[8.1]	雲母・針状物質・細礫	におい褐	良好	ロクロナテ 底部一方向の手持ち削り	覆土下層	50% PL89 木葉下窯



第 271 図 第 45 号 豎穴建物跡出土遺物実測図

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
3	須恵器	坏	[14.4]	5.5	[7.7]	石英・針状物質・黒色粒子・細礫	灰	良好	回転ヘラ切り痕を残すロクロナデ 体部外面沈線状に水引痕を残す 底部一方向の手持ち削り	覆土中	50% PL89 木葉下窯
4	須恵器	坏	[13.8]	4.2	[9.0]	長石・石英・針状物質・黒色粒子	灰	良好	ロクロナデ 底部一方向の手持ち削り	覆土中	40% 木葉下窯
5	須恵器	蓋	[15.3]	(1.9)	-	長石・石英・黒色粒子	灰	良好	ロクロナデ 口縁部内面に沈線状のナデ	覆土中	10% 堀ノ内窯
6	土師器	高坏	-	(7.5)	-	雲母・針状物質・赤色粒子	橙	良好	体部ロクロナデ	覆土中	10%
7	土師器	小形甕	10.0	11.4	5.1	長石・石英・雲母・針状物質	灰 褐	普通	ロクロナデ 体部下端部に縦・斜位の削り 底部一方向の削り 指頭痕	覆土中	60% PL91 煤付着
8	土師器	甕	[21.0]	(14.9)	-	長石・石英・雲母・細礫	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位のナデ後縦位の削り 体部内面横位のナデ後縦位のナデ	覆土中	30% 煤付着
9	土師器	甕	17.8	(12.2)	-	長石・石英・雲母・細礫	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦・横位のナデ後縦位の削り 体部内面ハケ目状の横位のナデ後縦位のナデ	覆土中	50% PL91 煤付着

**第 47 号 竪穴建物跡 (第 272・273 図)**

**調査年度** 平成 25 年度

**位置** 調査区東部の E 9c5 区, 標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

**重複関係** 第 46・48 号 竪穴建物跡を掘り込み, 第 51 号 竪穴建物, 第 801 号 土坑に掘り込まれている。

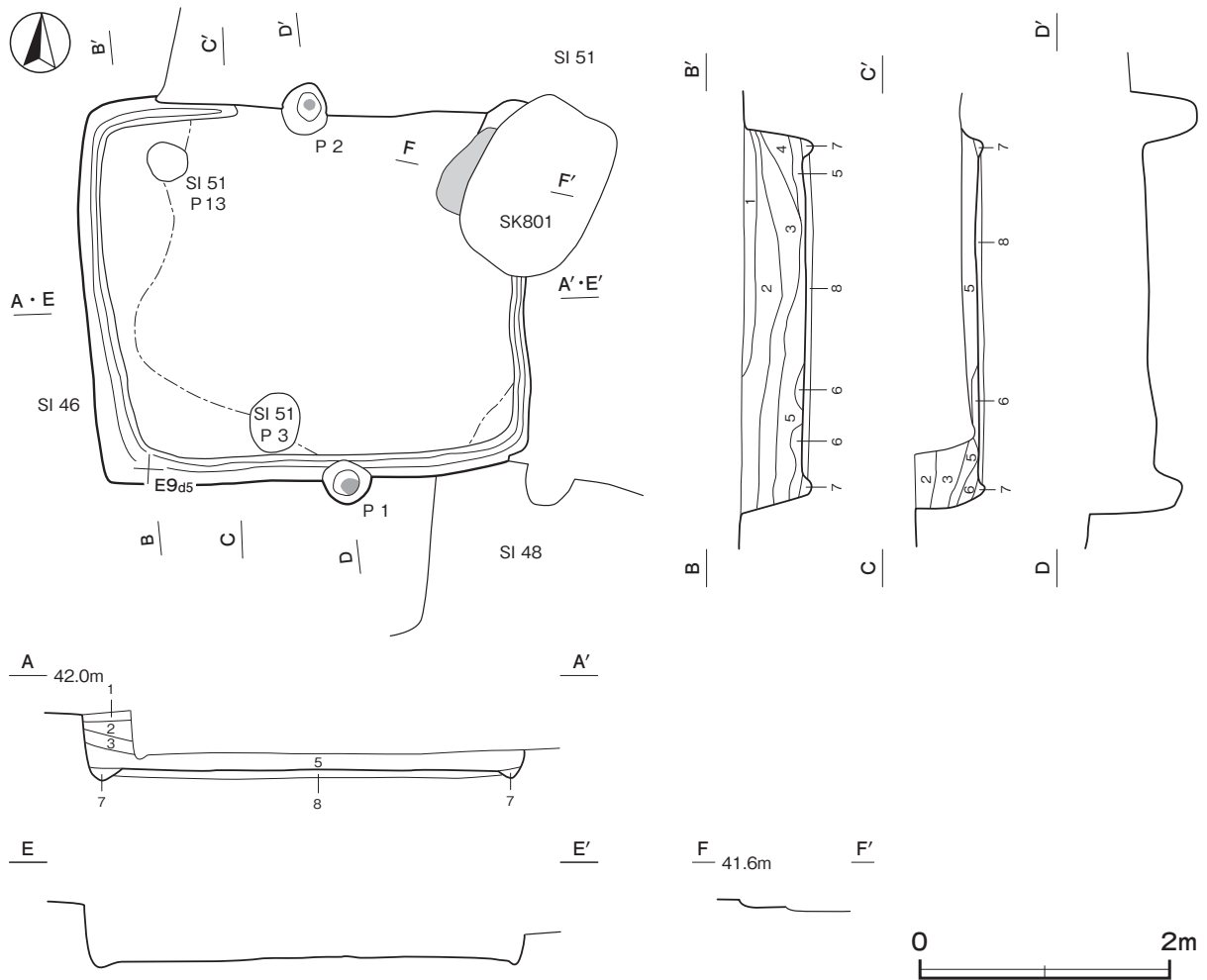
**規模と形状** 第 51 号 竪穴建物に上部の大部分を掘り込まれているが, 長軸 3.53 m, 短軸 3.11 m の長方形と推定できる。主軸方向は N - 4° - W である。壁は高さ 48 ~ 50 cm で, ほぼ直立している。

**床** 平坦な貼床で, 南東隅部, 南西隅部, 北西隅部及び西壁際を除いて踏み固められている。貼床は, 第 8 層を 5 ~ 10 cm ほど埋め戻して構築されている。壁溝が, 竈近辺及び北壁下を除いて巡っている。

**竈** 北東隅部に付設されている。第 51 号 竪穴建物に掘り込まれていることから焚口部から煙道部までは 104 cm, 燃焼部は 20 cm しか確認できなかった。燃焼部は貼床面上に構築されており, 火床面は火熱を受けて赤変硬化している。袖部は, 確認できなかった。煙道部は壁外に 10 cm しか掘り込まれている状況が確認できなかった。断面形は不明である。

**ピット** 2 か所。P 1・P 2 は深さ 24 cm・45 cm で, 配置から支柱穴もしくは壁柱穴と考えられる。P 1・P 2 の底面で, 柱の当たりを確認した。

**覆土** 7 層に分層できる。ロームブロックが含まれる不規則な堆積をしていることから, 埋め戻されている。第 8 層は貼床の構築土である。



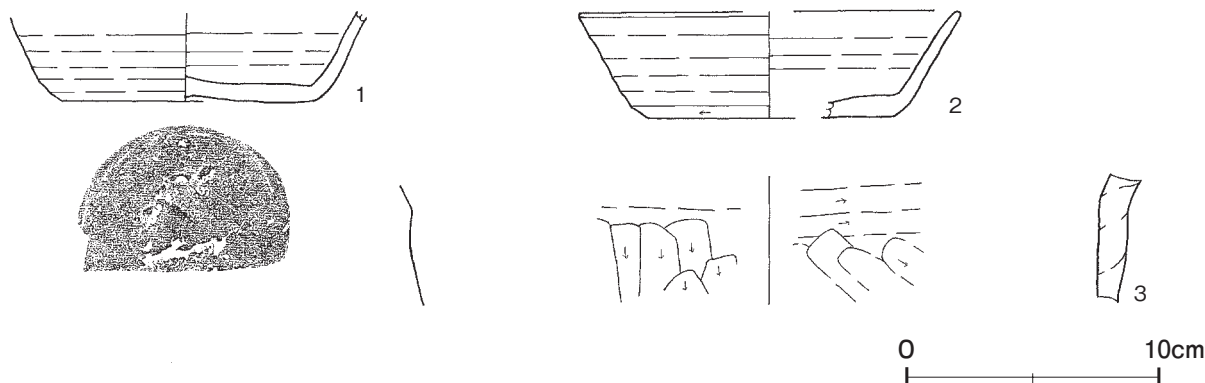
**第 272 図** 第 47 号 竪穴建物跡実測図

**土層解説**

- |       |                     |          |                  |
|-------|---------------------|----------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量    | 5 黒褐色    | ロームブロック・焼土ブロック少量 |
| 2 黒褐色 | 焼土ブロック少量, ロームブロック微量 | 6 褐灰色    | ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 7 黄褐色    | ロームブロック中量        |
| 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量    | 8 にぶい黄褐色 | ロームブロック少量        |

**遺物出土状況** 土師器片 113 点（甕類）、須恵器片 1 点（甕類）のほか、縄文土器片 11 点（深鉢）、弥生土器片 6 点（壺類）が、全域から散在して出土している。多くの土器は小片で接合関係に乏しいことから、破損したものが廃絶に伴って投棄されたと考えられる。

**所見** 時期は、出土遺物から 8 世紀中葉に比定できる。



**第 273 図** 第 47 号 竪穴建物跡出土遺物実測図

第 47 号 竪穴建物跡出土遺物観察表（第 273 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	-	(3.5)	[10.0]	長石・石英・針状物質・黒色粒子	灰黄	良好	ロクロナデ 底部一方向の削り	覆土中	30% 堀ノ内窯。
2	須恵器	坏	[15.0]	4.2	[9.8]	長石・石英・針状物質・黒色粒子	明褐灰	良好	ロクロナデ	覆土中	10% 木葉下窯。
3	土師器	甕	-	(5.1)	-	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の削り 体部内面斜位のナデ	覆土中	10%

**第 58 号 竪穴建物跡**（第 274・275 図）

**調査年度** 平成 26 年度

**位置** 調査区東部の E 9 b3 区、標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

**重複関係** 第 41・42・46 号 竪穴建物跡を掘り込み、第 18 号 掘立柱建物、第 216 号 土坑に掘り込まれている。

**規模と形状** 長軸 3.02 m、短軸 2.91 m の方形で、主軸方向は N - 0° - E である。壁は高さ 55 ~ 58 cm で、ほぼ直立、もしくは外反している。

**床** 平坦な貼床で、北東隅部、南東隅部の壁際を除いて踏み固められている。貼床は、第 13・14 層を 5 ~ 15 cm ほど埋め戻して構築されている。壁溝が、北壁及び南壁下の一部を除いて巡っている。

**竈** 北壁の東部に付設されている。焚口部から煙道部までは 120 cm、燃焼部の幅は 58 cm である。燃焼部は床面から 10 cm ほど掘りくぼめられ、第 11・12 層で埋め戻されている。袖部は、床面及び第 12 層上面に第 9・10 層を積み上げて構築されている。火床面は第 11・12 層の上面で、第 11 層は火熱を受けて赤変硬化している。火床面の北端部からは、深さ 10 cm のピットが確認でき、第 8 層で埋め戻されていることから、支脚が据えつけられていた可能性がある。煙道部は壁外に 60 cm ほど掘り込まれ、第 9 層が貼り付けられている。火床面からは外傾している。第 7 層は煙道部からの流入土、第 5・6 層は天井部及び袖部内壁の崩落土、第 2 ~ 4 層は

天井部及び煙道部の崩落土で、自然に崩壊している。第1層は自然崩壊後の覆土である。

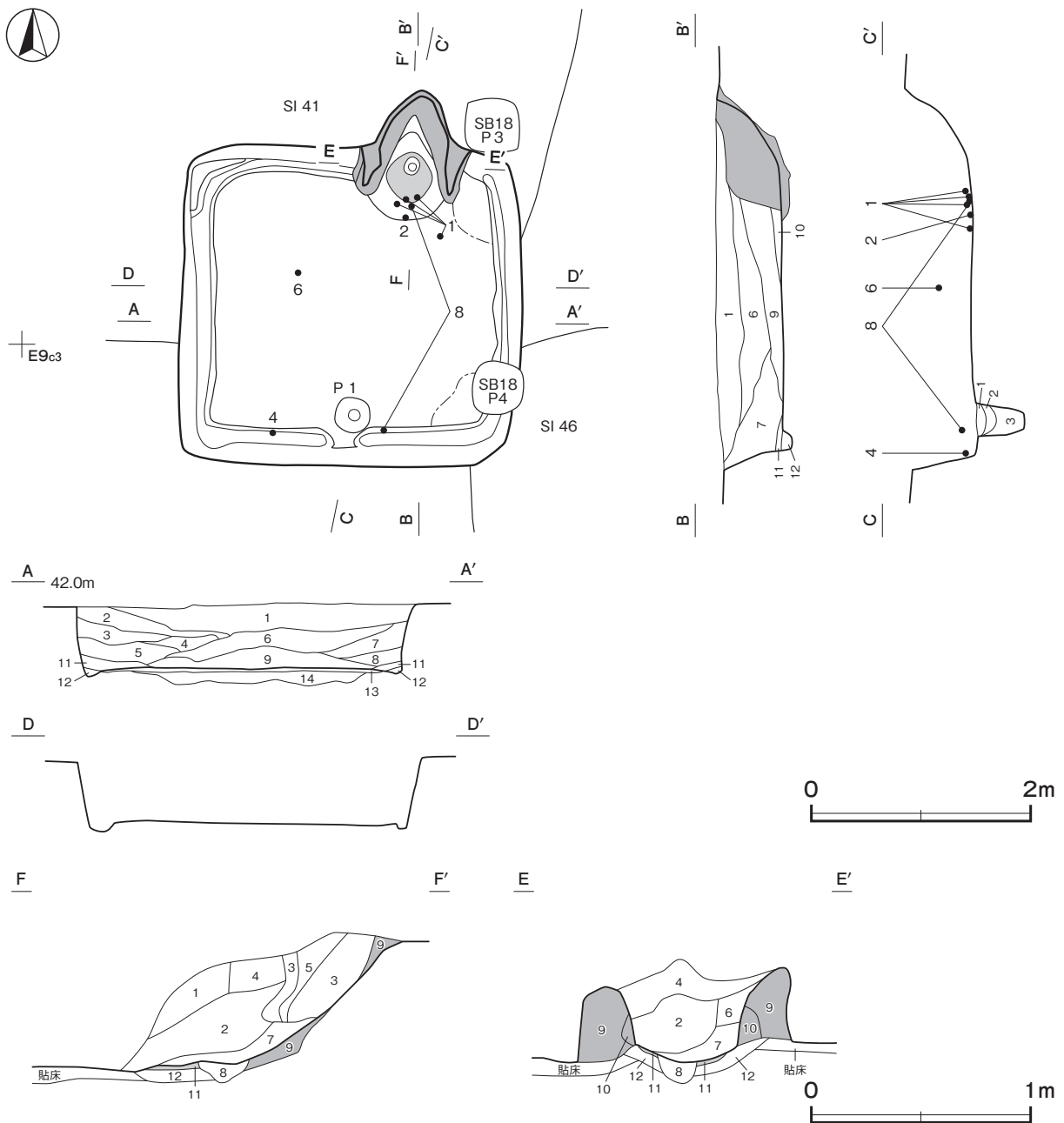
竈土層解説

- |        |                            |         |                               |
|--------|----------------------------|---------|-------------------------------|
| 1 暗褐色  | ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子少量      | 8 黒褐色   | 焼土ブロック・炭化物少量, ロームブロック微量       |
| 2 暗褐色  | 粘土ブロック中量, ロームブロック・焼土粒子微量   | 9 橙褐色   | 粘土ブロック中量                      |
| 3 黒褐色  | ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量   | 10 明褐色  | 粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量, ロームブロック微量 |
| 4 浅黄褐色 | 粘土ブロック少量, ロームブロック・焼土ブロック少量 | 11 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック微量           |
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック・粘土ブロック中量, ロームブロック微量 | 12 暗褐色  | ロームブロック少量                     |
| 6 暗褐色  | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量      |         |                               |
| 7 黒褐色  | 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子微量       |         |                               |

ピット P1は深さ48cmで、配置から出入口施設に伴うピットである。第1～3層は、柱材を抜き取った後の覆土である。

ピット土層解説

- |       |           |       |                  |
|-------|-----------|-------|------------------|
| 1 褐色  | ロームブロック少量 | 3 暗褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量 |       |                  |



第274図 第58号竪穴建物跡実測図

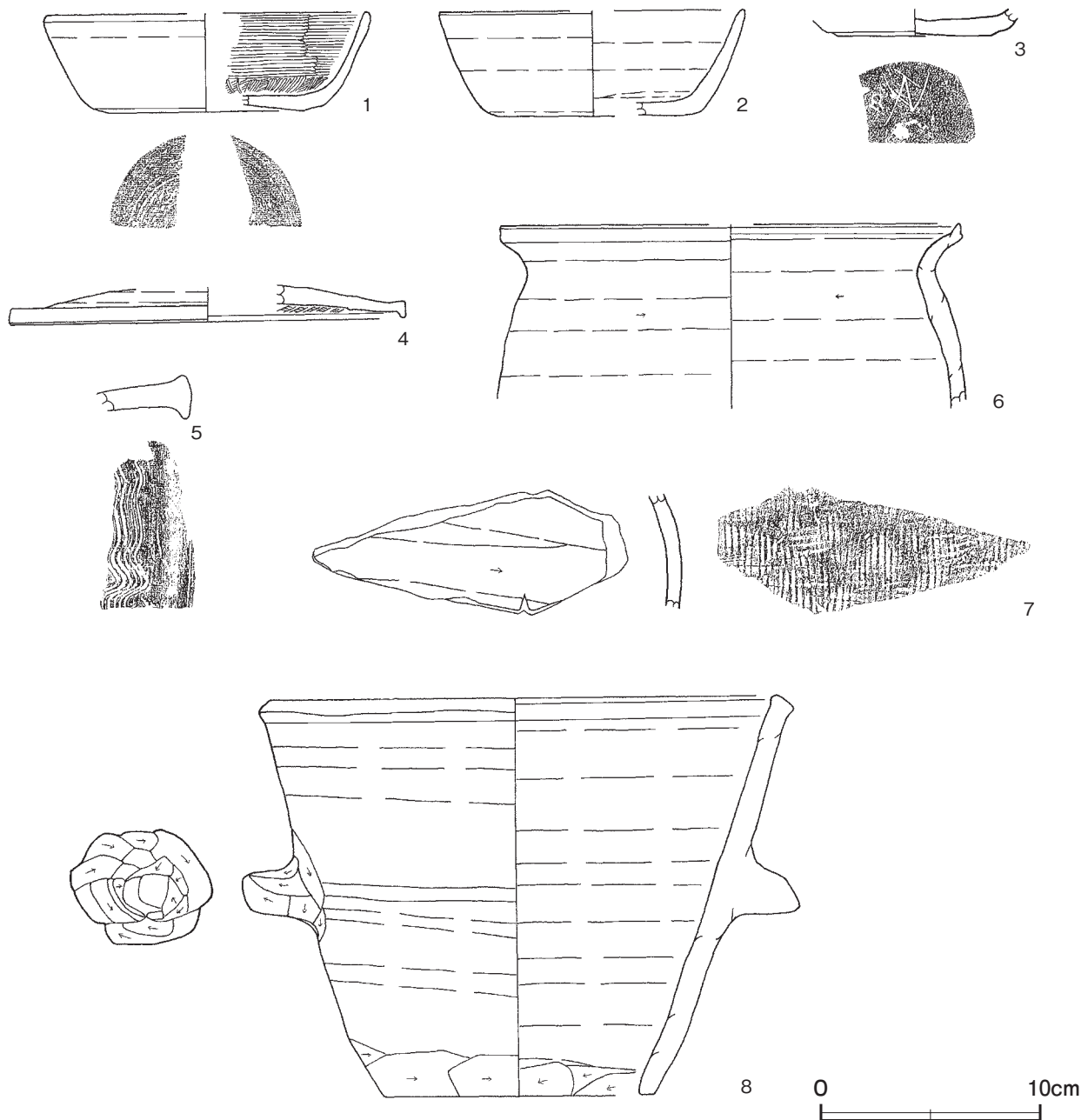


**覆土** 12層に分層できる。第11・12層はロームブロックが含まれていないことから、自然堆積である。第1～10層はロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第13・14層は貼床の構築土である。

**土層解説**

- |       |                       |        |                        |
|-------|-----------------------|--------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、粘土ブロック微量    | 8 黒褐色  | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量  |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量    | 9 黒色   | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量   |
| 3 褐色  | ロームブロック・焼土ブロック微量      | 10 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量   |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック微量    | 11 黒色  | ローム粒子少量                |
| 5 黒褐色 | ロームブロック・粘土ブロック少量      | 12 褐色  | ローム粒子中量                |
| 6 褐色  | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 | 13 黒褐色 | ロームブロック中量（第14層より締まり強い） |
| 7 褐色  | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量  | 14 黒褐色 | ロームブロック中量（第13層より締まり弱い） |

**遺物出土状況** 土師器片 642点（坏5，蓋1，甕類634，甑2），須恵器片 29点（坏6，蓋2，甕類21），石器1点（砥石），土製品4点（竈材）のほか、縄文土器片 70点（深鉢，弥生土器片 31点（壺類），陶器片 1点（播鉢）が、竈周辺を密にして全域から出土している。多くの土器は中型の破片や小片で、接合関係が良好である



第275図 第58号竪穴建物跡出土遺物実測図

ことから、埋め戻しに伴って一括で投棄されたと考えられる。

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉に比定できる。

第58号竪穴建物跡出土遺物観察表（第275図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[14.6]	4.5	[8.8]	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	体部内面横位の磨き 底部外面回転ヘラ削り 底部内面二方向の磨き 内面黒色処理	竈覆土 下層中	40% 煤付着
2	土師器	坏	[13.8]	4.8	[8.5]	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ 底部一方向の削り	竈覆土 下層中	20% 煤付着
3	須恵器	坏	-	(1.2)	[7.0]	長石・石英・雲母・針状物質・黒色粒子	黄 灰	良好	ロクロナデ 底部一方向の削り、「入又」もしくは「入文」のヘラ書き	覆土中	10% 木葉下窯
4	土師器	蓋	[18.0]	(1.6)	-	長石・石英・雲母・白色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ 体部内面二方向の磨き後口縁部に沿って円状の磨き 内面黒色処理	覆土下層	30% 煤付着
5	須恵器	鉢	-	-	-	長石・石英・雲母・針状物質・黒色粒子	褐 灰	普通	ロクロナデ 口縁部外面6条1単位の波状文	覆土中	10% 木葉下窯
6	土師器	甕	[20.8]	(8.4)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい褐	普通	体部ロクロナデ 口縁部横ナデ	覆土中層	10% 煤付着
7	須恵器	甕	-	-	-	長石・石英・雲母	黄 灰	普通	体部外面格子状叩き 体部内面横位のナデ	覆土中	10% 新治窯
8	土師器	甗	23.2	18.1	12.1	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部ロクロナデ 体部外面把手貼付後削り、下 端部横位の削り 体部内面下端部横位の削り	覆土下層	60% PL97

### 第59号竪穴建物跡（第276～278図 PL33）

調査年度 平成26年度

位置 調査区東部のE9c2区、標高42mほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第39B・60号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.77m、短軸4.40mの方形で、主軸方向はN-21°-Eである。壁は高さ20～42cmで、ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で、四隅部の壁際を除いて踏み固められている。貼床は、第9・10層を10～20cmほど埋め戻して構築されている。壁溝が、南西隅部の壁下を除いて巡っている。

竈 北壁の中央部に付設されている。焚口部から煙道部までは140cm、燃焼部の幅は60cmである。燃焼部は床面から20cmほど掘りくぼめられ、第8・9層で埋め戻されている。袖部は、芯材として加工された凝灰質泥岩を深さ15cmのピットに第8層で固定した後、床面及び第7層に第6層を積み上げて構築されている。火床面は第8層の上面で、火熱を受けて赤変硬化している。第4・5層は煙道部からの流入土、第2・3層は焼土ブロックや粘土ブロックが含まれていることから、天井部内壁や袖部内壁の崩落土、第1層は焼土ブロック・粘土ブロックが含まれる天井部の崩落土で、自然に崩壊している。

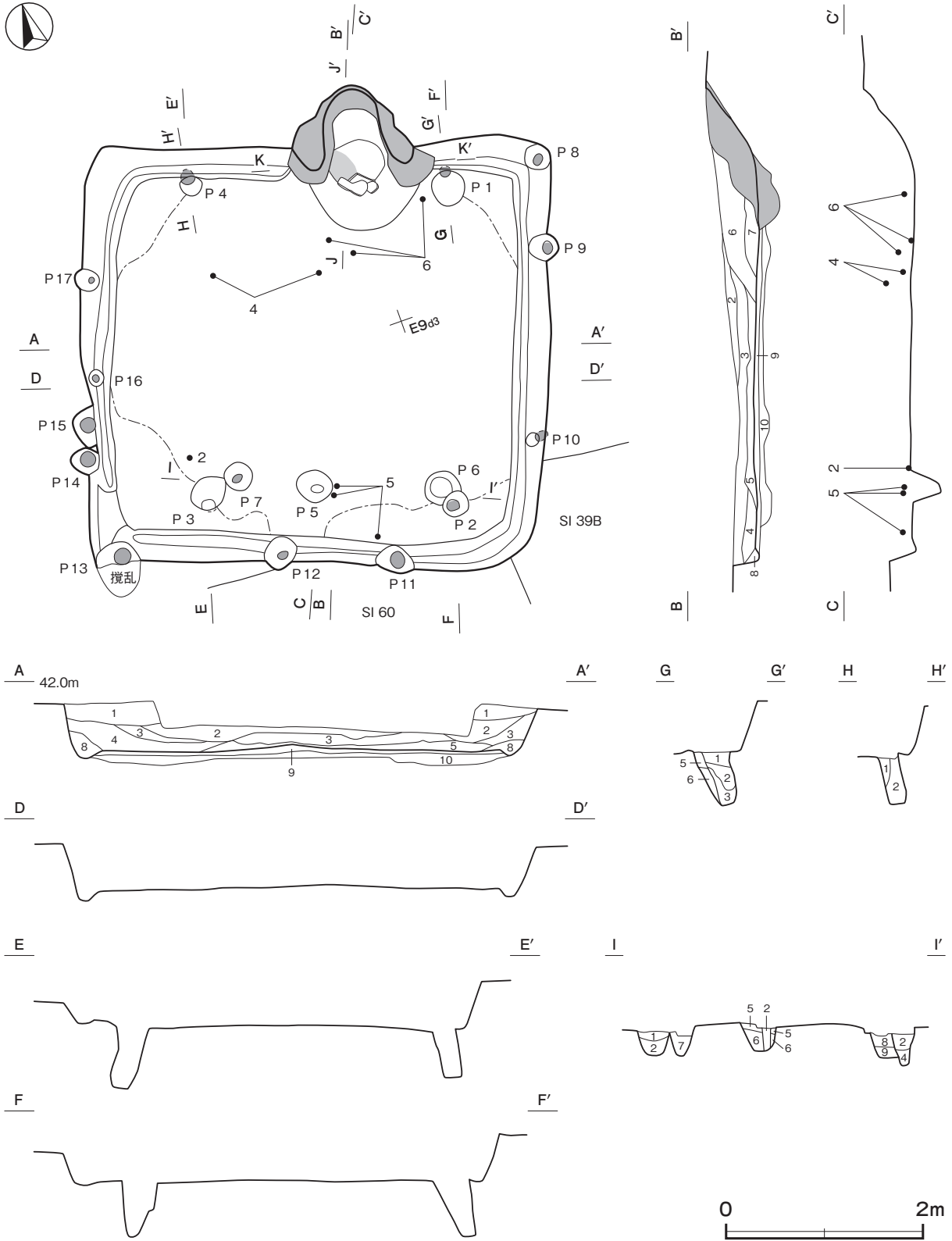
#### 電土層解説

- |                          |                                |
|--------------------------|--------------------------------|
| 1 浅黄橙色 粘土ブロック多量、焼土ブロック少量 | 6 浅黄橙色 粘土ブロック多量、焼土ブロック少量       |
| 2 にぶい黄褐色 焼土ブロック少量        | 7 黒褐色 粘土ブロック中量                 |
| 3 明赤褐色 焼土ブロック多量、粘土ブロック少量 | 8 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック少量      |
| 4 黒褐色 焼土ブロック・炭化物・灰少量     | 9 暗褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック少量、炭化物微量 |
| 5 赤褐色 粘土ブロック多量、焼土ブロック少量  |                                |

ピット 17か所。P1～P4・P6・P7は深さ30～40cmで、配置から主柱穴である。第7～9層はP6・P7の覆土で、第8・9層は埋土、第7層は柱材を抜き取った後の覆土である。P7はP3に、P6はP2に掘り込まれていることから、立て替えられている。P5は深さ28cmで、出入口施設に伴うピットである。第5・6層は埋土、第1～4層は柱材を抜き取った後の覆土である。P8～P17は深さ28～63cmで、配置から壁柱穴の可能性があるが、明確にできなかった。P1・P2・P4・P7・P8～P17の底面で、柱の当たりを確認した。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- |          |                     |        |                            |
|----------|---------------------|--------|----------------------------|
| 1 黒褐色    | ロームブロック少量           | 6 黄褐色  | ロームブロック中量                  |
| 2 暗褐色    | ロームブロック少量, 粘土ブロック微量 | 7 黒褐色  | 焼土ブロック少量, ロームブロック・粘土ブロック微量 |
| 3 褐色     | ロームブロック少量, 粘土ブロック微量 | 8 浅黄橙色 | ロームブロック少量                  |
| 4 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量           | 9 黒褐色  | ロームブロック中量                  |
| 5 黒褐色    | ロームブロック微量           |        |                            |



第276図 第59号竪穴建物跡実測図

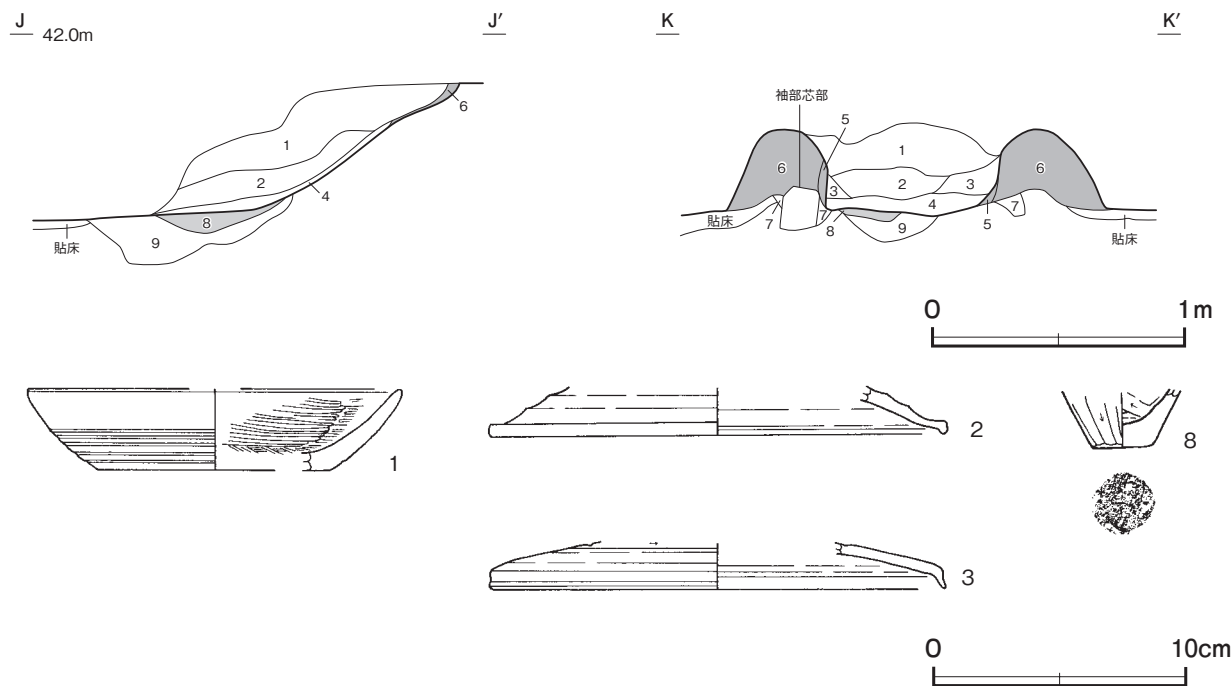
**覆土** 8層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第9・10層は貼床の構築土である。

**土層解説**

- |       |                              |        |                       |
|-------|------------------------------|--------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック微量                    | 7 黒褐色  | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量     | 8 暗褐色  | ロームブロック少量             |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量, 粘土ブロック微量          | 9 暗褐色  | ロームブロック中量, 粘土ブロック微量   |
| 4 褐灰色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量        | 10 黒褐色 | ロームブロック中量             |
| 5 黒褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量, ロームブロック微量     |        |                       |
| 6 褐灰色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量 |        |                       |

**遺物出土状況** 土師器片 462点 (坏6, 甕類455, ミニチュア土器1), 須恵器片 12点 (坏7, 蓋4, 甕類1), 石製品2点 (竈材) のほか, 縄文土器片 63点 (深鉢), 弥生土器片 16点 (壺類) が, 主に竈やP5周辺に散在している。多くの土器は小片で, 接合関係に乏しいことから, 破損したものが廃絶に伴って投棄されたと考えられる。

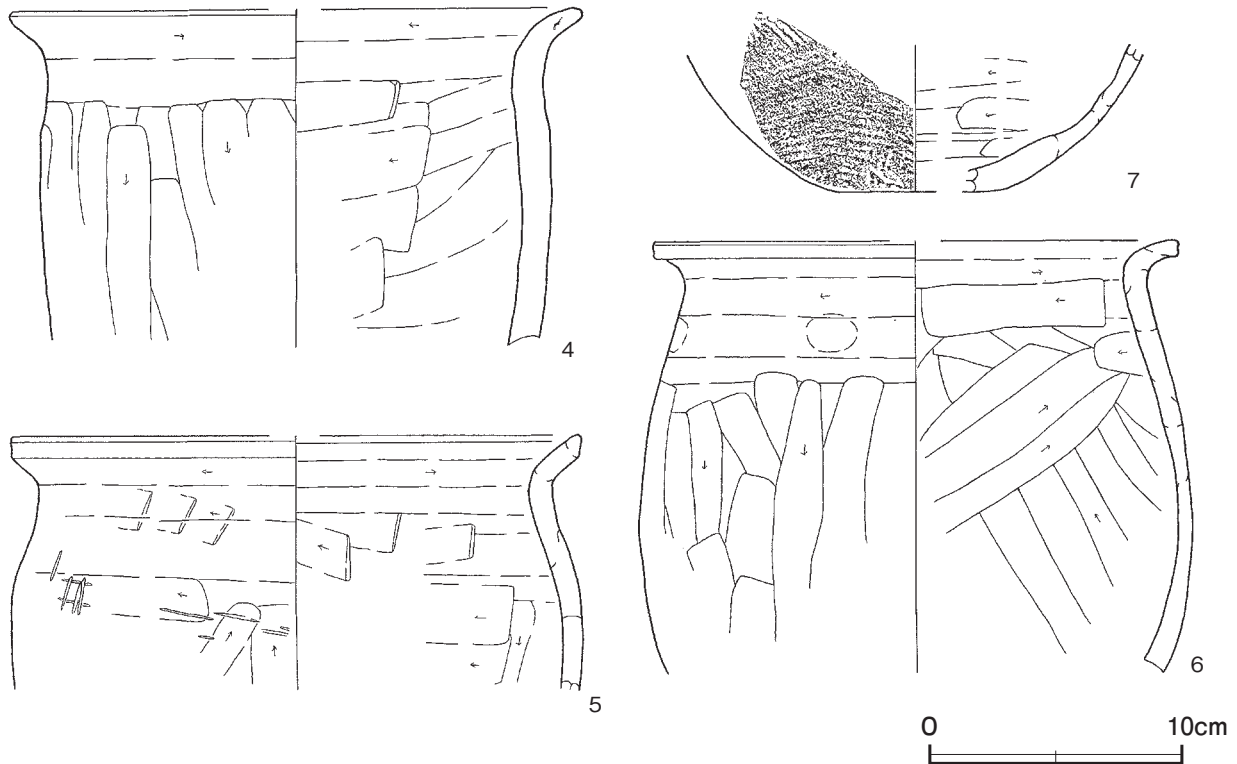
**所見** 時期は, 出土土器から8世紀後葉に比定できる。



第277図 第59号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第59号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第277・278図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[15.0]	3.3	[9.2]	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	体部外面ロクロの回転による螺旋状の線刻 体部内面横位の磨き 底部外面一方向の削り 底部内面二方向の磨き 内面黒色処理	覆土中	20%
2	須恵器	蓋	[18.1]	(2.0)	-	長石・石英・雲母	黄灰	普通	天井部ロクロナデ	覆土下層	10% 新治窯
3	須恵器	蓋	[18.1]	(1.9)	-	長石・石英・雲母・針状物質	灰オリーブ	良好	天井部ロクロナデ 天井部回転ヘラ削り	覆土中	20% 木葉下窯
4	土師器	甕	[22.5]	(13.4)	-	長石・石英・雲母・針状物質	褐灰	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の削り 体部内面横位のヘラナデ	覆土中層 覆土下層	20% 煤付着
5	土師器	甕	[22.4]	(10.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部ロクロナデの後縦・横位のナデ, 「井」のヘラ書き 体部内面縦・横位のナデ	覆土下層	20% 煤付着
6	土師器	甕	[20.8]	(17.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部ロクロナデの後縦位の削り 体部内面ハケ目状の斜位のナデ後横位のナデ 指頭痕	覆土下層	30% 煤付着
7	須恵器	甕	-	(5.8)	[7.1]	長石・石英・雲母・針状物質	暗灰黄	良好	体部外面横位の平行叩き後斜位の平行叩き, 下部一方向の削り 体部内面横位のナデ	覆土中	5% 木葉下窯。
8	土師器	ミニチュア土器	-	(2.2)	2.3	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面縦位の削り 体部内面斜位のナデ 底部一方向の削り	覆土中	30%



第 278 図 第 59 号竪穴建物跡出土遺物実測図

### 第 91 号竪穴建物跡 (第 279 図)

調査年度 平成 27 年度

位置 調査区中央部の E 5h1 区, 標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

規模と形状 東半部が調査区域外に延びていることから, 南北軸は 3.65 m で, 東西軸は 1.32 m しか確認できなかった。方形もしくは長方形と推定でき, N-3°-W と推定できる。壁は高さ 36cm で, ほぼ直立している。

床 平坦な貼床である。貼床は, 第 9 層を 10~15cm ほど埋め戻して構築されている。掘方は, 西半部の北部が南部より深く掘り込まれている。

ピット P 1 は深さ 45cm で, 性格は支柱穴の可能性はあるが, 不明である。

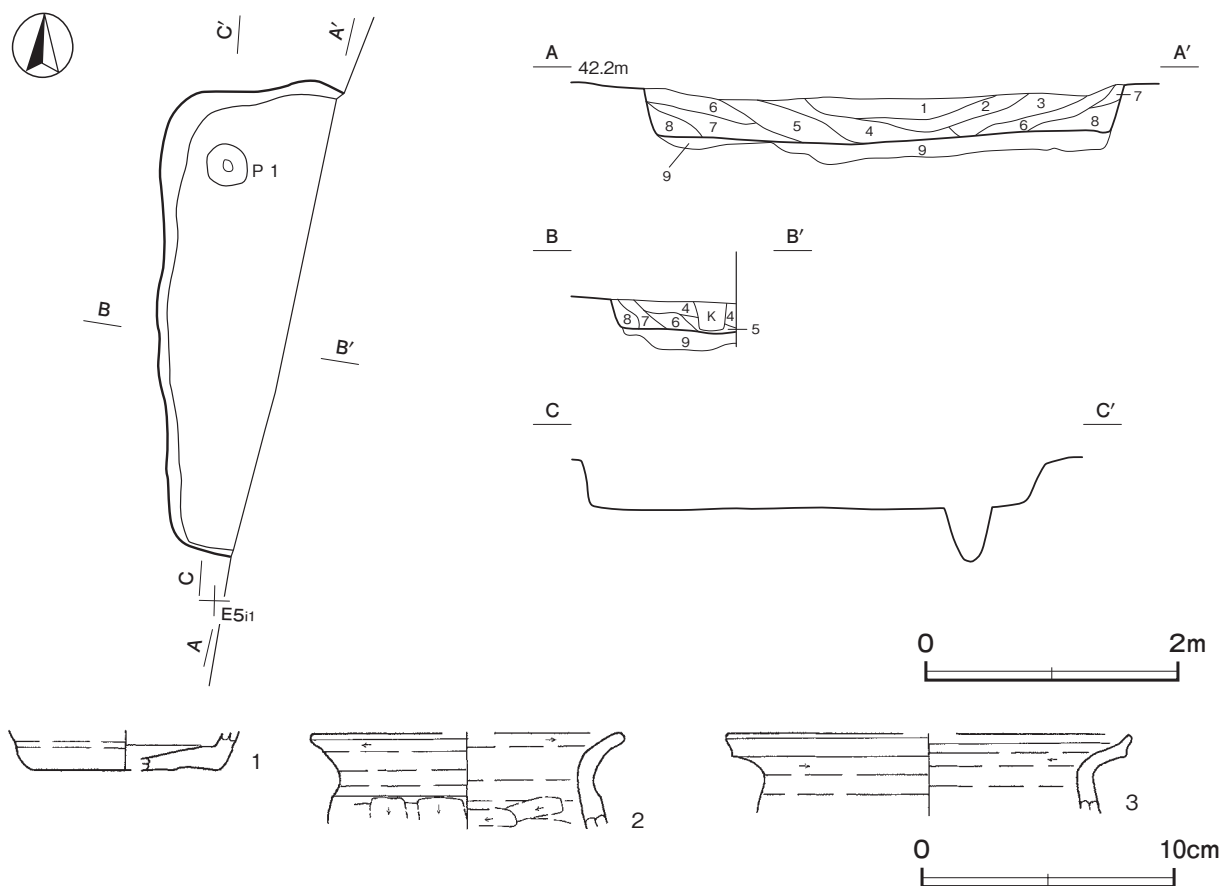
覆土 8 層に分層できる。第 2~8 層はロームブロックが含まれる不規則な堆積をしていることから, 埋め戻されている。第 1 層は, 埋め戻された後の自然堆積である。第 9 層は貼床の構築土である。

#### 土層解説

- |        |                          |          |                   |
|--------|--------------------------|----------|-------------------|
| 1 黒褐色  | ローム粒子少量, 焼土ブロック・粘土ブロック微量 | 6 褐色     | ロームブロック中量, 焼土粒子微量 |
| 2 灰黄褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量      | 7 にぶい黄褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色  | ロームブロック少量, 焼土粒子微量        | 8 暗褐色    | ロームブロック少量         |
| 4 暗褐色  | ロームブロック微量                | 9 黒褐色    | ロームブロック・粘土ブロック微量  |
| 5 暗褐色  | ロームブロック少量                |          |                   |

遺物出土状況 土師器片 44 点 (甕類), 須恵器 1 点 (坏) のほか, 縄文土器片 1 点 (深鉢), 弥生土器片 1 点 (壺類) が, 西半部から出土している。多くの土器は小片で, 接合関係に乏しいことから, 破損したものが廃絶に伴って投棄されたと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から 8 世紀後葉に比定できる。



第 279 図 第 91 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 91 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 279 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	-	(1.6)	[7.6]	長石・石英・針状物質	明黄褐	普通	体部ロクロナデ 底部ヘラ切りを残す一方のナデ	覆土中	10% 木葉下窯
2	土師器	小形甕	[12.2]	(3.7)	-	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	口縁部・体部ロクロナデ 体部外面縦位のナデ, 内面横位のナデ	覆土中	5%
3	土師器	小形甕	[16.0]	(3.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部・体部ロクロナデ	覆土中	5%

### 第 103 号竪穴建物跡 (第 280・281 図)

調査年度 平成 27 年度

位置 調査区西部の C 2f9 区, 標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

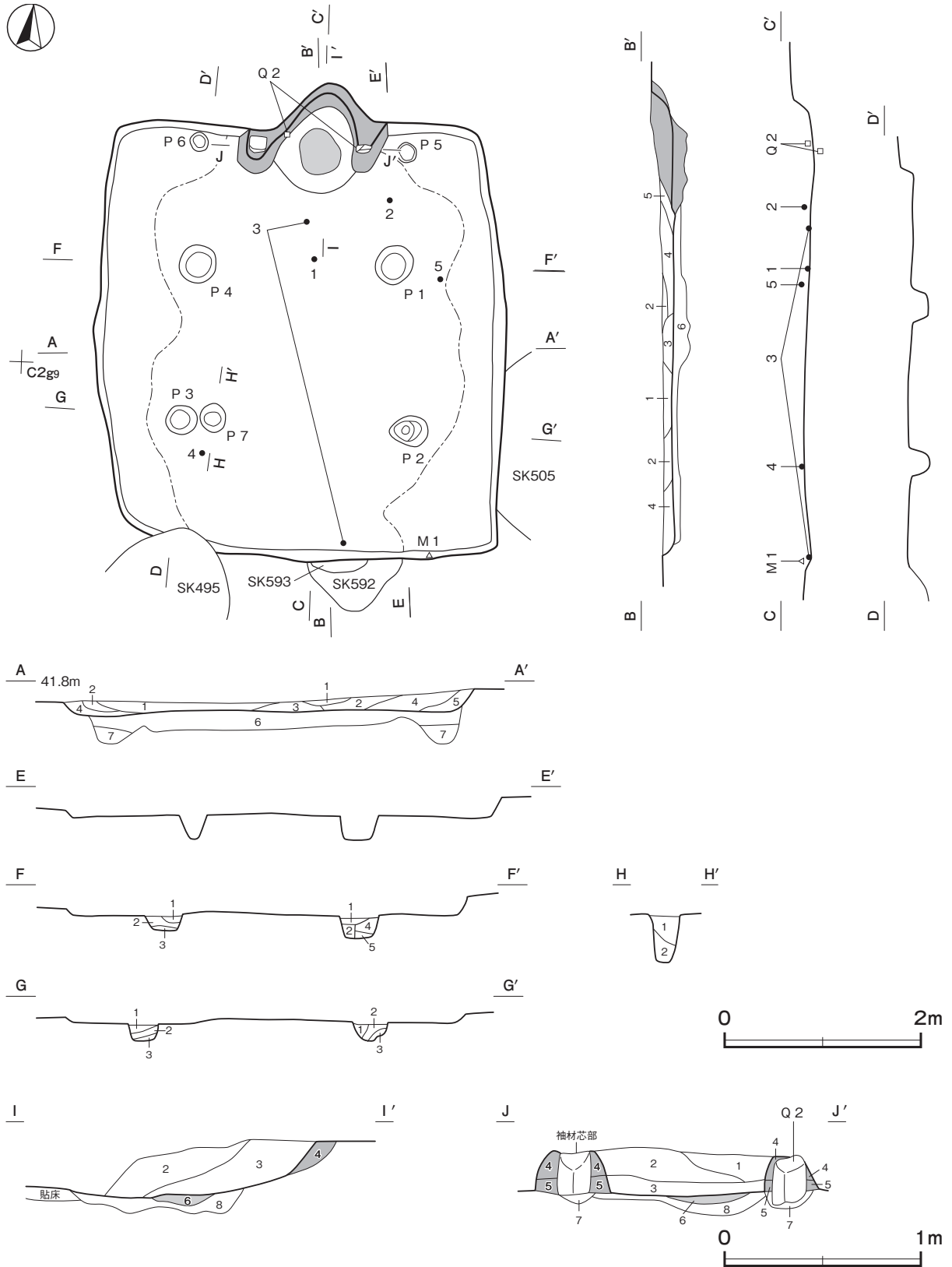
重複関係 第 505・592・593 号土坑を掘り込み, 第 495 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 4.43 m, 短軸 4.20 m の方形で, 主軸方向は N - 2° - W である。壁は高さ 5 ~ 21cm で, ほぼ直立している。

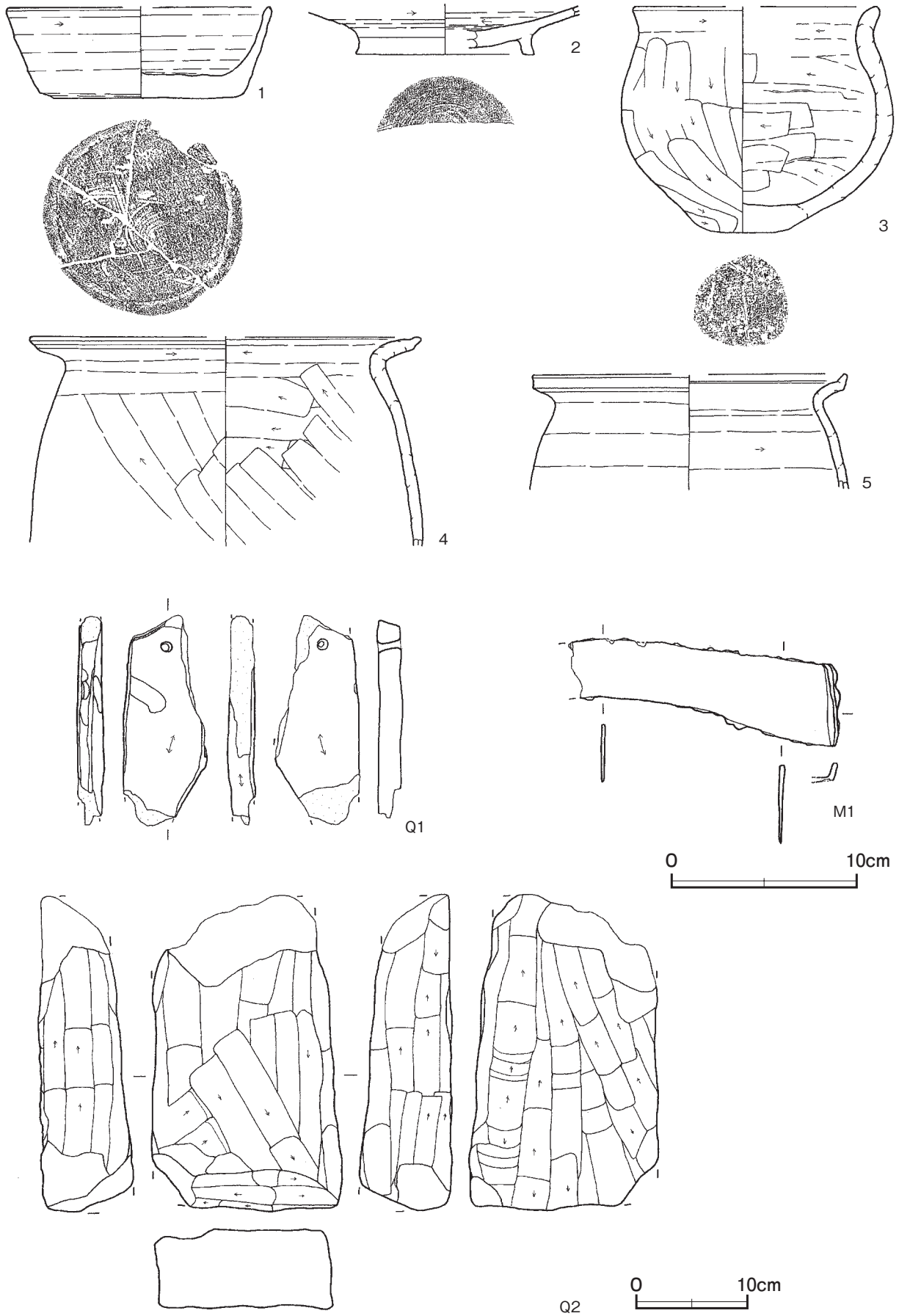
床 平坦な貼床で, 中央部及び竈前庭部, 南壁際の一部が踏み固められている。貼床は, 第 6・7 層を 5 ~ 10cm ほど埋め戻して構築されている。掘方の形状は, 壁際が掘り込まれる回の字状である。

竈 北壁の中央部に付設されている。焚き口部から煙道部までは 110cm, 燃焼部の幅は 60cm である。燃焼部は床面から 10cm ほど掘りくぼめられ, 第 6 ~ 8 層で埋め戻されている。袖部は, 芯材として加工された凝灰質泥岩を第 7 層で固定した後, 第 7・8 層上面に第 4・5 層を積み上げて構築されている。火床面は第 8・6 層

の上面で、第6層は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に50cmほど掘り込まれ、煙道部は壁外に50cmほど掘り込まれ、第4層が貼り付けられている。火床面からは、外傾している。第1～3層にはロームブロックや粘土ブロックが含まれていることや、Q 2が燃焼部に飛散していたことから壊されている。



第 280 図 第 103 号 竪穴建物跡実測図



第 281 图 第 103 号竖穴建物跡出土遺物実測図



### 竈土層解説

- |                                      |                          |
|--------------------------------------|--------------------------|
| 1 灰黄褐色 粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量            | 5 暗赤褐色 粘土ブロック多量          |
| 2 にぶい黄褐色 粘土ブロック中量, 焼土ブロック少量, ローム粒子微量 | 6 暗赤褐色 焼土ブロック中量, ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子中量                 | 7 褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック少量 |
| 4 灰黄褐色 粘土ブロック中量, 焼土粒子少量              | 8 黒褐色 ロームブロック少量          |

**ピット** 7か所。P1～P4・P7は深さ15～50cmで、配置から主柱穴である。P7の覆土は、第1・2層が柱材を抜き取った後の覆土である。P1～P4の覆土は、第4・5層が埋土、第1～3層が柱材を抜き取った後の覆土である。P3とP7の重複関係は不明である。P5・P6はともに深さ15cmで、竈の袖部付近に配置されていることから、竈との関連性が考えられるが、性格は不明である。

### P1～P4土層解説

- |                              |                 |
|------------------------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量        | 4 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 2 灰褐色 ローム粒子少量, 粘土ブロック・焼土粒子微量 | 5 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 3 褐色 ローム粒子少量, 粘土ブロック・焼土粒子微量  |                 |

### P7土層解説

- |                 |                       |
|-----------------|-----------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量 | 2 褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量 |
|-----------------|-----------------------|

**覆土** 5層に分層できる。ロームブロックが含まれる不規則な堆積であることから、埋め戻されている。第6・7層は貼床の構築土である。

### 土層解説

- |                            |                              |
|----------------------------|------------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック微量            | 5 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量       |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子少量    | 6 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 3 にぶい黄褐色 粘土ブロック中量, ローム粒子微量 | 7 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量         |
| 4 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量     |                              |

**遺物出土状況** 土師器片279点(坏2, 甕類277), 須恵器片9点(坏7, 盤1, 甕類1)のほか、縄文土器片24点(深鉢), 弥生土器片6点(壺類)が、全域に散在している。多くの土器は大型や中型の破片で、接合関係が良好であることから、埋め戻しに伴って一括で投棄されたと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から8世紀後葉に比定できる。

## 第103号竪穴建物跡出土遺物観察表(第281図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	[14.2]	4.9	9.5	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部・体部ロクロナデ 底部多方向の削り	覆土下層	80%
2	須恵器	盤	-	(2.6)	[9.6]	長石・石英・針状物質	暗灰黄	良好	体部ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後高台部貼付	覆土中層	60% PL90 木葉下窯
3	土師器	小形甕	[13.0]	12.2	4.2	長石・石英・針状物質・細礫	明赤褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の削り, 内面横位のナデ 底部一方向の削り	覆土下層	50% 内面煤付着
4	土師器	甕	[21.0]	(11.3)	-	長石・石英・細礫	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面斜位のナデ, 内面横・斜位のナデ	覆土下層	10%
5	土師器	甕	[16.7]	(6.2)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部ロクロナデ	覆土中層	10% 煤付着

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	砥石	(11.4)	(4.6)	1.6	(95.33)	雲母片岩	両端部欠損 砥面4面 二方向からの穿孔1か所	覆土中	PL104
Q2	袖部芯材	(28.5)	17.2	8.4	(2.370)	凝灰質泥岩	上面欠損 側面4面縦・斜位の削り調整 下面一方向の削り	竈覆土中 袖構築土中	PL106

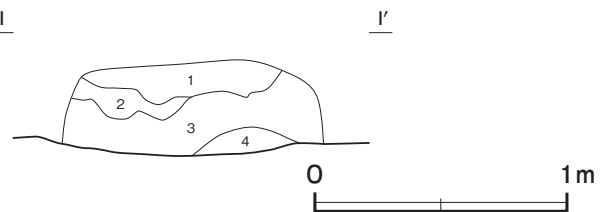
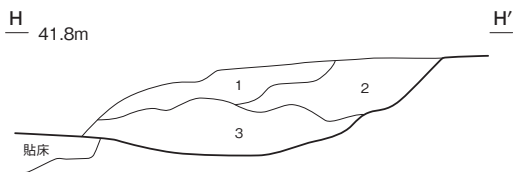
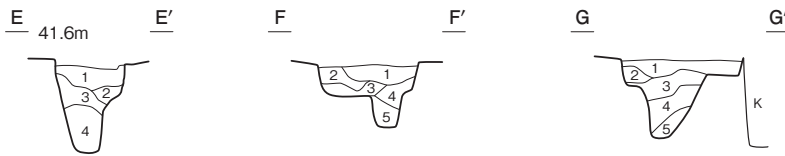
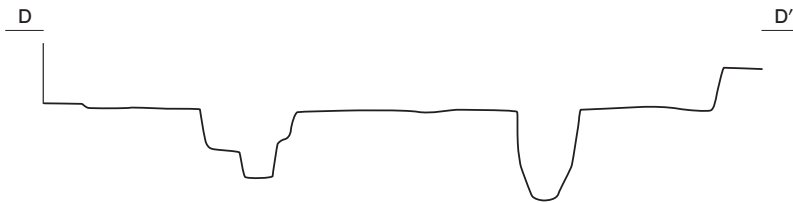
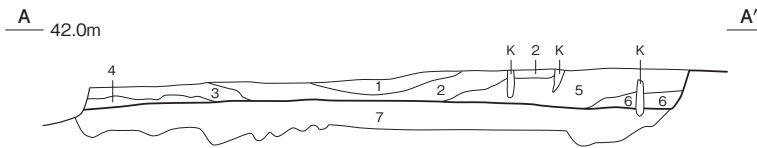
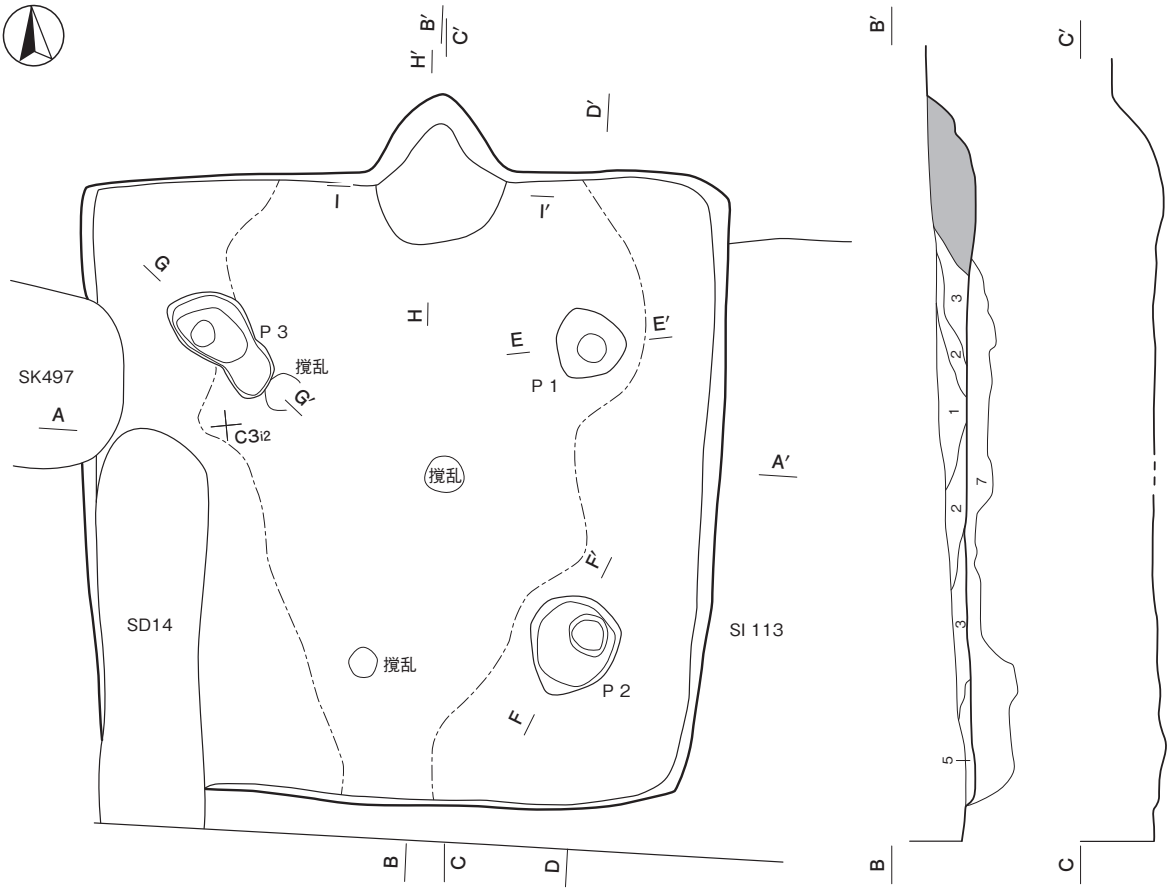
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1	鎌	(14.4)	5.8	(0.2~5.8)	(64.33)	鉄	先端部欠損 刃部断面三角形 柄との接置部L字状に屈折	覆土上層	PL108

## 第114号竪穴建物跡(第282・283図)

**調査年度** 平成27年度

**位置** 調査区西部のC3i2区, 標高42mほどの台地平坦面に位置している。

**重複関係** 第113号竪穴建物跡を掘り込み, 第14号溝・第497号土坑に掘り込まれている。



第 282 图 第 114 号竖穴建物迹实测图

**規模と形状** 一辺 5.03 m の方形で、主軸方向は N - 6° - E である。壁は高さ 4 ~ 20cm で、ほぼ直立している。  
**床** 平坦な貼床で、東壁及び西壁際を除いて踏み固められている。貼床は、第 7 層を 5 ~ 40cm ほど埋め戻して構築されている。

**竈** 北壁の中央部に付設されている。焚き口部から煙道部までは 110cm で、燃焼部の幅は 50cm ほどと推定できる。燃焼部は床面から 5 cm ほど掘りくぼめられ、地山面に火床面が構築されている。火床面は火熱を受けているものの、赤変硬化はしていない。煙道部は壁外に 60cm ほど掘り込まれ、火床面から外傾している。第 1 ~ 4 層にはロームブロックが含まれていることや袖部が確認できなかったことから、壊されている。

**竈土層解説**

- 1 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 粘土ブロック・焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量, 焼土粒子微量

**ピット** 3 か所。P 1 ~ P 3 は深さ 50 ~ 70cm で、配置から支柱穴である。第 1 ~ 5 層は柱材を抜き取った後の覆土である。

**ピット土層解説 (各ピット共通)**

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 3 にぶい黄褐色 七本桜軽石ブロック中量, ロームブロック少量
- 4 黄褐色 粘土ブロック多量
- 5 暗褐色 ロームブロック・七本桜軽石ブロック少量

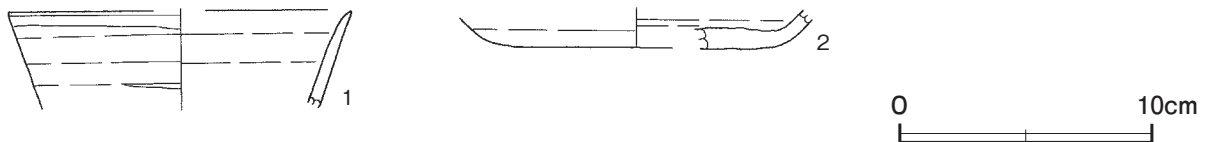
**覆土** 6 層に分層できる。ロームブロックが含まれる堆積をしていることから、埋め戻されている。第 7 層は貼床の構築土である。

**土層解説**

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 焼土粒子少量, ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量
- 6 灰黄褐色 粘土ブロック中量, ロームブロック・焼土粒子少量
- 7 褐色 ロームブロック少量

**遺物出土状況** 土師器片 442 点 (坏 34, 鉢類 1, 瓶類 1, 甕類 404, 甌 1, ミニチュア土器 1), 須恵器片 17 点 (坏 11, 蓋 1, 甕類 5) のほか、縄文土器片 147 点 (深鉢), 自然遺物 1 点 (鹿角) が、全域に散在している。多くの土器は小片で、接合関係に乏しいことから、破損したものが廃絶に伴って投棄されたと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から 8 世紀前葉に比定できる。



第 283 図 第 114 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 114 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 283 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	-	(15)	[11.1]	長石・石英・黒色粒子	灰黄	良好	体部ロクロナデ 底部多方向の削り	覆土中	10% 堀ノ内窯
2	須恵器	坏	[13.6]	(39)	-	長石・石英・雲母・針状物質	黄灰	良好	口縁部・体部ロクロナデ	覆土中	10% 木葉下窯

**第 115 号竪穴建物跡 (第 284 ~ 286 図 PL34・35)**

**調査年度** 平成 27・28 年度

**位置** 調査区西部の C 3i4 区、標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

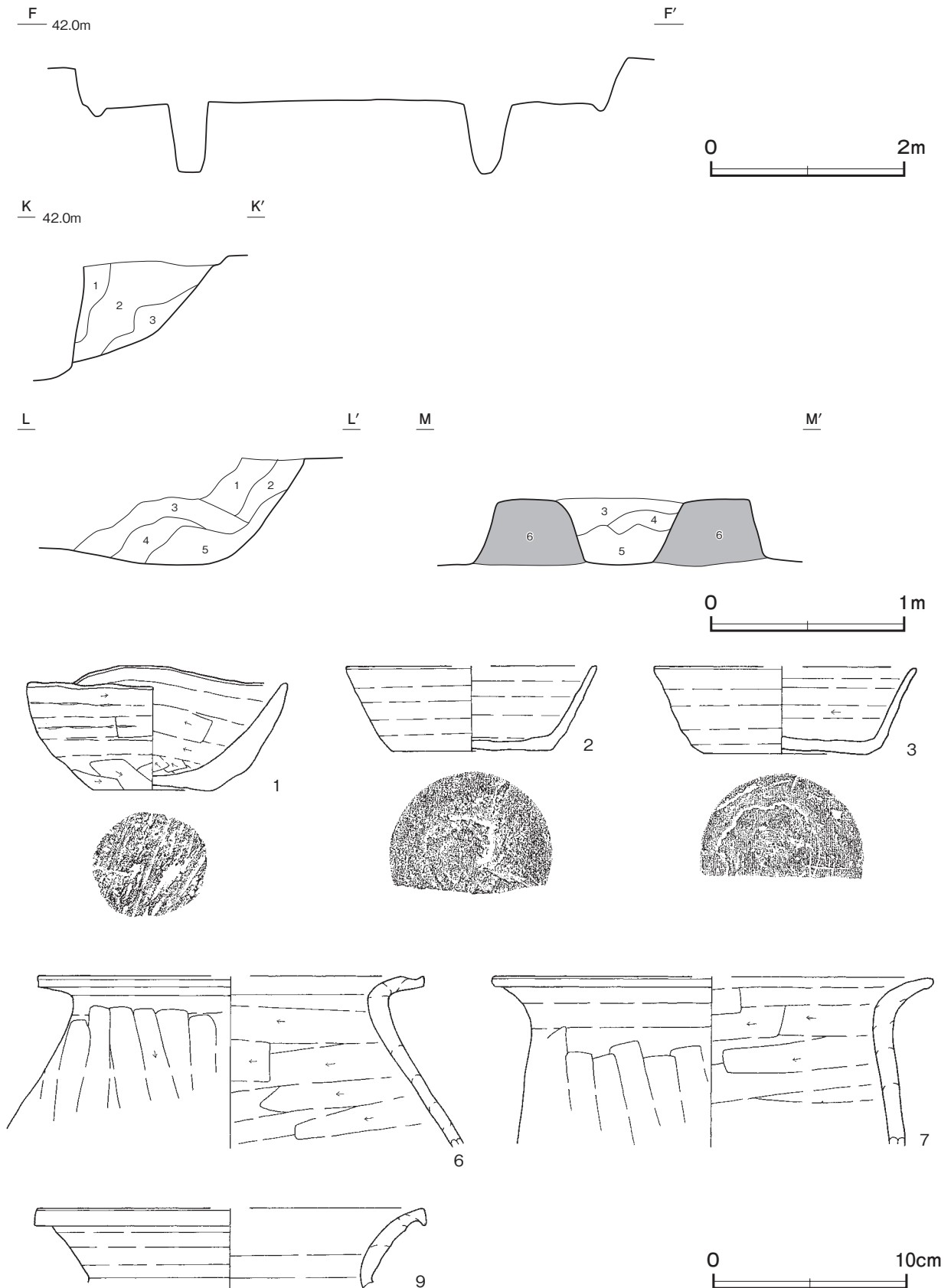
**規模と形状** 長軸 5.64 m, 短軸 5.42 m の方形で、主軸方向は N - 94° - E である。壁は高さ 42 ~ 64cm で、ほ



第 284 图 第 115 号竖穴建物迹实测图

ば直立している。

床 平坦な貼床で、壁際の一部を除いて踏み固められている。貼床は、第10層を5～25cmほど埋め戻して構



第285図 第115号竪穴建物跡・出土遺物実測図

築されている。壁溝が、北壁及び南壁下の一部を除いて巡っている。

**竈** 2か所。竈1は、北壁の中央部に付設されており、煙道部のみを確認した。煙道部は壁外に80cmほど掘り込まれ、火床面からは外傾していたものと推定できる。覆土は第1～3層に分層でき、ロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから、埋め戻されている。袖部が確認できなかったことから、竈1から竈2へ造り替えられている。竈2は、東壁中央部の南寄りに付設されている。焚口部から煙道部までは114cm、燃焼部の幅は50cmである。燃焼部は床面から10cmほど掘りくぼめられ、地山面に構築されている。袖部は、床面及び地山の上面に第6層を積み上げて構築されている。火床面は地山の上面で、火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に50cmほど掘り込まれ、火床面から外傾している。第1～4層にはロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから、壊されている。

**竈1土層解説**

- 1 黄褐色 粘土ブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量

**竈2土層解説**

- 1 にぶい黄褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 2 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化物中量
- 3 黒褐色 粘土ブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 灰黄褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量
- 6 にぶい黄褐色 ロームブロック・粘土ブロック中量

**ピット** 5か所。P1～P5は深さ68～86cmで、配置から支柱穴である。P5の覆土は第1～4層が埋土である。P5はP3に掘り込まれていることから、立て替えられている。P1～P4の覆土は、第2～5層が埋土、第1層が柱痕跡である。P4の底面で、柱の当たりを確認した。

**P1～P4土層解説**

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 にぶい黄褐色 ロームブロック中量
- 5 黒褐色 ロームブロック微量

**P5土層解説**

- 1 にぶい黄褐色 粘土ブロック多量, ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量
- 3 灰黄褐色 粘土ブロック多量, ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量, 粘土ブロック微量

**覆土** 9層に分層できる。第2～9層はロームブロックが含まれる不規則な堆積をしていることから、埋め戻されている。第1層は、埋め戻された後の自然堆積である。第10層は貼床の構築土である。

**土層解説**

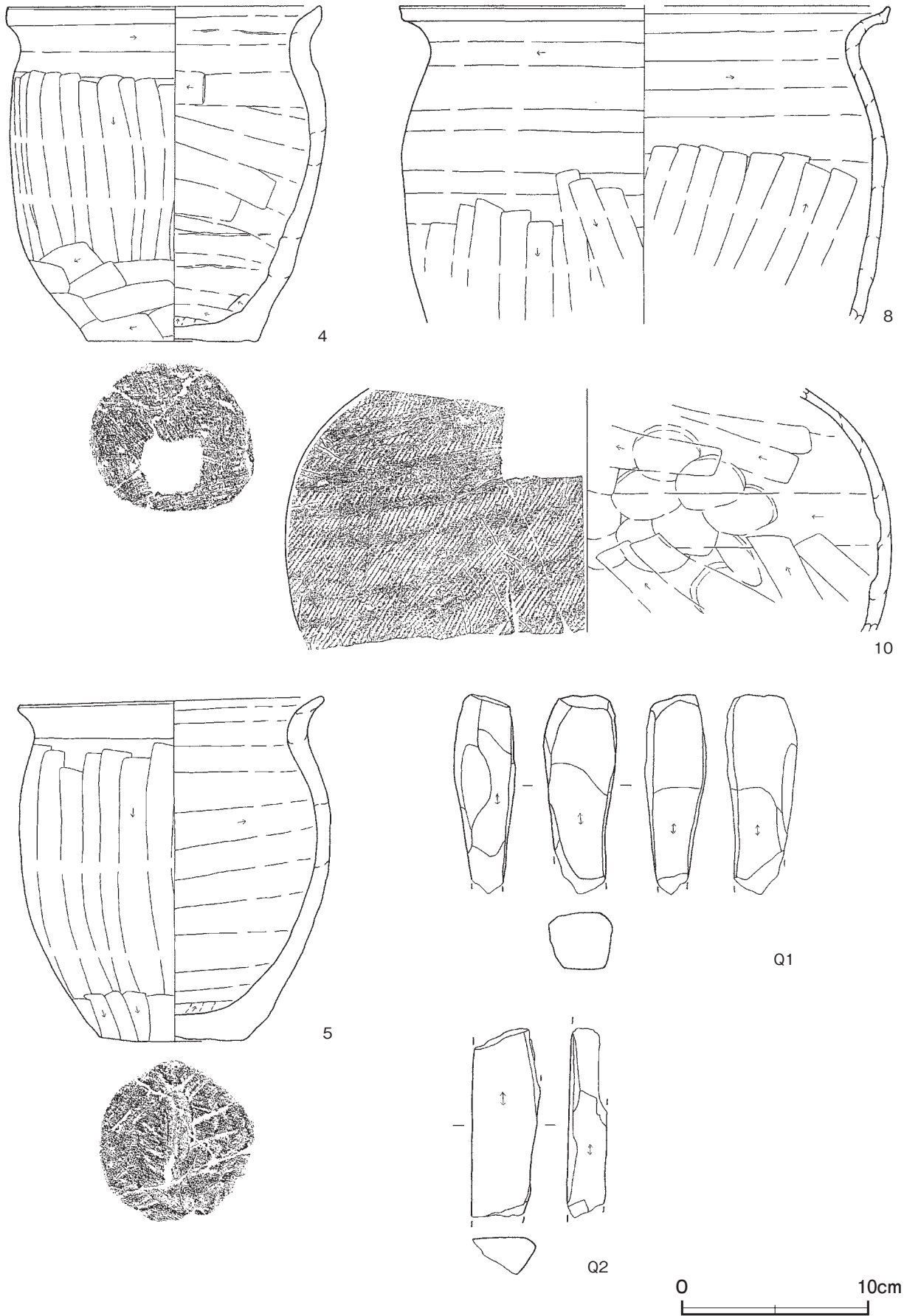
- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 にぶい黄褐色 ロームブロック・炭化物少量
- 3 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック・粘土ブロック少量
- 5 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック・炭化物中量
- 6 暗褐色 ロームブロック・炭化物少量
- 7 褐色 焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化物少量
- 8 褐色 粘土ブロック少量, 焼土ブロック微量
- 9 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 10 黒褐色 ロームブロック少量

**遺物出土状況** 土師器片732点(坏39, 甕類691, コップ形土器1, ミニチュア土器1), 須恵器片46点(坏20, 高台付坏1, 蓋6, 瓶類2, 甕類17), 石器2点(砥石), 石製品1点(竈材)のほか、縄文土器片417点(深鉢), 弥生土器片13点(壺類), 石器1点(石皿)が、主に西半部から出土している。多くの土器は大型や中型の破片で、接合関係が良好であることから、埋め戻しに伴って一括で投棄されたと考えられる。

**所見** 時期は、出土土器から8世紀後葉に比定できる。

第115号竪穴建物跡出土遺物観察表(第285・286図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	136	(6.4)	6.0	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面横位のナデ後下端部斜位の削り, 内面横・斜位のナデ 底部一方向の削り	覆土下層	90% PL89
2	須恵器	坏	[12.8]	4.4	8.3	長石・石英・雲母・針状物質	浅黄橙	普通	口縁部・体部ロクロナデ 底部一方向のナデ	覆土下層	50% 木葉下蓋。
3	須恵器	坏	[13.4]	4.5	8.3	長石・石英・雲母・針状物質	灰	良好	口縁部・体部ロクロナデ 底部一方向のナデ, 「十」のヘラ書き	覆土下層	50% PL89 木葉下蓋
4	土師器	小形甕	16.7	18.9	9.1	長石・石英・雲母・針状物質・細礫	にぶい橙	普通	口縁部・体部ロクロナデ 体部外面縦位のナデ後下端部縦位の削り, 内面横・斜位のナデ 底部外面一方向の削り, 内面一方向のナデ	覆土下層	80% PL91 内面煤付着



第 286 图 第 115 号竖穴建物跡出土遺物実測図

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
5	土師器	小形甕	16.1	18.7	7.7	長石・石英・雲母・針状物質・細礫	橙	普通	口縁部・体部ロクロナデ 体部外面縦位のナデ 後下端部縦位の削り、内面横・斜位のナデ 底部外面一方向の削り、内面一方向のナデ	覆土下層	70% PL91 内面煤付着
6	土師器	甕	[19.8]	(8.8)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位のナデ、内面横位のナデ	覆土中層	10% 内面煤付着
7	土師器	甕	[22.8]	(8.7)	-	長石・石英・雲母・針状物質	明赤褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位のナデ、内面横位のナデ	覆土下層	10% 外面煤付着
8	土師器	甕	[27.2]	(17.1)	-	長石・石英・雲母・針状物質	明赤褐	普通	口縁部・体部ロクロナデ 体部外・内面縦位のナデ	覆土下層	10% 煤付着
9	須恵器	甕	[19.8]	(4.2)	-	長石・石英・針状物質	にぶい赤褐	良好	口縁部ロクロナデ 外面自然釉付着	覆土中層 覆土下層	10% 木葉下窯
10	須恵器	甕	-	(13.1)	-	長石・石英・針状物質	黄灰	良好	体部ロクロナデ、内面横位のナデ、当具痕	覆土下層	10% 木葉下窯

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	砥石	(18.0)	3.9	3.3	(178.5)	凝灰岩	半部欠損 砥面 4 面	覆土中層	
Q 2	砥石	(10.2)	3.7	2.1	(94.95)	緑色変成岩	両端部欠損 砥面 2 面 側面 2 面欠損	覆土下層	

## 第 122 号竪穴建物跡 (第 287 図)

調査年度 平成 27 年度

位置 調査区西部の C 3f1 区、標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第 116・121 号竪穴建物跡、第 505 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸 3.82 m、短軸 3.26 m の長方形で、主軸方向は N - 5° - W である。壁は高さ 6 ~ 8 cm で、ほぼ直立している。

床 平坦な貼床で、東壁及び西壁際を除いて踏み固められている。貼床は、第 5・6 層を 20cm ほど埋め戻して構築されている。

竈 北壁の中央部に付設されている。焚き口部から煙道部までは 90cm、燃焼部の幅は 40cm ほどと推定できる。燃焼部は床面から 5 cm ほど掘りくぼめられ、地山面に構築されている。火床面は地山の上面で、第 1 層は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 30cm ほど掘り込まれているが、火床面からの断面の形状は不明である。袖部が確認できなかったことから、壊されている。

### 竈土層解説

1 暗赤褐色 焼土ブロック中量、ローム粒子微量

ピット 5 か所。P 1 ~ P 4 は深さ 20 ~ 54cm で、配置から主柱穴である。P 5 は深さ 35cm で、出入り口施設に伴うピットである。第 4・5 層は埋土、第 3 層は柱痕跡、第 1・2 層は柱材を抜き取った後の覆土である。P 2 ~ P 4 の底面で、柱の当たりを確認した。

### ピット土層解説 (各ピット共通)

1 暗褐色 ローム粒子少量

2 黒褐色 ロームブロック少量

3 黒褐色 ローム粒子微量

4 暗褐色 ロームブロック少量

5 褐色 ロームブロック多量

覆土 4 層に分層できる。第 2 ~ 4 層はロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第 1 層は埋め戻された後の自然堆積である。第 5・6 層は貼床の構築土である。

### 土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量

2 褐色 ロームブロック中量

3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

4 褐色 ロームブロック少量

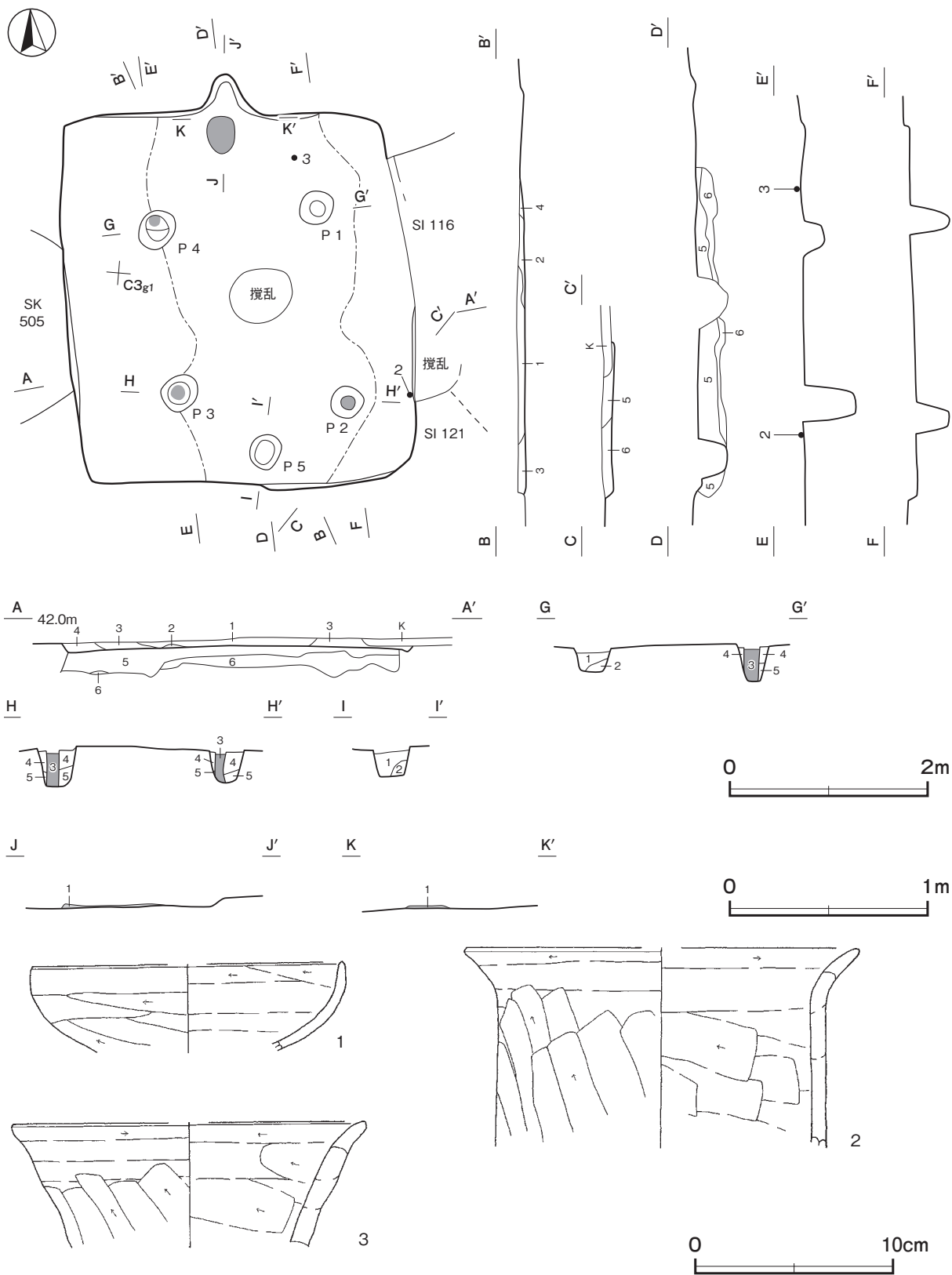
5 褐色 ロームブロック中量

6 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量

遺物出土状況 土師器片 155 点 (坏 12, 高坏 1, 甕類 142), 須恵器片 2 点 (蓋) のほか、縄文土器片 26 点 (深鉢), 弥生土器片 1 点 (壺類) が、全域に散在している。多くの土器は小片で、接合関係に乏しいことから、破損したものが廃絶に伴って投棄されたと考えられる。



所見 時期は，出土土器から7世紀末葉から8世紀初頭に比定できる。



第 287 図 第 122 号 竪穴建物跡・出土遺物実測図

第 122 号竪穴建物跡出土遺物観察表（第 287 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	[15.6]	(4.4)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 底部外面一方向の削り後横位の削り、内面横位のナデ	覆土中	20% 煤付着
2	土師器	甕	[19.6]	(10.1)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい黄橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の削り、内面横位のナデ	覆土下層	10% 内面煤付着
3	土師器	甕	[17.8]	(6.3)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の削り、内面横位のナデ	覆土下層	10% 外面煤付着

第 131 号竪穴建物跡（第 288・289 図 PL35・36）

調査年度 平成 28 年度

位置 調査区西部の C 5g7 区，標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第 1 号遺物包含層を掘り込む，第 133 号竪穴建物，第 650 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 4.80 m，短軸 4.57 m の方形で，主軸方向は N-5°-E である。壁は高さ 28～36cm で，ほぼ直立している。

床 平坦である。竈の前方部及び中央部が踏み固められている。壁溝が，西壁下を巡っている。

竈 北壁の中央部に付設されている。焚口部から煙道部までは 130cm，燃焼部の幅は 45cm である。燃焼部は床面から 20cm ほど掘りくぼめられ，第 6・7 層で埋め戻されている。袖部は，床面及び第 7 層上面に第 4・5 層を積み上げて構築されている。火床面は第 6・7 層の上面で，第 6 層は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 50cm ほど掘り込まれ，火床面から外傾している。第 1～3 層にはロームブロックが含まれていることから，壊されている。

竈土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量	5 灰黄色	粘土ブロック中量
2 褐色	ロームブロック・粘土ブロック・炭化粒子少量	6 赤褐色	焼土ブロック中量
3 黒褐色	焼土ブロック中量，ロームブロック少量	7 にぶい褐色	ロームブロック・焼土粒子少量
4 灰褐色	粘土ブロック多量		

ピット 6 か所。P 1～P 4・P 6 は深さ 50～70cm で，配置から支柱穴である。P 4・P 6 は，重複していることから立て替えられているが，新旧関係は不明である。P 5 は配置から出入口施設に伴うピットである。第 3 層は埋土，第 2 層は柱痕跡，第 1 層は柱材を抜き取った後の覆土である。

ピット土層解説（各ピット共通）

1 黒褐色	ローム粒子微量	3 黒褐色	ロームブロック少量
2 黒褐色	ロームブロック微量		

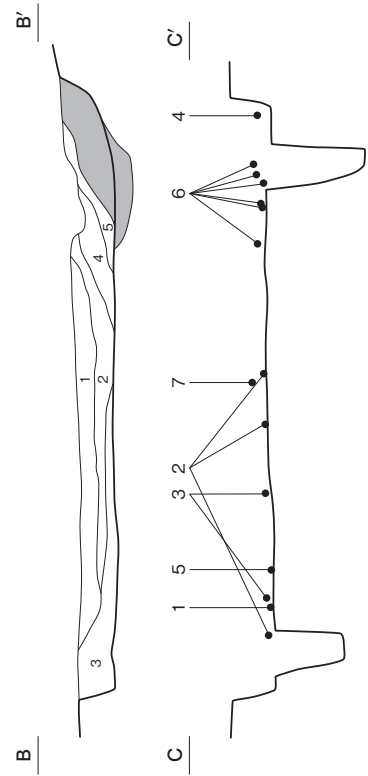
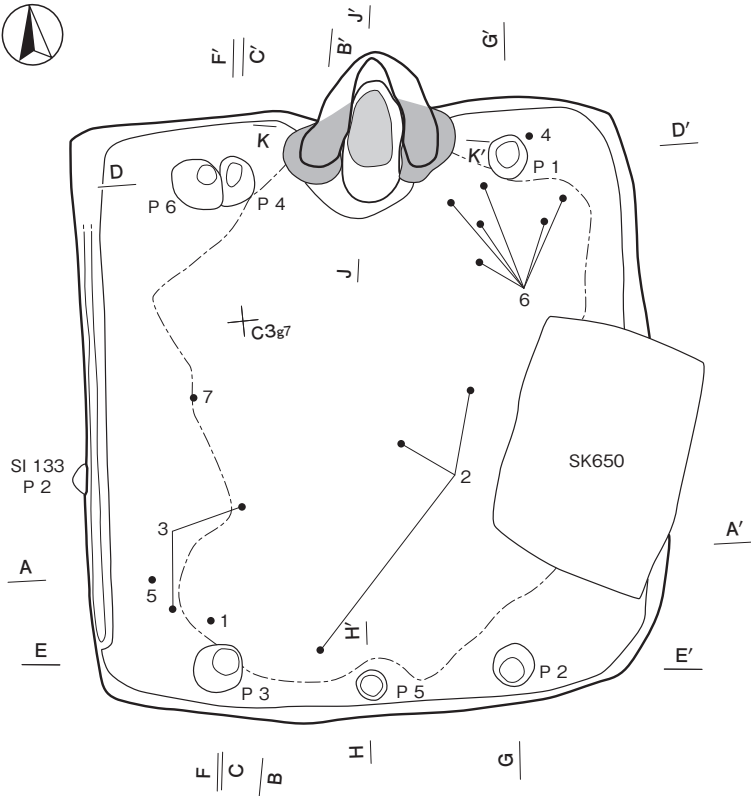
覆土 6 層に分層できる。ロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色	粘土ブロック・焼土粒子少量	4 黒褐色	焼土ブロック少量，ロームブロック微量
2 暗褐色	焼土ブロック少量，ロームブロック微量	5 黒褐色	粘土ブロック少量，ロームブロック微量
3 黒褐色	焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化物微量	6 暗褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片 517 点（坏 38，鉢類 1，甕類 478），須恵器片 22 点（坏 13，蓋 2，高台付坏 1，盤 2，甕類 4），石製品 1 点（砥石）のほか，縄文土器片 407 点（深鉢，弥生土器片 4 点（壺類），剥片 3 点（瑪瑙）が，全域に散在している。多くの土器は大型や中型の破片で，接合関係が良好であることから，埋め戻しに伴って一括で投棄されたと考えられる。

所見 時期は，出土土器から 8 世紀中葉に比定できる。



A 42.2m A'



D D'



E E'



F F'



G G'



H 42.4m H'



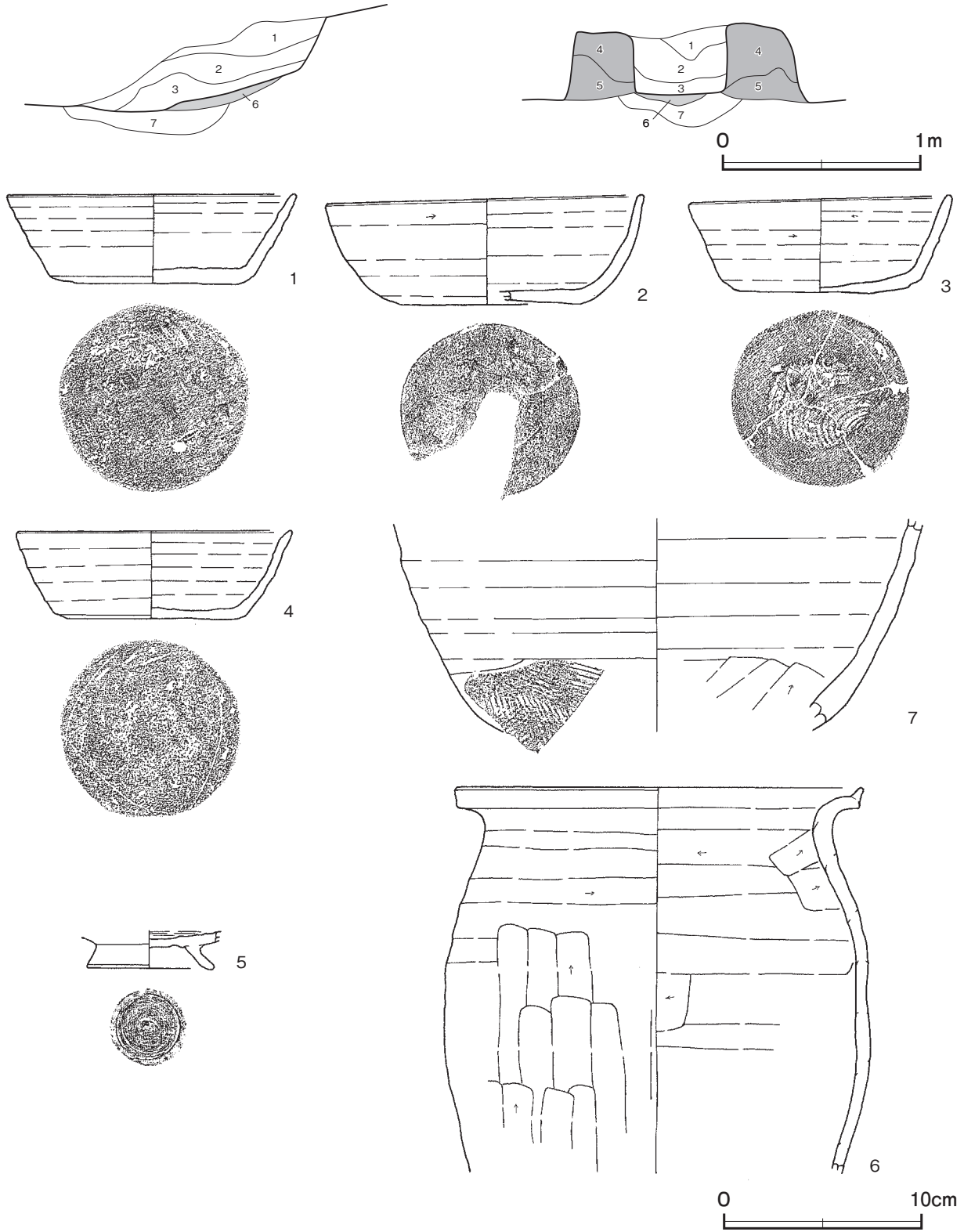
第 288 图 第 131 号竖穴建物跡实测图

J 42.2m

J'

K

K'



第 289 图 第 131 号竖穴建物跡・出土遺物実測図

第 131 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 289 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	14.5	4.5	8.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部・体部ロクロナデ 縁辺部に沿った削りの後二方向の削り 酸化炎焼成	覆土下層	90% PL90 産地不明
2	須恵器	坏	15.8	5.5	9.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部・体部ロクロナデ 縁辺部に沿った削りの後二方向の削り 酸化炎焼成	覆土下層	70% 産地不明
3	須恵器	坏	13.0	5.0	8.9	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部・体部ロクロナデ 底部回転糸切り後縁辺部に沿った削り 酸化炎焼成	覆土下層	90% PL90 産地不明
4	須恵器	坏	13.7	4.5	8.7	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部・体部ロクロナデ 縁辺部に沿った削りの後二方向の削り 酸化炎焼成	覆土中層	95% 産地不明
5	須恵器	高台付坏	-	(1.9)	6.3	長石・石英・針状物質・黒色粒子	黄灰	良好	ロクロナデ, 高台部貼り付け	覆土下層	20% 木葉下窯。
6	土師器	甕	20.3	(19.6)	-	長石・石英・針状物質	にぶい褐	普通	口縁部・体部ロクロナデ 体部外面縦位のナデ, 内面横位のナデ	覆土中層 覆土下層	30%
7	須恵器	甕	-	(10.9)	-	長石・石英・針状物質	灰	良好	体部ロクロナデ 外面下端部横・斜位の平行叩き, 内面下位に斜位のナデ	覆土中層	10% 木葉下窯。

第 133 号竪穴建物跡 (第 290 ~ 292 図 PL36・37)

調査年度 平成 28 年度

位置 調査区西部の C 3 g6 区, 標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第 131 号竪穴建物跡, 第 1 号遺物包含層を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸 3.83 m, 短軸 3.75 m の方形で, 主軸方向は N - 5° - E である。壁は高さ 35 ~ 45cm で, ほぼ直立している。

床 平坦で, 竈前方部及び中央部が踏み固められている。壁溝が, 北壁及び西壁下の一部を除いて巡っている。

竈 北壁の中央部に付設されている。焚口部から煙道部までは 140cm, 燃焼部の幅は 50cm である。燃焼部は床面から 10cm ほど掘りくぼめられ, 第 7・8 層で埋め戻されている。袖部は, 床面及び第 8 層上面に第 5・6 層を積み上げて構築されている。火床面は第 7・8 層の上面で, 第 7 層は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 90cm ほど掘り込まれ, 第 5 層が貼り付けられている。火床面からは, ほぼ直立している。第 1 ~ 4 層にはロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから, 壊されている。

竈土層解説

- |                           |                             |
|---------------------------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 焼土ブロック少量, ロームブロック微量 | 5 にぶい褐色 粘土ブロック中量, ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 焼土ブロック少量, 粘土ブロック微量  | 6 灰褐色 焼土ブロック少量, 粘土ブロック微量    |
| 3 褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量     | 7 赤褐色 焼土粒子中量, ロームブロック微量     |
| 4 暗褐色 焼土ブロック中量            | 8 暗褐色 ロームブロック少量             |

ピット 7か所。P 1 は深さ 25cm で, 配置から出入り口施設に伴うピットである。第 2 層は埋土, 第 1 層は柱材を抜き取った後の覆土である。P 2 ~ P 7 は深さ 40 ~ 50cm で, 配置から壁外柱穴の可能性がある。第 1・2 層は柱材を抜き取った後の覆土である。

P 1 土層解説

- |                         |                        |
|-------------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 焼土ブロック少量, ローム粒子微量 | 2 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量 |
|-------------------------|------------------------|

P 2 ~ P 7 土層解説

- |             |               |
|-------------|---------------|
| 1 黒褐色 炭化物微量 | 2 黒褐色 ローム粒子微量 |
|-------------|---------------|

覆土 8 層に分層できる。ロームブロックや焼土ブロックが含まれる不規則な堆積をしていることから, 埋め戻されている。

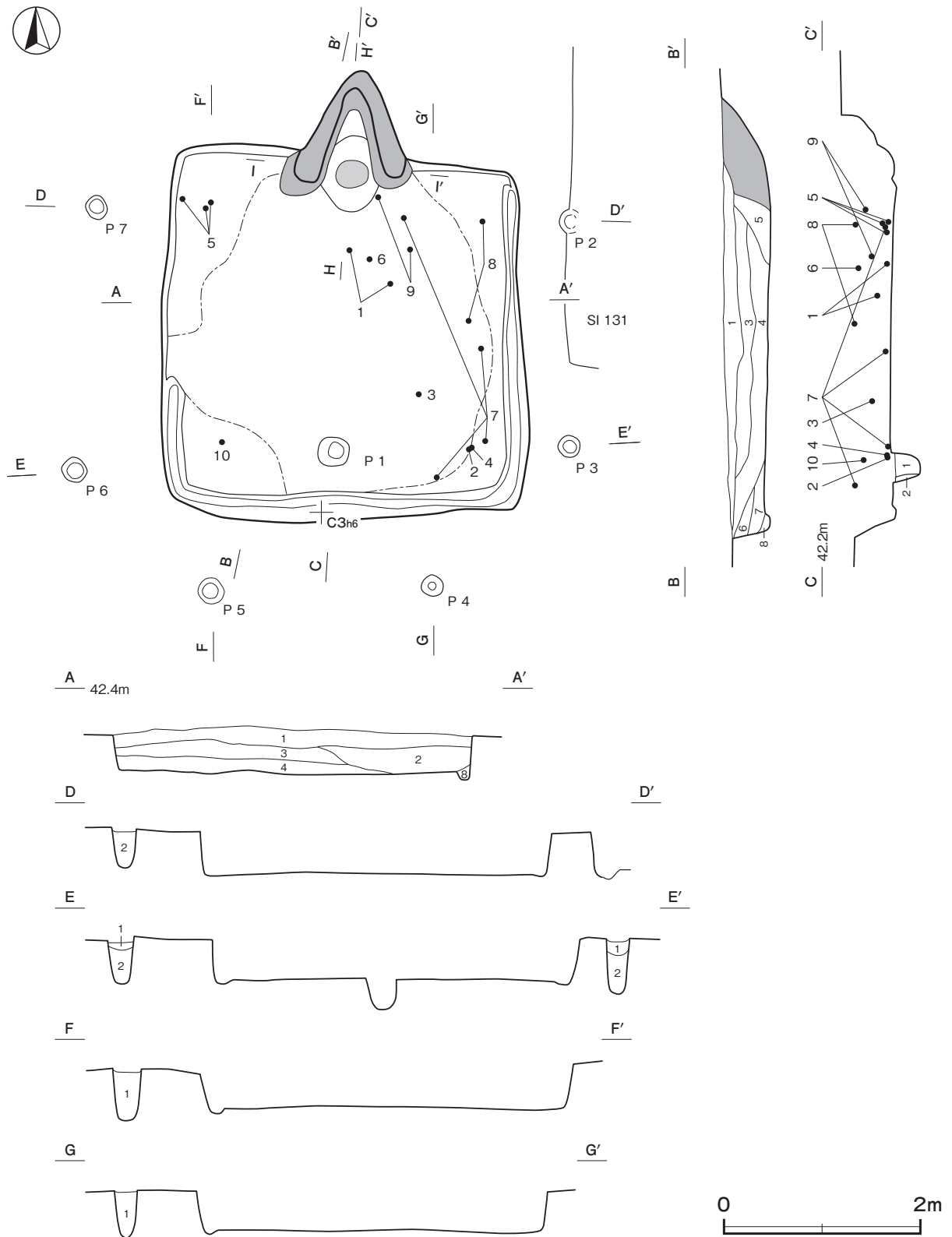
土層解説

- |                           |                           |
|---------------------------|---------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量    | 5 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量    |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 6 黒褐色 焼土ブロック少量, ロームブロック微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量           | 7 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量    |
| 4 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量   | 8 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量         |

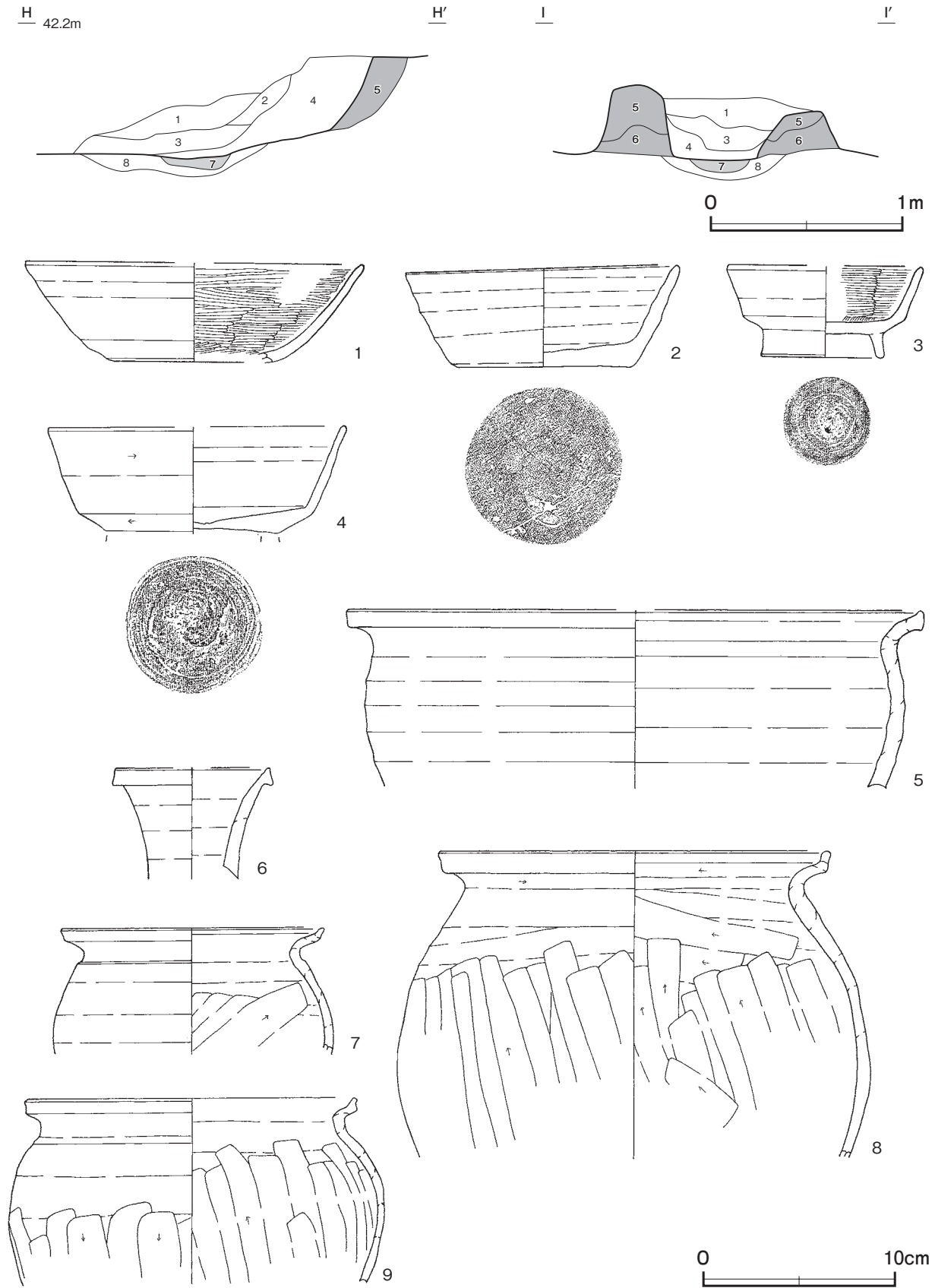
遺物出土状況 土師器片 685 点 (坏 33, 高台付坏 7, 蓋 1, 甕類 643, 甗 1), 須恵器片 48 点 (坏 18, 高台付坏 1, 長頸瓶 1, 鉢 1, 甕類 27), 土製品 1 点 (紡錘車), 石器 1 点 (砥石), 石製品 4 点 (支脚 1, 竈材 3) のほか, 縄文土器片 305 点 (深鉢), 弥生土器片 4 点 (壺類) が, 主に竈近辺や壁際から出土している。多くの土器は

大型や中型の破片で、接合関係が良好であることから、埋め戻される早い段階で投棄されたと考えられる。

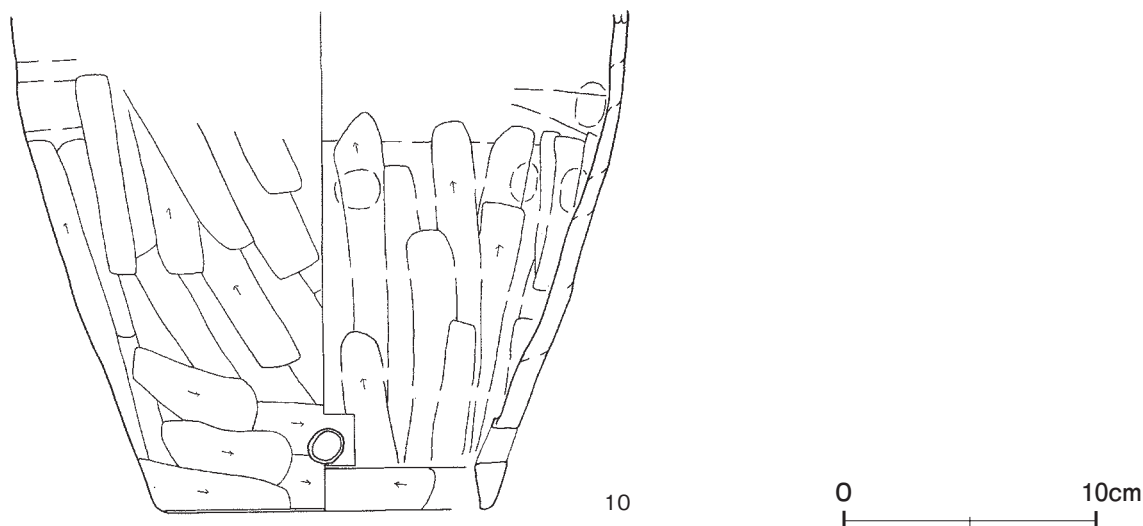
所見 時期は、出土土器から8世紀後葉に比定できる。



第 290 図 第 133 号竪穴建物跡実測図



第291图 第133号竖穴建物跡・出土遺物実測図



第 292 図 第 133 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 133 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 291・292 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考		
1	土師器	坏	[17.4]	(5.2)	[8.0]	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	体部内面横位の磨き 内面黒色処理	底部内面一方向の磨き	覆土中層 覆土下層	30%	
2	須恵器	坏	14.1	5.4	9.0	長石・石英・針状物質	橙	普通	口縁部・体部ロクロナデ	底部縁辺に沿った削りの後二方向のナデ	酸化炎焼成	覆土下層	80% PL90 産地不明
3	土師器	高台付坏	[10.1]	4.7	6.3	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい黄橙	普通	体部内面横位の磨き 内面黒色処理	底部内面一方向の磨き	覆土中層	50%	
4	須恵器	高台付坏	[15.3]	(5.6)	-	長石・石英・雲母	暗黄橙	普通	体部下端部回転ヘラ削り		覆土下層	70% PL89 新治窯	
5	須恵器	鉢	[30.0]	(9.3)	-	長石・石英・針状物質	灰黄	普通	口縁部・体部ロクロナデ	体部外面に斜位の平行叩き痕	覆土下層	30% 本葉下窯	
6	須恵器	長頸瓶	[8.0]	(5.8)	-	長石・石英・黒色粒子	灰	良好	口縁部ロクロナデ	内面自然袖付着	覆土上層	5% 堀ノ内窯	
7	土師器	小形甕	13.7	(6.7)	-	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	口縁部・体部ロクロナデ	体部内面斜位のナデ	覆土上層 から下層	30% 煤付着	
8	土師器	甕	20.2	(16.1)	-	長石・石英・雲母・針状物質	橙	普通	口縁部・体部ロクロナデ	体部外面縦位の削り、内面横位のナデ後縦位のナデ	覆土上層	30%	
9	土師器	甕	17.1	(9.7)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部・体部ロクロナデ	体部外面縦位の削り、内面縦位のナデ	覆土中層	30% 外面煤付着	
10	土師器	甗	-	(19.9)	[13.2]	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部・体部ロクロナデ	体部外面縦位の削り後下部斜位の削り、内面横位のナデ後縦位のナデ、指頭痕	外面からの穿孔1か所	覆土上層	20% 二次焼成

### 第 137 号竪穴建物跡 (第 293・294 図)

調査年度 平成 28 年度

位置 調査区西部の D 4 a3 区, 標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第 591 号土坑を掘り込み, 第 15 号溝, 第 13 号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 3.15 m, 短軸 3.04 m の方形で, 主軸方向は N - 1° - W である。壁は高さ 22 ~ 28cm で, ほぼ直立している。

床 平坦で, 全面が踏み固められている。壁溝が, 竈付近及び南壁下の一部を除いて巡っている。

竈 北壁の中央部に付設されている。焚口部から煙道部までは 90cm, 燃烧部の幅は 60cm である。燃烧部は床面から 25cm ほど掘りくぼめられ, 第 5 層で埋め戻されている。袖部は, 床面及び第 5 層の上面に粘土を積み上げて構築されている。火床面は第 5 層の上面で, 火熱を受けて一部が赤変硬化している。煙道部は壁外に 50cm ほど掘り込まれ, 火床面から外傾している。第 1 ~ 4 層にはロームブロックや粘土ブロックが含まれていることから, 壊されている。



**竈土層解説**

- |       |                  |        |                     |
|-------|------------------|--------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量, ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量 | 5 褐色   | 焼土ブロック少量, ロームブロック微量 |
| 3 褐色  | ロームブロック・粘土ブロック少量 |        |                     |

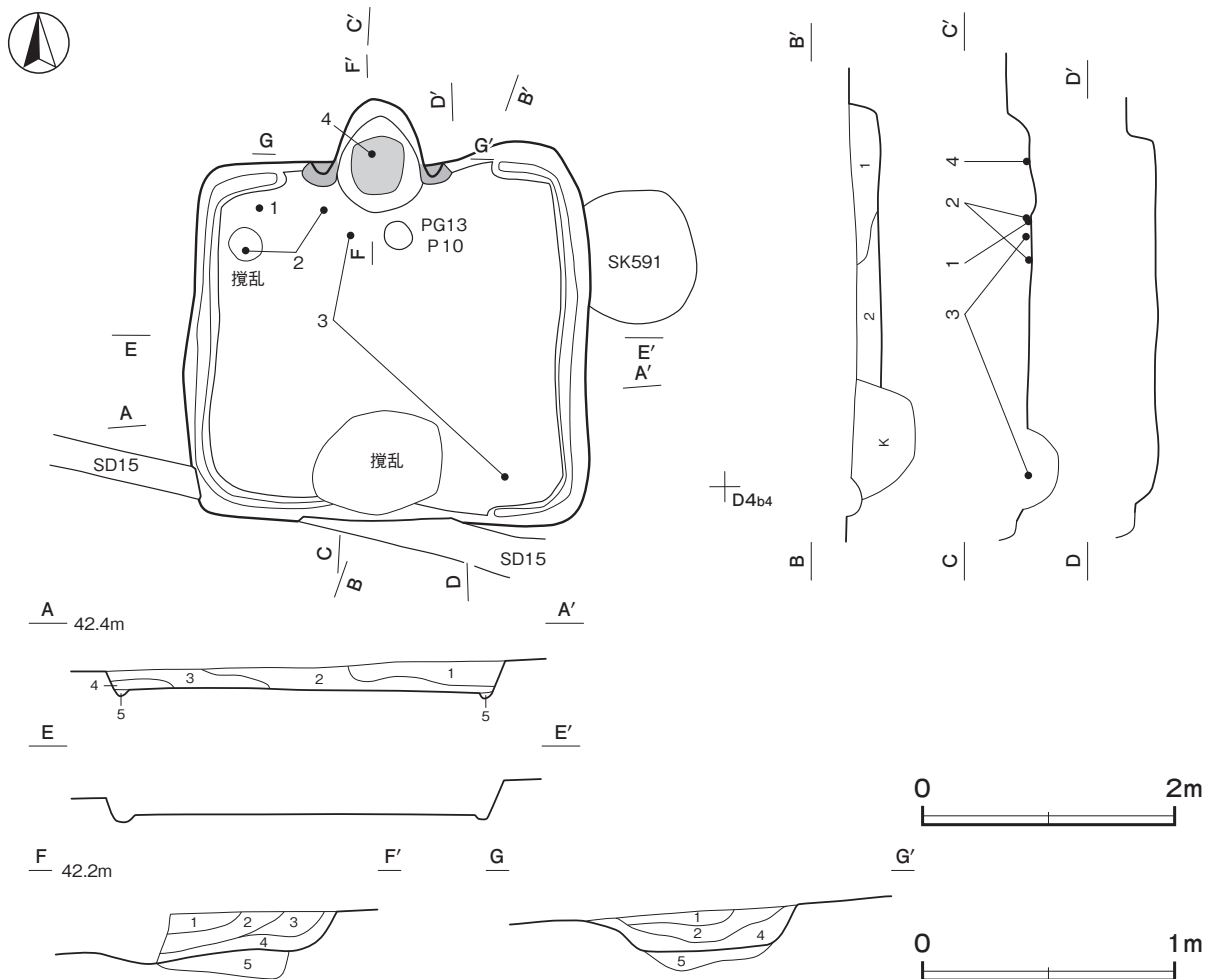
**覆土** 5層に分層できる。ロームブロックが含まれる不規則な堆積をしていることから、埋め戻されている。

**土層解説**

- |       |                     |       |           |
|-------|---------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | 5 褐色  | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量    |       |           |

**遺物出土状況** 土師器片 40点 (坏6, 甕類33, ミニチュア土器1), 須恵器片3点 (蓋) のほか, 縄文土器片38点 (深鉢), 弥生土器片1点 (壺類) が, 主に竈付近や壁際から出土している。多くの土器は大型や中型の破片で, 接合関係が良好であることから, 埋め戻しの早い段階で投棄されたと考えられる。4は竈から良好な遺存状態で出土していることから, 竈の祭祀に伴う遺物の可能性がある。

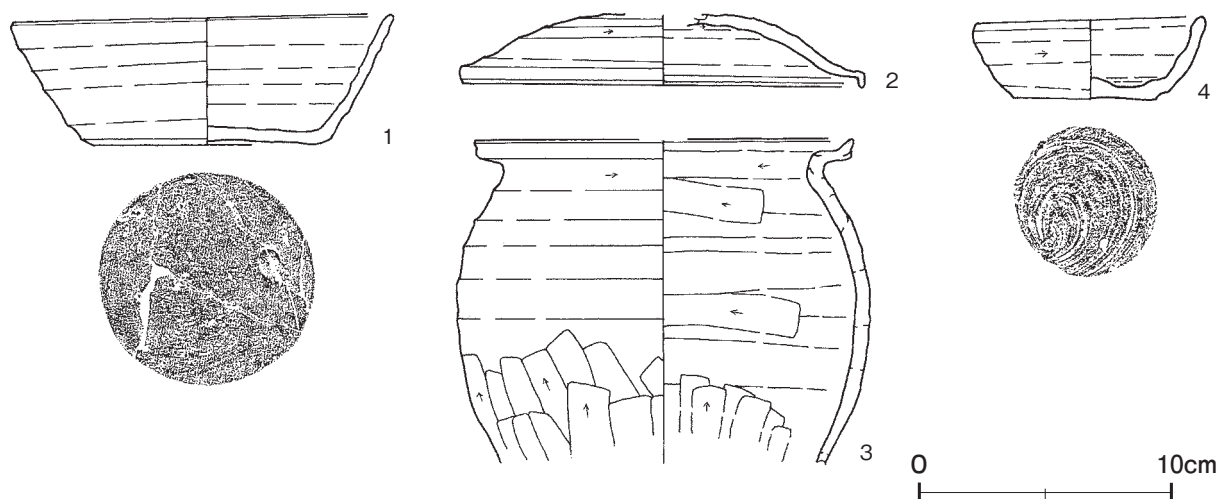
**所見** 時期は, 出土土器から8世紀中葉に比定できる。



第293図 第137号竪穴建物跡実測図

第137号竪穴建物跡出土遺物観察表(第294図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	14.9	5.2	8.8	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部・体部ロクロナデ 底部縁辺部に沿ったナデ後二方向のナデ 酸化炎焼成	覆土下層	60% PL90
2	須恵器	蓋	15.8	(2.8)	-	長石・石英・針状物質	黄灰	良好	口縁部・体部ロクロナデ 天井部回転ヘラ削り	覆土下層	80% PL90 木葉下窯



第 294 図 第 137 号竪穴建物跡出土遺物実測図

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
3	土師器	小形甕	[14.8]	(12.8)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部・体部ロクロナデ 内面横位のナデ後縦位の削り、体部外面縦位の削り	覆土下層	40% 内面煤付着
4	土師器	ミニチュア土器	9.0	3.3	5.6	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部・体部ロクロナデ 底部回転糸切り	竈覆土下層	90%

### 第 138 号竪穴建物跡 (第 295 図)

調査年度 平成 28 年度

位置 調査区西部の C 4 h6 区, 標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第 16 号溝, 第 607 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北部が調査区域外に延び, 第 16 号溝に掘り込まれていることから, 南北軸は 2.66 m, 東西軸は 2.08 m しか確認できなかった。方形もしくは長方形と推定でき, 主軸方向は N-4°-W である。壁は高さ 26 ~ 39cm で, ほぼ直立もしくは外傾している。

床 平坦で, 東壁及び南壁際を除いて踏み固められている。

竈 北壁に付設されていると推定できるが, 詳細な位置は不明である。第 607 号土坑に掘り込まれていることから, 右袖部のみを確認した。右袖部は床面に粘土を積み上げて構築されている。

覆土 6 層に分層できる。ロームブロックが含まれる不規則な堆積状況から, 埋め戻されている。

#### 土層解説

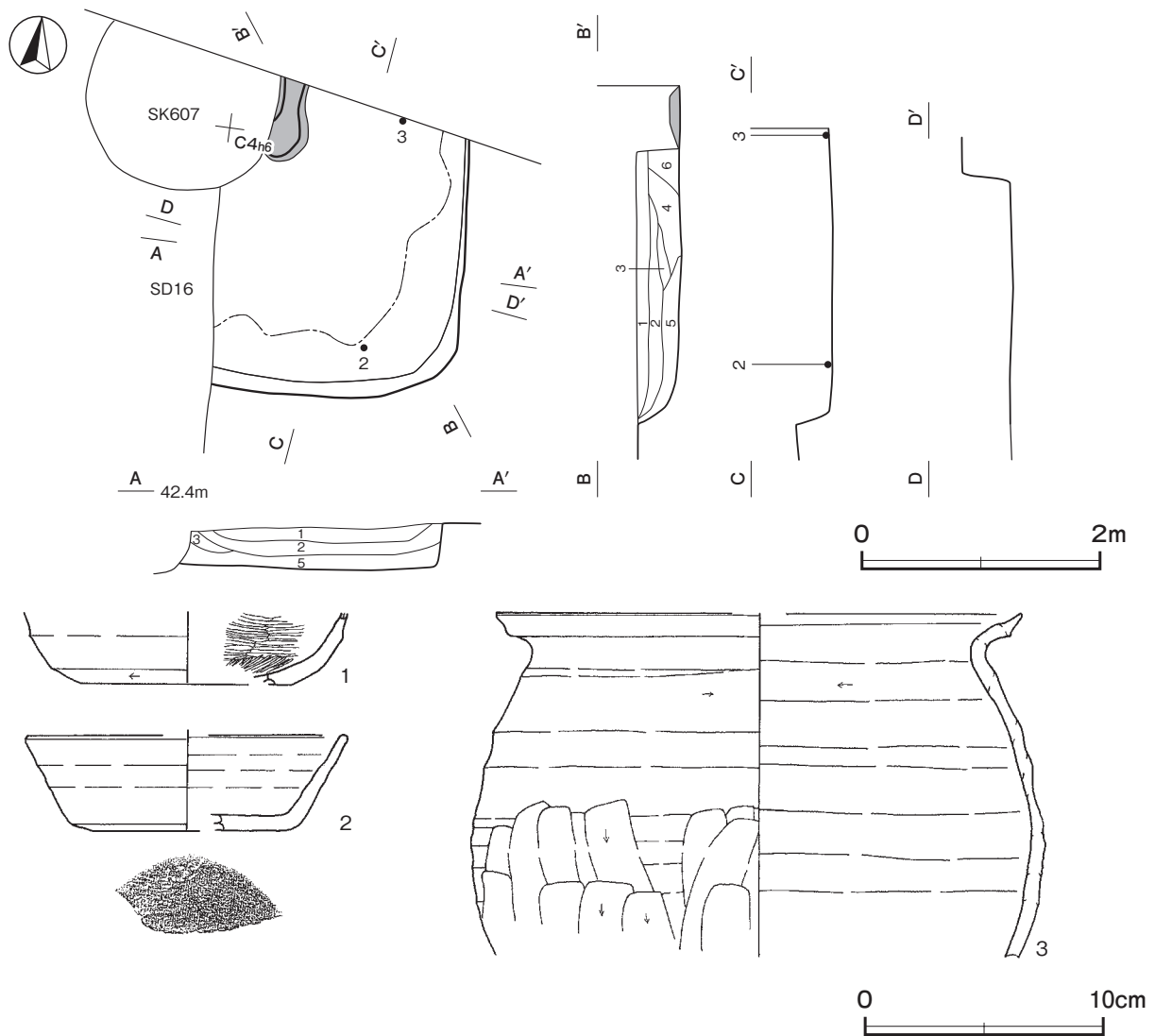
- |       |                   |       |                     |
|-------|-------------------|-------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量         | 5 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量    |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量         | 6 褐色  | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片 42 点 (坏 3, 蓋 1, 甕類 38), 須恵器片 1 点 (坏) が, 主に壁際から出土している。多くの土器は中型の破片や小片で, 接合関係に乏しいことから, 破損したものが埋め戻しの早い段階で投棄されたと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から 8 世紀後葉に比定できる。

### 第 138 号竪穴建物跡出土遺物観察表 (第 295 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	土師器	坏	-	(3.0)	(9.0)	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	体部下端部一方向の削り, 内面横位の磨き 底部内面一方向の磨き 内面黒色処理	覆土中	10%



第 295 図 第 138 号竪穴建物跡・出土遺物実測図

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
2	須恵器	坏	[13.2]	4.0	(8.0)	長石・石英・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部・体部ロクロナデ 底部一方向のナデ	覆土下層	30% 木葉下蓋。
3	土師器	甕	[22.0]	(14.4)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部・体部ロクロナデ 体部外面縦位のナデ 後縦位の削り	覆土下層	30%

第 141 号竪穴建物跡 (第 296 ~ 298 図 PL37)

調査年度 平成 28 年度

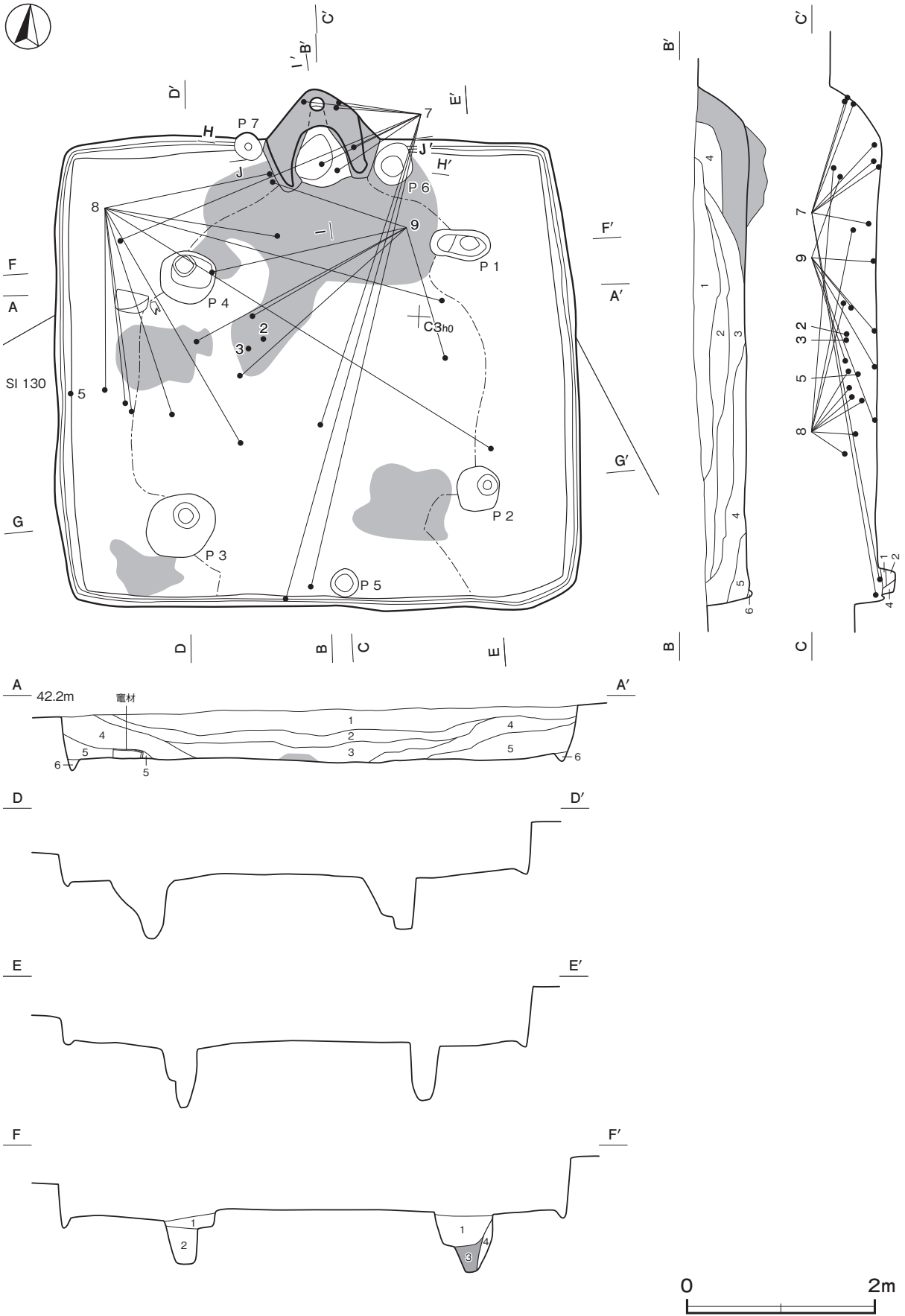
位置 調査区西部の C 3 h9 区, 標高 42 m ほどの台地平坦面に位置している。

重複関係 第 130 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸 5.52 m, 短軸 5.00 m の長方形で, 主軸方向は N - 7° - W である。壁は高さ 27 ~ 57 cm で, ほぼ直立している。壁溝が全周している。

床 平坦で, 竈の前方部および中央部から南部が踏み固められている。壁溝が, 全周している。

竈 北壁の中央部に付設されている。焚口部から煙道部までは 100 cm, 燃焼部の幅は 60 cm である。燃焼部は床面から 20 cm ほど掘りくぼめられ, 第 9・10 層で埋め戻されている。袖部は, 床面及び第 10 層上面に第 7・



第 296 図 第 141 号竖穴建物跡実測図(1)

8層を積み上げて構築されている。火床面は第9・10層の上面で、第9層は火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に50cmほど掘り込まれ、第7層を貼り付けて構築されている。火床面からは、ほぼ直立している。第1～6層にはロームブロックや粘土ブロックが含まれ、周辺に粘土や凝灰質泥岩が飛散していることから、壊されている。

**竈土層解説**

- |                               |                                |
|-------------------------------|--------------------------------|
| 1 灰横褐色 粘土ブロック中量, ロームブロック少量    | 6 暗赤褐色 焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化物少量 |
| 2 灰褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック微量 | 7 灰褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量          |
| 3 黒褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック微量     | 8 灰褐色 粘土ブロック中量, ロームブロック少量      |
| 4 褐灰色 粘土ブロック中量, ロームブロック少量     | 9 暗赤褐色 焼土ブロック中量, ロームブロック・炭化物少量 |
| 5 灰褐色 焼土ブロック・粘土ブロック少量         | 10 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック少量 |

**ピット** 7か所。P1～P4は深さ50～60cmで、配置から主柱穴である。P5は深さ20cmで、出入り口施設に伴うピットである。P6・P7は深さ40cm・50cmで、竈の袖に近接していることから、竈に関わる施設の可能性もある。第4・5層は埋土、第3層は柱痕跡、第1・2層は柱材を抜き取った後の覆土である。

**ピット土層解説 (各ピット共通)**

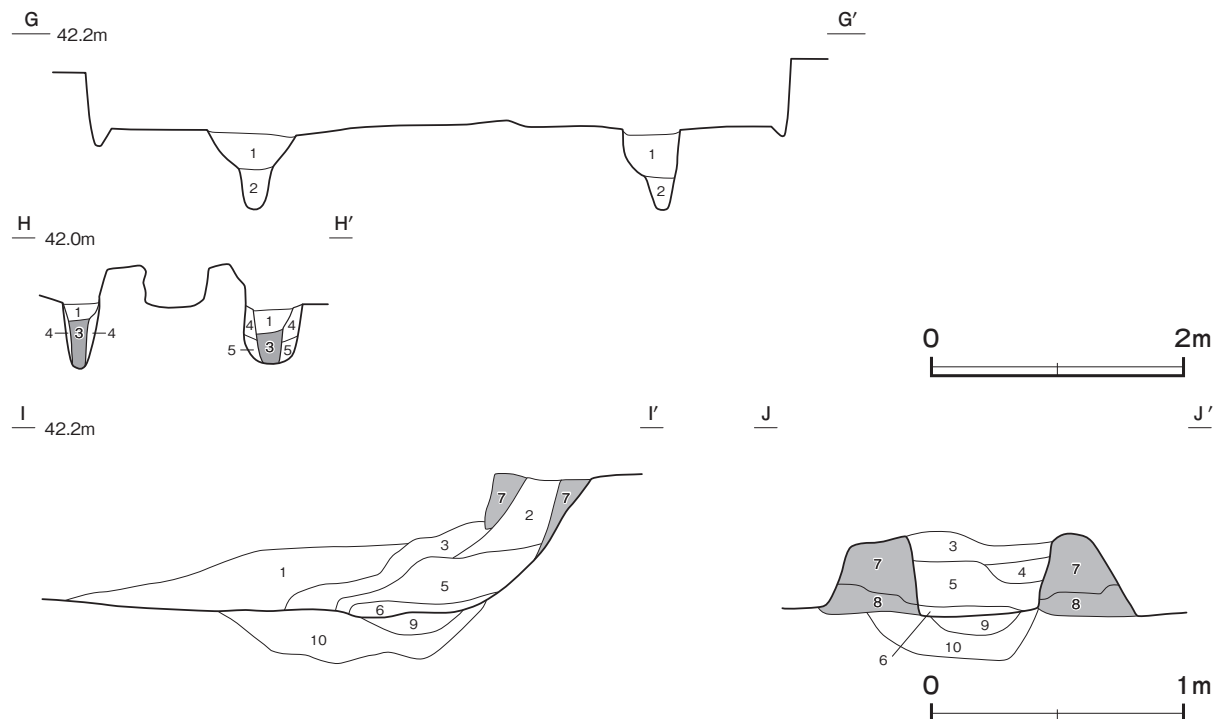
- |                        |                              |
|------------------------|------------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量   | 4 褐色 ロームブロック少量               |
| 2 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量 | 5 におい黄褐色 ロームブロック中量, 粘土ブロック少量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量     |                              |

**覆土** 6層に分層できる。ロームブロックが含まれる不規則な堆積をしていることから、埋め戻されている。

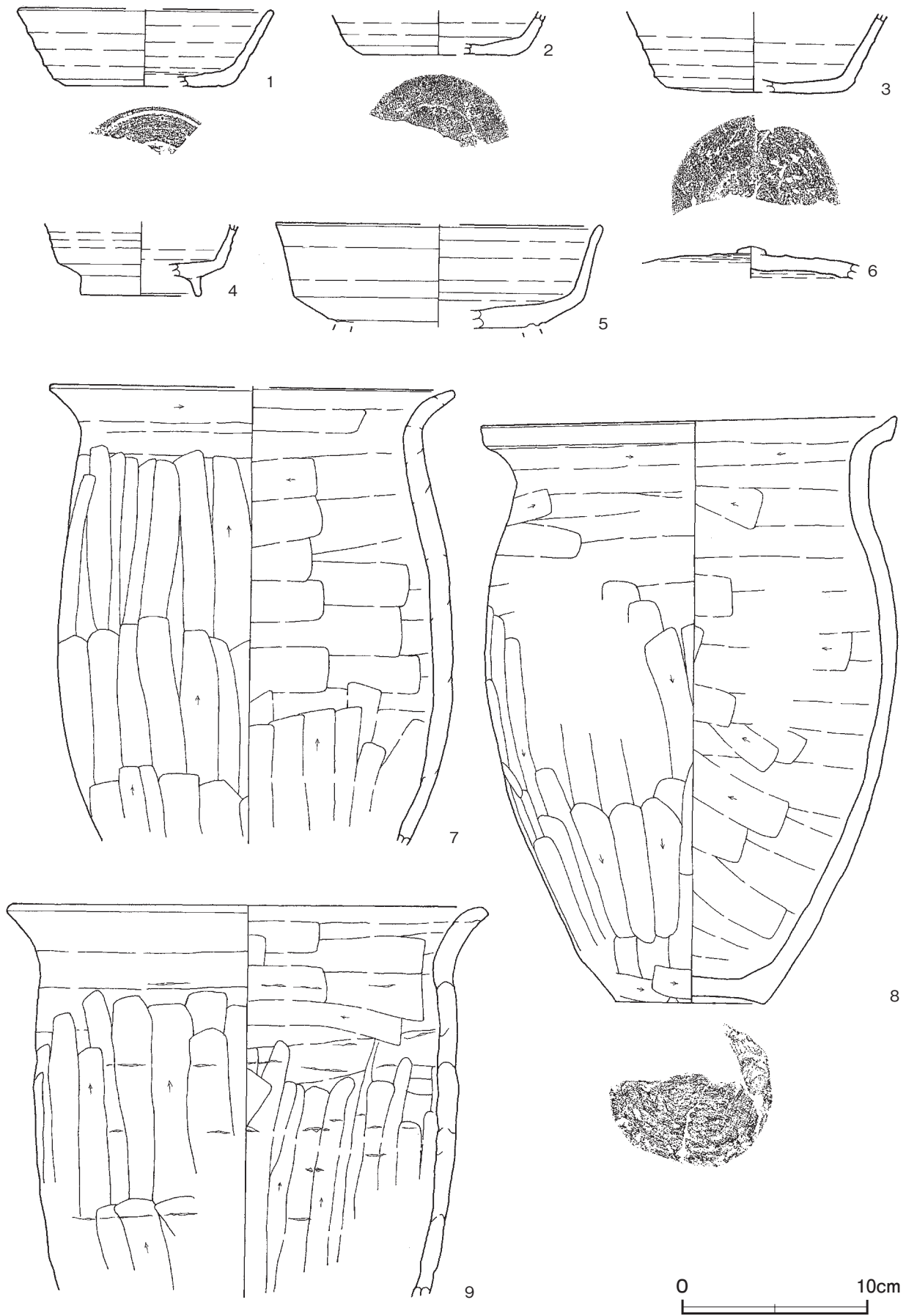
**土層解説**

- |                           |                           |
|---------------------------|---------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量    | 4 暗褐色 焼土ブロック少量, ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック少量    | 5 暗褐色 ロームブロック少量, 粘土ブロック微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土ブロック少量 | 6 褐色 ロームブロック・炭化物少量        |

**遺物出土状況** 土師器片757点(甕類), 須恵器片45点(坏32, 高台付坏2, 蓋2, 鉢類1, 瓶類1, 甕類7), 石器1点(砥石), 石製品1点(竈材), 金属製品3点(鎌, 鋸, 不明)のほか, 縄文土器片333点(深鉢), 弥生土器片8点(壺類)が, 全域に散在している。多くの土器は中型の破片や小片で, 接合関係が良好であることから, 埋め戻しに伴って投棄されたと考えられる。7・8は形状から, 重複する第130号竪穴建物跡からの混入と思われる。



第297図 第141号竪穴建物跡実測図(2)



第 298 图 第 141 号竖穴建物跡出土遺物実測图

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉に比定できる。

第141号竪穴建物跡出土遺物観察表(第298図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
1	須恵器	坏	[13.8]	4.2	[8.6]	長石・石英・針状物質・黒色粒子	黄灰	良好	口縁部・体部ロクロナデ	覆土中	20% 木葉下窯
2	須恵器	坏	-	(24)	[8.5]	長石・石英・針状物質	灰	良好	体部ロクロナデ 底部ヘラ切りを残す多方向のナデ	覆土上層	20% 木葉下窯
3	須恵器	坏	-	(46)	[9.5]	長石・石英・針状物質	灰黄	良好	体部ロクロナデ 底部二方向の削り	覆土上層	30% 木葉下窯
4	須恵器	高台付坏	-	(40)	[6.2]	長石・石英・針状物質	黄灰	良好	体部ロクロナデ	覆土中	20% 木葉下窯
5	須恵器	高台付坏	[17.5]	(56)	-	長石・石英・白色粒子・細礫	にぶい赤褐	普通	口縁部・体部ロクロナデ 高台部欠損 酸化炎焼成	覆土上層	20% 産地不明
6	須恵器	蓋	-	(17)	-	長石・石英・針状物質	灰	良好	口縁部・体部ロクロナデ 上部欠損	覆土中	20% 木葉下窯
7	土師器	甕	[21.8]	(24.8)	-	長石・石英・雲母・針状物質	にぶい橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の削り、内面横位のナデ後縦位のナデ	覆土下層	50% 煤付着
8	土師器	甕	22.3	31.9	7.9	長石・石英・雲母・針状物質・細礫	橙	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の削り後下部斜位の削り、内面横位のナデ後縦位のナデ	覆土上層 覆土中層	40% 二次焼成
9	土師器	甕	25.7	(21.2)	-	長石・石英・雲母・針状物質・細礫	にぶい褐	普通	口縁部横ナデ 体部外面縦位の削り、内面横位のナデ後縦位のナデ	覆土上層 から下層	40% 煤付着

表10 奈良時代竪穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設						覆土	主な出土遺物	時期	備考
				長軸×短軸(m)	(cm)				主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴					
6	E 9 a 9	N - 3° - E	長方形	4.80 × 4.32	22 ~ 30	貼床平坦	全周	6	2	-	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 石器, 石製品	8世紀前葉	本跡→SI29, SK10		
11	E 9 d 0	N - 6° - E	[長方形]	[3.70] × [3.00]	20	貼床平坦	-	-	-	2	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 石器	8世紀中葉	SI14・30→本跡→SI10・12B		
13	E 9 c 9	N - 2° - E	[方形]	4.30 × 3.92	14 ~ 22	貼床平坦	東・南・西壁	6	1	-	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 石器, 石製品, 金属製品	7世紀後葉から8世紀初頭	SI14→本跡→SI12B・SI19		
17	E 9 e 7	N - 18° - E	方形	2.93 × 2.89	19 ~ 22	貼床平坦	全周	-	-	1	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 石器, 石製品	8世紀後葉	SK54→本跡→PG3		
23	D 9 j 8	N - 7° - E	長方形	3.38 × 3.00	28 ~ 38	貼床平坦	-	-	-	1	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 石器	8世紀中葉	SI22・33→本跡→SI29		
24	E 9 b 8	N - 16° - E	方形	3.64 × 3.64	30 ~ 34	貼床平坦	ほぼ全周	4	1	-	北壁	-	自然人為	土師器, 須恵器, 石器, 石製品, 金属製品	8世紀前葉から8世紀中葉	SI37→本跡→HT4		
25	E 9 c 7	N - 3° - E	[方形]	6.00 × [6.00]	8 ~ 10	貼床平坦	ほぼ全周	5	1	5	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 石器	7世紀末葉から8世紀前葉	本跡→SI19, HT5・6, SK37・55・56		
27	D 9 h 7	N - 3° - W	方形	3.80 × 3.73	18 ~ 27	貼床平坦	ほぼ全周	-	1	2	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 石器, 石製品, 金属製品	8世紀前葉	SI52・53→本跡→SI26		
30	E 9 e 0	不明	[方形・長方形]	(1.78) × (1.09)	24	貼床平坦	南・西壁	-	-	-	-	-	自然	土師器, 須恵器	8世紀中葉	SI14→本跡→SI10・11		
31	D 9 j 7	N - 3° - E	長方形	3.86 × 2.92	25 ~ 36	平坦	-	-	-	1	北東隅部	-	人為	土師器, 須恵器	8世紀前葉	SI32 ~ 34→本跡→HT4		
32	D 9 j 7	N - 3° - W	長方形	4.40 × 3.90	30 ~ 40	貼床平坦	北東部以外	6	1	4	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 石器, 石製品	7世紀末葉から8世紀前葉	SI33・34→本跡→SI31, HT4		
37	E 9 b 8	N - 9° - W	[長方形]	[3.98] × 3.42	7	平坦	-	6	-	-	-	-	人為	土師器, 須恵器	8世紀前葉	本跡→SI24, HT4・7, SN3, SK37・38・50		
38	E 9 e 5	N - 3° - E	長方形	3.35 × 2.82	37	平坦	全周	-	1	-	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 石器, 石製品, 金属製品	8世紀前葉	39A・B→本跡→SK70		
45	E 9 d 4	N - 8° - E	方形	4.39 × 3.99	43 ~ 47	貼床平坦	全周	2	1	-	-	-	人為	土師器, 須恵器	8世紀中葉	39A・B, 46→本跡→SI44		
47	E 9 c 5	N - 4° - W	長方形	3.53 × 3.11	48 ~ 50	貼床平坦	ほぼ全周	-	-	2	北東隅部	-	人為	土師器, 須恵器	8世紀中葉	SI46・48→本跡→SI51・SK801		
58	E 9 b 3	N - 0°	方形	3.02 × 2.91	55 ~ 58	貼床平坦	ほぼ全周	-	1	-	北壁	-	自然人為	土師器, 須恵器, 石器, 土製品	8世紀中葉	SI41・42・46→本跡→SB18, SK216		
59	E 9 c 2	N - 21° - E	方形	4.77 × 4.40	20 ~ 42	貼床平坦	ほぼ全周	6	1	10	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 石器	8世紀後葉	SI39B・60→本跡		
91	E 5 h 1	N - 3° - W	[方形・長方形]	3.65 × (1.32)	36	貼床平坦	-	-	-	1	-	-	自然人為	土師器, 須恵器	8世紀後葉			
103	C 2 f 9	N - 2° - E	方形	4.43 × 4.20	5 ~ 21	貼床平坦	-	5	-	2	北壁	-	人為	土師器, 須恵器	8世紀後葉	SK505・592・593→本跡→SK495		
114	C 3 i 2	N - 6° - E	方形	5.03 × 5.03	4 ~ 20	貼床平坦	-	3	-	-	北壁	-	人為	土師器, 須恵器	8世紀前葉	SI113→本跡→SD14・SK497		
115	C 3 i 4	N - 94° - E	方形	5.64 × 5.42	42 ~ 64	貼床平坦	ほぼ全周	5	-	-	北壁東壁	-	自然人為	土師器, 須恵器, 石器, 石製品	8世紀後葉			
122	C 3 f 1	N - 5° - W	[長方形]	(3.82) × (3.26)	6 ~ 8	貼床平坦	-	4	1	-	北壁	-	自然人為	土師器, 須恵器	7世紀末葉から8世紀初頭	SI116・121・SK505→本跡		
131	C 3 g 7	N - 5° - E	方形	4.80 × 4.57	28 ~ 36	平坦	一部	5	1	-	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 石製品	8世紀中葉	HG1, 本跡→SI133, SK650		
133	C 3 g 6	N - 5° - E	方形	3.83 × 3.75	35 ~ 45	平坦	一部	-	1	6	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 土製品, 石器, 石製品	8世紀後葉	SI113, HG1→本跡		
137	D 4 a 3	N - 1° - W	方形	3.15 × 3.04	22 ~ 28	平坦	ほぼ全周	-	-	-	北壁	-	人為	土師器, 須恵器	8世紀中葉	SK591→本跡→SD15, PG18		
138	C 4 h 6	N - 4° - W	[方形・長方形]	(2.66) × (2.08)	26 ~ 39	平坦	-	-	-	-	[北壁]	-	人為	土師器, 須恵器	8世紀後葉	本跡→SD16, SK607		
141	C 3 h 9	N - 7° - W	長方形	5.52 × 5.00	27 ~ 57	平坦	全周	4	1	2	北壁	-	人為	土師器, 須恵器, 石器, 石製品, 金属製品	8世紀中葉	SI130→本跡		

## 印刷仕様

編集 OS Microsoft Windows 7  
Home Premium ServicePack1  
編集 Adobe InDesign CS5  
図版作成 Adobe Illustrator CS5  
写真調整 Adobe Photoshop CS5  
Scanning 6×7 film Nikon SUPER COOLSCAN9000  
図面類 EPSON ES-1000G  
使用Font OpenType リュウミンPro・L  
写真 線数 モノクロ175線以上 カラー210線以上  
印刷 印刷所へは、Adobe InDesign CS5でレイアウトして入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第436集

## 瑞 龍 遺 跡 上 巻

一般国道293号常陸太田東バイパス整備  
事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成31（2019）年 3月15日 印刷

平成31（2019）年 3月18日 発行

発行 公益財団法人茨城県教育財団

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2  
茨城県水戸生涯学習センター分館内

TEL 029-225-6587

H P <http://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 株式会社あけほの印刷社

〒310-0804 水戸市白梅1丁目2番11号

TEL 029-227-5505